健康科学部:1年配当科目 ・・・ 1
健康科学部:2年配当科目 ・・・ 188
健康科学部:3年配当科目 ・・・ 293
健康科学部:4年配当科目 ・・・ 375

シラバス 2025 年度

1 年生

科目名(日本語)	**自然科学概論**	必修・選択区分	授業形態	開講学期・学年	単位数
科目名(英語)	Basics of Natural Science	必修	講義	春学期 1年	1単位 15時間
科目責任者	関谷翔				
担当教員	関谷翔				
科目責任者 連絡先(教室)	sho.sekiya(at)sci.toho-u.ac.jp ※(at)は@に置き換えてください。				
オフィスアワー	3限と4限のあいだの休み時間に講義室にて質問を受け付けます。また、Moodleやメールでも質問を随時受け付けます。				

【１】　授業方法(ALの要素、ICTの活用等)

１－１．アクティブラーニングについて

実施する

１－２．アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素

その他

「その他」の内容

リアルタイム投票システムによる双方向のやりとり（質疑等）

２－１．双方向授業でのＩＣＴの活用について

活用する

２－２．ＩＣＴを活用する場合、その具体的名称（クリッカー、タブレット端末等）

Moodle・Poll Everywhere（またはSlido）

【２】　授業概要

近年，「EBM（Evidence-Based Medicine）」すなわち「根拠にもとづく医療」という考え方が台頭してきていることに端的に示されているように，医療分野においても客観的根拠の重要性があらためて見直されています。
本講義では，「科学と疑似科学は区別できるか」「因果関係と相関関係はどのように違うか」「因果関係はどのように証明されるか」「インフォームド・コンセントはなぜ重要か」「情報を分かりやすく伝えるにはどうすればよいか」などの問題群を扱いながら，自然科学，統計，医療倫理，コミュニケーションなどについて，医療従事者に求められるリテラシーを身につけることを目指します。
各週の講義内容は順番が前後する場合があります。

【３】　到達目標

1. 検証可能性基準、確証可能性基準、および反証可能性基準について説明することができる
2. 因果関係と相関関係の違いについて、適切な例をあげて説明することができる
3. 統計的仮説検定の論理について、中心極限定理とともに説明することができる
4. 母平均μに対する統計解析（t 検定、一元配置分散分析）をおこなうことができる
5. 頻度主義（frequentism）とベイズ主義（Baysian）との違いを説明することができる
6. 医療倫理の問題群について、自分なりのスタンスを確立することができる
7. 情報を分かりやすく伝えるために工夫してコミュニケーションをとることができる

【４】　ディプロマ・ポリシーとの関連

到達目標を達成することにより、以下の能力を身につけることにつながります。

１．自然科学を看護活動の根拠とし、実践に活かす基礎的な力を有している。

３．他者の多様な価値観を理解し、尊重することができる。

４．看護職の社会的責任を理解し、看護実践にまつわる倫理的課題を感受する力と熟考する力、それらに基づく判断を行動に表す力を身につけている。

６．自ら学ぼうとする好奇心をもち、生涯にわたり自己研鑽する姿勢を身につける。

【５】　授業計画

	項目	内容および授業方法 予習・復習・キーワード	担当教員
第1週	科学的知識・科学と疑似科学	内容：ガイダンス、科学と疑似科学、推論の種類、仮説演繹法 授業方法：講義 予習：事前質問に回答する 復習：理解チェックテストに回答する キーワード：検証可能性基準、確証可能性基準、反証可能性基準、仮説演繹法	関谷翔
第2週	統計的仮説検定・正確確率検定・カイ二乗検定	内容：統計的仮説検定、正確確率検定、カイ二乗検定 授業方法：講義 予習：事前質問に回答する 復習：理解チェックテストに回答する キーワード：帰無仮説、対立仮説、有意水準、中心極限定理	関谷翔
第3週	t検定	内容：対応のあるt検定、対応のないt検定、p値 授業方法：講義 予習：事前質問に回答する 復習：理解チェックテストに回答する キーワード：母集団、標本、検定統計量、自由度、p値	関谷翔
第4週	分散分析	内容：一元配置分散分析、多重比較 授業方法：講義 予習：事前質問に回答する 復習：理解チェックテストに回答する キーワード：一元配置分散分析、分散分析表、多重性、family-wise error rate (FWER)	関谷翔
第5週	ベイズ統計	内容：ベイズの定理、ベイズ統計、頻度主義とベイズ主義の違い 授業方法：講義 予習：事前質問に回答する 復習：理解チェックテストに回答する キーワード：ベイズの定理、事前分布、事後分布、ベイズ更新	関谷翔
第6週	医療倫理	内容：医療倫理、生命倫理、規範倫理学、実践倫理学 授業方法：講義 予習：事前質問に回答する 復習：理解チェックテストに回答する キーワード：功利主義、義務論、徳倫理、インフォームド・コンセント、トリアージ	関谷翔
第7週	コミュニケーション	内容：さまざまなコミュニケーション観、コミュニケーションのためのテクニック 授業方法：講義 予習：事前質問に回答する 復習：理解チェックテストに回答する キーワード：コミュニケーション、欠如モデル、対話モデル、双方向性	関谷翔

【６】　事前・事後学習とその時間

【事前学習】50分
講義スライドに事前に目を通し、事前質問に回答し、自分の体験を振り返り、自分の理解・意見を整理しておいてください。

【事後学習】50分
講義スライドにもう一度目を通し、講義内の説明内容・他者の意見等を振り返り、理解チェックテストに回答してください。

【７】　評価方法・基準

課題（100%）
各週の事前質問および理解チェックテストの成績で評価する予定です。

【８】　フィードバック方法

各週の理解チェックテストについては、回答期間終了後にMoodleで解答例を確認できます。また、必要に応じて次週の講義冒頭で解説をおこないます。

【９】　教科書

教科書はありません。Moodleから講義スライド等の各種資料にアクセスできるようにする予定です。

【10】　参考書

参考書は特に定めませんが、講義内で参考書籍に関してアナウンスする場合があります。

【11】　備考(関連科目等)

健康科学概論、看護学概論、トランスレーショナルへの挑戦Ⅱ、看護研究入門、看護研究、コミュニケーション論、保健統計
2025DPとの関連：DP①・③・④・⑤

科目名(日本語)	**データサイエンス**	必修・選択区分	授業形態	開講学期・学年	単位数
科目名(英語)	Data Sciences	必修	演習	春学期 1年	1単位 30時間
科目責任者	齋藤信広				
担当教員	齋藤信広				
科目責任者 連絡先(教室)	メールアドレス：saito-ds@sets.jp				
オフィスアワー	授業終了後 10 分程度授業を行った教室にて受け付ける。データサイエンス サポートサイトでのメッセージやメールでの問い合わせも受け付ける。				

【１】　授業方法(ALの要素、ICTの活用等)

１－１．アクティブラーニングについて

実施する

１－２．アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素

グループワーク
プレゼンテーション
その他

「その他」の内容

この科目は対面授業とオンラインによるオンデマンド授業を併用して実施する。具体的な学修方法については初回授業時に説明する。

２－１．双方向授業でのＩＣＴの活用について

活用する

２－２．ＩＣＴを活用する場合、その具体的名称（クリッカー、タブレット端末等）

PC, Microsoft Office, Moodle, インターネット上に独自に用意される「データサイエンス サポートサイト」

【２】　授業概要

情報科学は、情報の生成、構造、処理、利用などに関する原理を考究する学問である。本科目は、5学部共通のデータサイエンスに関する講義と学部独自の講義・演習から構成される。5学部共通のデータサイエンスにおいては、データサイエンスの基本となる数理的な考え方、および、人工知能(AI)について、オンデマンド動画を用いて学修する。学部独自の講義・演習においては、情報と人との関係に関する理論、情報倫理、コンピューターの情報の仕組み、操作方法、コンピューターウイルス・セキュリティ対策、インターネット活用による情報の収集と共有の仕方、情報管理の方法をオンデマンド授業を通して学ぶ。さらに、コンピューターでの情報整理のための基礎的な文書処理や数値処理の方法について対面授業（演習）を通して修得する。
本科目は、専門基礎教育科目である保健統計、公衆衛生、疫学Ⅰ（基礎編）・Ⅱ（応用編）に直接つながる科目である。

【３】　到達目標

1. 看護分野における情報処理技術の重要性を理解できる。
2. 情報機器の基本的な取り扱い方を理解し、正しい取り扱いができる。
3. Word, Excel, PowerPoint の基本的な操作ができる。
4. 医療・看護分野における啓蒙（啓発）ポスターが作成できる。
5. 作成したポスターの短いプレゼンテーションができる。

【４】　ディプロマ・ポリシーとの関連

到達目標を達成することにより、以下の能力を身につけることにつながります。

１．自然科学を看護活動の根拠とし、実践に活かす基礎的な力を有している。

２．看護学の専門知識と技術を修得している。

４．看護職の社会的責任を理解し、看護実践にまつわる倫理的課題を感受する力と熟考する力、それらに基づく判断を行動に表す力を身につけている。

【５】　授業計画

	項目	内容および授業方法 予習・復習・キーワード	担当教員
1・2	授業ガイダンスおよび理論勉強（対面授業）	授業内容：授業ガイダンスを行う。情報科学に関する理論的な勉強を行った上で、記述課題を提出する。 授業方法：講義・演習 予習：シラバスを確認しておく。 復習：記述課題 キーワード：ガイダンス、看護と情報、情報科学、情報機器の取り扱い	齋藤信広
3・4	（オンデマンド講義）	授業内容：①データサイエンスの広がり ②データ・AIの活用領域と技術 授業方法：講義 予習：オンデマンド講義の受講方法を確認しておく。 復習：小テスト キーワード：看護と情報、情報科学	齋藤信広
5・6	（オンデマンド講義）	授業内容：③データ・AI利活用の活用動向と利活用の上での留意事項 ④セキュリティとプライバシー 授業方法：講義 予習：オンデマンド講義の受講方法を確認しておく。 復習：小テスト キーワード：看護と情報、情報科学	齋藤信広
7・8・9	（オンデマンド講義）	授業内容：⑤機械学習 ⑥深層学習の最新動向とデータサイエンスのためのソフトウェア ⑦医療におけるデータサイエンスの利用 授業方法：講義 予習：オンデマンド講義の受講方法を確認しておく。 復習：小テスト キーワード：看護と情報、情報科学	齋藤信広
10・11	文書作成練習(1)	授業内容：Word を使った文書作成の練習を行った上で、ファイル課題を提出する。 授業方法：講義・演習 予習：テキストの Word に関する部分を確認しておく。 復習：ファイル課題 キーワード：文書作成、Word	齋藤信広
12・13	文書作成練習(2)	授業内容：Word を使った文書作成の練習を行った上で、ファイル課題を提出する。 授業方法：講義・演習 予習：テキストの Word に関する部分を確認しておく。 復習：ファイル課題 キーワード：文書作成、Word	齋藤信広
14・15	表計算練習(1)	授業内容：Excel を使った表計算の練習を行った上で、ファイル課題を提出する。 授業方法：講義・演習 予習：テキストの Excel に関する部分を確認しておく。 復習：ファイル課題 キーワード：表計算、Excel	齋藤信広
16・17	表計算練習(2)	授業内容：Excel を使った表計算の練習を行った上で、ファイル課題を提出する。 授業方法：講義・演習 予習：テキストの Excel に関する部分を確認しておく。 復習：ファイル課題 キーワード：表計算、Excel	齋藤信広
18・19	プレゼンテーション資料作成練習(1)	授業内容：PowerPoint を使ったプレゼンテーション資料作成の練習を行った上で、ファイル課題を提出する。 授業方法：講義・演習 予習：テキストの PowerPoint に関する部分を確認しておく。 復習：ファイル課題 キーワード：プレゼンテーション資料、PowerPoint	齋藤信広
20・21	プレゼンテーション資料作成練習(2)	授業内容：PowerPoint を使ったプレゼンテーション資料作成の練習を行った上で、ファイル課題を提出する。 授業方法：講義・演習 予習：テキストの PowerPoint に関する部分を確認しておく。 復習：ファイル課題 キーワード：プレゼンテーション資料、PowerPoint	齋藤信広
22・23	啓蒙用ポスター作成(1)	授業内容：自分で考えた看護・医療分野に関する啓蒙(啓発)ポスターを作成し、ファイル課題を提出する。 授業方法：講義・演習 予習：看護・医療分野で自分が啓蒙したい内容を考えておく。 復習：ファイル課題 キーワード：啓蒙、啓発、公的な情報検索、ポスター作成	齋藤信広
24・25	啓蒙用ポスター作成(2)	授業内容：自分で考えた看護・医療分野に関する啓蒙(啓発)ポスターを作成し、ファイル課題を提出するとともに、発表練習を行う。 授業方法：講義・演習 予習：１分間でプレゼンテーションできるようにしておく。 復習：ファイル課題 キーワード：ポスター作成、プレゼンテーション練習	齋藤信広

26・27	発表会および評価	授業内容：作成した啓蒙(啓発)ポスターを１人ずつ短時間で発表するとともに、教員が各自の発表について評価する。 授業方法：発表・評価 予習：発表練習 復習：発表内容の振り返り キーワード：プレゼンテーション、評価	齋藤信広

【６】　事前・事後学習とその時間

【事前・事後学習】
この授業は、パソコンを操作する能力を身につけるために、事前学習 0.5 時間、事後学習 1.0 時間程度を費やします。授業はできるだけパソコン操作に不慣れな学生向けに行います。
対面授業では記述課題やファイル課題が出されるので、「データサイエンス サポートサイト」上から提出してください。
何か分からないことがあったら遠慮なく質問してください。

【７】　評価方法・基準

授業内演習と授業報告（50 %）・課題提出とプレゼンテーション（50 %）

【８】　フィードバック方法

記述課題とファイル課題について随時内容をチェックしてコメントを行う。プレゼンテーションの内容については最終日に評価を行う。

【９】　教科書

1-2・10-27回目：オンラインドキュメントを用いる。詳しくは初回授業時に説明する。
3-9回目：教養としてのデータサイエンス 改訂第2版（データサイエンス入門シリーズ）. 北川 源四郎（編集）、他. 講談社. 2024年12月. 1980円

【10】　参考書

パソコンや Microsoft Office の操作に不安を感じる人は、パソコンや Microsoft Office の操作の入門書を参考にすると良い。

【11】　備考(関連科目等)

保健統計、公衆衛生、疫学Ⅰ（基礎編）、疫学Ⅱ（応用編）、看護研究

科目名(日本語)	**化学**	必修・選択区分	授業形態	開講学期・学年	単位数
科目名(英語)	Chemistry	必修	講義	春学期 1年	1単位 15時間
科目責任者	満田深雪				
担当教員	満田深雪				
科目責任者 連絡先(教室)	理学部３号館５階講師室(但し、曜日制限あり下記参照のこと)。				
オフィスアワー	講義終了後に10分程度対応する。以後、対面質問では月曜日の昼休みに理学部3号館5階講師室にて対応する。授業時間以外には、Moodleのチャット機能を使って問い合わせのこと。				

【１】　授業方法(ALの要素、ICTの活用等)

１－１．アクティブラーニングについて

実施する

１－２．アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素

ＰＢＬ（課題解決型学習）

２－１．双方向授業でのＩＣＴの活用について

活用する

２－２．ＩＣＴを活用する場合、その具体的名称（クリッカー、タブレット端末等）

Moodleシステムで、対面授業の補完をする（諸連絡、課題提示、模範解答など）

【２】　授業概要

物質の構造や変化の仕組みについて理解を深める。具体的には、原子や分子の構造及び化学結合と化学反応、身体を構成している物質とそれに関する化合物、有機化合物の性質などについて学修する。本科目は、生化学、臨床栄養学などの専門基礎教育科目、看護学の基礎知識に直接つながる科目である。

【３】　到達目標

1.基本的な化学反応を理解・説明できる。
2.環境・生命と化学の関係を理解・説明できる。
3.化学物質の性質や変化について理解・説明できる。
4.化学的思考で物質の構造や変化の仕組みを理解・説明できる。

【４】　ディプロマ・ポリシーとの関連

到達目標を達成することにより、以下の能力を身につけることにつながります。

１．自然科学を看護活動の根拠とし、実践に活かす基礎的な力を有している。

【5】　授業計画

	項目	内容および授業方法 予習・復習・キーワード	担当教員
1	化学序論	内容：看護に化学が必要な理由を理解することを目的とする 　　化学基礎（原子、元素周期表、分子、化学結合、物質の変化、酸・塩基、無機・有機化合物）の復習を行う 授業方法：講義・ミニ演習 予習：化学基礎（高校）の復習と教科書　第1～4章の予習が必要 復習：自身の講義ノート・資料を復習する キーワード：看護と化学、化学基礎	満田深雪
2	物質の状態・性質	内容：物質の基礎知識習得を目指す 　　物質の三態（気体・固体・液体）、物質の量と状態（原子量、分子量、濃度）、溶液の化学（溶解度、コロイド、人工透析）について講義する 授業方法：講義・ミニ演習 予習：教科書　第5章、6章の予習が必要 復習：自身の講義ノート・資料を復習する キーワード：物質の三態、物質の量と状態	満田深雪
3	酸・塩基と酸化・還元	内容：酸・塩基、水溶液のpH、緩衝液と緩衝作用、酸化・還元と医療との関係の理解を目標とし、講義を行う 授業方法：講義・ミニ演習 予習：教科書　第7章の予習が必要 復習：自身の講義ノート・資料を復習する キーワード：酸・塩基、緩衝液、酸化・還元	満田深雪
4	化学反応に関する量的関係	内容：化学反応の反応式の立て方や、反応時間・反応時数・化学平衡などにおける量的な関係を学ぶ。 授業方法：講義（ただし、通常より演習問題を重視）・ミニ演習 予習：教科書　第5～7章の予習が必要 復習：自身の講義ノート・資料を復習する キーワード：物質の量と状態、溶解度、酸・塩基平衡、反応定数、酸化・還元	満田深雪
5	有機化合物の構造	内容：炭化水素の種類、置換基の種類、有機化合物の種類と性質について、基本的なことを学ぶ。 授業方法：講義 予習：教科書　第8、9章の予習が必要 復習：自身の講義ノート・資料を復習する キーワード：炭化水素、置換基、命名と名称と構造	満田深雪
6	異性体・立体化学	内容：有機化合物の異性体について、構造と安定性について理解を深めることを目標とする。また、診療に利用されるサリドマイドを例にあげ講義する。 授業方法：講義 予習：教科書　第8、9章の予習が必要 復習：自身の講義ノート・資料を復習する キーワード：炭化水素、置換基、有機化合物、異性体	満田深雪
7	有機化学反応	内容：有機化学反応（置換反応、付加反応とアスピリン）高分子化合物の種類と分子構造の理解を目標として講義する。 授業方法：講義 予習：教科書　第10章の予習が必要 復習：自身の講義ノート・資料を復習する キーワード：有機化学反応（置換反応、付加反応）	満田深雪
8	高分子化合物	内容：高分子化合物の種類と分子構造の理解を目標として講義する。 授業方法：講義 予習：教科書　第11章の予習が必要 復習：自身の講義ノート・資料を復習する キーワード：高分子化合物の種類と分子構造	満田深雪
9	生命と化学反応（1-1）	内容：生命体の維持に不可欠な糖質・脂質（主にエネルギー源となるもの）について化学の視点から学ぶことを目的に講義する 授業方法：講義 予習：教科書　第12章の予習が必要 復習：自身の講義ノート・資料を復習する キーワード：糖質・脂質・カロリー	満田深雪
10	生命と化学反応（1-2）	内容：生命体の維持に不可欠で微量物質であるホルモン、ビタミンについて化学の視点から学ぶことを目的に講義する 授業方法：講義 予習：教科書　第12章の予習が必要 復習：自身の講義ノート・資料を復習する キーワード：ホルモン、ビタミン、構造の基本骨格	満田深雪
11	生命と化学反応（2-1）	内容：生命体の維持に不可欠なアミノ酸とタンパク質について化学の視点から学ぶことを目的に講義する 授業方法：講義 予習：教科書　第13章の予習が必要 復習：自身の講義ノート・資料を復習する キーワード：アミノ酸、等電点、タンパク質、酵素	満田深雪
12	生命と化学反応（2-2）	内容：生命体の維持に不可欠な核酸と遺伝子の高次構造について化学の視点から学ぶことを目的に講義する 授業方法：講義 予習：教科書　第13章の予習が必要 復習：自身の講義ノート・資料を復習する キーワード：アミノ酸、タンパク質、核酸、遺伝子	満田深雪

13	環境と化学物質	内容：環境と化学、健康と化学物質の関係について化学の視点から学ぶことを目的に講義する 授業方法：講義・ミニ演習 予習：配布された資料を予習しておく 復習：自身の講義ノート・資料を復習する キーワード：環境と化学、健康と化学物質	満田深雪
14	毒物劇物の化学	内容：医薬品をはじめ、染料や化粧品、家庭の内外に至るまで、多くの化学物質が構造や容量によって毒物劇物になりうることを学び、今後の学習に活かすことを目的に講義する。 授業方法：講義・ミニ演習 予習：配布された資料を予習しておく 復習：自身の講義ノート・資料を復習する キーワード：環境と化学、健康と化学物質、生物毒、致死量	満田深雪

【６】　事前・事後学習とその時間

事前学習：該当する教科書のページに目を通しておく。（30分程度）
事後学習：課題にとりくみ、模範解答をチェックしておく。（1時間程度）

【７】　評価方法・基準

課題（問題・ミニレポート）20%、定期試験80%で評価する。ただし、出席点は含まない。
※課題（問題・ミニレポート）については授業内で適宜、詳細を知らせる。

【８】　フィードバック方法

毎回の簡単な課題（ミニ課題）に対し、次回の講義で模範解答を提示する。感染症および冠婚葬祭などにより出席できなかった場合は、Moodleの対応するページに資料および課題をアップするので、復習してもらう。

【９】　教科書

コ・メディカル化学 「医療・看護系のための基礎化学」　齋藤勝裕、他.（裳華房）

【10】　参考書

随時、必要なプリントを配布する。また、必要な場合はインターネット上で関係項目に該当するURLを提示する。

【11】　備考(関連科目等)

生化学、臨床栄養学
2025DPとの関連：DP①・④

科目名(日本語)	**生物学**	必修・選択区分	授業形態	開講学期・学年	単位数
科目名(英語)	Biology	必修	講義	春学期 1年	1単位 15時間
科目責任者	渡邉直子				
担当教員	渡邉 直子、杉本 雅純				
科目責任者 連絡先(教室)	naokow@biomol.sci.toho-u.ac.jp、sugimoto@biomol.sci.toho-u.ac.jp				
オフィスアワー	授業終了後に質問を受け付ける（10 分程度）				

【１】　授業方法(ALの要素、ICTの活用等)

１－１．アクティブラーニングについて

実施しない

１－２．アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素

２－１．双方向授業でのＩＣＴの活用について

活用する

２－２．ＩＣＴを活用する場合、その具体的名称（クリッカー、タブレット端末等）

Moodle

【２】　授業概要

動／植物の生命現象について理解を深める。具体的には、細胞の構造と機能、遺伝子の構造と機能などについて学習し、日常生活で遭遇する生物学的な諸問題に関心を持つ姿勢を養う。
本科目は、人体の構造と機能などの専門基礎教育科目、看護学の基礎知識と直接つながる科目である。

【３】　到達目標

1. 細胞の構造について理解し、説明できる。
2. 酵素作用と代謝について理解し、説明できる。
3. 光合成と好気呼吸について理解し、説明できる。
4. DNAの複製と修復について理解し、説明できる。
5. 転写、翻訳、遺伝子発現調節について理解し、説明できる。
6. DNAクローニングや遺伝子組換え生物について理解し、説明できる。
7. 体細胞分裂と減数分裂について理解し、説明できる。
8. 代表的な遺伝病と遺伝の様式について理解し、説明できる。

【４】　ディプロマ・ポリシーとの関連

到達目標を達成することにより、以下の能力を身につけることにつながります。

１．自然科学を看護活動の根拠とし、実践に活かす基礎的な力を有している。

６．自ら学ぼうとする好奇心をもち、生涯にわたり自己研鑽する姿勢を身につける。

【5】　授業計画

	項目	内容および授業方法 予習・復習・キーワード	担当教員
1・2	細胞の構造	内容：細胞説、細胞の大きさ、細胞を見る方法、生体分子、原核細胞と真核細胞、細胞小器官について学ぶ 授業方法：講義 予習：教科書 3 章を読む 復習：ノートと教科書を照らし合わせて復習した後、Moodle で小テストを行う キーワード：細胞、細胞膜、細胞小器官	杉本 雅純
3・4	エネルギーと代謝	内容：エネルギーの出入り（同化と異化）、酵素反応、細胞膜と膜輸送について学ぶ 授業方法：講義 予習：教科書 4 章を読む 復習：ノートと教科書を照らし合わせて復習を行った後、Moodle で小テストを行う キーワード：酵素、代謝、輸送	杉本 雅純
5・6	エネルギーの獲得と放出	内容：光の利用、光合成、解糖、好気呼吸、発酵について学ぶ 授業方法：講義 予習：教科書 5、6 章を読む 復習：ノートと教科書を照らし合わせて復習を行った後、Moodle で小テストを行う キーワード：光合成、好気呼吸、発酵	杉本 雅純
7・8	DNAの構造と機能	内容：染色体、DNA の構造、複製と修復について学ぶ 授業方法：講義 予習：教科書 7 章を読む 復習：ノートと教科書を照らし合わせて復習を行った後、Moodle で小テストを行う キーワード：DNA、複製、修復	渡邉 直子
9・10	遺伝子発現とその調節	内容：RNAの構造、転写、転写調節、遺伝暗号、翻訳、突然変異とその産物、エピジェネティクスについて学ぶ 授業方法：講義 予習：教科書 8 章を読む 復習：ノートと教科書を照らし合わせて復習を行った後、Moodle で小テストを行う キーワード：転写、翻訳、変異	渡邉 直子
11・12	生物工学	内容：DNA クローニング、塩基配列決定、PCR 法、DNA 鑑定、遺伝子組換え生物について学ぶ 授業方法：講義 予習：教科書 11 章を読む 復習：ノートと教科書を照らし合わせて復習を行った後、Moodle で小テストを行う キーワード：DNA クローニング、塩基配列決定、PCR	渡邉 直子
13	細胞の増殖	内容：体細胞分裂、減数分裂について学ぶ 授業方法：講義 予習：教科書 9 章を読む 復習：ノートと教科書を照らし合わせて復習を行った後、Moodle で小テストを行う キーワード：細胞分裂	渡邉 直子
14	遺伝病	内容：遺伝性疾患と遺伝様式、がんについて学ぶ 授業方法：講義 予習：教科書 9 章 4 節、10 章 7, 8 節を読む 復習：ノートと教科書を照らし合わせて復習を行った後、Moodle で小テストを行う キーワード：遺伝病、がん	渡邉 直子

【6】　事前・事後学習とその時間

【準備学習】
- 指定した教科書の該当部分を読み、疑問点を整理しておく。

【事後学習】
- ノートと教科書を照らし合わせて理解を深め、Moodle で復習の小テストを行う。
- 質問は、授業後直接またはメール、Moodle メッセージを活用して下さい。

15 時間の授業に対して 30 時間の時間外学習を行う。

【学習上の留意点】
- e-learning を積極的に活用する。

【7】　評価方法・基準

定期試験　(80%)、小テスト　(20%)

【8】　フィードバック方法

- 小テストの解説を次の授業で行う　。
- 質問があった場合、次の授業で解説を行う　。

【9】　教科書

スター生物学　（八杉貞雄監訳）　東京化学同人（第 6 版）

【10】　参考書

必要に応じてプリントを配布する。

【11】　備考(関連科目等)

生物学入門、微生物学、人体の構造と機能、生化学、臨床栄養学、臨床遺伝学
2025DPとの関連：DP①・④

科目名(日本語)	**看護のための物理学**	必修・選択区分	授業形態	開講学期・学年	単位数
科目名(英語)	Physics for Nursing	必修	講義	春学期 1年	1単位 15時間
科目責任者	酒井康弘				
担当教員	酒井康弘				
科目責任者 連絡先(教室)	酒井康弘（sakai@ph.sci.toho-u.ac.jp）（件名に学部・学籍番号を明記すること）				
オフィスアワー	毎週：火曜日18：00～19：30　理学部Ⅱ号館5階2504室				

【１】　授業方法(ALの要素、ICTの活用等)

１－１．アクティブラーニングについて

実施しない

１－２．アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素

２－１．双方向授業でのＩＣＴの活用について

活用する

２－２．ＩＣＴを活用する場合、その具体的名称（クリッカー、タブレット端末等）

MoodlとZoomも使用する。

【２】　授業概要

基礎的な物理学的思考を養い、看護技術の科学的な視点による理解を深める。具体的には、臨床の看護行為（ボディメカニクス・てこの原理・点滴静注など）に関連する物理や、人体のしくみ（呼吸器・循環器など）が物理学とどう関わるのかなどを学修する。本科目は、人体の構造と機能などの専門基礎教育科目、看護学の基礎知識と直接つながる科目である。

【３】　到達目標

1　日常的に使われる物理量、単位、および代表的な物理法則を理解し説明できる。
2　日常的な物理現象について理解し、説明できる。
3　物理学がどのように看護に応用されているかを理解し説明できる。
4　看護において物理学を応用した正しい行動がとれる。

【４】　ディプロマ・ポリシーとの関連

到達目標を達成することにより、以下の能力を身につけることにつながります。

１．自然科学を看護活動の根拠とし、実践に活かす基礎的な力を有している。

２．看護学の専門知識と技術を修得している。

【5】　授業計画

	項目	内容および授業方法 予習・復習・キーワード	担当教員
1・2回	プロローグ－看護のために物理学を学ぶ理由－	内容：物理学とはどんな学問か、なぜ学ぶのか 授業方法：講義・Moodleを活用する 予習：あらかじめMoodleで提示された質問に答える。教科書のまえがきを読み、目次を見ておくこと 復習：レポート課題１に取り組み、提出する キーワード：物理学、科学リテラシー	酒井康弘
3・4回	バイオメカニクスの基礎	内容：力学１ 授業方法：講義・Moodleを活用する 予習：あらかじめMoodleで提示された質問に答える。教科書の第１章を読む 復習：レポート課題２に取り組み、提出する キーワード：バイオメカニクス、運動、エネルギー、摩擦、てこ、圧力	酒井康弘
5・6回	看護・介護のボディメカニクス	内容：力学２ 授業方法：講義・Moodleを活用する 予習：あらかじめMoodleで提示された質問に答える。教科書の第２章を読む 復習：レポート課題３に取り組み、提出する キーワード：ボディメカニクス、姿勢、動作、運動、体を動かすしくみ	酒井康弘
7・8回	熱，体温，罨法	内容：熱力学 授業方法：講義・Moodleを活用する 予習：あらかじめMoodleで提示された質問に答える。教科書の第３章を読む 復習：レポート課題４に取り組み、提出する キーワード：熱、温度の概念、体温、体温の測定	酒井康弘
9・10回	流体と呼吸・循環・吸引・医療	内容：流体力学 授業方法：講義・Moodleを活用する 予習：あらかじめMoodleで提示された質問に答える。教科書の第４章を読む 復習：レポート課題５に取り組み、提出する キーワード：気体、液体の概念、血液の採取、輸血の原理、血圧	酒井康弘
11・12回	音・光と医療、電磁気と生活・人体・医療	内容：波動・電磁気学 授業方法：講義・Moodleを活用する 予習：あらかじめMoodleで提示された質問に答える。教科書の第５章、第６章を読む 復習：レポート課題６に取り組み、提出する キーワード：音と波、音波や光を使った医療、電磁場の概念、その生体への影響、医療器具	酒井康弘
13・14回	画像検査の物理科学	内容：電磁気学・原子物理学 授業方法：講義・Moodleを活用する 予習：あらかじめMoodleで提示された質問に答える。教科書の第６章、第７章を読む 復習：レポート課題７に取り組み、提出する キーワード：電磁場の概念、その生体への影響、医療器具、物質と原子、放射線・粒子線による治療	酒井康弘

【6】　事前・事後学習とその時間

予習：あらかじめMoodleで提示された質問に答えること。教科書の当該部分をあらかじめ目を通してから講義に参加すること(0.5時間)
復習：毎回出題される課題についてレポートにまとめる（問題を解く）こと（1時間）

講義はMoodleを使用した対面授業を行う。

【7】　評価方法・基準

毎回授業の課題レポート55%と最終レポート45%で評価します。

【8】　フィードバック方法

質問の多かった課題や事柄について、次回の授業やMoodleの中で、質問への回答や補足説明をします。

【9】　教科書

ヘルプフル！看護・介護と物理　－根拠が分かって自信がつく－　多田旭男　著　三共出版

【10】　参考書

ベッドサイドを科学する　－看護に生かす物理学－平田雅子　著　　学研メディカル秀潤社
看護学生のための物理学 第6版　佐藤和艮　医学書院

【11】　備考(関連科目等)

自然科学概論、人体の構造と機能Ⅰ～Ⅲ、看護の基本技術1～11
2025DPとの関連：DP①・④

科目名(日本語)	**実用英語ＩＡ**	必修・選択区分	授業形態	開講学期・学年	単位数
科目名(英語)	Practical English Ⅰ A	選択	演習	春学期 1年	1単位 30時間
科目責任者	平野正樹				
担当教員	平野正樹				
科目責任者 連絡先(教室)	メールアドレス：masaki.hirano@sci.toho-u.ac.jp（平野正樹） （メールにて問い合わせる場合は、授業名・学籍番号・氏名を記すこと）				
オフィスアワー	木曜日1～3時限授業教室 授業以外：Ｖ号館5階講師控室(5502) 東邦大学eラーニングライト(Moodle)でのメッセージによる連絡も可能				

【１】　授業方法(ALの要素、ICTの活用等)

１－１．アクティブラーニングについて

実施する

１－２．アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素

グループワーク
その他

「その他」の内容

ペアワーク

２－１．双方向授業でのＩＣＴの活用について

活用しない

【２】　授業概要

高等学校までに学んだ文法の基礎を踏まえ、さらに語彙・語法・構文知識の定着を図ることを目標とする。その上で、日常生活・社会生活において必要とされる様々な英語口語表現を学んでいく。また、医療系の専門的な文献購読を目指した読解力の向上のための演習を盛り込んでいく。

【３】　到達目標

1. 学生が日常的によく使われる語彙や表現を用いて英語による会話をすることができる。
2. 学生が英語特有の発音の基本を理解し、相手の発話を聞き取り、正確な発音で発話をすることができる。
3. 学生が将来医療系の文献を読むための準備段階として、英語の構文について論理的に理解し、説明することができる

【４】　ディプロマ・ポリシーとの関連

到達目標を達成することにより、以下の能力を身につけることにつながります。

１．自然科学を看護活動の根拠とし、実践に活かす基礎的な力を有している。

３．他者の多様な価値観を理解し、尊重することができる。

【5】　授業計画

	項目	内容および授業方法 予習・復習・キーワード	担当教員
１・２回	ガイダンス　Unit1： College Life	授業の進行方法、評価基準、履修にあたっての注意事項等の説明。 内容：リスニング、発音、会話、表現 授業方法：演習（＝ペアワーク、グループワークなど） 予習：Unit1の問題 復習：会話表現を確認する。 キーワード：英語リスニング、英会話、英文法	平野正樹
３・４回	Unit2：Jobs	内容：リスニング、発音、会話、表現 授業方法：演習（＝ペアワーク、グループワークなど） 予習：Unit2の問題 復習：会話表現を確認する。 キーワード：英語リスニング、英会話、英文法	平野正樹
５・６回	Unit3：Weekend Activities	内容：リスニング、発音、会話、表現 授業方法：演習（＝ペアワーク、グループワークなど） 予習：Unit3の問題 復習：会話表現を確認する。 キーワード：英語リスニング、英会話、英文法	平野正樹
７・８回	Unit4：Movies	内容：リスニング、発音、会話、表現 授業方法：演習（＝ペアワーク、グループワークなど） 予習：Unit4の問題 復習：会話表現を確認する。 キーワード：英語リスニング、英会話、英文法	平野正樹
９・１０回	Unit5：Festivals	内容：リスニング、発音、会話、表現 授業方法：演習（＝ペアワーク、グループワークなど） 予習：Unit5の問題 復習：会話表現を確認する。 キーワード：英語リスニング、英会話、英文法	平野正樹
１１・１２回	Unit6：Friends	内容：リスニング、発音、会話、表現 授業方法：演習（＝ペアワーク、グループワークなど） 予習：Unit6の問題 復習：会話表現を確認する。 キーワード：英語リスニング、英会話、英文法	平野正樹
１３回	Unit7：Weather	内容：リスニング、発音、会話、表現 授業方法：演習（＝ペアワーク、グループワークなど） 予習：Unit7の問題 復習：会話表現を確認する。 キーワード：英語リスニング、英会話、英文法	平野正樹
14回	中間テスト	内容：中間テスト 授業方法：中間テスト	平野正樹
15・16回	Unit8：Music	内容：リスニング、発音、会話、表現 授業方法：演習（＝ペアワーク、グループワークなど） 予習：Unit8の問題 復習：会話表現を確認する。 キーワード：英語リスニング、英会話、英文法	平野正樹
17・18回	Unit9：Relationships	内容：リスニング、発音、会話、表現 授業方法：演習（＝ペアワーク、グループワークなど） 予習：Unit9の問題 復習：会話表現を確認する。 キーワード：英語リスニング、英会話、英文法	平野正樹
19・20回	Unit10：Traveling Overseas	内容：リスニング、発音、会話、表現 授業方法：演習（＝ペアワーク、グループワークなど） 予習：Unit10の問題 復習：会話表現を確認する。 キーワード：英語リスニング、英会話、英文法	平野正樹
21・22回	Unit11：Shopping	内容：リスニング、発音、会話、表現 授業方法：演習（＝ペアワーク、グループワークなど） 予習：Unit11の問題 復習：会話表現を確認する。 キーワード：英語リスニング、英会話、英文法	平野正樹
23・24回	Unit12：Phone Calls	内容：リスニング、発音、会話、表現 授業方法：演習（＝ペアワーク、グループワークなど） 予習：Unit12の問題 復習：会話表現を確認する。 キーワード：英語リスニング、英会話、英文法	平野正樹
25・26回	Unit13：SDGs	内容：リスニング、発音、会話、表現 授業方法：演習（＝ペアワーク、グループワークなど） 予習：Unit13の問題 復習：会話表現を確認する。 キーワード：英語リスニング、英会話、英文法	平野正樹
27回	発音テスト	内容：語や文章の発音 授業方法：発音テスト	平野正樹

【6】　事前・事後学習とその時間

この授業はテキストの問題を解く必要があるため、予習1時間程度、復習30分程度を費やします。

【７】　評価方法・基準
試験による評価60％（中間試験30％、定期試験30％）、授業の発言回数・課題40％。

【８】　フィードバック方法
中間試験実施後に結果を返却し、解答についてコメントする。

【９】　教科書
毎授業にてプリントを配布する。

【10】　参考書
特になし

【11】　備考(関連科目等)
特になし
2025DPとの関連：DP①・④・⑤

科目名(日本語)	**実用英語ＩＢ(1)**	必修・選択区分	授業形態	開講学期・学年	単位数
科目名(英語)	Practical English ＩB(1)	選択	演習	秋学期 1年	1単位 30時間
科目責任者	平野正樹				
担当教員	平野正樹				
科目責任者 連絡先(教室)	メールアドレス：masaki.hirano@sci.toho-u.ac.jp（平野正樹） （メールにて問い合わせる場合は、授業名・学籍番号・氏名を記すこと）				
オフィスアワー	木曜日1～3時限授業教室 授業以外：Ｖ号館5階講師控室(5502) 東邦大学eラーニングライト(Moodle)でのメッセージによる連絡も可能				

【１】　授業方法(ALの要素、ICTの活用等)

１－１．アクティブラーニングについて

実施する

１－２．アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素

グループワーク
その他

「その他」の内容

ペアワーク

２－１．双方向授業でのＩＣＴの活用について

活用しない

【２】　授業概要

高等学校までに学んだ文法の基礎を踏まえ、さらに語彙・語法・構文知識の定着を図ることを目標とする。その上で、日常生活・社会生活において必要とされる様々な英語口語表現を学んでいく。また、医療系の専門的な文献購読を目指した読解力の向上のための演習を盛り込んでいく。

【３】　到達目標

1. 学生が日常的によく使われる語彙や表現を用いて英語による会話をすることができる。
2. 学生が英語特有の発音の基本を理解し、相手の発話を聞き取り、正確な発音で発話をすることができる。
3. 学生が将来医療系の文献を読むための準備段階として、英語の構文について論理的に理解し、説明することができる

【４】　ディプロマ・ポリシーとの関連

到達目標を達成することにより、以下の能力を身につけることにつながります。

１．自然科学を看護活動の根拠とし、実践に活かす基礎的な力を有している。

３．他者の多様な価値観を理解し、尊重することができる。

【5】　授業計画

	項目	内容および授業方法 予習・復習・キーワード	担当教員
１・２回	ガイダンス　Unit1： College Life	授業の進行方法、評価基準、履修にあたっての注意事項等の説明。 内容：リスニング、発音、会話、表現 授業方法：演習（＝ペアワーク、グループワークなど） 予習：Unit1の問題 復習：会話表現を確認する。 キーワード：英語リスニング、英会話、英文法	平野正樹
３・４回	Unit2：Jobs	内容：リスニング、発音、会話、表現 授業方法：演習（＝ペアワーク、グループワークなど） 予習：Unit2の問題 復習：会話表現を確認する。 キーワード：英語リスニング、英会話、英文法	平野正樹
５・６回	Unit3：Weekend Activities	内容：リスニング、発音、会話、表現 授業方法：演習（＝ペアワーク、グループワークなど） 予習：Unit3の問題 復習：会話表現を確認する。 キーワード：英語リスニング、英会話、英文法	平野正樹
７・８回	Unit4：Movies	内容：リスニング、発音、会話、表現 授業方法：演習（＝ペアワーク、グループワークなど） 予習：Unit4の問題 復習：会話表現を確認する。 キーワード：英語リスニング、英会話、英文法	平野正樹
９・１０回	Unit5：Festivals	内容：リスニング、発音、会話、表現 授業方法：演習（＝ペアワーク、グループワークなど） 予習：Unit5の問題 復習：会話表現を確認する。 キーワード：英語リスニング、英会話、英文法	平野正樹
１１・１２回	Unit6：Friends	内容：リスニング、発音、会話、表現 授業方法：演習（＝ペアワーク、グループワークなど） 予習：Unit6の問題 復習：会話表現を確認する。 キーワード：英語リスニング、英会話、英文法	平野正樹
１３回	Unit7：Weather	内容：リスニング、発音、会話、表現 授業方法：演習（＝ペアワーク、グループワークなど） 予習：Unit7の問題 復習：会話表現を確認する。 キーワード：英語リスニング、英会話、英文法	平野正樹
14回	中間テスト	内容：中間テスト 授業方法：中間テスト	平野正樹
15・16回	Unit8：Music	内容：リスニング、発音、会話、表現 授業方法：演習（＝ペアワーク、グループワークなど） 予習：Unit8の問題 復習：会話表現を確認する。 キーワード：英語リスニング、英会話、英文法	平野正樹
17・18回	Unit9：Relationships	内容：リスニング、発音、会話、表現 授業方法：演習（＝ペアワーク、グループワークなど） 予習：Unit9の問題 復習：会話表現を確認する。 キーワード：英語リスニング、英会話、英文法	平野正樹
19・20回	Unit10：Traveling Overseas	内容：リスニング、発音、会話、表現 授業方法：演習（＝ペアワーク、グループワークなど） 予習：Unit10の問題 復習：会話表現を確認する。 キーワード：英語リスニング、英会話、英文法	平野正樹
21・22回	Unit11：Shopping	内容：リスニング、発音、会話、表現 授業方法：演習（＝ペアワーク、グループワークなど） 予習：Unit11の問題 復習：会話表現を確認する。 キーワード：英語リスニング、英会話、英文法	平野正樹
23・24回	Unit12：Phone Calls	内容：リスニング、発音、会話、表現 授業方法：演習（＝ペアワーク、グループワークなど） 予習：Unit12の問題 復習：会話表現を確認する。 キーワード：英語リスニング、英会話、英文法	平野正樹
25・26回	Unit13：SDGs	内容：リスニング、発音、会話、表現 授業方法：演習（＝ペアワーク、グループワークなど） 予習：Unit13の問題 復習：会話表現を確認する。 キーワード：英語リスニング、英会話、英文法	平野正樹
27回	発音テスト	内容：語や文章の発音 授業方法：発音テスト	平野正樹

【6】　事前・事後学習とその時間

この授業はテキストの問題を解く必要があるため、予習1時間程度、復習30分程度を費やします。

【７】　評価方法・基準
試験による評価60％（中間試験30％、定期試験30％）、授業の発言回数・課題40％。

【８】　フィードバック方法
中間試験実施後に結果を返却し、解答についてコメントする。

【９】　教科書
毎授業にてプリントを配布する。

【10】　参考書
特になし

【11】　備考(関連科目等)
特になし
2025DPとの関連：DP①・④・⑤

科目名(日本語)	**実用英語ＩＢ(2)**	必修・選択区分	授業形態	開講学期・学年	単位数
科目名(英語)	Practical English ＩB(2)	選択	演習	秋学期 1年	1単位 30時間
科目責任者	花﨑一夫				
担当教員	花﨑一夫				
科目責任者 連絡先(教室)	kazuo.hanazaki@phar.toho-u.ac.jp				
オフィスアワー	木曜日の授業終了後および金曜日の午前８時～８時３０分に薬学部E２１０の花崎研究室にて対応します。				

【１】　授業方法(ALの要素、ICTの活用等)

１－１．アクティブラーニングについて
実施する

１－２．アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素
ディスカッション、ディベート

２－１．双方向授業でのＩＣＴの活用について
活用する

２－２．ＩＣＴを活用する場合、その具体的名称（クリッカー、タブレット端末等）
Moodle

【２】　授業概要

高等学校までに学んだ文法の基礎を踏まえ、さらに語彙・語法・構文知識の定着を図ることを目標とする。その上で、日常生活・社会生活において必要とされる様々な英語口語表現を学んでいく。また、医療系の専門的な文献購読を目指した読解力の向上のための演習を盛り込んでいく。

【３】　到達目標

1. 学生が日常的によく使われる語彙や表現を用いて英語による基本的な会話をすることができる。
2. 学生が英語特有の発音の基本を理解し、相手の発話を聞き取り、正確な発音で発話をすることができる。
3. 学生が将来医療系の文献を読むための準備段階として、英語の構文について論理的に理解し、説明することができる。

【４】　ディプロマ・ポリシーとの関連

到達目標を達成することにより、以下の能力を身につけることにつながります。

１．自然科学を看護活動の根拠とし、実践に活かす基礎的な力を有している。

３．他者の多様な価値観を理解し、尊重することができる。

【５】　授業計画

	項目	内容および授業方法 予習・復習・キーワード	担当教員
1・2	Chapter1	Chapter1 What in the World is Worldview? 予習：該当する教科書本文を読んでおく。特に自分で読んでみてわからない部分をはっきりさせてから授業に臨むこと。 授業：各チャプターで扱う本文を読んで理解を深めると同時に、グループに分かれてディスカッションも行い、アメリカと日本の文化の違いについて具体的に考察することを通して異文化理解を促進し、日本文化を相対的に見る目を養う。 復習：本文の音読をしながら本文の復習を実施すること。 さらにはムードル上で出された課題に取り組むこと。	花﨑一夫
3・4	Chapter2	Chapter2 Whatever You Do, Don't Be a Meiwaku! 予習：該当する教科書本文を読んでおく。特に自分で読んでみてわからない部分をはっきりさせてから授業に臨むこと。 授業：各チャプターで扱う本文を読んで理解を深めると同時に、グループに分かれてディスカッションも行い、アメリカと日本の文化の違いについて具体的に考察することを通して異文化理解を促進し、日本文化を相対的に見る目を養う。 復習：本文の音読をしながら本文の復習を実施すること。 さらにはムードル上で出された課題に取り組むこと。	花﨑一夫
5・6	Chapter3	Chapter3 The Food Crazy Japanese?! 予習：該当する教科書本文を読んでおく。特に自分で読んでみてわからない部分をはっきりさせてから授業に臨むこと。 授業：各チャプターで扱う本文を読んで理解を深めると同時に、グループに分かれてディスカッションも行い、アメリカと日本の文化の違いについて具体的に考察することを通して異文化理解を促進し、日本文化を相対的に見る目を養う。 復習：本文の音読をしながら本文の復習を実施すること。 さらにはムードル上で出された課題に取り組むこと。	花﨑一夫
7・8	Chapter4	Chapter4 Who is the Center of the Family? 予習：該当する教科書本文を読んでおく。特に自分で読んでみてわからない部分をはっきりさせてから授業に臨むこと。 授業：各チャプターで扱う本文を読んで理解を深めると同時に、グループに分かれてディスカッションも行い、アメリカと日本の文化の違いについて具体的に考察することを通して異文化理解を促進し、日本文化を相対的に見る目を養う。 復習：本文の音読をしながら本文の復習を実施すること。 さらにはムードル上で出された課題に取り組むこと。	花﨑一夫
9・10	Chapter5	Chapter5 Sorry but Not Sorry 予習：該当する教科書本文を読んでおく。特に自分で読んでみてわからない部分をはっきりさせてから授業に臨むこと。 授業：各チャプターで扱う本文を読んで理解を深めると同時に、グループに分かれてディスカッションも行い、アメリカと日本の文化の違いについて具体的に考察することを通して異文化理解を促進し、日本文化を相対的に見る目を養う。 復習：本文の音読をしながら本文の復習を実施すること。	花﨑一夫

11・12	Chapter6	Chapter6 Let's Play Yakyu?! 予習：該当する教科書本文を読んでおく。特に自分で読んでみてわからない部分をはっきりさせてから授業に臨むこと。 授業：各チャプターで扱う本文を読んで理解を深めると同時に、グループに分かれてディスカッションも行い、アメリカと日本の文化の違いについて具体的に考察することを通して異文化理解を促進し、日本文化を相対的に見る目を養う。 復習：本文の音読をしながら本文の復習を実施すること。 さらにはムードル上で出された課題に取り組むこと。	花﨑一夫
13	Chapter7	Chapter7 Social Media Usage and Worldview 予習：該当する教科書本文を読んでおく。特に自分で読んでみてわからない部分をはっきりさせてから授業に臨むこと。 授業：各チャプターで扱う本文を読んで理解を深めると同時に、グループに分かれてディスカッションも行い、アメリカと日本の文化の違いについて具体的に考察することを通して異文化理解を促進し、日本文化を相対的に見る目を養う。 復習：本文の音読をしながら本文の復習を実施すること。 さらにはムードル上で出された課題に取り組むこと。	花﨑一夫
14	中間テスト	試験範囲はムードルにてお知らせします。	花崎一夫
15・16	Chapter8	Chapter8 Anime is Not a Cartoon 予習：該当する教科書本文を読んでおく。特に自分で読んでみてわからない部分をはっきりさせてから授業に臨むこと。 授業：各チャプターで扱う本文を読んで理解を深めると同時に、グループに分かれてディスカッションも行い、アメリカと日本の文化の違いについて具体的に考察することを通して異文化理解を促進し、日本文化を相対的に見る目を養う。 復習：本文の音読をしながら本文の復習を実施すること。 さらにはムードル上で出された課題に取り組むこと。	花﨑一夫
17・18	Chapter9	Chapter9 So Why is “Black Friday” Black Anyway？ 予習：該当する教科書本文を読んでおく。特に自分で読んでみてわからない部分をはっきりさせてから授業に臨むこと。 授業：各チャプターで扱う本文を読んで理解を深めると同時に、グループに分かれてディスカッションも行い、アメリカと日本の文化の違いについて具体的に考察することを通して異文化理解を促進し、日本文化を相対的に見る目を養う。 復習：本文の音読をしながら本文の復習を実施すること。 さらにはムードル上で出された課題に取り組むこと。	花﨑一夫
19・20	Chapter10	Chapter10 Schools―A Window to Worldview 予習：該当する教科書本文を読んでおく。特に自分で読んでみてわからない部分をはっきりさせてから授業に臨むこと。 授業：各チャプターで扱う本文を読んで理解を深めると同時に、グループに分かれてディスカッションも行い、アメリカと日本の文化の違いについて具体的に考察することを通して異文化理解を促進し、日本文化を相対的に見る目を養う。	花﨑一夫

		復習：本文の音読をしながら本文の復習を実施すること。 さらにはムードル上で出された課題に取り組むこと。	
21・22	Chapter11, 12	Chapter11 Unnecessary Gaman? Chapter12 Nature and Our Place in It 予習：該当する教科書本文を読んでおく。特に自分で読んでみてわからない部分をはっきりさせてから授業に臨むこと。 授業：各チャプターで扱う本文を読んで理解を深めると同時に、グループに分かれてディスカッションも行い、アメリカと日本の文化の違いについて具体的に考察することを通して異文化理解を促進し、日本文化を相対的に見る目を養う。 復習：本文の音読をしながら本文の復習を実施すること。 さらにはムードル上で出された課題に取り組むこと。	花﨑一夫
23・24	Chapter13, 14	Chapter13 An Ikumen is a Father?! Chapter14 The Non-Religious Religious Japanese? 予習：該当する教科書本文を読んでおく。特に自分で読んでみてわからない部分をはっきりさせてから授業に臨むこと。 授業：各チャプターで扱う本文を読んで理解を深めると同時に、グループに分かれてディスカッションも行い、アメリカと日本の文化の違いについて具体的に考察することを通して異文化理解を促進し、日本文化を相対的に見る目を養う。 復習：本文の音読をしながら本文の復習を実施すること。 さらにはムードル上で出された課題に取り組むこと。	花﨑一夫
25・26	Chapter15	Chapter15 Why Do We Do What We Do? 予習：該当する教科書本文を読んでおく。特に自分で読んでみてわからない部分をはっきりさせてから授業に臨むこと。 授業：各チャプターで扱う本文を読んで理解を深めると同時に、グループに分かれてディスカッションも行い、アメリカと日本の文化の違いについて具体的に考察することを通して異文化理解を促進し、日本文化を相対的に見る目を養う。 復習：本文の音読をしながら本文の復習を実施すること。 さらにはムードル上で出された課題に取り組むこと。	花﨑一夫
27	TBA	授業内容はムードルでお知らせします。	花﨑一夫

【６】　事前・事後学習とその時間

週に２コマの授業に対して、１時間の事前学習と１時間の事後学習を行ってください。

【７】　評価方法・基準

定期試験３０％、中間テスト３０％　授業の課題４０％

【８】　フィードバック方法

課題に対するコメントなどを通してフィードバックする。

【９】　教科書

Language, Culture, and Worldview
Bridging Japan and America (金星堂)

【10】　参考書

別途指示します。

【11】　備考(関連科目等)

授業内容に変更がある場合にはその都度、事前にムードルでお知らせします。
2025DPとの関連：DP①・④・⑤

科目名(日本語)	**医療英語A(1)**	必修・選択区分	授業形態	開講学期・学年	単位数
科目名(英語)	Medical English A(1)	選択	演習	春学期 1年	1単位 30時間
科目責任者	成田正人				
担当教員	成田正人				
科目責任者 連絡先(教室)	初回の授業時に連絡方法を伝えます。				
オフィスアワー	木曜日5限（13:00～13:50）の理学部Ｖ号館５階講師室と授業後（20分程度）				

【１】　授業方法(ALの要素、ICTの活用等)

１－１．アクティブラーニングについて

実施する

１－２．アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素

ディスカッション、ディベート
グループワーク

２－１．双方向授業でのＩＣＴの活用について

活用する

２－２．ＩＣＴを活用する場合、その具体的名称（クリッカー、タブレット端末等）

Moodle

【２】　授業概要

医療や看護を主題とする英文の読解を通して、健康科学への関心を高め、今後の英語文献の講読や各自の看護研究に必要な英語力を養います。また、基礎的な英語の語句や成句への習熟を図ると共に、医療英語の語彙力も集中して鍛えます。

【３】　到達目標

・英文の意味や構造を正確に理解するのに必要な英語の文法や語法を説明できる。
・論理的な思考を身につけることにより英語の文章を整合的に読解できる。
・英会話や英作文で使える有用な表現および重要な語句や成句について説明できる。
・医療英語の語彙力を強化することにより、必要な医療英語について説明できる。

【４】　ディプロマ・ポリシーとの関連

到達目標を達成することにより、以下の能力を身につけることにつながります。

１．自然科学を看護活動の根拠とし、実践に活かす基礎的な力を有している。

２．看護学の専門知識と技術を修得している。

３．他者の多様な価値観を理解し、尊重することができる。

【５】　授業計画

	項目	内容および授業方法 予習・復習・キーワード	担当教員
１・２回	ガイダンスと英文法の確認	授業内容：授業の進め方と受け方を確認し、基本的な英文法を確認します。 授業方法：講義，問題演習 予習：シラバスをよく読み、教科書に目を通しておいてください。 復習：授業計画と評価方法を再確認し、基本的な英文法を復習してください。 キーワード：授業の概説，基本的な英文法	成田正人
３・４回	Unit 1 VItamin D	授業内容：Unit 1のVocabularyを確認しReadingを読解します。 授業方法：小テスト，問題演習，発表，講義 予習：Unit 1のVocabulary Checkを確認し、Unit 1のReadingを読んでおいてください。 復習：小テストを見直し、Unit 1の内容を復習してください。 キーワード：vitamin D	成田正人
５・６回	Unit 1 Vitamin DとUseful Expressions 1	授業内容：Unit 1のReadingとComprehensionの後、Useful Expressions 1を確認します。 授業方法：発表，講義，問題演習，グループワーク 予習：Unit 1のReadingを読んでおいてください。 復習：Unit 1とUseful Expressions 1の内容を復習してください。 キーワード：vitamin D, drag store	成田正人
７・８回	Unit 8 A Promising Treatment for Alzheimer's	授業内容：Unit 8のVocabularyを確認しReadingを読解します。 授業方法：小テスト，問題演習，発表，講義 予習：Unit 8のVocabulary Checkを確認し、Unit 8のReadingを読んでおいてください。 復習：小テストを見直し、Unit 8の内容を復習してください。 キーワード：Alzhemimer's disease	成田正人
９・10回	Unit 8 A Promising Treatment for Alzheimer'sとUseful Expressions 2	授業内容：Unit 8のReadingとComprehensionの後、Useful Expressions 2を確認します。 授業方法：発表，講義，問題演習，グループワーク 予習：Unit 8のReadingを読んでおいてください。 復習：Unit 8とUseful Expressions 1の内容を復習してください。 キーワード：Alzhemimer's disease, pharmacy	成田正人
11・12回	Unit 6 New Trends in Controlling Cancer	授業内容：Unit 6のVocabularyを確認しReadingを読解します。 授業方法：小テスト，問題演習，発表，講義 予習：Unit 6のVocabulary Checkを確認し、Unit 6のReadingを読んでおいてください。 復習：小テストを見直し、Unit 6の内容を復習してください。 キーワード：cancer treatment	成田正人
13・14回	Unit 6 New Trends in Controlling Cancerと中間試験	授業内容：Unit 6のReadingとComprehensionの後、中間試験を行います。 授業方法：発表，講義，問題演習，試験 予習：Unit 6のReadingを読んでおいてください。中間試験に備え勉強してください。 復習：中間試験の内容を教科書を使って再確認してください。 キーワード：cancer treatment，中間試験	成田正人
15・16回	Unit 10 Vaping Boom among Teens	授業内容：Unit 10のVocabularyを確認しReadingを読解します。 授業方法：小テスト，問題演習，発表，講義 予習：Unit 10のVocabulary Checkを確認し、Unit 10のReadingを読んでおいてください。 復習：小テストを見直し、Unit 10の内容を復習してください。 キーワード：vaping	成田正人
17・18回	Unit 10 Vaping Boom among Teensと中間試験へのフィートバック	授業内容：Unit 10のReadingとComprehensionの後、中間試験へのフィートバックをします。 授業方法：発表，講義，問題演習 予習：Unit 10のReadingを読んでおいてください。 復習：Unit 10と中間試験の内容を復習してください。 キーワード：vaping，中間試験へのフィートバック	成田正人
19・20回	Unit 13 Save the Planet Diet	授業内容：Unit 13のVocabularyを確認しReadingを読解します。 授業方法：小テスト，問題演習，発表，講義 予習：Unit 13のVocabulary Checkを確認し、Unit 13のReadingを読んでおいてください。 復習：小テストを見直し、Unit 13の内容を復習してください。 キーワード：planetary health diet	成田正人
21・22回	Unit 13 Save the Planet DietとUseful Expressions 3	授業内容：Unit 13のReadingとComprehensionの後、Useful Expressions 3を確認します。 授業方法：発表，講義，問題演習，グループワーク 予習：Unit 13のReadingを読んでおいてください。 復習：Unit 13とUseful Expressions 3の内容を復習してください。 キーワード：planetary health diet, medical examination	成田正人
23・24回	Unit 15 Medical Comics	授業内容：Unit 15のVocabularyを確認しReadingを読解します。 授業方法：小テスト，問題演習，発表，講義 予習：Unit 15のVocabulary Checkを確認し、Unit 15のReadingを読んでおいてください。 復習：小テストを見直し、Unit 15の内容を復習してください。 キーワード：medical comics	成田正人

25・26回	Unit 15 Medical Comics	授業内容：Unit 15のReadingを読解しComprehensionを確認します。 授業方法：発表，講義，問題演習 予習：Unit 15のReadingを読んでおいてください。 復習：Unit 15の内容を復習してください。 キーワード：medical comics	成田正人
27回	Useful Expressions 4	授業内容：Useful Expressions 4を確認します。 授業方法：講義，グループワーク 予習：特に必要ありません。 復習：Useful Expressions 4の内容を復習してください。 キーワード：telephone diagnosis	成田正人

【６】　事前・事後学習とその時間

事前学習では、まずは各UnitのVocabularyを確認してください。また、各UnitのReadingを読解し、英文の意味と構造をできるだけ正確に捉えてください。事後学習では、特に試験に備えて、授業内で学修した重要な文法や語法を自分でまとめてみてください。事前学習と事後学習は合わせて１時間半程度かかるでしょう。

【７】　評価方法・基準

中間試験（30%）、定期試験（30%）、小テスト（20%）、発言回数（20%）で総合的に評価します。

【８】　フィードバック方法

小テストと中間試験は、結果を返却し、授業中にフィードバックを行います。

【９】　教科書

吉岡みのり、Gerald R. Gordon、近藤進『今求められる医療と看護 Caregiver Renewed: Developing an Inquisitive Mind for Medical Issues』

【10】　参考書

なし

【11】　備考(関連科目等)

実用医療英語
2025DPとの関連：DP①・④・⑤

科目名(日本語)	**医療英語A(2)**	必修・選択区分	授業形態	開講学期・学年	単位数
科目名(英語)	Medical English A(2)	選択	演習	春学期 1	1単位 30時間
科目責任者	花﨑一夫				
担当教員	花﨑一夫				
科目責任者 連絡先(教室)	kazuo.hanazaki@phar.toho-u.ac.jp				
オフィスアワー	木曜日の授業時間の後および金曜日午前８時～８時３０分に薬学部E210の花崎研究室にて対応します。				

【１】　授業方法(ALの要素、ICTの活用等)

１－１．アクティブラーニングについて
実施する

１－２．アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素
ディスカッション、ディベート

２－１．双方向授業でのＩＣＴの活用について
活用する

２－２．ＩＣＴを活用する場合、その具体的名称（クリッカー、タブレット端末等）
Moodle

【２】　授業概要

医療や看護を主題とする英文の読解を通して、健康科学への関心を高め、今後の英語文献の講読や各自の看護研究に必要な英語力を養います。また、基礎的な英語の語句や成句への習熟を図ると共に、医療英語の語彙力も集中して鍛えます。

【３】　到達目標

・英文の意味や構造を正確に理解するのに必要な英語の文法や語法を説明できる。
・論理的な思考を身につけることにより英語の文章を整合的に読解できる。
・英会話や英作文で使える有用な表現および重要な語句や成句について説明できる。
・医療英語の語彙力を強化することにより、必要な医療英語について説明できる。

【４】　ディプロマ・ポリシーとの関連

到達目標を達成することにより、以下の能力を身につけることにつながります。

１．自然科学を看護活動の根拠とし、実践に活かす基礎的な力を有している。
２．看護学の専門知識と技術を修得している。
３．他者の多様な価値観を理解し、尊重することができる。

【５】　授業計画

	項目	内容および授業方法 予習・復習・キーワード	担当教員
1・2	Unit1	Unit1 Exercise 英語の発音演習 予習：本文を中心に教科書の予習をして授業に臨むこと。 授業：医療英語の習得に資する語彙や語法の演習を実施すると同時に、毎週のトピックに関して、必要に応じてディスカッションを行って各トピックの理解を深める。 このほか、基本的に毎回、英語の発音演習を行う。 復習：授業内容の復習及び、ムードル上に出された課題に取り組む。	花﨑一夫
3・4	Unit2	Unit2 Allergies 英語の発音演習 予習：本文を中心に教科書の予習をして授業に臨むこと。 授業：医療英語の習得に資する語彙や語法の演習を実施すると同時に、毎週のトピックに関して、必要に応じてディスカッションを行って各トピックの理解を深める。 このほか、基本的に毎回、英語の発音演習を行う。 復習：授業内容の復習及び、ムードル上に出された課題に取り組む。	花﨑一夫
5・6	Unit3	Unit3 Sleep 英語の発音演習 予習：本文を中心に教科書の予習をして授業に臨むこと。 授業：医療英語の習得に資する語彙や語法の演習を実施すると同時に、毎週のトピックに関して、必要に応じてディスカッションを行って各トピックの理解を深める。 このほか、基本的に毎回、英語の発音演習を行う。 復習：授業内容の復習及び、ムードル上に出された課題に取り組む。	花﨑一夫
7・8	Unit4	Unit4 Hydration 英語の発音演習 予習：本文を中心に教科書の予習をして授業に臨むこと。 授業：医療英語の習得に資する語彙や語法の演習を実施すると同時に、毎週のトピックに関して、必要に応じてディスカッションを行って各トピックの理解を深める。 このほか、基本的に毎回、英語の発音演習を行う。 復習：授業内容の復習及び、ムードル上に出された課題に取り組む。	花﨑一夫
9・10	Unit5	Unit5 Mental Health 英語の発音演習 予習：本文を中心に教科書の予習をして授業に臨むこと。 授業：医療英語の習得に資する語彙や語法の演習を実施すると同時に、毎週のトピックに関して、必要に応じてディスカッションを行って各トピックの理解を深める。 このほか、基本的に毎回、英語の発音演習を行う。 復習：授業内容の復習及び、ムードル上に出された課題に取り組む。	花﨑一夫
11・12	Unit6	Unit6 Meditation 英語の発音演習 予習：本文を中心に教科書の予習をして授業に臨むこと。 授業：医療英語の習得に資する語彙や語法の演習を実施すると同時に、毎週のトピックに関して、必要に応じてディスカッションを行って各トピックの理解を深める。 このほか、基本的に毎回、英語の発音演習を行う。 復習：授業内容の復習及び、ムードル上に出された課題に取り組む。	花﨑一夫
13	Review 1	Units1-6	花﨑一夫
14	中間試験	試験範囲については別途ムードルでお知らせします。	花﨑一夫

15・16	Unit7	Unit7 Nutrition 英語の発音演習 予習：本文を中心に教科書の予習をして授業に臨むこと。 授業：医療英語の習得に資する語彙や語法の演習を実施すると同時に、毎週のトピックに関して、必要に応じてディスカッションを行って各トピックの理解を深める。 このほか、基本的に毎回、英語の発音演習を行う。 復習：授業内容の復習及び、ムードル上に出された課題に取り組む。	花﨑一夫
17・18	Unit8	Unit8 Ergonomics 英語の発音演習 予習：本文を中心に教科書の予習をして授業に臨むこと。 授業：医療英語の習得に資する語彙や語法の演習を実施すると同時に、毎週のトピックに関して、必要に応じてディスカッションを行って各トピックの理解を深める。 このほか、基本的に毎回、英語の発音演習を行う。 復習：授業内容の復習及び、ムードル上に出された課題に取り組む。	花﨑一夫
19・20・21	Unit9/ Unit10	Unit9 Work-Life Balance Unit10 Stress 英語の発音演習 予習：本文を中心に教科書の予習をして授業に臨むこと。 授業：医療英語の習得に資する語彙や語法の演習を実施すると同時に。毎週のトピックに関して、必要に応じてディスカッションを行って各トピックの理解を深める。 このほか、基本的に毎回、英語の発音演習を行う。 復習：授業内容の復習及び、ムードル上に出された課題に取り組む。	花﨑一夫
22・23・24	Unit11・Unit12	Unit11 Stretching/ Unit12 Injuries 英語の発音演習 予習：本文を中心に教科書の予習をして授業に臨むこと。 授業：医療英語の習得に資する語彙や語法の演習を実施すると同時に、毎週のトピックに関して、必要に応じてディスカッションを行って各トピックの理解を深める。 このほか、基本的に毎回、英語の発音演習を行う。 復習：授業内容の復習及び、ムードル上に出された課題に取り組む。	花﨑一夫
25・26・27	Review2	Review2 Units 7-12 英語の発音演習	花﨑一夫

【６】　事前・事後学習とその時間

週に２コマの授業に対して、１時間の事前学習と１時間の事後学習を行ってください。週に３コマの場合には、１時間３０分の事前学習と事後学修をすることになります。

【７】　評価方法・基準

定期試験30%, 中間試験30%, 授業の課題40%

【８】　フィードバック方法

課題に対するコメントなどを通してフィードバックする。

【９】　教科書

1. Live Well (金星堂)
2. ５分間　英語発音 (南雲堂)

【10】　参考書

別途指示します。

【11】　備考(関連科目等)

シラバスの内容に変更がある場合にはその都度、事前にムードルでお知らせします。
2025DPとの関連：DP①・④・⑤

科目名(日本語)	**医療英語B**	必修・選択区分	授業形態	開講学期・学年	単位数
科目名(英語)	Medical English B	選択	演習	秋学期 1年	1単位 30時間
科目責任者	成田正人				
担当教員	成田正人				
科目責任者 連絡先(教室)	初回の授業時に連絡方法を伝えます。				
オフィスアワー	木曜日5限（13:00～13:50）の理学部Ｖ号館５階講師室と授業後（20分程度）				

【１】　授業方法(ALの要素、ICTの活用等)

１－１．アクティブラーニングについて

実施する

１－２．アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素

ディスカッション、ディベート
グループワーク

２－１．双方向授業でのＩＣＴの活用について

活用する

２－２．ＩＣＴを活用する場合、その具体的名称（クリッカー、タブレット端末等）

Moodle

【２】　授業概要

医療や看護を主題とする英文の読解を通して、健康科学への関心を高め、今後の英語文献の講読や各自の看護研究に必要な英語力を養います。また、基礎的な英語の語句や成句への習熟を図ると共に、医療英語の語彙力も集中して鍛えます。

【３】　到達目標

・英文の意味や構造を正確に理解するのに必要な英語の文法や語法を説明できる。
・論理的な思考を身につけることにより英語の文章を整合的に読解できる。
・英会話や英作文で使える有用な表現および重要な語句や成句について説明できる。
・医療英語の語彙力を強化することにより、必要な医療英語について説明できる。

【４】　ディプロマ・ポリシーとの関連

到達目標を達成することにより、以下の能力を身につけることにつながります。

１．自然科学を看護活動の根拠とし、実践に活かす基礎的な力を有している。

２．看護学の専門知識と技術を修得している。

３．他者の多様な価値観を理解し、尊重することができる。

【５】　授業計画

	項目	内容および授業方法 予習・復習・キーワード	担当教員
１・２回	授業の概要と英文法の確認	授業内容：授業の進め方と受け方を確認し、基本的な英文法を確認します。 授業方法：講義，問題演習 予習：シラバスをよく読み、教科書に目を通しておいてください。 復習：授業計画と評価方法を再確認し、基本的な英文法を復習してください。 キーワード：授業の概説，基本的な英文法	成田正人
３・４回	Unit 5 Risky Aspirin?	授業内容：Unit 5のVocabularyを確認しReadingを読解します。 授業方法：小テスト，問題演習，発表，講義 予習：Unit 5のVocabulary Checkを確認し、Unit 5のReadingを読んでおいてください。 復習：小テストを見直し、Unit 5の内容を復習してください。 キーワード：aspirin	成田正人
５・６回	Unit 5 Risky Aspirin?と Useful Expressions 1	授業内容：Unit 5のReadingとComprehensionの後、UsefulExpressions 1を確認します。 授業方法：発表，講義，問題演習，グループワーク 予習：Unit 5のReadingを読んでおいてください。 復習：Unit 5とUseful Expressions 1の内容を復習してください。 キーワード：aspirin，drag store	成田正人
７・８回	Unit 12 Multimorbidity vs. Quality of Life	授業内容：Unit 12のVocabularyを確認しReadingを読解します。 授業方法：小テスト，問題演習，発表，講義 予習：Unit 12のVocabulary Checkを確認し、Unit 12のReadingを読んでおいてください。 復習：小テストを見直し、Unit 12の内容を復習してください。 キーワード：multimorbidity	成田正人
９・10回	Unit 12 Multimorbidity vs. Quality of Lifeと Useful Expressions 2	授業内容：Unit 12のReadingとComprehensionの後、UsefulExpressions 2を確認します。 授業方法：発表，講義，問題演習，グループワーク 予習：Unit 12のReadingを読んでおいてください。 復習：Unit 12とUseful Expressions 2の内容を復習してください。 キーワード：multimorbidity，parmacy	成田正人
11・12回	Unit 2 Dealing with Addiction	授業内容：Unit 2のVocabularyを確認しReadingを読解します。 授業方法：小テスト，問題演習，発表，講義 予習：Unit 2のVocabulary Checkを確認し、Unit 2のReadingを読んでおいてください。 復習：小テストを見直し、Unit 2の内容を復習してください。 キーワード：addiction	成田正人
13・14回	Unit 2 Dealing with Addictionと中間試験	授業内容：Unit 2のReadingとComprehensionの後、中間試験を行います。 授業方法：発表，講義，問題演習，試験 予習：Unit 2のReadingを読んでおいてください。中間試験に備え勉強してください。 復習：中間試験の内容を教科書を使って再確認してください。 キーワード：addiction，中間試験	成田正人
15・16回	Unit 9 Link Between Diet and Brain	授業内容：Unit 9のVocabularyを確認しReadingを読解します。 授業方法：小テスト，問題演習，発表，講義 予習：Unit 9のVocabulary Checkを確認し、Unit 9のReadingを読んでおいてください。 復習：小テストを見直し、Unit 9の内容を復習してください。 キーワード：diet and brain	成田正人
17・18回	Unit 9 Link Between Diet and Brainと中間試験へのフィートバック	授業内容：Unit 9のReadingとComprehensionの後、中間試験へのフィートバックをします。 授業方法：発表，講義，問題演習 予習：Unit 9のReadingを読んでおいてください。 復習：Unit 9と中間試験の内容を復習してください。 キーワード：diet and brain，中間試験へのフィートバック	成田正人
19・20回	Unit 7 Hyaluronic Acid	授業内容：Unit 7のVocabularyを確認しReadingを読解します。 授業方法：小テスト，問題演習，発表，講義 予習：Unit 7のVocabulary Checkを確認し、Unit 7のReadingを読んでおいてください。 復習：小テストを見直し、Unit 7の内容を復習してください。 キーワード：hyaluronic acid	成田正人
21・22回	Unit 7 Hyaluronic Acidと Useful Expressions 3	授業内容：Unit 7のReadingとComprehensionの後、Useful Expressions 3を確認します。 授業方法：発表，講義，問題演習，グループワーク 予習：Unit 7のReadingを読んでおいてください。 復習：Unit 7とUseful Expressions 3の内容を復習してください。 キーワード：hyaluronic acid，medical examination	成田正人
23・24回	Unit 14 Edible Insects	授業内容：Unit 14のVocabularyを確認しReadingを読解します。 授業方法：小テスト，問題演習，発表，講義 予習：Unit 14のVocabulary Checkを確認し、Unit 14のReadingを読んでおいてください。 復習：小テストを見直し、Unit 14の内容を復習してください。 キーワード：edible insects	成田正人

25・26回	Unit 14 Edible Insects	授業内容：Unit 14のReadingを読解しComprehensionを確認します。 授業方法：発表，講義，問題演習 予習：Unit 14のReadingを読んでおいてください。 復習：Unit 14の内容を復習してください。 キーワード：edible insects	成田正人
27回	Useful Expressions 4	授業内容：Useful Expressions 4を確認します。 授業方法：講義，グループワーク 予習：特に必要ありません。 復習：Useful Expressions 4の内容を復習してください。 キーワード：telephone diagnosis	成田正人

【６】　事前・事後学習とその時間

事前学習では、まずは各UnitのVocabularyを確認してください。また、各UnitのReadingを読解し、英文の意味と構造をできるだけ正確に捉えてください。事後学習では、特に試験に備えて、授業内で学修した重要な文法や語法を自分でまとめてみてください。事前学習と事後学習は合わせて１時間半程度かかるでしょう。

【７】　評価方法・基準

中間試験（30%）、定期試験（30%）、小テスト（20%）、発言回数（20%）で総合的に評価します。

【８】　フィードバック方法

小テストと中間試験は、結果を返却し、授業中にフィードバックを行います。

【９】　教科書

吉岡みのり、Gerald R. Gordon、近藤進『今求められる医療と看護 Caregiver Renewed: Developing an Inquisitive Mind for Medical Issues』

【10】　参考書

なし

【11】　備考(関連科目等)

実用医療英語

科目名(日本語)	**ドイツ語入門**	必修・選択区分	授業形態	開講学期・学年	単位数
科目名(英語)	Introduction to German	選択	演習	春学期 1年	1単位 30時間
科目責任者	佐藤朋之				
担当教員	佐藤朋之				
科目責任者 連絡先(教室)	初回授業時に連絡方法を伝えます。				
オフィスアワー	水曜日の授業前後に10分程度、質問を講義室で受け付ける。またはメール、Moodleを通じて問い合わせることも可能。 メール（tomoyuki.sato@hs.toho-u.ac.jp）				

【１】　授業方法(ALの要素、ICTの活用等)

１－１．アクティブラーニングについて

実施する

１－２．アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素

ディスカッション、ディベート
グループワーク
プレゼンテーション

２－１．双方向授業でのＩＣＴの活用について

活用する

２－２．ＩＣＴを活用する場合、その具体的名称（クリッカー、タブレット端末等）

Moodle

【２】　授業概要

ドイツ語の基本的な文法を理解し、また日常生活に必要な語彙を習得する。口頭や筆記での練習を重ねて行うことで、＜読む、聞く、書く、話す＞ために必要な基礎的能力を身につける。あわせてドイツ語圏（ドイツ・スイス・オーストリアなど）の文化に親しむ。

【３】　到達目標

・ドイツ語表記を見て正しい発音ができる。
・ドイツ語で簡単な自己紹介ができる。
・ドイツ語圏の生活や文化の特徴について、日本と比較しながら考察することができる。
・ドイツ語圏に旅行したときに、買い物や困り事の際に必要な最低限のコミュニケーションをとることができる。

【４】　ディプロマ・ポリシーとの関連

到達目標を達成することにより、以下の能力を身につけることにつながります。

１．自然科学を看護活動の根拠とし、実践に活かす基礎的な力を有している。

３．他者の多様な価値観を理解し、尊重することができる。

【５】　授業計画

	項目	内容および授業方法 予習・復習・キーワード	担当教員
1	ガイダンス	内容：今期の学習目標と成績評価説明およびドイツ語・ドイツ語圏情報の紹介。テキスト、参考物、サイトなどの紹介。【授業計画】について説明。 ・挨拶とドイツ語への案内 授業方法：演習（＝ペア、グループワークなど） 初回：初回不要 復習：講義毎に提示する キーワード：ドイツ語、ドイツ語圏	佐藤朋之
2	ドイツ語のつづりと発音(1)	内容：ドイツ語の音声に親しむ。 ・ドイツ語の発音を聞き、その特徴をつかむ。 ・単語の読み方の基本原則（綴りと音の関係）を知る。特に挨拶のことばの発音。 ・ドイツ語のアルファベットの読み方を学ぶ（英語との比較で）。 授業方法：演習（＝ペア、グループワークなど） 予習・復習：講義毎に提示する キーワード：アルファベット、挨拶	佐藤朋之
3	ドイツ語のつづりと発音(2)	内容：ドイツ語の音声に親しむ（復習と続き）。 ・数字（１～100）の仕組みと読み方。 ・ドイツ人の名前 ・家族、曜日、月を表す単語を知る（綴りを見ながら読めるようにする）。 授業方法：演習（＝ペア、グループワークなど） 予習・復習：講義毎に提示する キーワード：数字、発音	佐藤朋之
4	Lektion 1	内容：ドイツ語の動詞、その変化 ・文法項目：動詞の変化と主語になる人称の種類（私、あなた、彼、彼女など）、文の組み立て方。 ・練習問題で文法事項を確認して理解する。 授業方法：演習（＝ペア、グループワークなど） 予習・復習：講義毎に提示する キーワード：動詞、人称変化	佐藤朋之
5	Lektion 1	内容：動詞の人称変化について復習 ・主語に合わせて動詞を変化させることができるように繰り返し練習する。加えて、英語のbeやhave動詞にあたる動詞を学ぶ。 ・ドイツ語文の構造の特徴を英語と比較しながら理解する。 授業方法：演習（＝ペア、グループワークなど） 予習・復習：講義毎に提示する キーワード：動詞、人称変化、自己紹介	佐藤朋之
6	Lektion 2	内容：名前、出身、住所についての会話練習＋名詞 ・動詞の変化の練習（Lektion 1の内容） ・ドイツ語の名詞の特徴について学ぶ。（名詞の「性・格」、代名詞について理解する。） 授業方法：演習（＝ペア、グループワークなど） 予習・復習：講義毎に提示する キーワード：名詞、代名詞	佐藤朋之
7	Lektion 2	内容：冠詞について ・定冠詞・不定冠詞の変化を知る。　・接続詞について学ぶ。 ・自己紹介（自分が何者であるかを説明できるように練習する。） 授業方法：演習（＝ペア、グループワークなど） 予習・復習：講義毎に提示する キーワード：冠詞、自己紹介	佐藤朋之
8	Lektion 3	内容：前回の復習（定冠詞・不定冠詞）と動詞の変化 ・文法項目：動詞の変化形（不規則な変化をするもの）、命令形の作り方。 ・練習問題で動詞の人称変化を確認して理解を定着させる。 授業方法：演習（＝ペア、グループワークなど） 予習・復習：講義毎に提示する キーワード：動詞、不規則変化、命令形	佐藤朋之
9	Lektion 3	内容：人称代名詞の格変化 ・人称代名詞の変化を学ぶ。 ・名詞の複数形について。また、名詞を代名詞で言い換える練習をする。 授業方法：演習（＝ペア、グループワークなど） 予習・復習：講義毎に提示する キーワード：複数形、人称代名詞	佐藤朋之
10	Lektion 4	内容：趣味と関心事を話すための会話＋冠詞類 ・「～するのが好き」という表現を使えるようにする（28頁）。 ・定冠詞・不定冠詞ふたたび（定着と発展） 授業方法：演習（＝ペア、グループワークなど） 予習・復習：講義毎に提示する キーワード：趣味、定冠詞類、不定冠詞類	佐藤朋之
11	Lektion 4	内容：冠詞類の復習 ・不定冠詞の作り方（nicht＝英語のnot、　否定冠詞） ・買い物に関する表現（＋色彩の語彙） 授業方法：演習（＝ペア、グループワークなど） 予習・復習：講義毎に提示する キーワード：否定形、買い物	佐藤朋之

12	Lektion 5	内容：前置詞 ・前置詞の格支配（＋冠詞の変化の復習） ・たくさん練習問題をやって前置詞の振る舞いを理解する。 授業方法：演習（＝ペア、グループワークなど） 予習・復習：講義毎に提示する キーワード：前置詞	佐藤朋之
13	Lektion 5	内容：前置詞の復習 ・練習問題で前置詞の使い方を確認する。 ・目的地への行き方についての質問を学ぶ。 授業方法：演習（＝ペア、グループワークなど） 予習・復習：講義毎に提示する キーワード：前置詞	佐藤朋之
14	Lektion 6	内容：話法の助動詞の使い方（1） ・助動詞の人称変化（動詞の人称変化のおさらいを兼ねて） ・ドイツ語特有の文構造（枠構造）を知る。 ・未来形の作り方 授業方法：演習（＝ペア、グループワークなど） 予習・復習：講義毎に提示する キーワード：助動詞、枠構造	佐藤朋之
15	Lektion 6	内容：話法の助動詞の使い方（2） ・助動詞を用いて作文の練習 ・副文の作り方（接続詞の使い方） 授業方法：演習（＝ペア、グループワークなど） キーワード：助動詞、副文、接続詞	佐藤朋之
16	Lektion 6	内容：前回の復習 ・接続詞でふたつの文を繋げてみる。 ・時間の表現「今何時ですか？」「今は～時です。」（数字の読み方の復習を兼ねて） 授業方法：演習（＝ペア、グループワークなど） 予習・復習：講義毎に提示する キーワード：接続詞、時間	佐藤朋之
17	Lektion 7	内容：形容詞の使い方（1） ・形容詞も格変化することに慣れる。 ・形容詞にいちいち語尾が付くことに慣れる。 授業方法：演習（＝ペア、グループワークなど） 予習・復習：講義毎に提示する キーワード：形容詞	佐藤朋之
18	Lektion 7	内容：形容詞の使い方（2） ・名詞の性・格に応じて、形容詞に「語尾」を付ける練習。 ・比較級と最上級の作り方（～より××だ、いちばん××だ） 授業方法：演習（＝ペア、グループワークなど） 予習・復習：講義毎に提示する キーワード：形容詞、比較級、最上級	佐藤朋之
19	Lektion 7	内容：形容詞の復習 ・比較級、最上級の知識を定着させる。 ・レストランでの会話の練習（注文と支払など） 授業方法：演習（＝ペア、グループワークなど） 予習・復習：講義毎に提示する キーワード：形容詞、食事、レストラン、支払	佐藤朋之
20	Lektion 8	内容：分離動詞と非分離動詞（1） ・動詞の人称変化の復習 ・ひとつの動詞が文中で分裂して用いられる、ドイツ語特有の文法に慣れる。 授業方法：演習（＝ペア、グループワークなど） 予習・復習：講義毎に提示する キーワード：分離動詞、非分離動詞	佐藤朋之
21	Lektion 8	内容：分離動詞と非分離動詞（2） ・作文や文法問題を多くこなすことで、ドイツ語特有の動詞の振る舞いに慣れる。 ・zu不定詞の使い方(英語のto不定詞との相違) 授業方法：演習（＝ペア、グループワークなど） 予習・復習：講義毎に提示する キーワード：分離動詞、非分離動詞	佐藤朋之
22	Lektion 8	内容：分離動詞・非分離動詞の復習（特にzu不定詞） ・予定（「～するつもり」）についての会話(分離動詞の復習を兼ねて) 授業方法：演習（＝ペア、グループワークなど） 予習・復習：講義毎に提示する キーワード：zu不定詞	佐藤朋之
23	Lektion 9	内容：過去についての表現 ・過去形、現在完了について（規則動詞と不規則動詞） ・現在完了の文の構造（枠構造）に慣れる。 授業方法：演習（＝ペア、グループワークなど） 予習・復習：講義毎に提示する キーワード：過去形、現在完了、枠構造	佐藤朋之
24	Lektion 9	内容：現在完了の練習 ・練習問題を通じて、現在完了の文構造についての知識を定着させる。 授業方法：演習（＝ペア、グループワークなど） 予習・復習：講義毎に提示する キーワード：現在完了	佐藤朋之

25	Lektion 10	内容：過去形について少々（本授業ではごく簡単に紹介する程度になると思います。） ・過去時制と過去形の人称変化 ・過去についての会話 授業方法：演習（＝ペア、グループワークなと 予習・復習：講義毎に提示する キーワード：過去形	佐藤朋之
26	Lektion 10	内容：文法事項や表現の復習（1） ・ここまで学んだ文法事項や表現を確認する。 授業方法：演習（＝ペア、グループワークなど） 予習・復習：講義毎に提示する キーワード：ドイツ語	佐藤朋之
27	Lektion 10	内容：文法事項や表現の復習（2） ・ここまで学んだ文法事項や表現を確認する。期末試験についての案内など。 授業方法：演習（＝ペア、グループワークなど） 予習・復習：講義毎に提示する キーワード：ドイツ語	佐藤朋之

【６】　事前・事後学習とその時間

・限られた時間で初めての言語を学習することから、予習として30分程度の時間を使って、授業時間内あるいはMoodle等を通じて指示された課題を行うこと。必ずMoodleの該当ページを見ること。
・復習にも1時間程度費やしてほしい。毎回の授業の中で学習したドイツ語のテキスト、文法事項について、指示された課題を行うことで確認すること。不明点があれば、メールやMoodle、対面で遠慮なく質問すること。

【７】　評価方法・基準

筆記試験　50%、ミニテストおよび授業内活動　50%　の内訳で総合的に評価する。
＊授業を1/3以上欠席した者は評価の対象としない（遅刻3回は欠席1回とみなす）ので注意。

【８】　フィードバック方法

授業中に行う発音・文法のミニテストはその場で答え合わせをする。
筆記テストおよび提出課題は、コメントを付して返却する。その結果、理解が進んでいないと思われる文法事項については、Moodle（記載の記事）通じて追加の解説を行う。

【９】　教科書

Deutsch A-Z　アー・ツェット楽しく学ぶドイツ語（改訂版）小野壽美子・中川明博　朝日出版社

【10】　参考書

ドイツ語・ドイツ文化の理解に役立つサイト記事等については、その都度授業で紹介する。

【11】　備考(関連科目等)

なし
2025DPとの関連：DP①・④・⑤

科目名(日本語)	**フランス語入門**	必修・選択区分	授業形態	開講学期・学年	単位数
科目名(英語)	Introduction to French	選択	演習	春学期 1年	1単位 30時間
科目責任者	大道寺玲央				
担当教員	大道寺玲央				
科目責任者 連絡先(教室)	E-mail ： reodaidoji@gmail.com				
オフィスアワー	水曜日12時10分～13時　５号館５階講師室				

【１】　授業方法(ALの要素、ICTの活用等)

１－１．アクティブラーニングについて
実施する

１－２．アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素
グループワーク

２－１．双方向授業でのＩＣＴの活用について
活用しない

【２】　授業概要

フランス語を初級文法から学び、現在形で初歩的な文章をつくれる程度の力を養う。
フランス語圏の文化、またそれを構成する価値観に触れ、多様な価値観のあり方を感得する。

【３】　到達目標

フランス語で買い物や、簡単な自己紹介ができる（実用フランス語技能検定試験５級取得可能程度）。
フランス的な社会生活のあり方に触れ、日本とは異なる生活習慣、商習慣等を比較し述べることができる。

【４】　ディプロマ・ポリシーとの関連

到達目標を達成することにより、以下の能力を身につけることにつながります。

１．自然科学を看護活動の根拠とし、実践に活かす基礎的な力を有している。

３．他者の多様な価値観を理解し、尊重することができる。

【5】　授業計画

	項目	内容および授業方法 予習・復習・キーワード	担当教員
1	ガイダンス	内容：授業の概要紹介 授業方法：講義（＝その他、グループワークなど） 予習：教科書に目を通しておく 復習：講義ごとに提示する キーワード：授業概要	大道寺玲央
1	アルファベ	内容：アルファベットのフランス語読みの練習 授業方法：講義（＝その他、グループワークなど） 予習：講義ごとに提示する 復習：講義ごとに提示する キーワード：a~z	大道寺玲央
2	発音規則（1）	内容：単語を発音する際の規則の紹介 授業方法：講義（＝その他、グループワークなど） 予習：講義ごとに提示する 復習：講義ごとに提示する キーワード：単母音字、複母音字	大道寺玲央
3	発音規則（2）	内容：文を発音する際の規則の紹介 授業方法：講義（＝その他、グループワークなど） 予習：講義ごとに提示する 復習：講義ごとに提示する キーワード：鼻母音、複子音字	大道寺玲央
4	あいさつ表現（1）	内容：様々な挨拶表現の紹介 授業方法：講義（＝その他、グループワークなど） 予習：講義ごとに提示する 復習：講義ごとに提示する キーワード： bonjour	大道寺玲央
5	あいさつ表現（2）	内容：様々な挨拶表現の練習 授業方法：講義（＝その他、グループワークなど） 予習：講義ごとに提示する 復習：講義ごとに提示する キーワード： bonjour	大道寺玲央
6	主語人称代名詞	内容：主語人称代名詞 授業方法：講義（＝その他、グループワークなど） 予習：講義ごとに提示する 復習：講義ごとに提示する キーワード：主語人称代名詞	大道寺玲央
7	動詞être	内容：動詞être 授業方法：講義（＝その他、グループワークなど） 予習：講義ごとに提示する 復習：講義ごとに提示する キーワード：être	大道寺玲央
8	国籍（1）	内容：国籍に関する表現の紹介 授業方法：講義（＝その他、グループワークなど） 予習：講義ごとに提示する 復習：講義ごとに提示する キーワード：japonnais(e)(s)	大道寺玲央
9	国籍（2）	内容：国籍に関する表現の練習 授業方法：講義（＝その他、グループワークなど） 予習：講義ごとに提示する 復習：講義ごとに提示する キーワード：japonais(e)(s)	大道寺玲央
10	第一群規則動詞（1）	内容：第一群規則動詞の紹介 授業方法：講義（＝その他、グループワークなど） 予習：講義ごとに提示する 復習：講義ごとに提示する キーワード：parler	大道寺玲央
11	第一群規則動詞（2）	内容：第一群規則動詞の練習 授業方法：講義（＝その他、グループワークなど） 予習：講義ごとに提示する 復習：講義ごとに提示する キーワード：parler	大道寺玲央
12	前置詞（1）	内容：場所を表す前置詞の紹介 授業方法：講義（＝その他、グループワークなど） 予習：講義ごとに提示する 復習：講義ごとに提示する キーワード：derriere / devant	大道寺玲央
13	前置詞（2）	内容：場所を表す前置詞の練習 授業方法：講義（＝その他、グループワークなど） 予習：講義ごとに提示する 復習：講義ごとに提示する キーワード：derriere / devant	大道寺玲央
14	色彩表現（1）	内容：色を表す表現の紹介 授業方法：講義（＝その他、グループワークなど） 予習：講義ごとに提示する 復習：講義ごとに提示する キーワード：noir(e)(s)	大道寺玲央

15	色彩表現（2）	内容：色を表す表現の練習 授業方法：講義（＝その他、グループワークなど） 予習：講義ごとに提示する 復習：講義ごとに提示する キーワード：noir(e)(s)	大道寺玲央
16	所有形容詞（1）	内容：所有形容詞の紹介 授業方法：講義（＝その他、グループワークなど） 予習：講義ごとに提示する 復習：講義ごとに提示する キーワード：mon / ma / mes	大道寺玲央
17	所有形容詞（2）	内容：所有形容詞の練習 授業方法：講義（＝その他、グループワークなど） 予習：講義ごとに提示する 復習：講義ごとに提示する キーワード：mon / ma / mes	大道寺玲央
18	時間表現（1）	内容：時間表現の紹介 授業方法：講義（＝その他、グループワークなど） 予習：講義ごとに提示する 復習：講義ごとに提示する キーワード：il est ~ heure(s) ~	大道寺玲央
19	時間表現（2）	内容：時間表現の紹介 授業方法：講義（＝その他、グループワークなど） 予習：講義ごとに提示する 復習：講義ごとに提示する キーワード：il est ~ heure(s) ~	大道寺玲央
20	部分冠詞	内容：部分冠詞 授業方法：講義（＝その他、グループワークなど） 予習：講義ごとに提示する 復習：講義ごとに提示する キーワード：du / de la	大道寺玲央
21	定冠詞	内容：定冠詞 授業方法：講義（＝その他、グループワークなど） 予習：講義ごとに提示する 復習：講義ごとに提示する キーワード：le / la / les	大道寺玲央
22	代名動詞（1）	内容：代名動詞の紹介 授業方法：講義（＝その他、グループワークなど） 予習：講義ごとに提示する 復習：講義ごとに提示する キーワード：se coucher	大道寺玲央
23	代名動詞（2）	内容：代名動詞の練習 授業方法：講義（＝その他、グループワークなど） 予習：講義ごとに提示する 復習：講義ごとに提示する キーワード：se coucher	大道寺玲央
24	場所表現（1）	内容：行く場所・住む場所の紹介 授業方法：講義（＝その他、グループワークなど） 予習：講義ごとに提示する 復習：講義ごとに提示する キーワード：aller / habiter a Paris	大道寺玲央
25	場所表現（2）	内容：行く場所・住む場所の練習 授業方法：講義（＝その他、グループワークなど） 予習：講義ごとに提示する 復習：講義ごとに提示する キーワード：aller / habiter a Paris	大道寺玲央
26	複合過去形（1）	内容：複合過去形の紹介 授業方法：講義（＝その他、グループワークなど） 予習：講義ごとに提示する 復習：講義ごとに提示する キーワード：avoir visite / être alle(e)(s)	大道寺玲央
27	複合過去形（2）	内容：複合過去形の練習 授業方法：講義（＝その他、グループワークなど） 予習：講義ごとに提示する 復習：講義ごとに提示する キーワード：avoir visite / être alle(e)(s)	大道寺玲央

【６】　事前・事後学習とその時間

この授業では毎回、小テスト（ペーパーもしくは口頭）が課されます。その勉強のため、一時間程度の復習が必要となります。
予習は必須ではありませんが、教科書で学習内容を事前に確認し（10分程度）、疑問点などを明らかにした上で授業に出席することが望ましいです。

【７】　評価方法・基準

小テストと期末試験の合計が100点満点になるように換算して評価します。
内訳は、小テストと授業への積極的参加度の評価が50%、期末試験が50%です（詳細は初回ガイダンス時に紹介）。

【８】　フィードバック方法

ペーパーでの小テストは採点後返却し、口頭での小テストは、その場で採点し正解を確認します。

【９】　教科書
『フランス語ルージュ１――トリコロール会話編――』（Claire RENOUL他、朝日出版社、2014年初版発行）

【10】　参考書
『ケータイ「万能」フランス語文法』（久松健一、駿河台出版社、2000年）
辞書については初回ガイダンス時に紹介。

【11】　備考(関連科目等)
特にありません。
2025DPとの関連：DP①・④・⑤

科目名(日本語)	**中国語入門**	必修・選択区分	授業形態	開講学期・学年	単位数
科目名(英語)	Introduction to Chinese	選択	演習	春学期 1年	1単位 30時間
科目責任者	張　敏				
担当教員	張　敏				
科目責任者 連絡先(教室)	授業初回時に連絡方法を伝える。				
オフィスアワー	授業終業後10分程度,講義室で質問を受け付ける。				

【１】　授業方法(ALの要素、ICTの活用等)

１－１．アクティブラーニングについて

実施する

１－２．アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素

「その他」の内容

ペアワーク

２－１．双方向授業でのＩＣＴの活用について

活用しない

【２】　授業概要

中国語は日本語と同様漢字を使う言語なので、それで親近感をおぼえ、選択する学生も多いかと思うが、授業の最初は発音を表記するのに用いられる「ピンイン」というローマ字の修得から始める。そして発音の基礎を身につけながら、基本的表現を学習していき、中国語を勉強する土台を作る。

【３】　到達目標

1. 中国語のローマ字発音表記(ピンイン)を見て正しい発音ができる。
2. 多様な中国語表現を一つ一つ確実に覚え、作文を書くことができる。
3. 簡単な挨拶と会話ができる。

【４】　ディプロマ・ポリシーとの関連

到達目標を達成することにより、以下の能力を身につけることにつながります。

１．自然科学を看護活動の根拠とし、実践に活かす基礎的な力を有している。

３．他者の多様な価値観を理解し、尊重することができる。

６．自ら学ぼうとする好奇心をもち、生涯にわたり自己研鑽する姿勢を身につける。

【５】　授業計画

	項目	内容および授業方法 予習・復習・キーワード	担当教員
1-2回	ガイダンス、第1課-1	内容：＜テキストP6～8＞ 中国とは？ 中国語とは？ 内容：＜テキストP9～10＞ 声調 単母音 授業方法：講義 予習：テキストを事前に読んでおくこと。 復習：重要ポイントを中心に理解を確かなものにすること。	張　敏
3-4回	第1課-2、第2課-1	内容：＜テキストP10～11＞ リピート、ドリル 授業方法：講義 予習：テキストを事前に読んでおくこと。 復習：重要ポイントを中心に理解を確かなものにすること。 内容：＜テキストP12＞ 複母音 声調記号のつけ方 授業方法：講義 予習：テキストを事前に読んでおくこと。 復習：重要ポイントを中心に理解を確かなものにすること。	張　敏
5-6回	第2課-2、第3課-1	内容：＜テキストP13～14＞ リピート、ドリル 授業方法：講義 予習：テキストを事前に読んでおくこと。 復習：重要ポイントを中心に理解を確かなものにすること。 内容：＜テキストP15＞ 子音（1） 授業方法：講義 予習：テキストを事前に読んでおくこと。 復習：重要ポイントを中心に理解を確かなものにすること。	張　敏
7-8回	第3課-2、第4課-1	内容：＜テキストP16～17＞ 軽声 声調の変化（1） 声調の組み合わせ(1) ドリル 授業方法：講義 予習：テキストを事前に読んでおくこと。 復習：重要ポイントを中心に理解を確かなものにすること。 内容：＜テキストP18～19＞ 子音（2） 声調の変化（2） 親族名称 授業方法：講義 予習：テキストを事前に読んでおくこと。 復習：重要ポイントを中心に理解を確かなものにすること。	張　敏
9-10回	第4課-2、第5課	内容：＜テキストP20＞ ドリル 授業方法：講義 予習：テキストを事前に読んでおくこと。 復習：重要ポイントを中心に理解を確かなものにすること。 内容：＜テキストP21～23＞ 鼻母音 声調の変化(3) 数字1－10 ドリル 授業方法：講義 予習：テキストを事前に読んでおくこと。 復習：重要ポイントを中心に理解を確かなものにすること。	張　敏
11-12回	第6課	内容：＜テキストP24～27＞ r化音 間違えやすい発音 隔音記号 人称代詞 あいさつ言葉 ドリル 授業方法：講義 予習：テキストを事前に読んでおくこと。 復習：重要ポイントを中心に理解を確かなものにすること。	張　敏
13-14回	第7課	内容：＜テキストP28～31＞ 新出語句 動詞“是” “？”疑問文 名前の尋ね方と答え方 本文 チャレンジ ドリル 授業方法：講義、ペアワーク	張　敏

		予習：テキストを事前に読んでおくこと。 復習：重要ポイントを中心に理解を確かなものにすること。	
15-16回	第8課-1	内容：＜テキストP32～34 新出語句 動詞述語文 副詞“也”と“都” 声調の組み合わせ(2) 本文 授業方法：講義、ペアワーク 予習：テキストを事前に読んでおくこと。 復習：重要ポイントを中心に理解を確かなものにすること。	張　敏
17-18回	第8課-2、第9課-1	内容：＜テキストP34～35＞ チャレンジ ドリル 授業方法：講義、ペアワーク 予習：テキストを事前に読んでおくこと。 復習：重要ポイントを中心に理解を確かなものにすること。 内容：＜テキストP36～38 新出語句 “？”疑問文 “？” 数字11-99 本文 授業方法：講義、ペアワーク 予習：テキストを事前に読んでおくこと。 復習：重要ポイントを中心に理解を確かなものにすること。	張　敏
19-20回	第9課-2、第10課-1	内容：＜テキストP38～39＞ チャレンジ ドリル 授業方法：講義、ペアワーク 予習：テキストを事前に読んでおくこと。 復習：重要ポイントを中心に理解を確かなものにすること。 内容：＜テキストP40～42＞ 新出語句 指示代名詞（1）「これ、あれ、それ」 “的” 授業方法：講義 予習：テキストを事前に読んでおくこと。 復習：重要ポイントを中心に理解を確かなものにすること。	張　敏
21-22回	第10課-2	内容：＜テキストP41～43＞ 本文 チャレンジ ドリル 授業方法：講義、ペアワーク 予習：テキストを事前に読んでおくこと。 復習：重要ポイントを中心に理解を確かなものにすること。	張　敏
23-24回	第11課-1	内容：＜テキストP44～46＞ 新出語句 時点（1）「今日、今週、今月など」 疑問詞疑問文 授業方法：講義 予習：テキストを事前に読んでおくこと。 復習：重要ポイントを中心に理解を確かなものにすること。	張　敏
25-26回	第11課-2	内容：＜テキストP45～47＞ 本文 チャレンジ ドリル 授業方法：講義、ペアワーク 予習：テキストを事前に読んでおくこと。 復習：重要ポイントを中心に理解を確かなものにすること。	張　敏
27回	総復習	発音、文法の確認、質疑応答	張　敏

【６】　事前・事後学習とその時間

予習：テキストを事前に読んでおくこと。
復習：重要ポイントを中心に理解を確かなものにすること。
本授業は1 コマごとに 25 分の予習復習が必要。

【７】　評価方法・基準

期末試験80％＋小テスト20％

【８】　フィードバック方法

小テスト：結果を返却する。期末テスト：試験問題の誤答内容に応じ、全体向けまたは個別にコメントする。

【９】　教科書

杉野元子・黄漢青『大学生のための初級中国語46回』白帝社

【10】　参考書

特になし

【11】　備考(関連科目等)

なし
2025DPとの関連：DP①・④・⑤

科目名(日本語)	**健康科学概論**	必修・選択区分	授業形態	開講学期・学年	単位数
科目名(英語)	Introduction to Health Sciences	必修	講義	春学期 1年	1単位 15時間
科目責任者	尾立篤子				
担当教員	額田 均、尾立 篤子				
科目責任者 連絡先(教室)	尾立 篤子（研究室K328）atsuko.oryu@hs.toho-u.ac.jp				
オフィスアワー	授業終了後10分程度、講義室にて質問を受ける。Moodleでの連絡も可能。				

【１】　授業方法(ALの要素、ICTの活用等)

１－１．アクティブラーニングについて

実施する

１－２．アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素

ディスカッション、ディベート
グループワーク
プレゼンテーション

２－１．双方向授業でのＩＣＴの活用について

活用する

２－２．ＩＣＴを活用する場合、その具体的名称（クリッカー、タブレット端末等）

Moodle

【２】　授業概要

健康科学に関する様々な概念や社会理論などを学び、身体面・精神（心理面）・社会面のある個人の健康、個人・家族・社会という生活体が構成する集団の健康、疾病・加齢による身体の健康、など多角的に理解し、人類とそれを取り巻く健康な社会について科学的に探究する視座を習得する。

【３】　到達目標

1. 東邦大学創始者である額田氏の考え方を通し人間を取り巻く環境との適応状況を踏まえ、人間の尊厳、健康について考え、述べることができる。
2. 人間の健康を守るための医学の歴史について述べることができる。
3. 人間の健康を身体的・精神的・社会的側面から科学的にとらえ統合体としての人間についての健康について述べることができる。
4. 人間の健康を予防・疾病のレベル（健康の段階）・死について捉え、述べることができる。
5. 人間を多角的に捉え、人間の尊厳を考え、「健康観」として述べることができる。

【４】　ディプロマ・ポリシーとの関連

到達目標を達成することにより、以下の能力を身につけることにつながります。

１．自然科学を看護活動の根拠とし、実践に活かす基礎的な力を有している。

２．看護学の専門知識と技術を修得している。

３．他者の多様な価値観を理解し、尊重することができる。

４．看護職の社会的責任を理解し、看護実践にまつわる倫理的課題を感受する力と熟考する力、それらに基づく判断を行動に表す力を身につけている。

６．自ら学ぼうとする好奇心をもち、生涯にわたり自己研鑽する姿勢を身につける。

【5】　授業計画

	項目	内容および授業方法 予習・復習・キーワード	担当教員
1・2回	健康とは（1）	内容：健康科学とは、WHOの健康の定義、社会的健康とは、安全が保障される社会 方法：講義 予習：世界情勢を概観し、人間の健康に影響を及ぼす事象について3つ挙げる。 復習：本時で学んだ内容を整理しておく。 キーワード：人間の安全保障、世界保健機構（WHO）の健康の定義、ソーシャルキャピタル、ユニバーサル・ヘルス・カバレッジ（UHC）	尾立　篤子
3・4回	自然・生命・人間	内容：東邦大学の創始者の精神を基に、人間を取り巻く環境における人間の適応および健康について考え、人間の尊厳を考える。 方法：講義 予習：高校で学んだ「健康に関して」を整理して臨む。 復習：本時で学んだことのトピックスから1つ選び、5分で説明できる資料を作成する。 キーワード：人間、自然環境、社会環境、人間の尊厳、人間の適応、生命	尾立　篤子・額田　均
5・6回	健康とは（2）	内容：身体的側面から見た健康の段階（レベル）を科学的に捉える。近代における健康観の変化と価値について考える。 方法：講義 予習：前回の授業で学んだことの整理をし、疑問点を明らかにして臨む。 復習：本時で学んだことのトピックスから1つ選び5分で説明できる資料を作成する。 キーワード：全体論と心身二元論、ヘルシズム、アルマ・アタ宣言、健康生成論、オタワ憲章、持続可能な開発目標（SDGs）	尾立　篤子
7・8回	健康とは（3）	内容：身体的側面から見た老化および死を考える。 方法：講義・ディスカッション 予習：「死」に関して自分の考えを整理してくる。 復習：本時に示すテーマに従い既習したことの整理をする。 キーワード：個体レベルの死、社会的レベルの死、精神的レベルの死、エイジズム、生命誕生への医学の介入と倫理	尾立　篤子
9・10回	日本国民の健康に関する現状と課題（1）	内容：　日本国民の健康状態を捉え、人々の生活と健康に関して検討する。 方法：グループワーク 予習：各グループのテーマに従い話し合いができるように準備して臨む。 復習：グループワークの整理をする。 キーワード：健康の関連要因（経済水準・医療政策・医療の変化など）、健康の概念の変化 飲酒・喫煙・肥満・痩せ・摂食障害・ストレス・セクシャリティー・エイズ・同性愛	尾立　篤子
11・12回	日本国民の健康に関する現状と課題（2）	内容：前回の授業（日本国民の健康に関する現状）を考える中で、個人の健康・家族の健康・組織・地域の健康を整理し、健康の関連要因の検討をする。 方法：先回のグループワークの発表、講義 予習：　自分のグループの発表の準備をする。 復習：他者の意見を自分の考えにインターラクションできるよう、考えてみる。 キーワード：健康の関連要因（経済水準・医療政策・医療の変化など）、健康の概念の変化 飲酒・喫煙・肥満・痩せ・摂食障害・ストレス・セクシャリティー・同性愛	尾立　篤子
13・14回	社会の変遷と健康観の変化、人間の適応	内容：障害を持った生活者が身体的側面・精神（心理）的側面・社会的側面から現代社会の中で、自己の健康を保持するためにどのように適応しながら生活したらよいかを考える。 方法：全員での話し合いおよび講義 予習：授業全体を振り返り、疑問点を明確にして臨む。復習：課題レポートのテーマ設定をする。 キーワード：疾病回復、障害、QOL、生活支援（看護）、健康観	尾立　篤子

【6】　事前・事後学習とその時間

自身の体験を通し教員や学生同士で意見交換を図りながら、健康を科学的に捉え、医学・看護専門科目を学修していく基盤の一つを「健康観」として述べられることを目指す。従って、授業には積極的に参加し自分の意見を述べることを望む。
　予習・復習に関しては、各回の授業を整理し、次の授業にはその内容を述べることができ、新たなる課題を提言することができるような学習の仕方を期待する。それに費やす時間は各自違うので自分が納得のいくように学習を進めてほしい（個人差はあるが1～2時間程度）。その積み重ねが、自分自身の思慮の深さにつながっていくことを自覚する。

【7】　評価方法・基準

レポート評価50 %,　授業・グループワークへの取り組み姿勢50%（発言回数、リアクションによる内容の理解状況）
レポート評価は、各自「健康観」に関するテーマを自分で設定し論述する。書き方は授業の中で説明する。

【８】　フィードバック方法
次回の授業で、課題の中の特徴的な見解や誤解についてコメント、解説する。

【９】　教科書
必要時、授業の中で資料を配布する。

【10】　参考書
授業の中で紹介する。

【11】　備考(関連科目等)
看護学概論、専門基礎教育科目全般、看護の専門教育科目全般
2025DPとの関連：DP①・③・④・⑤

科目名(日本語)	**コミュニケーション論**	必修・選択区分	授業形態	開講学期・学年	単位数
科目名(英語)	Communication Theory	必修	講義	春学期 1年	1単位 15時間
科目責任者	井手芳美				
担当教員	井手芳美				
科目責任者 連絡先(教室)	科目責任者連絡先 井手芳美メールアドレス： ide-y@gd5.so-net.ne.jp				
オフィスアワー	講義開始１時間前、講義終了後30分は、大学構内の講師控え室。 もしくは、講義休憩中、講義室。				

【１】 授業方法(ALの要素、ICTの活用等)

１－１．アクティブラーニングについて

実施する

１－２．アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素

ディスカッション、ディベート
グループワーク
プレゼンテーション

２－１．双方向授業でのＩＣＴの活用について

活用しない

【２】 授業概要

健康科学の各分野において、対象理解やチーム医療に貢献するために必要とされる、コミュニケーションの基礎理論、カンファレンスの基礎知識を理解する。また、知識のみでなく、体験を通して相互作用、人間関係、リフレクション、コーチングの構造とスキル、アサーティブネスなど学修する。

【３】 到達目標

1. 保健医療分野、特に看護分野におけるコミュニケーションの重要性を説明できる。
2. 基本的なコーチングスキルとその効果･可能性を具体的に説明できる。
3. コミュニケーションスキルの一つであるコーチングが看護職間だけでなく、看護の対象や多職種との人間関係構築に有用であることを説明できる。
4. コーチングの構造を念頭に置き、かつ、学んだコーチングスキルを活用して、コーチングセッションを実習の場で実践することをイメージできる。
5. 体験的に習得したコーチングスキルを、日々の生活の中で実践できる。
6. 基本的なコミュニケーションスキルを体験的に学び、臨地実習で積極的に活用するための方法が説明できる。

【４】 ディプロマ・ポリシーとの関連

到達目標を達成することにより、以下の能力を身につけることにつながります。

１．自然科学を看護活動の根拠とし、実践に活かす基礎的な力を有している。

２．看護学の専門知識と技術を修得している。

３．他者の多様な価値観を理解し、尊重することができる。

４．看護職の社会的責任を理解し、看護実践にまつわる倫理的課題を感受する力と熟考する力、それらに基づく判断を行動に表す力を身につけている。

５．看護専門職として、リーダーシップおよびフォロワーシップを発揮し、チームの中で有機的に活動する資質を身につけている。

６．自ら学ぼうとする好奇心をもち、生涯にわたり自己研鑽する姿勢を身につける。

【5】　授業計画

	項目	内容および授業方法 予習・復習・キーワード	担当教員
1・2回	コミュニケーション基礎知識	内容： 担当者紹介、到達目標、授業の進め方、日程 コミュニケーションとは何か コミュニケーションの全体像 コーチングとは何か コーチングの歴史 看護におけるコーチングの効果と活用の理解(なぜ、医療現場にコミュニケーションが必要か) 授業方法：講義、ペアワーク、グループワーク、発表 予習・復習：講義毎に提示する キーワード：コーチング・コミュニケーション	井手芳美
3・4回	コミュニケーション基礎知識、コミュニケーションスキルとエクササイズ	内容： コーチングとティーチングの違い コミュニケーションスキルとは 聴く（アクティブリスニング）とは 非言語的コミュニケーションの効果 フィードバックとは 授業方法：講義、ペアワーク、グループワーク、発表 予習・復習：講義毎に提示する キーワード：聴く　非言語的コミュニケーション	井手芳美
5・6回	コミュニケーションスキルとエクササイズ	内容： コーチングの構造とスキルとは コーチング実践(ペア実践) 授業方法：講義、ペアワーク、グループワーク、発表 予習・復習：講義毎に提示する 授業に対する理解度を図るため、講義終了15分前までに小テストを行う。 キーワード：コーチングの構造	井手芳美
7・8回	コミュニケーションスキルとエクササイズ	内容： 課題の振り返り（レポート課題の提出） 前回の授業で行った小テストおよび課題の中の特徴的な見解や誤解についてコメントする。 承認とは 承認の種類と効果（医療現場における感情のマネジメント～看護師のアンガーマネジメント～） 効果的な質問とは 質問の種類と効果 授業方法：講義、ペアワーク、グループワーク、発表 予習・復習：講義毎に提示する レポート課題の提示：授業内容に応じてその都度提示 キーワード：承認、質問	井手芳美
9・10回	コミュニケーションタイプ分け	内容： タイプ分けとは 4つのタイプで自分を知る、相手を知る 4つのタイプの特徴のディスカッション 授業方法：講義、ペアワーク、グループワーク、発表 予習・復習：講義毎に提示する キーワード：コミュニケーションのタイプ	井手芳美
11・12回	コミュニケーションスキルとグループコーチング	内容： カンファレンスに活用できるグループコーチング実践（グループ） アサーティブとは リフレクションとは 授業方法：講義、ペアワーク、グループワーク、発表 予習・復習：講義毎に提示する レポート課題の提示：授業内容に応じてその都度提示 授業に対する理解度を図るため、講義終了15分前までに小テストをおこなう。 キーワード：グループコーチング、リフレクション、アサーティブ	井手芳美
13・14回	コミュニケーション総括	内容： 前回の授業で行った小テストの特徴的な見解や誤解についてコメントする。 本科目の総括 総復習（傾聴、聞く、承認などを意識しての）コーチングセッション（傾聴、承認、質問の、コーチングの構造とスキルの活用など） 授業方法：講義、ペアワーク、グループワーク、発表 予習・復習：講義毎に提示する キーワード：　コーチングの構造、コーチングセッション、	井手芳美

【6】　事前・事後学習とその時間

この授業は、学んだ知識･技術を習得するために毎回予習３０分程度、復習６０分程度を費やす。
事前学習は、必要時に事前課題を提示する。
事後学習は、毎回課題を出し、必ず課題に取り組んでその成果を全体で共有する。

【７】　評価方法・基準

評価課題レポートの提出40%。
および、以下の評価60%。
毎回の小テスト（毎回授業後に講義のポイントを小テストする）、
グループワークにおける貢献（グループワークにおける貢献とは、グループの代表として全体共有の場で発言する回数とする）、
毎回の課題レポートの提出

【８】　フィードバック方法

フィードバックは、次回の授業で、課題の中の特徴的な見解や誤解についてコメントする。

【９】　教科書

資料を授業時に配布する。

【10】　参考書

・伊藤守（2015）『コーチングの教科書』アスペクト
・伊藤守、鈴木善幸（2012）『図解コーチング流タイプ分けを知ってアプローチすると上手くいく』ディスカヴァー
・ジョセフ・オコナー、アンドレ・ラゲス著、杉井要一郎訳（2012）『コーチングのすべて』英治出版

【11】　備考(関連科目等)

心理学、看護入門実習Ⅰ、看護入門実習Ⅱ
2025DPとの関連：DP①・②・③・④・⑤

科目名(日本語)	**プレゼンテーション論**	必修・選択区分	授業形態	開講学期・学年	単位数
科目名(英語)	Presentaion Theory	必修	講義	春学期 1年	1単位 15時間
科目責任者	川嶋潤				
担当教員	川嶋潤				
科目責任者 連絡先(教室)	jun.kawashima@sci.toho-u.ac.jp				
オフィスアワー	授業間の休憩時間に、講義室にて質問を受ける　Moodleでの連絡も可能				

【１】　授業方法(ALの要素、ICTの活用等)

１－１．アクティブラーニングについて

実施する

１－２．アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素

ディスカッション、ディベート
グループワーク
プレゼンテーション

２－１．双方向授業でのＩＣＴの活用について

活用する

２－２．ＩＣＴを活用する場合、その具体的名称（クリッカー、タブレット端末等）

授業資料提供、課題提出、ワークシート提出、連絡、質問等でMoodleを使用する

【２】　授業概要

医療・福祉・政策の分野に貢献する人材の育成を目指し、個人対個人のやりとりのみでなく、多数に自分の考えや主張などを伝えるためのプレゼンテーションの技法を学修する。また、他者の意見を受けとり、その後自らの視点で問い直したり吟味したりする姿勢を持つなど、クリティークの基本を修得する。

【３】　到達目標

1.自分の主張を論理的に伝えることができる
2.表現の工夫やデータを効果的に活用して、わかりやすい資料を作ることができる
3.人前で発表することに対して、意欲的に取り組むことができる
4.自分や他者のプレゼンテーションを批判的に分析し、改善につなげることができる

【４】　ディプロマ・ポリシーとの関連

到達目標を達成することにより、以下の能力を身につけることにつながります。

１．自然科学を看護活動の根拠とし、実践に活かす基礎的な力を有している。

３．他者の多様な価値観を理解し、尊重することができる。

４．看護職の社会的責任を理解し、看護実践にまつわる倫理的課題を感受する力と熟考する力、それらに基づく判断を行動に表す力を身につけている。

５．看護専門職として、リーダーシップおよびフォロワーシップを発揮し、チームの中で有機的に活動する資質を身につけている。

６．自ら学ぼうとする好奇心をもち、生涯にわたり自己研鑽する姿勢を身につける。

【5】　授業計画

	項目	内容および授業方法 予習・復習・キーワード	担当教員
1-2	大学の学習で求められる表現／プレゼンテーションの基本理解／テーマの検討	内容：レポート・論文・プレゼンテーションで求められる表現力を理解する。プレゼンテーションの特性、目的、型、取り組み方を理解する。テーマの考え方を学び、プレゼンテーションのテーマを検討する。 授業方法：講義・個人ワーク・グループワーク 予習：Word・Excel・PowerPointの基本的な操作に慣れておく。（参考になるツールは教員が紹介する）。 復習：自分が考えたテーマについて調べ、理解を深めておく。ワークシートに進行状況や振り返りを記録する。 キーワード：アカデミック・スキル、チームビルド、 問い、思考法	川嶋潤
3-4	テーマの決定／構成（アウトライン）の検討／情報・データの収集と活用	内容：チームで話し合い、プレゼンテーションのテーマを決める。レポート・論文・プレゼンテーションの一般的な構成を学び、スライドの構成を検討する。スライドの分担を決める。テーマやアウトラインをもとに、情報を収集する。 授業方法：講義・個人ワーク・グループワーク 予習：自分が考えたテーマの候補をチーム内で発表できるように準備する。 復習：チームで分担を決め情報収集を進める。ワークシートに進行状況や振り返りを記録する。 キーワード：構成（アウトライン）、社会課題、情報収集、情報分析	川嶋潤
5-6	発表準備（スライド・発表原稿作成）	内容：チームで協力してスライド作成を進める。文章表現の基本を踏まえ、発表原稿を作成する。 授業方法：講義・個人ワーク・グループワーク 予習：スライド・発表原稿に掲載する内容や情報を検討しておく。 復習：チームで分担してスライド・発表原稿の作成を進める。ワークシートに進行状況や振り返りを記録する。 キーワード：見出し、レイアウト、デザイン、パラグラフ・ライティング	川嶋潤
7-8	話す・聴くスキルと態度／発表準備（スライド・発表原稿作成）／リハーサル	内容：効果的な話し方と、聴き手として批評・質問の仕方を学ぶ。スライド・発表原稿の作成・見直しを行い、完成をめざす。作業の進行状況によりリハーサルを行う。 授業方法：講義・個人ワーク・グループワーク 予習：スライド・発表原稿の作成を進めるとともに、意見を出し合ってブラッシュアップする。 復習：スライド・発表原稿を完成させ、リハーサルを行う。ワークシートに進行状況や振り返りを記録する。 キーワード：演出、発声法、スピードと間、質疑応答、インタラクティブ（双方向）	川嶋潤
9-10	プレゼンテーション実施(1)	内容：チームごとにプレゼンテーションを行う。教員によるフィードバックと学生間の相互批評を行う。 授業方法：プレゼンテーション・グループワーク等 予習：プレゼンテーションに向けて練習を行う。 復習：ワークシートに記録する（自分のチームのプレゼンテーションに対する自己評価。他チームのプレゼンテーションに対するフィードバックや感想）。 キーワード：論理的に主張を述べる、第一印象、チームワーク、質疑応答、相互批評	川嶋潤
11-12	プレゼンテーション実施(2)	内容：チームごとにプレゼンテーションを行う。教員によるフィードバックと学生間の相互批評を行う。 授業方法：プレゼンテーション・グループワーク等 予習：プレゼンテーションに向けて練習を行う。 復習：ワークシートに記録する（自分のチームのプレゼンテーションに対する自己評価。他チームのプレゼンテーションに対するフィードバックや感想）。 キーワード：論理的に主張を述べる、第一印象、チームワーク、質疑応答、相互批評	川嶋潤
13-14	プレゼンテーション実施(3)	内容：チームごとにプレゼンテーションを行う。教員によるフィードバックと学生間の相互批評を行う。 授業方法：プレゼンテーション・グループワーク等 予習：プレゼンテーションに向けて練習を行う。 復習：ワークシートに記録する（自分のチームのプレゼンテーションに対する自己評価。他チームのプレゼンテーションに対するフィードバックや感想）。 キーワード：論理的に主張を述べる、第一印象、チームワーク、質疑応答、相互批評	川嶋潤

【6】　事前・事後学習とその時間

この授業は、成果として、チーム別に課題（プレゼンテーション）を行うため、事前・事後学習はおもにその準備と振り返りに充てる。毎回、準備に２時間程度、振り返りに１時間程度を要する。
・授業計画に示すスケジュールに従い、事前・事後にプレゼンテーションの準備を進める
・授業後に、作業の進行状況や振り返りをワークシートに記録する（1～8回）
・プレゼンテーション後に、「自分のチームの自己評価」と「他チームに対するフィードバックや感想」をワークシートに記録する（9～14回）
＊授業の連絡やチームのメンバー間のやりとりなど、情報共有のため、Moodleを定期的に確認すること。
＊準備では、グループのメンバーで協力して行うこと。準備の進行状況に応じて、事前・事後学習で作業を行い補うこと。

【７】　評価方法・基準

課題（プレゼンテーション）・ワークシートにて評価する
【課題（プレゼンテーション）】50%
・プレゼンテーション（グループワーク）に、自主的・協力的に取り組んでいるか。
・スライドの表現に工夫が見られるか。発表原稿がわかりやすくまとめられているか。伝わる話し方ができているか。
【ワークシート】50%
・自己管理し計画的に作業を進めることができたか。
・自分のグループのプレゼンテーションに対し、具体的に自己評価できているか。
・他のグループのプレゼンテーションに対し、積極的に意見を述べることができているか。

【８】　フィードバック方法

・課題（プレゼンテーション）：発表後に講評を行う
・ワークシート：授業中に必要に応じてアドバイス・フォローする
・グループワーク：授業中に必要に応じてアドバイス・フォローする
・個別のフィードバックはMoodleでコメントする

【９】　教科書

資料をMoodleに公開する

【10】　参考書

特になし

【11】　備考(関連科目等)

看護研究入門、看護研究、トランスレーショナルへの挑戦Ⅰ（文章表現入門編）
2025DPとの関連：DP①・②・③・④・⑤

科目名(日本語)	**人間と生命**	必修・選択区分	授業形態	開講学期・学年	単位数
科目名(英語)	Human life and human diversity	選択	講義	春学期 1年	1単位 15時間
科目責任者	千葉康樹				
担当教員	千葉康樹、成末憲治、朝倉暁生、佐瀬真粧美、小板橋恵美子、原田健太郎				
科目責任者 連絡先(教室)	健康科学部　佐瀬：健康科学部棟3階研究室9（K319)、小板橋：同研究室5（K315） 千葉康樹（理学部5号館5階 5511　研究室）				
オフィスアワー	健康科学部（上記教員に連絡）水 13:00～13：40 千葉　火　13:00～14:00　水 15:00～16：00				

【１】　授業方法(ALの要素、ICTの活用等)

１－１．アクティブラーニングについて

実施する

１－２．アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素

ディスカッション、ディベート
グループワーク
実習、フィールドワーク

２－１．双方向授業でのＩＣＴの活用について

活用する

２－２．ＩＣＴを活用する場合、その具体的名称（クリッカー、タブレット端末等）

Moodle

【２】　授業概要

東邦大学では建学の精神である「自然・生命・人間」に則り、自他の生命（いのち）を尊重し、それを行動に移すことができる人になることが求められる。これからは自分たちが積極的にケアを与える側に回っていくことを認識し、自分にその能力があることを理解・検討することを目的としている。
この授業は2日間終日の集中授業として行う（9月4日、5日）。1日目は教室でのグループディスカッションを通して、「多様性ある社会」のあり方について考えを深める。また、「車いす体験」「アイマスク（視覚障がい）体験」「高齢者疑似体験」などの演習を行う。
2日目は「救命講習」を受け、全体の振り返りを行う。

【３】　到達目標

1) 自他の存在を尊重することについて、より深く多角的に考察し、その意味や方法を述べることができる。
2) 「生命」や「多様性ある社会」について考えを深め、自他の命を尊重した行動をとることができる。
3) 障がいのある人や高齢者について理解を深め、これらの人々と出会ったときにその支援ニーズをくみ取り、必要であれば（または要請された場合には）自分ができることを見極め、行動することができる。
4) 救命の基本的な知識およびスキルを習得し、必要であれば（または要請された場合には）自分ができることを見極め、行動することができる。

【４】　ディプロマ・ポリシーとの関連

到達目標を達成することにより、以下の能力を身につけることにつながります。

１．自然科学を看護活動の根拠とし、実践に活かす基礎的な力を有している。

２．看護学の専門知識と技術を修得している。

３．他者の多様な価値観を理解し、尊重することができる。

４．看護職の社会的責任を理解し、看護実践にまつわる倫理的課題を感受する力と熟考する力、それらに基づく判断を行動に表す力を身につけている。

５．看護専門職として、リーダーシップおよびフォロワーシップを発揮し、チームの中で有機的に活動する資質を身につけている。

【5】　授業計画

	項目	内容および授業方法 予習・復習・キーワード	担当教員
1	オリエンテーション・グループ作業のための準備	2日間の授業のオリエンテーションを行う。またグループ作業を進めていくためのグループ作りを行う。 【予習】コミュニケーション論の授業を振り返り、円滑なコミュニケーションのあり方を考えてくる。 【復習】特に無し 【キーワード】アイスブレイク	全員
2・3	多様性ある社会	「多様性ある社会」について考察を深め、多様性ある社会を構築していくために自分たちができることをグループディスカッションを通して明らかにしていく。 【予習】「多様性」について考えてくる。 【復習】ディスカッションを通しての気づきや考えをまとめておく。 【キーワード】多様性、社会、共生	全員
4・5・6	ハンディキャップの理解	車いす使用者や視覚障がい者、高齢者に関する基本的な知識および支援に必要な視点や技術を学び、車いす体験、アイマスク（視覚障がい）体験、高齢者疑似体験を通して理解を深める。また、これらの人々のニーズを考察するとともに、自分のできることを明らかにしていく。 【予習】特に無し。 【復習】体験や講義を通して得た気づきをまとめておく。 【キーワード】下肢障害、歩行障害（移動障害）、車いす、視覚障がい、高齢者、加齢現象	全員
7	1日目のまとめ	1日目の学びを共有する。 【予習】特に無し。 【復習】1日の体験を振り返り、自己洞察を行い、2日目の授業に臨む姿勢や目標を立てる。	全員
8	2日目の学びの設定	1日目の学びについて振り返り、教員からのフィードバックを受け、2日目の目標を設定する。 【予習】1日目の体験を各自で振り返り、2日目の授業の目標を立ててくる。 【復習】特に無し。	全員
9・10・11・1	救命救急講習（演習）	救命救急に関する知識および技術を獲得し、命を守る上での姿勢を身に付ける。本授業内では救命救急講習を受講し、検定を受けるため、それにふさわしい服装・態度で臨むことを求める。 【予習】特に無し。 【復習】救命救急講習での気づきをまとめておく。 【キーワード】救命、救急、応急手当、AED、蘇生	全員
13	人間と生命	「人間と生命」をテーマにグループディスカッションを行い、自他の存在や自他の命を尊重することについての考察を深める。 【予習】これまでの授業の内容と、そこで得た気づきを整理してくる。 【復習】ディスカッションでの気づきをまとめておく。 【キーワード】自他、尊重	全員
14	まとめ	2日間の学びを振り返り、教員からのフィードバックを受ける。その上で、これから自分が支援者の一人として、また同じ人として、社会において何をどう行動するかについて自己洞察を深める。また、2日間の体験を第三者に伝えるための準備を行う。 【予習】特に無し。 【復習】2日間の体験をまとめる。 【キーワード】人間、生命、多様性、社会、命、健康、共生	全員

【6】　事前・事後学習とその時間

事前・事後学習は3学部共通になる。
事前学習：本科目を受講するための準備として、課題（資料学習）を提示するので、取り組むこと。概ね2時間の予習時間を必要とする。
事後学習：本科目で学んだことについて、第三者（家族や友人など）に披露し、そのやりとりを盛り込んでレポートする（最終レポートとなる）。5時間程度の時間を想定している。

【7】　評価方法・基準

2日間の授業の取り組み状況70%（事前学習、ディスカッションや協働学習、演習への参加度合い、１日目の振り返り）、最終レポート30%

【8】　フィードバック方法

グループ活動に関しては、その都度担当教員よりフィードバックを行う。2日目の授業開始時には1日目を振り返ってのフィードバック、授業終了時には全体活動に関してのフィードバックを行う。

【9】　教科書

特に指定しない。

【10】　参考書

特に指定しないが、障害のある人や高齢者が著した文献（体験記など）や記事などに積極的に触れて欲しい。なお、必要となる教材は授業内で配布する。

【11】　備考(関連科目等)

授業の内容上、習志野キャンパス全体での履修人数の上限が決められている。そのため、希望者全員が履修できないこともある。
関連科目：コミュニケーション論、健康科学概論。また語学も多様性を理解するのに役立つ。
2025DPとの関連：DP①・②・③・④・⑤

科目名(日本語)	リベラルアーツ・フォーラム	必修・選択区分	授業形態	開講学期・学年	単位数
科目名(英語)	Liberal Arts Forum	選択	講義	春学期 1年	1単位 15時間
科目責任者	千葉康樹				
担当教員	【運営】山口哲生(医学部）、吉朝加奈(看護学部)、塩野直之(理学部）、千葉康樹(共通教育機構)、原田健太郎（共通教育機構） 【講義】道川武紘(医学部）、夏原和美(看護学部)、李巍(薬学部）、脇司(理学部)、佐瀬真粧美(健康科学部)				
科目責任者 連絡先(教室)	千葉康樹（理学部5号館5階 5511　研究室） 【この科目のメールアドレス】lib-forum@ml.toho-u.jp 各教員への連絡方法として、Moodleのメッセージ機能を活用すること。Moodleコース上でメールアドレスを公開することもある。				
オフィスアワー	千葉（科目責任者）のオフィスアワー　火　13:00～14:00　水　15:00～16:00				

【１】　授業方法(ALの要素、ICTの活用等)

１－１．アクティブラーニングについて

実施する

１－２．アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素

ＰＢＬ（課題解決型学習）
ディスカッション、ディベート
グループワーク
プレゼンテーション

２－１．双方向授業でのＩＣＴの活用について

活用する

２－２．ＩＣＴを活用する場合、その具体的名称（クリッカー、タブレット端末等）

Moodleを使用する。

【２】　授業概要

統一テーマ「地球環境と21世紀のウェルビーイング」のもと、医学・薬学・理学・看護学・健康科学等の自然科学の諸分野において、きわめて重要かつ興味深いトピックを紹介し、それらについてリサーチ、考察、議論を行っていきます。5学部の学生が一同に履修する数少ない科目であり、キャンパス別の複数学部合同授業（1回）のほか、5学部合同授業を8月に実施し、学部間の交流を深めます。

本科目はオンラインによる遠隔授業（オンデマンド授業）と、対面授業の2つの方式を併用して実施します。オンデマンド授業については、一定の視聴期間を設け、トピックごとに課題の提出があります。対面授業は、①６月にキャンパスごとの複数学部合同授業を実施し（習志野キャンパスは6月14日（土））、②8月6日（水）に習志野キャンパスで５学部合同の授業を行います。遠隔授業・対面授業のいずれについても、詳細は履修登録期間終了後にMoodleで連絡しますので、必ず確認するようにしてください。

【３】　到達目標

21世紀を生きる私たちにとって最重要な諸課題―心身の健康、食、環境、医療、多様性、共生社会―に関する知見を身につけるとともに、諸課題への向き合い方の議論を通じて、諸課題について自ら言葉で語ることができるようになること、21世紀社会で生きていく自らのあり方をイメージできるようになることを目標とします。

・扱われる各トピックスについて、正確な理解に基づいた自らの課題意識、課題解決のためのアプローチ、将来的展望について、適切な言葉で表現することができる。
・扱われるトピックスについて、他者との意見交換を通じて、よりよい議論づくりに貢献できる。

【４】　ディプロマ・ポリシーとの関連

到達目標を達成することにより、以下の能力を身につけることにつながります。

１．自然科学を看護活動の根拠とし、実践に活かす基礎的な力を有している。

３．他者の多様な価値観を理解し、尊重することができる。

４．看護職の社会的責任を理解し、看護実践にまつわる倫理的課題を感受する力と熟考する力、それらに基づく判断を行動に表す力を身につけている。

【５】　授業計画

	項目	内容および授業方法 予習・復習・キーワード	担当教員
1	人が持ち込んだ野生生物の感染症（オンデマンド授業）	課題提示	脇司（理学部）
2	人が持ち込んだ野生生物の感染症（オンデマンド授業）	提出課題へのフィードバック	脇司（理学部）
3	超高齢社会の中で「共に生きる」を考えてみる（対面授業）6月14日	課題提示	佐瀬真粧美（健康科学部）
4	超高齢社会の中で「共に生きる」を考えてみる（対面授業）6月14日　習志野キャンパス	ディスカッション	佐瀬真粧美（健康科学部）
5	地球環境と食の限界：水俣病の教訓を未来に活かす（オンデマンド授業）	提出提示	夏原和美（看護学部）
6	地球環境と食の限界：水俣病の教訓を未来に活かす（オンデマンド授業）	オンデマンドでのディスカッション	夏原和美（看護学部）
7	統合医療における漢方の役割（オンデマンド授業）	課題提示	李巍（薬学部）
8	統合医療における漢方の役割（オンデマンド授業）	提出課題へのフィードバック	李巍（薬学部）
9	環境汚染とその健康影響（対面授業）8月6日　習志野キャンパス	事前課題へのフィードバック	道川武紘（医学部）
10	環境汚染とその健康影響（対面授業）8月6日　習志野キャンパス	ディスカッション	道川武紘（医学部）
11	私たちの環境と健康（対面授業）8月6日　習志野キャンパス	教員たちがこれまでの授業をレビューする⇒論点の提示	全教員
12	私たちの環境と健康（対面授業）8月6日　習志野キャンパス	「自身の関心」に沿ってグループ作成→新グループ　　考察の時間	全教員
13	私たちの環境と健康（対面授業）8月6日　習志野キャンパス	グループディスカッション	全教員
14	私たちの環境と健康（対面授業）8月6日　習志野キャンパス	グループでの発表、まとめ	全教員

【６】　事前・事後学習とその時間

【事前学習】 50分：対面授業の前に提示される学習内容についてリサーチを行うこと。
【事後学習】100分：オンデマンド講義で出る課題のためのリサーチと考察。

【７】　評価方法・基準

・提出課題（40%）：4つの課題提出。1つ10%
・グループワーク・プレゼンテーション（30%）：2度の対面授業でのグループワークへおよびプレゼンテーションへの貢献と参加を評価します。
・最終レポート（30%）：最終レポートでは授業で扱ったトピックのひとつについて、論じてもらいます。

【８】　フィードバック方法

各トピックで提出された課題について、翌回の授業でフィードバックをします。

【９】　教科書

なし。資料はすべてMoodleで配信します。対面授業時は授業で配布します。

【10】　参考書

特になし。

【11】　備考(関連科目等)

本科目はオンラインによる遠隔授業（オンデマンド授業）と、対面授業の2つの方式を併用して実施します。オンデマンド授業については、一定の視聴期間を設け、トピックごとに課題の提出があります。対面授業は、①６月にキャンパスごとの複数学部合同授業を実施し（習志野キャンパスは6月14日（土））、②8月6日（水）に習志野キャンパスで５学部合同の授業を行います。遠隔授業・対面授業のいずれについても、詳細は履修登録期間終了後にMoodleで連絡しますので、必ず確認するようにしてください。
またこの授業は、1学部あたり20名までの履修制限があります。履修希望が多い場合は抽選を行いますのでご了承ください。
2025DPとの関連：DP①・②・③・④・⑤

科目名(日本語)	**千葉県の地域医療**	必修・選択区分	授業形態	開講学期・学年	単位数
科目名(英語)	Local Industory in Chiba	選択	講義	春学期 1年	1単位 15時間
科目責任者	小板橋恵美子				
担当教員	小板橋恵美子・佐瀬真粧美・島村敦子・原田慶子				
科目責任者 連絡先(教室)	小板橋恵美子（emiko.koitabashi@hs.toho-u.ac.jp、K315）				
オフィスアワー	授業開講日の休み時間帯。K315研究室。 このほか、メール（emiko.koitabashi@hs.toho-u.ac.jp）、Moodleのお知らせ機能でも受け付けますので、活用してください。				

【１】　授業方法(ALの要素、ICTの活用等)

１－１．アクティブラーニングについて

実施する

１－２．アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素

ディスカッション、ディベート
グループワーク
プレゼンテーション

２－１．双方向授業でのＩＣＴの活用について

活用する

２－２．ＩＣＴを活用する場合、その具体的名称（クリッカー、タブレット端末等）

Moodleを使用。

【２】　授業概要

千葉県の地理や歴史、保健医療福祉に関する社会資源の実情について学び、人々のニーズに応える地域貢献や地域の医療についてグループワークおよびプレゼンテーション・ディスカッションを通してその見識を深める。千葉県の実情を題材とし、地域医療のあり方およびそれを支える看護のあり方について考える契機とする。

【３】　到達目標

1) 我が国および千葉県の保健・医療・福祉の実情を述べることができる。
2) 千葉県で暮らしている人々の健康推進に関する施策・サービスについて述べることができる。
3) 千葉県の保健・医療・福祉に関する情報から、人々の幸福を支援することについて考察することができる。

【４】　ディプロマ・ポリシーとの関連

到達目標を達成することにより、以下の能力を身につけることにつながります。

１．自然科学を看護活動の根拠とし、実践に活かす基礎的な力を有している。

２．看護学の専門知識と技術を修得している。

３．他者の多様な価値観を理解し、尊重することができる。

５．看護専門職として、リーダーシップおよびフォロワーシップを発揮し、チームの中で有機的に活動する資質を身につけている。

【5】　授業計画

	項目	内容および授業方法 予習・復習・キーワード	担当教員
1	オリエンテーション／人々の健康・生活①	講義・自己紹介（教員・学生）・討議 討議：学生間の自己紹介を兼ね、健康や千葉県の印象を発表し合う、我が国において健康・生活を支えるものについて、また幸福についてペア討議する。 講義：統計情報からみる我が国の健康状況を把握する。 キーワード：健康、疾病、障がい、生活、幸福、人口動態・人口静態、患者統計、社会保障費、医療従事者の状況	小板橋恵美子、佐瀬真粧美、島村敦子
2	親子を支える	講義 親子の健康に関する指標とその動向を把握する。 事後学習：千葉県の周産期における医療体制と各市町村における出生状況を調べる キーワード：周産期医療、乳児医療、乳幼児医療費助成制度	原田慶子
3	医療を受ける・医療機関で看護を受ける	講義 我が国における医療や看護サービスに関する基礎知識を学び、医療や看護の提供体制およびその実情を把握する。 事前学習：我が国の医療体制について調べてくる。 事後学習：現在の我が国で医療を受ける上での課題を考察する。 キーワード：医療機関・医療サービス、医療保険制度、医療計画、医療圏	佐瀬真粧美
4	介護を受ける・在宅で看護を受ける	講義 我が国における介護や訪問看護に関する基礎知識を学び、在宅での療養支援体制およびその実情を把握する。 事前学習：我が国の介護サービス提供体制について調べてくる。 事後学習：現在の我が国で在宅療養をする上での課題を考察する キーワード：介護保険サービス、介護保険法、地域包括ケアシステム、介護保険施設、訪問看護ステーション	島村敦子
5	保健・福祉サービスを利用する	講義 我が国における保健･福祉に関する基礎知識を学び、保健･福祉サービスの提供体制およびその実情を把握する。 小テストを実施する（これまでの講義を踏まえた知識の確認テスト）。 事前学習：我が国の保健サービスの提供体制について調べてくる。 事後学習：現在の我が国で健康的な生活を送る上での課題について考察する。 キーワード：生活を支える保健・福祉サービス、地域保健法、保健所、市町村、社会福祉協議会	小板橋恵美子
6	千葉県の医療・保健・福祉①	グループワーク①　グループメンバー・テーマの決定、調査スケジュールの検討 この回からのグループワークでは、千葉県の保健・医療・福祉に関する現状を調査し、千葉県で幸せな生活を送ることをメインテーマに検討する。 ・グループワークのメンバーを決定し、今後授業の目標達成に向けてチームワークを発揮できるよう、各グループで何らかのワークやアクティビティを考え実施する。 ・調査に当たっては各グループでサブテーマを設定する。 ・この回を入れて5回のグループワークにおける調査・検討のスケジューリングを行い、効率的効果的なワークができるようにする。 ・調査に関しては、千葉県全域を対象としても、千葉県内であれば特定の地域を対象にしても可とする。 キーワード：地域医療、保健サービス、福祉サービス、各種社会資源、健康指標、健康に関する自治体の施策や計画 事前学習：チームワークの醸成につながるアクティビティを調べる。 事後課題：円滑なグループワークのあり方、その方法について考察する。	小板橋恵美子、佐瀬真粧美、島村敦子
7～10	千葉県の医療・保健・福祉②③④⑤	グループワーク②～⑤ グループワーク①において決定したテーマおよび調査のスケジュールに沿ってワークを進める。なお、中間で把握された情報や進捗状況等に関する報告を行う。 キーワード：グループワーク①と同様。 事前学習：前回決定したテーマをめぐる課題をイメージをする。 事後課題：発表の準備に入るうえで不足している調査や事項に取り組む。	小板橋恵美子、佐瀬真粧美、島村敦子
11	発表・討議①	発表の準備 発表方法の決定、発表に使用する媒体の作成、リハーサルを行う。 事前学習：発表のイメージ（方法、媒体、役割分担など）を形成する。 事後学習：グループワークにより決定した発表内容に関して十分に理解しておく。	小板橋恵美子、佐瀬真粧美、島村敦子
12・13	発表・討議②③	発表・ディスカッション①② 各グループによる「千葉県の医療･保健･福祉」に関する調査結果および千葉県で幸せな生活を送ることに関する検討結果の発表および発表内容に関する質疑応答を行い、見識や考察を深める。 ※全体ディスカッションのテーマを念頭に置きながら、発表を聞き、ディスカッションに参加すること。 事前学習：自分のグループの発表内容について十分に理解してくる（どのような質問があっても答えられるようにしておく）。 事後学習：全体ディスカッションのテーマに関する自分の見解をまとめておく	小板橋恵美子、佐瀬真粧美、島村敦子

14	まとめ	全体ディスカッション テーマ：千葉県で生まれ、育ち、最期を幸せに生きていくことを支援するにはこれから何が必要か 事前学習：各グループの発表内容を整理する。 事後学習（課題－レポート）：全体ディスカッションの結果および授業全体を振り返り、①健康・生活を支えるものについて、また②幸福とは何かを述べるとともに、③千葉県の地域医療の課題について考察する。	小板橋恵美子、佐瀬真粧美、島村敦子

【６】　事前・事後学習とその時間

【事前学習】
授業でのワークやディスカッションに必要な知識･情報を収集し、考えをまとめた上で授業に参加する。1時間以上の事前学習が必要となる。
【事後学習】
授業での学修やワークの考察や課題の整理を行う。最低１時間程度の学習が必要になる。

【７】　評価方法・基準

評価：小テスト15%、発表25%、課題レポート60%

【８】　フィードバック方法

フィードバックは授業時、またMoodleのフィードバックや質問コーナーで行う。

【９】　教科書

なし。適宜資料配布。

【10】　参考書

国民衛生の動向（最新版）、このほか講義の中で適宜紹介する。

【11】　備考(関連科目等)

・情報収集や分析を行う授業の日は、ノートPC、タブレット端末などを用意してください。また、メディアセンターでのPCの一時貸し出しを利用してくださっても可です。なお、アプリケーションソフトウエアのスキルは必要ありません。
・関連科目：コミュニケーション論、プレゼンテーション論、看護入門実習Ⅱ、コミュニティヘルス看護概論、保健師養成教育課程科目など
・授業の進捗により内容を変更することがあります。適宜案内します。
2025DPとの関連：DP①・②・④・⑤

科目名(日本語)	**スポーツ健康科学**	必修・選択区分	授業形態	開講学期・学年	単位数
科目名(英語)	Health and Sports Science	選択	講義	春学期 1年	1単位 15時間
科目責任者	成末憲治				
担当教員	成末憲治				
科目責任者 連絡先(教室)	成末憲治（薬学部E館E302教室） narusue@phar.toho-u.ac.jp（件名に学部・学籍番号を明記すること）				
オフィスアワー	月曜日～金曜日9:00～12:00、薬学部E館E302教室、Moodleでの連絡も可能				

【１】　授業方法(ALの要素、ICTの活用等)

１－１．アクティブラーニングについて

実施する

１－２．アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素

その他

「その他」の内容

サーキットトレーニング体験、心拍数測定

２－１．双方向授業でのＩＣＴの活用について

活用する

２－２．ＩＣＴを活用する場合、その具体的名称（クリッカー、タブレット端末等）

Moodle

【２】　授業概要

スポーツ健康科学は、健康とスポーツについて探求する学問である。人間の健康を維持･増進するためのスポーツのあり方、健康とスポーツに関わる基本的な理論･概念、身体に負担のかからない運動や効果的なトレーニングの方法、社会的意義などを学ぶ。さらに、身近な運動を人体の構造や生理学的観点から分析し、日常生活における運動について考察する。
なお、本科目は公衆衛生看護学を学習する上での基礎となる科目として位置づけている。

【３】　到達目標

1.スポーツの意味や価値について説明できる。
2.健康について理解し、健康増進のための手段を考えることができる。
3.身体が動くメカニズムについて具体的な専門用語を用いて説明できる。
4.代表的な骨格筋および関節の名称を挙げ、位置を示すことができる。
5.スポーツ活動中に発生する傷害とその応急処置を説明できる。
6.疾患と運動療法の関係について説明できる。
7.運動する上で必要な栄養素について専門用語を用いて説明できる。
8.アンチドーピング活動について説明できる。

【４】　ディプロマ・ポリシーとの関連

到達目標を達成することにより、以下の能力を身につけることにつながります。

１．自然科学を看護活動の根拠とし、実践に活かす基礎的な力を有している。

２．看護学の専門知識と技術を修得している。

５．看護専門職として、リーダーシップおよびフォロワーシップを発揮し、チームの中で有機的に活動する資質を身につけている。

【５】　授業計画

	項目	内容および授業方法 予習・復習・キーワード	担当教員
1・2回	スポーツと健康(1)	授業のオリエンテーション、スポーツ健康科学の分野、スポーツと健康、スポーツ活動中の熱中症予防について理解する。 講義 予習：スポーツと健康についての新聞、書籍に目を通す。 復習：授業内容の書かれたシラバスに目を通し、講義に対する見通しを明確にする。 キーワード：スポーツ、健康、熱中症	成末憲治
3・4回	スポーツと健康(2)	運動と水分・塩分の補給、身体活動と健康、体力の基準、国民健康づくり 講義、小テスト・課題レポート 予習：スポーツと健康についての新聞、書籍に目を通す。 復習：講義資料を見直して小テスト・課題レポートを書く。 キーワード：スポーツ、身体活動、体力、運動強度、心拍数、METS、健康日本21	成末憲治
5・6回	運動の科学(1)	国民健康づくり（続き）、身体が動くメカニズム、筋肉の収縮様式の分類 講義 予習：身体を動かすには何が必要なのかを調べる。 復習：本時間において学んだことをノートにまとめる。 キーワード：生活習慣病、骨格筋、筋収縮、筋線維	成末憲治
7・8回	運動の科学(2)	関節動作、関節の種類と例、関節の運動、スポーツ動作 講義 予習：身体を動かすには何が必要なのかを調べる。 復習：本時間において学んだことをノートにまとめる。 キーワード：関節の運動、球関節、走る動作	成末憲治
9・10回	スポーツ傷害	スポーツによるけが、スポーツ外傷・障害、応急処置 講義、小テスト・課題レポート 予習：スポーツとけがについての新聞、書籍に目を通す。 復習：講義資料を見直して小テスト・課題レポートを書く。 キーワード：捻挫、疲労骨折、RICE処置、一次救命処置	成末憲治
11・12回	スポーツと栄養	推定エネルギー必要量、栄養素の役割、食品の機能、健康な身体を作るための食事 講義 予習：アスリートの食事についての新聞、書籍に目を通す。 復習：本時間において学んだことをノートにまとめる。 キーワード：日本人の食事摂取基準、栄養素、ミネラル、ビタミン	成末憲治
13・14回	スポーツとくすり、トレーニング	薬物乱用、スポーツ倫理、トレーニングの効果、体力要素 講義、小テスト・課題レポート 予習：ドーピングについての新聞、書籍に目を通す。 復習：講義資料を見直して小テスト・課題レポートを書く。 キーワード：ドーピング、WADA、薬物動態、サーキットトレーニング、心拍数測定	成末憲治

【６】　事前・事後学習とその時間

準備学習：授業のテーマに沿ってスポーツや健康についての新聞、書籍などを事前に調べる（予習120分）。
事後学習：授業で学んだことをノートにまとめ記憶に定着させる（復習60分）。授業終了後に示す小テスト・課題レポートを講義資料に基づきまとめること。

【７】　評価方法・基準

定期試験（70%）、小テスト・課題レポート（30%）

【８】　フィードバック方法

小テスト実施後、授業内で解説を行う。
授業中に課題レポートに関わる特徴的な見解についてコメントする。

【９】　教科書

講義資料、小テスト・課題レポートはMoodleに掲載する。

【10】　参考書

人体の構造と機能[1]解剖生理学第11版　坂井建雄/岡田隆夫/宇賀貴紀　医学書院
人体の構造と機能[3]栄養学第13版　小野章史/倉貫早智/五味郁子/柴田みち/杉山みち子/鈴木志保子/外山健二/中村丁次　医学書院

【11】　備考(関連科目等)

スポーツ健康科学実技、人体の構造と機能Ⅰ～Ⅲ、臨床栄養学
2025DPとの関連：DP①・②・④

科目名(日本語)	**スポーツ健康科学実技：テニス（開講せず）**	必修・選択区分	授業形態	開講学期・学年	単位数
科目名(英語)	Health and Sports Science Exercise	選択	演習	春学期 1年	1単位 30時間
科目責任者	江川潤				
担当教員	江川潤				
科目責任者 連絡先(教室)	担当授業内にて、連絡方法を掲示する				
オフィスアワー	火曜日　13：00～13：45　スポーツアリーナ教員室				

【１】　授業方法(ALの要素、ICTの活用等)

１－１．アクティブラーニングについて

実施する

１－２．アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素

グループワーク
実習、フィールドワーク

２－１．双方向授業でのＩＣＴの活用について

活用しない

【２】　授業概要

スポーツ健康科学は、健康とスポーツについて探究する学問である。本科目は、スポーツ健康科学の基本的な理論･概念、身体に負担のかからない運動や効果的なトレーニングの方法、社会的意義などについて体験を通して学ぶ。さらに、運動による身体の変化を分析し、人間の身体についての理解を深める。
なお、本科目は公衆衛生看護活動を実践する知識・技術を獲得する上での基礎的な科目として位置づけている。

【３】　到達目標

授業当初においては、テニスの基礎的な動き、グランドストロークを身に付け、種目のルールを覚えられるようにする。その後、身に付けたグランドストロークを活かしてラリーが出来ることを目指したい。終盤にかけては、身に付けたルールを用いて学生が主体となりチーム戦の運営が出来るようにする。
1.テニスのルールを説明することができる。
2.基本的技術（フォアハンドストローク、バックハンドストローク、サーブ、ボレーなど）を身につけることができる。
3.試合運営（審判・得点・時間）をすることができる。
4.学生間で積極的にコミュニケーションを図ることができる。
5.自分のプレーを振り返り、課題点や克服できた点を説明できる。
6.運動が人々の健康生活に及ぼす影響について説明できる。

【４】　ディプロマ・ポリシーとの関連

到達目標を達成することにより、以下の能力を身につけることにつながります。

１．自然科学を看護活動の根拠とし、実践に活かす基礎的な力を有している。

３．他者の多様な価値観を理解し、尊重することができる。

５．看護専門職として、リーダーシップおよびフォロワーシップを発揮し、チームの中で有機的に活動する資質を身につけている。

６．自ら学ぼうとする好奇心をもち、生涯にわたり自己研鑽する姿勢を身につける。

【５】　授業計画

	項目	内容および授業方法 予習・復習・キーワード	担当教員
1回	ガイダンス	種目選択や履修カードの作成を行った後、履修上の注意点や授業計画についての説明を行う。（実技は行わない。） 講義 予習：自分の受講したい種目を決定する。 復習：授業内容の書かれたシラバスに目を通し、実技に対する見通しを明確にする。 キーワード：種目選択、履修カード	湯田秀行 中沢克江 澁川賢一 江川潤
2･3回	テニス　実技1	内容：テニスの歴史やルールの理解・用具（ラケット、ガット）の解説・ストローク練習を通した現時点における状態の把握 実技：基礎的なストローク（フォアハンドとバックハンド）および簡易ゲーム 予習：テニスのルールや基本的なストロークの打ち方を文献や書物などから理解しておく。 復習：プレーなどの達成度と課題の両面を振り返る。 キーワード：ルール・安全対策	江川潤
4･5回	テニス　実技2	実技内容：基礎的なストローク（フォアハンドとバックハンド）および簡易ゲーム 予習：前回の課題を克服するための方法を考えるとともに本時間における目標を設定する。 復習：プレーなどの達成度と課題の両面を振り返る。 キーワード：基本ストロークの打ち方	江川潤
6･7回	テニス　実技3	実技実技：基礎的なストローク（フォアハンドとバックハンド）および簡易ゲーム 予習：前回の課題を克服するための方法を考えるとともに本時間における目標を設定する。 復習：プレーなどの達成度と課題の両面を振り返る。 キーワード：基本ストロークの打ち方およびシングルスゲームの進め方	江川潤
8･9回	テニス　実技4	実技内容：サービスの打ち方とルールを理解しゲームに生かす。 予習：前回の課題を克服するための方法を考えるとともに本時間における目標を設定する。 復習：プレーなどの達成度と課題の両面を振り返る。 キーワード：サーブの打ち方およびシングルスゲームの進め方	江川潤
10･11回	テニス　実技5	実技内容：サービスの打ち方とルールを理解しシングルスに生かす。 予習：前回の課題を克服するための方法を考えるとともに本時間における目標を設定する。 復習：プレーなどの達成度と課題の両面を振り返る。 キーワード：サーブの打ち方およびシングルスゲームの進め方	江川潤
12･13回	テニス　実技6	実技内容：基礎練習（フォア、バック）、ボレー、基礎練習を生かした簡易ゲーム 予習：前回の課題を克服するための方法を考えるとともに本時間における目標を設定する。 復習：プレーなどの達成度と課題の両面を振り返る。 キーワード：ボレー	江川潤
14･15回	テニス　実技7	実技内容：基礎練習（フォア、バック）、ボレー、基礎練習を生かした簡易ゲーム 予習：前回の課題を克服するための方法を考えるとともに本時間における目標を設定する。 復習：プレーなどの達成度と課題の両面を振り返る。 キーワード：ボレー	江川潤
16･17回	テニス　実技8	実技内容：ボレー(ポーチ)、ハイボレー、ローボレー基礎練習を活かした簡易ゲーム 予習：前回の課題を克服するための方法を考えるとともに本時間における目標を設定する。 復習：プレーなどの達成度と課題の両面を振り返る。 キーワード：ボレー（ポーチ）	江川潤
18･19回	テニス　実技9	実技内容：基礎練習・スマッシュ・シングルスゲーム 予習：前回の課題を克服するための方法を考えるとともに本時間における目標を設定する。 復習：プレーなどの達成度と課題の両面を振り返る。 キーワード：スマッシュ	江川潤
20･21回	テニス　実技10	実技内容：リーグ戦その１（チーム戦）1チーム4人　4チーム 予習：前回の課題を克服するための方法を考えるとともに本時間における目標を設定する。 復習：プレーなどの達成度と課題の両面を振り返る。 キーワード：リーグ戦	江川潤
22･23回	テニス　実技11	実技内容：リーグ戦その２（チーム戦）1チーム4人　4チーム 予習：前回の課題を克服するための方法を考えるとともに本時間における目標を設定する。 復習：プレーなどの達成度と課題の両面を振り返る。 キーワード：リーグ戦	江川潤
24･25回	テニス　実技12	実技内容：リーグ戦ファイナルその１（学生の自主運営） 予習：前回の課題を克服するための方法を考えるとともに本時間における目標を設定する。 復習：プレーなどの達成度と課題の両面を振り返る。 キーワード：リーグ戦（自主運営）	江川潤

26･27	まとめ	遠隔授業にて授業のまとめを実施する。 授業のまとめとし自分自身における ①自身の課題（様々なストロークや動き）にどのように向き合い改善したのかを記述し、目標に対してのフィードバックをおこなう。 ②今後の看護学習や臨床現場に身体活動が及ぼす内容を自分の考えとして整理する。	江川潤

【６】　事前・事後学習とその時間

準備学習：この授業は、予習としてテニスのルールや基本的なストローク、また試合におけるフォーメーションや戦術について文献や映像を見て理解やイメージを持つことに0.5時間程度、また、復習としてその時間におけるプレーなどの達成度と課題の両面を振り返る作業に0.5時間程度を費やします。
学習上の留意点：スポーツではケガを負ったり、負わせたりする潜在的な危険性があることを承諾すること。（危険引き受けの法理）

【７】　評価方法・基準

授業参加度(積極的、臨む姿勢など)60%、テニスにおける身体的表現（技術）20%、技術の理解度および理解しようとする積極性、協力して授業を進める協調性など10%、到達目標に対する理解度を評価するための課題レポート10%を基本に総合的に評価する。

【８】　フィードバック方法

毎回の授業開始時において、前回までの動きの振り返りと改善点、授業目的に対しての講評及び掲示をおこなう。

【９】　教科書

資料は必要に応じて授業時に配布する。

【10】　参考書

テニス指導教本Ⅰ　日本テニス協会　大修館
JTA TENNIS RULE BOOK 2016

【11】　備考(関連科目等)

スポーツ健康科学、人体の構造と機能Ⅰ～Ⅲ、臨床栄養学

科目名(日本語)	**スポーツ健康科学実技：卓球**	必修・選択区分	授業形態	開講学期・学年	単位数
科目名(英語)	Health and Sports Science Exercise	選択	演習	春学期 1年	1単位 30時間
科目責任者	西園聡史				
担当教員	西園　聡史				
科目責任者 連絡先(教室)	西園　聡史（zononishi53@hotmail.co.jp）				
オフィスアワー	火曜日　10:35～10:50　スポーツアリーナ教員室				

【１】　授業方法(ALの要素、ICTの活用等)

１－１．アクティブラーニングについて
実施する

１－２．アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素
実習、フィールドワーク

２－１．双方向授業でのＩＣＴの活用について
活用する

２－２．ＩＣＴを活用する場合、その具体的名称（クリッカー、タブレット端末等）
Moodleを活用

【２】　授業概要

スポーツ健康科学は、健康とスポーツについて探究する学問である。本科目は、スポーツ健康科学の基本的な理論･概念、身体に負担のかからない運動や効果的なトレーニングの方法、社会的意義などについて体験を通して学ぶ。さらに、運動による身体の変化を分析し、人間の身体についての理解を深める。
なお、本科目は公衆衛生看護活動を実践する知識・技術を獲得する上での基礎的な科目として位置づけている。

【３】　到達目標

1.卓球の特性を説明できる。
2.卓球の基本技術(フォアストローク、バックストローク、サービス)を習得する。
3.卓球のルールやマナーを説明できる。
4.試合運営（審判・得点・時間）をすることができる。
5.他学部・他学科の学生間で積極的にコミュニケーションを図り、協調性を発揮することができる。
6.自分のプレーを振り返り、課題点や改善できた点を説明できる。
7.運動が人々の健康生活に及ぼす影響について理解し、説明できる。

【４】　ディプロマ・ポリシーとの関連

到達目標を達成することにより、以下の能力を身につけることにつながります。

１．自然科学を看護活動の根拠とし、実践に活かす基礎的な力を有している。

３．他者の多様な価値観を理解し、尊重することができる。

５．看護専門職として、リーダーシップおよびフォロワーシップを発揮し、チームの中で有機的に活動する資質を身につけている。

６．自ら学ぼうとする好奇心をもち、生涯にわたり自己研鑽する姿勢を身につける。

【５】　授業計画

	項目	内容および授業方法 予習・復習・キーワード	担当教員
１回	ガイダンス	種目選択や履修カードの作成を行った後、履修上の注意点や授業計画についての説明を行う。（実技は行わない。） 講義 予習：自分の受講したい種目を決定する。 復習：授業内容の書かれたシラバスに目を通し、実技に対する見通しを明確にする。 キーワード：種目選択、履修カー史	湯田秀行　澁 川賢一　西園 聡史　高梨美 奈
２・３回	基本技術練習	用具の解説、基本技術練習、ルールの理解、ゲーム 実技 予習：自分の受講する種目のルールを文献や書物などから理解しておく。 復習：プレーなどの達成度と課題の両面を振り返る。 キーワード：ルール・安全対策	中沢克江
４・５回	基本技術練習　ゲーム：シングルス	基本技術練習、基本技術を活かしたゲーム 実技 予習：前回の課題を改善するための方法を考えるとともに本時間における目標を設定する。 復習：プレーなどの達成度と課題の両面を振り返る。 キーワード：ルール、審判	中沢克江
６・７回	基本技術練習　ゲーム：シングルス	基本技術練習、基本技術を活かしたゲーム 実技 予習：前回の課題を改善するための方法を考えるとともに本時間における目標を設定する。 復習：プレーなどの達成度と課題の両面を振り返る。 キーワード：ルール、審判	中沢克江
８・９回	基本技術練習　応用技術練習　ゲーム：ダブルス	基本技術練習、応用技術練習、ゲーム：第１回ダブルスリーグ戦 予習：前回の課題を改善するための方法を考えるとともに本時間における目標を設定する。 復習：プレーなどの達成度と課題の両面を振り返る。 キーワード：コミュニケーション、ルール、審判	中沢克江
10・11回	基本技術練習　応用技術練習　ゲーム：ダブルス	基本技術練習、応用技術練習、ゲーム：第１回ダブルスリーグ戦 実技 予習：前回の課題を改善するための方法を考えるとともに本時間における目標を設定する。 復習：プレーなどの達成度と課題の両面を振り返る。 キーワード：コミュニケーション、ルール、審判	中沢克江
12・13回	基本技術練習　応用技術練習　ゲーム：ダブルス	基本技術練習、応用技術練習、ゲーム：第１回ダブルスリーグ戦 実技 予習：前回の課題を改善するための方法を考えるとともに本時間における目標を設定する。 復習：プレーなどの達成度と課題の両面を振り返る。 キーワード：コミュニケーション、ルール、審判	中沢克江
14・15回	基本技術練習　応用技術練習　ゲーム：ダブルス	基本技術練習、応用技術練習、ゲーム：第２回ダブルスリーグ戦 実技 予習：前回の課題を改善するための方法を考えるとともに本時間における目標を設定する。 復習：プレーなどの達成度と課題の両面を振り返る。 キーワード：コミュニケーション、ルール、審判	中沢克江
16・17回	基本技術練習　応用技術練習　ゲーム：ダブルス	基本技術練習、応用技術練習、ゲーム：第２回ダブルスリーグ戦 実技 予習：前回の課題を改善するための方法を考えるとともに本時間における目標を設定する。 復習：プレーなどの達成度と課題の両面を振り返る。 キーワード：コミュニケーション、ルール、審判	中沢克江
18･19回	基本技術練習　応用技術練習　ゲーム：ダブルス	基本技術練習、応用技術練習、ゲーム：第２回ダブルスリーグ戦 実技 予習：前回の課題を改善するための方法を考えるとともに本時間における目標を設定する。 復習：プレーなどの達成度と課題の両面を振り返る。 キーワード：コミュニケーション、ルール、審判	中沢克江
20・21回	基本技術練習　応用技術練習　ゲーム：ダブルス	基本技術練習、応用技術練習、ゲーム：第３回ダブルスリーグ戦 実技 予習：前回の課題を改善するための方法を考えるとともに本時間における目標を設定する。 復習：プレーなどの達成度と課題の両面を振り返る。 キーワード：コミュニケーション、ルール、審判	中沢克江
22・23回	基本技術練習　応用技術練習　ゲーム：ダブルス	基本技術練習、応用技術練習、ゲーム：第３回ダブルスリーグ戦 実技 予習：前回の課題を改善するための方法を考えるとともに本時間における目標を設定する。 復習：プレーなどの達成度と課題の両面を振り返る。 キーワード：コミュニケーション、ルール、審判	中沢克江

24･25回	基本技術練習　　応報技術練習　　ゲーム：ダブルス	基本技術練習、応用技術練習、ゲーム：第３回ダブルスリーグ戦 実技 予習：前回の課題を改善するための方法を考えるとともに本時間における目標を設定する。 復習：プレーなどの達成度と課題の両面を振り返る。 キーワード：コミュニケーション、ルール、審判	中沢克江
26・27回	基本技術練習　　ゲーム評価	基本技術練習、ゲーム、評価 実技 予習：前回の課題を改善するための方法を考えるとともに本時間における目標を設定する。 復習：プレーなどの達成度と課題の両面を振り返る。 キーワード：コミュニケーション、ルール、審判 評価のための課題提出	中沢克江

【６】　事前・事後学習とその時間

卓球のマナーとルールをある程度理解しておくこと。(予習50分)
その時間におけるプレーなどの達成度と課題の両面を振り返る。(復習50分)
学習上の留意点：スポーツではケガを負ったり、負わせたりする潜在的な危険性があることを承諾すること。（危険引き受けの法理）
：服装＝ウェア、室内専用シューズを用意
：髪の長い学生は必ず束ねること

【７】　評価方法・基準

授業参加度(積極的な活動)：60%、技術向上度・達成度：20%、態度・理解力・協調性など：10%、課題レポート：10%を基本に総合的に評価する。

【８】　フィードバック方法

毎回授業開始時に前回の授業内容の確認を行い、プレーの改善点、目的に関する提示を行う。
授業終了時には、その回についての講評を行う。

【９】　教科書

資料は必要に応じて授業時に配布する。

【10】　参考書

文献は必要に応じて授業時に紹介する。

【11】　備考(関連科目等)

スポーツ健康科学、人体の構造と機能Ⅰ～Ⅲ、臨床栄養学
2025DPとの関連：DP①・②・④・⑤

科目名(日本語)	**スポーツ健康科学実技：ＳＣ**	必修・選択区分	授業形態	開講学期・学年	単位数
科目名(英語)	Health and Sports Science Exercise	選択	演習	春学期 1年	1単位 30時間
科目責任者	澁川賢一				
担当教員	澁川賢一				
科目責任者 連絡先(教室)	初回授業時に連絡先をお伝えします。				
オフィスアワー	火曜日　16時30分～17時30分　理学部Ｖ号館5507研究室				

【１】　授業方法(ALの要素、ICTの活用等)

１－１．アクティブラーニングについて

実施する

１－２．アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素

グループワーク
実習、フィールドワーク

２－１．双方向授業でのＩＣＴの活用について

活用する

２－２．ＩＣＴを活用する場合、その具体的名称（クリッカー、タブレット端末等）

Moodle

【２】　授業概要

スポーツ健康科学は、健康とスポーツについて探究する学問である。本科目は、スポーツ健康科学の基本的な理論･概念、身体に負担のかからない運動や効果的なトレーニングの方法、社会的意義などについて体験を通して学ぶ。さらに、運動による身体の変化を分析し、人間の身体についての理解を深める。
なお、本科目は公衆衛生看護活動を実践する知識・技術を獲得する上での基礎的な科目として位置づけている。

【３】　到達目標

1.ストレッチングやセルフマッサージの理論的背景を理解し、適切な手法で実施をすることができる。
2.健康づくりの運動を行う際に、自分自身の健康状態や運動習慣に合わせた適切な運動負荷を設定できる。
3.筋力トレーニングや様々な運動手法を、安全面への配慮とともに実施することができる。
4.健康づくりに用いられる様々な機器やソフトウェアについての知識を得ることで、自分自身の健康づくりに必要な情報を選択することができる。
5.健康づくりに必要な「運動、栄養、休養」の３要素のバランスを理解し、健康的なライフスタイルを考案することができる。
6.スポーツを通じた仲間づくりや、運動による爽快感などを体感することで、生涯にわたるスポーツとの関わりへの関心の高まりを述べることができる。

【４】　ディプロマ・ポリシーとの関連

到達目標を達成することにより、以下の能力を身につけることにつながります。

１．自然科学を看護活動の根拠とし、実践に活かす基礎的な力を有している。

３．他者の多様な価値観を理解し、尊重することができる。

５．看護専門職として、リーダーシップおよびフォロワーシップを発揮し、チームの中で有機的に活動する資質を身につけている。

６．自ら学ぼうとする好奇心をもち、生涯にわたり自己研鑽する姿勢を身につける。

【5】　授業計画

	項目	内容および授業方法 予習・復習・キーワード	担当教員
1	ガイダンス	講義：種目選択や履修カードの作成を行った後、履修上の注意点や授業計画についての説明を行う（実技は行わない） 予習：自分の受講したい種目を決定する 復習：授業内容の書かれたシラバスに目を通し、実技に対する見通しを明確にする キーワード：種目選択、履修カード	湯田秀行 中沢克江 澁川賢一 江川潤 長迫凪
2、3	体力測定① ストレッチング	実技：体力測定：柔軟性や身体組成、筋力を測定する 予習：体力の分類を調査し、体力測定項目の理解を深めておく（30分） 復習：測定結果と自らの生活習慣を振り返り課題を明確にしていく（30分） キーワード：体力測定	澁川賢一
4、5	体力測定② ストレッチング	実技：FMS（Functional Movement Screen）テスト 予習：体力の分類の理解と柔軟性についての理解を深めておく（30分） 復習：身体表現の様々な評価方法を振り返る（30分） キーワード：運動習慣、運動学習、筋肉の柔軟性	澁川賢一
6、7	バランスコンディショニング①ストレッチング	実技：バランスボールを用いたコンディショニングの実践 予習：体のバランスについての理解を深めておく（30分） 復習：日常生活動作における体のバランスを振り返る（（30分） キーワード：バランス、左右差、安定と不安定	澁川賢一
8、9	バランスコンディショニング②ストレッチング	実技：ストレッチポールを用いたコンディショニングの実践 予習：体のバランスについての理解を深めておく（30分） 復習：日常生活動作における体のバランスを振り返る（30分） キーワード：バランス、左右差、安定と不安定	澁川賢一
10、11	セルフリラクゼーション①	実技：テニスボールやストレッチポールを用いたリラクゼーション 予習：日常の生活習慣での体の使い方を振り返る（30分） 復習：日常生活でのリラクゼーションの実践（30分） キーワード：リラクゼーション、呼吸	澁川賢一
12、13	セルフリラクゼーション② & 自体重を用いたエクササイズの理解	実技：テニスボールやストレッチポールを用いたリラクゼーション 予習：日常の生活習慣での体の使い方を振り返る（30分） 復習：日常生活でのリラクゼーションの実践（30分） キーワード：リラクゼーション、呼吸	澁川賢一
14、15	スポーツクライミング体験 ＆体幹トレーニング①	実技：自分の体重を用いたエクササイズの実践　各種スポーツにおける身体活動量を知る 予習：器具を用いないエクササイズの理解を深めておく　（30分） 復習：日常生活の中でのエクササイズの実践（30分） キーワード：体幹、バランス、	澁川賢一
16、17	スポーツクライミング体験 ＆体幹トレーニング②	実技：各種スポーツの実践を通した身体活動量の理解・熱中症対応の理解① 予習：器具を用いないエクササイズの理解を深めておく　（30分） 復習：日常生活の中でのエクササイズの実践（30分） キーワード：体幹、バランス、	澁川賢一
18、19	スポーツクライミング体験 ＆体幹トレーニング③	実技：各種スポーツの実践を通した身体活動量の理解・熱中症対応の理解② 予習：筋肉の収縮様式の理解を深めておく（30分） 復習：マシントレーニング後の体の反応を評価する（30分） キーワード：マシントレーニング、運動負荷、超回復	澁川賢一
20、21	エアロビックエクササイズ①（有酸素運動）	実技：エアロビックダンスの有酸素運動を実践し、身体活動量を計測する① 予習：安静時心拍数と最高心拍数の理解を深めておく　（30分） 復習：安静時や運動後などの日常生活における心拍数の活用（30分） キーワード：身体活動量、有酸素運動	澁川賢一
22、23	エアロビックエクササイズ②（有酸素運動）	実技：エアロビックダンスの有酸素運動を実践し、身体活動量を計測する② 予習：安静時心拍数と最高心拍数の理解を深めておく　（30分） 復習：安静時や運動後などの日常生活における心拍数の活用（30分） キーワード：身体活動量、有酸素運動	澁川賢一
24、25	セルフリラクゼーション③	実技：ヨガまたはピラティスを通じて、体と心のつながりを体感する 予習：ここまでの授業を振り返り、自分の体の特徴を理解しておく（30分） 復習：日常生活でのコンディショニングへの活用（30分） キーワード：リラクゼーション、呼吸、自律神経	澁川賢一
26、27	まとめ	「課題レポート」と「授業評価アンケート」 講義 予習および復習として：授業全体を通して振り返りの作業をする。 到達目標と照らし合わせ自己評価をする。 キーワード：振り返り、自己評価	湯田秀行 中沢克江 澁川賢一 江川潤

【６】　事前・事後学習とその時間

準備学習：起床時の心拍数など自分自身の体調を主観的・客観的に評価する（予習）
授業で体験し獲得した技術を日常生活で実践し評価をする（復習）
この授業は、毎回の予習に30分、復習に30分程度を費やします。
学習上の留意点：スポーツではケガを負ったり、負わせたりする潜在的な危険性があることを承諾すること。（危険引き受けの法理）

【７】　評価方法・基準

授業における積極的な活動：60％、技術向上度・達成度：20％、態度・理解力・協調性など：20％を基本に評価する。
フィードバック方法：本授業の最終回において、全体の講評を行う。

【８】　フィードバック方法

フィードバック方法：本授業の最終回において、全体の講評を行う。

【９】　教科書

資料は必要に応じて授業時に配布する。

【10】　参考書

文献は必要に応じて授業時に紹介する。

【11】　備考(関連科目等)

スポーツ健康科学、人体の構造と機能Ⅰ～Ⅲ、臨床栄養学
2025DPとの関連：DP①・②・④・⑤

科目名(日本語)	スポーツ健康科学実技：ﾊﾞｽｹｯﾄﾎﾞｰﾙ(開講せず)	必修・選択区分	授業形態	開講学期・学年	単位数
科目名(英語)	Health and Sports Science Exercise	選択	演習	春学期 1年	1単位 30時間
科目責任者	湯田秀行				
担当教員	江川　潤				
科目責任者 連絡先(教室)	火曜日12:00～12:45　理学部Ｖ号館5階　非常勤講師室。				
オフィスアワー	火曜日12:00～12:45　理学部Ｖ号館5階　非常勤講師室。				

【１】　授業方法(ALの要素、ICTの活用等)

１－１．アクティブラーニングについて

１－２．アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素

２－１．双方向授業でのＩＣＴの活用について

【２】　授業概要

スポーツ健康科学は、健康とスポーツについて探究する学問である。本科目は、スポーツ健康科学の基本的な理論･概念、身体に負担のかからない運動や効果的なトレーニングの方法、社会的意義などについて体験を通して学ぶ。さらに、運動による身体の変化を分析し、人間の身体についての理解を深める。
授業の前半部分は、ストレッチングやバランスボールによるリラクゼーションエクササイズを中心に行なう。また、授業の後半部分では筋力トレーニングやランニングなどの運動エクササイズを、心拍計や身体活動量計などの機器による客観的なデータを用いながら体験していく。健康を維持増進していくための運動負荷や日常的コンディショニングの工夫を、自らのライフスタイルに合わせて取り組めるような実践的な内容を行う。

【３】　到達目標

1.バスケットボールのルールを説明することができる。
2.基礎的技術（ボールハンドリング、各種ドリブル、状況に応じたパス＆ラン、レイアップシュート、セットシュート）を身につけることができる。
3.試合運営（審判・得点・時間）をすることができる。
4.他学部・他学科の学生間で積極的にコミュニケーションを図ることができる。
5.自分のプレーを振り返り、課題点や克服できた点を説明できる。
6.運動が人々の健康生活に及ぼす影響について説明できる。
（看護学科ＤＰ　２，３，５）

【４】　ディプロマ・ポリシーとの関連

到達目標を達成することにより、以下の能力を身につけることにつながります。

１．自然科学を看護活動の根拠とし、実践に活かす基礎的な力を有している。

３．他者の多様な価値観を理解し、尊重することができる。

５．看護専門職として、リーダーシップおよびフォロワーシップを発揮し、チームの中で有機的に活動する資質を身につけている。

６．自ら学ぼうとする好奇心をもち、生涯にわたり自己研鑽する姿勢を身につける。

【５】　授業計画

	項目	内容および授業方法 予習・復習・キーワード	担当教員
1	ガイダンス	講義：種目選択や履修カードの作成を行った後、履修上の注意点や授業計画についての説明を行う（実技は行わない） 予習：自分の受講したい種目を決定する 復習：授業内容の書かれたシラバスに目を通し、実技に対する見通しを明確にする キーワード：種目選択、履修カード	湯田秀行 中沢克江 澁川賢一 江川潤 長迫凪
2	バスケットボール 基礎トレーニング(1)	実技：①ボールハンドリング（膝下、腰、首回りのロール） ②ドリブル（フロントチェンジ、スタターステップ、バックチェンジ、ロールターン、レッグスルーなど） 予習：バスケットボールのルールやハンドリングを文献や書物などから理解しておく。 復習：プレーなどの達成度と課題の両面を振り返る。 キーワード：ルール・安全対策、ハンドリング、各種ドリブルワーク	江川　潤
3	バスケットボール 基礎トレーニング(2)	実技：①前回の復習②パス（チェストパス、バウンズパス、アンダーパス、ワンハンドパスなど）③シュート（レイアップシュート、バックシュート、ボスハンドシュート、ワンハンドシュート） 予習：前回の課題を克服するための方法を考えるとともに本時間における目標を設定する。 復習：プレーなどの達成度と課題の両面を振り返る。 キーワード：各種ドリブルワーク及びパスワーク	江川　潤
4	バスケットボール 基礎トレーニング(3)	実技：①前回の復習②パス＆ラン：バリエーショントレーニング（トライアングルパス、スクエアパス、ラグビーパス）③オフェンスの動き：2メン、3メン 予習：前回の課題を克服するための方法を考えるとともに本時間における目標を設定する。 復習：プレーなどの達成度と課題の両面を振り返る。 キーワード：パスワーク及び各種パスワークからの応用	江川　潤
5	バスケットボール 応用した動き(1)	実技：①前回の復習 オフェンスの動き②スクリーンプレイ(Pick&Roll、2対2、3対3）③ゲーム 予習：前回の課題を克服するための方法を考えるとともに本時間における目標を設定する。 復習：プレーなどの達成度と課題の両面を振り返る。 キーワード：応用パスワークとランなどの動き、スクリーンプレイ	江川　潤
6	バスケットボール 応用した動き(2)	実技：①前回の復習 オフェンスの動き②スクリーンプレイ（前回の動き、バックドア、スクリーンアウェイ）③ゲーム 予習：前回の課題を克服するための方法を考えるとともに本時間における目標を設定する。 復習：プレーなどの達成度と課題の両面を振り返る。 キーワード：スクリーンプレイ	江川　潤
7	バスケットボール チームトレーニング(1)	実技：①前回の復習 オフェンスの動き②フォーメーション③ゲーム 予習：前回の課題を克服するための方法を考えるとともに本時間における目標を設定する。 復習：プレーなどの達成度と課題の両面を振り返る。 キーワード：スクリーンプレイを活かしたオフェンス	江川　潤
8	バスケットボール チームトレーニング(2)	実技：①前回の復習 ディフェンスの動き②マンツーマンディフェンス及びゾーンディフェンス（２－３、３－２など）③ゲーム 予習：前回の課題を克服するための方法を考えるとともに本時間における目標を設定する。 復習：プレーなどの達成度と課題の両面を振り返る。 キーワード：ディフェンスの理解	江川　潤
9	バスケットボール チームトレーニング(3)	実技：①前回の復習 ディフェンスの動き②スクリーンプレイに対応したディフェンス（ファイトオーバー、スイッチ）③ゲーム 予習：前回の課題を克服するための方法を考えるとともに本時間における目標を設定する。 復習：プレーなどの達成度と課題の両面を振り返る。	江川　潤
10	バスケットボール チームトレーニング(4)	実技：①前回の復習 ②オールコート５対５、チーム編成 予習：前回の課題を克服するための方法を考えるとともに本時間における目標を設定する。 復習：プレーなどの達成度と課題の両面を振り返る。 キーワード：ゲームの理解	江川　潤
11	バスケットボール リーグ戦(1)	実技：ゲーム（リーグ戦-1） 予習：前回の課題を克服するための方法を考えるとともに本時間における目標を設定する。 復習：プレーなどの達成度と課題の両面を振り返る。 キーワード：リーグ戦	江川　潤
12	バスケットボール リーグ戦(2)	実技：ゲーム（リーグ戦-２） 予習：前回の課題を克服するための方法を考えるとともに本時間における目標を設定する。 復習：プレーなどの達成度と課題の両面を振り返る。 キーワード：リーグ戦	江川　潤

13	バスケットボール リーグ戦(3)	実技：ゲーム（リーグ戦　ファイナル-１） 予習：前回の課題を克服するための方法を考えるとともに本時間における目標を設定する。 復習：プレーなどの達成度と課題の両面を振り返る。 キーワード：リーグ戦（自主運営）	江川　潤
14	バスケットボール リーグ戦(4)	実技：ゲーム（リーグ戦　ファイナル-2） 予習：前回の課題を克服するための方法を考えるとともに本時間における目標を設定する。 復習：プレーなどの達成度と課題の両面を振り返る。 キーワード：リーグ戦（自主運営）	江川　潤
15	まとめ	教室にて「課題レポート」と「授業評価アンケート」 講義 予習および復習として：授業全体を通して振り返りの作業をする。 到達目標と照らし合わせ自己評価をする。 キーワード：振り返り、自己評価	湯田秀行 中沢克江 澁川賢一 江川潤 長迫凪

【６】　事前・事後学習とその時間

準備学習：この授業は、予習としてバスケットボールのルールや基本的な動き、ハンドリングまた試合におけるオフェンスの戦術、またディフェンス（マンツーマンDF、ゾーンDF）について文献や映像を見て理解やイメージを持つことに0.5時間程度、また、復習としてその時間におけるプレーなどの達成度と課題の両面を振り返る作業に0.5時間程度を費やします。
学習上の留意点：スポーツではケガを負ったり、負わせたりする潜在的な危険性があることを承諾すること。（危険引き受けの法理）

【７】　評価方法・基準

授業参加度(積極的な活動)：60%、技術向上度・達成度：20%、態度・理解力・協調性など：20%を基本に総合的に評価する。
毎回の授業開始時において前回までのプレーの改善点や目的に関する講評や提示を行う。

【８】　フィードバック方法

授業参加度(積極的な活動)：60%、技術向上度・達成度：20%、態度・理解力・協調性など：20%を基本に総合的に評価する。
毎回の授業開始時において前回までのプレーの改善点や目的に関する講評や提示を行う。

【９】　教科書

授業に必要な際は、こちらで準備します。

【10】　参考書

授業に必要な際は、こちらで準備します。

【11】　備考(関連科目等)

スポーツ健康科学、人体の構造と機能Ⅰ～Ⅲ、臨床栄養学

科目名(日本語)	**スポーツ健康科学実技：スポーツクライミング**	必修・選択区分	授業形態	開講学期・学年	単位数
科目名(英語)	Health and Sports Science Exercise	選択	演習	春学期 1年	1単位 30時間
科目責任者	高梨美奈				
担当教員	高梨　美奈				
科目責任者 連絡先(教室)	Moodle機能にて連絡すること				
オフィスアワー	火曜日（13：00～14：00） スポーツアリーナ１階教員室				

【１】　授業方法(ALの要素、ICTの活用等)

１－１．アクティブラーニングについて

実施する

１－２．アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素

ＰＢＬ（課題解決型学習）
反転授業
実習、フィールドワーク

２－１．双方向授業でのＩＣＴの活用について

活用する

２－２．ＩＣＴを活用する場合、その具体的名称（クリッカー、タブレット端末等）

Moodle

【２】　授業概要

本授業では、スポーツクライミングの中の「ボルダリング」種目を中心に授業を展開し、クライミングに必要な基礎知識を学びながら、自身の身体の機能や動き等の理解を深めます。また、自らの身体と向き合い、仲間とともに生涯を通じて安全にスポーツを楽しむ力を養うことを目標とします。仲間とともに自分たちの力で楽しさとやりがいを感得できるよう、グループワークも取り入れていきます。講義を15分程度導入し、ボルダリング練習を行います。

【３】　到達目標

スポーツクライミングを通して，自分の身体の機能や動き等を学びながら，自らの心身と向き合い，仲間とともに生涯を通じて安全にスポーツを楽しむ力を養うことを目標とします。
１．クライミングの基本技術について理解し説明できる。
２．ルートを正確に読むことができる。
３．ボルダリングの課題を作ることができる。
４．傷害を予防しながらクライミング能力を上達させることができる。

【４】　ディプロマ・ポリシーとの関連

到達目標を達成することにより、以下の能力を身につけることにつながります。

１．自然科学を看護活動の根拠とし、実践に活かす基礎的な力を有している。

３．他者の多様な価値観を理解し、尊重することができる。

５．看護専門職として、リーダーシップおよびフォロワーシップを発揮し、チームの中で有機的に活動する資質を身につけている。

６．自ら学ぼうとする好奇心をもち、生涯にわたり自己研鑽する姿勢を身につける。

【5】　授業計画

	項目	内容および授業方法 予習・復習・キーワード	担当教員
1	ガイダンス	種目選択や履修カードの作成を行った後、履修上の注意点や授業計画についての説明を行う。（実技は行わない。） 講義 予習：自分の受講したい種目を決定する。 復習：授業内容の書かれたシラバスに目を通し、実技に対する見通しを明確にする。 キーワード：種目選択、履修カード	湯田秀行 澁川賢一 高梨美奈
2・3	クライミング 安全対策	クライミングの安全対策，服装，用具の解説 予習：スポーツクライミングの種目やルールについて理解しておく 復習：ルールなどについて振り返る キーワード：体力測定	高梨美奈
4・5	クライミング 体力測定	実技：クライミングに必要な体力を測定する 予習：スポーツクライミングの種目やルールについて理解しておく 復習：測定の結果から自分の弱点などを確認する キーワード：体力測定	高梨美奈
6・7	技術；足の置き方（フットワーク）	実技：フットワークを意識しながらルートを登る 予習：足技について予習しておく 復習：クライミングの達成度と課題の両面を振り返る キーワード：フットワーク	高梨美奈
8・9	技術；ホールドの持ち方	実技：様々な形のホールドを使ってルートを登る 予習：ホールドの持ち方について予習しておく 復習：クライミングの達成度と課題の両面を振り返る キーワード：ホールド、持ち方	高梨美奈
10・11	技術；身体の動かし方（ムーブ）	実技：ルートを登る中で身体の動かし方を学ぶ 予習：ムーブについて予習しておく 復習：クライミングの達成度と課題の両面を振り返る キーワード：身体の動かし方、ムーブ	高梨美奈
12・13	戦術；ルートを読む（オブザベーションの重要性）	実技：ルートを読む力をつけ、クライミングに生かす。 予習：様々なルートを登る様子を予習しておく 復習：クライミングの達成度と課題の両面を振り返る キーワード：オブザベーション	高梨美奈
14・15	応用；自分で課題を作ってみる1	実技：登るルートを作成する 予習：様々なルートを登る様子を予習しておく 復習：クライミングの達成度と課題の両面を振り返る キーワード：ルート作成	高梨美奈
16・17	応用；自分で課題を作ってみる2	実技：登るルートを作成する 予習：前週の反省点が生かせるよう予習しておく 復習：クライミングの達成度と課題の両面を振り返る キーワード：ルート作成	高梨美奈
18・19	理論；安全管理、クライミングのケガ	実技：ロープクライミングを学ぶ 予習：発生頻度の高いケガや事故について予習しておく 復習：安全にロープクライミングを行うためのスキルを振り返る キーワード：ロープクライミング、ロープワーク、安全管理、ケガ、傷害予防	高梨美奈
20・21	理論；クライマーの安全を確保する	実技：ロープクライミングで必要なビレイスキルを習得する。 各自で作成したルートを発表し、学生同士で挑戦する 予習：ビレイに関するスキルを予習しておく 復習：安全なビレイの器具の扱いを復習する キーワード：ビレイ、ATC	高梨美奈
22・23	競技クライミング1（ボルダリング；ルールについて）	実技：ボルダリングのルールについて学び、次週に向けて練習する 予習：ボルダリングのルールについて予習しておく 復習：クライミングの達成度と課題の両面を振り返る キーワード：競技クライミング	高梨美奈
24・25	競技クライミング2（グループ対抗ボルダリングコンペ）	実技：ボルダリングコンペを行う 予習：ルールを確認しておく 復習：　クライミングの達成度と課題の両面を振り返る キーワード：ボルダリング、模擬大会	高梨美奈
26	体力測定；体力の比較	実技：体力測定を行う 予習：初回の体力測定結果を見直しておく 復習：体力の比較と、クライミングの達成度を振り返る キーワード：体力の比較	高梨美奈
27回	まとめ	教室にて「最終レポート」と「授業評価アンケート」 講義 予習および復習として：授業全体を通して振り返りの作業をする。 到達目標と照らし合わせ自己評価をする。 キーワード：振り返り、自己評価	湯田秀行 澁川賢一 高梨美奈

【6】　事前・事後学習とその時間

準備学習：　スポーツクライミングルールおよび安全管理を理解する（予習）。
授業後に何ができて何ができなかったのか振り返りの作業をする(復習）。準備学習時間は授業ごとに予習45分，復習45分を要する。
学習上の留意点：動きやすい服装（ジャージ，Tシャツなど），爪は短く切ること。私服での参加は認めません。
スポーツではケガを負ったり、負わせたりする潜在的な危険性があることを承諾すること。（危険引き受けの法理）

【７】　評価方法・基準
授業参加度（積極的な授業態度）：60％、技術向上度・目標達成度：30％、最終レポート10％を基本に総合的に評価する。

【８】　フィードバック方法
毎回授業開始時に前回の授業内容の確認を行い、プレーの改善点、目標に関する提示を行う。授業終了時には、その回について講評を行う。

【９】　教科書
特定のテキストは使用しません。必要に応じて参考資料を配布して授業を進めます。

【10】　参考書
特定のテキストは使用しません。必要に応じて参考資料を配布して授業を進めます。

【11】　備考(関連科目等)
スポーツ健康科学、人体の構造と機能Ⅰ～Ⅲ、臨床栄養学
2025DPとの関連：DP①・②・④・⑤

科目名(日本語)	スポーツ健康科学実技：バドミントン	必修・選択区分	授業形態	開講学期・学年	単位数
科目名(英語)	Health and Sports Science Exercise	選択	演習	春学期 1学年	1単位 30時間
科目責任者	湯田秀行				
担当教員	湯田秀行				
科目責任者 連絡先(教室)	mail: yuda@sci.toho-u.ac.jp（理学部Ｖ号館5508研究室）				
オフィスアワー	木曜日　13時～15時（理学部Ｖ号館5508研究室）				

【１】　授業方法(ALの要素、ICTの活用等)

１－１．アクティブラーニングについて

実施する

１－２．アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素

グループワーク
実習、フィールドワーク

２－１．双方向授業でのＩＣＴの活用について

活用する

２－２．ＩＣＴを活用する場合、その具体的名称（クリッカー、タブレット端末等）

Moodleを活用した課題提出など。

【２】　授業概要

スポーツ健康科学は、健康とスポーツについて探究する学問である。本科目は、スポーツ健康科学の基本的な理論･概念、身体に負担のかからない運動や効果的なトレーニングの方法、社会的意義などについて体験を通して学ぶ。さらに、運動による身体の変化を分析し、人間の身体についての理解を深める。
なお、本科目は公衆衛生看護活動を実践する知識・技術を獲得する上での基礎的な科目として位置づけている。

【３】　到達目標

・バドミントンのルールを理解し、シングルスやダブルスの審判ができる。
・バドミントンの基礎技術を習得し、状況に合わせた技術発揮ができる。
・ダブルスにおいてパートナーとの連携をとることにより、多くの仲間と親睦を深めることができる。
・技術の練習や試合を通して、仲間と協力しあい励まし合いながら取り組むことにより、思いやりや協調性を身につけることができる。

【４】　ディプロマ・ポリシーとの関連

到達目標を達成することにより、以下の能力を身につけることにつながります。

１．自然科学を看護活動の根拠とし、実践に活かす基礎的な力を有している。

３．他者の多様な価値観を理解し、尊重することができる。

５．看護専門職として、リーダーシップおよびフォロワーシップを発揮し、チームの中で有機的に活動する資質を身につけている。

６．自ら学ぼうとする好奇心をもち、生涯にわたり自己研鑽する姿勢を身につける。

【5】　授業計画

	項目	内容および授業方法 予習・復習・キーワード	担当教員
1回	ガイダンス：授業内容および履修上の注意点などについて	実技授業の内容・目的、またその進め方および注意点などの説明をします。 キーワード：履修上の注意および授業の概要	湯田
2・3回	バドミントン：ルールの理解および基礎技術の習得その①	バドミントンのルールを理解する。その1.（サーブ、シングルス、ダブルスのコートエリアなど） バドミントンの基礎技術（ラケットの持ち方、フォアハンド、バックハンド、サービス）、ステップワーク 試しのゲーム（ハーフコートシングルス） バドミントンの基礎技術（クリア、ドライブ、ヘアピン、サービス）、ステップワーク ハーフコートシングルスゲーム リアクションペーパー：本日の内容と習熟度、次回の課題について200字程度にまとめる。（Moodleにて提出） キーワード：ルールの理解	湯田
4・5回	バドミントン：基礎技術の習得その②	バドミントンの基礎技術（ヘアピン、クリア、ドライブ、ドロップ、ロブ、サービス） ハーフコートシングルスゲーム リアクションペーパー：本日の内容と習熟度、次回の課題について200字程度にまとめる。（Moodleにて提出） キーワード：基礎技術の習得	湯田
6・7回	バドミントン：フットワークおよび基礎技術の習得その③	バドミントンの基礎技術（スマッシュ、クリア、ドライブ、ドロップ、ロブ、ヘアピン、サービス） 前後・左右のフットワーク、ハーフコートシングルスゲーム リアクションペーパー：本日の内容と習熟度、次回の課題について200字程度にまとめる。（Moodleにて提出） キーワード：フットワーク	湯田
8・9回	バドミントン：フットワークその②および基礎技術の習得その④	バドミントンの基礎技術（スマッシュ、レシーブ、カット、ロブ、ヘアピン、プッシュ） 前後のステップワーク、ラウンド、ハーフコートシングルスゲーム リアクションペーパー：本日の内容と習熟度、次回の課題について200字程度にまとめる。（Moodleにて提出） キーワード：ラウンドの理解および習得	湯田
10・11回	バドミントン：基礎技術の習得その⑤およびシングルスゲーム	バドミントンの基礎技術（スマッシュ、レシーブ、カット、ロブ、ヘアピン、プッシュ、ドロップ） シングルスゲーム（基礎技術の確認と実践） リアクションペーパー：本日の内容と習熟度、次回の課題について200字程度にまとめる。（Moodleにて提出） キーワード：基礎技術の習得	湯田
12・13回	バドミントン：基礎技術の習得その⑥およびシングルスゲーム	バドミントンの基礎技術（スマッシュ、レシーブ、カット、ロブ、ヘアピン、プッシュ） シングルスゲーム（基礎技術の確認と実践） リアクションペーパー：本日の内容と習熟度、次回の課題について200字程度にまとめる。（Moodleにて提出） キーワード：ゲームにおける基礎技術の実践	湯田
14・15回	バドミントン：課題練習およびシングルスゲーム	各個人の技術的課題を抽出し、課題練習を立案し、実践する。 シングルスゲーム　（基礎技術の確認と実践） リアクションペーパー：本日の内容と習熟度、次回の課題について200字程度にまとめる。（Moodleにて提出） キーワード：ゲームにおける基礎技術の実践	湯田
16・17回	バドミントン：課題練習その②およびシングルスゲーム	課題練習 シングルスゲーム　（基礎技術の確認と実践） リアクションペーパー：本日の内容と習熟度、次回の課題について200字程度にまとめる。（Moodleにて提出） キーワード：課題練習	湯田
18・19回	バドミントン：ダブルスのルールと戦術の理解およびダブルスゲーム	ダブルスゲームのルールと役割の理解 ダブルスゲームにおけるフォーメーションと戦術的理解 課題練習の立案とその実践。 ダブルスゲーム　（基礎技術の確認と実践） リアクションペーパー：本日の内容と習熟度、次回の課題について200字程度にまとめる。（Moodleにて提出） キーワード：課題練習	湯田
20・21回	バドミントン：チーム戦その①	課題練習 シングルス・ダブルスゲーム　（基礎技術の確認と実践）　チーム戦その1. リアクションペーパー：本日の内容と習熟度、次回の課題について200字程度にまとめる。（Moodleにて提出） キーワード：チーム戦における役割の理解	湯田
22・23回	バドミントン：チーム戦その②	課題練習 シングルス・ダブルスゲーム　（基礎技術の確認と実践）　チーム戦その2. リアクションペーパー：本日の内容と習熟度、次回の課題について200字程度にまとめる。（Moodleにて提出） キーワード：チーム戦における戦略の理解	湯田

24・25回	バドミントン：チーム戦その③	課題練習 シングルス・ダブルスゲーム　（基礎技術の確認と実践）　チーム戦その3. リアクションペーパー：本日の内容と習熟度、次回の課題について200字程度にまとめる。（Moodleにて提出） キーワード：チーム戦における戦術および個人役割の理解	湯田
26・27回	実技最終確認および課題レポートの作成、授業評価アンケートの実施	「課題レポートの作成」と「授業評価アンケート」 予習および復習として：授業全体を通して振り返りの作業をする。到達目標と照らし合わせ自己評価をする。 キーワード：実技のまとめ、振り返り、自己評価	湯田

【６】　事前・事後学習とその時間

各回の授業の実技テーマに関してwebや文献等で事前に調べておくこと。また、授業で行ったテーマと自分の課題や習熟度について振り返ること。授業後はMoodleにてリアクションペーパーを作成していただきます。準備学習時間は授業ごとに90分とする。
スポーツではケガを負ったり、負わせたりする潜在的な危険性があることを承諾すること。（危険引き受けの法理）

【７】　評価方法・基準

授業参加度(積極的な活動)：60%、技術向上度・達成度：20%、態度・理解力・協調性など：10%、課題レポート10%を基本に総合的に評価する。

【８】　フィードバック方法

毎回の授業前、授業中また終了後に個別そして全体に対する技術や戦術的理解などに対するフィードバックを行う。

【９】　教科書

特定の教科書は使用しませんが必要に応じて動画を見たり、参考資料を配布することにより技術的、戦術的理解を深めます。

【10】　参考書

参考図書として、以下を推薦します。
「基本が身につくバドミントン練習メニュー200」　桝田圭太監修　池田書店

【11】　備考(関連科目等)

スポーツ健康科学、人体の構造と機能Ⅰ～Ⅲ、臨床栄養学
2025DPとの関連：DP①・②・④・⑤

科目名(日本語)	**心理学**	必修・選択区分	授業形態	開講学期・学年	単位数
科目名(英語)	Psychology	必修	講義	春学期 1年	1単位 15時間
科目責任者	鳥山理恵				
担当教員	鳥山理恵				
科目責任者 連絡先(教室)	初回授業時に連絡方法について案内する。				
オフィスアワー	授業終了後10分程度、講義室にて質問を受ける。また、Moodleのメッセージ機能を用いての連絡も可能。				

【１】　授業方法(ALの要素、ICTの活用等)

１－１．アクティブラーニングについて

実施しない

１－２．アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素

２－１．双方向授業でのＩＣＴの活用について

活用する

２－２．ＩＣＴを活用する場合、その具体的名称（クリッカー、タブレット端末等）

Moodle

【２】　授業概要

人間の心理や行動の基礎にある原理を学び、自己理解と他者理解を通して人間の心の多様性、脆弱性、強靭さ等の人間理解を深める。具体的には、個人・集団心理の基礎（精神の仕組み・理論・発達心理など）、心理学的方法論（臨床心理学・行動分析学など）の理解を深める。本科目は、臨床心理学など医学や専門基礎科目、看護学の人間理解、患者理解等の基礎知識として直接つながる科目である。

【３】　到達目標

14回の授業を通し、心理学における課題解決の過程と結果を、論理的に文章として記述することができる。
授業各回の到達目標としては以下の事項を想定している：
第1回：心理学の研究手法について、具体例を挙げて説明することができる。
第2回：心理学の歴史において重要な人物とその功績について、2人以上の人物について簡単に説明することができる。
第3回：私たちが目で物を見たり耳で音を聞いたりする際にどのような心理的メカニズムが関わっているのかについて、具体例を挙げて説明することができる。
第4回：知覚の恒常性について、具体例を挙げて説明することができる。
第5回：動物を対象とした心理学の研究手法について、具体例を挙げて説明することができる。
第6回：正の強化・負の強化・正の罰・負の罰のそれぞれについて、身近な具体例を挙げることができる。
第7回：「注意」のメカニズムについて、具体例を挙げて説明することができる。
第8回：人の記憶を支える3つのプロセスについて簡単に説明することができる。
第9回：人が感情を感じる背後にある心理的メカニズムについて簡単に説明することができる。
第10回：赤ちゃんを対象とした研究手法について、具体的な方法を挙げて説明することができる。
第11回：社会心理学の研究手法について、具体例を挙げて説明することができる。
第12回：私たちの行動や意思決定が、自分が置かれている状況からどのくらい影響を受けるのかといったことについて、具体例を挙げて説明することができる。
第13回：「こころの文化差」を明らかにするための研究手法について、具体例を挙げて説明することができる。
第14回：人の心に影響を与えるような社会的環境の文化差について、具体例を挙げて説明することができる。

【４】　ディプロマ・ポリシーとの関連

到達目標を達成することにより、以下の能力を身につけることにつながります。

１．自然科学を看護活動の根拠とし、実践に活かす基礎的な力を有している。

３．他者の多様な価値観を理解し、尊重することができる。

４．看護職の社会的責任を理解し、看護実践にまつわる倫理的課題を感受する力と熟考する力、それらに基づく判断を行動に表す力を身につけている。

【５】　授業計画

	項目	内容および授業方法 予習・復習・キーワード	担当教員
1・2回	心理学の研究法と歴史	内容：心理学の研究法と、心理学の歴史について学ぶ。 授業方法：講義 予習・復習：講義毎に提示する キーワード：心理学の基礎、実験方法	鳥山理恵
3・4回	感覚・知覚	内容：感覚や知覚といった基礎的な情報処理の様式について学ぶ。 授業方法：講義 予習・復習：講義毎に提示する キーワード：感覚、知覚	鳥山理恵
5・6回	学習	内容：学習の理論や動物での実験について学ぶ。 授業方法：講義 予習・復習：講義毎に提示する キーワード：学習、条件づけ	鳥山理恵
7・8回	認知と記憶	内容：人の認知や記憶のメカニズムについて学ぶ。 授業方法：講義 予習・復習：講義毎に提示する キーワード：認知、記憶	鳥山理恵
9回	感情	内容：人の感情のメカニズムについて学ぶ。 授業方法：講義 予習・復習：講義毎に提示する キーワード：感情、表情	鳥山理恵
10回	発達	内容：発達心理学の基礎について学ぶ。 授業方法：講義 予習・復習：講義毎に提示する キーワード：発達段階、赤ちゃん研究	鳥山理恵
11・12回	集団心理	内容：集団心理の基礎について学ぶ。 授業方法：講義 予習・復習：講義毎に提示する キーワード：社会心理、集団行動	鳥山理恵
13・14回	文化	内容：こころの文化差について学ぶ。 授業方法：講義 予習・復習：講義毎に提示する キーワード：文化心理、比較文化研究	鳥山理恵

【６】　事前・事後学習とその時間

【準備学習】
この授業はスライドを使った講義形式となり、事前にMoodle上で閲覧可能な授業資料を使っての予習に30分程度、復習に1時間程度を費やします。

【事後学習】
毎回の授業後に、その回の授業内容に関連する小課題（小テストや小レポート）の提出を求めます。講義資料に基づいてよく復習の上、課題に取り組むこと。

【７】　評価方法・基準

各回の授業内容に関連する毎回の小課題（25%）、期末テスト(60%)、期末レポート（15%）

【８】　フィードバック方法

毎回の小課題については、次回以降の授業で具体例を挙げて、特徴的な見解や誤解について解説する。また、毎回のリアクションペーパーで提起された質問や誤解のある点については次回の授業で解説する。

【９】　教科書

教科書は使用せず、Moodle上で閲覧可能な授業資料を配布する。

【10】　参考書

特になし

【11】　備考(関連科目等)

特になし
2025DPとの関連：DP①・③・④・⑤

科目名(日本語)	**社会学**	必修・選択区分	授業形態	開講学期・学年	単位数
科目名(英語)	Sociology	必修	講義	春学期 1年	1単位 15時間
科目責任者	島村賢一				
担当教員	島村賢一				
科目責任者 連絡先(教室)	下記のメールアドレスで連絡を受け付ける。 ksshimamura@kj9.so-net.ne.jp				
オフィスアワー	講義終了後に、講義室で10分程度質問を受け付ける。またはMoodleで質問を受け付ける。				

【１】　授業方法(ALの要素、ICTの活用等)

１－１．アクティブラーニングについて

実施する

１－２．アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素

グループワーク

２－１．双方向授業でのＩＣＴの活用について

活用する

２－２．ＩＣＴを活用する場合、その具体的名称（クリッカー、タブレット端末等）

Moodle

【２】　授業概要

社会学の理論など基礎的な知識をもとに、自分や家族などのライフサイクルと関連づけて事象を社会学的な視点で読み解く能力を身につける。特に、集団としての家族とその形態や機能、家族システムとしての病理などに関する家族社会学や、医療は医療者と患者間の個人的営為であるとともに社会的な営為であることから医療社会学の視点も学修する。

【３】　到達目標

1.医療行為が社会的な相互行為であることを理解し、患者や他の医療者とのコミュニケーション能力向上のための前提となる基本的知識を修得する。
2.自己と他者における家族の役割と意味を客観的に考察できる。
3.ジェンダー平等の意味を理解し、平等意識のための基本的知識を修得する。
4.グローバルな視点を獲得し、現代社会に対して広い視野から、様々な問題を考察できる。

【４】　ディプロマ・ポリシーとの関連

到達目標を達成することにより、以下の能力を身につけることにつながります。

１．自然科学を看護活動の根拠とし、実践に活かす基礎的な力を有している。

３．他者の多様な価値観を理解し、尊重することができる。

５．看護専門職として、リーダーシップおよびフォロワーシップを発揮し、チームの中で有機的に活動する資質を身につけている。

【５】　授業計画

	項目	内容および授業方法 予習・復習・キーワード	担当教員
1	医療者が社会学を学ぶ意義ー社会学とは何か	内容：医療者が社会学を学ぶ意義と社会学という学問の特質を学習する。 授業方法：講義の後に、グループによる討論を行う。 予習・復習：講義毎に提示する。 キーワード：社会学の独自性、パラダイム　他者理解	島村賢一
2	近代社会と社会学	内容：社会学が誕生する背景となった近代社会の特質を学習する。 授業方法：講義の後に、グループによる討論を行う。 予習・復習：講義毎に提示する。 キーワード：市民革命、産業革命、科学主義	島村賢一
3	家族に関する基礎概念と社会化	内容：家族に関する基礎概念と人生における家族の位置づけを学習する。 授業方法：講義の後に、グループによる討論を行う。 予習・復習：講義毎に提示する。 キーワード：集団としての家族の特質、家族類型、社会化	島村賢一
4	家族の歴史的変遷	内容：家族の歴史的変遷、特に明治以降の日本社会における歴史的変遷を学習する。 授業方法：講義の後に、グループによる討論を行う。 予習・復習：講義毎に提示する。 キーワード：家族変動、核家族化、個人化	島村賢一
5	ジェンダーに関する基礎概念	内容：ジェンダーに関する基礎概念について学習する。 授業方法：講義の後に、グループによる討論を行う。 予習・復習：講義毎に提示する。 キーワード：ジェンダー、セクシャリティ、ジェンダー秩序	島村賢一
6	ジェンダー平等に向けての世界的な潮流とフェミニズム	内容：ジェンダー平等に向けての世界的な潮流とフェミニズムの役割を学習する。 授業方法：講義の後に、グループによる討論を行う。 予習・復習：講義毎に提示する。 キーワード：ジェンダー平等実現に向けての国連の役割、第1波フェミニズムと第2波フェミニズム	島村賢一
7	少子高齢社会その１ー少子化について	内容：少子化の現状と世界の人口の歴史的変遷について学習する。 授業方法：講義の後に、グループによる討論を行う。 予習・復習：講義毎に提示する。 キーワード：合計特殊出生率、人口置換率、人口転換理論	島村賢一
8	少子高齢社会その2ー高齢化について	内容：高齢社会の現状を国際比較しながら考察する。 授業方法：講義の後に、グループによる討論を行う。 予習・復習：講義毎に提示する。 キーワード：倍化年数、高齢化社会と高齢社会	島村賢一
9	民族問題と移民の社会学その１－基礎概念と世界的な潮流	内容：民族問題に関する基礎概念と民族問題についての近代以降の世界的な潮流について学習する。 授業方法：講義の後に、グループによる討論を行う。 予習・復習：講義毎に提示する。 キーワード：民族と人種、ネーション、同化、競合状態、多元主義、エスノセントリズム	島村賢一
10	民族問題と移民の社会学その2ー日本における民族問題	内容：日本における民族問題に関する明治以降の歴史と現状について学習する。 授業方法：講義の後に、グループによる討論を行う。 予習・復習：講義毎に提示する。 キーワード：ニューカマーとオールドカマー、西欧と日本の対比	島村賢一
11	グローバル化とは何か	内容：グローバル化の基礎概念と歴史的変遷を学習する。 授業方法：講義の後に、グループによる討論を行う。 予習・復習：講義毎に提示する。 キーワード：グローバル化、国際化、グローバリズ	島村賢一
12	リスク社会としての現代その１－基礎概念	内容：リスク論の基礎概念を習得し、リスクという観点から見た近代社会の変遷を学習する。 授業方法：講義の後に、グループによる討論を行う。 予習・復習：講義毎に提示する。 キーワード：リスクと危険、個人化、第1の近代と第2の近代	島村賢一
13	リスク社会としての現代その2－リスク論から考察した現代社会	内容：地球温暖化、同時多発テロ、原発事故といった具体的な問題を糸口とし、リスクという観点から現代社会を考察する。 授業方法：講義の後に、グループによる討論を行う。 予習・復習：講義毎に提示する。 キーワード：個人の自由と監視国家化、世界市民、近代の複数性	島村賢一
14	総復習	内容：これまでの授業の要点を総復習する。。 授業方法：講義の後に、質疑応答を行う。 予習・復習：講義毎に提示する。 キーワード：第1回～第13回のキーワード参照	島村賢一

【６】　事前・事後学習とその時間

この授業は内容理解のために予習を1時間程度、復習を1時間程度必要とする。授業中に指摘した重要点に留意しながら、配布したプリントを読み返すこと。

【７】　評価方法・基準

１．レポート　30%、
２．期末に行う理解度確認テスト　40%、
３．毎回の授業後にMoodleに提出してもらう課題の提出状況30%

【８】　フィードバック方法

１．レポートについては希望者にコメントを添えて返信する。
２．期末に行う理解度確認テストについては、模範解答を提示し、質問を受け付ける。

【９】　教科書

毎回授業の遅くとも前日にはMoodleを通じて講義レジュメと学習ポイントを掲示する。

【10】　参考書

松田健『テキスト現代社会学[第4版]』、ミネルヴァ書房、2022

【11】　備考(関連科目等)

特になし
2025DPとの関連：DP①・②・④・⑤

科目名(日本語)	**倫理学**	必修・選択区分	授業形態	開講学期・学年	単位数
科目名(英語)	Ethics	必修	講義	秋学期 1年	1単位 15時間
科目責任者	守博紀				
担当教員	守博紀				
科目責任者 連絡先(教室)	初回授業時に連絡方法を伝えます。				
オフィスアワー	授業終了後10分程度、講義室にて質問を受け付けます。また、メールでの質問も可能です。初回授業時に連絡方法を伝えます。				

【１】　授業方法(ALの要素、ICTの活用等)

１－１．アクティブラーニングについて

実施しない

１－２．アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素

２－１．双方向授業でのＩＣＴの活用について

活用しない

【２】　授業概要

倫理学の基本的な理論、社会における様々な規範の根拠について学修します。また、自身の規範的判断の理由を他者にわかるよう説明できる能力を養います。とくに、哲学的思考の重要な一要素であるクリティカルシンキングの技術を習得し、哲学的な概念を使って現代の社会問題を考え、自分の考えを他人に納得してもらえるように議論を組み立てられるようになることを目指します。本科目は、看護実践の基盤となる倫理学的思考の涵養や、看護倫理の理解に必要な基礎知識に直接つながる科目です。

【３】　到達目標

1. 哲学的思考の手法を習得して日常の経験を手がかりに自ら考えることができる。
2. 主要な規範倫理学理論の特徴を説明することができる。
3. 環境や生命を扱う応用倫理学のさまざまな問題を理解し、それについての議論を組み立てることができる。

【４】　ディプロマ・ポリシーとの関連

到達目標を達成することにより、以下の能力を身につけることにつながります。

１．自然科学を看護活動の根拠とし、実践に活かす基礎的な力を有している。

３．他者の多様な価値観を理解し、尊重することができる。

４．看護職の社会的責任を理解し、看護実践にまつわる倫理的課題を感受する力と熟考する力、それらに基づく判断を行動に表す力を身につけている。

５．看護専門職として、リーダーシップおよびフォロワーシップを発揮し、チームの中で有機的に活動する資質を身につけている。

【5】　授業計画

	項目	内容および授業方法 予習・復習・キーワード	担当教員
1・2	批判と変革のための哲学	内容：この時間は、講義全体の計画を説明し、イントロダクションとして、哲学的思考の意義を「批判」と「変革」の観点から説明する。この二つの営みを通して、哲学は、自分と他人が生きている現実に向き合い、自分で考え、そうして自分自身の生き方を変えることに貢献する。授業はPowerPointを使って配付資料に直接重要な語句を記入してもらう形で進めていく。 授業方法：講義 予習：参考図書を参照するなどしてキーワードについて事前に調べて、わからない点などを整理しておく。 復習：授業後に配布する「まとめプリント」の問題に答えて次週までに提出する。 キーワード：哲学、批判、変革、経験、倫理学	守　博紀
3・4	倫理学の問いと方法	内容：倫理学の三分野であるメタ倫理学・規範倫理学・応用倫理学のそれぞれが扱う問いと規範倫理学の主要三理論（義務論・帰結主義・徳倫理学）を概略的に説明し、各分野や理論を学ぶことで習得できる倫理学的思考のやり方を紹介する。授業はPowerPointを使って配付資料に直接重要な語句を記入してもらう形で進めていく。 授業方法：講義 予習：参考図書を参照するなどしてキーワードについて事前に調べて、わからない点などを整理しておく。 復習：授業後に配布する「まとめプリント」の問題に答えて次週までに提出する。 キーワード：メタ倫理学・規範倫理学・応用倫理学、義務論・帰結主義・徳倫理学	守　博紀
5・6	環境倫理学１：環境倫理学の歴史・背景・問題	内容：環境倫理学が成立した歴史的・社会的背景と、そこで論じられる問題およびその意義・議論方法を説明する。とくに、環境保護や動物をめぐって生じる現代の環境問題について、広く共有されている直観と倫理学的思考との緊張関係を論じる。授業は主にPowerPointを使って配付資料に直接重要な語句を記入してもらう形で進めていく。 授業方法：講義 予習：参考図書を参照するなどしてキーワードについて事前に調べて、わからない点などを整理しておく。 復習：授業後に配布する「まとめプリント」の問題に答えて次週までに提出する。 キーワード：環境倫理学、動物の権利、世代間倫理、人間中心主義、種差別	守　博紀
7・8	環境倫理学２：倫理学理論からの考察／「正義」概念の重要性	内容：環境倫理学の問題（環境保護や動物の権利）に対する規範倫理学の主要三理論（義務論・帰結主義・徳倫理学）からのアプローチを概観し、その後、それぞれの議論を自分自身で吟味してもらう。その後、環境倫理学の鍵概念のひとつである「正義」概念を扱う。「正義」という言葉の歴史的な由来や、その現代的な意義、その中核的アイディアの実現可能性を確認したうえで、環境倫理学における世代間正義、環境正義、気候正義の概念を説明する。授業は主にPowerPointを使って配付資料に直接重要な語句を記入してもらう形で進めていく。 授業方法：講義 予習：参考図書を参照するなどしてキーワードについて事前に調べて、わからない点などを整理しておく。 復習：授業後に配布する「まとめプリント」の問題に答えて次週までに提出する。 キーワード：功利主義、義務論、徳倫理学、動物の権利、種差別	守　博紀
9・10	生命倫理学１：生命倫理学の歴史・背景・問題／医療資源配分問題	内容：生命倫理学が成立した歴史的・社会的背景と、そこで論じられる問題およびその意義・議論方法を説明する。とくに、生命や幸福の捉え方について、歴史的経緯と理論的分析の両面から考察する。また、医療資源配分問題およびそれに対する三つの考え方（功利主義・リベラル平等主義・リバタリアニズム）を理解する。授業は主にPowerPointを使って配付資料に直接重要な語句を記入してもらう形で進めていく。 授業方法：講義 予習：参考図書を参照するなどしてキーワードについて事前に調べて、わからない点などを整理しておく。 復習：授業の設問に答えたリアクションペーパーを作成し、次週までに提出する。 キーワード：生命、幸福、QOL、医療倫理の四原則、尊厳	守　博紀
11・12	生命倫理学２：医療者患者関係／出生前診断と選択的人工妊娠中絶	内容：医療者－患者関係をめぐる問題を考えるために、患者の権利の確立の歴史（ジュネーブ宣言、リスボン宣言）とインフォームド・コンセントおよびコンピテンス評価の基本的内容とそれをめぐる倫理的問題を理解する。また、出生前診断と選択的人工妊娠中絶をめぐる倫理的問題を理解する。まず、出生前診断の定義と背景および国内外の現状を確認し、選択的人工妊娠中絶をめぐる倫理的問題として、インフォームド・コンセントのあり方や障害者運動およびフェミニズム運動と出生前診断の関係を扱う。授業は主にPowerPointを使って配付資料に直接重要な語句を記入してもらう形で進めていく。 授業方法：講義 予習：参考図書を参照するなどしてキーワードについて事前に調べ、わからない点などを整理しておく。 復習：授業の設問に答えたリアクションペーパーを作成し、次週までに提出する。	守　博紀

		でに提出する。 キーワード：幸福、自律、インフォームド・コンセント、ニュルンベルク綱領	
13・14	生命倫理学３：脳死と臓器移植／安楽死	内容：脳死と臓器移植をめぐる倫理的問題を理解する。まず、脳死と臓器移植の歴史と現状を確認し、脳死と臓器移植の概念的なつながりを押さえたうえで、脳死と臓器移植をめぐる倫理的問題として、脳死を人の死と認めるべきかどうかの問題や、ドナーの同意の確認方法をめぐる問題を扱う。また、安楽死をめぐる問題を理解する。まず、安楽死や医師による自殺幇助が倫理的問題として取り上げられた事例と各国の法規制の現状を確認する。その上で、積極的安楽死や医師による自殺幇助の倫理的問題として、「死ぬ権利」は認められるのか、医療従事者のディレンマをどう考えるべきか、「滑りやすい坂」からの議論をどう考えるか、といった問題を考える。授業は主にPowerPointを使って配付資料に直接重要な語句を記入してもらう形で進めていく。 授業方法：講義 予習：参考図書を参照するなどしてキーワードについて事前に調べて、わからない点などを整理しておく。 キーワード：規範倫理学理論、脳死、臓器移植、、メタ倫理学、応用倫理学	守　博紀

【６】　事前・事後学習とその時間

講義前は、次回講義時に扱うトピックについて、参考書リストや配布資料に挙げた文献を参照するなどして、疑問点や不明点を整理し、コメントシートに記入して授業時に持参してください（60分）。講義後は、授業時の配布プリントを見直して理解を深め、コメントシートに記入して次回講義時に提出してください。また、応用倫理学の問題を考える課題の際には、授業の内容を振り返って論点を再確認した後、相異なる立場からなされるさまざまな主張の根拠や帰結を吟味しつつ、自分の考えをまとめられるようにしてください（60分）。

倫理学とは「善く生きるとはどういうことか」、また「私たちはどのような社会を目指すべきか」といった問題を考察した思想の格闘の歴史です。それは、看護の専門科目とは違って医療現場で直接役立つようなものではありません。それでも倫理学を学ぶことは、実践の基礎となる知的な体力を形成する上でも重要かつ有益な作業であるため、そのつもりで能動的に受講するようにしてください。

【７】　評価方法・基準

授業の前後で講義内容に関して理解の進展を自分自身で把握してもらうために、毎回、次回の講義内容についての事前の理解および講義後の理解の進展を、予習および復習としてコメントシートに書き、それを授業内課題として提出する（50%）。また、講義内容の理解度を確認するために定期試験レポートを書いてもらう（50%）。以上二点を総合的に判断し、合計60点以上を合格とする。

【８】　フィードバック方法

規範倫理学理論や応用倫理学の知識・理解を確認する授業内課題で書いてもらった意見やとくに印象に残った議論については、その次の授業の冒頭でコメントしてフィードバックとします。

【９】　教科書

特に教科書は指定しません。参考書はシラバス記載のもののほか、講義資料で明示します。
主にPowerPointスライドを使った講義となります。講義資料はPDF ファイルで事前に所定の方法で共有します（Moodleを予定）。
授業資料は各自で印刷持参するか、端末を持参して閲覧してください（印刷配布はしないので注意してください）。

【10】　参考書

赤林朗（編）（2017）『入門・医療倫理I』改訂版、勁草書房。
赤林朗（編）（2007）『入門・医療倫理II』勁草書房。
伊勢田哲治（2008）『動物からの倫理学入門』名古屋大学出版会。
香川知晶（2021）『命は誰のものか』増補改訂版、ディスカヴァー・トゥエンティワン（ディスカヴァー携書）。
児玉聡（2012）『功利主義入門――はじめての倫理学』筑摩書房（ちくま新書）。
児玉聡（2020）『実践・倫理学――現代の問題を考えるために』勁草書房。
小手川正二郎（2020）『現実を解きほぐすための哲学』トランスビュー。
小林亜津子（2011）『はじめて学ぶ生命倫理――「いのち」は誰が決めるのか』筑摩書房（ちくまプリマー新書）。
小林亜津子（2018）『QOLって何だろう――医療とケアの生命倫理』筑摩書房（ちくまプリマー新書）。
小林亜津子（2014）『生殖医療はヒトを幸せにするのか――生命倫理から考える』光文社（光文社新書）。
佐藤岳詩（2021）『心とからだの倫理学――エンハンスメントから考える』筑摩書房（ちくまプリマー新書）。
伏木信次・樫則章・霜田求（編）（2020）『生命倫理と医療倫理』第4版、金芳堂。
マイケル・ダン、トニー・ホープ（2020）『医療倫理超入門』児玉聡・赤林朗訳、岩波書店。
松田純（2018）『安楽死・尊厳死の現在――最終段階の医療と自己決定』中央公論新社（中公新書）。
森村進（2018）『幸福とは何か――思考実験で学ぶ倫理学入門』筑摩書房（ちくまプリマー新書）。
吉永明弘（2021）『はじめて学ぶ環境倫理――未来のために「しくみ」を問う』筑摩書房（ちくまプリマー新書）。

【11】　備考(関連科目等)

哲学、社会学、看護倫理学
2025DPとの関連：DP①・②・③・④・⑤

科目名(日本語)	**教育学**	必修・選択区分	授業形態	開講学期・学年	単位数
科目名(英語)	Pedagogy	選択	講義	春学期 1年	1単位 15時間
科目責任者	井上環				
担当教員	井上環				
科目責任者 連絡先(教室)	初回授業時に連絡先を伝える。				
オフィスアワー	Moodleのメッセージ機能、メールで随時質問等を受け付ける。				

【１】　授業方法(ALの要素、ICTの活用等)

１－１．アクティブラーニングについて

実施する

１－２．アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素

ディスカッション、ディベート
グループワーク

２－１．双方向授業でのＩＣＴの活用について

活用する

２－２．ＩＣＴを活用する場合、その具体的名称（クリッカー、タブレット端末等）

Moodle

【２】　授業概要

教育の哲学、歴史、理論、教育制度など、教育学の基礎を学修する。また、自己教育力や生涯学習などの教育全般について理解を深める。本科目は、看護学の健康教育、患者教育等の基礎知識として直接つながる科目である。

【３】　到達目標

1. 公教育制度成立の歴史やその原則について説明できる。
2. 教授と学習をめぐる諸理論について説明できる。
3. 子ども観の歴史的変遷を理解し、今日の子どもの特質や関わり方について自分の意見を述べることができる。
4. 教育の目的に関わる分析概念を理解し、それを自らの学びの分析に応用できる。
5. 発達に関わる諸理論について説明できる。
6. 障害者教育の歴史と理念および発達障害について説明できる。
7. 生涯学習をめぐる近年の議論および専門職の職能発達について説明できる。
8. 授業で得た教育学の知見をどのように看護に活かすか、自分の考えを述べることができる。

【４】　ディプロマ・ポリシーとの関連

到達目標を達成することにより、以下の能力を身につけることにつながります。

１．自然科学を看護活動の根拠とし、実践に活かす基礎的な力を有している。

３．他者の多様な価値観を理解し、尊重することができる。

４．看護職の社会的責任を理解し、看護実践にまつわる倫理的課題を感受する力と熟考する力、それらに基づく判断を行動に表す力を身につけている。

５．看護専門職として、リーダーシップおよびフォロワーシップを発揮し、チームの中で有機的に活動する資質を身につけている。

【5】　授業計画

	項目	内容および授業方法 予習・復習・キーワード	担当教員
1・2	ガイダンス、教育とは何か、近代公教育制度成立の歴史	内容：授業の進め方や評価方法等を理解する。公教育制度の意義について歴史を通じて学ぶ。 授業方法：講義、ペアワーク、グループワーク 予習：シラバスに目を通す。 復習：課題をまとめる過程で、配布資料やメモを見直す。他の受講者の提出課題を参考として、自身の見解の相対化や補完をする。 キーワード：育みつつ教えることとしての教育、教育の反省性、公教育制度が基づく三原則（無償・義務性・宗教的中立）	井上環
3・4	教える-学ぶの関係	内容：教育の中心にある、教えること（教授）と学ぶこと（学習）、およびそれらの関係について考える。 授業方法：講義、ペアワーク、グループワーク 予習：授業計画に目を通す。 復習：課題をまとめる過程で、配布資料やメモを見直す。他の受講者の提出課題を参考として、自身の見解の相対化や補完をする。 キーワード：関係の非対称性とパターナリズム、正統的周辺参加、学ぶ構え、学校知識の生産と伝達、反省的実践家、ヘレン＝ケラーとサリバン	井上環
5・6	子ども観の変遷	内容：人々の子ども観が社会構造や条件の変化および思想を通じて絶えず変遷してきたことを学ぶ。 授業方法：講義、ペアワーク、グループワーク 予習：授業計画に目を通す。 復習：課題をまとめる過程で、配布資料やメモを見直す。他の受講者の提出課題を参考として、自身の見解の相対化や補完をする。 キーワード：「小さな大人」としての子ども（フィリップ・アリエス）、子どもの発見（ジャン・ジャック・ルソー）、子ども観の三つのモデル、子どもの消滅（ニール・ポストマン、高橋勝）	井上環
7・8	教育の目的	内容：今日において教育の目的を改めて考える必要性や、その分析のためのツールとなる概念を学ぶ。 授業方法：講義、ペアワーク、グループワーク 予習：授業計画に目を通す。 復習：課題をまとめる過程で、配布資料やメモを見直す。他の受講者の提出課題を参考として、自身の見解の相対化や補完をする。 キーワード：有能化（資格化）・社会化・主体化（ガート・ビースタ）、無意図的教育、啓蒙思想（イマニュエル・カント）、文化的再生産論	井上環
9・10	発達と教育	内容：看護と教育の双方において重要となる発達という視点について理解する。 授業方法：講義、ペアワーク、グループワーク 予習：授業計画に目を通す。 復習：課題をまとめる過程で、配布資料やメモを見直す。他の受講者の提出課題を参考として、自身の見解の相対化や補完をする。 キーワード：発達段階説（ジャン・ピアジェ）、発達の最接近領域（レフ・ヴィゴツキー）、発達の生物学的規定因と社会的規定因、印内学級・訪問教育	井上環
11・12	特別支援教育	内容：障害者教育の歴史と理念および発達障害について学ぶ。 授業方法：講義、ペアワーク、グループワーク 予習：授業計画に目を通す。 復習：課題をまとめる過程で、配布資料やメモを見直す。他の受講者の提出課題を参考として、自身の見解の相対化や補完をする。 キーワード：特殊教育から特別支援教育へ、特別なニーズ、インクルーシヴ教育、発達障害	井上環
13・14	障害教育	内容：生涯学習に関する近年の議論を知り、専門職の職能発達について考える。 授業方法：講義、ペアワーク、グループワーク 予習：授業計画に目を通す。 復習：課題をまとめる過程で、配布資料やメモを見直す。他の受講者の提出課題を参考として、自身の見解の相対化や補完をする。 キーワード：リカレント教育論とその課題、アンドラゴジー、意識変容の学習、プリセプター制度	井上環

【6】　事前・事後学習とその時間

・授業計画を読んだうえで各回の授業に参加すること（予習10分程度）。授業内で得た知識を自分なりに深めることを重視するため、復習（1時間程度）に重きを置いて欲しい。
・グループワークを行う。積極的な参加を期待する。

【7】　評価方法・基準

課題の合計点（各回の課題10点×7回、最終課題30点×1回）で評価を行う。

【8】　フィードバック方法

課題の提出をmoodleで行い、必要に応じて個別にフィードバックする。また、課題の中から特徴的な見解や誤解等について全体で共有する必要がある場合は授業内でコメントする。
なお、提出された課題は原則、提出締め切り以降に受講者間で相互閲覧が可能となるよう共有する予定である。

【９】　教科書

毎回の授業で資料を配付する。資料はMoodle上でも共有する。

【10】　参考書

木村元編『系統看護学講座　基礎分野　教育学』医学書院、2021
古屋恵太編『教師のための教育学シリーズ2　教育の哲学・思想』学文社、2017
その他、授業の中で紹介する。

【11】　備考(関連科目等)

看護の専門教育科目へ、特に臨地実習関連
2025DPとの関連：DP①・②・③・④・⑤

科目名(日本語)	**組織論**	必修・選択区分	授業形態	開講学期・学年	単位数
科目名(英語)	Organization Theory	選択	講義	春学期 1年	1単位 15時間
科目責任者	斎藤智文				
担当教員	斎藤智文				
科目責任者 連絡先(教室)	メールアドレス：hatarakigai@gmail.com				
オフィスアワー	授業終了後10分程度、講義室で質問を受け付ける。				

【１】　授業方法(ALの要素、ICTの活用等)

１－１．アクティブラーニングについて

実施する

１－２．アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素

ディスカッション、ディベート
その他

「その他」の内容

質問に対して答えや自分の意見を話してもらう

２－１．双方向授業でのＩＣＴの活用について

活用する

２－２．ＩＣＴを活用する場合、その具体的名称（クリッカー、タブレット端末等）

Google Forms（リアクションペーパーを提出してもらいます）

【２】　授業概要

組織における働きがい、モチベーション、リーダーシップなどの概論、組織の構成メンバーの意思疎通、組織の目標達成までの過程を学習し、組織論の視点から身近な組織を理解する。本科目は、チーム医療、地域多機関連携、看護管理、在宅ステーション経営などの基礎知識に直接つながる科目である。
なお、本科目は公衆衛生看護管理をはじめとする保健師課程での学修につながる科目である。

【３】　到達目標

1.組織の機能、組織文化、リーダーシップ、モチベーション、チームワーク、組織における働きがいの意味を理解し、口頭ならびに文章で表現できるようになる。
2.働く個人の視点を大切にした経営組織を学び、働く者の立場で、どのような人材やチームが組織に貢献できるのかを考え、口頭ならびに文章で表現できるようになる。

【４】　ディプロマ・ポリシーとの関連

到達目標を達成することにより、以下の能力を身につけることにつながります。

１．自然科学を看護活動の根拠とし、実践に活かす基礎的な力を有している。

３．他者の多様な価値観を理解し、尊重することができる。

４．看護職の社会的責任を理解し、看護実践にまつわる倫理的課題を感受する力と熟考する力、それらに基づく判断を行動に表す力を身につけている。

５．看護専門職として、リーダーシップおよびフォロワーシップを発揮し、チームの中で有機的に活動する資質を身につけている。

【5】　授業計画

	項目	内容および授業方法 予習・復習・キーワード	担当教員
1・2	イントロダクション、マクロ組織論とミクロ組織論	内容：経営学と組織論、組織の構造・体系、組織に属する個人や小集団 授業方法：講義 予習：『働きがいのある会社とは何か』第1章（pp.7-16)を読んで、内容を把握する 復習：組織について自分の身の回りの問題と照らし合わせて理解する。医療機関の組織と照らし合わせる キーワード：バーナード、組織を成立させる3要素、マックス・ウェーバー、官僚制組織とその逆機能、階層、組織目標と個人の役割、基本的な組織形態、GPTWモデル	斎藤　智文
3・4	生産管理における組織論	内容：科学的管理法と能率学 授業方法：講義 予習：『働きがいのある会社とは何か』第2章（pp.17-22）を読んで、内容を把握する 復習：『働きがいのある会社とは何か』第6章（pp.61-68）を読んで、内容を把握する キーワード：能率と効率、生産工学、差別的出来高給制度、時間研究・動作研究、テイラー、ギルブレス夫妻、フォード生産方式	斎藤　智文
5・6	組織における知識創造	内容：知識創造、協業と分業、チームワーク 授業方法：講義 予習：『働きがいのある会社とは何か』第14章（pp.146-160）を読んで、内容を把握する 復習：成功の循環モデルの身近な例を考える キーワード：野中郁次郎のSECIモデル、暗黙知・形式知、カール・ワイクの成功の循環モデル	斎藤　智文
7・8	組織と意思決定	内容：サイモンの理論、アンゾフの理論 授業方法：講義 予習：『働きがいのある会社とは何か』第8章（pp.81-86）を読んで、内容を把握する 復習：組織の意思決定がどのように行われるかを、実際の例と照らし合わせて理解する。 キーワード：限定合理性、満足化原理、戦略的意思決定・管理的意思決定・業務的意思決定、PDCAサイクル、OODAループ	斎藤　智文
9・10	組織文化と組織風土	内容：組織文化と組織風土の違い 授業方法：講義 予習：『働きがいのある会社とは何か』第9章（pp.87-100）を読んで、内容を把握する 復習：東邦大学の組織文化を類型と照らし合わせる。 キーワード：セオリーZ 、エクセレント・カンパニー 、組織文化の氷山モデル、エドガー・シャイン、キャメロンとクインの競合価値観モデル	斎藤　智文
11・12	組織における働きがいとモチベーション	内容：組織における働きがい、モチベーション（動機づけ） 授業方法：講義 予習：『働きがいのある会社とは何か』第7章（pp.69-80）を読んで、内容を把握する 復習：どのような時に動機づけられるかを身近な例と照らし合わせる。 キーワード：ロバート・レベリングの「働きがい理論」、ホーソン実験、マズローの「欲求5段階説」、マクレガーの「X理論・Y理論」、ハーズバーグの「動機づけ衛生理論」、エドワード・デシの「内発的動機づけ理論」	斎藤　智文
13・14	リーダーシップとフォロワーシップ	内容：リーダーシップ、フォロワーシップ 授業方法：講義 予習：『働きがいのある会社とは何か』第15章（pp.161-169）を読んで、内容を把握する 復習：リーダーがメンバーに及ぼす影響を身近な例と照らし合わせる。 キーワード： ボスとリーダーの違い、リーダーシップ特性論、リーダーシップ行動論、リーダーシップ条件適応理論、PM理論、マネジリアル・グリッド理論、ドラッカーのリーダーシップ論、サーバント・リーダーシップ	斎藤　智文

【6】　事前・事後学習とその時間

予習では、講義の理解度を高めるために、テキストの指定した章を読み、どのように理解したかをレポートにまとめる。（60分～90分程度）
復習において、1）講義内容を自ら再度説明できるようにする、2） 学んだ理論が現実のどのような場面にどう対応しているかを自ら推察する、という２点が求められる。
この授業は、学んだ学説を現実と照らし合わせて理解するために、復習１時間程度を費やします。

【学習上の留意点】
講義のノートをしっかりとれるように心がけてください。

【７】　評価方法・基準

期末試験80％＋授業内ミニテスト20％
※出席点は含まれない
期末試験の代替として期末レポートを提出してもらいます。
レポートとはいうものの、試験ですので、自分でいろいろ調べるものではなく、授業の内容について、どのように理解したかを説明してもらう問題になっています。
欠席・遅刻・早退を毎授業、確認します。

【８】　フィードバック方法

授業内ミニテスト：全体に解答を解説します。

【９】　教科書

ロバート・レベリング『働きがいのある会社とは何か』晃洋書房、2022年
パワーポイントを映写して講義し、資料は都度配布する。

【10】　参考書

小倉真治『組織論からみた病院経営』へるす出版、2019年

【11】　備考(関連科目等)

コミュニケーション論、公衆衛生看護学概論、リスクマネジメント、看護管理論、チーム活動論
2025DPとの関連：DP①・②・③・④・⑤

科目名(日本語)	**経済学**	必修・選択区分	授業形態	開講学期・学年	単位数
科目名(英語)	Economics	選択	講義	春学期 1年	1単位 15時間
科目責任者	山方竜二				
担当教員	山方竜二				
科目責任者 連絡先(教室)	山方 竜二、Moodleのメッセージ機能にて連絡すること。（理学部Ⅳ号館3階4332）				
オフィスアワー	水曜 13:00～14:00（理学部Ⅳ号館3階4332） Moodleの「質問コーナー」の利用もお勧めします。 その他は事前に連絡のこと。				

【１】　授業方法(ALの要素、ICTの活用等)

１－１．アクティブラーニングについて

実施しない

１－２．アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素

２－１．双方向授業でのＩＣＴの活用について

活用する

２－２．ＩＣＴを活用する場合、その具体的名称（クリッカー、タブレット端末等）

Moodleを用います。
授業内でMoodleにアクセスする場合もありますので、スマートホンなどの携帯通信機器を教室に持参してください。

【２】　授業概要

医療・介護等に関わる社会政策と、経済の関係を理解するための手掛かりとして、現代経済学の問題意識と基本的な枠組み、そこに登場する有用な概念を学ぶ。現在わが国が直面する様々な問題とも絡めつつ、経済学的な思考力を涵養する。

【３】　到達目標

1. 需要曲線の性質について説明できる。
2. 供給曲線の性質について説明できる。
3. 市場均衡について説明できる。
4. 前提となる条件が変化したとき、市場均衡がどのように変化するか説明できる。
5. 競争市場の効率性について説明できる。
6. 独占市場と競争市場の違いについて説明できる。
7. 市場の失敗を、医療・介護等のサービスと関連させて説明できる。
8. 市場における情報の非対称性の存在が、医療・介護等のサービスに与える影響について説明できる。
9. 機会費用について説明できる。
10. 金融市場の働きを説明できる。

【４】　ディプロマ・ポリシーとの関連

到達目標を達成することにより、以下の能力を身につけることにつながります。

１．自然科学を看護活動の根拠とし、実践に活かす基礎的な力を有している。

５．看護専門職として、リーダーシップおよびフォロワーシップを発揮し、チームの中で有機的に活動する資質を身につけている。

【5】　授業計画

	項目	内容および授業方法 予習・復習・キーワード	担当教員
1・2回	経済学とは	内容： 経済学の基本問題 経済学の基本用語 経済循環 経済問題へのアプローチ方法 理論モデルの重要性 経済学を学ぶ意義 授業方法：講義 予習・復習：予習なし、復習は講義の際に提示する キーワード：希少性　財　経済主体　生産要素　市場 いくつかの質問にMoodleを活用する。	山方竜二
3・4回	需要	内容： 需要曲線の概要 需要曲線のシフト 需要の価格弾力性 授業方法：講義 予習・復習：講義毎に提示する キーワード：プライステイカー　消費者余剰　需要法則 いくつかの質問にMoodleを活用する。	山方竜二
5・6回	供給	内容： 供給曲線の概要 供給曲線のシフト 供給の価格弾力性 授業方法：講義 予習・復習：講義毎に提示する キーワード：供給法則　生産者余剰 いくつかの質問にMoodleを活用する。	山方竜二
7・8回	市場均衡／市場の効率性	内容： 市場均衡 比較静学 市場の効率性 授業方法：講義 予習・復習：講義毎に提示する キーワード：超過需要　超過供給　総余剰 いくつかの質問にMoodleを活用する。	山方竜二
9・10回	市場の失敗	内容： 競争の欠如 外部性 公共財 授業方法：講義 予習・復習：講義毎に提示する キーワード：市場の失敗　独占　外部経済　外部不経済　非排除性 非競合性　フリーライダー いくつかの質問にMoodleを活用する。	山方竜二
11・12回	不確実性と情報	内容： リスクと意思決定 逆選択 モラルハザード 授業方法：講義 予習・復習：講義毎に提示する キーワード：確実性等価　リスクプレミアム　情報の非対称性　スクリーニング　シグナリング いくつかの質問にMoodleを活用する。	山方竜二
13・14回	機会費用と意思決定／金融市場の役割	内容： 明示的費用と潜在的費用 所得・消費・貯蓄 実物投資と金融投資 金融資産の概要 授業方法：講義 予習・復習：講義毎に提示する キーワード：実物資本　減価償却　本源的証券 いくつかの質問にMoodleを活用する。	山方竜二

【6】　事前・事後学習とその時間

高校での政治・経済の知識は必要としません。この授業では、教科書を指定しないため、準備学習としては復習が中心となります。復習では、学んだ内容を自分で改めて説明できるように、授業ノートに書き込みを行いながら理解を深めてください。予習に０．５時間程度、復習はMoodleでの小テスト・課題の作業を含め１．５時間程度を費やします。予習や復習の際、疑問に思ったことをミニッツペーパーや次回授業、オフィスアワーを利用して質問してください。授業中に疑問点はすぐに質問することを心がけてください。授業以外にも、日頃からニュースなどに触れ、社会に対する関心を養ってください。

【7】　評価方法・基準

定期試験(40%)，小テスト・提出課題(60%)。発言回数により小テスト・課題得点に加点します。

【8】　フィードバック方法

小テスト・提出課題や定期試験に対して履修者全体ができていなかった点や、改善点に関する講評を行います。
また、ミニッツペーパーに対するフィードバックを適宜実施します。

【９】　教科書

資料を授業時または事前にMoodleにて配布します。
Moodleで【要印刷】とした資料は、必ず印刷して持参してください。

【10】　参考書

角田由佳（２００７）看護師の働き方を経済学から読み解く　看護のポリティカル・エコノミー　他
授業内で適宜紹介します。

【11】　備考(関連科目等)

社会科学系科目全般
2025DPとの関連：DP①・②・④

科目名(日本語)	**文学**	必修・選択区分	授業形態	開講学期・学年	単位数
科目名(英語)	Literature	選択	講義	春学期 1年	1単位 15時間
科目責任者	小堀洋平				
担当教員	小堀洋平				
科目責任者 連絡先(教室)	講義内で開示する。				
オフィスアワー	開講日授業終了後30分、講義室にて質問を受け付ける。				

【１】　授業方法(ALの要素、ICTの活用等)

１－１．アクティブラーニングについて
実施する

１－２．アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素
ディスカッション、ディベート

２－１．双方向授業でのＩＣＴの活用について
活用する

２－２．ＩＣＴを活用する場合、その具体的名称（クリッカー、タブレット端末等）
Moodle

【２】　授業概要

日本近代文学のなかから、人の生死、病、老いなどをテーマとした代表的作品を採り上げて読解する。それらの作品で提起された問題について、これまでどのように論じられてきたかを踏まえたうえで、履修者どうしで議論し、各自の考えを文章化する。

【３】　到達目標

1. 授業で採り上げた近代日本の文学作品の内容と形式について説明できる。
2. それらの作品で提起された諸問題に関する研究史の概要を説明できる。
3. それらの諸問題についての自身の考えを適切な形式で言語化できる。

【４】　ディプロマ・ポリシーとの関連

到達目標を達成することにより、以下の能力を身につけることにつながります。

１．自然科学を看護活動の根拠とし、実践に活かす基礎的な力を有している。

３．他者の多様な価値観を理解し、尊重することができる。

【５】　授業計画

	項目	内容および授業方法 予習・復習・キーワード	担当教員
1，2 回	ガイダンス、夏目漱石「夢十夜」の概要	内容：この授業の目的および内容・形式を説明する。文学に対する関心を共有する。夏目漱石「夢十夜」の概要を解説する。 授業方法：講義、ディスカッション 予習：シラバスを通読する。 復習：授業で解説された「夢十夜」の概要を整理する。 キーワード：日本近代文学	小堀洋平
3，4 回	「夢十夜」第一夜・第二夜	内容：「夢十夜」第一夜・第二夜を読み、そこで提起された問題について議論し、履修者各自の考えを文章化する。 授業方法：講義、ディスカッション 予習：「夢十夜」第一夜・第二夜本文を通読する。 復習：「夢十夜」第一夜・第二夜に関して授業内で提起された問題についての研究史および自身の考えを整理する。 キーワード：日本近代文学	小堀洋平
5，6 回	「夢十夜」第三夜・第四夜	内容：「夢十夜」第三夜・第四夜を読み、そこで提起された問題について議論し、履修者各自の考えを文章化する。 授業方法：講義、ディスカッション 予習：「夢十夜」第三夜・第四夜本文を通読する。 復習：「夢十夜」第三夜・第四夜に関して授業内で提起された問題についての研究史および自身の考えを整理する。 キーワード：日本近代文学	小堀洋平
7，8 回	「夢十夜」第五夜・第六夜	内容：「夢十夜」第五夜・第六夜を読み、そこで提起された問題について議論し、履修者各自の考えを文章化する。 授業方法：講義、ディスカッション 予習：「夢十夜」第五夜・第六夜本文を通読する。 復習：「夢十夜」第五夜・第六夜に関して授業内で提起された問題についての研究史および自身の考えを整理する。 キーワード：日本近代文学	小堀洋平
9，10 回	「夢十夜」第七夜・第八夜	内容：「夢十夜」第七夜・第八夜を読み、そこで提起された問題について議論し、履修者各自の考えを文章化する。 授業方法：講義、ディスカッション 予習：「夢十夜」第七夜・第八夜本文を通読する。 復習：「夢十夜」第七夜・第八夜に関して授業内で提起された問題についての研究史および自身の考えを整理する。 キーワード：日本近代文学	小堀洋平
11，12 回	「夢十夜」第九夜・第十夜	内容：「夢十夜」第九夜・第十夜を読み、そこで提起された問題について議論し、履修者各自の考えを文章化する。 授業方法：講義、ディスカッション 予習：「夢十夜」第九夜・第十夜本文を通読する。 復習：「夢十夜」第九夜・第十夜に関して授業内で提起された問題についての研究史および自身の考えを整理する。 キーワード：日本近代文学	小堀洋平
13，14 回	「夢十夜」全体の振り返り	内容：「夢十夜」を全体として振り返り、そこで提起された問題について議論し、履修者各自の考えを文章化する。 授業方法：講義、ディスカッション 予習：「夢十夜」全体から特に関心のある話を抽出する。 復習：「夢十夜」の全体に関して授業内で提起された問題についての研究史および自身の考えを整理する。 キーワード：日本近代文学	小堀洋平

【６】　事前・事後学習とその時間

事前に対象作品（抜粋プリントを配布）を通読すること。事後に授業内で提起された問題に関する研究史と自身の考えを整理すること。平均して毎週２時間の事前・事後学習が求められる。

【７】　評価方法・基準

授業への参加・貢献（ディスカッションでの発言等、5%×7回）35%、最終レポート65%

【８】　フィードバック方法

毎回のリアクションペーパーから抜粋してフィードバックする。

【９】　教科書

プリントを配布する。

【10】　参考書

授業内で必要に応じて指示する。

【11】　備考(関連科目等)

社会学、人類学、哲学、倫理学
2025DPとの関連：DP①・④・⑤

科目名(日本語)	**人類学**	必修・選択区分	授業形態	開講学期・学年	単位数
科目名(英語)	Anthropology	選択	講義	春学期 1年	1単位 15時間
科目責任者	市田雅崇				
担当教員	市田雅崇				
科目責任者 連絡先(教室)	Moodle				
オフィスアワー	授業終了前後（教室）、またはMoodleのメッセージで質問を受ける。				

【１】　授業方法(ALの要素、ICTの活用等)

１－１．アクティブラーニングについて

実施しない

１－２．アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素

２－１．双方向授業でのＩＣＴの活用について

活用する

２－２．ＩＣＴを活用する場合、その具体的名称（クリッカー、タブレット端末等）

Moodle

【２】　授業概要

文化人類学の基礎知識と方法を学修し、世界の様々な国・地域の生活の多様性から人間文化の共通性や一般性を知り、人間の理解を深めていく。

【３】　到達目標

文化の多様性と共通性、文化の相対主義的な視点を説明できる。
自分とは異なる価値観を持つ他者と対話することができる。

【４】　ディプロマ・ポリシーとの関連

到達目標を達成することにより、以下の能力を身につけることにつながります。

１．自然科学を看護活動の根拠とし、実践に活かす基礎的な力を有している。

３．他者の多様な価値観を理解し、尊重することができる。

【５】　授業計画

	項目	内容および授業方法 予習・復習・キーワード	担当教員
1・2	文化人類学とはなにか	内容：授業の進め方、文化人類学を概観 授業方法：講義、映像 予習：なし 復習：前述【6】事前・事後学習を参照 キーワード：文化人類学、フィールドワーク、民族誌	市田　雅崇
3・4	婚姻	内容：アフリカの牧畜民の世界を紹介し、多様な婚姻のあり方を考える。 授業方法：講義 予習・復習：前述【6】事前・事後学習を参照 キーワード：牧畜民、婚姻	市田　雅崇
5・6	女神の信仰	内容：ネパールの女性の生き方について紹介し、文化により多様な女性のあり方を考える。 授業方法：講義 予習・復習：前述【6】事前・事後学習を参照 キーワード：女神信仰	市田　雅崇
7・8	衣装	内容：東南アジアの民族衣装を紹介し、現代における伝統文化のあり方を考える。 授業方法：講義 予習・復習：前述【6】事前・事後学習を参照 キーワード：民族衣装、文化資源	市田　雅崇
9・10	サードジェンダー	内容：サードジェンダーについて紹介し、文化により多様なジェンダーを考える。 授業方法：講義 予習・復習：前述【6】事前・事後学習を参照 キーワード：サードジェンダー	市田　雅崇
11・12	出産	内容：ベトナムのモンの世界観を事例に、出産をめぐる医療のあり方を考える。 授業方法：講義 予習・復習：前述【6】事前・事後学習を参照 キーワード：先住民知識、死生観	市田　雅崇
13・14	巡礼	内容：サンティアゴ巡礼を事例に、現代の巡礼の文化的な意味を考える。 授業方法：講義 予習・復習：前述【6】事前・事後学習を参照 キーワード：巡礼、ツーリズム	市田　雅崇

【６】　事前・事後学習とその時間

準備学習：（予習）あらかじめ配布された資料に目を通し、関心がある事柄をまとめる（30分）。
（復習）授業を受けて、自分の立場との共通点・違いをまとめる（30分）。
学習上の留意点：世界情勢や文化的なことに関する時事問題を新聞等で目を通しておく。
提出課題は毎回あり、課題の内容は授業内でアナウンスする。

【７】　評価方法・基準

提出課題（授業内課題）によって評価する（100%）。

【８】　フィードバック方法

提出された授業内課題について授業内でコメント。

【９】　教科書

特に用いない。必要に応じて資料を配布する。

【10】　参考書

日本文化人類学会編『文化人類学事典』（丸善出版、2009年）
国立民族学博物館編『世界民族百科事典』（丸善出版、2014年）

【11】　備考(関連科目等)

社会学、経済学、文学、哲学、倫理学、心理学、教育学、組織論、自然科学概論、各看護学の概論
2025DPとの関連：DP①・④・⑤

科目名(日本語)	**哲学**	必修・選択区分	授業形態	開講学期・学年	単位数
科目名(英語)	Philosophy	選択	講義	春学期 1年	1単位 15時間
科目責任者	成田正人				
担当教員	成田正人				
科目責任者 連絡先(教室)	初回の授業時に連絡方法を伝えます。				
オフィスアワー	木曜日5限（13:00～13:50）の理学部Ｖ号館５階講師室と授業後（20分程度）				

【１】　授業方法(ALの要素、ICTの活用等)

１－１．アクティブラーニングについて

実施する

１－２．アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素

ディスカッション、ディベート
グループワーク

２－１．双方向授業でのＩＣＴの活用について

活用する

２－２．ＩＣＴを活用する場合、その具体的名称（クリッカー、タブレット端末等）

Moodle

【２】　授業概要

哲学の基本的な学説と歴史的な経緯を学び、人間の理解を深め、哲学的なものの見方･考え方を学習する。哲理を用いて身の回りの事象を読み解く能力を養う。本科目は、看護実践の拠り所となる看護観の涵養や、看護現象における看護の本質・原理を探究するために必要な基礎知識に直接つながる科目である。

【３】　到達目標

・哲学史上の有名な問題や議論について、歴史的な背景や論理的な構造も含め、理解することができる。
・哲学の根本的な問題や学説について、批判的に思考し、自らの考えを適切に表現することができる。
・看護実践を志す自分自身の問題について、対話や論述を通して、自ら哲学すること楽しむことができる。

【４】　ディプロマ・ポリシーとの関連

到達目標を達成することにより、以下の能力を身につけることにつながります。

１．自然科学を看護活動の根拠とし、実践に活かす基礎的な力を有している。

３．他者の多様な価値観を理解し、尊重することができる。

４．看護職の社会的責任を理解し、看護実践にまつわる倫理的課題を感受する力と熟考する力、それらに基づく判断を行動に表す力を身につけている。

５．看護専門職として、リーダーシップおよびフォロワーシップを発揮し、チームの中で有機的に活動する資質を身につけている。

【5】　授業計画

	項目	内容および授業方法 予習・復習・キーワード	担当教員
１・２回	概説と導入	授業内容：授業の進め方と受け方を確認し、哲学について導入的な説明をします。 授業方法：講義・質疑応答 予習：シラバスをよく読んでおいてください。 復習：授業計画と評価方法を再確認し、哲学史を振り返っておいてください。 キーワード：授業計画・成績評価・哲学史・哲学対話	成田正人
３・４回	哲学とは何なのか？	授業内容：哲学の真理探究について、哲学書からの引用を読み、対話を通して話し合います。 授業方法：講義・発表・ディスカッション 予習：資料をよく読み、気になった引用について疑問や反論などを書いてください。 復習：授業内で気になった引用を読み直し、さらに自分でじっくり考えてみてください。 キーワード：タウマゼイン・イデア論・ロゴス・言語ゲーム・経験主義のドグマ	成田正人
５・６回	よい人生とはどのようなものか？	授業内容：善悪や幸福について、哲学書からの引用を読み、対話を通して話し合います。 授業方法：講義・発表・ディスカッション 予習：資料をよく読み、気になった引用について疑問や反論などを書いてください。 復習：授業内で気になった引用を読み直し、さらに自分でじっくり考えてみてください。 キーワード：魂の配慮・エウダイモニア・卓越性・善意志・功利主義・ニヒリズム	成田正人
７・８回	何が本当に存在するのか？	授業内容：神や世界の存在について、哲学書からの引用を読み、対話を通して話し合います。 授業方法：講義・発表・ディスカッション 予習：資料をよく読み、気になった引用について疑問や反論などを書いてください。 復習：授業内で気になった引用を読み直し、さらに自分でじっくり考えてみてください。 キーワード：不動の動者・存在論的証明・方法的懐疑・最善世界・事象内容・可能世界	成田正人
９・10回	心はどこにあるのか？	授業内容：意識や外界について、哲学書からの引用を読み、対話を通して話し合います。 授業方法：講義・発表・ディスカッション 予習：資料をよく読み、気になった引用について疑問や反論などを書いてください。 復習：授業内で気になった引用を読み直し、さらに自分でじっくり考えてみてください。 キーワード：コギト・心身問題・知覚の束・超越論的統覚・私秘性・哲学的ゾンビ	成田正人
11・12回	なぜ過去から未来がわかるのか？	授業内容：時間と因果について、哲学書からの引用を読み、対話を通して話し合います。 授業方法：講義・発表・ディスカッション 予習：資料をよく読み、気になった引用について疑問や反論などを書いてください。 復習：授業内で気になった引用を読み直し、さらに自分でじっくり考えてみてください。 キーワード：運動変化・現在主義・記憶・五分前世界創造・因果的決定論・帰納の問題	成田正人
13・14回	対話と論述	授業内容：哲学対話について振り返り、対話形式の論述試験を行います。 授業方法：講義・質疑応答・試験 予習：対話のテーマとなる問いと対話の大まかな流れを考えておいてください。 復習：論述試験で書ききれなかったことをさらにじっくり考えてみてください。 キーワード：哲学対話・WRAITEC・論述試験	成田正人

【6】　事前・事後学習とその時間

事前学習では、配布資料にまとめられた哲学書の引用を精読し、各引用で何がどのように論じられているのかを自分でよく考えてみてください。また、そのときに生じた疑問や反論などは授業内で話せるように書き留めておいてください。事後学修では、授業内で気になった問題や学説について、改めて引用を読み直し、論述試験の主題や展開も見据えながら、さらに自分でじっくり考えてみてください。事前学習と事後学習は合わせて２時間程度かかるでしょう。

【7】　評価方法・基準

論述試験（60%）、課題（20%）、発言回数（20%）で総合的に評価します。

【8】　フィードバック方法

課題は、特に優れたものを授業内で紹介し、全体的なフィードバックを行ってから、各自に返却します。

【9】　教科書

古典的な哲学書からの引用をまとめた資料を授業内で配布します。

【10】　参考書

授業内で書籍や論文を紹介します。

【11】　備考(関連科目等)

看護倫理学
2025DPとの関連：DP①・②・③・④・⑤

科目名(日本語)	**人体の構造と機能Ⅰ**	必修・選択区分	授業形態	開講学期・学年	単位数
科目名(英語)	Structure and Function of Human Body Ⅰ	必修	講義	春学期 1年	2単位 30時間
科目責任者	松山高明				
担当教員	松山　高明				
科目責任者 連絡先(教室)	matsu-tk@koto.kpu-m.ac.jp				
オフィスアワー	講義の前後（概ね30分前後、もしくは講義のある日の昼休み）。それ以外はメールに限る。				

【１】　授業方法(ALの要素、ICTの活用等)

１－１．アクティブラーニングについて

実施しない

１－２．アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素

２－１．双方向授業でのＩＣＴの活用について

活用しない

【２】　授業概要

人体の基本的な構造と機能を系統的に学ぶとともに、ホメオスタシスや生体を防御するしくみ、生命をつなぐ生殖、生物の証である個体の老化などについて学び、人間の身体内部で繰り広げられている生命活動、健康問題要因を理解する。

【３】　到達目標

1. 細胞や組織、臓器、人体の関連を説明できる。
2. 主要な骨の名称や筋肉とそれらの関係、構造と機能について説明できる。
3. 呼吸器系臓器の名称や構造と機能について説明できる。
4. 血液の成分の名称と構造、機能について説明できる。
5. 循環器系臓器の名称や機能と構造について説明できる。

【４】　ディプロマ・ポリシーとの関連

到達目標を達成することにより、以下の能力を身につけることにつながります。

１．自然科学を看護活動の根拠とし、実践に活かす基礎的な力を有している。

２．看護学の専門知識と技術を修得している。

４．看護職の社会的責任を理解し、看護実践にまつわる倫理的課題を感受する力と熟考する力、それらに基づく判断を行動に表す力を身につけている。

【５】　授業計画

	項目	内容および授業方法 予習・復習・キーワード	担当教員
1・2	導入・解剖生理学の基礎(1)	内　　容：導入・解剖生理学の基礎 授業方法：講義（教科書に準じた講義を行う。補足が必要な部分は別途写真資料などを供覧する） 予　　習：教科書p2～6，8～15，502～510を読む 復　　習：各自のノートや講義プリントを見直し、教科書や参考書を読み直して、知識の習得に努めること。 キーワード：人体の構造・器官・人体の用語・細胞の構造	松山　高明
3・4	導入・解剖生理学の基礎(2)	内　　容：導入・解剖生理学の基礎 授業方法：講義（教科書に準じた講義を行う。補足が必要な部分は別途写真資料などを供覧する） 予　　習：教科書p27～54を読む 復　　習：各自のノートや講義プリントを見直し、教科書や参考書を読み直して、知識の習得に努めること。 キーワード：エネルギーの生成・細胞膜・遺伝子・細胞周期・組織・器官・ホメオスタシス	松山　高明
5・6	運動器：筋・骨格系（１）	内　　容：人体の部位と器官・運動器：筋・骨格系 授業方法：講義（教科書に準じた講義を行う。補足が必要な部分は別途写真資料などを供覧する） 予　　習：教科書p16～27，282～297（可能ならそれ以降も）を読む 復　　習：各自のノートや講義プリントを見直し、教科書や参考書を読み直して、知識の習得に努めること。 キーワード：体表から触知できる骨格部分や筋・骨格・骨の構造・骨の名称・関節・骨格筋	松山　高明
7・8	運動器：筋・骨格系（２）	内　　容：運動器：筋・骨格系 授業方法：講義（教科書に準じた講義を行う。補足が必要な部分は別途写真資料などを供覧する） 予　　習：教科書p297～320（可能ならそれ以降も）を読む 復　　習：各自のノートや講義プリントを見直し、教科書や参考書を読み直して、知識の習得に努めること。 キーワード：体幹部・上肢	松山　高明
9・10	運動器：筋・骨格系（3）	内　　容：運動器：筋・骨格系 授業方法：講義（教科書に準じた講義を行う。補足が必要な部分は別途写真資料などを供覧する） 予　　習：教科書p320～339（可能ならそれ以降も）を読む 復　　習：各自のノートや講義プリントを見直し、教科書や参考書を読み直して、知識の習得に努めること。 キーワード：下肢、・頭頸部	松山　高明
11・12	運動器：筋・骨格系（４）	内　　容：運動器：筋・骨格系 授業方法：講義（教科書に準じた講義を行う。補足が必要な部分は別途写真資料などを供覧する） 予　　習：教科書p339～355を読む 復　　習：各自のノートや講義プリントを見直し、教科書や参考書を読み直して、知識の習得に努めること。 キーワード：筋の収縮・横紋筋・平滑筋	松山　高明
13・14	呼吸器（１）	内　　容：呼吸器 授業方法：講義（教科書に準じた講義を行う。補足が必要な部分は別途写真資料などを供覧する） 予　　習：教科書p97～103を読む（可能ならそれ以降も） 復　　習：各自のノートや講義プリントを見直し、教科書や参考書を読み直して、知識の習得に努めること。 キーワード：呼吸・上気道・下気道	松山　高明
15	呼吸器（２）	内　　容：呼吸器 授業方法：講義（教科書に準じた講義を行う。補足が必要な部分は別途写真資料などを供覧する） 予　　習：教科書p103～112（可能ならそれ以降も）を読む 復　　習：各自のノートや講義プリントを見直し、教科書や参考書を読み直して、知識の習得に努めること。 キーワード：肺・区域・胸膜・縦隔・呼吸の機能	松山　高明
16・17	呼吸器（3）	内　　容：呼吸器 授業方法：講義（教科書に準じた講義を行う。補足が必要な部分は別途写真資料などを供覧する） 予　　習：教科書p113～126を読む 復　　習：各自のノートや講義プリントを見直し、教科書や参考書を読み直して、知識の習得に努めること。 キーワード：肺胞の機能・呼吸気量・ガス交換・肺循環・呼吸障害	松山　高明
18・19	血　液（１）	内　　容：血　液 授業方法：講義（教科書に準じた講義を行う。補足が必要な部分は別途写真資料などを供覧する） 予　　習：教科書p126～140を読む（可能ならそれ以降も） 復　　習：各自のノートや講義プリントを見直し、教科書や参考書を読み直して、知識の習得に努めること。 キーワード：血液の組成・血球・血清・血餅・血漿	松山　高明

20・21	血　液（２）	内　　容：血　液 授業方法：講義（教科書に準じた講義を行う。補足が必要な部分は別途写真資料などを供覧する） 予　　習：教科書p140～148を読む 復　　習：各自のノートや講義プリントを見直し、教科書や参考書を読み直して、知識の習得に努めること。 キーワード：血液凝固・線容系・血液型・Rh不適合妊娠	松山　高明
22・23	循環器（１）	内　　容：循環器 授業方法：講義（教科書に準じた講義を行う。補足が必要な部分は別途写真資料などを供覧する） 予　　習：教科書p150～175を読む（可能ならそれ以降も） 復　　習：各自のノートや講義プリントを見直し、教科書や参考書を読み直して、知識の習得に努めること。 キーワード：体循環・心臓・心房・心室・冠動脈	松山　高明
24・25	循環器（２）	内　　容：循環器 授業方法：講義（教科書に準じた講義を行う。補足が必要な部分は別途写真資料などを供覧する） 予　　習：教科書p150～175を読む（可能ならそれ以降も） 復　　習：各自のノートや講義プリントを見直し、教科書や参考書を読み直して、知識の習得に努めること。 キーワード：心拍動・刺激伝導系・心電図・心周期・負荷	松山　高明
26	循環器（３）	内　　容：循環器 授業方法：講義（教科書に準じた講義を行う。補足が必要な部分は別途写真資料などを供覧する） 予　　習：教科書p175～208（可能ならそれ以降も） 復　　習：各自のノートや講義プリントを見直し、教科書や参考書を読み直して、知識の習得に努めること。 キーワード：脈管・動脈・毛細血管・静脈	松山　高明
27	循環器（４）	内　　容：循環器 授業方法：講義（教科書に準じた講義を行う。補足が必要な部分は別途写真資料などを供覧する） 予　　習：教科書p175～208（可能ならそれ以降も）を読む 復　　習：各自のノートや講義プリントを見直し、教科書や参考書を読み直して、知識の習得に努めること。 キーワード：血圧・チアノーゼ・低血圧・微小循環・浮腫・心不全・リンパ・リンパ管	松山　高明

【６】　事前・事後学習とその時間

予習：教科書の当該箇所を読み、理解できない箇所をリストアップしておくこと。
講義：講義では教科書の内容を扱い、授業計画に沿って進行する。追加でスライド資料や印刷資料を配付することもあるが、教科書の内容に準拠して講義するので、教科書を必ず持参すること。講義中に出席を確認し、必要があれば終了時にリアクションペーパーなどを提出する。
復習：理解できないところについては質問したり各種参考書を確認したりすることにより疑問は必ず早期に解決しておくこと。
学習上の留意点：この講義で学ぶ内容は、看護・医療を学ぶ上で基礎となる重要な事項である。試験前にまとめて勉強しようとしても内容が難しかったり、記憶する内容が多く、定期試験直前の勉強だけでは、看護師を目指す上での基礎知識として定着しない可能性もある。日々コツコツと予習・復習することが大切である(それぞれ1～2時間程度が必要)。なお、人の身体の構造・機能を学ぶ上で、実際の人体・臓器を基に学ぶことは理解を深める上でとても重要である。講義の中では理解を深めるため実際の解剖の写真を提示しながら進行することもある。たとえ、写真であっても、人として、医療者を目指す者として、亡くなった方への礼や畏敬の念を忘れてはならない。遺族が不快な思いをするようなことも慎しむべきで、いかなる理由であっても、講義の録画や講義中に提示した写真等の撮影をしてはならない。これが理解できない学生は医療者として不適格とみなされる。録画・写真撮影が発覚した場合には、定期試験を受験できません。また、画像をSNSなどに流すような行為は在学の可否も問われることになる。
講義の進行が順調であれば、終盤の講義において、定期試験に向けた演習を実施することがある。

【７】　評価方法・基準

定期試験（100%）、講義への取り組みが不良の場合は評価に影響する場合がある。再試験は100点満点で行う定期試験の点数が60点に達しない学生に対して行う。再試験受験者の評点は、再試験の点数が60点を超えている場合に60点とします。

【８】　フィードバック方法

講義終了時に課題を出した場合は後日答え合わせをします。理解度を皆さん一人一人が把握する目的で行う形成的評価として用いますので、自分自身の知識確認に役立てて下さい。時に、最終的な総括評価の参考にする場合があります。

【９】　教科書

系統看護学講座　人体の構造と機能［１］解剖生理学　第11版　医学書院 2022年1月

【10】　参考書

◎「カラー図解 人体解剖の基本がわかる事典」竹内修二　西東社
◎「カラー図解 生理学の基本がわかる事典」石川 隆　西東社
○「コアテキスト 1　人体の構造と機能　第2版」下 正宗、前田 環 他 編　医学書院
○「カラー図解　人体の正常構造と機能 全10巻縮刷版」坂井建男、河原克雅 編　日本医事新報社
○「やさしい生理学 改訂第6版」彼末一之、能勢 博 編　南江堂
「超カラー図解　看護自己学習　解剖生理学」渡辺正仁　森 禎章　金芳堂
「イラストでまなぶ解剖学」　松村 譲兒　　医学書院
「ポケットチューター 体表からわかる人体解剖学」南山堂
「プロメテウス解剖学アトラス コンパクト版」医学書院
「カラー基本解剖アトラス」西村書店
「ぜんぶわかる人体解剖図 ― 系統別・部位別にわかりやすくビジュアル解説」坂井 建雄、 橋本 尚詞　成美堂出版
「世界一簡単にわかる人体解剖図鑑」坂井 建雄　宝島社
「解いてわかる解剖生理学　テキスト・問題集」（医学教育出版）　　ほか解剖学・生理学に関する各種出版物
◎○印は、人体の構造と機能Ⅰ～Ⅲ共通の参考図書

【11】　備考(関連科目等)

生物学、化学、健康科学概論、生化学、微生物学、疾病と治療、薬理学、看護の専門教育科目全般へ
2025DPとの関連：DP①・③・④

科目名(日本語)	**人体の構造と機能Ⅱ**	必修・選択区分	授業形態	開講学期・学年	単位数
科目名(英語)	Structure and Function of Human BodyⅡ	必修	講義	春学期 1年	2単位 30時間
科目責任者	熊澤武志				
担当教員	熊澤武志				
科目責任者 連絡先(教室)	takeshi.kumazawa@hs.toho-u.ac.jp（件名に学部・学籍番号を明記すること）				
オフィスアワー	質問は授業終了後30分程度、非常勤講義室で受け付けます。また、質問は随時Moodleや電子メール（takeshi.kumazawa@hs.toho-u.ac.jp）でも受け付けます。				

【１】　授業方法(ALの要素、ICTの活用等)

１－１．アクティブラーニングについて

実施しない

１－２．アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素

２－１．双方向授業でのＩＣＴの活用について

活用する

２－２．ＩＣＴを活用する場合、その具体的名称（クリッカー、タブレット端末等）

Moodle

【２】　授業概要

人体の基本的な構造と機能を系統的に学ぶとともに、ホメオスタシスや生体を防御するしくみ、脳・神経系、感覚器、内分泌系などの情報を受容し処理するしくみについて学び、人間の身体内部で繰り広げられている生命活動、健康問題要因を理解する。

【３】　到達目標

1. 神経系の構造と機能について説明できる。
2. 自律神経系の構造と機能について説明できる。
3. 末梢神経の構造と機能について説明できる。
4. 感覚器の構造と機能について説明できる。
5. 皮膚の構造と機能を説明できる。
6. 生体の防御機構について説明できる。
7. 体温とその調節機構について説明できる。
8. ホルモンの種類・作用・調節機構について説明できる。
9. 中枢神経系の構造と機能について説明できる。
10. 脳の高次機能について説明できる。
11. 運動と感覚機能の伝導路について説明できる。

【４】　ディプロマ・ポリシーとの関連

到達目標を達成することにより、以下の能力を身につけることにつながります。

１．自然科学を看護活動の根拠とし、実践に活かす基礎的な力を有している。

２．看護学の専門知識と技術を修得している。

４．看護職の社会的責任を理解し、看護実践にまつわる倫理的課題を感受する力と熟考する力、それらに基づく判断を行動に表す力を身につけている。

６．自ら学ぼうとする好奇心をもち、生涯にわたり自己研鑽する姿勢を身につける。

【５】　授業計画

	項目	内容および授業方法 予習・復習・キーワード	担当教員
1	末梢神経の構造・自律神経機能・感覚系（１）	内容：神経系の構造と機能 授業方法：講義 予習：テキストp. 359～p. 368を読む 復習：授業資料とテキストを用いて授業内容を整理し、小テストの勉強を行う キーワード：神経細胞、シナプス、興奮の伝導	熊澤　武志
2	末梢神経の構造・自律神経機能・感覚系（2）	内容：神経系の構造と機能 授業方法：講義 予習：授業資料とテキストp. 359～p. 368を読む 復習：授業資料とテキストを用いて授業内容を整理し、小テストの勉強を行う キーワード：神経細胞、シナプス、興奮の伝導	熊澤　武志
3	末梢神経の構造・自律神経機能・感覚系（３）	内容：自律神経系の構造と機能 授業方法：講義 予習：授業資料とテキストp. 240～p. 249を読む 復習：授業資料とテキストを用いて授業内容を整理し、小テストの勉強を行う キーワード：交感神経、副交感神経、神経伝達物質、受容体	熊澤　武志
4	末梢神経の構造・自律神経機能・感覚系（４）	内容：自律神経系の構造と機能 授業方法：講義 予習：授業資料とテキストp. 240～p. 249を読む 復習：授業資料とテキストを用いて授業内容を整理し、小テストの勉強を行う キーワード：交感神経、副交感神経、神経伝達物質、受容体	熊澤　武志
5	末梢神経の構造・自律神経機能・感覚系（５）	内容：脊髄神経と脳神経の構造と機能 授業方法：講義 予習：授業資料とテキストp. 383～p. 391を読む 復習：授業資料とテキストを用いて授業内容を整理し、小テストの勉強を行う キーワード：脊髄神経、脳神経	熊澤　武志
6	末梢神経の構造・自律神経機能・感覚系（6）	内容：脊髄神経と脳神経の構造と機能 授業方法：講義 予習：授業資料とテキストp. 383～p. 391を読む 復習：授業資料とテキストを用いて授業内容を整理し、小テストの勉強を行う キーワード：脊髄神経、脳神経	熊澤　武志
7	末梢神経の構造・自律神経機能・感覚系（7）	内容：眼の構造と視覚 授業方法：講義 予習：授業資料とテキストp. 397～p. 407を読む 復習：授業資料とテキストを用いて授業内容を整理し、小テストの勉強を行う キーワード：眼球、視細胞、視覚、眼筋	熊澤　武志
8	末梢神経の構造・自律神経機能・感覚系（8）	内容：眼の構造と視覚 授業方法：講義 予習：授業資料とテキストp. 397～p. 407を読む 復習：授業資料とテキストを用いて授業内容を整理し、小テストの勉強を行う キーワード：眼球、視細胞、視覚、眼筋	熊澤　武志
9	末梢神経の構造・自律神経機能・感覚系（9）	内容：耳の構造と聴覚・平衡覚、味覚と嗅覚、疼痛 授業方法：講義 予習：授業資料とテキストp. 408～p. 420を読む 復習：授業資料とテキストを用いて授業内容を整理し、小テストの勉強を行う キーワード：耳小骨、内耳、蝸牛、平衡覚、味蕾、嗅細胞、痛覚	熊澤　武志
10	免疫（1）	内容：皮膚の構造と機能、生体の防御機構 授業方法：講義 予習：授業資料とテキストp. 435～p. 447を読む 復習：授業資料とテキストを用いて授業内容を整理し、小テストの勉強を行う キーワード：皮膚、非特異的防御機構、特異的防御機構、リンパ球、抗体、免疫の異常	熊澤　武志
11	免疫（2）	内容：皮膚の構造と機能、生体の防御機構 授業方法：講義 予習：授業資料とテキストp. 435～p. 447を読む 復習：授業資料とテキストを用いて授業内容を整理し、小テストの勉強を行う キーワード：皮膚、非特異的防御機構、特異的防御機構、リンパ球、抗体、免疫の異常	熊澤　武志
12	免疫（3）	内容：生体の防御機構、代謝と運動、体温とその調節 授業方法：講義 予習：授業資料とテキストp. 447～p. 457を読む 復習：授業資料とテキストを用いて授業内容を整理し、小テストの勉強を行う キーワード：リンパ節、代謝、運動エネルギー、熱産生、熱放散、発熱	熊澤　武志

13	免疫（4）	内容：生体の防御機構、代謝と運動、体温とその調節 授業方法：講義 予習：授業資料とテキストp. 447～p. 457、p. 351～p. 355を読む 復習：授業資料とテキストを用いて授業内容を整理し、小テストの勉強を行う キーワード：リンパ節、代謝、運動エネルギー、熱産生、熱放散、発熱	熊澤　武志
14	免疫（5）	内容：生体の防御機構、代謝と運動、体温とその調節 授業方法：講義 予習：授業資料とテキストp. 447～p. 457、p. 351～p. 355を読む 復習：授業資料とテキストを用いて授業内容を整理し、小テストの勉強を行う キーワード：リンパ節、代謝、運動エネルギー、熱産生、熱放散、発熱	熊澤　武志
15	内分泌（1）	内容：内分泌とホルモン、ホルモンの分泌機構 授業方法：講義 予習：授業資料とテキストp. 249～p. 259を読む 復習：授業資料とテキストを用いて授業内容を整理し、小テストの勉強を行う キーワード：内分泌、ホルモン、視床下部、下垂体	熊澤　武志
16	内分泌（2）	内容：ホルモンの分泌機構、甲状腺と副甲状腺、膵臓 授業方法：講義 予習：授業資料とテキストp. 259～p. 265を読む 復習：授業資料とテキストを用いて授業内容を整理し、小テストの勉強を行う キーワード：甲状腺ホルモン、パラソルモン、インスリン、グルカゴン	熊澤　武志
17	内分泌（3）	内容：ホルモンの分泌機構、甲状腺と副甲状腺、膵臓 授業方法：講義 予習：授業資料とテキストp. 2259～p. 265を読む 復習：授業資料とテキストを用いて授業内容を整理し、小テストの勉強を行う キーワード：甲状腺ホルモン、パラソルモン、インスリン、グルカゴン	熊澤　武志
18	内分泌（4）	内容：副腎、性腺、その他の内分泌腺 授業方法：講義 予習：授業資料とテキストp. 265～p. 273を読む 復習：授業資料とテキストを用いて授業内容を整理し、小テストの勉強を行う キーワード：カテコールアミン、糖質コルチコイド、電解質コルチコイド、性ホルモン	熊澤　武志
19	内分泌（5）	内容：副腎、性腺、その他の内分泌腺 授業方法：講義 予習：授業資料とテキストp. 265～p. 273を読む 復習：授業資料とテキストを用いて授業内容を整理し、小テストの勉強を行う キーワード：カテコールアミン、糖質コルチコイド、電解質コルチコイド、性ホルモン	熊澤　武志
20	内分泌（6）	内容：ホルモン分泌の調節、ホルモンによる代謝の調節 授業方法：講義 予習：授業資料とテキストp. 273～p. 280を読む 復習：授業資料とテキストを用いて授業内容を整理し、小テストの勉強を行う キーワード：フィードバック機構、糖代謝、カルシウム代謝、ストレス	熊澤　武志
21	中枢神経の構造・高次神経機能・運動系（１）	内容：脊髄の構造と機能、脳の構造と機能 授業方法：講義 予習：授業資料とテキストp. 368～p. 374を読む 復習：授業資料とテキストを用いて授業内容を整理し、小テストの勉強を行う キーワード：脊髄、脊髄反射、脳幹、小脳	熊澤　武志
22	中枢神経の構造・高次神経機能・運動系（2）	内容：脊髄の構造と機能、脳の構造と機能 授業方法：講義 予習：授業資料とテキストp. 368～p. 374を読む 復習：授業資料とテキストを用いて授業内容を整理し、小テストの勉強を行う キーワード：脊髄、脊髄反射、脳幹、小脳	熊澤　武志
23	中枢神経の構造・高次神経機能・運動系（3）	内容：脳の構造と機能 授業方法：講義 予習：授業資料とテキストp. 374～p. 383を読む 復習：授業資料とテキストを用いて授業内容を整理し、小テストの勉強を行う キーワード：間脳、大脳、大脳皮質、脳脊髄液	熊澤　武志
24	中枢神経の構造・高次神経機能・運動系（4）	内容：脳の構造と機能 授業方法：講義 予習：授業資料とテキストp. 374～p. 383を読む 復習：授業資料とテキストを用いて授業内容を整理し、小テストの勉強を行う キーワード：間脳、大脳、大脳皮質、脳脊髄液	熊澤　武志

25	中枢神経の構造・高次神経機能・運動系（5）	内容：脳の統合機能 授業方法：講義 予習：授業資料とテキストp.420～p.432を読む 復習：授業資料とテキストを用いて授業内容を整理し、小テストの勉強を行う キーワード：脳波、睡眠、記憶、本能、情動	熊澤　武志
26	中枢神経の構造・高次神経機能・運動系（6）	内容：脳の高次機能 授業方法：講義 予習：授業資料とテキストp.420～p.432を読む 復習：授業資料とテキストを用いて授業内容を整理し、小テストの勉強を行う キーワード：脳波、睡眠、記憶、本能、情動	熊澤　武志
27	中枢神経の構造・高次神経機能・運動系（7）	内容：運動と感覚機能の伝導路 授業方法：講義 予習：授業資料とテキストp.391～p.397を読む 復習：授業資料とテキストを用いて授業内容を整理し、整理問題を解く キーワード：錐体路、錐体外路、視覚伝導路、聴覚伝導路、体性感覚伝導路	熊澤　武志

【６】　事前・事後学習とその時間

この授業で学ぶ内容は、看護を学ぶ上での基礎となるものです。授業内容は多岐にわたりますが、小テスト、整理問題、リフレクション課題に取り組みながら内容の整理・理解に努めて下さい。

【準備学習】

・小テストの勉強も含めて、予習1時間程度、復習2時間程度を費やします。

・授業資料や指定教科書の予習範囲を事前に読んでおくこと。

【事後学習】

・毎回の授業のはじめに前回内容に関する小テストを実施するため、教科書や授業で配付された資料に基づき復習をすること。また、復習用の整理問題を配付する場合もある。

・授業資料はMoodleにアップしたり、授業の中で配付したりするので、予習・復習を行う際に活用すること。

【７】　評価方法・基準

定期試験（60%）、小テスト（30%）、リフレクション課題への記述内容（10%）を総合的に評価します。

【８】　フィードバック方法

・授業中の小テストは、採点後、結果を返却します。

・リアクションペーパーに寄せられた質問や意見については個別に回答したり、重要なものは次回の授業で全体にフィードバックしたりします。

【９】　教科書

系統看護学講座　人体の構造と機能［１］解剖生理学　第11版　医学書院

【10】　参考書

「カラー図解　人体の正常構造と機能 全10巻縮刷版」坂井建男、河原克雅 編，日本医事新報社

「グレイ解剖学」原著第3版，Richard L. Drake 他 編，塩田浩平，秋田恵一 監修・監訳，エルセビア

「ナーシング・グラフィカ　人体の構造と機能（1）：解剖生理学」第5版，武田裕子，林正健二　編，メディカ出版

【11】　備考(関連科目等)

生物学、化学、生化学、疾病と治療、薬理学、臨床栄養学、看護の専門教育科目へ

2025DPとの関連：DP①・③・④

科目名(日本語)	**人体の構造と機能Ⅲ**	必修・選択区分	授業形態	開講学期・学年	単位数
科目名(英語)	Structure and Function of Human Body Ⅲ	必修	講義	秋学期 1年	2単位 30時間
科目責任者	中内暁博				
担当教員	中内暁博				
科目責任者 連絡先(教室)	akihiro.nakauchi@hs.toho-u.ac.jp				
オフィスアワー	講義日： ・毎週金曜日 13：25～13：55 、非常勤講師室 ・授業終了後 10 分程度、講義室にて質問を受ける 講義日以外： ・Moodleを用いたメール質問は随時可能とさせて頂きます。				

【1】 授業方法(ALの要素、ICTの活用等)

１－１．アクティブラーニングについて

実施する

１－２．アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素

グループワーク
プレゼンテーション

２－１．双方向授業でのＩＣＴの活用について

活用する

２－２．ＩＣＴを活用する場合、その具体的名称（クリッカー、タブレット端末等）

授業の状況に応じて、Moodleを用いる場合があります。

【2】 授業概要

人体の基本的な構造と機能を系統的に学ぶとともに、ホメオスタシスや生体を防御するしくみ、腎・泌尿器系、循環器系、消化器系、代謝系、生殖器系などの仕組みについて学び、人間の身体内部で繰り広げられている生命活動、健康問題要因を理解する。

【3】 到達目標

到達目標（SBOs）
1. 体循環と肺循環について説明できる。
2. 血圧の機序、測定原理、血圧調節および血流量の調節について説明できる。
3. 微小循環、リンパ循環、チアノーゼおよび心不全について説明できる。
4. 泌尿器系の概観、腎臓の構造と機能について説明できる。
5. 糸球体および尿細管の構造と機能について説明出来る。
6. 傍糸球体装置の構造と機能について説明出来る。
7. クリアランス、腎臓から分泌される生理活性物質について説明できる。
8. 排尿路（尿管・膀胱・尿道）の構造と機能および排尿の機序について説明できる。
9. 尿の性状、尿の異常および排尿異常について説明できる。
10. 水・電解質と酸塩基平衡および脱水の機序について説明できる。
11. 消化器系全般の構成について説明できる。
12. 口腔・歯、咽頭・食道の構造と機能について説明できる。
13. 咀嚼・嚥下と誤嚥について説明できる。
14. 胃の構造と機能、胃液の分泌とタンパク質の消化について説明できる。
15. 十二指腸および小腸の構造と機能について説明出来る。
16. 消化管の運動、消化と吸収のしくみについて説明できる。
17. 大腸と肛門の構造と機能および排便の機序について説明できる。
18. 肝臓・胆嚢および膵臓の構造と機能について説明できる。
19. 腹膜と内臓の位置関係について説明できる。
20. 代謝、運動とエネルギーについて説明できる。
21. 熱の産生と放散について説明出来る。
22. 体温の調節、測定および熱中症の機序について説明出来る。
23. 男性生殖器の構成および生殖機能について説明できる。
24. 女性生殖器と乳腺の構成および性周期について説明できる。
25. 生殖細胞と受精および着床と発育について説明できる。
26. 胎児の血液循環および胎児・胎盤・分娩について説明出来る。
27. 成長・思春期・老化について説明できる。

【4】　ディプロマ・ポリシーとの関連

到達目標を達成することにより、以下の能力を身につけることにつながります。

1．自然科学を看護活動の根拠とし、実践に活かす基礎的な力を有している。

2．看護学の専門知識と技術を修得している。

3．他者の多様な価値観を理解し、尊重することができる。

4．看護職の社会的責任を理解し、看護実践にまつわる倫理的課題を感受する力と熟考する力、それらに基づく判断を行動に表す力を身につけている。

6．自ら学ぼうとする好奇心をもち、生涯にわたり自己研鑽する姿勢を身につける。

【５】　授業計画

	項目	内容および授業方法 予習・復習・キーワード	担当教員
1	循環器（春学期に十分に触れられなかった部分）	内　　容：対象SBO: 1（体循環・肺循環） 授業方法：講義（講義中に示すスライドから画像を除いたものを講義プリントとして配付する予定） 予　　習：教科書p168～170；p206～210を読む 復　　習：各自のノートや講義プリントを見直し、教科書や参考書を読み直して、知識の習得に努めること。 キーワード：体循環・肺循環・心拍出量・血圧・心臓の負荷・血管の構造	中内暁博
2	循環器（春学期に十分に触れられなかった部分）	内　　容：対象SBO: 2（心臓の収縮・末梢循環・血圧） 授業方法：講義（講義中に示すスライドから画像を除いたものを講義プリントとして配付する予定） 予　　習：教科書p210～220を読む 復　　習：各自のノートや講義プリントを見直し、教科書や参考書を読み直して、知識の習得に努めること。 キーワード：平均血圧・最高血圧・最低血圧・脈波・脈拍・血圧調節	中内暁博
3	循環器（春学期に十分に触れられなかった部分）	内　　容：対象SBO: 3（微小循環・リンパ循環・心不全） 授業方法：講義（講義中に示すスライドから画像を除いたものを講義プリントとして配付する予定） 予　　習：教科書p220～228を読む 復　　習：各自のノートや講義プリントを見直し、教科書や参考書を読み直して、知識の習得に努めること。 キーワード：微小循環・リンパ循環・チアノーゼ・心不全・高血圧	中内暁博
4	腎・泌尿器（1）	内　　容：対象SBO: 4（腎・泌尿器） 授業方法：講義（講義中に示すスライドから画像を除いたものを講義プリントとして配付する予定） 予　　習：教科書p233～236を読む（可能ならそれ以降も） 復　　習：各自のノートや講義プリントを見直し、教科書や参考書を読み直して、知識の習得に努めること。 キーワード：腎臓・腎単位（ネフロン）・腎盂・腎門・腎動脈・腎静脈・尿管	中内暁博
5	腎・泌尿器（2）	内　　容：対象SBO: 5（腎・泌尿器） 授業方法：講義（講義中に示すスライドから画像を除いたものを講義プリントとして配付する予定） 予　　習：教科書p236～244を読む（可能ならそれ以降も） 復　　習：各自のノートや講義プリントを見直し、教科書や参考書を読み直して、知識の習得に努めること。 キーワード：糸球体・ボウマン嚢・尿細管・尿の濃縮・尿の成分の調節	中内暁博
6	腎・泌尿器（3）	内　　容：対象SBO: 6（腎・泌尿器） 授業方法：講義（講義中に示すスライドから画像を除いたものを講義プリントとして配付する予定） 予　　習：教科書p244～246を読む 復　　習：各自のノートや講義プリントを見直し、教科書や参考書を読み直して、知識の習得に努めること。 キーワード：傍糸球体装置・緻密斑・フィードバック・レニン・アンギオテンシン・アルドステロン	中内暁博
7	腎・泌尿器（4）	内　　容：対象SBO:7（腎・泌尿器） 授業方法：講義（講義中に示すスライドから画像を除いたものを講義プリントとして配付する予定） 予　　習：教科書p246～250を読む 復　　習：各自のノートや講義プリントを見直し、教科書や参考書を読み直して、知識の習得に努めること。 キーワード：クリアランス・クレアチニン・イヌリン・GFR・エリスロポエチン・ビタミンDの活性化	中内暁博
8	腎・泌尿器（5）	内　　容：対象SBO: 8（腎・泌尿器） 授業方法：講義（講義中に示すスライドから画像を除いたものを講義プリントとして配付する予定） 予　　習：教科書p248～251を読む 復　　習：各自のノートや講義プリントを見直し、教科書や参考書を読み直して、知識の習得に努めること。 キーワード：尿管・膀胱・尿道・蠕動運動・蓄尿反射・排尿反射	中内暁博
9	腎・泌尿器（6）	内　　容：対象SBO: 9（腎・泌尿器） 授業方法：講義（講義中に示すスライドから画像を除いたものを講義プリントとして配付する予定） 予　　習：教科書p252～253を読む 復　　習：各自のノートや講義プリントを見直し、教科書や参考書を読み直して、知識の習得に努めること。 キーワード：尿の性状・等張尿・高張尿・低張尿・多尿・乏尿・無尿・血尿・頻尿・尿失禁	中内暁博

10	腎・泌尿器（7）	内　　容：対象SBO：10（腎・泌尿器） 授業方法：講義（講義中に示すスライドから画像を除いたものを講義プリントとして配付する予定） 予　　習：教科書p253～260を読む 復　　習：各自のノートや講義プリントを見直し、教科書や参考書を読み直して、知識の習得に努めること。 キーワード：水の出納・酸塩基平衡・発汗・脱水・高ナトリウム血症・高カリウム血症・アシドーシス・アルカローシス	中内暁博
11	消化器（1）	内　　容：対象SBO：11、12（口・歯・唾液腺） 授業方法：講義（講義中に示すスライドから画像を除いたものを講義プリントとして配付する予定） 予　　習：教科書p64～72を読む（可能ならそれ以降も） 復　　習：各自のノートや講義プリントを見直し、教科書や参考書を読み直して、知識の習得に努めること。 キーワード：口・歯・唾液（腺）	中内暁博
12	消化器（2）	内　　容：対象SBO：13（咀嚼・嚥下・食道） 授業方法：講義（講義中に示すスライドから画像を除いたものを講義プリントとして配付する予定） 予　　習：教科書p73～76を読む（可能ならそれ以降も） 復　　習：各自のノートや講義プリントを見直し、教科書や参考書を読み直して、知識の習得に努めること。 キーワード：嚥下・誤嚥・食道	中内暁博
13	消化器（3）	内　　容：対象SBO：14（胃・胃液） 授業方法：講義（講義中に示すスライドから画像を除いたものを講義プリントとして配付する予定） 予　　習：教科書p76～82を読む（可能ならそれ以降も） 復　　習：各自のノートや講義プリントを見直し、教科書や参考書を読み直して、知識の習得に努めること。 キーワード：噴門・幽門・胃腺・胃液・主細胞・副細胞・壁細胞	中内暁博
14	消化器（4）	内　　容：対象SBO：15（十二指腸・小腸） 授業方法：講義（講義中に示すスライドから画像を除いたものを講義プリントとして配付する予定） 予　　習：教科書p82～85を読む（可能ならそれ以降も） 復　　習：各自のノートや講義プリントを見直し、教科書や参考書を読み直して、知識の習得に努めること。 キーワード：十二指腸・ファーター乳頭・膵液・胆汁・空腸・回腸	中内暁博
15	消化器（５）	内　　容：対象SBO：16（消化・吸収） 授業方法：講義（講義中に示すスライドから画像を除いたものを講義プリントとして配付する予定） 予　　習：教科書p85～90を読む（可能ならそれ以降も） 復　　習：各自のノートや講義プリントを見直し、教科書や参考書を読み直して、知識の習得に努めること。 キーワード：膵アミラーゼ・乳化・蠕動運動・単糖・多糖・蛋白質・脂質・ビタミン	中内暁博
16	消化器（6）	内　　容：対象SBO：17（大腸・肛門） 授業方法：講義（講義中に示すスライドから画像を除いたものを講義プリントとして配付する予定） 予　　習：教科書p90～95を読む（可能ならそれ以降も） 復　　習：各自のノートや講義プリントを見直し、教科書や参考書を読み直して、知識の習得に努めること。 キーワード：結腸・盲腸・虫垂・直腸・肛門・腸内細菌叢	中内暁博
17	消化器（7）	内　　容：対象SBO：18（肝臓・胆嚢・膵臓） 授業方法：講義（講義中に示すスライドから画像を除いたものを講義プリントとして配付する予定） 予　　習：教科書p96～102を読む（可能ならそれ以降も） 復　　習：各自のノートや講義プリントを見直し、教科書や参考書を読み直して、知識の習得に努めること。 キーワード：膵液・インスリン・門脈・肝小葉・胆嚢・胆汁	中内暁博
18	消化器（8）	内　　容：対象SBO：19（腹膜） 授業方法：講義（講義中に示すスライドから画像を除いたものを講義プリントとして配付する予定） 予　　習：教科書p102～105を読む（可能ならそれ以降も） 復　　習：各自のノートや講義プリントを見直し、教科書や参考書を読み直して、知識の習得に努めること。 キーワード：腹膜・腸間膜・大網・小網・腹腔内器官・後腹膜器官	中内暁博
19	代謝と運動（1）	内　　容：対象SBO：20（代謝と運動） 授業方法：講義（講義中に示すスライドから画像を除いたものを講義プリントとして配付する予定） 予　　習：教科書p480～484を読む 復　　習：各自のノートや講義プリントを見直し、教科書や参考書を読み直して、知識の習得に努めること。 キーワード：エネルギーの生成・ATP・代謝・運動	中内暁博
20	代謝と運動（2）	内　　容：対象SBO：21（代謝と運動） 授業方法：講義（講義中に示すスライドから画像を除いたものを講義プリントとして配付する予定） 予　　習：教科書p484～487を読む 復　　習：各自のノートや講義プリントを見直し、教科書や参考書を読み直して、知識の習得に努めること。 キーワード：熱産生・震える・熱放散・核心温度・外殻温度・腋窩温・サーカディアンリズム	中内暁博

21	代謝と運動（3）	内　　容：対象SBO：22（体温調節） 授業方法：講義（講義中に示すスライドから画像を除いたものを講義プリントとして配付する予定） 予　　習：教科書487～490を読む 復　　習：各自のノートや講義プリントを見直し、教科書や参考書を読み直して、知識の習得に努めること。 キーワード：体温（調節）・フィードフォワード機構・発熱・熱中症・高体温・低体温	
22	生殖・発生と老化（１）	内　　容：対象SBO：23（男性生殖器） 授業方法：講義（講義中に示すスライドから画像を除いたものを講義プリントとして配付する予定） 予　　習：教科書p495～500を読む（可能ならそれ以降も） 復　　習：各自のノートや講義プリントを見直し、教科書や参考書を読み直して、知識の習得に努めること。 キーワード：男性器・精巣・前立腺・精嚢・ライディッヒ細胞・精祖細胞・精子・射精	中内暁博
23	生殖・発生と老化（2）	内　　容：対象SBO：24（女性生殖器） 授業方法：講義（講義中に示すスライドから画像を除いたものを講義プリントとして配付する予定） 予　　習：教科書p500～506を読む（可能ならそれ以降も） 復　　習：各自のノートや講義プリントを見直し、教科書や参考書を読み直して、知識の習得に努めること。 キーワード：女性器・卵巣・卵管・子宮・卵母細胞・卵子・黄体・排卵・卵巣周期・月経周期・ダグラス窩・膣・会陰	中内暁博
24	生殖・発生と老化（3）	内　　容：対象SBO：25（受精と胎児の発生） 授業方法：講義（講義中に示すスライドから画像を除いたものを講義プリントとして配付する予定） 予　　習：教科書p506、506～510を読む 復　　習：各自のノートや講義プリントを見直し、教科書や参考書を読み直して、知識の習得に努めること。 キーワード：乳房・乳腺・乳管・卵巣周期・月経周期・性周期	中内暁博
25	生殖・発生と老化（4）	内　　容：対象SBO：26（胎児の発達、分娩、胎児の血液循環） 授業方法：講義（講義中に示すスライドから画像を除いたものを講義プリントとして配付する予定） 予　　習：教科書p510～517を読む 復　　習：各自のノートや講義プリントを見直し、教科書や参考書を読み直して、知識の習得に努めること。 キーワード：生殖細胞・減数分裂・精子・卵子・受精・受精卵・性染色体・卵割・着床・妊娠・胚子	中内暁博
26	生殖・発生と老化（5）	内　　容：対象SBO：26（胎児の発達、分娩、胎児の血液循環） 授業方法：講義（講義中に示すスライドから画像を除いたものを講義プリントとして配付する予定） 予　　習：教科書p510～517を読む 復　　習：各自のノートや講義プリントを見直し、教科書や参考書を読み直して、知識の習得に努めること。 キーワード：胎児・胎盤・臍帯・羊水・胎児の発達・分娩・胎児循環	中内暁博
27	生殖・発生と老化（6）	内　　容：対象SBO：27（成長と老化） 授業方法：講義（講義中に示すスライドから画像を除いたものを講義プリントとして配付する予定） 予　　習：教科書p526～536を読む（可能ならそれ以降も） 復　　習：各自のノートや講義プリントを見直し、教科書や参考書を読み直して、知識の習得に努めること。 キーワード：成長・思春期・二次性徴・性成熟・老化	中内暁博

【６】　事前・事後学習とその時間

【準備学習】予習での学修は必須です。

・この授業は、身体の基本構造と機能のうちに、微小循環、泌尿器系、消化器系・代謝および生殖・老化について系統的に学ぶ。

・学習効果を深めるために、予習の勉強は必須で、指定教科書および事前配布レジュメを用いる事前学修に40分間程度費やす必要です。

【事後学習】この講義で学ぶ内容は、看護・医療を学ぶ上での基礎となるものです。

・講義中で理解できないところについては、質問したり、または、学生同士でディスカッションを行って問題点を整理すること。

・各種参考書で確認したりし、疑問は必ず早期に解決しておくことを心に掛けること。

・授業前・後に実施する小テストは必ず参加・復習をすること。

・事後学習は、最低でも2時間程度を費やす必要です。

【学習上の留意点】

・講義の中では実際の解剖の写真を提示しながら進行します。たとえ、写真であっても、人として、医療者を目指す者として、亡くなった方への礼や畏敬の念を忘れてはなりません。遺族が不快な思いをするようなことも慎まねばなりません。従って、いかなる理由であっても、人体や臓器等の写真か否かにかかわらず講義中の写真撮影・録画は認めません。

・e ラーニングを積極的に活用すること。

【７】　評価方法・基準

定期試験（筆記式：60%）、小テスト（消化器系など：30%）、講義への取り組み（リフレクション課題の記述内容等：10%）を総合的に評価します。

【８】　フィードバック方法

小テストはテスト終了後に解説し、次回の講義で採点した答案を返却します。リフレクション課題については、次回の講義で解説します。

【９】　教科書

系統看護学講座　人体の構造と機能［１］解剖生理学 第11版　医学書院

【10】　参考書

系統看護学講座　解剖生理学ワークブック　坂井建雄、岡田隆夫　医学書院

【11】　備考(関連科目等)

生物学、化学、健康科学概論、生化学、微生物学、疾病と治療、薬理学、看護の専門教育科目へ
2025DPとの関連：DP①・③・④

科目名(日本語)	生化学	必修・選択区分	授業形態	開講学期・学年	単位数
科目名(英語)	Biochemistry	必修	講義	秋学期 1年	1単位 15時間
科目責任者	多田周右				
担当教員	多田周右				
科目責任者 連絡先(教室)	多田周右メール（s.tada@phar.toho-u.ac.jp）				
オフィスアワー	質問等は授業終了後に講義室で10分程度受け付ける。メール（s.tada@phar.toho-u.ac.jp）での連絡も可能とする。				

【１】　授業方法(ALの要素、ICTの活用等)

１－１．アクティブラーニングについて

実施しない

１－２．アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素

２－１．双方向授業でのＩＣＴの活用について

活用する

２－２．ＩＣＴを活用する場合、その具体的名称（クリッカー、タブレット端末等）

Moodle

【２】　授業概要

生化学は、生物の生命現象を化学的手法により探究する学問である。この科目では、とくに生命現象を担う分子の構造・性質などの基本事項を習得することを目指す。生物の基本となる生体高分子（糖質、脂質、タンパク質〔酵素〕、核酸）や、その構成単位（ヌクレオチド、アミノ酸、単糖、脂肪酸など）の基本構造・性質について学ぶとともに、それらの分子が体の中でどのように働くのかについても理解を深める。本科目は、人体の構造と機能、疾病と治療、及び臨床栄養学へとつながる科目である。

【３】　到達目標

1. 代表的な単糖、二糖、多糖の種類、構造、性質、役割を説明できる。
2. 代表的な糖代謝経路（解糖系、クエン酸回路、電子伝達系、ペントースリン酸経路、糖新生、グリコーゲンの合成と分解）の役割について説明できる。
3. 代表的な糖代謝経路（解糖系、クエン酸回路、電子伝達系、ペントースリン酸経路、糖新生、グリコーゲンの合成と分解）の反応過程について概説できる。
4. 代表的な脂質の種類、構造、性質、役割を説明できる。
5. 脂肪酸の生合成とβ酸化について概説できる。
6. コレステロールの生合成と代謝について概説できる。
7. アミノ酸を列挙し、その構造に基づいて性質を説明できる。
8. アミノ酸の代謝について概説できる。
9. タンパク質の構造（一次、二次、三次、四次構造）と性質を説明できる。
10. 多彩なタンパク質（酵素、受容体、構造タンパク質、輸送タンパク質など）の機能について概説できる。
11. 酵素反応の特性を概説できる。
12. ヌクレオチドと核酸（DNA、RNA）の種類、構造、性質を説明できる。
13. ヌクレオチドの供給経路（デノボ経路とサルベージ経路）について概説できる。
14. 遺伝情報の流れ（DNA複製・転写・翻訳）について説明できる

【４】　ディプロマ・ポリシーとの関連

到達目標を達成することにより、以下の能力を身につけることにつながります。

１．自然科学を看護活動の根拠とし、実践に活かす基礎的な力を有している。

２．看護学の専門知識と技術を修得している。

【5】　授業計画

	項目	内容および授業方法 予習・復習・キーワード	担当教員
1，2	化学の基礎・糖質の構造	内容：化学の基礎。単糖、二糖、多糖の種類・構造・性質・役割。 授業方法：講義 予習：事前に提示された講義資料と、講義資料に示された教科書の該当部分に目を通す。 復習：教科書とノートを見返す。確認テストに取組み、理解度を確認する。 キーワード：酸、塩基、酸化、還元、親水性、疎水性、立体構造、糖質、単糖、二糖、多糖	多田周右
3，4	脂質とアミノ酸の構造	内容：脂質とアミノ酸の種類・構造・性質。 授業方法：講義 予習：事前に提示された講義資料と、講義資料に示された教科書の該当部分に目を通す。 復習：教科書とノートを見返す。確認テストに取組み、理解度を確認する。 キーワード：脂質、中性脂肪、脂肪酸、コレステロール、アミノ酸	多田周右
5，6	糖質の代謝	内容：糖質代謝とエネルギー産生、糖新生、グリコーゲン合成など。 授業方法：講義 予習：事前に提示された講義資料と、講義資料に示された教科書の該当部分に目を通す。復習：教科書とノートを見返す。確認テストに取組み、理解度を確認する。 キーワード：解糖系、クエン酸回路、電子伝達系、ペントースリン酸経路、糖新生、グリコーゲン	多田周右
7，8	脂質の代謝	内容：脂肪酸の合成と分解。コレステロールの合成と代謝。 授業方法：講義 予習：事前に提示された講義資料と、講義資料に示された教科書の該当部分に目を通す。 復習：教科書とノートを見返す。確認テストに取組み、理解度を確認する。 キーワード：脂質代謝、脂肪酸、コレステロール、ステロイド	多田周右
9，10	アミノ酸の代謝とタンパク質、酵素	内容：アミノ酸の代謝。タンパク質の構造と多彩な機能。酵素反応の特性。 授業方法：講義 予習：事前に提示された講義資料と、講義資料に示された教科書の該当部分に目を通す。 復習：教科書とノートを見返す。確認テストに取組み、理解度を確認する。 キーワード：アミノ酸、尿素回路、生理活性アミン、タンパク質、酵素、阻害剤	多田周右
11，12	ヌクレオチドと核酸	内容：ヌクレオチドの構造と代謝。DNA、RNAの基本構造。 授業方法：講義 予習：事前に提示された講義資料と、講義資料に示された教科書の該当部分に目を通す。 復習：教科書とノートを見返す。確認テストに取組み、理解度を確認する。 キーワード：核酸（DNA、RNA）、ヌクレオチド	多田周右
13，14	核酸代謝（DNA複製・転写・翻訳）	内容：DNA複製、転写（RNA合成）、翻訳（タンパク質合成）の概要。 授業方法：講義 予習：事前に提示された講義資料と、講義資料に示された教科書の該当部分に目を通す。 復習：教科書とノートを見返す。確認テストに取組み、理解度を確認する。 キーワード：DNAの複製、転写、翻訳	多田周右

【6】　事前・事後学習とその時間

【準備学習】講義前に授業スケジュールを確認し、事前にMoodleに提示した講義資料に目を通したうえで資料に提示した教科書の該当部分を30分程度読む。
【事後学習】Moodleに掲載した確認テストを解答し提出する。確認テストの問題を用いて講義内容の重要ポイントを振り返る。教科書と講義中に作成したノートを使い、授業ごとに１時間程度かけて講義内容の理解を深める。
【学習上の留意点】必要に応じて、メディアセンターの参考書等を用いて不足内容について知識を補うこと。

【7】　評価方法・基準

定期試験（85%）、確認テストへの取組みと提出（15%）。

【8】　フィードバック方法

定期試験、確認テストの解答を Moodleに掲示

【9】　教科書

≪系統看護学講座≫生化学　人体の構造と機能２（第14版）、畠山鎮次（医学書院） 2019年

【10】　参考書

習志野メディアセンターには生化学の基礎から専門までの多くの書籍があるので参考にしてください。

【11】　備考(関連科目等)

［予め学んでおくと良い科目］　化学、生物学、
［この科目に続く内容の科目］　薬理学、人体の構造と機能、疾病と治療、臨床栄養学、臨床遺伝学
2025DPとの関連：DP①・④

科目名(日本語)	**微生物学**	必修・選択区分	授業形態	開講学期・学年	単位数
科目名(英語)	Microbiology	必修	演習	秋学期 1年	1単位 30時間
科目責任者	安齊洋次郎				
担当教員	安齊洋次郎・五郎丸美智子・飯坂洋平				
科目責任者 連絡先(教室)	安齊（科目責任者）：薬学部 微生物学教室 D-508、yanzai@phar.toho-u.ac.jp 五郎丸：薬学部 総合実験部門 E-201、michiko@phar.toho-u.ac.jp 飯坂　：薬学部 微生物学教室 D-540、yohei.iizaka@phar.toho-u.ac.jp ＊質問などは講義、演習終了後が望ましいが、上記への訪問やメールでも受け付ける。				
オフィスアワー	安齊　：月～金 10:00～18:00 五郎丸：月～金 9:30～17:30 飯坂　：月～金 10:00～18:00				

【１】　授業方法(ALの要素、ICTの活用等)

１－１．アクティブラーニングについて

実施する

１－２．アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素

その他

「その他」の内容

実験室でのワーク

２－１．双方向授業でのＩＣＴの活用について

活用する

２－２．ＩＣＴを活用する場合、その具体的名称（クリッカー、タブレット端末等）

Moodleが利用可能な端末（ノートPC、タブレット、スマートフォンなど）

【２】　授業概要

微生物学とは、真菌、細菌や藍藻類などの原核生物やウイルスなどの微少な生物を対象とし、主に生化学的な解析により微生物の構造や生態、他の生物への影響などを明らかにする学問である。微生物学の基礎知識、感染のメカニズム、病原微生物の特徴、生体防御機構、病原微生物の制御などについて理解する。さらに、グラム染色の方法、手指衛生に関する細菌学的検証などに関しては、実験方法を学び、感染予防対策の有効性の判断視点を深める。

【３】　到達目標

1. 生物界における微生物の位置について説明できる。
2. 人体と微生物との関わりについて説明できる。
3. 微生物学の歴史について説明できる。
4. 微生物の取り扱いについて説明できる。
5. 微生物の種類と分類について説明できる。
6. 微生物の細胞構造について説明できる。
7. 微生物の増殖について説明できる。
8. 微生物の遺伝について説明できる。
9. 病原微生物の感染の成立（感染源、感染経路、侵入門戸など）について説明できる。
10. ヒトの体に備わった感染制御のしくみについて説明できる。
11. 病原微生物の病原因子について説明できる。
12. 主な微生物感染症およびその治療と予防について説明できる。
13. 微生物の基本的な取り扱い方法を説明、実施できる。
14. 滅菌、消毒および殺菌、静菌の概念について説明できる。
15. グラム染色を実施できる。
16. 顕微鏡による観察を実施できる。

【４】　ディプロマ・ポリシーとの関連

到達目標を達成することにより、以下の能力を身につけることにつながります。

１．自然科学を看護活動の根拠とし、実践に活かす基礎的な力を有している。

２．看護学の専門知識と技術を修得している。

【5】　授業計画

	項目	内容および授業方法 予習・復習・キーワード	担当教員
1・2回	微生物とは	授業内容：生物界における微生物の位置、生態系における微生物の分布と役割、人体と微生物との関わりについて 授業方法：講義 予習：事前に配布された講義資料を読む 復習：教科書、参考書を利用し、授業の内容について理解を深める キーワード：生命の起源、分解者、細菌叢	安齊洋次郎
3・4回	微生物学の歴史	授業内容：自然発生説の否定、疾病との戦いについて 授業方法：講義 予習：事前に配布された講義資料を読む 復習：教科書、参考書を利用し、授業の内容について理解を深める キーワード：自然発生説の否定、レーウェンフック、パスツール、コッホ、ワクチン、化学療法剤	安齊洋次郎
5・6回	微生物の細胞構造と増殖	授業内容：真核細胞（ヒト細胞、真菌細胞）、原核細胞（細菌細胞）、ウイルスの構造と増殖の相違について 授業方法：講義 予習：事前に配布された講義資料を読む 復習：教科書、参考書を利用し、授業の内容について理解を深める キーワード：真核細胞、原核細胞、ウイルス粒子、分裂増殖、細胞寄生性	安齊洋次郎
7回	微生物の培養と観察	授業内容：微生物の培養法と観察法について 授業方法：講義 予習：事前に配布された講義資料を読む 復習：参考書を利用し、授業の内容について理解を深める キーワード：滅菌、消毒、培養、染色、顕微鏡	安齊洋次郎
8回	微生物の種類と分類	授業内容：真菌、細菌、ウイルスの種類と分類について 授業方法：講義 予習：事前に配布された講義資料を読む 復習：参考書を利用し、授業の内容について理解を深める キーワード：形態学的分類、生理・生化学的分類、化学分類、系統分類、DNAウイルス、RNAウイルス	安齊洋次郎
9・10回	細菌細胞の構造と機能	授業内容：グラム陽性細菌とグラム陰性細菌の違い、細胞表層の構造・機能・役割、細菌細胞質膜の機能について 授業方法：講義 予習：事前に配布された講義資料を読む 復習：教科書、参考書を利用し、授業の内容について理解を深める キーワード：グラム陽性細菌、グラム陰性細菌、細胞表層構造、細胞壁、細胞質膜	安齊洋次郎
11回	細菌の増殖	授業内容：細菌の増殖パターンならびに細菌の増殖条件について 授業方法：講義 予習：事前に配布された講義資料を読む 復習：教科書、参考書を利用し、授業の内容について理解を深める キーワード：栄養増殖、増殖曲線、エネルギー源、栄養源、温度、pH、酸素分圧	安齊洋次郎
12回	細菌の遺伝	授業内容：細菌細胞間での遺伝情報の水平伝達について 授業方法：講義 予習：事前に配布された講義資料を読む 復習：教科書、参考書を利用し、授業の内容について理解を深める キーワード：接合、形質転換、形質導入	安齊洋次郎
13・14回	感染と発症	授業内容：感染のしくみ、感染症の種類、感染症の現状について 授業方法：講義 予習：事前に配布された講義資料を読む 復習：教科書、参考書を利用し、授業の内容について理解を深める キーワード：正常細菌叢、内因感染、外因感染、顕性感染、不顕性感染、感染経路、病原性、ビルレンス因子、新興感染症、再興感染症、輸入感染症、病院内感染症	安齊洋次郎
15回	生体防御機構	授業内容：ヒトの体に備わった感染防御のしくみについて 授業方法：講義 予習：事前に配布された講義資料を読む 復習：教科書、参考書を利用し、授業の内容について理解を深める キーワード：自然免疫、獲得免疫、液性免疫、細胞性免疫	安齊洋次郎
16・17回	細菌感染症	授業内容：主な細菌感染症とその治療と予防について 授業方法：講義 予習：事前に配布された講義資料を読む 復習：教科書、参考書を利用し、授業の内容について理解を深める キーワード：食中毒、肺炎、化膿、抗菌薬、ワクチン	安齊洋次郎
18回	真菌感染症	授業内容：主な真菌感染症とその治療と予防について 授業方法：講義 予習：事前に配布された講義資料を読む 復習：教科書、参考書を利用し、授業の内容について理解を深める キーワード：真菌感染症、抗真菌薬	安齊洋次郎
19回	ウイルス感染症	授業内容：主なウイルス感染症とその治療と予防授業 方法：講義 予習：事前に配布された講義資料を読む 復習：教科書、参考書を利用し、授業の内容について理解を深める キーワード：風邪症候群、ウイルス性肝炎、ウイルス性胃腸炎、抗ウイルス薬、ワクチン	安齊洋次郎

20～23回	微生物の実験方法、常在菌と手指衛生	授業内容：細菌の培養法、滅菌と消毒、常在菌と手指の消毒、薬剤感受性試験について 授業方法：演習 予習：事前に配布された実習テキストを読む 復習：教科書、参考書を利用し、授業の内容について理解を深める キーワード：滅菌、消毒、培養手指消毒の効果、細菌の培養、常在菌	安齊洋次郎、五郎丸美智子、飯坂洋平
24～27回	細菌の観察、抗菌薬の効果	授業内容：手指の消毒の判定、薬剤感受性試験の判定、グラム染色と顕微鏡による観察について 授業方法：演習 予習：事前に配布された実習テキストを読む 復習：教科書、参考書を利用し、授業の内容について理解を深める キーワード：グラム染色、抗菌薬、抗菌スペクトラム	安齊洋次郎、五郎丸美智子、飯坂洋平

【６】　事前・事後学習とその時間

【準備学習】
この科目は、講義形式と演習形式で行います。講義については、１回の授業に対して予習１時間程度、復習１時間程度を費やします。演習については、１回の演習に対して予習30分間程度、復習30分程度を費やします。
指定した教科書や事前に提示された講義資料などを読んでおくこと。
【事後学習】
提示された課題集を利用して講義内容を改めて理解すること。
【学習上の留意点】
事前に配布された講義資料や実習テキストなどをもとに、教科書や参考書を利用し、授業の内容について理解を深めること。更に食中毒や感染症等の微生物に由来する疾病やその他微生物についての新聞報道等に関心を持って接すること。

【７】　評価方法・基準

定期試験（80%）、演習（レポート含む、20%）
＊実験室での演習は原則として全日出席しなければならない。

【８】　フィードバック方法

演習レポートはコメントを記入し、後日返却する。定期試験は実施後、解説を掲示する。

【９】　教科書

藤本秀士編『わかる！身につく！ 病原体・感染・免疫（第３版）』（南山堂）

【10】　参考書

杉田隆・安齊洋次郎編　『薬科微生物学（第７版）』（丸善出版）
神谷茂監修　『標準微生物学（第１４版）』（医学書院）
松本哲哉・舘田一博監訳　リッピンコットシリーズ『イラストレイテッド微生物学（原書３版）』（丸善出版）
南嶋洋一他著『系統看護学　専門基礎分野　微生物学（第１４版）』（医学書院）
吉岡充弘他著『系統看護学　専門基礎分野　薬理学（第１５版）』（医学書院）

【11】　備考(関連科目等)

生物学、生化学、薬理学、公衆衛生、疫学Ⅰ（基礎編）、疫学Ⅱ（応用編）へ、リスクマネジメント（感染看護）
2025DPとの関連：DP①・④

科目名(日本語)	**疾病と治療Ⅰ**	必修・選択区分	授業形態	開講学期・学年	単位数
科目名(英語)	Pathophysiology and Treatment Ⅰ	必修	講義	秋学期 1年	2単位 30時間
科目責任者	蛭田啓之				
担当教員	蛭田啓之・近藤元就・南木敏宏				
科目責任者 連絡先(教室)	原則として、質問はすべてMoodle上に掲載されるGoogleフォームから受け付ける。				
オフィスアワー	（蛭田）講義終了後、講義室で10分程度質問を受け付ける。 （近藤）講義終了時、講義室で10分程度質問を受け付ける。 （南木）講義終了後、講義室で10分程度質問を受け付ける。				

【１】　授業方法(ALの要素、ICTの活用等)

１－１．アクティブラーニングについて

実施しない

１－２．アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素

２－１．双方向授業でのＩＣＴの活用について

活用する

２－２．ＩＣＴを活用する場合、その具体的名称（クリッカー、タブレット端末等）

Moodle、Zoom

【２】　授業概要

疾患のなりたちを理解するうえで重要な基本的病変と生体防御機構について学ぶ。さらにこれらの基礎的事項を踏まえ、代表的疾患における病因・病態･診断･治療を理解する。疾病と治療Ⅰでは、病気の理解の基礎づくりのために病理学と免疫学を学修する。

（蛭田啓之／14回）
病理学：概論、各論（先天異常、代謝異常、循環障害、炎症と免疫、感染症、腫瘍、老化と死）
（近藤元就／9回）（南木敏宏／4回）
免疫学：概論、各論（抗原･抗体反応、炎症物質、免疫不全、アレルギー反応、自己免疫、ウイルス）

【３】　到達目標

Ⅰ．病理学（蛭田）

病理学とは「疾病の成り立ち(本質)を解明しようとする基礎医学」と「診断・治療を主体とした臨床医学」にまたがる科目である．ヒトの疾患を分類・整理するためには，病理学の修得が必須である．病理学の理解は，全臨床医学の理解の礎となる．

1. 病理学とは何かを自分の言葉で説明できる ．
2. 臓器・組織の正常と病的状態について説明できる.
3. 種々の病的医学用語や病名に慣れ，病名について総論的に説明できる.
4. 疾病の成り立ちとその形態的・機能的変化を総論的・各論的に説明できる.
5. 循環障害の概念について代表的な疾患を挙げて説明できる ．
6. 炎症の概念について代表的な疾患を挙げて説明できる ．
7. 代謝障害の概念について代表的な疾患を挙げて説明できる ．
8. 腫瘍の概念，発生機序，良悪性の鑑別，命名法について代表的な疾患を挙げて説明できる ．

Ⅱ．免疫学（近藤）

1. 自然免疫と獲得免疫の違いを説明できる。
2. 抗原・抗体反応を説明できる。
3. 抗原受容体の多様性の成立機序を説明できる。
4. 予防接種の意義を説明できる。
5. 臓器移植時に起きる免疫反応を説明できる。
6. 炎症、免疫不全、アレルギーについて概説できる。

Ⅲ．自己免疫疾患（南木）

1. 自己免疫疾患について説明できる。
2. 臓器特異的、及び全身性の自己免疫疾患の概略が説明できる。

【４】　ディプロマ・ポリシーとの関連

到達目標を達成することにより、以下の能力を身につけることにつながります。

１．自然科学を看護活動の根拠とし、実践に活かす基礎的な力を有している。

２．看護学の専門知識と技術を修得している。

【5】　授業計画

	項目	内容および授業方法 予習・復習・キーワード	担当教員
1・2	病理学序論・病因論	授業方法：講義　※遠隔授業 内容：細胞傷害，適応と変性，修復を含む 予習：講義予定項目を予め教科書で確認しておく。1時間程度 復習：講義内容を整理し記録する。1.5時間程度 キーワード：病理，病因，細胞障害，肥大・過形成・化生，変性・壊死，肉芽・瘢痕	蛭田啓之
3・4	腫瘍1	授業方法：講義　※遠隔授業 内容：腫瘍総論を主体に，臓器ごとの各論をまじえておこなう。 予習：講義予定項目を予め教科書で確認しておく。1時間程度 復習：講義内容を整理し記録する。1.5時間程度 キーワード：腫瘍の病理・病態，腫瘍の病因・疫学，病理診断・治療	蛭田啓之
5	腫瘍2	授業方法：講義　※遠隔授業 内容：同上 予習：講義予定項目を予め教科書で確認しておく。1時間程度 復習：講義内容を整理し記録する。1.5時間程度 キーワード：同上	蛭田啓之
6	腫瘍3	授業方法：講義　※遠隔授業 内容：同上 予習：講義予定項目を予め教科書で確認しておく。1時間程度 復習：講義内容を整理し記録する。1.5時間程度 キーワード：同上	蛭田啓之
7・8	循環障害1	授業方法：講義　※遠隔授業 内容：循環障害総論を主体に，循環器疾患各論・病因と病態をまじえておこなう。 予習：講義予定項目を予め教科書で確認しておく。1時間程度 復習：講義内容を整理し記録する。1.5時間程度 キーワード：循環障害，血栓・塞栓，虚血・梗塞，出血	蛭田啓之
9・10	循環障害2	授業方法：講義　※遠隔授業 内容：同上 予習：講義予定項目を予め教科書で確認しておく。1時間程度 復習：講義内容を整理し記録する。1.5時間程度 キーワード：同上	蛭田啓之
11・12	炎症・感染症	授業方法：講義　※遠隔授業 内容：自己免疫性疾患以外の各臓器の炎症性・感染性疾患 予習：講義予定項目を予め教科書で確認しておく。1時間程度 復習：講義内容を整理し記録する。1.5時間程度 キーワード：炎症，感染症	蛭田啓之
13・14	代謝障害・その他	授業方法：講義　※遠隔授業 内容：代謝性疾患と炎症 予習：講義予定項目を予め教科書で確認しておく。1時間程度 復習：講義内容を整理し記録する。1.5時間程度 キーワード：代謝障害	蛭田啓之
15・16	免疫学序論	授業方法：講義 内容：自然免疫と獲得免疫について概説する。また、予防接種の意義を例示する。 予習：講義に関連した教科書・参考書の該当項目に予め目を通しておく。 復習：配布資料(レジメ)に積極的に書き込み、内容を整理し、自分に適した参考書に仕上げるようにする。 キーワード：　自己と非自己の認識、免疫記憶	近藤元就
17・18	抗原と抗体	授業方法：講義 内容：獲得免疫の中の液性免疫について概説する。 予習：講義に関連した教科書・参考書の該当項目に予め目を通しておく。 復習：配布資料(レジメ)に積極的に書き込み、内容を整理し、自分に適した参考書に仕上げるようにする。 キーワード：抗原―抗体反応、遺伝子再構成	近藤元就
19・20	感染免疫	授業方法：講義 内容：細菌やウイルスなどの病原体感染に対する生体防御反応の仕組みを解説する。 予習：講義に関連した教科書・参考書の該当項目に予め目を通しておく。 復習：配布資料(レジメ)に積極的に書き込み、内容を整理し、自分に適した参考書に仕上げるようにする。 キーワード：終生免疫、ワクチン、ウイルス中和抗体、細胞内寄生菌 、キラーT細胞	近藤元就
21・22	アレルギー	授業方法：講義 内容：病原体から身を守る免疫システムが過剰反応あるいは変調を来たし病的病態になってしまうことをアレルギーと呼んでいる。このようなアレルギーが起る仕組みを解説する。 予習：講義に関連した教科書・参考書の該当項目に予め目を通しておく。 復習：配布資料(レジメ)に積極的に書き込み、内容を整理し、自分に適した参考書に仕上げるようにする。 キーワード：過敏反応、IgE抗体、肥満細胞、ゲル・クームス分類 、アレルゲン	近藤元就

23	移植免疫	授業方法：講義 内容：移植は免疫学視点から輸血と臓器移植に分類される。その移植適否の鍵を握る血液型とHLAの性状、そして拒絶反応の仕組みについて説明する。 予習：講義に関連した教科書・参考書の該当項目に予め目を通しておく。 復習：配布資料(レジメ)に積極的に書き込み、内容を整理し、自分に適した参考書に仕上げるようにする。 キーワード：血液型、HLA、拒絶反応、臓器移植	近藤元就
24・25	自己免疫疾患（臓器特異的）	授業方法：講義 内容：自己免疫疾患の概略、臓器特異的自己免疫疾患の概略 予習・復習：講義毎に提示する。 キーワード：臓器特異的自己免疫疾患	南木敏宏
26・27	自己免疫疾患（全身性）	授業方法：講義 内容：全身性自己免疫疾患の概略 予習・復習：講義毎に提示する。 キーワード：全身性自己免疫疾患	南木敏宏

【６】　事前・事後学習とその時間

本授業は疾病学・治療学の基本的な知識を習得し看護実践の基盤とすることをねらっているため、関連内容について予習に1時間程度、復習に1～2時間程度を必要とする。

Ⅰ．病理学（蛭田）

範囲が非常に広く，全臓器・多くの疾患が対象となっており，臨床各科の講義の基礎となる．事前に解剖・生理学で正常構造・機能を確認しておき，復習にあたっては，各疾患の診断・治療学に関連付けることを心がける．

Ⅱ．免疫学（近藤）

免疫学の理解には、生物学や生化学といった生命科学の基礎全般にわたる広範囲な知識を必要とする。従って、これまでに学んだ知識を整理するためにもそれぞれの教科書に目を通しておくこと。

Ⅲ．自己免疫疾患（南木）

自己免疫疾患に関して理解するため、予習1時間程度、復習1時間程度を費やします。

【７】　評価方法・基準

定期試験70%、小テスト・レポート30%。

【８】　フィードバック方法

（蛭田）特に正答率が低かった問題についてコメントする。

（近藤）免疫学の理解を深めるためのレポートを課し、提出、評価後、フィードバックを行い、理解が充分でない部分の補強を行う。

（南木）特に正答率が低かった問題についてコメントする。

【９】　教科書

Ⅰ．病理学

系統看護学講座 専門基礎分野：疾病のなりたちと回復の促進[1]　病理学(第6版)，2021，医学書院

教科書以外に，講義の時に配布する資料を使用する．

Ⅱ．免疫学

休み時間の免疫学　第3版　齋藤紀先著　講談社

Ⅲ．自己免疫疾患

看護学テキストNiCE 病態・治療論【10】感染症／アレルギー／膠原病

【10】　参考書

Ⅰ．病理学

豊國，高橋監訳；ロビンス 基礎病理学 原書第９版：丸善出版，東京，2014

坂本，北川，仁木編；標準病理学 第4版：医学書院，東京，2010

深山，小田，坂本他 編；組織病理アトラス 第６版：文光堂，東京，2015

深山編；病理組織マップ&ガイド:文光堂，2014

坂本，北川，菅野著；組織病理カラーアトラス 第2版：医学書院，東京，2015

Ⅱ．免疫学

熊ノ郷 淳 他 編集 ： 免疫学コア講義　改訂4版　南山堂

宮坂昌之監修：標準免疫学、第４版、医学書院

Ⅲ．自己免疫疾患（南木）

なし

【11】　備考(関連科目等)

Ⅰ．病理学（蛭田）

解剖学・生理学・生化学・免疫学など，正常構造・機能を把握しておくこと．

Ⅱ．免疫学（近藤）

免疫学もまた他の基礎医学科目と同じ様に、その対象範囲は分子レベルから細胞、個体そして疾患へと広範囲で関連科目も多い。1つ1つの基礎知識のみならず全体像を把握するように学ぶことが重要となる。

Ⅲ．自己免疫疾患（南木）

自己免疫疾患を理解するためには、免疫学一般の知識が必要である。

2025DPとの関連：DP①・④

科目名(日本語)	**疾病と治療Ⅱ**	必修・選択区分	授業形態	開講学期・学年	単位数
科目名(英語)	Pathophysiology and Treatment Ⅱ	必修	講義	秋学期 1年	2単位 30時間
科目責任者	本村昇				
担当教員	本村昇・清水一寛・土屋勝・佐藤雄・松岡克善・根本匡章・三嶋崇靖・長島誠・松澤康雄				
科目責任者 連絡先(教室)	原則として、質問はすべてMoodle上に掲載されるGoogleフォームから受け付ける。				
オフィスアワー	（本村　昇）講義終了後、講義室で10分程度質問を受け付ける。 （清水一寛）講義終了後、講義室で10分程度質問を受け付ける。 （土屋　勝）講義終了後、講義室で10分程度質問を受け付ける。 （佐藤　雄）講義終了後、講義室で10分程度質問を受け付ける。 （松岡克善）講義終了後、講義室で10分程度質問を受け付ける。 （根本匡章）講義終了後、講義室で10分程度質問を受け付ける。 （三嶋崇靖）講義終了後、講義室で10分程度質問を受け付ける。 （長島　誠）講義終了後、講義室で10分程度質問を受け付ける。 （松澤康雄）講義終了後、講義室で10分程度質問を受け付ける。				

【１】　授業方法(ALの要素、ICTの活用等)

１－１．アクティブラーニングについて

実施しない

１－２．アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素

２－１．双方向授業でのＩＣＴの活用について

活用する

２－２．ＩＣＴを活用する場合、その具体的名称（クリッカー、タブレット端末等）

Moodle

【２】　授業概要

疾患のなりたちを理解するうえで重要な基本的病変と生体防御機構について学ぶ。さらにこれらの基礎的事項を踏まえ、代表的疾患における病因・病態･診断･治療を理解する。疾病と治療Ⅱでは、呼吸器の疾患、循環器の疾患、消化器の疾患、脳・神経系の疾患について学修し、知識の修得を目指す。

（本村　昇／２コマ）循環器の外科的疾患の病因・病態と診断･治療
（清水一寛／５コマ）循環器の内科的疾患の病因・病態と診断･治療
（土屋　勝／２コマ）消化器の外科的疾患の病因・病態と診断･治療
（佐藤　雄／２コマ）消化器の外科的疾患の病因・病態と診断･治療
（松岡克善／４コマ）消化器の内科的疾患の病因・病態と診断･治療
（根本匡章／２コマ）脳・神経の外科的疾患の病因・病態と診断･治療
（三嶋崇靖／４コマ）脳・神経の内科的疾患の病因・病態と診断･治療
（長島　誠／２コマ）呼吸器の外科的疾患の病因・病態と診断･治療
（松澤康雄／４コマ）呼吸器の内科的疾患の病因・病態と診断･治療

【３】　到達目標

●呼吸器系疾患
1.主な疾患の病因・病態、主な検査と診断について説明できる。
2.主な内科的治療の特徴と管理について説明できる。
3.慢性呼吸器疾患患者の社会生活支援について論述できる。
4.主な手術療法の目的と術式の特徴、手術に伴う身体の形態・機能の変化について説明できる。
5.手術前・中・後の管理、日常生活への影響について要点を説明できる。
●循環器系疾患
1.主な疾患の病因・病態、主な検査と診断について説明できる。
2.主な内科的治療の特徴と管理について説明できる。
3.慢性循環器疾患患者の社会生活支援について論述できる。
4.主な手術治療の目的と術式の特徴について説明できる。
5.主な手術に伴う身体・臓器の形態・機能の変化について説明できる。
6.手術前・中・後の管理、日常生活への影響について要点を説明できる。
●消化器系疾患
1.主な疾患の病因・病態、主な検査と診断について説明できる。
2.主な内科的治療特徴と管理について説明できる。
3.慢性消化器疾患患者の社会生活支援について論述できる。
4.主な手術療法の目的と術式の特徴、手術に伴う身体の形態・機能の変化について説明できる。
5.手術前・中・後の管理、日常生活への影響について要点を説明できる。
●脳・神経系疾患
1.主な疾患の病因と病態、症状と経過、疾患に伴う機能の変化（機能障害）について説明できる。
2.主な検査と診断について説明できる。
3.主な内科的治療の特徴と管理について説明できる。
4.疾患に伴う機能障害と患者の社会生活支援について論述できる。
5.主な手術療法の目的と術式の特徴、手術に伴う身体の形態・機能の変化について説明できる。
6.手術前・中・後の管理、日常生活への影響について要点を説明できる。

【４】　ディプロマ・ポリシーとの関連

到達目標を達成することにより、以下の能力を身につけることにつながります。

１．自然科学を看護活動の根拠とし、実践に活かす基礎的な力を有している。

２．看護学の専門知識と技術を修得している。

【５】　授業計画

	項目	内容および授業方法 予習・復習・キーワード	担当教員
1・2	循環器の外科的疾患の病因・病態と診断・治療（１）	【内容】人工心肺、冠動脈バイパス術、弁膜症手術、大血管手術の実際 【授業方法】講義 【予習・復習】講義内容について教科書の該当部分で予習・復習を行う。 【キーワード】人工心肺、冠動脈バイパス術、弁膜症手術、大動脈瘤・大動脈解離手術	本村昇
3・4	循環器の内科的疾患の病因・病態と診断・治療（１）	【内容】不整脈、心不全、ショック、高血圧、虚血性心疾患（狭心症、心筋梗塞） 【授業方法】講義 【予習・復習】講義内容について教科書を用いて行うこと。 【キーワード】不整脈、心不全、ショック、高血圧、狭心症、心筋梗塞	清水一寛
5・6	循環器の内科的疾患の病因・病態と診断・治療（２）	【内容】心臓弁膜症、感染性心内膜炎、心筋症及び心筋炎 【授業方法】講義 【予習・復習】講義内容について教科書を用いて行うこと。 【キーワード】心臓弁膜症、感染性心内膜炎、心筋症及び心筋炎	清水一寛
7	循環器の内科的疾患の病因・病態と診断・治療（３）	【内容】大動脈瘤、末梢動脈及び静脈疾患（閉塞性動脈硬化症、血栓性静脈炎） 【授業方法】講義 【予習・復習】講義内容について教科書を用いて行うこと。 【キーワード】大動脈瘤、閉塞性動脈硬化症、血栓性静脈炎	清水一寛
8・9	消化器の外科的疾患の病因・病態と診断･治療（１）	【内容】食道癌、胃癌、膵臓癌、胆嚢胆管癌、肝臓癌、結腸癌・直腸癌、胆石･胆嚢炎、潰瘍性大腸炎、腸閉塞、腹膜炎、各臓器の解剖、各疾患の好発年齢、性差、症状、検査方法、各疾患の外科的治療法など 【授業方法】講義 【予習】各臓器の解剖、各疾患の好発年齢、性差、症状、検査方法、各疾患の外科的治療法など〃 【復習】講義内容について教科書を用いて行うこと。	土屋勝
10・11	消化器の外科的疾患の病因・病態と診断･治療（２）	内容】食道癌、胃癌、膵臓癌、胆嚢胆管癌、肝臓癌、結腸癌・直腸癌、胆石･胆嚢炎、潰瘍性大腸炎、腸閉塞、腹膜炎、各臓器の解剖、各疾患の好発年齢、性差、症状、検査方法、各疾患の外科的治療法など 【授業方法】講義 【予習】各臓器の解剖、各疾患の好発年齢、性差、症状、検査方法、各疾患の外科的治療法など〃 【復習】講義内容について教科書を用いて行うこと。	佐藤雄
12・13	消化器の内科的疾患の病因・病態と診断・治療（１）	【内容】食道疾患（逆流性食道炎、食道癌）、胃・十二指腸疾患（胃炎、胃・十二指腸潰瘍、胃癌）腸疾患（クローン病、潰瘍性大腸炎、大腸癌、大腸ポリープ、過敏性腸症候群、腸閉塞、虫垂炎） 【授業方法】講義 【予習・復習】講義内容について教科書を用いて行うこと。 【キーワード】逆流性食道炎、食道癌、胃炎、胃・十二指腸潰瘍、胃癌、クローン病、潰瘍性大腸炎、大腸癌、大腸ポリープ、過敏性腸症候群、腸閉塞、虫垂炎	松岡克善
14・15	消化器の内科的疾患の病因・病態と診断・治療（２）	【内容】肝炎及び肝硬変、脂肪肝、胆石及び胆のう炎、膵炎、肝・胆・膵の腫瘍 【授業方法】講義 【予習・復習】講義内容について教科書を用いて行うこと。 【キーワード】肝炎、肝硬変、脂肪肝、胆石、胆のう炎、膵炎、肝癌、胆のう癌、膵癌	松岡克善
16・17	脳神経外科疾患と手術	【内容】脳血管障害、脳腫瘍、頭部外傷 【授業方法】講義 【予習】 テキスト（ＮＩＣＥ　疾病・治療論【8】） Ｐ76～第Ⅱ章　1-1. 意識障害 Ｐ208～第Ⅲ章　7-4-1. 機能性疾患 Ｐ83、111　第Ⅱ章　1-2.頭蓋内圧亢進症状、3-1-A.頭蓋内圧に関する考え方 Ｐ84～第Ⅱ章　1-3. 運動機能の障害 Ｐ90～第Ⅱ章　1-4. 知覚障害 【復習】 Ｐ255～　12. 頭部外傷、 Ｐ123、262　第Ⅲ章　1-3、12-4. くも膜下出血、 Ｐ121　第Ⅲ章　1-2.脳出血、 Ｐ139　第Ⅲ章　2-1.悪性腫瘍、 Ｐ141　第Ⅲ章　2-2.良性腫瘍 【キーワード】 開頭術、穿頭術、経蝶形骨洞手術、脳室腹腔短絡術、脳血管内治療頭部外傷、くも膜下出血、脳出血、成人の悪性腫瘍、成人の良性腫瘍	根本匡章

18・19	脳・神経の内科的疾患の病因・病態と診断･治療（１）	【内容】神経内科疾患: 救急疾患(脳卒中、髄膜炎、脳炎など)、自己免疫疾患(ギラン・バレー症候群、多発性硬化症、重症筋無力症など)、難病(パーキンソン病、脊髄小脳変性症、筋萎縮性側索硬化症など)、加齢に伴う疾患(かくれ脳梗塞、アルツハイマー病など)等を扱う。 【授業方法】講義 【予習・復習】講義内容について教科書の該当部分で予習・復習を行う。 【キーワード】脳卒中、ギラン・バレー症候群、パーキンソン病、アルツハイマー病	三嶋崇靖
20・21	脳・神経の内科的疾患の病因・病態と診断･治療（２）	【内容】神経内科疾患: 救急疾患(脳卒中、髄膜炎、脳炎など)、自己免疫疾患(ギラン・バレー症候群、多発性硬化症、重症筋無力症など)、難病(パーキンソン病、脊髄小脳変性症、筋萎縮性側索硬化症など)、加齢に伴う疾患(かくれ脳梗塞、アルツハイマー病など)等を扱う。 【授業方法】講義 【予習・復習】講義内容について教科書の該当部分で予習・復習を行う。 【キーワード】脳卒中、ギラン・バレー症候群、パーキンソン病、アルツハイマー病	三嶋崇靖
22・23	呼吸器の外科的疾患の病因・病態と診断･治療	【内容】原発性肺癌、転移性肺癌、自然気胸、続発性気胸、良性肺腫瘍、胸腔鏡手術、術後管理、胸腔ドレーン 【授業方法】講義 【予習】講義内容について教科書を用いて行うこと。 【復習】講義で提示する。講義内容について教科書の該当部分で復習を行う。 【キーワード】肺癌、気胸、胸腔鏡手術	長島誠
24・25	呼吸器の内科的疾患の病因・病態と診断・治療（１）	【内容】喘息、COPD、市中肺炎、結核、気胸、胸膜炎、膿胸、気管支拡張症、非結核抗酸菌症 【授業方法】講義 【予習】講義内容について教科書の該当部分で予習を行う。 【復習】講義内容について教科書の該当部分で復習を行う。 【キーワード】肺炎、肺結核、肺気腫、気管支喘息、過喚起症候群、成人呼吸促迫症候群	松澤康雄
26・27	呼吸器の内科的疾患の病因・病態と診断・治療（２）	上に同じ	松澤康雄

【６】　事前・事後学習とその時間

【準備学習】
本授業は疾病学・治療学の基本的な知識を習得し看護実践の基盤とすることをねらっているため、関連内容について予習に1時間程度、復習に1時間程度を必要とする。
（本村　昇）本授業は心臓血管外科学の基本的な知識を習得し看護実践の基盤とすることを目標としており、関連内容について予習に2時間程度、復習にも2時間程度を要すると期待する。
（清水一寛）講義内容について、教科書の該当部分で復習に2時間程度を必要とする。
（土屋　勝）講義内容について、教科書を用いて予習に1時間程度、復習に1時間程度を必要とする。
（佐藤　雄）講義内容について、教科書を用いて予習に1時間程度、復習に1時間程度を必要とする。
（松岡克善）教科書の該当部分で予習に30分、復習に2時間程度を必要とする。
（根本匡章）脳神経の解剖生理の基礎知識があれば種々の脳神経疾患に対する脳神経外科手術治療の理解が容易になる。
（三嶋崇靖）講義内容について、教科書の該当部分で予習に30分、復習に2時間程度を必要とする。
（長島　誠）講義内容について、教科書を用いて予習に1時間程度、復習に1時間程度を必要とする。
（松澤康雄）講義内容について、教科書の該当部分で予習に30分、復習に2時間程度を必要とする。

【学習上の留意点】
人体の構造と機能を含めて、教科書や関連の書籍等で繰り返し学習することを勧める。

【７】　評価方法・基準

定期試験　100%

【８】　フィードバック方法

（本村　昇）特に正答率が低かった問題についてコメントする。
（清水一寛）特に正答率が低かった問題についてコメントする。
（土屋　勝）特に正答率が低かった問題についてコメントする。
（佐藤　雄）特に正答率が低かった問題についてコメントする。
（松岡克善）特に正答率が低かった問題についてコメントする。
（根本匡章）特に正答率が低かった問題についてコメントする。
（三嶋崇靖）特に正答率が低かった問題についてコメントする。
（長島　誠）特に正答率が低かった問題についてコメントする。
（松澤康雄）特に正答率が低かった問題についてコメントする。

【９】　教科書

（本村　昇）看護学テキストNiCE　疾病と治療論【3】循環器疾患
（清水一寛）看護学テキストNiCE　疾病と治療論【3】循環器疾患
（土屋　勝）看護学テキストNiCE　疾病と治療論【4】消化器疾患
（佐藤　雄）看護学テキストNiCE　疾病と治療論【4】消化器疾患
（松岡克善）看護学テキストNiCE　疾病と治療論【4】消化器疾患
（根本匡章）看護学テキストNiCE　疾病と治療論【8】脳・神経疾患
（三嶋崇靖）看護学テキストNiCE　疾病と治療論【8】脳・神経疾患
（長島　誠）看護学テキストNiCE　疾病と治療論【2】呼吸器疾患
（松澤康雄）看護学テキストNiCE　疾病と治療論【2】呼吸器疾患

【10】　参考書

授業中紹介する場合がある。

【11】　備考(関連科目等)

神経解剖・生理・薬理学、人体の構造と機能Ⅰ～Ⅲ、疾病と治療Ⅰ・Ⅲ～Ⅴ
2025DPとの関連：DP①・④

科目名(日本語)	**薬理学**	必修・選択区分	授業形態	開講学期・学年	単位数
科目名(英語)	Pharmacology	必修	講義	秋学期 1年	2単位 30時間
科目責任者	田中芳夫				
担当教員	田中芳夫・宮内正二				
科目責任者 連絡先(教室)	・田中芳夫 教室：薬学部薬理学教室 居室：薬学部D館4階（D-408） E-mail: yotanaka@phar.toho-u.ac.jp （電子メールでの問合せの際は、件名に学部・学籍番号を明記すること） ・宮内正二 教室：薬学部薬物動態学教室 居室：薬学部C館7階（C-705） E-mail: seiji.miyauchi@phar.toho-u.ac.jp （電子メールでの問合せの際は、件名に学部・学籍番号を明記すること）				
オフィスアワー	・田中芳夫 講義開講日：13時～13時50分、D-408 ・宮内正二 月・火・水：13時～13時50分、C-705 木・金：在室してれば対応可				

【１】　授業方法(ALの要素、ICTの活用等)

１－１．アクティブラーニングについて

実施しない

１－２．アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素

２－１．双方向授業でのＩＣＴの活用について

活用する

２－２．ＩＣＴを活用する場合、その具体的名称（クリッカー、タブレット端末等）

Moodle

【２】　授業概要

薬物療法は多用される治療方法のひとつであり、薬物の特徴、作用機序、人体への影響について理解することは重要である。そこで本科目では、薬物の作用（薬理作用）、作用機序、作用点や薬効発現あるいは相互作用の要因となる吸収、分布、代謝、排泄など、薬理学の基礎的な知識を学ぶ。また、治療戦略（治療効果）、薬の副作用や禁忌などの薬物治療学的知識を修得する。

【３】　到達目標

1. 薬物治療の意義（有益性）と問題点（危険性）を説明できる。
2. 代表的な薬物の作用点を分類し、その構造的及び機能的な特徴を説明できる。
3. 代表的な疾患に適用される薬物の薬理作用、作用機序、副作用について説明できる。
4. 代表的な薬物相互作用について具体例を挙げて説明できる。
5. 薬物の吸収･分布･代謝･排泄および薬効に影響する因子について説明できる。

【４】　ディプロマ・ポリシーとの関連

到達目標を達成することにより、以下の能力を身につけることにつながります。

１．自然科学を看護活動の根拠とし、実践に活かす基礎的な力を有している。

２．看護学の専門知識と技術を修得している。

【5】　授業計画

	項目	内容および授業方法 予習・復習・キーワード	担当教員
1	薬理学総論（1）	【内容】薬物の使用目的、薬の作用点 【授業方法】講義 【予習】教科書p.03～p.14を読む。 【復習】章末問題（p.14）を解く。 【キーワード】薬、薬理学、薬物療法、受容体、イオンチャネル、酵素、トランスポーター、作動薬、拮抗薬	田中芳夫
2	薬理学総論（2）	【内容】薬物使用の有益性と危険性、薬と法律 【授業方法】講義 【予習】教科書p.15～p.23、p.48～p.63を読む 【復習】章末問題（p.23、p.63）を解く。 【キーワード】用量反応曲線、主作用、副作用、耐性、薬物依存	田中芳夫
3	末梢神経系作用薬（1）	【内容】交感神経作用薬 【授業方法】講義 【予習】教科書p.145～p.156を読む。 【復習】章末問題（p.163～p.164）を解く。 【キーワード】交感神経作用薬	田中芳夫
4	末梢神経系作用薬（2）	【内容】副交感神経作用薬、筋弛緩薬・局所麻酔薬 【授業方法】講義 【予習】教科書p.157～p.163を読む。 【復習】章末問題（p.163～p.164）を解く。 【キーワード】副交感神経作用薬、筋弛緩薬・局所麻酔薬	田中芳夫
5	中枢神経系作用薬（1）	【内容】全身麻酔薬、睡眠薬・抗不安薬 【授業方法】講義 【予習】教科書p.165～p.179を読む。 【復習】章末問題（p.195）を解く。 【キーワード】全身麻酔薬、ベンゾジアゼピン系薬、GABA受容体	田中芳夫
6	中枢神経系作用薬（2）	【内容】抗精神病薬、抗うつ薬 【授業方法】講義 【予習】教科書p.179～p.185を読む。 【復習】章末問題（p.195）を解く。 【キーワード】定型薬、非定型薬、SSRI	田中芳夫
7	中枢神経系作用薬（3）	【内容】パーキンソン症候群治療薬、抗てんかん薬 【授業方法】講義 【予習】教科書p.185～p.188を読む。 【復習】章末問題（p.195）を解く。 【キーワード】レボドパ、バルプロ酸	田中芳夫
8	中枢神経系作用薬（4）	【内容】麻薬性鎮痛薬、片頭痛治療薬 【授業方法】講義 【予習】教科書p.189～p.194を読む。 【復習】章末問題（p.195）を解く。 【キーワード】アヘンアルカロイド、トリプタン系薬	田中芳夫
9	循環器系に作用する薬物（1）	【内容】抗高血圧薬、狭心症治療薬 【授業方法】講義 【予習】教科書p.197～p.208を読む。 【復習】章末問題（p.236）を解く。 【キーワード】カルシウム拮抗薬、ACE阻害薬、ARB	田中芳夫
10	循環器系に作用する薬物（2）	【内容】心不全治療薬、抗不整脈薬、利尿薬 【授業方法】講義 【予習】教科書p.208～p.221を読む。 【復習】章末問題（p.236～p.237）を解く。 【キーワード】強心薬、ボーン=ウィリアムズ分類、ループ利尿薬	田中芳夫
11	循環器系に作用する薬物（3）	【内容】脂質異常症治療薬、血液に作用する薬物 【授業方法】講義 【予習】教科書p.221～p.235を読む。 【復習】章末問題（p.237）を解く。 【キーワード】スタチン系薬、貧血治療薬、造血因子関連薬、白血病治療薬、抗血液凝固薬、血栓溶解薬、抗血小板薬、止血薬	田中芳夫
12	呼吸器・消化器・生殖器系に作用する薬物（1）	【内容】呼吸器系に作用する薬物 【授業方法】講義 【予習】教科書p.239～p.244を読む。 【復習】章末問題（p.257）を解く。 【キーワード】気管支喘息治療薬、鎮咳薬、去痰薬、呼吸興奮薬	田中芳夫
13	呼吸器・消化器・生殖器系に作用する薬物（2）	【内容】消化器系に作用する薬物 【授業方法】講義 【予習】教科書p.244～p.251を読む。 【復習】章末問題（p.257～258）を解く。 【キーワード】消化性潰瘍治療薬、消化管運動促進薬、制吐薬、下剤	田中芳夫
14	呼吸器・消化器・生殖器系に作用する薬物（3）	【内容】生殖器系に作用する薬物 【授業方法】講義 【予習】教科書p.251～p.257を読む。 【復習】章末問題（p.258）を解く。 【キーワード】性ホルモン関連薬、排尿障害治療薬、前立腺肥大症治療薬	田中芳夫

15	物質代謝に作用する薬物（1）	【内容】ホルモンとホルモン拮抗薬 【授業方法】講義 【予習】教科書p.259～p.266を読む。 【復習】章末問題（p.274）を解く。 【キーワード】糖尿病治療薬	田中芳夫
16	物質代謝に作用する薬物（2）	【内容】ホルモンとホルモン拮抗薬 【授業方法】講義 【予習】教科書p.266～p.274を読む。 【復習】章末問題（p.274）を解く。 【キーワード】抗甲状腺薬、視床下部ホルモン、脳下垂体ホルモン、骨粗鬆症治療薬、ビタミン製剤	田中芳夫
17	抗アレルギー薬・抗炎症薬（1）	【内容】抗ヒスタミン薬と抗アレルギー薬、炎症と抗炎症薬 【授業方法】講義 【予習】教科書p.129～p.140を読む。 【復習】章末問題（p.144）を解く。 【キーワード】H1受容体遮断薬、抗アレルギー薬、NSAIDs、副腎皮質ステロイド薬	田中芳夫
18	抗アレルギー薬・抗炎症薬（2）	【内容】関節リウマチ治療薬、痛風・高尿酸血症治療薬 【授業方法】講義 【予習】教科書p.140～p.144を読む。 【復習】章末問題（p.144）を解く。 【キーワード】抗リウマチ薬、分子標的薬、尿酸生成抑制薬、尿酸排泄促進薬	田中芳夫
19	抗感染症薬	【内容】感染症治療に関する基礎事項、抗感染症薬各論、特殊な感染症の治療薬 【授業方法】講義 【予習】教科書p.67～p.101を読む。 【復習】章末問題（p.101～p.102）を解く。 【キーワード】βラクタム系抗菌薬、アミノグリコシド系抗菌薬、テトラサイクリン系抗菌薬、マクロライド系抗菌薬、ニューキノロン系抗菌薬、サルファ薬、抗結核薬、抗真菌薬、抗ウイルス薬	田中芳夫
20	抗がん薬・免疫治療薬	【内容】抗がん薬各論、免疫治療薬 【授業方法】講義 【予習】教科書p.103～p.116、p.117～p.128を読む。 【復習】章末問題（p.116、p.128）を解く。 【キーワード】アルキル化薬、代謝拮抗薬、抗生物質、植物アルカロイド、性ホルモン代用薬及び性ホルモン拮抗薬、分子標的薬、免疫抑制薬、免疫増強薬	田中芳夫
21	薬の体内の挙動（1）	【内容】薬物の投与経路、薬物の吸収、薬物の分布（1） 【授業方法】講義 【予習】教科書p.24～p.32を読む。 【復習】章末問題（p.40 ①～④）を解く。 【キーワード】ADME、投与経路、受動拡散、トランスポーター、初回通過効果、バイオアベイラビリティ、タンパク結合、血中濃度時間曲線下面積（AUC）	宮内正二
22	薬の体内の挙動（2）	【内容】薬物の投与経路、薬物の吸収、薬物の分布（2） 【授業方法】講義 【予習】教科書p.24～p.32を読む。 【復習】章末問題（p.40 ①～④）を解く。 【キーワード】ADME、投与経路、受動拡散、トランスポーター、初回通過効果、バイオアベイラビリティ、タンパク結合、血中濃度時間曲線下面積（AUC）	宮内正二
23	薬の体内の挙動（3）	【内容】薬物の代謝と排泄（1） 【授業方法】講義 【予習】教科書p.32～p.37を読む。 【復習】章末問題（p.40）を解く。 【キーワード】1次反応速度論、肝代謝、シトクロムP450、遺伝子多型、胆汁排泄、尿中排泄、糸球体濾過	宮内正二
24	薬の体内の挙動（4）	【内容】薬物の代謝と排泄（2） 【授業方法】講義 【予習】教科書p.32～p.37を読む。 【復習】章末問題（p.40）を解く。 【キーワード】1次反応速度論、肝代謝、シトクロムP450、遺伝子多型、胆汁排泄、尿中排泄、糸球体濾過	宮内正二
25	薬の体内の挙動（5）	【内容】治療において重要となる薬物動態の指標（動態学的パラメータ）（1） 【授業方法】講義 【予習】教科書p.37～p.40を読む。 【復習】章末問題（p.40）を解く。 【キーワード】分布容積、全身クリアランス、生物学的半減期、定常状態血中濃度、TDM	宮内正二
26	薬の体内の挙動（6）	【内容】治療において重要となる薬物動態の指標（動態学的パラメータ）（2） 【授業方法】講義 【予習】教科書p.37～p.40を読む。 【復習】章末問題（p.40）を解く。 【キーワード】分布容積、全身クリアランス、生物学的半減期、定常状態血中濃度、TDM	宮内正二

27	薬の体内の挙動（７）	【内容】薬物相互作用、薬効の個人差に影響する因子 【授業方法】講義 【予習】教科書p.40～p.48を読む 【復習】章末問題（p.44、p.48）を解く。 【キーワード】薬物動態学的相互作用、遺伝子多型、薬力学的相互作用	宮内正二

【６】　事前・事後学習とその時間

【準備学習】
・薬理学では、薬物治療の基礎と応用を幅広く学びます。また、化学、生物学、解剖学、生理学、病理学など他の学問領域とも密接に関連しています。従って、基本的な知識や考え方を効果的かつ体系的に身につけるためには、講義には必ず出席してこれを上手く活用することが必要です。
・講義を受講する前には、学習する内容を指定する教科書の該当範囲で予め調べて、アウトラインを理解しておいてください。特に、授業計画で示されたキーワードの意味を理解しておいてください。
・予習には1～2時間を費やします。

【事後学習】
・受講後は必ず復習を行い、学んだ知識や考え方の確認をするとともに、講義の受講だけでは理解が不十分だった項目を教科書や参考書を使って疑問点を解消してください。
・特に、授業計画で示されたキーワードを中心に復習し、授業で解説した代表的な治療薬の薬理作用、作用機序、副作用を理解してください。
・指定教科書の章末問題（ゼミナール：復習と課題）にも取り組んでください。取組む章末問題は予め指定します。
・復習には1～2時間を費やします。

【学習上の留意点】
・講義に関する資料や章末問題の正答な等、学習に必要なものはMoodle（東邦大学 eラーニングサイト）にアップしますので、有効に活用してください。

【７】　評価方法・基準

・MCQ（多項選択式問題）による出題に基づく定期試験を実施し、その点数に基づいて成績を評価します。

・科目担当者の点数配分は次の通りとします。田中芳夫：70%、宮内正二：30%。

【８】　フィードバック方法

・定期試験の正答と簡単な講評を公表します。

【９】　教科書

・授業で使用する指定教科書は下記のとおりです。
「系統看護学講座 専門基礎 疾病のなりたちと回復の促進［3］薬理学 第15版」
吉岡充弘・泉剛・井関健・横武尚司・菅原満（医学書院　2022年）

【10】　参考書

・「薬の使い分けがわかる！ナースのメモ帳」はっしー・木元貴祥（メディカ出版）
・「はじめる！つかえる！看護のための薬理学」時政孝行　著（南山堂）
・「休み時間のワークブック薬理学」柳澤輝行・小橋史　編（講談社）
・「薬理学をおもしろく学ぶ」内田直樹・肥田典子　著（サイオ出版）
・「ナーシング・グラフィカ　疾病の成り立ち②　臨床薬理学」古川裕之・赤瀬智子・林正健二・大西弘高　編（メディカ出版）

【11】　備考(関連科目等)

・予め学んでおくと良い科目：「生物学」、「化学」、「生化学」、「微生物学」、「人体の構造と機能Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」
・この科目に続く内容の科目：「疾病と治療Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ」
・関連性の高い科目：「薬剤学」
2025DPとの関連：DP①・④

科目名(日本語)	**臨床遺伝学**	必修・選択区分	授業形態	開講学期・学年	単位数
科目名(英語)	Clinical Genetics	選択	講義	秋学期 1年	1単位 15時間
科目責任者	久保田宗一郎				
担当教員	久保田宗一郎				
科目責任者 連絡先(教室)	理学部生物学科ゲノム進化ダイナミクス研究室（理学部 Ｉ 号館３階1302A室） 初講にて、メールアドレスが記載されたレジメを配布するので、問合せ等は基本メールでお願いする				
オフィスアワー	月・13時～16時〔理学部Ｉ号館３階1302A室〕				

【１】 授業方法(ALの要素、ICTの活用等)

１－１．アクティブラーニングについて

実施しない

１－２．アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素

２－１．双方向授業でのＩＣＴの活用について

活用しない

【２】 授業概要

遺伝学は、生物の遺伝現象を究明する学問であり、臨床遺伝学は、遺伝性の病態、疾患について究明する学問である。本科目では、生物の形質の伝達、発現の様式と機構など遺伝学の基礎を学び、遺伝性疾患の病態、遺伝子検査、遺伝に関わる倫理課題などの理解を深める。さらに、臨床遺伝学の現状と展望について考察する。

【３】 到達目標

1.社会通念として存在するヒト遺伝学を再認識し、その論拠となる遺伝学的論拠を説明できる。
2.メンデルの遺伝学を理解し、その論拠となる実験を説明できる。
3.近代分子生物学の発展が、遺伝子とは何かを導き出した。この遺伝子とは何かの論拠となる実験を説明できる。
4.遺伝子であるDNAの複製様式を理解し、その論拠となる実験を説明できる。
5.染色体の役割と、細胞周期、生活環との関連を理解し、その体細胞分裂と減数分裂の違いを説明できる。
6.ヒトゲノムと染色体異常、遺伝子量補正について理解し、性分化について説明できる。
7.遺伝性疾患の病態や遺伝子検査など、遺伝と疾患、またその倫理課題について説明できる。

【４】 ディプロマ・ポリシーとの関連

到達目標を達成することにより、以下の能力を身につけることにつながります。

１．自然科学を看護活動の根拠とし、実践に活かす基礎的な力を有している。

２．看護学の専門知識と技術を修得している。

３．他者の多様な価値観を理解し、尊重することができる。

４．看護職の社会的責任を理解し、看護実践にまつわる倫理的課題を感受する力と熟考する力、それらに基づく判断を行動に表す力を身につけている。

５．看護専門職として、リーダーシップおよびフォロワーシップを発揮し、チームの中で有機的に活動する資質を身につけている。

【５】　授業計画

	項目	内容および授業方法 予習・復習・キーワード	担当教員
1	異母兄弟は結婚できる？-1	内容：劣性遺伝を糸口に一般社会の中に触れるヒト遺伝学を再認識し、遺伝様式全般を学修する。 授業方法：講義形式 予習：ヒトの遺伝様式を予め理解しておく。 復習：劣性遺伝や優性遺伝などの遺伝形質が表現型として現れる様式から、遺伝現象を概観し、練習問題を解いてくる。 キーワード：劣性遺伝	久保田宗一郎
2	異母兄弟は結婚できる？-2	内容：劣性遺伝を糸口に一般社会の中に触れるヒト遺伝学を再認識し、遺伝様式全般を学修する。 授業方法：講義形式 予習：ヒトの遺伝様式を予め理解しておく。 復習：劣性遺伝や優性遺伝などの遺伝形質が表現型として現れる様式から、遺伝現象を概観し、練習問題を解いてくる。 キーワード：劣性遺伝	久保田宗一郎
3	メンデル性遺伝-1	内容：メンデルの遺伝の法則を理解し、その応用例を学修する。 授業方法：講義形式 予習：メンデルの遺伝の法則を、中・高校生物の教科書を用いて予め理解しておく。 復習：メンデル性遺伝の練習問題を解いてくる。 キーワード：メンデル	久保田宗一郎
4	メンデル性遺伝-2	内容：メンデルの遺伝の法則を理解し、その応用例を学修する。 授業方法：講義形式 予習：メンデルの遺伝の法則を、中・高校生物の教科書を用いて予め理解しておく。 復習：メンデル性遺伝の練習問題を解いてくる。 キーワード：メンデル	久保田宗一郎
5	遺伝物質-1	内容：遺伝物質に求められる条件を理解し、遺伝物質の化学的な特性を学修する。 授業方法：講義形式 予習：遺伝物質が何かを証明した実験を、高校生物の教科書を用いて予め理解しておく。 復習：遺伝物質に関する計算問題を解いてくる。 キーワード：遺伝物質	久保田宗一郎
6	遺伝物質-2	内容：遺伝物質に求められる条件を理解し、遺伝物質の化学的な特性を学修する。 授業方法：講義形式 予習：遺伝物質が何かを証明した実験を、高校生物の教科書を用いて予め理解しておく。 復習：遺伝物質に関する計算問題を解いてくる。 キーワード：遺伝物質	久保田宗一郎
7	細胞周期とDNA複製-1	内容：細胞周期を理解し、細胞周期とDNAの複製の詳細を学修する。 授業方法：講義形式 予習：細胞周期の概要を、高校生物の教科書を用いて予め理解しておく。 復習：DNAの複製様式、特にオカザキ・フラグメントの実験に関する問題を解いてくる。 キーワード：DNA	久保田宗一郎
8	細胞周期とDNA複製-2	内容：細胞周期を理解し、細胞周期とDNAの複製の詳細を学修する。 授業方法：講義形式 予習：細胞周期の概要を、高校生物の教科書を用いて予め理解しておく。 復習：DNAの複製様式、特にオカザキ・フラグメントの実験に関する問題を解いてくる。 キーワード：DNA	久保田宗一郎
9	体細胞分裂と減数分裂	内容：体細胞分裂と減数分裂の詳細を理解し、二つの分裂の違いを学修する。 授業方法：講義形式 予習：体細胞分裂と減数分裂の概要を、高校生物の教科書を用いて予め理解しておく。 復習：組み換え率の計算問題を解いてくる。 キーワード：染色体	久保田宗一郎
10	性染色体と伴性遺伝	内容：性染色体と伴性遺伝を理解し、性決定の仕組みと性染色体と遺伝病の関係を学修する。 授業方法：講義形式 予習：性染色体の概要を、高校生物の教科書を用いて予め理解しておく。 復習：伴性遺伝に関する問題を解いてくる。 キーワード：性	久保田宗一郎
11	ヒトゲノムと遺伝病-1	内容：ヒトゲノムを概観し、その構造を理解する。遺伝性疾患の病態や遺伝子検査などを理解し、遺伝と疾患、またその倫理課題を学修する。 授業方法：講義形式 予習：代表的な遺伝性疾患や検査方法について教科書を用いて予め理解しておく。 復習：遺伝と疾患について、その倫理問題も含めた問題を解く。 キーワード：病と遺伝	久保田宗一郎

12	ヒトゲノムと遺伝病-2	内容：ヒトゲノムを概観し、その構造を理解する。遺伝性疾患の病態や遺伝子検査などを理解し、遺伝と疾患、またその倫理課題を学修する。 授業方法：講義形式 予習：代表的な遺伝性疾患や検査方法について教科書を用いて予め理解しておく。 復習：遺伝と疾患について、その倫理問題も含めた問題を解く。 キーワード：病と遺伝	久保田宗一郎
13	遺伝子量補償-1	内容：ヒトゲノムの概要と遺伝子量補償を理解し、X染色体不活性化を学修する。 授業方法：講義形式 予習：ヒトゲノムの概要を、高校生物の教科書を用いて予め理解しておく。 復習：X染色体不活性化から三毛ネコの毛色の問題を解く。 キーワード：X染色体と三毛ネコの雄	久保田宗一郎
14	遺伝子量補償-2	内容：ヒトゲノムの概要と遺伝子量補償を理解し、X染色体不活性化を学修する。 授業方法：講義形式 予習：ヒトゲノムの概要を、高校生物の教科書を用いて予め理解しておく。 復習：X染色体不活性化から三毛ネコの毛色の問題を解く。 キーワード：X染色体と三毛ネコの雄	久保田宗一郎

【６】　事前・事後学習とその時間

高校生物の関連分野を予め復習してから講義に臨む。また、講義の復習は配布プリントを中心に、各自が関連する参考書等を用いて行う。この授業には、予習60分程度、復習90分程度を費やします。

【７】　評価方法・基準

試験（講義配付資料とノート持ち込み可）と講義中に課題を出し評価する。試験（55%）、課題（45%）

【８】　フィードバック方法

講義では毎回出席確認のためのリアクションペーパーを配るので、講義中にできなかった質問等はそこに記載して下さい。次回の講義冒頭、質問にコメントする。試験の後、試験問題の模範解答の解説によるフィードバック行う。

【９】　教科書

指定教科書：遺伝医学への招待・改訂第６版（新川詔夫/太田亨著、南江堂）
資料（プリント等）は講義中に配布する

【10】　参考書

「クロー遺伝学概説・第８版」（木村資生他訳、培風館）
「分子遺伝学」（三浦謹一郎編、裳華房）「細胞遺伝学」（佐々木本道編、裳華房）
「一目でわかる臨床遺伝学・第２版」（古関明彦監訳、メディカルサイエンスインターナショナル）他

【11】　備考(関連科目等)

生物学入門、生物学、生化学、疾病と治療Ⅴ
2025DPとの関連：DP①・②・③・④・⑤

科目名(日本語)	**臨床心理学**	必修・選択区分	授業形態	開講学期・学年	単位数
科目名(英語)	Clinical Psycology	選択	講義	秋学期 1年	1単位 15時間
科目責任者	松﨑淳人				
担当教員	松﨑淳人、若林聖子、端こず恵、尾形剛				
科目責任者 連絡先(教室)	松﨑淳人：matsuzaki@med.toho-u.ac.jp				
オフィスアワー	TEL連絡の場合は平日１０時～１５時まで東邦大学医療センター佐倉病院メンタルヘルスクリニック2286迄連絡（随時メールでの質問を受け付ける。事前にメール連絡してからTELすること）				

【１】　授業方法(ALの要素、ICTの活用等)

１－１．アクティブラーニングについて

実施する

１－２．アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素

グループワーク

２－１．双方向授業でのＩＣＴの活用について

活用する

２－２．ＩＣＴを活用する場合、その具体的名称（クリッカー、タブレット端末等）

ムードル

【２】　授業概要

臨床心理学は、人が日々接する様々な現象を“心”の視点から説明する心理学の一分野として、“ヒトとヒトが向かい合うことで生じた問題”を改善する方法を研究し体系化した学問である。本講義では、まず心理学の基礎知識を概観し、次に臨床心理学の基礎を学び、臨床現場で求められる事象の解決方法を習得する。

【３】　到達目標

1.看護学生として医療のみならず一般的な心理課題を抱えた人に対し適切な接し方についてのカウンセリングの原則が説明できる。

【４】　ディプロマ・ポリシーとの関連

到達目標を達成することにより、以下の能力を身につけることにつながります。

１．自然科学を看護活動の根拠とし、実践に活かす基礎的な力を有している。

２．看護学の専門知識と技術を修得している。

３．他者の多様な価値観を理解し、尊重することができる。

４．看護職の社会的責任を理解し、看護実践にまつわる倫理的課題を感受する力と熟考する力、それらに基づく判断を行動に表す力を身につけている。

５．看護専門職として、リーダーシップおよびフォロワーシップを発揮し、チームの中で有機的に活動する資質を身につけている。

【5】　授業計画

	項目	内容および授業方法 予習・復習・キーワード	担当教員
1・2	授業オリエンテーション並びにコミュニケーション理論とその医療現場への応用	内容： １）授業オリエンテーション ２）対人関係のコミュニケーション 理論＞発達理論・コミュニケーション理論・ライフサイクル理論 医学的側面＞発達障害と臨床 文化・言語側面＞異文化コミュニケーション 授業方法：講義 予習・復習：講義毎に提示する キーワード：対人関係 ミニッツペーパー	松﨑淳人
3・4	精神分析理論とその周辺	内容：精神分析理論とその関連分野 古典的精神分析療法 精神分析的精神療法 交流分析、エゴグラム（標準型精神分析療法） 授業方法：講義と演習（心理検査TEG3の体験） 予習・復習：講義毎に提示する キーワード：精神療法 ミニッツペーパー	松﨑淳人
5・6	ライフサイクルと心理アセスメント（１小児期）	内容：心理療法と心理アセスメント１ 乳幼児の心理臨床（心理療法と心理検査） 異常心理学１（発達障害） 授業方法：講義、演習（摸擬症例をもちいて授業中に実施を体験する） 予習・復習：講義毎に提示する キーワード：発達検査、知能検査、臨床心理士と看護師との多職種連携 出席カード	若林聖子
7・8	ライフサイクルと心理アセスメント（２成人期）	内容：心理療法と心理アセスメント２ 思春期青年期から成人に至る心理臨床 （９）異常心理学２（人格障害と各種精神疾患）／（１０）集団認知行動療法 授業方法：講義、演習（心理検査BDI2、STAI）（認知行動療法の体験） 予習・復習：講義毎に提示する キーワード：発達検査、知能検査、臨床心理士と看護師との多職種連携 リアクションペーパー	（７）松崎淳人 （８）端こず恵
9・10	ライフサイクルと心理アセスメント（３中高年から老年期）	内容：心理対応と心理アセスメント３ 中高年の危機と老年期心理に係わる心理臨床 異常心理学（３抑うつ・不安とせん妄） ライフサイクルと心理の総括 授業方法：講義と演習 予習・復習：講義毎に提示する キーワード：パーソナリティ障害、せん妄、認知症	（９）松崎淳人 （１０）尾形剛
11・12	看護現場と臨床心理学	内容：患者の心理を理解して看護するために必要な臨床心理学的知識とその応用 力動的理解（精神分析） 文脈的理解（ナラティブ・ベイスド・メディスン） 異文化的理解（異文化・他言語） 授業方法：講義 予習・復習：講義毎に提示する キーワード：看護師による看護師のための臨床心理学	（１１）松﨑淳人 （１２）松﨑淳人、および　ゲストスピーカー（白川忍）
13・14	臨床心理学総括	（13）小テスト１・２を実施あり 内容：各種カウンセリング理論の振り返り ブリーフサイコセラピー 解決指向型アプローチ 積極的傾聴法 授業方法：講義と演習（病者を意識した傾聴練習） 予習・復習：講義毎に提示する キーワード：各種カウンセリング理論、傾聴法	松﨑淳人

【6】　事前・事後学習とその時間

この授業はオリエンテーション時を除き、授業内容の理解を促進するために予習を３０分程度、授業内容の整理と記憶の定着のために復習を１時間程度費やす。

【7】　評価方法・基準

成績評価対象課題　３０％　　小テスト１　　３５％　　小テスト２　　３５％

【8】　フィードバック方法

小テストの結果にコメントする。

【9】　教科書

下田晴彦（編）よくわかる臨床心理学　ミネルバ書房　2009

【10】　参考書

米国精神医学会　DSM－５精神疾患の診断・統計マニュアル　医学書院　2014

【11】　備考(関連科目等)

予め学んでおくと良い科目：コミュニケーション論、心理学
この科目に続く内容の科目：精神看護学概論
2025DPとの関連：DP①・②・③・④・⑤

科目名(日本語)	**看護学概論**	必修・選択区分	授業形態	開講学期・学年	単位数
科目名(英語)	Introduction to Nursing	必修	講義	春学期 1年	1単位 15時間
科目責任者	尾立篤子				
担当教員	尾立篤子				
科目責任者 連絡先(教室)	尾立篤子：研究室（K328）atsuko.oryu@hs.toho-u.ac.jp				
オフィスアワー	授業終了後10分程度、講義室にて質問を受ける。Moodleでの連絡も可能。				

【1】 授業方法(ALの要素、ICTの活用等)

１－１．アクティブラーニングについて

実施する

１－２．アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素

ディスカッション、ディベート
グループワーク
プレゼンテーション

２－１．双方向授業でのＩＣＴの活用について

活用する

２－２．ＩＣＴを活用する場合、その具体的名称（クリッカー、タブレット端末等）

Moodle

【2】 授業概要

看護学の主要な概念である人間・健康・環境、社会、看護、擁護に関連する基本的な考え方、看護独自の機能と役割、活動方法など看護学の基礎知識を学ぶ。さらに、看護の歴史的変遷から看護の本質と展望について考察する。

【3】 到達目標

1. 先達の看護の理論家にみる看護の定義を述べることができる。
2. 「健康」の概念について述べることができる。
3. 看護実践に関わる法的枠組みについて述べることができる。
4. 看護の歴史を概観し、その変遷について述べることができる。
5. 看護の役割と機能について
   a. 「看護ケア」について述べることができる。
   b. 看護実践と質基準について述べることができる。
   c. 現代社会における疾病構造の変化と看護について述べることができる。
   d. 看護活動について述べることができる。
6. 看護の対象理解
   a. 人体の構造と機能・病態との関連について述べることができる。
   b. 成長・発達する人間、生活者としての人間について述べることができる。
   c. 看護の対象としての家族や集団、地域における看護について述べることができる。
   d. 災害医療における看護について述べることができる。
   e. グローバル化におけるダイバーシティと看護について述べることができる。
   f. 人間の危機理論について述べることができる。
   g. コーピング理論について述べることができる。
   h. 人間のニードに関する理論を述べることができる。
7. 看護実践と倫理について述べることができる。
8. 看護の継続性と情報共有について
   a. 入院にまつわる情報共有のあり方について述べることができる。
   b. 多職種連携・協働における看護職の役割について述べることができる。
   c. 地域基盤の看護とその継続性について述べることができる。
9. 看護管理の目的と医療安全の考え方について述べることができる。
10. 科学的根拠に基づく看護実践と看護学の発展について述べることができる。

【4】 ディプロマ・ポリシーとの関連

到達目標を達成することにより、以下の能力を身につけることにつながります。

１．自然科学を看護活動の根拠とし、実践に活かす基礎的な力を有している。

２．看護学の専門知識と技術を修得している。

３．他者の多様な価値観を理解し、尊重することができる。

４．看護職の社会的責任を理解し、看護実践にまつわる倫理的課題を感受する力と熟考する力、それらに基づく判断を行動に表す力を身につけている。

５．看護専門職として、リーダーシップおよびフォロワーシップを発揮し、チームの中で有機的に活動する資質を身につけている。

６．自ら学ぼうとする好奇心をもち、生涯にわたり自己研鑽する姿勢を身につける。

【5】　授業計画

	項目	内容および授業方法 予習・復習・キーワード	担当教員
1・2回	看護とは（1）	内容： １．看護の定義 ２．健康の概念 ３．看護職と法 方法：講義 予習：健康科学概論で学んだことを復習する。 テキストⅠ章-1、Ⅱ章-3、Ⅳ章-4を読む。 復習：授業の内容を整理する。 キーワード：看護理論家、（ナイチンゲール、ヘンダーソン）、健康観、健康の諸相、健康の段階と健康目標、看護職能団体、保健師助産師看護師法、看護師等の人材確保の促進に関する法律、看護の倫理綱領	尾立篤子
3・4回	看護とは　(2)	内容： １．看護専門職の始まりと発展 ２．看護の質保証の取りくみの変遷 ３．看護学の発展 方法：講義 予習：テキストⅠ章-2、Ⅷ章-2を読む。 復習：授業の内容を整理する。 キーワード：看護の機能、社会、環境、職業人、専門職、看護活動、看護学、実践の科学、教育方法、看護教育制度の変遷、基本技術、看護の施策、看護のエビデンス、看護研究	尾立篤子
5・6回	看護の対象（1）	内容： １．成長・発達する人間 ２．人間と環境 ３．生活者としての人間 ４．家族と看護 ５．集団・地域と健康 方法：講義 予習：１・2回目の授業の復習をして臨む。 テキストⅡ章-1・2・4・5・6・7を読む。 復習：学んだことの整理をする。 キーワード：ホメオスタシス、防衛機制、エリクソン、ピアジェ、発達段階、発達課題、生活、基本的欲求、マスローの欲求階層、超高齢社会と人口減少、災害サイクル、ダイバーシティ	尾立篤子
7・8回	看護の対象（2）	内容： １．自己と他者 ２．ストレス、コーピング ３．セクシュアリティ ４．スピリチュアリティ 方法：講義 予習：健康科学概論で既習した内容を復習して授業に臨む。 テキストⅢ章を読む。 復習：学んだことの整理をする。 キーワード： アイデンティティ、ストレス、コーピング、ライフイベント、ソーシャルサポート、セクシュアリティ、ジェンダー、スピリチュアルケア	尾立篤子
9・10回	看護の機能と役割（1）	内容： １．看護実践と倫理 ２．医療専門職の倫理規定 ３．保健医療福祉システムと看護 方法：グループワーク（5～6回目の授業内容を含めた内容） 予習：４回目の授業時に提示されたグループワークに関する準備をして授業に臨む。テキストⅣ章-3を読む。 復習：次回の発表に向けて準備をする。 キーワード：、守秘義務の遵守、基本的人権の擁護（インフォームドコンセント・ノーマライゼーション・自己決定権・個人情報の保護）、福祉制度、包括的保健医療提供システム	尾立篤子
11・12回	看護の機能と役割（2）	内容： １．看護実践とクリティカルシンキング ２．看護過程 ３．看護実践の展開 ４．看護情報管理 方法：発表～全体討議 予習：グループ発表ができるよう準備する。テキストⅣ章-5・6、Ⅴ章を読む。 復習：発表・討議内容をまとめる。 キーワード：クリティカルシンキング、看護研究と実践、看護アセスメント、看護実践の展開、看護記録、医療保険制度（医療保険の種類、国民皆保険、国民医療費、高齢者保険制度、給付の内容） 介護保険制度（保険者、被保険者、給付の内容、要介護認定） 基本的人権の擁護（個人の尊厳、患者の権利、自己決定権と患者の意思、インフォームド・コンセント、ノーマライゼーション、情報管理）	尾立篤子

13・14回	看護管理、看護の展望	内容： １．看護管理の目的と過程 ２．サービスとしての看護 ３．医療の質と安全 ４　医療事故と看護職の責務 ５．多職種連携・協働と看護職の役割 ６．看護・看護学の展望と課題 方法：講義、質疑応答（全体討議） 予習：テキストⅣ章-2、Ⅵ章、Ⅷ章-3・4を読む 復習：課題レポートをまとめる。 キーワード：サービス、医療安全と医療の質、安全文化、ヒューマンエラー、インシデント、リスクマネジメント、チーム医療、コンピテンシー	尾立篤子

【６】　事前・事後学習とその時間

看護学全般に関連する科目であることから、キーワードについて検索して予習し受講すると共に、毎回の講義の内容を復習して整理して下さい。この予習・復習は学習目標の達成に着目して進めてください。これらに費やす時間はおおよそ1～2時間程度です。

【７】　評価方法・基準

レポート評価50 %,　小テスト20%、授業・グループワークへの取り組み姿勢30%（発言回数、リアクションによる内容の理解状況）とする。

【８】　フィードバック方法

次回の授業で、課題の中の特徴的な見解や誤解についてコメント、解説する。

【９】　教科書

髙橋照子 著:看護学テキスト NiCE 看護学原論 改訂第3版 看護の本質的理解と創造性を育むために 南江堂 2020
ヴァージニア・ヘンダーソン著　湯槙ます訳：『看護の基本となるもの』
Florence Nightingale　著　湯槙ます訳：『看護覚え書』　現代社

【10】　参考書

授業時に提示する。

【11】　備考(関連科目等)

健康科学概論、看護学に関する科目全般
2025DPとの関連：DP①・②・③・④・⑤

科目名(日本語)	**臨床看護学概論**	必修・選択区分	授業形態	開講学期・学年	単位数
科目名(英語)	Introduction to Clinical Nursing	必修	講義	秋学期 1年	1単位 15時間
科目責任者	日高紀久江				
担当教員	日高紀久江				
科目責任者 連絡先(教室)	日高紀久江（研究室K333）　kikue.hidaka@hs.toho-u.ac.jp				
オフィスアワー	講義終了10分程度、講義室で質問を受け付ける。メールあるいはmoodleのメッセージでの連絡も可能とする。				

【１】　授業方法(ALの要素、ICTの活用等)

１－１．アクティブラーニングについて
実施する

１－２．アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素
ディスカッション、ディベート

２－１．双方向授業でのＩＣＴの活用について
活用する

２－２．ＩＣＴを活用する場合、その具体的名称（クリッカー、タブレット端末等）
Moodle

【２】　授業概要

臨床看護は、看護が提供される場（臨床）において行われる看護実践を意味し、看護の専門領域の実践の基盤ともなる。本科目では、臨床における看護の対象である人々（主に成人期にある人）の健康問題に応じた看護の特徴、看護職の役割、看護の主要な理論・概念について、基礎知識と援助方法について学ぶ。

【３】　到達目標

1. 人間の一生全体をとらえ、そのなかの成人期の特徴が説明できる
2. 青年期の健康問題が3つ以上あげられる
3. 壮年期・中年期の健康問題が3つ以上あげられる
4. 健康の成立要因と、健康をおびやかす要因が5つ以上あげられる
5. ヘルスプロモーションのための看護のポイントがあげられる
6. 健康生活の急激な破綻から回復を促す看護のポイントがあげられる
7. 健康生活の慢性的な揺らぎの再調整を促す看護のポイントがあげられる
8. 障害がある人の生活とリハビリテーションの看護のポイントがあげられる
9. 人生最期の時を支える看護のポイントがあげられる
10. 手術療法を受ける患者の看護のポイントがあげられる
11. 臨床看護における看護職の役割が説明できる

【４】　ディプロマ・ポリシーとの関連

到達目標を達成することにより、以下の能力を身につけることにつながります。

１．自然科学を看護活動の根拠とし、実践に活かす基礎的な力を有している。

２．看護学の専門知識と技術を修得している。

３．他者の多様な価値観を理解し、尊重することができる。

４．看護職の社会的責任を理解し、看護実践にまつわる倫理的課題を感受する力と熟考する力、それらに基づく判断を行動に表す力を身につけている。

５．看護専門職として、リーダーシップおよびフォロワーシップを発揮し、チームの中で有機的に活動する資質を身につけている。

６．自ら学ぼうとする好奇心をもち、生涯にわたり自己研鑽する姿勢を身につける。

【5】　授業計画

	項目	内容および授業方法 予習・復習・キーワード	担当教員
1・2	臨床看護と看護師の役割	内容： 　臨床看護の現実と、現場感覚に根ざした看護活動のイメージ形成 　看護の視点からみた、成人にとっての療養生活の意味 授業方法：　講義 予習：成人の条件を辞書で調べ、日本国憲法を読み、成人期の国民の義務と権利を説明する 復習：これまでの看護の学習内容との共通点と相違点を整理し文章化する（課題レポート） キーワード：　臨床現場、臨床看護、療養生活	日高紀久江
3	成人各期の特徴と健康問題 （1）青年期	内容: 　人間の一生を俯瞰 　成人期の特徴 　成人の生活と労働 　成人の生活と家族 　青年期の健康問題と健康支援 授業方法：　講義 予習：国民衛生の動向に記載の成人に関わる部分を調べる。 復習：1.国民衛生の動向から青年期の健康問題についてのデータ検索 2.青年期の健康の特徴のポイントをあげ、青年期にある自分自身の健康状態を説明 キーワード：　大人　生活　労働　家族発達課題　死因　受療率	日高紀久江
4	成人各期の特徴と健康問題 （2）壮年期・中年期	内容： 　壮年期・中年期の健康問題 　壮年期・中年期の健康支援 　生活習慣病とその予防対策 授業方法：講義 予習：国民衛生の動向から壮年期・向老期の健康問題についてのデータ検索 復習：授業中に学習課題を提示する キーワード：発達課題　死因　受療率　生活習慣病	日高紀久江
5・6	健康レベルに応じた看護 （1）セルフケア能力発揮のおびやかしへの看護	内容： 　ヘルスプロモーションと看護 　健康をおびやかす要因と看護 　感染症と看護 授業方法：講義 予習：教科書当該部分を読み疑問点を取り出す、自分の生活習慣について改善すべき点を見つける 復習：ミニテスト（第3-6回の講義内容） キーワード：　ヘルスプロモーション　健康行動　健康づくり 　健康バランス要因　ストレス　飲酒・喫煙　肥満　生活環境 　感染症セルフケア　行動変化ステージ	日高紀久江
7・8	健康レベルに応じた看護 （2）急性期看護	内容： 　健康生活の急激な破綻から回復を促す看護 　治療過程と看護援助 　意思決定支援、救急医療を必要とする患者の家族支援 授業方法：講義 予習：教科書当該部分を読み疑問点を取り出す、危機モデルについて調べる 復習：授業中に学習課題を提示する キーワード：　生命危機、危機介入、合併症、急性疼痛、疼痛コントロール、合併症予防、家族支援、意思決定支援	日高紀久江
9・10	健康レベルに応じた看護 （2）急性期の治療と看護	内容： 　手術療法を受ける患者看護 　手術侵襲と生体反応 　術後合併症と予防のための看護 　手術を受ける患者の心理 　臨床看護の展望 授業方法：講義 予習：手術侵襲について調べる 復習：ミニテスト（第7-10回の講義内容） キーワード：周手術期、手術侵襲、術後合併症、術前看護、手術室看護、術後看護、継続看護	日高紀久江
11・12	健康レベルに応じた看護 （3）慢性期看護	内容： 　健康生活の慢性的な揺らぎの再調整を促す看護 　学習者である患者への支援 　ストレスと看護 授業方法：講義 予習：教科書当該部分を読み疑問点を取り出す、オレムのセルフケアおよびバンデューラの自己効力感について調べる 復習：　授業中に学習課題を提示する キーワード：　病みの軌跡、セルフマネジメント、エンパワーメント・エデュケーション、コンプライアンス	日高紀久江

13・14	健康レベルに応じた看護 （4）QOL追求の看護	内容： 障害がある人の生活とリハビリテーションの看護 退院支援 人生最後の時を支える看護 症状マネジメント 授業方法：講義 予習：教科書当該部分を読み疑問点を取り出す、トータルペインについて調べる 復習：授業中に学習課題を提示する（課題レポート） キーワード：障害受容、ボディイメージ、リハビリテーション、チームアプローチ、リスクマネジメント、退院支援、緩和ケア、トータルペイン、デス・エデュケーション、予期的悲嘆、症状マネジメント	日高紀久江

【６】　事前・事後学習とその時間

予習・復習に60分程度を要する。この授業は主に成人期にある人の健康について学ぶ科目である。成人期には講義に参加する学生やその家族の方々の多くが対象として含まれる。講義に参加するにあたっては単純に知識を学習するのでなく自分の回りにいる多くの方々の生活をイメージしながら健康問題を考えることを期待している。

【７】　評価方法・基準

定期試験 70%　課題レポート 20%　ミニテスト 10%

【８】　フィードバック方法

次回の授業で、課題の中の特徴的な見解や誤解について全体にコメントする。

【９】　教科書

小松浩子ほか：系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学総論 第16版，医学書院

【10】　参考書

適宜提示する

【11】　備考(関連科目等)

看護学概論、トランスレーショナルへの挑戦、看護理論・看護展開論、機能障害のある患者への看護
周手術期・急性重症患者看護、がん看護、発達看護論、健康科学概論
コミュニティヘルス看護概論、臨床看護学実習Ⅰ、臨床看護学実習Ⅱ、臨床看護学実習Ⅲ
2025DPとの関連：DP①・②・③・④・⑤

科目名(日本語)	**看護理論**	必修・選択区分	授業形態	開講学期・学年	単位数
科目名(英語)	Nursing Theory	必修	講義	秋学期 1年	1単位 15時間
科目責任者	尾立篤子				
担当教員	尾立 篤子・宮崎 裕子・蜂ヶ崎 令子・山本　利江				
科目責任者 連絡先(教室)	atsuko.oryu@hs.toho-u.ac.jp（研究室K328）				
オフィスアワー	授業終了後10分程度、講義室にて質問を受ける。Moodleでの連絡も可。				

【１】　授業方法(ALの要素、ICTの活用等)

１－１．アクティブラーニングについて

実施する

１－２．アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素

ディスカッション、ディベート
グループワーク
プレゼンテーション

２－１．双方向授業でのＩＣＴの活用について

活用する

２－２．ＩＣＴを活用する場合、その具体的名称（クリッカー、タブレット端末等）

Moodle

【２】　授業概要

看護理論は、看護に関連した現象を記述し、予測し、説明することを目的としている。そして、看護実践の基礎となり、さらなる知識を生み出し、看護が将来どのような方向に向かって発展すべきかを示すものである。
本科目では、主要な看護理論の歴史的変遷、特徴、背景、構成要素、看護の主要概念との関連、実践への適用と課題などを分析的に学修する。

【３】　到達目標

1. 看護理論の定義と構成要素を説明できる。
2. ナイチンゲールの看護理論について看護の主要概念を用いて説明できる。
3. ニード論の特徴と実践への適用方法を具体的に説明できる。
4. ヘンダーソンの看護理論について具体的に説明できる。
5. 看護理論の実践への適用における倫理的課題と対応について論述できる

【４】　ディプロマ・ポリシーとの関連

到達目標を達成することにより、以下の能力を身につけることにつながります。

１．自然科学を看護活動の根拠とし、実践に活かす基礎的な力を有している。

２．看護学の専門知識と技術を修得している。

３．他者の多様な価値観を理解し、尊重することができる。

４．看護職の社会的責任を理解し、看護実践にまつわる倫理的課題を感受する力と熟考する力、それらに基づく判断を行動に表す力を身につけている。

５．看護専門職として、リーダーシップおよびフォロワーシップを発揮し、チームの中で有機的に活動する資質を身につけている。

６．自ら学ぼうとする好奇心をもち、生涯にわたり自己研鑽する姿勢を身につける。

【5】　授業計画

	項目	内容および授業方法 予習・復習・キーワード	担当教員
1回	看護理論概説	内容 科目オリエンテーション 1. 看護理論の変遷 2. 看護理論の定義と構成要素 3. 看護理論の概要 方法：講義 予習：テキストの指定された範囲を読んでおく 復習：授業内容について資料、関連文献等を用いて課題シートに整理し提出する(課題シートの詳細は講義で示す) キーワード：理論、概念、定義、看護モデル、体系的、看護の現象、看護理論の範囲、看護理論家、構成要素、主要概念（人間、健康、環境／社会、看護）、健康、療養環境、回復過程、観察、専門職	尾立 篤子
2・3回	ナイチンゲール看護論（1）	内容： 1.ナイチンゲールの歴史 方法：講義 予習：『看護覚え書』を読んでおく 復習：講義中に示された事項について情報を整理しておく キーワード：療養環境、自然治癒力、回復過程	山本 利江
4・5回	ナイチンゲール看護論（2）	内容： 1.ナイチンゲール看護論 2.ナイチンゲール看護論の実践への活用 方法：講義 予習：前回の講義で示されたキーワードについて調べる 復習：講義で配布したワークシートを完成させて提出（課題） キーワード：自然、生活、生命力	山本 利江
6・7回	その他の理論	内容： 1.看護理論の種類 2.中範囲理論 方法：講義 予習：事前に示された論文を読んでおく 復習：講義中に示された課題について情報を整理しておく キーワード：メタ理論、大看護理論、実践理論、中範囲理論、概念分析	蜂ヶ崎 令子
8・9回	ニード論	内容： 1.人間の基本的欲求、動機付け 2.マズローの欲求５段階説、ニード論概説 方法：講義 予習：事前に示された論文を読んでおく 復習：講義で配布したワークシートを完成させ提出する（課題） キーワード：マズロー、マレー、アブデラ、生理的ニード、安全ニード、自己実現のニード	宮崎 裕子
10・11回	ヘンダーソン看護論（1）	内容 1.ヘンダーソンの歴史 2.ヘンダーソン看護論について分析 方法：講義、グループワーク 予習：『看護の基本となるもの』を読む 復習：人間の基本的欲求、看護の独自機能について整理する(課題) キーワード：ニード、基本的欲求、欲求の階層、動機づけ、自己実現、患者中心の看護	宮崎 裕子、蜂ヶ崎 令子
12・13回	ヘンダーソン看護論（2）	内容 1. ヘンダーソン看護論の実践への適用方法 2. ヘンダーソン看護論の実践上の課題 方法：講義、グループワーク 予習：ワークシートに記載する 復習：授業内容に基づいてワークシートを完成させ、課題についてレポートを提出する（課題の詳細は講義で示す） キーワード：ニード充足、看護の実践方法、看護の役割、看護診断、倫理的課題	宮崎 裕子、蜂ヶ崎 令子
14回	看護理論まとめ、看護理論の実践への適用と課題	内容 1. 看護理論の実践への適用と課題 2. 看護理論の展望 方法：講義、小テスト 予習：これまでの学修を通して、疑問や質問項目をまとめておく 復習：課題に取り組む（最終講義で提示する） キーワード：理論開発、明確性、一貫性、平易性、有用性、一般性	尾立 篤子

【6】　事前・事後学習とその時間

本授業は、看護理論を理解することを通して看護を探究し自らの看護観を深めることをねらいとする。
そのため各看護理論の関連内容について予習に1時間程度、復習に1.5時間程度必要である。
看護理論に関しては、関連の書籍や文献を活用し、予習・復習をして臨むこと。

【7】　評価方法・基準

課題（ワークシート、レポート）80%、小テスト20%

【８】　フィードバック方法

全体の到達状況や必要な解説について、次回講義やMoodleでコメントする。

【９】　教科書

筒井真優美編：看護学テキストNiCE､看護理論、改訂第3版、看護理論21の理解と実践への応用、南江堂､2019
フローレンス・ナイチンゲール、湯槇ます他訳：看護覚え書、改訳第8版、現代社、2023
ヴァージニア・.ヘンダーソン、湯槇ます、小玉香津子訳：看護の基本となるもの、日本看護協会出版、2016

【10】　参考書

筒井真優美編：看護理論家の業績と理論評価、第2版　医学書院、2020
黒田裕子監修：ケースを通してやさしく学ぶ看護理論　改訂3版, 日総研, 2008
竹尾惠子監修：新訂版　超入門　事例で学ぶ看護理論, Gakken, 2015.

【11】　備考(関連科目等)

哲学、心理学、社会学、看護学概論、専門教育科目全般、臨地実習科目全般
2025DPとの関連：DP①・②・③・④・⑤

科目名(日本語)	**看護の基本技術1（療養環境の整備技術）**	必修・選択区分	授業形態	開講学期・学年	単位数
科目名(英語)	Nursing Skills 1 (Treatment Environment)	必修	演習	春学期 1年	1単位 30時間
科目責任者	宮崎裕子				
担当教員	蜂ヶ崎令子・宮崎裕子・林京子				
科目責任者 連絡先(教室)	宮崎裕子：hiroko.miyazaki@hs.toho-u.ac.jp(研究室K327)				
オフィスアワー	授業終了後10分程度、授業をした講義室、演習室で受け付けます。さらにMoodleの質問機能でも受け付けます。				

【１】　授業方法(ALの要素、ICTの活用等)

１－１．アクティブラーニングについて

実施しない

１－２．アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素

２－１．双方向授業でのＩＣＴの活用について

活用する

２－２．ＩＣＴを活用する場合、その具体的名称（クリッカー、タブレット端末等）

Moodle

【２】　授業概要

看護技術を学ぶ第一歩として、看護実践における基本的な技術の考え方、方法、態度を学修する。また、基本的な看護技術の土台をなすものとして、人間関係を形成するためのコミュニケーション技術、看護の対象者および看護を提供する自分自身を守るための安全確保と感染予防、およびボディーメカニクス技術、看護の対象者が生活を送る場としての快適で清潔な療養環境を整備する技術(主にベッドメイキング)を学修する。

【３】　到達目標

1. 看護技術の概念と看護援助者としての役割について説明できる。
2. 他者の価値観を尊重したコミュニケーションの基本を説明できる。
3. 看護技術に必要な安全確保の方法について説明できる。
4. 感染対策に必要な標準予防策を実施できる。
5. 身体構造や機能を力学的な原理を理解し活用することができる。
6. 環境調整技術を用いて安全で快適な療養環境を整えることができる。
7. 看護専門職を学ぶ者としての心がまえ・態度・身だしなみで看護技術に臨むことができる。

【４】　ディプロマ・ポリシーとの関連

到達目標を達成することにより、以下の能力を身につけることにつながります。

１．自然科学を看護活動の根拠とし、実践に活かす基礎的な力を有している。

２．看護学の専門知識と技術を修得している。

３．他者の多様な価値観を理解し、尊重することができる。

４．看護職の社会的責任を理解し、看護実践にまつわる倫理的課題を感受する力と熟考する力、それらに基づく判断を行動に表す力を身につけている。

５．看護専門職として、リーダーシップおよびフォロワーシップを発揮し、チームの中で有機的に活動する資質を身につけている。

６．自ら学ぼうとする好奇心をもち、生涯にわたり自己研鑽する姿勢を身につける。

【5】　授業計画

	項目	内容および授業方法 予習・復習・キーワード	担当教員
1.2	オリエンテーション	授業方法：講義、演習 内容：本科目の位置づけ、受講するにあたっての心がまえ・態度・身だしなみ、予習・復習、課題、評価方法に関する説明。演習室の使い方、ベッドとベッド周りの備品操作、ランドリー、ゴミ処理のルール等の説明。 キーワード：主体性、学修、自己管理、マナー	宮崎裕子・全員
3.4	看護技術とは	授業方法：講義 内容：看護技術とはなにか、看護技術の特徴（全人的かかわり・患者の権利擁護・倫理的判断等）、看護技術の範囲、実践要素(目的・方法・根拠・意義と個別性・安全安楽・プライバシー等)、技能と技術。 予習：教科書②序章を読む。 復習：授業内容の復習 キーワード：保健師助産師看護師法、技術、技能、看護技術、全人的、患者の権利擁護、倫理的配慮	蜂ヶ崎令子
5	看護技術と安全	授業方法：講義 内容：安全確保の基礎知識、医療安全に関わる法律、医療安全防止。 予習：教科書①第3章を読む。 復習：課題の提出 キーワード：医療行為、セーフティーマネジメント、事故、過誤。	蜂ヶ崎令子
6.7.8	環境調整技術①（療養環境のアセスメントと調整）	授業方法：講義、演習 内容：良好な療養環境、療養環境のアセスメント、安全・快適な療養環境を整える。環境（音・温度・湿度等）測定する。 予習：教科書②第1章を読む。 復習：課題の提出 キーワード：療養環境、アセスメント、安全性、清潔、快適	蜂ヶ崎令子・全員
9	環境調整技術②（リネン交換とベッドメーキング）	授業方法：講義、演習 内容：ベッドメーキングとリネン交換 予習：教科書②第1章、および動画資料を視聴する。 復習：ワークシートの提出、各自で反復練習。 キーワード：ベッドメーキング、リネン、バイアス、清潔、褥瘡、ボディメカニクス	宮崎裕子・全員
10.11.12	ボディメカニクスの技術	授業方法：講義、グループワーク、演習 内容：ボディメカニクスの原理と活用。良肢位とはなにか、安楽な体位と体位変換。 予習：教科書②第4章、課題資料、動画資料を視聴し物理・力学の復習をしておく、ワークシートの事前課題部分を記入する。 復習：ワークシートの提出 キーワード：ボディメカニクス、トルク、ベクトル、原理、体位、良肢位、体位変換、安全、安楽	蜂ヶ崎令子・全員
13.14.15.16	環境調整技術①（リネン交換とベッドメーキング）	内容：リネン交換とベッドメーキングの反復練習 予習：教科書②第1章、および動画資料を視聴する。 復習：各自で反復練習 キーワード：ベッドメーキング、リネン、バイアス、清潔、褥瘡、ボディメカニクス	宮崎裕子・全員
17.18.19	感染防止の技術	授業方法：講義、演習 内容：感染とその予防の基礎知識、標準予防策(スタンダードプリコーション)の方法。 予習：教科書①第2章を読む。 復習：課題の提出 キーワード：感染、接触感染、飛沫感染、空気感染、感染予防、標準予防策授業方法：演習	宮崎裕子・全員
20.21.22.23	技術チェックテスト（リネン交換とベッドメーキング）	授業方法：演習 内容：環境調整技術およびボディメカニクス技術を用いて、指定時間内に適切なリネン交換とベッドメーキングを実施する。 キーワード：ベッドメーキング、リネン、バイアス、清潔、褥瘡、ボディメカニクス	全員
24.25.26	コミュニケーション技術	授業方法：講義、演習、Moodleを活用する 内容：コミュニケーションとはなにかとその要素とプロセス。看護・医療におけるコミュニケーションの目的・重要性。ミスコミュニケーションをどのように避けるか。基本的態度と効果的なコミュニケーション技術。 予習：教科書①第1章、および動画視聴。身だしなみを整えてくること。 復習：ワークシートの提出 キーワード：コミュニケーション、ミスコミュニケーション、相互作用、信頼関係、態度、傾聴、共感、オープンクエスチョン、クローズドクエスチョン、アサーティブネス	林京子・全員
27	まとめ	授業内容：講義 内容：全体講評、ベッドメーキング技術チェックテスト結果、定期試験に関する説明。 キーワード：到達目標、評価、課題、学習方法、主体性、自己管理、マナー	宮崎裕子

【６】　事前・事後学習とその時間

1.事前学習
教科書の指定範囲の予習、動画視聴、課題やワークシートの学修のため30分程度を要する。
2. 事後学習
課題や演習後のワークシートの追記・修正をなどの学修のために30分程度を要する。課題、ワークシートは完成させてから提出すること。学修した技術の修得のため、反復練習をすること。

2.学修上の留意点
Moodleで授業に関するアナウンスや予習内容が公開されるため、確認すること。

【７】　評価方法・基準

①定期試験（60%）、②技術チェックテスト（20%）、③自己学習状況・授業態度（ワークシートの提出状況・内容、演習前後の自己学習状況と振り返り内容）（20%）で総合評価する。

【８】　フィードバック方法

課題やワークシートに関する総評や質問への回答などは、Moodleのメッセージ機能や授業を通じてフィードバックする。
技術チェックテストについては、全体に講評としてフィードバックする。

【９】　教科書

①系統看護学講座 専門分野 基礎看護学 [2] 基礎看護技術Ⅰ 第18版 茂野香おる 医学書院 2022
②系統看護学講座 専門分野　基礎看護学 [3]　基礎看護技術Ⅱ　第19版　任和子　医学書院　2025
その他、資料を授業の時に配布する。

【10】　参考書

《書籍》
看護技術がみえる vol.1 基礎看護技術 医療情報科学研究所 メディックメディア,2018
医療安全管理者必携　医療安全管理テキスト第4版,飯田修平編,日本規格協会,2022
新装版　コミュニケーション　効果的な看護を展開する鍵,日本看護協会出版会,2015
その他、授業内で提示する
《動画教材》
丸善EVO基礎看護技術シリーズ
ナーシング・スキル日本版 https://nursingskills.jp/

【11】　備考(関連科目等)

「健康科学概論」「看護学概論」「看護理論・看護展開論」「人体の構造と機能Ⅰ」、「看護のための物理学」、「看護入門実習Ⅰ」
2025DPとの関連：DP①・②・③・④・⑤

科目名(日本語)	**看護の基本技術2（ヘルスアセスメント）**	必修・選択区分	授業形態	開講学期・学年	単位数
科目名(英語)	Nursing Skills 2 (Health Assessments)	必修	演習	秋学期 1年	1単位 30時間
科目責任者	蜂ヶ崎令子				
担当教員	蜂ヶ崎令子・宮崎裕子・林京子・松浦麻子				
科目責任者 連絡先(教室)	研究室K314(reiko.hachigasaki@hs.toho-u.ac.jp)				
オフィスアワー	通常時のオフィスアワー：授業後30分はその場で対応もしくは研究室K314へ。 moodleの「質問コーナー」もしくは上記の科目責任者へメールで質疑に応答する				

【１】　授業方法(ALの要素、ICTの活用等)

１－１．アクティブラーニングについて

実施する

１－２．アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素

ディスカッション、ディベート
グループワーク

２－１．双方向授業でのＩＣＴの活用について

活用する

２－２．ＩＣＴを活用する場合、その具体的名称（クリッカー、タブレット端末等）

タブレット端末、Moodle

【２】　授業概要

看護実践における基本的な技術の考え方・具体的方法・援助のプロセス･態度を学修する。基本の技術2（ヘルスアセスメント）では、対象理解および対象の健康状態をアセスメントするための基本となる、系統的な客観的・主観的情報収集の技術、および、情報の分析・解釈・統合の技術を学修する。主な内容は、ヘルスアセスメントの概念、健康歴の聴取、バイタルサインズの技術を学修し、全身を系統的に観察するフィジカルアセスメントの基礎について体験しながら、看護学の立場から対象理解を深める技術を修得する。

【３】　到達目標

1. 看護におけるヘルスアセスメントの概念と目的、必要性について述べられる。
2. フィジカルアセスメントに必要な観察技術・基本的技術の考えについて述べられる。
3. 対象の健康状態を理解するために、対象の心身を観察できる。
4. バイタルサインズ測定に必要な技術が実施できる。
5. 技術に必要な6つの基本要素(安全･安楽･審美･効率･経済･自立)に基づいて、フィジカルイグザミネーションを実施できる。
6. フィジカルアセスメントの観察技術を用いて、アセスメントの結果を記述できる。
7. 看護を提供する医療者としての態度で、倫理的配慮を念頭にフィジカルイグザミネーションを実施できる。
8. 看護技術の修得状況に関する自己評価、課題の明確化ができる。
9. 看護技術の習得に向けて、自己練習を計画的に行える。

【４】　ディプロマ・ポリシーとの関連

到達目標を達成することにより、以下の能力を身につけることにつながります。

１．自然科学を看護活動の根拠とし、実践に活かす基礎的な力を有している。

２．看護学の専門知識と技術を修得している。

３．他者の多様な価値観を理解し、尊重することができる。

４．看護職の社会的責任を理解し、看護実践にまつわる倫理的課題を感受する力と熟考する力、それらに基づく判断を行動に表す力を身につけている。

５．看護専門職として、リーダーシップおよびフォロワーシップを発揮し、チームの中で有機的に活動する資質を身につけている。

６．自ら学ぼうとする好奇心をもち、生涯にわたり自己研鑽する姿勢を身につける。

【5】　授業計画

	項目	内容および授業方法 予習・復習・キーワード	担当教員
1・2	オリエンテーション ヘルスアセスメント概要	授業方法：講義 内容①本科目の位置づけ（学習方法、評価項目の開示 など） ②ヘルスアセスメントとは 予習：教科書の該当ページを読んでくる。 復習：ワークシートの提出 Keyword：看護技術、観察、ヘルスアセスメント	松浦麻子・全員
3・4	フィジカルイグザミネーション	授業方法：講義 内容：フィジカルアセスメントに必要な基本技術（問診、視診、聴診、打診、触診） 予習：Moodleを視聴、ワークシート 復習：ワークシートの提出 Keyword：フィジカルイグザネーション、視診、聴診、打診、触診、安全、安楽	松浦麻子・全員
5 - 7	フィジカルアセスメント① バイタルサインズ	授業方法：講義・演習 内容：バイタルサイン測定の意義・目的 予習：Moodle視聴、動画視聴、ワークシート 復習：ワークシートの提出、技術の自己練習 Keyword：体温測定、脈拍測定、呼吸測定、血圧測定	松浦麻子・全員
8 - 11	フィジカルアセスメント ②・③・④・⑤　胸部・呼吸器、心臓・循環器、腹部・消化器、筋・骨格	授業方法：講義 内容：①胸部･呼吸器系の基本的構造と機能、フィジカルアセスメント ②心臓・循環器系の基本的構造と機能、フィジカルアセスメント ③消化器系の基本的構造と機能、フィジカルアセスメント ④筋・骨格系の基本的構造と機能、フィジカルアセスメント 予習：Moodleを視聴、ワークシート、動画の視聴 復習：ワークシートの提出 Keyword：胸部・呼吸器、心臓・循環器、腹部・消化器、筋・骨格	全員
12・13	フィジカルアセスメント② 胸部・呼吸器	授業方法：演習 内容：①胸部･呼吸器系の基本的構造と機能 ②胸部･呼吸器系のフィジカルアセスメント 予習：Moodleを視聴、ワークシート、動画の視聴 復習：ワークシートの提出 Keyword：胸郭･肺･気管の構造、胸部の打診、呼吸音の聴取、呼吸困難･努力様呼吸	蜂ヶ崎令子・全員
14・15	フィジカルアセスメント③ 心臓・循環器	授業方法：演習 内容：①心臓・循環器系の基本的構造と機能 ②心臓・循環系のフィジカルアセスメント 予習：Moodle視聴、動画視聴、ワークシート 復習：ワークシートの提出 keyword：末梢循環の観察、頸部の血管の観察、心臓の観察、四肢の血圧測定と評価、浮腫のメカニズムと観察	宮崎裕子・全員
16 - 19	フィジカルアセスメント 技術チェック	授業方法：演習 内容：バイタルサインズ測定技術のチェックテスト 予習：該当する看護技術の自己練習 復習：チェックテストでの技術の振り返り、修得のレベルに達しなかった場合は各自練習し、再チェックテストを受験する。 Keyword：体温測定、呼吸測定、脈拍測定、血圧測定、観察	全員
20・21	フィジカルアセスメント④ 腹部・消化器	授業方法：演習 内容：①消化器系の基本的構造と機能 ②腹部・消化器系のフィジカルアセスメント 予習：Moodle視聴、動画視聴、ワークシート 復習：ワークシートの提出 Keyword：腹部臓器の構造と機能、腹部の区分、腸蠕動音の聴取、腹部の打診・聴診、腹水のアセスメント、肝臓スクラッチテスト	松浦麻子・全員
22・23	フィジカルアセスメント⑤ 筋・骨格	授業方法：演習 内容：①筋・骨格系の基本的構造と機能 ②筋・骨格系のフィジカルアセスメント 予習：Moodle視聴、動画視聴、ワークシート 復習：ワークシートの提出 Keyword：筋・骨格、関節、MMT、ROM	林京子・全員
24 - 27	フィジカルアセスメント⑥ 脳神経・頭頚部・感覚器	授業方法：演習 内容：①脳・神経系の基本的構造と機能 ②脳・神経系のフィジカルアセスメント ③頭頚部・感覚器系の基本的構造と機能 ④頭頚部・感覚器系のフィジカルアセスメント 予習：Moodle視聴、動画視聴、ワークシート 復習：ワークシート提出 KeyWord：脳・神経系、運動路・感覚路、中枢神経系、運動ニューロン、末梢神経、反射、意識状態の観察、感覚・知覚機能の検査、小脳機能の検査、頭頚部の基本的構造、感覚器系の基本的構造、眼、耳、鼻、口腔	松浦麻子・全員

【６】　事前・事後学習とその時間

事前学習
本科目は、講義、演習、技術チェックテストを予定している。講義では、各看護技術に関する基礎知識の確認を行う。演習では、講義を基に、演習に向けて事前学習、演習、教員のデモンストレーションなどを参考に各看護技術を体験し、一部技術を習得するところまでを目指している。そのため講義・演習内容をより理解するための予習、技術の自己練習や知識の復習に充てる準備学習に1時間、復習に1時間程度を要する。また、自己学習ワークシート、小テストによる関連知識の強化を図る。看護技術NOTESを参照しながら、自分の看護技術の到達度を確認する。未熟な技術項目や未習得の技術項目に関しては、自己練習、ビデオ教材、教員のサポートなどあらゆる手段を活用して、各自補完する。
※授業進行状況を考慮して、授業内容や順序が変更となる場合がある。

【７】　評価方法・基準

定期試験（60%）、技術チェックテスト（20%）、課題提出状況・小テスト（10%）、演習・グループワークへの参加度・グループ内役割の遂行を含めた授業態度（10%）で総合評価を行う。
技術テストは関連する課題レポート・ワークシートの全提出をもって受験資格とする。定期試験が60点に満たない場合は、再試験を行う。課題については、必要時コメントを付してフィードバックを行う。

【８】　フィードバック方法

技術チェックテスト、課題・小テストについては、必要時コメントを付して返却する。

【９】　教科書

系統看護学講座　専門分野Ⅰ　基礎看護技術Ⅰ　第19版　茂野香おる　医学書院　2023
系統看護学講座　専門分野Ⅰ　基礎看護技術Ⅱ　第19版　任和子　医学書院　2025
はじめてのフィジカルアセスメント　第2版，横山美樹，メヂカルフレンド社，2019
その他、資料を授業の時に配布する。

【10】　参考書

【書籍】
フィジカルアセスメントがみえる　Vol.3　医療情報科学研究所　メディックメディア　2019
ナーシンググラフィカ　基礎看護学2　基礎看護技術Ⅰ　松尾ミヨ子　メディカ出版　2022
写真でわかる看護技術シリーズ「写真でわかる実習で使える看護技術」（東邦webサイトの電子ブック）

【動画教材】
丸善EVO基礎看護技術シリーズ
ナーシングチャンネル：https://www.nur-chan.jp/login/
ナーシング・スキル日本版　https://nursingskills.jp/

その他、授業内で随時提示する。

【11】　備考(関連科目等)

健康科学概論、看護学概論、看護理論・看護展開論、人体の構造と機能、看護のための物理学、看護入門実習Ⅰ・Ⅱ、
看護の基本技術１・３・４、コミュニケーション論、臨床看護学実習Ⅰ
2025DPとの関連：DP①・②・③・④・⑤

科目名(日本語)	**看護入門実習Ⅰ**	必修・選択区分	授業形態	開講学期・学年	単位数
科目名(英語)	Introdutory Practicum of Nursing Ⅰ	必修	実験・実習	秋学期 1年	1単位 45時間
科目責任者	宮崎裕子				
担当教員	尾立篤子・蜂ヶ崎令子・宮崎裕子・松浦麻子・林 京子				
科目責任者 連絡先(教室)	宮崎裕子：hiroko.miyazaki@hs.toho-u.ac.jp(研究室K327)				
オフィスアワー	実習期間中の毎日実習終了後～17：00まで各実習施設の学生控え室で受け付ける。 その他の連絡方法については実習オリエンテーションで提示する。				

【1】　授業方法(ALの要素、ICTの活用等)

1－1．アクティブラーニングについて

実施する

1－2．アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素

グループワーク
プレゼンテーション
実習、フィールドワーク

2－1．双方向授業でのＩＣＴの活用について

活用する

2－2．ＩＣＴを活用する場合、その具体的名称（クリッカー、タブレット端末等）

Moodle

【2】　授業概要

入院患者、看護師との関わりを通して、看護の主要概念（人間、健康、環境、看護、擁護、倫理）の理解を深める。さらに、入院している患者の健康生活支援について、看護学の立場から考察する。
（＊実践的教育として構成する授業科目）

【3】　到達目標

1．看護の対象がさまざまな健康レベルにある人間であることについて述べることができる
　1）対象の健康レベルの違いを見つけ出すことができる
　2）対象の発達段階について述べることできる
　3）対象を多面的に把握することができる
2．看護の対象の生活の場について述べることができる
　1）病院環境における対象の生活状況を把握することができる
　2）対象の入院中における日常生活を把握することができる
　3）対象の自宅での生活と入院生活における相違と継続されていることについて述べることができる
3．他職種との連携と看護の役割について述べることができる
　1）病院内で働くさまざまな職種の役割と機能について説明できる
　2）看護師と他職種との連携の実際について述べることができる
　3）看護師の役割・機能の実際について記述できる
4．看護学生として責任のある行動をとることができる
　1）自己の健康管理を行い、適切に対応できる
　2）看護学生としてふさわしい言動ができる
　3）実習における経験を日々の記録に記述することができる
　4）看護者としてのコミュニケーションについて考察できる
　5）実習中に生じた問題について、適切な対応について述べることができる
　6）個人情報の管理が適切に実施できる
　7）グループ活動における積極性、協調性を発揮できる
　8）実習における自らの行動・学習を振り返り、レポートに論述できる

【4】　ディプロマ・ポリシーとの関連

到達目標を達成することにより、以下の能力を身につけることにつながります。

1．自然科学を看護活動の根拠とし、実践に活かす基礎的な力を有している。

2．看護学の専門知識と技術を修得している。

3．他者の多様な価値観を理解し、尊重することができる。

4．看護職の社会的責任を理解し、看護実践にまつわる倫理的課題を感受する力と熟考する力、それらに基づく判断を行動に表す力を身につけている。

5．看護専門職として、リーダーシップおよびフォロワーシップを発揮し、チームの中で有機的に活動する資質を身につけている。

6．自ら学ぼうとする好奇心をもち、生涯にわたり自己研鑽する姿勢を身につける。

【５】　授業計画

	項目	内容および授業方法 予習・復習・キーワード	担当教員
	オリエンテーション	目標を達成するための詳細な学修内容は、看護入門実習Ⅰの実習要項に示す。 【オリエンテーション・演習】 １）実習の具体的な内容については、事前にオリエンテーションを実施する。 ２）実習に必要な演習（カンファレンス）を行う。 ３）実習施設の概要については、実習初日にオリエンテーションを実施する。 【予習・復習・キーワード】 病院、看護部、薬剤部、栄養部、臨床検査部、リハビリテーション部、入退院支援	尾立篤子・蜂ヶ崎令子・宮崎裕子・松浦麻子・林京子
	病院実習	【実習方法】 １）グループ（１グループ4-6名程度）毎に１つの病棟で4日間の臨地実習を行う。 ２）実習時間は原則9：00～16：00とする。 ３）１人の看護師に１-２名の学生を配置し、シャドーイングを通して患者への看護の実際を学ぶ。 ４）入院患者1名につき学生1～2名にてコミュニケーションをとる。療養体験や患者の思いを聞き、対象者の理解を深める。 ５）毎日、病棟実習終了後に各病院単位で全体カンファレンスを行い、学びを共有する。 ６）臨地実習最終日は、各病棟で臨床指導者を含めてカンファレンスを行い、学びを深める。 ７）最終日、実習全体を通して学びを振り返り、グループ毎に自分たちの学びを発表する。 ８）実習の学びをまとめ、実習記録を提出する。 【実習施設】 東邦大学医療センター佐倉病院 千葉県済生会習志野病院 病棟：内科・外科、呼吸器内科、循環器内科、消化器内科・外科、整形外科、脳神経外科、泌尿器科等 【予習・復習・キーワード】 看護、人間、健康レベル、生活の場、環境、他職種との連携、看護の役割、看護学生としての責任のある行動、倫理、コミュニケーション	尾立篤子・蜂ヶ崎令子・宮崎裕子・松浦麻子・林京子
	学内まとめ	講義方法：グループワーク・発表 内容：看護入門実習Ⅰで学んだことを共有し、看護の役割や健康生活の支援について学びを深めるきっかけとする。 【予習・復習・キーワード】 実習で学んだことを各自振り返り、まとめておく。	尾立篤子・蜂ヶ崎令子・宮崎裕子・松浦麻子・林京子

【６】　事前・事後学習とその時間

本科目の履修においては、下記の関連科目の復習を含め、1時間程度の自己学習が必要となる。
また、学修したことの理解1時間程度、考察をまとめる時間が必要となる。
＜予習＞
１．『健康レベル』『発達段階』について復習をしておく。
２．基本的なコミュニケーションの技法を復習しておく。
＜復習＞
１．実習での自己の体験をまとめ、自己課題を明確化する。

【７】　評価方法・基準

以下の１）２）の内容から実習目標の達成度を評価する
１）実習記録　80%
２）課題レポート　20%

【８】　フィードバック方法

フィードバック：毎日の実習終了時に学びの共有を行い、疑問や意見への回答を行う。実習終了後、コメントを付した実習記録を返却する。

【９】　教科書

田中美穂・蜂ヶ崎令子(2015)．看護学生のための実習の前に読む本．医学書院

【10】　参考書

E.ウィーデンバック(2013)．新装版コミュニケーション 効果的な看護を展開する鍵．日本看護協会

【11】　備考(関連科目等)

健康科学概論、看護学概論、看護理論・看護展開論、コミュニケーション論、倫理学、心理学、社会学、人類学
2025DPとの関連：DP①・②・③・④・⑤

科目名(日本語)	**精神看護学概論**	必修・選択区分	授業形態	開講学期・学年	単位数
科目名(英語)	Introduction to Mental Health Nursing	必修	講義	秋学期 1年	1単位 15時間
科目責任者	渡邊尚子				
担当教員	渡邊尚子				
科目責任者 連絡先(教室)	渡邊（K334研究室）：naoko.watanabe@hs.toho-u.ac.jp(メールには学籍番号を明記してください)				
オフィスアワー	講義終了後30分程度、研究室を訪ねて下さい。				

【１】　授業方法(ALの要素、ICTの活用等)

１－１．アクティブラーニングについて

実施する

１－２．アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素

ディスカッション、ディベート
グループワーク

２－１．双方向授業でのＩＣＴの活用について

活用する

２－２．ＩＣＴを活用する場合、その具体的名称（クリッカー、タブレット端末等）

Moodle

【２】　授業概要

こころの健康についての概念とこころの健康の保持増進に向けた我が国の取り組みを理解し、精神看護の基本概念・理論などの基礎知識を学修する。さらに、こころの健康に影響する要因を様々な環境から捉え、精神看護の役割と機能について考察する。
なお、本科目は公衆衛生看護学における精神保健活動を学修するための基礎となる科目である。

【３】　到達目標

①精神看護の役割と機能が説明できる
②こころの健康とは何か説明できる。
③ライフサイクルにおける各時期の発達課題とこころの問題について説明できる。
④医療現場におけるこころの健康と看護を危機理論をふまえて説明できる。
⑤精神保健に関わる課題を説明できる。
⑥こころの健康の保持・増進・予防的観点から精神看護の役割を説明できる。

【４】　ディプロマ・ポリシーとの関連

到達目標を達成することにより、以下の能力を身につけることにつながります。

１．自然科学を看護活動の根拠とし、実践に活かす基礎的な力を有している。

２．看護学の専門知識と技術を修得している。

３．他者の多様な価値観を理解し、尊重することができる。

４．看護職の社会的責任を理解し、看護実践にまつわる倫理的課題を感受する力と熟考する力、それらに基づく判断を行動に表す力を身につけている。

５．看護専門職として、リーダーシップおよびフォロワーシップを発揮し、チームの中で有機的に活動する資質を身につけている。

６．自ら学ぼうとする好奇心をもち、生涯にわたり自己研鑽する姿勢を身につける。

【５】　授業計画

	項目	内容および授業方法 予習・復習・キーワード	担当教員
1,2	ガイダンス・こころの健康と看護について	精神看護学とは こころの健康とは 講義・個人ワーク 予習：キーワードについて整理しておく 復習：ミニッツペーパーの提出・資料内容の整理 キーワード：フロイト、マズロー、エゴグラム、ジョハリの窓、自己理解	渡邊尚子
3,4	ライフサイクルと環境におけるこころの健康(1)	ライフサイクルとこころの発達課題 家庭におけるこころの健康と看護 講義・個人ワーク 予習：キーワードについて整理しておく 復習:ミニッツペーパーの提出・資料内容の整理 キーワード：ライフサイクル、発達課題、エリクソン、ハヴィガースト、ピアジェ、DV、虐待、家庭における精神保健に関する課題	渡邊尚子
5,6	ライフサイクルと環境におけるこころの健康(2)	学校・職場におけるこころの健康と看護 講義・個人ワーク 予習:キーワードについて整理しておく 復習:ミニッツペーパーの提出・資料内容の整理 キーワード：身体化、いじめ、養護教諭の役割、スクールカウンセラー、学校における精神保健に関する課題、ワークライフバランス、燃え尽き症候群、職場における精神保健に関する課題	渡邊尚子
7,8	ライフサイクルと環境におけるこころの健康(3)	危機の概説 医療現場におけるこころの健康と看護 講義・個人ワーク 予習:キーワードについて整理しておく 復習:ミニッツペーパーの提出・資料内容の整理 キーワード：医療現場における精神的危機、アドヒアランス、コンコーダンス、SDM, グリーフケア	渡邊尚子
9,10	精神保健福祉活動(1)	精神保健福祉の現状と課題 講義・個人ワーク 予習:キーワードについて整理しておく 復習:ミニッツペーパーの提出・資料内容の整理 キーワード：精神保健福祉活動、多職種連携、自殺、ゲートキーパー、発達障害、PTSD、PTG、TIC	渡邊尚子
11-14	精神保健福祉活動(2)	精神保健システム、精神保健福祉とリハビリテーション 講義・個人ワーク 予習:キーワードについて整理しておく 復習:ミニッツペーパーの提出・資料内容の整理 キーワード：相談窓口、外来治療、入院治療、社会参加へのサポートシステム、ACT、心理教育、リカバリー	渡邊尚子

【６】　事前・事後学習とその時間

【準備学習】
新聞・図書館の資料を活用し、各回の授業内に関連するトピックスを把握しておくこと。
この授業は自己の体験や社会情勢を通して理解を深めていくため、予習1時間程度、復習1.5時間程度が必要となる。
【学修上の留意点】
授業内で配布した資料等を参照し関連書籍を読み、学修内容の理解を深めること。

【７】　評価方法・基準

定期試験80%、各回における授業内のミニテストや課題の提出状況20%

【８】　フィードバック方法

ミニテスト:結果を返却する。
ミニッツペーパー等の質問等により必要なことは全体に向けフィードバックする。

【９】　教科書

授業時に資料を配布する。

【10】　参考書

吉浜文洋他;学生のための精神看護学、医学書院、2020
その他授業内で、随時紹介する

【11】　備考(関連科目等)

心理学、コミュニケーション論、看護学概論、援助的人間関係論、コミュニティヘルス看護概論
2025DPとの関連：DP①・②・③・④・⑤

科目名(日本語)	**コミュニティヘルス看護概論**	必修・選択区分	授業形態	開講学期・学年	単位数
科目名(英語)	Introduction to Community Health Nursing	必修	講義	秋学期 1年	1単位 15時間
科目責任者	佐瀬真粧美				
担当教員	佐瀬真粧美・臼井雅美・小板橋恵美子・渡邊尚子・日高紀久江・原田慶子				
科目責任者 連絡先(教室)	科目責任者：佐瀬真粧美（K319研究室）　masami.sase@hs.toho-u.ac.jp				
オフィスアワー	授業終了後10分程度、あるいはメールおよびMoodleのメッセージでの問い合わせに応じます。メールアドレス、各教員の研究室は授業の中で提示します。				

【１】　授業方法(ALの要素、ICTの活用等)

１－１．アクティブラーニングについて

実施する

１－２．アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素

ディスカッション、ディベート
グループワーク

２－１．双方向授業でのＩＣＴの活用について

活用する

２－２．ＩＣＴを活用する場合、その具体的名称（クリッカー、タブレット端末等）

Moodle, スマートフォン

【２】　授業概要

人間の生活の場である地域社会、地域共同体の健康をコミュニティヘルスとして捉える。高齢社会の日本において高齢者の健康は社会の健康として捉え、コミュニティヘルスに包含する。本科目では、看護の対象としてのコミュニティ／地域の特徴、健康や生老病死が地域に及ぼす影響、コミュニティヘルスにおける看護の役割と機能、主な理論・基本的概念、地域の健康を支える仕組み、活動方法など基礎知識を理解する。さらに、コミュニティヘルスを支える看護、健康な地域づくりなどについて考察する。

【３】　到達目標

1. 看護の対象となる「コミュニティ」の定義を説明することができる。
2. 個人の健康を支える地域の仕組みについて、関係職種と地域の資源を挙げて説明することができる。
3. 個人の健康と個人を取り巻く環境との交互作用について例を示し、公衆衛生上の看護の役割をその限界も含めて論述することができる。
4. 妊婦、新生児、乳幼児を取り巻くコミュニティの健康課題を例に挙げ、対応する支援の実際と看護の役割を論述することができる。
5. 子どもを取り巻くコミュニティの健康課題を例に挙げ、対応する支援の実際と看護の役割を論述することができる。
6. 成人を取り巻くコミュニティの健康課題を例に挙げ、対応する支援の実際と看護の役割を論述することができる。
7. 高齢者、在宅療養者を取り巻くコミュニティの健康課題を例に挙げ、対応する支援の実際と看護の役割を論述することができる。
8. 個人の精神的健康や健康問題を支える地域資源について、例を挙げて説明することができる。

【４】　ディプロマ・ポリシーとの関連

到達目標を達成することにより、以下の能力を身につけることにつながります。

１．自然科学を看護活動の根拠とし、実践に活かす基礎的な力を有している。

２．看護学の専門知識と技術を修得している。

３．他者の多様な価値観を理解し、尊重することができる。

４．看護職の社会的責任を理解し、看護実践にまつわる倫理的課題を感受する力と熟考する力、それらに基づく判断を行動に表す力を身につけている。

５．看護専門職として、リーダーシップおよびフォロワーシップを発揮し、チームの中で有機的に活動する資質を身につけている。

６．自ら学ぼうとする好奇心をもち、生涯にわたり自己研鑽する姿勢を身につける。

【5】　授業計画

	項目	内容および授業方法 予習・復習・キーワード	担当教員
1	コミュニティヘルス看護の基礎(1)	コミュニティヘルスの概念・コミュニティヘルス活動の基盤となる主な理論・基本的概念 講義 予習：予習ワークシートの提出 復習：　ミニッツペーパーの提出 キーワード：コミュニティ、コミュニティヘルス、コミュニティの健康指標、健康な地域づくり、健康を支える地域の仕組み	佐瀬真粧美
2	コミュニティヘルス看護の各論(1)	高齢者の立場から捉えるコミュニティヘルス ・高齢者を取り巻くコミュニティの健康課題・コミュニティにおける支援活動と看護の役割 講義 予習：看護学入門実習Ⅱの学習の振り返り 復習：復習ワークシートの提出 キーワード：高齢者　コミュニティ、健康課題、社会的存在、暮らしやすさ、家族、在宅医療、地域包括ケアシステム	佐瀬真粧美
3・4	コミュニティヘルス看護の各論(2)	公衆衛生の立場から捉えるコミュニティヘルス ・段階的予防活動・個人の健康と集団の健康を満たす種々のアプローチ 講義 予習：予習ワークシートの提出 復習：ミニテスト キーワード：プライマリヘルスケア、ヘルスプロモーション、エンパワーメント、ハイリスクアプローチ、ポピュレーションアプローチ、１次予防、２次予防、３次予防	小板橋恵美子
5・6	コミュニティヘルス看護の各論(3)	妊婦・新生児・乳幼児の立場から捉えるコミュニティヘルス ・妊婦・新生児・乳幼児を取り巻くコミュニティの健康課題 ・子育てのある暮らしの健康支援活動と看護の展望 講義 予習：予習ワークシートの提出 復習：復習ワークシートの提出 キーワード：コミュニティヘルス、子育てのある暮らし、親になるプロセスと役割の変化、妊娠・出産による身体・精神面の変化、育児不安、子育て支援、健やか親子21（第2次）、こども家庭センター、ハイリスク妊産婦・新生児への支援、不妊治療を必要とする女性への支援	原田慶子
7・8	コミュニティヘルス看護の各論(4)	子どもの立場から捉えるコミュニティヘルス ・子どもを取り巻くコミュニティの健康課題 ・子どもが健全に育つコミュニティの支援活動と看護の役割 講義・スマートフォンによるミニッツペーパーの入力 予習：予習ワークシートの提出 復習：復習ワークシートの提出 キーワード：コミュニティヘルス、子どもの健康指標、子どもを取り巻く社会環境、こども基本法、児童の権利に関する条約、こども家庭センター、こども施策	臼井雅美
9・10	コミュニティヘルス看護の各論(5)	成人の立場から捉えるコミュニティヘルス ・成人を取り巻くコミュニティの健康課題・成人の健康生活を支えるコミュニティヘルス活動のつながりと看護の役割 講義 予習：予習ワークシートの提出 復習：復習ワークシートの提出 キーワード：コミュニティヘルス、成人の社会的役割、保健医療システム、ワークライフバランス、メンタルヘルス、労働衛生、成人保健（メタボ対策、がん対策）	日高紀久江
11・12	コミュニティヘルス看護の各論(6)	精神保健から捉えるコミュニティヘルス 講義 予習：精神看護学概論における関連部分の振り返り 復習：復習ワークシートの提出 キーワード：地域精神保健対策、精神障がい者医療、精神障がい者福祉、精神疾患受療状況	渡邊尚子
13・14	コミュニティヘルス看護の各論(7)・まとめ	コミュニティヘルスにおける看護の役割と機能 講義 予習：予習ワークシートの提出 復習：復習ワークシートの提出 キーワード：在留外国人、生活、コミュニティ、保健活動、予防、地域包括ケアシステム、関係職種、専門性、チーム活動、健康を支える地域の仕組み	佐瀬真粧美

【6】　事前・事後学習とその時間

【準備学習】
この授業は、公衆衛生上の看護の役割や各ライフステージの健康課題からコミュニティヘルスにおける看護の役割・機能を学びます。各回担当の教員より、事前に配信される予習ワークシートの学習のために予習1時間程度、また新たな学びのまとめとして復習ワークシートにより課題が出され、復習に1時間程度を費やします。
【学習上の留意点】
コミュニティにおける看護の役割、機能を学ぶ導入となるため、学修への積極的な参加が求められる。

【7】　評価方法・基準

定期試験(70%)、各教員より提示される課題（ワークシート）あるいはミニテスト(30%)

【８】　フィードバック方法
評価したワークシートは、後日各回担当教員より個々にあるいは総評を返却する。

【９】　教科書
国民衛生の動向
必要な追加資料は講義の中で配布する。

【10】　参考書
必要に応じて講義で紹介する。

【11】　備考(関連科目等)
法学、公衆衛生、公衆衛生看護学など看護学全般との関連があり、今後の学修の礎石となる。
2025DPとの関連：DP①・②・③・④・⑤

科目名(日本語)	**老年看護学概論**	必修・選択区分	授業形態	開講学期・学年	単位数
科目名(英語)	Introduction to Gerontological Nursing	必修	講義	秋学期 1年	1単位 15時間
科目責任者	佐瀬真粧美				
担当教員	佐瀬真粧美				
科目責任者 連絡先(教室)	佐瀬真粧美（K319研究室）masami.sase@hs.toho-u.ac.jp				
オフィスアワー	授業開講日　18時まで　K319研究室（健康科学部棟3階）、それ以外は、メールあるいはMoodleのメッセージより、連絡をしてください。				

【１】　授業方法(ALの要素、ICTの活用等)

１－１．アクティブラーニングについて

実施する

１－２．アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素

ディスカッション、ディベート
グループワーク
プレゼンテーション
実習、フィールドワーク

２－１．双方向授業でのＩＣＴの活用について

活用する

２－２．ＩＣＴを活用する場合、その具体的名称（クリッカー、タブレット端末等）

Moodleを使用する

【２】　授業概要

高齢者の特徴について、身体的、心理・精神的、社会的側面から理解し、高齢者の健康状況と生活との関連、それを支える我が国のシステム、制度について理解し、高齢者とその家族の生活の現状と課題について考える。
なお、本科目は公衆衛生看護学における高齢者保健活動を学修するための基礎となる科目である。

【３】　到達目標

1.高齢者の身体的、心理・精神的特徴を理解し、生活への影響と看護について述べることができる。
2.日本の高齢社会の現状と高齢者を支える保健医療福祉システムについて述べることができる。
3.老年看護における倫理的課題について述べることができる。
4.自己の高齢者観を振り返り、老年看護の課題と展望について述べることができる。

【４】　ディプロマ・ポリシーとの関連

到達目標を達成することにより、以下の能力を身につけることにつながります。

１．自然科学を看護活動の根拠とし、実践に活かす基礎的な力を有している。

２．看護学の専門知識と技術を修得している。

３．他者の多様な価値観を理解し、尊重することができる。

４．看護職の社会的責任を理解し、看護実践にまつわる倫理的課題を感受する力と熟考する力、それらに基づく判断を行動に表す力を身につけている。

５．看護専門職として、リーダーシップおよびフォロワーシップを発揮し、チームの中で有機的に活動する資質を身につけている。

６．自ら学ぼうとする好奇心をもち、生涯にわたり自己研鑽する姿勢を身につける。

【5】　授業計画

	項目	内容および授業方法 予習・復習・キーワード	担当教員
1・2	老年看護学における老いの捉え方	内容：老いの捉え方・老化理論・老年看護に活用できる理論 授業方法：講義 予習：教科書p.2～17を読んでくる。 復習：本日の学習の振り返り、整理。どんな身体的・生理的な変化が起こっているか、メディアなどに登場する、あるいは日常みかける高齢者を意識して観察する。小テストの復習 キーワード：高齢社会、老化理論、発達理論、喪失体験、高齢者観、看護者	佐瀬真粧美
3・4	老化の生活への影響	内容：身体的、生理的な老化・諸機能の変化による生活とこころへの影響 授業方法：講義 予習：高齢者が生きてきた「昭和」について、祖父母、父母に話を聞ける人は聞いてみる。 聞くことができない人はWebで調べてみる。教科書p.88～91，18～24を読んでくる。 復習：本日の学習の振り返り、整理、小テストの復習 キーワード：老年看護の理念・自我発達、諸機能の変化、生活機能への影響、衰退と成熟	佐瀬真粧美
5・6	生活を支える看護	内容：生きてきた時代や背景と価値観・高齢者と家族の関係・介護を受けるということ・高齢者へのかかわり、関係づくり 授業方法：講義・グループワーク・ディスカッション 予習：看護入門実習Ⅱの経験をふまえ、生活を支えるということはどういうことかを考えてくる 復習：本日の学習の振り返り、整理、小テストの復習 キーワード：生活史、価値観、社会的役割、家族機能の変化、介護受容、コミュニケーション、リスクマネジメント	佐瀬真粧美
7・8	高齢者をとりまく社会	内容：日本の高齢社会の現状と保健医療福祉のシステム・さまざまな生活と治療の場と暮らし 授業方法：講義 予習：高齢者に関わる医療の制度と福祉制度にはどのようなものがあるか調べてくる。 復習：本日の学習の振り返り、整理、小テストの復習 キーワード：老年人口、介護保険法、老人福祉法、地域包括ケアシステム	佐瀬真粧美
9・10	多様な健康状態の生活への影響	内容：高齢者の多様な健康状態・高齢者の特徴的な疾患と生活への影響・身体症状とアセスメント・高齢者自身の対処と支援 授業方法：講義・グループワーク・ディスカッション 予習：教科書Ⅴ・Ⅵ章を読んでくる。 復習：本日の学習の振り返り、整理、小テストの復習 キーワード：多様な健康状態、高齢者の特徴的な疾患と治療の特徴、高齢者のアセスメントと支援	佐瀬真粧美
11・12	高齢者の療養生活と看護	内容：高齢者の療養生活の場と看護の実際 授業方法：講義 予習：教科書Ⅶ章を読んでくる。 復習：本日の学習の振り返り、整理、小テストの復習 キーワード：療養生活、入院、外来、薬物療法、退院支援、リスクマネジメント	佐瀬真粧美
13・14	老年看護における倫理的課題	内容：高齢者差別（エイジズム）・高齢者の権利擁護と制度、高齢者に対する虐待・ネグレクトなどの課題 高齢者を理解すること・尊厳ある生活・老年看護の役割と展望・高齢者の援助にかかわるチーム 授業方法：講義 予習：高齢者を差別している言葉、ことについて挙げる。高齢者に対する自身の気持ちや態度について箇条書きで整理する。 復習：本日の学習の振り返り、整理、小テストの復習 キーワード：エイジズム、権利擁護、虐待、身体拘束尊厳、チーム	佐瀬真粧美

【6】　事前・事後学習とその時間

【準備学習】
提示される予習の課題に必ず取り組んでくる。課題を用い授業を進めるので、やっていないと、進められなくなる。課題や復習に1時間程度かかる。
【学習上の留意点】
各々の授業内容は、つながりがある。欠席してしまうとそのつながりがわからなくなること、また各回で学修したことについて授業内で小テストを実施していくため、授業に出席することが重要となる。また1～4回は、看護入門実習Ⅱの目標を達成する上で必要な内容となっている。

【7】　評価方法・基準

定期試験（50%）、課題（50%　各回小テスト5点＝35点、課題15点）

【８】　フィードバック方法
授業中の小テストの結果やミニッツペーパーへのコメントを返却する。

【９】　教科書
看護学テキストNiCE 老年看護学概論「老いを生きるを支える」こととは　改訂第4版、南江堂

【10】　参考書
授業時に提示する。

【11】　備考(関連科目等)
学んでおく科目：看護学概論　健康科学概論　地域・在宅看護概論
継続する科目：コミュニティヘルス看護概論、看護入門実習Ⅱ
2025DPとの関連：DP①・②・③・④・⑤

科目名(日本語)	**地域・在宅看護概論**	必修・選択区分	授業形態	開講学期・学年	単位数
科目名(英語)	Introduction to Community Health and Home Care Nursing	必修	講義	春学期 1年	1単位 15時間
科目責任者	佐瀬真粧美				
担当教員	佐瀬真粧美・島村敦子				
科目責任者 連絡先(教室)	佐瀬：Email;masami.sase@hs.toho-u.ac.jp, 研究室番号K319)				
オフィスアワー	授業終了後、1時間とする。場所は、各担当者の研究室とする；佐瀬K319, 島村K313 それ以外で質問がある場合には、Moodleあるいはメールにて受け付ける。				

【１】　授業方法(ALの要素、ICTの活用等)

１－１．アクティブラーニングについて

実施する

１－２．アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素

グループワーク
プレゼンテーション

２－１．双方向授業でのＩＣＴの活用について

活用する

２－２．ＩＣＴを活用する場合、その具体的名称（クリッカー、タブレット端末等）

PC, Moodle

【２】　授業概要

看護の対象者は「生活者」であることを理解し、生活者を捉える視点を養う。さらに地域で暮らす人々とその家族が住み慣れた場で生活を継続するために必要な看護のあり方と地域社会のしくみについて学び、考察する。
なお、本科目は公衆衛生看護学における地域生活支援の学修とつながっている科目である。

【３】　到達目標

1. 地域で生活する人々の暮らしとその環境が相互に影響し合っていることを説明できる。
2. 地域で生活する人々を取り巻く社会のしくみを説明できる。
3. 地域での暮らしを支える保険・医療・福祉制度および専門職を挙げることができる。
4. 地域包括ケアシステムと看護職の役割を説明できる。
5. 地域・在宅看護の展望と課題を挙げることができる。

【４】　ディプロマ・ポリシーとの関連

到達目標を達成することにより、以下の能力を身につけることにつながります。

１．自然科学を看護活動の根拠とし、実践に活かす基礎的な力を有している。

２．看護学の専門知識と技術を修得している。

３．他者の多様な価値観を理解し、尊重することができる。

４．看護職の社会的責任を理解し、看護実践にまつわる倫理的課題を感受する力と熟考する力、それらに基づく判断を行動に表す力を身につけている。

５．看護専門職として、リーダーシップおよびフォロワーシップを発揮し、チームの中で有機的に活動する資質を身につけている。

６．自ら学ぼうとする好奇心をもち、生涯にわたり自己研鑽する姿勢を身につける。

【5】　授業計画

	項目	内容および授業方法 予習・復習・キーワード	担当教員
1・2	地域で生活する人々の暮らしと環境	内容：人々の生活の移り変わり、個々の暮らし・生活環境の理解、生活習慣や暮らし方と健康の関係、地域での生活環境が暮らしに与える影響 授業方法：講義 予習：教科書の関連する箇所を読む 復習：授業資料と教科書の該当箇所を関連付け、学びを整理する キーワード：生活の営み、地域生活、暮らしの中での病の歴史、健康、生活環境、生活習慣、日常生活行動	佐瀬真粧美
3・4	地域の暮らしを支える保険・医療・福祉	内容：日本の保険・医療・福祉の変遷および現状（保険、医療、福祉制度を含む） 授業方法：講義 予習：教科書の関連する箇所を読む 復習：授業資料と教科書の該当箇所を関連付け、学びを整理する キーワード：医療保険制度、診療報酬制度、介護保険制度、社会資源	佐瀬真粧美
5・6	地域での暮らしを支える専門職と在宅医療	内容：保険・医療・福祉の専門職の役割と働く場所、多職種連携、在宅医療 授業方法：講義 予習：教科書の関連する箇所を読む 復習：授業資料と教科書の該当箇所を関連付け、学びを整理する キーワード：専門職、多職種、在宅医療	佐瀬真粧美
7・8	地域包括ケアシステムと看護職の役割	内容：地域包括ケアシステム、地域包括ケアシステムにおける看護職の役割、地域住民・他の専門職との連携の必要性、 授業方法：講義 予習：教科書の関連する箇所を読む 復習：授業資料と教科書の該当箇所を関連付け、学びを整理する キーワード：地域包括ケアシステム、地域包括支援センター、看護職の役割、自助・互助・共助・公助	島村　敦子
9・10	在宅看護の成り立ち	内容：在宅看護が必要とされてきた歴史と社会背景・在宅看護の定義と目的 授業方法：講義 予習：教科書の関連する箇所を読む 復習：授業資料と教科書の該当箇所を関連付けて、学んだことを整理する キーワード：在宅看護の歴史、社会背景、訪問看護、在宅ケア	島村　敦子
11・12	地域での生活を支えるさまざまな看護のかたち	内容：地域に存在する公的機関、組織および暮らしの身近にある機関・組織 授業方法：講義 予習：教科書の関連する箇所を読む 復習：授業資料と教科書の該当箇所を関連付け、学びを整理する キーワード：保健所・保健センター、看護小規模多機能型事業所、介護保険施設、暮らしの保健室、コミュニティナース	島村　敦子
13・14	地域・在宅看護の展望と課題	内容：地域・在宅看護とは、在宅医療・在宅看護の発展および今後の展望と課題 授業方法：講義、グループワーク 予習：教科書の関連する箇所を読む 復習：授業資料と教科書の該当箇所を関連付け、学びを整理する キーワード：地域・在宅看護、在宅医療、在宅看護、展望、課題	佐瀬真粧美

【6】　事前・事後学習とその時間

【準備学習】
この授業は、地域・在宅看護に関連する幅広い知識の修得を目指すため、事前学習1時間、事後学習1時間程度を必要とする。
【学習上の留意点】
各々の授業内容は、つながりがある。欠席してしまうとそのつながりがわからなくなるので、授業への出席を重視する。

【7】　評価方法・基準

定期試験（80%）、課題レポート（20%）

【8】　フィードバック方法

リアクションペーパーの内容を踏まえ、次回の授業の中で不十分な理解や質問ついてコメントする

【9】　教科書

Nice　地域・在宅看護論1　総論　改訂第3版　南江堂

【10】　参考書

地域・在宅看護論（新体系看護学全書）　メヂカルフレンド社
その他、授業時に提示する。

【11】　備考(関連科目等)

倫理学、看護入門実習Ⅱ、千葉県の地域医療、老年看護学概論、公衆衛生看護学概論、老年看護学方法論、地域・在宅看護方法論、コミュニティヘルス看護概論、看護の基本技術10・11、老年看護学実習、在宅看護学実習
2025DPとの関連：DP①・②・③・④・⑤

科目名(日本語)	**看護入門実習Ⅱ**	必修・選択区分	授業形態	開講学期・学年	単位数
科目名(英語)	Introdutory Practicum of Nursing Ⅱ	必修	実験・実習	秋学期 1年	1単位 45時間
科目責任者	佐瀬真粧美				
担当教員	佐瀬真粧美・小板橋恵美子・鳥田美紀代・池田絹代・島村敦子・植村直子・菅谷綾子・鈴木裕子・松浦志野				
科目責任者 連絡先(教室)	科目責任者　佐瀬のメールアドレス　masami.sase@hs.toho-u.ac.jp また、実習オリエンテーションにて実習用携帯の番号を知らせる。				
オフィスアワー	終了後30分対応する（各実習場）。 それ以外で連絡を取りたいときは、佐瀬にメールあるいは、実習用携帯で連絡を取ること。				

【１】　授業方法(ALの要素、ICTの活用等)

１－１．アクティブラーニングについて

実施する

１－２．アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素

ディスカッション、ディベート
グループワーク
プレゼンテーション
実習、フィールドワーク

２－１．双方向授業でのＩＣＴの活用について

活用する

２－２．ＩＣＴを活用する場合、その具体的名称（クリッカー、タブレット端末等）

Moodleを使用する

【２】　授業概要

地域で生活する人々、特に高齢者を支える機関・施設を利用しながら生活している人々との関わりを通して、様々な職種の活動、連携・協働システムの実際について知り、地域で生活する人の健康生活支援、地域における看護の役割について、考察する。
（＊実践的教育として構成する授業科目）

【３】　到達目標

1.看護の対象がさまざまな健康レベルにある人間であることが理解できる。
2.看護の対象の生活の場を知ることができる。
3.対象者への支援において、他職種との連携と看護の役割を知ることができる。
4.看護学生として、責任ある行動をとることができる。

【４】　ディプロマ・ポリシーとの関連

到達目標を達成することにより、以下の能力を身につけることにつながります。

１．自然科学を看護活動の根拠とし、実践に活かす基礎的な力を有している。

２．看護学の専門知識と技術を修得している。

３．他者の多様な価値観を理解し、尊重することができる。

４．看護職の社会的責任を理解し、看護実践にまつわる倫理的課題を感受する力と熟考する力、それらに基づく判断を行動に表す力を身につけている。

５．看護専門職として、リーダーシップおよびフォロワーシップを発揮し、チームの中で有機的に活動する資質を身につけている。

６．自ら学ぼうとする好奇心をもち、生涯にわたり自己研鑽する姿勢を身につける。

【５】　授業計画

	項目	内容および授業方法 予習・復習・キーワード	担当教員
	オリエンテーション	詳細な学修内容は、看護入門実習Ⅱの実習要項に示す。	全員
	実習	・10/6～10/9の4日間のローテーションの中で、デイサービス・デイケア（2日間）、認知症グループホーム（1日間）、居宅介護支援事業所（0.5日）の実習を行う。 ・臨地に出向く前に、別日で地域包括支援センターについて講義を受ける。 ・10/10に、全体のまとめを実施する。	全員
		【予習・復習・キーワード】 予習：講義を受ける施設がどのような機能・役割をもった施設なのか、調べる。 復習：各施設において、その日に、気づいたこと、感じたこと、学んだことを日々の記録に記述する。 キーワード：地域、生活、高齢者、機関・施設の役割、他職種、連携・協働、地域包括ケアシステム、看護の役割	
	実習のまとめ	最終日に、まとめのグループワークを行う。 課題レポートの提出 ・直前オリエンテーションで、レポートテーマ、作成方法について説明を行う。	全員

【６】　事前・事後学習とその時間

学内で学習した知識や看護入門実習Ⅰで学んだことをふまえ、看護入門実習Ⅱで実習施設となっているところはどのような役割をもつ施設かを確認し、実習目標を理解した上で実習に臨むために1時間程度の予習時間がかかる。実習中は、経験、体験できるものには、積極的に参加していく。実習後は、レポート作成のため、1.5時間程度の時間を要する。

【７】　評価方法・基準

評価項目に基づいて総合的に評価を行う。評価には以下の内容が含まれる。
１）実習への取り組み姿勢（遅刻や報告忘れなどの実習上の留意点の遵守、学ばせていただくという真摯な態度等）
２）講義・説明時の態度（聞く姿勢、疑問に思ったことは確認する等）
３）グループワーク、まとめ等への参加状況（グループ内での役割を果たしているか等）　（1,2,3で20%）
４）実習記録の提出と内容（50%）
５）課題レポートの提出と内容（30%）

【８】　フィードバック方法

フィードバックは、実習中のカンファレンス、実習のまとめ、提出記録・レポートへのコメントにて行っていく。

【９】　教科書

特に指定はしない。

【10】　参考書

適宜紹介。

【11】　備考(関連科目等)

トランスレーショナルへの挑戦Ⅰ（倫理事はじめ編）、倫理学、健康科学概論、コミュニケーション論、看護学概論、地域・在宅看護概論、老年看護学概論等　看護入門実習Ⅰ
2025DPとの関連：DP①・②・③・④・⑤

科目名(日本語)	**国際看護（開講せず）**	必修・選択区分	授業形態	開講学期・学年	単位数
科目名(英語)	International Nursing	選択	演習	通年 全学年	1単位 30時間
科目責任者	未定				
担当教員	未定				
科目責任者 連絡先(教室)	—				
オフィスアワー	—				

【１】　授業方法(ALの要素、ICTの活用等)

１－１．アクティブラーニングについて

実施する

１－２．アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素

２－１．双方向授業でのＩＣＴの活用について

活用する

【２】　授業概要

海外（主に英語圏）の看護学部を有する大学の見学および現地の学生との交流、現地の生活に触れることを通して、異文化圏の考え方（共通点、相違点）を実感することで知見をひろめ、国際的な視点を養い、看護の本質について考察することを目的とする。

【３】　到達目標

—

【４】　ディプロマ・ポリシーとの関連

到達目標を達成することにより、以下の能力を身につけることにつながります。

１．自然科学を看護活動の根拠とし、実践に活かす基礎的な力を有している。

２．看護学の専門知識と技術を修得している。

３．他者の多様な価値観を理解し、尊重することができる。

４．看護職の社会的責任を理解し、看護実践にまつわる倫理的課題を感受する力と熟考する力、それらに基づく判断を行動に表す力を身につけている。

５．看護専門職として、リーダーシップおよびフォロワーシップを発揮し、チームの中で有機的に活動する資質を身につけている。

６．自ら学ぼうとする好奇心をもち、生涯にわたり自己研鑽する姿勢を身につける。

【５】　授業計画

	項目	内容および授業方法 予習・復習・キーワード	担当教員
		2023年度は開講しないこととする。	

【６】　事前・事後学習とその時間

―

【７】　評価方法・基準

―

【８】　フィードバック方法

―

【９】　教科書

―

【10】　参考書

―

【11】　備考(関連科目等)

―

科目名(日本語)	トランスレーショナルへの挑戦Ⅰ	必修・選択区分	授業形態	開講学期・学年	単位数
科目名(英語)	Challenging for Translational Strategies into Nursing Ⅰ	必修	演習	春学期 1年	1単位 30時間
科目責任者	日高紀久江				
担当教員	日高紀久江・髙橋良幸・鈴木俊美・川嶋潤				
科目責任者 連絡先(教室)	日高紀久江：kikue.hidaka@hs.toho-u.ac.jp (K333)				
オフィスアワー	講義終了後15分程度、メールおよびMoodleのメッセージからの問い合わせに応じる 日高紀久江：kikue.hidaka@hs.toho-u.ac.jp K333				

【1】 授業方法(ALの要素、ICTの活用等)

1－1．アクティブラーニングについて

実施する

1－2．アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素

ディスカッション、ディベート
グループワーク
プレゼンテーション

2－1．双方向授業でのＩＣＴの活用について

活用する

2－2．ＩＣＴを活用する場合、その具体的名称（クリッカー、タブレット端末等）

Moodle

【2】 授業概要

大学生や看護学を学ぶ学生として成すべき目的や、集団生活における対人関係を伴う学習（演習及び実習）上の守るべきルールを理解し、大学で自律的に学ぶために基本的な「学び方」および「学習者としての姿勢」を修得する。大学で学ぶために必要な基礎力である「伝わる（聴く･読む）、伝える（書く・話す）」能力を確認し、課題に応じた情報や文献の検索、読解及び内容の要約、レポート作成方法、プレゼンテーション等の発表、対人関係を伴う学習（演習及び実習）、ディスカッション等の方法や守るべきルールを講義や実践を通して理解し、学習者としての自分の考えをまとめる。

【3】 到達目標

1. 大学生に求められる資質・能力について説明できる
2. 本学で学ぶための取り組みについて説明できる
3. 本学部の教育目標を説明できる
4. 本学部での学生生活のルールを説明できる
5. 本学部での授業（講義・演習・実習）を受けるときのルールを説明できる
6. 自己の社会人基礎力における課題と今後の取り組みについて説明できる
7. 看護専門職として守らなければならない倫理について、倫理原則を基に説明できる
8. 医療に関連する諸問題のうち薬害について医学部学生と共同学習を行い、わかりやすくまとめることができる。
9. 医学部学生との共同学習を通じて、多職種連携学習（IPE）における学びと自己の課題について述べることができる。
10. 図書館および検索エンジンを利用し、レポート作成に必要な文献を検索することができる
11. 文章作成や文献引用に関する基本的な倫理観を述べることができる
12. 日本語文章表現についての基本的な知識を身につけ、記述することができる
13. レポート作成に必要な、テーマや課題を批判的に読み取る能力、課題分析力を身につけ自ら考察することができる
14. レポートを書く上で必要な表記法（出典・参考文献など）を修得しレポートを作成することができる
15. レポート作成・試験受験時に守らなければならないことを説明できる

【4】 ディプロマ・ポリシーとの関連

到達目標を達成することにより、以下の能力を身につけることにつながります。

1．自然科学を看護活動の根拠とし、実践に活かす基礎的な力を有している。

3．他者の多様な価値観を理解し、尊重することができる。

4．看護職の社会的責任を理解し、看護実践にまつわる倫理的課題を感受する力と熟考する力、それらに基づく判断を行動に表す力を身につけている。

5．看護専門職として、リーダーシップおよびフォロワーシップを発揮し、チームの中で有機的に活動する資質を身につけている。

6．自ら学ぼうとする好奇心をもち、生涯にわたり自己研鑽する姿勢を身につける。

【5】　授業計画

	項目	内容および授業方法 予習・復習・キーワード	担当教員
1～4	倫理事はじめ編１　大学で学問するとは（１）	内容： １．大学とは ２．大学で学ぶとは、生徒と学生の違い ３．大学生に求められる資質・能力 ４．健康科学部が育成したい能力 ５．学生生活の道徳・倫理 ６．授業・演習における道徳・倫理 ７．試験受験における道徳・倫理 ８．看護学生としての社会人基礎力 ９．多職種専門職連携学習 方法：講義 予習：健康科学部の教育目標および、履修要覧・学生生活セルフマネジメントマニュアルに目を通しておく 復習：課題ワークシート：主体的に学ぶということはどういうことか、主体的に学ぶための取り組みについて整理し記述する。 キーワード：生徒と学生、大学生に求める資質・能力、健康科学部のディプロマ・ポリシー、学生生活、授業・演習、プレゼンテーション、グループディスカッション、本試験、追試験、再試験、成績、GPA、社会人基礎力、多職種専門職連携学習	日高紀久江・髙橋良幸
5・6	倫理ことはじめ編２　大学で学問するとは（２）	内容： １．自己の社会人基礎力を振り返り、自己の課題と今後の取り組みを明確にする。 方法：講義 予習：GPS-Academicの受検結果を見直しておく。 復習：課題ワークシート：自己の社会人基礎力における課題と今後の取り組みについて整理し記述する。 キーワード：社会人基礎力、前に踏み出す力、考え抜く力、チームで働く力、倫理、主体性、働きかけ力、実行力、課題発見力、計画力、創造力、発信力、傾聴力、柔軟性、状況把握力、規律性、ストレスコントロール力、倫理性、GPS-Academic	日高紀久江・髙橋良幸・鈴木俊美
7・8	文章表現法１：図書館の活用と文献検索方法	内容 １．図書館の施設、設備、図書館の役割 ２．文献、文献がなぜ必要か ３．文献の検索方法、文献検索のツール ４．文献引用のルールと倫理 予習：Moodleの使い方を体験しておく 復習：課題ワークシートに取り組む キーワード：パブリック・サービス、情報サービス、テクニカルサービス、文献情報データベース、蔵書の検索、電子ジャーナル	日高紀久江　メディアセンター司書
9・10	文章表現法２：レポート・論文とは／正確に伝えるための日本語表現	内容 １．レポート、論文とは何か ２．レポートの構成について ２．文章表現方法：句読点や記号の使い分け、表記規則 方法：講義・演習 予習：特になし 復習：ミニテスト、授業で配布された資料を読む、演習課題の解きなおし キーワード：レポート・論文・レポートの構成、日本語文法、文章作法、文章記号	川嶋潤
11・12	文章表現法３：わかりやすい文章構成・表現法	内容 １．読みやすい文章、レポート・論文における文章とはどのようなものか ２．レポート・論文におけるテーマの設定方法、問題の絞り方について ３．レポート、論文の一般的な構成 方法：講義、演習 予習：特になし 復習：ミニテスト、授業で配布された資料を読む、演習課題の解きなおし キーサード：レトリック、テーマの設定、レポート・論文の構成	川嶋潤
13・14	文章表現法４：引用・参考文献利用のルール／メールにおける作法	内容： １．引用や参考の一般的なルール、文献表のまとめ方を理解する。 ２．メールの作法を理解する。 方法：講義・演習 予習：『プレゼンテーション論』で情報収集に取り組む 復習：ミニテスト、演習ワークの解き直し、授業で配布された資料を読む キーワード：引用、参考文献、情報の利用、メール・ビジネス文書、情報の発信	川嶋潤
15・16	文章表現法５：レポート・論文作成の応用	内容： １．図や表の提示の仕方を理解する。 ２．スライドの構成要素や効果的なレイアウトを理解する。 方法：講義・演習・グループワーク 予習：事前資料を読む 復習：『プレゼンテーション論』のスライド作成に取り組む キーワード：グラフ、データ、資料作成、レイアウト、スライド、	川嶋潤

17	倫理事はじめ編３：医療を目指す人の倫理１	内容 １．医学部との合同演習：事前課題の提示 ２．多職種連携とは何か 方法：講義 予習：特になし 復習：事前課題への取り組み（期日までに提出）、多職種連携における看護師の役割について整理しておく キーワード：薬害、多職種連携・多職種協働・医療専門職・看護職者の役割	髙橋良幸・鈴木俊美
18～20	倫理事はじめ編４：医療を目指す人の倫理２	内容 １．専門職業と倫理 ２．医療における倫理 ３．看護専門職に必要な能力 ４．多職種連携における看護職者の役割 方法：講義 予習：日本看護協会のホームページから次の2つのコンテンツを読む ①「倫理とは何か」 https://www.nurse.or.jp/nursing/practice/rinri/text/basic/what_is/index.html ②「看護職の倫理綱領」 https://www.nurse.or.jp/home/publication/pdf/rinri/code_of_ethics.pdf ＊キーワード検索でも閲覧可 復習：講義内で伝える・課題ワークシートに取り組む キーワード：職業と医療、看護者の倫理綱領、倫理の4原則、倫理的感受性	鈴木俊美
21	倫理事はじめ編５：医療を目指す人の倫理３	内容：医学部との合同演習方法についてオリエンテーションを行う。 方法：オリエンテーション 予習：なし 復習：オリエンテーション内容を確認する キーワード：他職種交流授業、薬害、グループディスカッション、プレゼンテーション	髙橋良幸・鈴木俊美
22～25	倫理事はじめ編６：医療を目指す人の倫理４	内容：医療に関する倫理的課題についてディスカッションする。合同演習では「薬害」を取り扱う。「薬害の歴史と定義」および「各グループに課された薬害事例（薬害が発生した具体的な経緯など）」について事前学習した内容をグループ間で共有し、話し合いによりさらに深める。パワーポイントを用いて全体発表を行う。全体発表によりさらに理解を深める。 方法：グループワーク，プレゼンテーション 医学部との合同演習 予習：グループ分け及び各グループに課せられた事前課題（事前学習内容）についてMoodleにて伝える 復習：レポート課題：医学部学生との合同演習（他職種交流授業）を通じて他職種連携活動における学びと自己の課題を整理して記述する。 キーワード：倫理的課題、倫理的感受性、薬害、薬害被害の実際、社会の対応	日高紀久江・髙橋良幸・鈴木俊美
26	倫理事はじめ編７：医療を目指す人の倫理５	内容 １．多職種連携の実際 方法：講義 予習：多職種連携における看護師の役割について整理しておく 復習：課題ワークシート キーワード：多職種連携・多職種協働・医療専門職・看護職者の役割	髙橋良幸
27	倫理事はじめ編８：医療を目指す人の倫理６	内容 １．実習における道徳・倫理 ２．多職種連携における看護師の役割について整理しておく、個人情報の保護、守秘義務 ３．看護学生としての学習態度 方法：講義，グループワーク 予習：「個人情報に関する講義（録画）」（6/30）の視聴内容について整理しておく 復習：ミニテスト キーワード：インフォームド・コンセント、個人情報、個人情報の保護、守秘義務、看護職者としての倫理的態度	日高紀久江

【６】　事前・事後学習とその時間

【準備学習】
・事後課題の提出にMoodleを利用するため、あらかじめ各自で使い方を体験し、わからないことは質問して理解しておく。
・この授業は、健康科学部看護学科の学生としてどのように学びどのように行動するかという基本的な態度を理解する、また大学生としてレポート作成に取り組むための基礎的な知識と技能を獲得することを狙いとしている。倫理的内容については、授業内容を受け止め、自分の頭で考える姿勢で臨むこと。また、医学部との合同演習においては、事前に提示された学習課題に取り組み臨むこと。事前学習課題に取り組めていない学生は合同演習に参加できない。文章表現に関する内容については、事前に示された資料を読み、復習として授業で行った演習課題を見直すこと。よって準備学習として、予習・復習あわせて1時間程度を要する。

【学習上の留意点】
・倫理は単に「知っている」だけではなく、実践することが大切である。主体的に学ぶために、調べたこと・考えたことを言語化する、他者の意見を受け入れたうえで自己の考えを整理するなど自己の考え方の傾向に気づけるように積極的に取り組んでほしい。また、わからない点や理解が困難だった内容については積極的に質問すること。
・文章表現に関する授業においては、①事前学習として授業で示された資料・テキストを読み、授業に臨む。②だされた課題（ワークシート・レポートなど）へは積極的に取り組む。③事後学習として各回の授業時に配布された資料に目を通し、また授業で行った演習課題を見直す。
・レポート、ミニテスト、課題ワークシートは提出期限を遵守すること。提出はMoodleに行い、提出期限後に出されたものは受け付けしない。

【７】　評価方法・基準

レポート1件：30%　ミニテスト4回：20%　課題ワークシート5回：25%　事前課題への取り組み：15%、グループワークへの取り組み10%

【８】　フィードバック方法

・課題レポートは結果を返却する。返却時に講評を行う。ワークシートは講義中に口頭でフィードバックする。ミニテストは結果を提示する。ミニッツペーパーに記載された感想や質問に対して次の時間にフィードバックする。

【９】　教科書

・資料を授業の時に配布する
・履修要覧・学生生活セルフマネジメントマニュアル

【10】　参考書

・前原澄子・遠藤俊子監修：看護学生のためによくわかる大学での学び方　第2版，2018，Kinpodo
・箕浦とき子・高橋恵著：看護職としての社会人基礎力の育て方　第2版、2018，日本看護協会出版会
・赤林朗[編]：入門・医療倫理Ⅰ〔改訂版〕，2017，勁草書房
・宮坂道夫：医療倫理学の方法 原則・ナラティブ・手順　第3版，2016，医学書院
・佐藤望・湯川武・横山千晶・近藤明彦編：アカデミック・スキルズ（第3版）大学生のための知的技法入門，2020年，慶応技術大学出版会
・永井均：倫理とは何か 猫のアインジヒトの挑戦，2011，ちくま学芸文庫
・佐渡島沙織・吉野亜矢子：これから研究を書く人のためのガイドブック　第2版，2021年，ひつじ書房
・浜田麻里・平尾得子・由井紀久子：大学生・留学生のための論文ワークブック，1997，くろしお出版

【11】　備考(関連科目等)

・倫理的内容においては、本学部学科の教育理念である「倫理観の涵養」に深くかかわる。また以降に学ぶ「倫理学」「哲学」などの総合教育科目や、すべての専門教育科目に関連している重要な科目である。
・文章表現に関する内容においては，トランスレーショナルへの挑戦Ⅱ，レポート作成が課題として出される科目，看護研究に関連している重要な科目である。
2025DPとの関連：DP①・②・③・④・⑤

科目名(日本語)	トランスレーショナルへの挑戦Ⅱ	必修・選択区分	授業形態	開講学期・学年	単位数
科目名(英語)	Challenging for Translational Strategies into Nursing Ⅱ	必修	講義	春学期 1年	1単位 15時間
科目責任者	蜂ヶ崎令子				
担当教員	尾立篤子・蜂ヶ崎令子・宮崎裕子・林京子				
科目責任者 連絡先(教室)	蜂ヶ崎令子：研究室（K314）reiko.hachigasaki@hs.toho-u.ac.jp				
オフィスアワー	授業終了後10分程度、講義室にて質問を受ける。Moodleやメールでの連絡も可能。 メールアドレスは講義内で各教員より連絡する。 蜂ヶ崎令子：研究室（K314） 宮崎裕子：研究室（K327） 尾立篤子：研究室（K328）				

【1】　授業方法(ALの要素、ICTの活用等)

1－1．アクティブラーニングについて

実施する

1－2．アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素

ディスカッション、ディベート
グループワーク
プレゼンテーション

2－1．双方向授業でのＩＣＴの活用について

活用する

2－2．ＩＣＴを活用する場合、その具体的名称（クリッカー、タブレット端末等）

Moodle

【2】　授業概要

本学科の教育の特徴であるトランスレーショナルの概念、方法、看護学における活用などについて基礎知識を学ぶ。理論、エビデンスとなる論文、フィジカル面の生理学的データなどを用い、臨床で起こる事象を読み解く視点を学習する。さらに、体験などの参加型授業を通して、看護学の根拠ある実践活動における科学的思考力を養う。

【3】　到達目標

1. 科学研究とは何か考え意見を論述できる。
2. トランスレーショナルの有用性について具体的に説明できる。
3. 看護における理論の有効活用と課題について説明できる。
4. 看護における論文の有効活用と課題について説明できる。
5. 身体情報を関連学問の知識に基づいて解釈し記述できる。
6. 身体情報を健康生活や看護援助に活用するアイデアについて文献を用いて述べられる。
7. 看護における根拠のある実践について説明できる。
8. 看護実践の根拠を生み出す方法について説明できる。
9. 看護学を発展させるトランスレーショナルについて考察できる。

【4】　ディプロマ・ポリシーとの関連

到達目標を達成することにより、以下の能力を身につけることにつながります。

1．自然科学を看護活動の根拠とし、実践に活かす基礎的な力を有している。

2．看護学の専門知識と技術を修得している。

3．他者の多様な価値観を理解し、尊重することができる。

4．看護職の社会的責任を理解し、看護実践にまつわる倫理的課題を感受する力と熟考する力、それらに基づく判断を行動に表す力を身につけている。

5．看護専門職として、リーダーシップおよびフォロワーシップを発揮し、チームの中で有機的に活動する資質を身につけている。

6．自ら学ぼうとする好奇心をもち、生涯にわたり自己研鑽する姿勢を身につける。

【５】　授業計画

	項目	内容および授業方法 予習・復習・キーワード	担当教員
第1・2回	論文活用のトランスレーショナル　(1)	授業方法：講義、演習 内容： 1. 対人距離（パーソナルスペース）とは 2. 自分の対人距離を測定する～「停止接近法」による測定～ 予習：示された課題について調べておく 復習：授業内容に基づいて、ワークシートをまとめる キーワード：言語的コミュニケーション、非言語的コミュニケーション、対人距離	宮崎 裕子・林京子
第3・4回	トランスレーショナル概説	授業方法：講義 内容 1. オリエンテーション 2. 科学とは 3. 論理的思考とは 4. 看護実践における理論活用 予習：特に必要としない 復習：レポート キーワード：仮説と検証、科学的思考、クリティカルシンキング、知的財産、トランスレーショナル	尾立 篤子
第5・6回	身体情報活用のトランスレーショナル　(1)	授業方法：講義・計測・グループワーク 内容 1. 身体情報とは 2. トレーニング方法の説明 3. 身体情報の計測（トレーニング前） 予習：身体情報に関する論文を読む 復習：実験ワークシートへの記述、トレーニングの実施 キーワード：身体情報計測データの解釈、知識・技術の移転	蜂ヶ崎 令子・林京子
第7・8回	論文活用のトランスレーショナル　(2)	授業方法：講義、グループワーク 内容： 1. 論文を読むということ～「対人距離」に関する論文の精読 2. 論文を読んでわかったこと 予習：ワークシートに記述したことを各自が説明できるように準備しておく 復習：授業内容に基づいて、ワークシートをまとめる キーワード：論文、論理的思考	宮崎 裕子
第9・10回	身体情報活用のトランスレーショナル　(2)	授業方法：講義・計測・グループワーク 内容 1. 身体情報の計測（トレーニング後） 2. 身体情報の解釈と分析（グループワーク） 3. 実験データの看護実践への活用 予習：実験ワークシートに記述した見解を各自が説明できるようにしておく 復習：実験ワークシートへの記述、実験データの解釈と分析 キーワード：転倒予防、廃用症候群、実験データの健康生活や看護実践への活用	蜂ヶ崎 令子・林京子
第11・12回	論文活用のトランスレーショナル　(3)	授業方法：グループワーク、演習 内容： 1. 演習と講義で学んだことを活用し、課題「臥床している患者への接近方法」を推測する 2. 推測したことを確かめ考察する 予習：ワークシートに記述したことを各自が説明できるように準備しておく 復習：授業内容に基づいて、ワークシートをまとめる キーワード：推論、論理的思考	宮崎 裕子・林京子
第13・14回	身体情報活用のトランスレーショナル　(3)	授業方法：講義・グループワーク・発表 内容 1. 実験データの健康生活や看護実践への活用について考察 2. 看護を発展させるトランスレーショナルについて考察 予習：実験ワークシートに記述した見解を各自が説明できるようにしておく 復習：課題レポートの提出 キーワード：科学的探究、クリティカルシンキング、リテラシー、人間尊重	蜂ヶ崎 令子

【６】　事前・事後学習とその時間

【準備学習】
本授業は、トランスレーショナルの概要を理解し、看護学の根拠ある実践活動における科学的思考の基盤作りをすることをねらっているため、関連内容について復習に1時間程度必要である。また、実験のために日々の数分を使う可能性がある。

【学習上の留意点】
授業は学び方の方法を学ぶ場ともなるため、主体的に学習する態度で臨むこと。
当該授業に主体的に取り組み、課題を期限までに提出すること。質問や確認がある場合は、積極的に連絡すること。

【７】　評価方法・基準
各担当教員から提示される、課題レポート（80%）、プレゼンテーション・学習の取組み（20%）の総合点で評価する。

【８】　フィードバック方法
授業中のレポートは結果返却する。
次回の授業で、課題の中の特徴的な見解や誤解についてコメントする。

【９】　教科書
授業時に資料を配布する。

【10】　参考書
河野哲也（2018）レポート・論文の書き方入門 第4版．慶應義塾大学出版会．

【11】　備考(関連科目等)
授業科目全般
2025DPとの関連：DP①・②・③・④・⑤

科目名(日本語)	**生物学入門**	必修・選択区分	授業形態	開講学期・学年	単位数
科目名(英語)	Introduction to Biology	選択	講義	春学期 1年	1単位 15時間
科目責任者	渡邉直子				
担当教員	渡邉 直子、杉本　雅純				
科目責任者 連絡先(教室)	naokow@biomol.sci.toho-u.ac.jp				
オフィスアワー	授業終了後に教室で質問を受け付ける（10 分程度）				

【１】　授業方法(ALの要素、ICTの活用等)

１－１．アクティブラーニングについて

実施しない

１－２．アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素

２－１．双方向授業でのＩＣＴの活用について

活用する

２－２．ＩＣＴを活用する場合、その具体的名称（クリッカー、タブレット端末等）

Moodle

【２】　授業概要

主に高等学校で生物学を履修していない学生を対象とするが、高校で生物学を履修した学生も受講可。DVD 視聴も併用し、大学教育の生物学を理解するために必要とされる細胞の構造と機能、多細胞生物の仕組みと営み、遺伝子の構造と発現などについて基礎知識を学修する。

【３】　到達目標

1. 生物の共通性と多様性を理解し、説明できる。
2. ヒトの身体の構造と細胞の関係を理解し、説明できる。
3. ウイルス感染と免疫の関係を理解し、説明できる。
4. 生活習慣要因と生活習慣病の関係を理解し、説明できる。
5. 自然環境が健康に及ぼす影響を理解し、説明できる。

【４】　ディプロマ・ポリシーとの関連

到達目標を達成することにより、以下の能力を身につけることにつながります。

１．自然科学を看護活動の根拠とし、実践に活かす基礎的な力を有している。

６．自ら学ぼうとする好奇心をもち、生涯にわたり自己研鑽する姿勢を身につける。

【5】 授業計画

	項目	内容および授業方法 予習・復習・キーワード	担当教員
1・2	生物の進化	内容：生物の進化から、生物の共通性と多様性を知る 方法：講義 予習：教科書 14 章 2〜5 節を読む 復習：ノートと教科書を照らし合わせて復習した後、Moodle で小テストを行う キーワード：進化、細胞	杉本 雅純
3・4	細胞とヒトの身体	内容：細胞を基本とするヒトの身体の構造を知る 方法：講義 予習：教科書 19 章 2〜5 節を読む 復習：ノートと教科書を照らし合わせて復習した後、Moodle で小テストを行う キーワード：細胞、器官	杉本 雅純
5・6	皮膚の構造と機能	内容：体内最大の器官である皮膚の構造と機能を知る 方法：講義 予習：教科書 19 章 6 節を読む 復習：ノートと教科書を照らし合わせて復習した後、Moodle で小テストを行う キーワード：基本組織、創傷治癒	杉本 雅純
7・8	ウイルスと感染症	内容：感染症を引き起こすウイルスについて学び、ウイルス感染に対する免疫の仕組みを理解する 方法：講義 予習：教科書 14 章 7 節、20 章 1〜4 節を読む 復習：ノートと教科書を照らし合わせて復習した後、Moodle で小テストを行う キーワード：感染症、生体防御、ワクチン	渡邉 直子
9・10	生活習慣病-1	内容：飲酒や喫煙、食生活などが健康に及ぼす影響について学ぶ 方法：講義 予習：教科書 2 章 8 節、4 章 1 節を読む 復習：ノートと教科書を照らし合わせて復習した後、Moodle で小テストを行う キーワード：生活習慣病	渡邉 直子
11・12	生活習慣病-2	内容：生活習慣要因からがんの発症について学ぶ 方法：講義 予習：教科書 9 章 4 節を読む 復習：ノートと教科書を照らし合わせて復習した後、Moodle で小テストを行う キーワード：がん	渡邉 直子
13・14	環境とヒトの健康	内容：自然環境が健康に及ぼす影響について学ぶ 方法：講義 予習：教科書 17 章 7 節、18 章 6 節を読む 復習：ノートと教科書を照らし合わせて復習した後、Moodle で小テストを行う キーワード：自然環境	渡邉 直子

【6】 事前・事後学習とその時間

【準備学習】
- 指定した教科書の該当部分を読み、疑問点を整理しておく。

【事後学習】
- ノートと教科書を照らし合わせて理解を深め、Moodle で復習の小テストを行う。
- 質問は、授業後直接またはメール、Moodle メッセージを活用してください。

15 時間の授業に対して 30 時間の時間外学習を行う。

【学習上の留意点】
- e-learning を積極的に活用する。

【7】 評価方法・基準

小テスト（80%）、授業中に行う課題（20%）

【8】 フィードバック方法

- 小テストの解説を次の授業で行う　。
- 質問があった場合、次の授業で解説を行う　。

【9】 教科書

スター生物学　（八杉貞雄監訳）　東京化学同人（第 6 版）

【10】 参考書

必要に応じてプリントを配布する。

【11】 備考(関連科目等)

生物学、微生物学
2025DPとの関連：DP①・④

科目名(日本語)	**化学入門**	必修・選択区分	授業形態	開講学期・学年	単位数
科目名(英語)	Introduction to Chemistry	選択	講義	春学期 1年	1単位 15時間
科目責任者	満田深雪				
担当教員	満田深雪				
科目責任者 連絡先(教室)	理学部３号館５階講師室(但し、曜日制限あり下記参照のこと)。				
オフィスアワー	講義終了後に10分程度対応する。以後、対面質問は月曜日の昼休みに理学部３号館５階講師室にて対応する。授業時間以外には、Moodleのチャット機能を使って問い合わせのこと。				

【１】　授業方法(ALの要素、ICTの活用等)

１－１．アクティブラーニングについて

実施する

１－２．アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素

ＰＢＬ（課題解決型学習）

２－１．双方向授業でのＩＣＴの活用について

活用する

２－２．ＩＣＴを活用する場合、その具体的名称（クリッカー、タブレット端末等）

Moodleシステムで、対面授業の補完をする（諸連絡、課題提示、模範解答など）

【２】　授業概要

主に高等学校で化学を履修していない学生を対象とし、大学教育の化学を理解するために必要とされる原子の構造、元素の分類、化学結合、気体･液体･固体の性質、有機化学などの基礎知識を学修する。（高校で化学を履修した学生も受講可）

【３】　到達目標

1. 化学基礎（高校）を復習することで、看護の実践に必要な化学を理解するための基礎知識を説明できる。
2. 化学的思考で物質を理解し説明できる。
3. 物質の構成・性質についての概要を説明できる。
4. 物質の変化の概要を説明できる。
5. 生命と化学物質の関係についてその概要を説明できる。

【４】　ディプロマ・ポリシーとの関連

到達目標を達成することにより、以下の能力を身につけることにつながります。

１．自然科学を看護活動の根拠とし、実践に活かす基礎的な力を有している。

６．自ら学ぼうとする好奇心をもち、生涯にわたり自己研鑽する姿勢を身につける。

【5】　授業計画

	項目	内容および授業方法 予習・復習・キーワード	担当教員
1	はじめに 看護と化学	内容：はじめに看護に化学が必要な理由を理解できるよう講義・グループ ディスカッションを行う。また、化学の基本用語・物質名、元素、周期表について講義する 授業方法：講義・グループワーク 予習：看護と化学の関係を調べる 復習：自身の講義ノート・資料を復習する キーワード：化学、生命、看護に化学が必要な理由	満田深雪
2	化学結合とは	内容：イオンと化学結合の関係を理解できるよう講義する 授業方法：講義・ミニ演習 予習：化学結合について化学基礎（高校教科書）を予習しておく 復習：自身の講義ノート・資料を復習する キーワード：イオン、イオン結合、共有結合、金属結合	満田深雪
3	物質量について	内容：原子量と分子量とは、看護に必要な物質量の計算を理解できるよう講 義する 授業方法：講義・ミニ演習 予習：物質量の計算について化学基礎を予習しておく 復習：自身の講義ノート・資料を復習する キーワード：原子量、分子量、モル濃度、溶液の濃度	満田深雪
4	物質の変化（1-1）	内容：物質の状態変化について理解できるよう講義する。 授業方法：講義・ミニ演習 予習：物質の状態変化に必要な温度の概念について予習する。物質の状態変化について化学基礎を予習しておく。 また指定テキストの該当ページを予習しておく。 復習：テキスト・自身の講義ノート・資料を復習する キーワード：温度、物質の3態、状態変化	満田深雪
5	物質の変化（1-2）	内容：気体の溶解度、浸透圧、固体の溶解度について理解できるよう講義する 授業方法：講義・ミニ演習 予習：溶解度、浸透圧、について化学基礎を予習しておく。また指定テキストの該当ページを予習しておく。 復習：テキスト・自身の講義ノート・資料を復習する キーワード：溶解度、浸透圧	満田深雪
6	物質の変化（2-1）	内容：化学反応と化学反応式（主に、化学式の立て方と質量保存の法則）について 理解できるよう講義する 授業方法：講義・ミニ演習 予習：指定テキストに掲載されている化学反応式の意味が分かるようにしておく。 復習：テキスト・自身の講義ノート・資料を復習する キーワード：化学反応式、質量保存の法則、化学式の立て方	満田深雪
7	物質の変化（2-2）	内容：化学平衡のいろいろな例、化学反応の方向性について理解できるよう講義する 授業方法：講義・ミニ演習 予習：化学平衡と反応の方向性について化学基礎を予習しておく。 また指定テキストの該当ページを予習しておく。 復習：テキスト・自身の講義ノート・資料を復習する キーワード：化学平衡、平衡定数、反応の方向性	満田深雪
8	物質の変化（2-3）	内容：酸と塩基、pH、塩の性質について理解できるよう講義する 授業方法：講義・ミニ演習 予習：酸と塩基、pH、塩の性質について化学基礎を予習しておく。 また指定テキストの該当ページを予習しておく。 復習：テキスト・自身の講義ノート・資料を復習する キーワード：酸と塩基、塩の性質、pHに関する計算	満田深雪
9	物質の変化（3-1）	内容：中和反応と塩の生成について理解できるよう講義する。 授業方法：講義・ミニ演習 予習：中和反応と塩の生成（それぞれの化学反応式）について化学基礎を予習しておく。また指定テキストの該当ページを予習しておく。 復習：テキスト・自身の講義ノート・資料を復習する キーワード：中和反応、塩の生成	満田深雪
10	物質の変化（3-2）	内容：酸化と還元、酸化剤・還元剤について理解できるよう講義する 授業方法：講義・ミニ演習 予習：酸化と還元（の定義の仕方と反応式）について化学基礎を予習しておく。また指定テキストの該当ページを予習しておく。 復習：テキスト・自身の講義ノート・資料を復習する キーワード：酸化・還元、酸化剤・還元剤	満田深雪
11	医療と無機化合物	内容：無機化合物の種類（主にカリウム・カルシウム・鉄などのミネラルを構成する元素群）と医療との関係について理解できるよう講義する 授業方法：講義 予習：無機化合物の種類について化学基礎を予習しておく。また指定テキストの該当ページを予習しておく。 復習：テキスト・自身の講義ノート・資料を復習する キーワード：無機化合物、ミネラル	満田深雪

12	医療と有機化合物	内容：有機化合物の種類（生体を構成する有機化合物および、医薬品を構成する有機化合物や芳香族化合物）について、医療との関係について理解できるよう講義する 授業方法：講義 予習：有機化合物の種類について化学基礎を予習しておく。また指定テキストの該当ページを予習しておく。 復習：自身の講義ノート・資料を復習する キーワード：有機化合物、芳香族化合物	満田深雪
13	生命と化学（基礎編1）	内容：生命体の維持に不可欠な物質のうち、生体内の量が多い物質（タンパク質・糖質・脂質）について その構造と性質（体内での生体反応を含む）を学ぶ事を目的に講義を行う 授業方法：講義 予習：指定テキストの該当ページを予習しておく 復習：テキスト・自身の講義ノート・配布資料を復習する キーワード：タンパク質、糖質、脂質	満田深雪
14	生命と化学（基礎編2）	内容：生命体の維持に不可欠な物質のうち、生体内で微量な物質（ホルモン、 ビタミン、核酸）について その概要（主に、構造と性質）を学び、ミクロな体内環境における役割を把握する事を目的に講義を行う 授業方法：講義 予習：指定テキストの該当ページを予習しておく 復習：テキスト・自身の講義ノート・配布資料を復習するキーワード：ホルモン、ビタミン、核酸、環境	満田深雪

【６】　事前・事後学習とその時間

講義中に習熟状況の確認あるいは小テスト（ミニ演習）を実施するため、教科書あるいは配布された講義資料について予習を1時間、復習を1時間行うこと。

講義は対面の場合は、講義室でスライド等の説明と配布資料により、実施し、遠隔の場合は、講義支援システムMoodleを使用し実施する。

【７】　評価方法・基準

予習・復習を含めた講義に対する姿勢および毎回の内容に関する課題（30%）、定期試験（70%）で評価する。ただし、出席点は含まない。講義後課題の結果は次回の講義で解説を行う。対面の場合は、課題用紙を返却する。

【８】　フィードバック方法

毎回の簡単な課題に対し、次回の講義で模範解答を提示する。感染症や冠婚葬祭などにより授業に参加できなかった場合は、Moodleの対応ページにて復習できるよう配慮する。

【９】　教科書

コ・メディカル化学 「医療・看護系のための基礎化学」　齋藤勝裕、他.（裳華房）

【10】　参考書

これだけ高校化学　杉山美次.（秀和システム）
看護に必要なやりなおし生物・化学　時政孝行.（照林社）
化学入門－日常に役立つ基礎知識－　大月穣.（東京化学同人）

【11】　備考(関連科目等)

化学（春学期後半）、生化学（秋学期）
2025DPとの関連：DP①・④

シラバス 2025 年度

2 年生

科目名(日本語)	**実用英語Ⅱ(1)**	必修・選択区分	授業形態	開講学期・学年	単位数
科目名(英語)	Practical English Ⅱ(1)	必修	演習	春学期 2年	1単位 30時間
科目責任者	横山勇子				
担当教員	横山勇子				
科目責任者 連絡先(教室)	初回授業時に連絡方法を伝える。				
オフィスアワー	火曜日6,7,8限授業開始前、10分程度講義室で質問を受け付ける。 Moodleのメッセージ機能でも質問を受け付ける。				

【１】　授業方法(ALの要素、ICTの活用等)

１－１．アクティブラーニングについて

実施する

１－２．アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素

ディスカッション、ディベート
グループワーク

２－１．双方向授業でのＩＣＴの活用について

活用する

２－２．ＩＣＴを活用する場合、その具体的名称（クリッカー、タブレット端末等）

Moodle

【２】　授業概要

AFP通信による最新映像ニュースを使用した英語の総合学習教材を用いて、英文を日本語に翻訳することなく英語で理解する訓練を行う。映像を見た後にスクリプトを使用してロールプレイングを行ったり、短いプレゼンテーションを行ったりすることで、総合的英語コミュニケーション能力の向上を目指す。様々なニュースの視聴や問題演習を通して日常的に使用される単語や表現を理解した上で、さらに定着を図るため、音読やロールプレイングの時間を設ける。

【３】　到達目標

１．ニュース映像を使用することで、視覚・聴覚的に英語の使い方を学び、様々な表現を身につけることができる。
２．総合的な問題演習の後に振り返りや単元テストを行うことで、英語の基本的な文法・語彙・語法を定着させることができる。
３．音読やロールプレイングを通して、英語の正しい発音や人前で自発的に英語を話す力を身につけることができる。

【４】　ディプロマ・ポリシーとの関連

到達目標を達成することにより、以下の能力を身につけることにつながります。

１．自然科学を看護活動の根拠とし、実践に活かす基礎的な力を有している。
３．他者の多様な価値観を理解し、尊重することができる。

【5】　授業計画

	項目	内容および授業方法 予習・復習・キーワード	担当教員
1	オリエンテーション、自己紹介	授業ガイダンス（テキストの進め方、課題、テスト、評価についての説明）と自己紹介	横山勇子
2・3	Unit 1：Dissolving Bags (1)	Vocabulary, Finding the topic, Checking the script(ニュース・スクリプトの理解と音読練習の導入) 授業方法：講義・グループワーク 予習：Unit1に関する語彙を理解・把握しておく。 復習：授業中に取り扱った文法項目および語彙・フレーズを整理し理解する。音読練習をする。	横山勇子
4・5・6	Unit 1：Dissolving Bags (2)・Unit 2：Farm beneath the Streets (1)	Unit 1: Comprehension, Presenting the contents, Pinpoint, Further investigation (内容把握問題演習とプレゼンテーションの音読練習) 単元テスト (Unit 1) Unit 2: Vocabulary, Finding the topic, Checking the script(ニュース・スクリプトの理解と音読練習) 授業方法：講義・グループワーク 予習：Unit1と2に関する語彙を理解・把握しておく。 復習：授業中に取り扱った文法項目および語彙・フレーズを整理し理解する。音読練習をする。	横山勇子
7・8・9	Unit 2：Farm beneath the Streets (2)・Unit 3：Mechanics are Men - Think Again! (1)	Unit 2: Comprehension, Presenting the contents, Pinpoint, Further investigation (内容把握問題演習とプレゼンテーションの音読練習) 授業方法：講義・グループワーク 単元テスト (Unit 2) Unit 3: Vocabulary, Finding the topic, Checking the script(ニュース・スクリプトの理解と音読練習) 予習：Unit2と3に関する語彙を理解・把握しておく。 復習：授業中に取り扱った文法項目および語彙・フレーズを整理し理解する。音読練習をする。	横山勇子
10・11・12	Unit 3：Mechanics are Men - Think Again! (2)・Unit 4: Pets Get High-class Health Care (1)	Unit 3: Comprehension, Presenting the contents, Pinpoint, Further investigation (内容把握問題演習とプレゼンテーションの音読練習) 授業方法：講義・グループワーク 単元テスト (Unit 3) Unit 4: Vocabulary, Finding the topic, Checking the script(ニュース・スクリプトの理解と音読練習) 予習：Unit3と4に関する語彙を理解・把握しておく。 復習：授業中に取り扱った文法項目および語彙・フレーズを整理し理解する。音読練習をする。	横山勇子
13・14・15	Unit 4: Pets Get High-class Health Care (2)・Unit 5: Life with the Iron Lady (1)	Unit 4: Comprehension, Presenting the contents, Pinpoint, Further investigation (内容把握問題演習とプレゼンテーションの音読練習) 授業方法：講義・グループワーク 単元テスト (Unit 4) Unit 5: Vocabulary, Finding the topic, Checking the script(ニュース・スクリプトの理解と音読練習) 予習：Unit4と5に関する語彙を理解・把握しておく。 復習：授業中に取り扱った文法項目および語彙・フレーズを整理し理解する。音読練習をする。	横山勇子
16・17・18	Unit 5: Life with the Iron Lady (2)・Unit 6: Drone for the Disabled (1)	Unit 5: Comprehension, Presenting the contents, Pinpoint, Further investigation (内容把握問題演習とプレゼンテーションの音読練習) 授業方法：講義・グループワーク 単元テスト (Unit 5) Unit 6: Vocabulary, Finding the topic, Checking the script(ニュース・スクリプトの理解と音読練習) 予習：Unit5と6に関する語彙を理解・把握しておく。 復習：授業中に取り扱った文法項目および語彙・フレーズを整理し理解する。音読練習をする。	横山勇子
19・20・21	Unit 6: Drone for the Disabled (2)・Unit 7: Crucial Minutes (1)	Unit 6: Comprehension, Presenting the contents, Pinpoint, Further investigation (内容把握問題演習とプレゼンテーションの音読練習) 授業方法：講義・グループワーク 単元テスト (Unit 6) Unit 7: Vocabulary, Finding the topic, Checking the script(ニュース・スクリプトの理解と音読練習) 予習：Unit5と6に関する語彙を理解・把握しておく。 復習：授業中に取り扱った文法項目および語彙・フレーズを整理し理解する。音読練習をする。	横山勇子
22・23・24	Unit 7: Crucial Minutes (2)・Unit 8: Mites vs Parasites (1)	Unit 7: Comprehension, Presenting the contents, Pinpoint, Further investigation (内容把握問題演習とプレゼンテーションの音読練習) 授業方法：講義・グループワーク 単元テスト (Unit 7) Unit 8: Vocabulary, Finding the topic, Checking the script(ニュース・スクリプトの理解と音読練習) 予習：Unit5と6に関する語彙を理解・把握しておく。 復習：授業中に取り扱った文法項目および語彙・フレーズを整理し理解する。音読練習をする。プレゼンテーションの準備をする。	横山勇子

25・26・27	Unit 8: Mites vs Parasites (2)・プレゼンテーション	Unit 8: Comprehension, Presenting the contents, Pinpoint, Further investigation (内容把握問題演習とプレゼンテーションの音読練習) 授業方法：講義・グループワーク 単元テスト (Unit 8) ここまでの振り返りとプレゼンテーション 復習：授業中に取り扱った文法項目および語彙・フレーズを整理し理解する。音読練習をする。	横山勇子

【６】　事前・事後学習とその時間

(1)辞書を使い、未知の語彙の意味を調べておくこと。
(2)演習問題の解答を授業内で問うので、答えられるように内容を確認しておくこと。
(3)授業冒頭に行われる単元テストや振り返りができるように予習復習として毎回１時間半以上の自主学習に取り組むこと。
※単元テスト、課題については授業内で詳細を知らせる。

【７】　評価方法・基準

期末テスト30%・音読課題20%・単元テスト20%・授業内の発言回数20%・レポート10%
授業には2/3以上出席していないと、単位の評価対象にはならないので、注意すること。

【８】　フィードバック方法

単元テストの後、重要ポイントや誤りが多かった箇所についてフィードバックを行う。
課題については提出後にフィードバックを行う。

【９】　教科書

AFP　SciTech　Futures-AFPで学ぶ世界の科学-（成美堂）￥2,750
ISBN:978-4-7919-7231-9

【10】　参考書

なし

【11】　備考(関連科目等)

実用英語Ⅰ，実用英語Ⅲ，医療英語

科目名(日本語)	**実用英語Ⅱ(2)**	必修・選択区分	授業形態	開講学期・学年	単位数
科目名(英語)	Practical English Ⅱ(2)	必修	演習	春学期 2年	1単位 30時間
科目責任者	成田正人				
担当教員	成田正人				
科目責任者 連絡先(教室)	初回の授業時に連絡方法を伝えます。				
オフィスアワー	火曜日5限（13:00～13:50）の理学部Ｖ号館５階講師室と授業後（20分程度）				

【１】　授業方法(ALの要素、ICTの活用等)

１－１．アクティブラーニングについて

実施する

１－２．アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素

ディスカッション、ディベート
グループワーク

２－１．双方向授業でのＩＣＴの活用について

活用する

２－２．ＩＣＴを活用する場合、その具体的名称（クリッカー、タブレット端末等）

Moodle

【２】　授業概要

英語の重要な文法や語法の習得と、それらを踏まえた英語による表現活動を目標とします。ＩＡ／Ｂで習得した知識や技術をもとに、誰もが直面しうる人生の実用的な問題を英語で読み解き考え論じられるように、英語をインプットする力とアウトプットする力をバランスよく養います。

【３】　到達目標

・人生の実用的な諸問題を論じる英文を適切に読解し正確に理解することができる。
・誰もが直面しうる人生の実用的な問題を多角的に考えるための知識を得ることができる。
・人生の実用的な問題を英語で論じるのに必要な文法や語法を習得することができる。
・自分の考えを英語で効果的に述べるのに役立つ基本的な表現を身に付けることができる。
・英語の議論を整合的に展開するのに有用な標準的な技術を用いて話すことができる。

【４】　ディプロマ・ポリシーとの関連

到達目標を達成することにより、以下の能力を身につけることにつながります。

１．自然科学を看護活動の根拠とし、実践に活かす基礎的な力を有している。

３．他者の多様な価値観を理解し、尊重することができる。

【5】　授業計画

	項目	内容および授業方法 予習・復習・キーワード	担当教員
1・2回	ガイダンスと英文法の確認	授業内容：授業の進め方と受け方を説明し、基礎的な英文法を確認します。 授業方法：講義，問題演習 予習：シラバスをよく読み、教科書に目を通しておいてください。 復習：授業計画と評価方法を再確認し、基本的な英文法を復習してください。 キーワード：授業の概説，基本的な英文法	成田正人
3・4回	1 The Joys of Anticipation	授業内容：1の主題を確認し、1の本文を読解します。 授業方法：小テスト，発表，講義，問題演習 予習：1のPre-Reading QuestionsとVocabularyを確認し、1のReadingを予習してください。 復習：1の小テストを見直し、授業で読解した1のReadingを復習してください。 キーワード：anticipation	成田正人
5・6回	1 The Joys of Anticipation	授業内容：1の本文を読解し、1の問題を確認します。 授業方法：発表，講義、問題演習，グループワーク 予習：1のReadingを予習し、1のDiscussion / Writingについて考えてください。 復習：1のReadingを復習し、1のDiscussion / Writingを修正し仕上げてください。 キーワード：anticipation	成田正人
7・8回	3 How to Form Good Habits	授業内容：3の主題を読解し、3の本文を読解します。 授業方法：小テスト，発表，講義，問題演習 予習：3のPre-Reading QuestionsとVocabularyを確認し、3のReadingを予習してください。 復習：3の小テストを見直し、授業で読解した3のReadingを復習してください。 キーワード：habit	成田正人
9・10回	3 How to Form Good Habits	授業内容：3の本文を読解し、3の問題を確認します。 授業方法：発表，講義、問題演習，グループワーク 予習：3のReadingを予習し、3のDiscussion / Comprehensionについて考えてください。 復習：3のReadingを復習し、3のDiscussion / Comprehensionを修正し仕上げてください。 キーワード：habit	成田正人
11・12回	5 Introverts and Extroverts	授業内容：5の主題を確認し、5の本文を読解します。 授業方法：小テスト，発表，講義，問題演習 予習：5のPre-Reading QuestionsとVocabularyを確認し、5のReadingを予習してください。 復習：5の小テストを見直し、授業で読解した5のReadingを復習してください。 キーワード：personal character	成田正人
13・14回	5 Introversts and Extroverts	授業内容：5の本文を読解し、5の問題を確認します。 授業方法：発表，講義、問題演習，グループワーク 予習：5のReadingを予習し、5のCreative / Critical Thinkingについて考えてください。 復習：5のReadingを復習し、5のCreative / Critical Thinkingを修正し仕上げてください。 キーワード：personal character，中間試験	成田正人
15・16回	6 Social Media and Lonelinessと中間試験	授業内容：6の本文を読解します。中間試験を行います。 授業方法：発表，講義，試験 予習：6のReadingを予習してください。中間試験に備えて勉強してください。 復習：授業で読解した6のReadingを復習してください。 キーワード：social media，中間試験	成田正人
17・18回	6 Social Media and Loneliness	授業内容：6の主題を確認し、6の本文を読解します。 授業方法：小テスト，発表，講義，問題演習 予習：6のPre-Reading QuestionsとVocabularyを確認し、6のReadingを予習してください。 復習：6の小テストを見直し、授業で読解した6のReadingを復習してください。 キーワード：social media	成田正人
19・20回	6 Social Media and Lonelinessと中間試験へのフィートバック	授業内容：6の本文を読解し、6の問題を確認します。中間試験へのフィートバックをします。 授業方法：発表，講義、問題演習，グループワーク 予習：6のReadingを予習し、6のCreative / Critical Thinkingについて考えてください。 復習：6のReadingを復習し、6のCreative / Critical Thinkingを修正し仕上げてください。 キーワード：social media	成田正人
21・22回	7 Five Healthy Habits	授業内容：7の主題を確認し、7の本文を読解します。 授業方法：小テスト，発表，講義，問題演習 予習：7のPre-Reading QuestionsとVocabularyを確認し、7のReadingを予習してください。 復習：7の小テストを見直し、授業で読解した7のReadingを復習してください。 キーワード：health	成田正人

23・24回	7 Five Healthy Habits	授業内容：7の本文を読解し、7の問題を確認します。 授業方法：発表，講義、問題演習，グループワーク 予習：7のReadingを予習し、7のDiscussion / Writingについて考えてください。 復習：7のReadingを復習し、7のDiscussion / Writingを修正し仕上げてください。 キーワード：health	成田正人
25・26回	10 The Happiness Set Point	授業内容：10の主題を確認し、10の本文を読解します。 授業方法：小テスト，発表，講義，問題演習 予習：10のPre-Reading QuestionsとVocabularyを確認し、10のReadingを予習してください。 復習：10の小テストを見直し、授業で読解した10のReadingを復習してください。 キーワード：happiness	成田正人
27回	10 The Happiness Set Point	授業内容：10の本文を読解し、10の問題を確認します。 授業方法：発表，講義、問題演習，グループワーク 予習：10のReadingを予習し、10のComprehensionについて考えてください。 復習：10のReadingを復習し、10のComprehensionを修正し仕上げてください。 キーワード：happiness	成田正人

【６】　事前・事後学習とその時間

事前学習では、まずは、教科書のPre-Reading Questionsに目を通し、各トピックのテーマについて予め自分で考えてみてください。また、教科書のVocabularyを確認し、Readingをできるだけ正確に読解してみてください。事後学習では、特に試験に備えて、授業内で学修した文法や語法を整理すると共に、各トピックで考えた問題について英語の文章を書いてみてください。事前学習と事後学習は合わせて２時間程度かかるでしょう。

【７】　評価方法・基準

中間試験（30%）、定期試験（30%）、小テスト（20%）、発言回数（20%）で総合的に評価します。

【８】　フィードバック方法

小テストと中間試験は、結果を返却し、授業中にフィードバックを行います。

【９】　教科書

Jonathan Berman『Life Topics: Changing Views 総合英語ライフトピックス５』南雲堂、2023年

【10】　参考書

なし

【11】　備考(関連科目等)

実用英語Ⅰ，実用英語Ⅲ，医療英語

科目名(日本語)	**実用英語Ⅲ**	必修・選択区分	授業形態	開講学期・学年	単位数
科目名(英語)	Practical English Ⅲ	選択	演習	春学期 2年	1単位 30時間
科目責任者	Christine Joy Kelly				
担当教員	Christine Joy Kelly				
科目責任者 連絡先(教室)	Email address: kellychristine.joy@sci.toho-u.ac.jp anytime for help during the course. Contact details will be provided during the first lesson.				
オフィスアワー	In person: Fridays, 13:00-13:50, Health Science Building, 1st floor in common space (please email first to arrange the meeting).				

【１】　授業方法(ALの要素、ICTの活用等)

１－１．アクティブラーニングについて

実施する

１－２．アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素

ディスカッション、ディベート
グループワーク
プレゼンテーション

２－１．双方向授業でのＩＣＴの活用について

活用する

２－２．ＩＣＴを活用する場合、その具体的名称（クリッカー、タブレット端末等）

Moodle

【２】　授業概要

この授業は英語のコミュニケーション能力向上を目指す。この授業を通じて学生は、正確で流暢な英語での会話力・発信力をつけるとともに、リスニングの練習を通じて日常会話の聞き取り能力を身につけることを目指す。

【３】　到達目標

１．さまざまな場面での英会話の基本表現を習得できる。
２．英語コミュニケーションに慣れることで、コミュニケーションに必要な態度を身につけることができる。
３．英語を使ってディスカッションを行う際の基本的スキルを身につけることができる。

1.　By learning and practicing basic English phrases, collocations and discussion strategies from the course textbook, students will be able to:
(ア)　make comparisons between cultures in relation to the family, bringing up children, marriage and health;
(イ)　give opinions with factual reasons about contemporary social issues;
(ウ)　use discussion strategies to debate, agree or disagree with opinions;
(エ)　use mind mapping techniques to organize vocabulary to expand and deepen conversations in everyday situations in English;
(オ)　make invitations and enquiries in practical daily situations by phone and in person;
(カ)　give advice regarding unhealthy habits to people who are seeking to improve their lifestyle;
(キ)　explain responsibilities and dangers to children; and
(ク)　encourage older people or foreigners to recall memories.

【４】　ディプロマ・ポリシーとの関連

到達目標を達成することにより、以下の能力を身につけることにつながります。

１．自然科学を看護活動の根拠とし、実践に活かす基礎的な力を有している。
３．他者の多様な価値観を理解し、尊重することができる。

【５】　授業計画

	項目	内容および授業方法 予習・復習・キーワード	担当教員
1,2	Introduction to teacher, textbook and course	Textbook pages: iv-vii Preparation for lesson: Review self introduction words and phrases Lesson contents: Teacher introduction and self introductions, familiarisation with textbook, assessment and homework exercises. Pair work practicing self introductions. Group work finding similarities and differences between students. Review: Phrases to help with self introductions. Key words: textbook, name, like, hobby, live, career.	Christine Joy Kelly
3,4	Units 1 and 2 family relationships and personality types	Textbook pages 2-5 Preparation for lesson read through units and learn new vocabulary. Lesson contents: Pairwork conversation practice, individual pronunciation practice, group work discussing family members, individual checking vocabulary exercises, individual listening to people describing their personalities, pairwork interviewing partner about personality types. Review: complete workbook exercises for units 1 and 2 (Note: This will be supplied by the teacher in Moodle). Key words: divorced, engaged, fiance, firstborn, middle child, only child, single, spouse, born leader, follower, know it all, loner, optimist, pessimist, problem solver, role model	Christine Joy Kelly
5,6	Units 3 and 4 describing personal characteristics and interrupting politely	Textbook pages 6-9 Preparation for lesson: read through units and learn new vocabulary Lesson contents individual checking vocabulary exercises and pronunciation practice pair work conversation practice comparing personal characteristics and practicing politely interrupting each other. group work comparing similarities and differences of family members listening to someone talking about personal values. Review: complete workbook exercises for units 3 and 4 Key words: considerate, flexible, forgiving, mature, moody, reliable, responsible, compassion, courage, determination, honesty, kindness, loyalty, respect, sacrifice, sportsmanship	Christine Joy Kelly
7,8,9	Review of units 1-4, practice and role play 1	Textbook pages 10-11 Preparation for lesson read through pages and learn new vocabulary Lesson contents Watch a video that demonstrates a situation from units 1-4, practice the video dialogue, create an original dialogue, perform a role play. Review: ability to describe families, characteristics, personality types and politely interrupting another person. Key words: role play, video, families, situations, interruption	Christine Joy Kelly
10,11,12	Units 5,6 and 7 checking into a hotel, talking about rules and stating problems	Textbook pages 12-17 Preparation for lesson read through units and learn new vocabulary Lesson contents individual checking vocabulary exercises and pronunciation practice. Pair work practicing conversations about checking into a hotel, learning rules of a hotel and complaining about problems in a room. Group work discussing rules in several situations and comparing problems with a variety of lodgings. Review: complete workbook exercises for units 5,6 and 7. Key words: business, dorm, motel, triple, youth hostel, curfew, guest, valuable, sink.	Christine Joy Kelly
13,14,15	Unit 8 offering to help, review, practice and role play 2	Textbook pages 18-21 Preparation for lesson read through units and learn new vocabulary. Lesson contents Unit 8 offering to help: individual checking vocabulary exercise, listening to a conversation of people offering to help, pair work practicing conversation, group work offering to help and accepting or rejecting help. Practice for role play: Watch a video that demonstrates a situation from units 5-8, practice the video dialogue,	Christine Joy Kelly

		create an original dialogue, perform a role play. Review ability to use English phrases to check into a hotel, learn about rules, complain about a room and offer to help someone. Key words role play, offer, help, check in, learn	
16,17,18	Units 9, 10 and 11 asking indirect questions, talking about mistakes, making appointments	Textbook pages 22-27 Preparation for lesson read through units and learn new vocabulary Lesson contents individual checking vocabulary exercises and practicing pronunciation. Pair work practicing conversations about things to do around your neighbourhood, pointing out mistakes when shopping and making an appointment. Group work comparing places in neighbourhoods and making appointments. Review: complete workbook exercises for units 9, 10 and 11. Key words: boutique, health food store, office supply store, change, missing, misspelled, overcharged, undercharged, advisor, counsellor, veterinarian, planner.	Christine Joy Kelly
19,20,21	Unit 12 making recommendations, review, practice and role play 3	Textbook pages 28-31 Preparation for lesson read through units and learn new vocabulary Lesson contents Unit 12 individual checking vocabulary, pair work practicing a conversation about giving advice on saving money, listening to advice about saving money and group work comparing money saving recommendations. Practice for role play: Watch a video that demonstrates a situation from units 9-12, practice the video dialogue, create an original dialogue and perform a role play. Review: workbook homework exercise for unit 12 and ability to use English phrases to ask indirect questions, talk about mistakes and make appointments and recommendations. Key words appointments, recommendations, review, role play, save, ideas,	Christine Joy Kelly
22,23,24	Units 13, 14 and 15 asking about childhood, reported speech and talking about the news	Textbook pages 32-37 Preparation for lesson read through units and learn new vocabulary Lesson contents Individual checking vocabulary exercises and practicing pronunciation. Pair work practicing conversations about childhood memories, reporting what someone said and reporting on recent news. Group work comparing childhood experiences and relating interesting new stories. Review: complete workbook exercises for units 13, 14 and 15. Key words: bully, checkers, hopscotch, tomboy, awful, disgusting, embarrassing, cause, crash, deny, donate, score	Christine Joy Kelly
25,26,27	Unit 16 asking when events happened, review, practice and role play 4	Textbook pages 38-41 Preparation for lesson read through units and learn new vocabulary Lesson contents Unit 16 individual checking vocabulary exercise, pairwsrk practicing a conversation about a currents event quiz and listening to a current events quiz. Practice for role play: Watch a video that demonstrates a situation from units 13-16, practice the video dialogue, create an original dialogue and perform a role play. Review workbook homework for unit 16, general review of units 1-16 for final test, test practice supplied by teacher. Key words celebrity scandal, daring rescue, key discovery, natural disaster, political change, royal wedding, sporting success	Christine Joy Kelly

【6】　事前・事後学習とその時間

Students should read through the unit before the lesson, write new words in their notebook and learn new vocabulary, which takes about 30 minutes.
Students should write answers to the vocabulary exercise and take notes on the language booster section of each unit, which takes about 30 minutes.
Students should complete the workbook homework exercises (supplied by the teacher in Moodle) for the unit after the lesson, which takes about 30 minutes.

【７】　評価方法・基準

Assessment and attendance
Students must attend class regularly to pass the course but attendance is not included in the course assessment.
If a student is absent from a role play assessment or final test without a valid excuse, the student cannot re-take the test.
Students will be penalised for submitting homework late.

1. Homework for units 1-16　　30%
This will be provided by the teacher each lesson from supplementary material (photocopies/copies on Moodle).
2. Roleplay 1 from units 1-4　　15%
3. Roleplay 2 from units 5-8　　15%
4. Roleplay 3 from units 9-12　　15%
5. Roleplay 4 from units 13-16　　15%
6. Final test on vocabulary and phrases from the vocabulary exercises language booster sections of the textbook (units 1-16)　　10%

Total　　100%

【８】　フィードバック方法

Assessment and feedback will be provided individually through Moodle/Email/ worksheets designed for each task and will concentrate on accuracy, grammar, vocabulary, pronunciation and content learned throughout the course.

【９】　教科書

Textbook: Speak Now 3 student book with online practice, Jack C Richards and David Bohlke, Oxford University Press, 2012, ISBN 978-0-19-403017-5

【10】　参考書

なし

【11】　備考(関連科目等)

Practical English Ⅱ, Practical English Ⅳ

科目名(日本語)	**実用医療英語**	必修・選択区分	授業形態	開講学期・学年	単位数
科目名(英語)	Practical English in healthcare	選択	演習	春学期 2年	1単位 15時間
科目責任者	桑原　俊介				
担当教員	富田りか				
科目責任者 連絡先(教室)	講義内で通知する。				
オフィスアワー	質問等は授業終了後、講義室にて受け付ける。				

【１】　授業方法(ALの要素、ICTの活用等)

１－１．アクティブラーニングについて

実施する

１－２．アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素

ＰＢＬ（課題解決型学習）
ディスカッション、ディベート
グループワーク
プレゼンテーション

「その他」の内容

講義および面談演習（外国人との面談）

２－１．双方向授業でのＩＣＴの活用について

活用する

２－２．ＩＣＴを活用する場合、その具体的名称（クリッカー、タブレット端末等）

Zoom

【２】　授業概要

医療人類学の視点から健康の概念を概観し、医療場面に必要なコミュニケーション能力を高める。特に、宗教や文化、出身国による生活習慣などが異なる外国人の医療ニーズに対応できるように、社会的・文化的背景などを把握し、外国人患者との円滑な意思疎通を図る英語力を高める。さらに、医療場面での多様な価値観を尊重する態度と倫理的姿勢を身につける。全学的に開講されている科目である。

【３】　到達目標

１．人の価値観の多様性が、文化・慣習の違いから生まれることを、実例を挙げて説明できる。
２．英語による外国人との意思疎通ができる。
３．科学、医療に関する代表的な用語を英語で発音できる。
４．外国人の宗教観、社会的背景を聞き取り、彼らの生活習慣や文化に敬意を示すことができる。
５．マイノリティへの無意識な不平等と無理解に気付くことができる。
６．多様性社会の在り方に医療人として考えを持つことができる。

【４】　ディプロマ・ポリシーとの関連

到達目標を達成することにより、以下の能力を身につけることにつながります。

１．自然科学を看護活動の根拠とし、実践に活かす基礎的な力を有している。

２．看護学の専門知識と技術を修得している。

３．他者の多様な価値観を理解し、尊重することができる。

４．看護職の社会的責任を理解し、看護実践にまつわる倫理的課題を感受する力と熟考する力、それらに基づく判断を行動に表す力を身につけている。

５．看護専門職として、リーダーシップおよびフォロワーシップを発揮し、チームの中で有機的に活動する資質を身につけている。

【5】　授業計画

	項目	内容および授業方法 予習・復習・キーワード	担当教員
1	イントロダクションⅠ	授業方法：講義、グループワーク。Ice-break 予習・復習：講義ごとに提示する キーワード：ice-break, group work	富田りか
2	イントロダクションⅡ	授業方法：講義、グループワーク。Interview techniques 予習・復習：講義ごとに提示する キーワード：interview technique	富田りか
3	健康保険システムⅠ	授業方法：講義　Universal healthcare system 予習：皆保険制度について理解しておく 復習：保険制度の違いが医療に与える影響を理解する キーワード：universal healthcare system	富田りか
4	健康保険システムⅡ	授業方法：講義 domestic and international healthcare 予習：世界の保険制度について理解しておく 復習：保険制度の違いが医療に与える影響を理解する キーワード：healthcare system by countries	富田りか
5・6	イスラム圏の医療事情Ⅰ	授業方法：講義 日本人とイスラム教 予習：イスラム教, キリスト教, ユダヤ教の基礎について理解しておく 復習：イスラム圏における医療についてまとめる キーワード：Shiite Muslim, Sunni Muslim	富田りか
7・8	イスラム圏の医療事情Ⅱ	授業方法：講義　イスラム教義の施しの倫理 予習：イスラム教, キリスト教, ユダヤ教の基礎について理解しておく 復習：イスラム圏における医療についてまとめる キーワード：major religions of the world	富田りか
9・10	ムスリムとの面談演習	授業方法：演習、グループワーク 予習・復習：授業ごとに提示する キーワード：interview technique, showing empathy	富田りか
11・12	ムスリムとの面談演習	授業方法：演習、グループワーク 予習・復習：授業ごとに提示する キーワード：interview technique, showing empathy	富田りか
13・14	東南アジアにおける医療事情	授業方法：講義 予習：東南アジア諸国の基本情報を理解しておく 復習：東南アジア諸国の医療情勢についてまとめる キーワード：社会の成り立ち、生活環境、気候、原虫性感染症	富田りか
15・16	東アフリカにおける医療事情	授業方法：講義 予習：アフリカ大陸地域別気候を理解しておく 復習：東アフリカにおける医療情勢についてまとめる キーワード：社会の成り立ち、生活環境、部族薬師と近代医療、HIV/AIDS	富田りか
17・18	フィリピン人との面談演習	授業方法：演習、グループワーク 予習・復習：授業ごとに提示する キーワード：interview technique, showing empathy	富田りか
19・20	フィリピン人との面談演習	授業方法：演習、グループワーク 予習・復習：授業ごとに提示する キーワード：interview technique, showing empathy	富田りか
21・22	性的マイノリティと医療Ⅰ	授業方法：講義　政治と医療①：アメリカにおけるHIV/AIDS政策 予習：HIV/AIDSについて事前学習しておく 復習：講義時に指示する キーワード：政治体制, 偏見・差別	富田りか
23・24	性的マイノリティと医療Ⅱ	授業方法：講義 政治と医療②：LGBTQ 予習：LGBTQについて調べておく 復習：性的マイノリティ者が医療を受ける際に生じうる問題をまとめる キーワード：LGBTが国民として有する権利	富田りか
25・26	性的マイノリティ者との面談演習	授業方法：演習、グループワーク 予習・復習：授業ごとに提示する キーワード：interview technique, showing empathy	富田りか
27	性的マイノリティ者との面談演習	授業方法：演習、グループワーク 予習・復習：授業ごとに提示する キーワード：interview technique, showing empathy	富田りか
		※授業内容の順番は変更となる可能性がある。	

【6】　事前・事後学習とその時間

講義に関連する国や文化について事前に学習しておくこと。予習・復習時間はそれぞれ1時間持つこと。面談の際にはコミュニケーションをとろうとする姿勢を相手に的確に示すこと。英語能力のレベルを履修要件とはしない。

＜学習上の留意点＞

１．日程について：本科目は共通教育科目として運営されている。その関係上、5,6月の土曜日の開講となる。１日４コマ×４日間での授業となる。

２．授業教室について：講義については大森キャンパス医学部本館3階大学院講堂で、面談演習は2号館6階SDLセンターで行う。ただし、他の教室も使うことがある。その際には事前に提示する。

【７】　評価方法・基準

授業中のパフォーマンス（発言内容等）（60%）、授業終了後のレポート（30%）、および事前学習に対するミニテスト（10%）によって評価を行う。

【８】　フィードバック方法

ミニテストについては実施後に解説を行う。レポートについてはメールにてフィードバックを行う。

【９】　教科書

特に指定しない。

【10】　参考書

特に指定しない。

【11】　備考(関連科目等)

実用英語ⅠA・ⅠB、医療英語A・B、実用英語Ⅱ、実用英語Ⅲ

	日にち	時間
第１回目	5月10日（土）	13：00～17：00　対面（大森キャンパス）
第２回目	5月24日（土）	10：30～12：30、13：30～15：30　Zoom
第３回目	6月7日（土）	10：30～12：30、13：30～15：30　Zoom
第４回目	6月21日（土）	13：00～17：00　Zoom

※実施時間は今後変更となる可能性があります。

全学部共通の演習での事前事後課題については授業担当教員より周知されるので、指示に従うこと。

科目名(日本語)	**法学（日本国憲法を含む）**	必修・選択区分	授業形態	開講学期・学年	単位数
科目名(英語)	Jurisprudence	選択	講義	春学期 2年	2単位 30時間
科目責任者	平賀秀明				
担当教員	平賀秀明・松尾和廣・藤枝正輝・高橋和広				
科目責任者 連絡先(教室)	社会薬学研究室：薬学部C館510室 E-mail：hiraga-hideaki@phar.toho-u.ac.jp （件名に学部・学籍番号を明記すること）				
オフィスアワー	個々の講義に関する質問等は担当教員まで、科目全体に関する質問等は平賀まで 【平賀】月～金（10～17時）に研究室（薬学部C館510室）にて対応する。 【松尾】月～金（10～18時）に研究室（薬学部C館612室）にて対応する。 【藤枝】月～金（10～17時）に研究室（薬学部C館507室）にて対応する。 【高橋】金曜午後に研究室（理学部V号館5510室）にて、又はMoodleのメッセージ機能を用いて対応する。				

【１】　授業方法(ALの要素、ICTの活用等)

１－１．アクティブラーニングについて

実施する

１－２．アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素

グループワーク

２－１．双方向授業でのＩＣＴの活用について

活用する

２－２．ＩＣＴを活用する場合、その具体的名称（クリッカー、タブレット端末等）

Moodle

【２】　授業概要

基礎法学（法哲学、法史学、比較法学の基礎）や、実定法学（憲法、行政法、情報法、など）を学習する。また、医療・福祉・政策の分野に貢献するために必要とされる法を学び、医療・福祉・政策における法の役割について理解を深める。
なお、本科目は保健師課程科目である保健福祉医療行政論につながる科目である。

【３】　到達目標

1. 日本の法体系について説明することができる。
2. 立憲主義について説明することができる。
3. 基本的人権の概念について説明することができる。
4. 日本の統治機構の仕組みについて説明することができる。
5. 医療従事者の法的責任と倫理的責任について説明することができる。
6. 基本的人権と医療の理念の関係について説明することができる。
7. 看護師と他の医療従事者の業務について説明することができる。
8. 医療過誤裁判事例から、看護師の役割と責任を考察することができる。
9. 医薬品、医療機器等の取り扱いについて説明することができる。
10. 予防接種法の概要を説明することができる。
11. 介護保険法の概要を説明することができる。
12. 公的医療保険の概要を説明することができる。

【４】　ディプロマ・ポリシーとの関連

到達目標を達成することにより、以下の能力を身につけることにつながります。

１．自然科学を看護活動の根拠とし、実践に活かす基礎的な力を有している。

３．他者の多様な価値観を理解し、尊重することができる。

４．看護職の社会的責任を理解し、看護実践にまつわる倫理的課題を感受する力と熟考する力、それらに基づく判断を行動に表す力を身につけている。

５．看護専門職として、リーダーシップおよびフォロワーシップを発揮し、チームの中で有機的に活動する資質を身につけている。

【5】　授業計画

	項目	内容および授業方法 予習・復習・キーワード	担当教員
1	憲法（1）憲法とは何か	内容：憲法とは何か、憲法と他の法律との関係 授業方法：講義 予習：日本国憲法における3大原理について調べること。 復習：課題内容の復習。 キーワード：最高法規としての憲法	高橋和広
2	憲法（2）違憲審査制	内容：違憲審査制 授業方法：講義 予習：過去に憲法違反の判断が下された例について調べる。 復習：課題内容の復習。 キーワード：違憲審査、最高裁判所	高橋和広
3	憲法（3）憲法改正	内容：憲法改正 授業方法：講義 予習：過去の憲法改正について調べる。 復習：課題内容の復習。 キーワード：憲法96条、硬性憲法	高橋和広
4	憲法（4）信教の自由	内容：信教の自由 授業方法：講義 予習：身近にある宗教的なものについて調べる。 復習：課題内容の復習。 キーワード：憲法20条、剣道受講拒否事件、宗教改革	高橋和広
5	憲法（5）政教分離	内容：政教分離 授業方法：講義 予習：現代及び過去の政治と宗教との関係について調べる。 復習：課題内容の復習。 キーワード：憲法20条、宗教的寛容、自由主義	高橋和広
6	憲法（6）自己決定権	内容：自己決定権（自分のことは自分で決める） 授業方法：講義 予習：エホバの証人輸血拒否事件について調べる。 復習：課題内容の復習。 キーワード：憲法13条、自己決定権	高橋和広
7	憲法（7）説明義務と憲法	内容：説明義務と憲法 授業方法：講義 予習：説明義務違反が争点となった事件について調べる。 復習：課題内容の復習。 キーワード：自己決定権、説明義務	高橋和広
8	憲法（8）表現の自由の原則	内容：表現の自由の重要性 授業方法：講義 予習：事前に予習課題を提示する。 復習：課題内容の復習。 キーワード：表現の自由、憲法21条、二重の基準論	高橋和広
9	憲法（9）表現の自由の限界	内容：表現の自由はいつ、どのような理由で制限されるか 授業方法：講義 予習：SNSを巡る現代のトラブルについて調べる。 復習：課題内容の復習。 キーワード：名誉毀損、プライバシー、フェイクニュース	高橋和広
10	医療従事者の法的責任と倫理的責任	内容・法と倫理 ・医療と人権について ・刑法概論（犯罪と業務上過失） ・民法概論（債務不履行・不法行為と損害賠償） ・行政法概論（看護師免許に関する処分） 授業方法：講義 予習：看護師・医師・薬剤師の具体的な業務を調べて、理解を深めておくこと 復習：授業で配布したプリントを読み返すこと キーワード：憲法、人権、インフォームド・コンセント、医療過誤、犯罪、過失、業務上、債務不履行、不法行為、損害賠償、行政処分、看護師免許	平賀秀明
11	医療従事者の法的責任と倫理的責任	同上	平賀秀明
12	医療法概論	内容・医療の理念 ・医療の担い手について ・医療安全に関する規定 ・医療施設の基本的な定義 ・病院の管理者と従事者 授業方法：講義 予習：医療従事者の法的責任と倫理的責任（10、11回目講義）について復習し、理解を深めておくこと。看護師に関係する医療倫理等について調べておくこと。 復習：授業で配布したプリントを読み返すこと キーワード：憲法、人権、医療の理念、医療安全、病院、診療所、助産所、病床、管理者	平賀秀明
13	医療法概論	同上	平賀秀明

14	看護師と他の医療従事者	内容・看護師の業務 ・医師・薬剤師の業務と看護師との関係 授業方法：講義 予習：看護師・医師・薬剤師の具体的な業務を調べておくこと 復習：授業で配布したプリントを読み返すこと キーワード：保健師助産師看護師法(保助看法)、医師法、薬剤師法、医業、診療の補助、療養上の世話、調剤業務	平賀秀明
15	看護師と他の医療従事者	同上	平賀秀明
16	医療従事者と個人情報保護	内容・個人情報とは何か ・刑法上の守秘義務 ・保助看法における守秘義務 ・個人情報保護に関する法律 ・医療及び介護における個人情報の取り扱い 授業方法：講義 予習：医療従事者の法的責任と倫理的責任（10、11回目講義）、医療法概論（12、13回目講義）等について復習し、理解を深めておくこと 復習：授業で配布したプリントを読み返すこと キーワード：個人情報、守秘義務	平賀秀明
17	法律の視点から看護師の責任について考えてみよう！！	内容・看護師が関係した医療過誤裁判事例の考察 授業方法：グループワーク・発表 予習：10から16回目の講義等について復習し、理解を深めておくこと 復習：授業で配布したプリントを読み返すこと キーワード：憲法、人権、医療過誤、犯罪、過失、業務上、債務不履行、不法行為、損害賠償、行政処分、看護師免許、医療安全	平賀秀明
18	薬事関係法規（1）	内容・医薬品、医療機器等の定義 ・医薬品の販売制度 ・医薬品が世に出るまでの過程 授業方法：講義 予習：看護師と他の医療従事者（14、15回目講義）について復習し、理解を深めておくこと。また、自身の使用している医薬品・医薬部外品・化粧品等の容器等に記載されている説明文書にどの様なことが記載されているかを調べてくること。 復習：授業で配布したプリントを読み返すこと キーワード：医薬品医療機器等法、医薬品、薬局、販売業、承認制度、製造業、製造販売業	平賀秀明
19	薬事関係法規（1）	同上	平賀秀明
20	薬事関係法規（2）	内容・麻薬、向精神薬、覚せい剤の処方と取り扱い ・医薬品副作用被害救済制度 授業方法：講義 予習：看護師と他の医療従事者（14、15回目講義）、薬事関係法規（18、19回目講義）について復習し、理解を深めておくこと 復習：授業で配布したプリントを読み返すこと キーワード：麻薬及び向精神薬取締法、覚せい剤取締法、麻薬、向精神薬、麻薬処方せん、向精神薬処方せん、麻薬及び向精神薬関連免許、覚醒剤、医薬品副作用被害救済制度	平賀秀明
21	薬事関係法規（2）	同上	平賀秀明
22	予防衛生法規	内容・予防接種法 ・感染症の予防及び感染症の患者に関する法律（以下、感染症等法） 授業方法：講義 予習：予防接種の対象となる感染症やそのワクチン等について調べてくること 復習：授業で配布したプリントを読み返すこと キーワード：予防接種法、予防接種、Ａ類・Ｂ類疾病、定期予防接種、勧奨予防接種、健康被害の救済、感染症等法、感染症の分類、指定機関	松尾和廣
23	予防衛生法規	同上	松尾和廣
24	介護保険	内容・介護保険の必要性 ・保険者と被保険者 ・介護認定制度 ・介護支援専門員の業務及び資格取得 ・サービスの選択と要否 ・老人福祉法に規定される施設 ・介護保険法で定める介護施設と対象者とサービス ・地域による取り組みの必要性と現状 授業方法：講義 予習：介護における看護師の役割について考えてくること 復習：授業で配布したプリントを読み返すこと キーワード：介護保険、保険者、被保険者、認定制度、要支援、要介護、介護支援専門員、保険給付、自己負担金、特定施設、看護専用型特定施設、介護老人保健施設、介護老人福祉施設、サービス	藤枝正輝
25	介護保険	同上	藤枝正輝

26	医療保険	内容・国民医療費の概要 ・公的医療保険と医療の本質 ・後期高齢者医療制度 ・療養の給付について 授業方法：講義 予習：医療経済に関する問題点等について調べてくること 復習：授業で配布したプリントを読み返すこと キーワード：国民医療費、健康保険、国民健康保険、後期高齢者医療制度、保険者、被保険者、療養の給付	平賀秀明
27	医療保険	同上	平賀秀明

【６】　事前・事後学習とその時間

【準備学習】授業内容の把握及び理解のために、1時間程度の予習と2時間程度の復習を要します。
【学習上の留意点】専門基礎教育科目（社会保障制度）等と一部重複する講義がある。それらの科目の指定教科書等を参考にして良い。

【７】　評価方法・基準

定期試験（60%）、憲法分野のテスト（30%）及び日々の学習状況（10%）により評価する。
・定期試験：憲法以外の講義内容を範囲とする（マークシート方式で実施）。
・憲法分野のテスト：9コマめに憲法分野の既習事項について試験を行う（詳細は講義中等に連絡）。
・日々の学習状況：17回目の講義時（講義の進行により前後）に看護師の責任に関するグループワーク・発表を行う。このグループワーク・発表は、1～16回目の講義に関連した内容であり、復習しているか・グループワークに積極的に参加しているか等を総合的に評価する。

【８】　フィードバック方法

・定期試験：解答のみMoodleで公開する（解説は公表しない）。各自授業資料等を用いて復習すること。
・憲法分野のテスト：解答例・フィードバックをMoodleで公開する。
・日々の学習状況：特に評価結果は公表しない。

【９】　教科書

資料を講義の時に配布する（事前にウエブ上に掲示することもあるので、講義前はMoodleなどを確認すること）。

【10】　参考書

なし

【11】　備考(関連科目等)

看護学概論、保健医療福祉行政論、社会保障制度、公衆衛生看護学概論、看護管理論、看護学の臨地実習

科目名(日本語)	**臨床栄養学**	必修・選択区分	授業形態	開講学期・学年	単位数
科目名(英語)	Clinical Nutrition	必修	講義	春学期 2年	1単位 15時間
科目責任者	根本清光				
担当教員	根本清光				
科目責任者 連絡先(教室)	kiyomitsu.nemoto@phar.toho-u.ac.jp（件名に学部・学籍番号を明記すること）				
オフィスアワー	授業終了後（10分程度）に講義室にて、あるいは、E-mail（科目責任者連絡先参照）、Moodleでの質問を随時受け付けます。				

【１】　授業方法(ALの要素、ICTの活用等)

１－１．アクティブラーニングについて

実施しない

１－２．アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素

２－１．双方向授業でのＩＣＴの活用について

活用する

２－２．ＩＣＴを活用する場合、その具体的名称（クリッカー、タブレット端末等）

Moodle

【２】　授業概要

栄養学は健康の維持・増進に関わるばかりではなく、患者の治療においても重要な役割を占めている。そこで、脂質の構造と機能、タンパク質の構造と機能、酵素・補酵素とビタミン、酵素反応の阻害と調節、糖質の構造と機能、糖質代謝とエネルギー生成、糖質代謝の調節、脂質代謝と代謝調節、タンパク質代謝と代謝調節などの栄養学の基礎を学び、さらに患者の栄養管理法や食事療法、非経口栄養法など臨床栄養学について学修する。

【３】　到達目標

1. 栄養学を学ぶ意義について説明できる。
2. 栄養素の分類、体内における役割を説明できる。
3. 栄養素の消化、吸収、代謝のプロセスを概説できる。
4. 食品中の栄養素の栄養的価値について説明できる。
5. エネルギー代謝に関わる栄養素の生体利用エネルギー、エネルギー消費量、エネルギー代謝量の測定法について概説できる。
6. 日本人の食事摂取基準およびわが国の栄養素摂取と健康状態の現状について説明できる。
7. ライフステージにおける栄養の必要性について説明できる。
8. 栄養素の過不足による主な疾病を列挙し、説明できる。
9. ライフステージにおける疾患と栄養管理について概説できる。
10. 疾病治療における栄養の重要性を説明できる。

【４】　ディプロマ・ポリシーとの関連

到達目標を達成することにより、以下の能力を身につけることにつながります。

１．自然科学を看護活動の根拠とし、実践に活かす基礎的な力を有している。

２．看護学の専門知識と技術を修得している。

【５】　授業計画

	項目	内容および授業方法 予習・復習・キーワード	担当教員
1・2回	栄養素-1	内容：栄養の概念と栄養素の分類 授業方法：講義 予習：教科書（臨床栄養学の基礎知識　1 臨床栄養学の意義と看護、2 栄養とは）を簡単に読む。 復習：講義時に提示する。 キーワード：五大栄養素	根本清光
3・4回	栄養素-2	内容：五大栄養素の体内における役割 授業方法：講義 予習・復習：講義毎に提示する。 キーワード：五大栄養素、食物繊維	根本清光
5・6回	栄養素-3	内容：栄養素の消化・吸収・代謝、食品中の栄養素の栄養的価値 授業方式：講義 予習・復習：講義毎に提示する。 キーワード：消化、吸収、代謝、栄養価、NPC/N比	根本清光
7・8回	疾患治療と栄養-1	内容：エネルギー代謝、日本人の食事摂取基準、わが国の栄養素摂取と健康状態の現状 授業方式：講義 予習・復習：講義毎に提示する。 キーワード：基礎代謝量、食事摂取基準	根本清光
9・10回	疾患治療と栄養-2	内容：ライフステージにおける栄養の必要性 授業方式：講義 予習・復習：講義毎に提示する。 キーワード：栄養欠乏、栄養過剰	根本清光
11・12回	疾患治療と栄養-3	内容：ライフステージにおける疾患と栄養管理 授業方式：講義 予習・復習：講義毎に提示する。 キーワード：栄養スクリーニング、栄養アセスメント	根本清光
13・14回	疾患治療と栄養-4	内容：疾患治療における栄養管理 授業方式：講義 予習・復習：講義毎に提示する。 キーワード：栄養サポートチーム（NST）、栄養補給法、在宅栄養療法、治療食	根本清光

【６】　事前・事後学習とその時間

【準備学習】
この授業は、専門用語が多く出てくるため、予め予習をしておく必要があります。ここに示された授業計画を確認し、事前にMoodleに掲載された講義資料や教科書、参考書の該当部分に目を通して下さい。このために、予習時間70分程度を費やします。

【事後学習】
講義後は、講義ノート、講義資料、教科書および参考書を用いて講義内容を再確認するとともに、不足の内容について知識を補って下さい。さらに、関連する練習問題を解き、理解をしっかり身に付けて下さい。このために、復習時間70分程度を費やします。

【学習上の留意点】
e-ラーニング（Moodle）を積極的に活用すること。

【７】　評価方法・基準

到達目標を出題基準として実施する定期試験の成績（100%）により評価する。

【８】　フィードバック方法

定期試験実施後、解答・講評をMoodleに掲示する。

【９】　教科書

『ナーシング・グラフィカ 疾病の成り立ちと回復の促進(4)：臨床栄養学　第6版』　メディカ出版
事前にMoodleに掲載された講義資料。

【10】　参考書

講義時に紹介する。

【11】　備考(関連科目等)

生化学、解剖生理学に関する科目が関連します。
今後、さまざまな臨床系の科目と関連します。

科目名(日本語)	**疾病と治療Ⅲ**	必修・選択区分	授業形態	開講学期・学年	単位数
科目名(英語)	Pathophysiology and Treatment Ⅲ	必修	講義	春学期 2年	2単位 30時間
科目責任者	本山治				
担当教員	本山治・中川晃一・齊藤淳哉・常喜信彦・神谷直人・上芝元・高島明子				
科目責任者 連絡先(教室)	原則として、質問はすべてMoodle上に掲載されるGoogleフォームから受け付ける。				
オフィスアワー	（本山　治）：講義終了後、講義室にて10分程度質問を受け付ける。または火曜日12～13時　東邦大学医療センター佐倉病院小児科医局へ連絡してください。 （中川晃一）講義終了後、講義室で10分程度質問を受け付ける。 （齋藤淳哉）講義終了後、講義室で10分程度質問を受け付ける。 （常喜信彦）講義終了後、講義室で10分程度質問を受け付ける。 （神谷直人）講義終了後、講義室で10分程度質問を受け付ける。 （上芝　元）講義終了後、講義室で10分程度質問を受け付ける。 （高島明子）講義終了後、講義室で10分程度質問を受け付ける。				

【１】　授業方法(ALの要素、ICTの活用等)

１－１．アクティブラーニングについて

実施しない

１－２．アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素

２－１．双方向授業でのＩＣＴの活用について

活用する

２－２．ＩＣＴを活用する場合、その具体的名称（クリッカー、タブレット端末等）

Moodle

【２】　授業概要

疾患のなりたちを理解するうえで重要な基本的病変と生体防御機構について学ぶ。さらにこれらの基礎的事項を踏まえ、代表的疾患における病因・病態･診断･治療を理解する。疾病と治療Ⅲでは、運動器の疾患、腎･泌尿器の疾患、内分泌･代謝の疾患、先天性の疾患、性･生殖器の疾患について学修し、知識を修得する。

（本山　治／７コマ）先天性(小児科)疾患の病因・病態と診断･治療
（中川晃一・齊藤淳哉／４コマ）運動器(整形外科)の疾患の病因・病態と診断･治療
（常喜信彦／２コマ）腎・泌尿器の内科的疾患の病因・病態と診断･治療
（神谷直人／４コマ）腎・泌尿器の外科的疾患の病因・病態と診断･治療
（上芝　元／５コマ）内分泌の疾患の病因・病態と診断･治療
（高島明子／５コマ）性・生殖器(婦人科・産科)疾患の病因・病態と診断･治療

【３】　到達目標

＜運動器系疾患＞
1.主な疾患の病因・病態、症状と経過、疾患に伴う形態と機能の変化（機能障害）について説明できる。
2.主な検査と診断、治療の特徴と管理について説明できる。
3.疾患に伴う機能障害と患者の社会生活支援について論述できる。
＜腎・泌尿器系疾患＞
1.主な腎臓系疾患の症状・原因・進行機序・治療方法を説明することができる。
2.主な泌尿器・男性生殖器系疾患の症状・原因・進行機序・治療方法を説明することができる。
3.主として外科的治療の対象となる疾患３つについて、病因と病態、主な検査と診断について説明できる。
4.主な３つの疾患の手術療法の目的と術式の特徴、手術に伴う身体の形態・機能の変化について説明できる。
5.手術前・中・後の管理、日常生活への影響について要点を説明できる。
＜内分泌・代謝系疾患＞
1.主な疾患の病因と病態、症状と経過について説明できる。
2.主な検査と診断、治療の特徴と管理について説明できる。
3.疾患に伴う機能障害と患者の社会生活支援について論述できる。
＜小児疾患、先天性の疾患＞
1.小児に特有の主な疾患の病態、症状と経過について説明できる。
2.小児に特有の主な疾患の主な検査と診断、治療について説明できる。
3.小児疾患に伴う機能障害と患者の社会生活支援について論述できる。
＜性・生殖器(婦人科)疾患＞
1.子宮、卵巣を中心とした主な婦人科臓器疾患の概要について説明できる。
2.生殖の基礎と臨床を結び付けて説明できる。
3.婦人科臓器疾患における母性保護について考察したことを述べることができる。

【４】　ディプロマ・ポリシーとの関連

到達目標を達成することにより、以下の能力を身につけることにつながります。

１．自然科学を看護活動の根拠とし、実践に活かす基礎的な力を有している。

２．看護学の専門知識と技術を修得している。

【５】　授業計画

	項目	内容および授業方法 予習・復習・キーワード	担当教員
1	小児疾患の病因・病態と診断・治療（1）	【内容】 消化器疾患 【授業方法】 講義 （必ず教科書を持参してください） 【予習・復習】 講義内容について教科書の該当部分で予習・復習を行う。 キーワード：胃食道逆流症、炎症性腸疾患、急性乳幼児下痢症、腸重積症、胆道閉鎖症	本山　治
2	小児疾患の病因・病態と診断・治療（2）	【内容】 腎・泌尿器疾患 【授業方法】 講義 （必ず教科書を持参してください） 【予習・復習】 講義内容について教科書の該当部分で予習・復習を行う。 キーワード：溶連菌感染後急性糸球体腎炎、ネフローゼ症候群、先天性腎尿路異常、尿路感染症	本山　治
3	小児疾患の病因・病態と診断・治療(3)	【内容】代謝性疾患、内分泌疾患、アレルギー性疾患 【授業方法】講義（必ず教科書を持参してください） 【予習・復習】講義内容について教科書の該当部分で予習・復習を行う。 キーワード：１型糖尿病、成長ホルモン分泌不全性低身長症、食物アレルギー、気管支喘息	本山　治
4	小児疾患の病因・病態と診断・治療(4)	【内容】神経・精神疾患、悪性新生物（白血病） 【授業方法】講義（必ず教科書を持参してください） 【予習・復習】講義内容について教科書の該当部分で予習・復習を行う。 キーワード：けいれん性疾患、脳性麻痺、発達障害、白血病、神経芽腫、ウィルムス腫瘍	本山　治
5	小児疾患の病因・病態と診断・治療(5)	【内容】小児に特徴的な感染症（ウイルス性） 【授業方法】講義（必ず教科書を持参してください） 【予習・復習】講義内容について教科書の該当部分で予習・復習を行う。 キーワード：麻疹、風疹、突発性発疹症、伝染性紅斑、水痘、流行性耳下腺炎、伝染性単核球症	本山　治
6	小児疾患の病因・病態と診断・治療(6)	【内容】小児に特徴的な感染症（細菌性） 【授業方法】講義（必ず教科書を持参してください） 【予習・復習】講義内容について教科書の該当部分で予習・復習を行う。 キーワード：予防接種、百日咳、破傷風、溶血性連鎖球菌感染症、結核	本山　治
7	小児疾患の病因・病態と診断・治療(7)	【内容】先天性心疾患、新生児の疾患 【授業方法】講義（必ず教科書を持参してください） 【予習・復習】講義内容について教科書の該当部分で予習・復習を行う。 キーワード：心室中隔欠損症、心房中隔欠損症、右左短絡群、川崎病、新生児仮死、低出生体重児、呼吸窮迫症候群	本山　治
8・9	運動器系疾患(1)	【内容】関節疾患（変形性関節症、関節リウマチ、四肢・関節の外傷） 【授業方法】講義 【予習・復習】教科書における整形外科分野の該当部分で予習・復習を行う。 キーワード：関節、変形性関節症、リウマチ、外傷	中川晃一
10・11	運動器系疾患(2)	【内容】脊椎疾患（神経診察、変形性脊椎症、骨粗鬆症、脊椎外傷） 【授業方法】講義 【予習・復習】教科書における整形外科分野の予習30分・復習30分 キーワード：脊椎、変形性脊椎症、骨粗鬆症、神経診察	齊藤淳哉
12・13	腎・泌尿器の内科的疾患の病因・病態と診断・治療	【内容】腎臓の解剖と特徴的な機能、腎機能評価に必要な検査、急性腎臓病、慢性腎臓病、慢性糸球体腎炎・糖尿病性腎症・高血圧性腎硬化症に関してスライドを用いての座学. 【授業方法】講義 【予習・復習】教科書における内科分野の予習30分・復習30分. キーワード：蛋白尿、血尿、糸球体濾過量、急性腎臓病、慢性腎臓病	常喜信彦
14・15	腎・泌尿器の外科的疾患の病因・病態と診断・治療（1）	【内容】 ・腎泌尿器・男性生殖器疾患の症状と徴候 ・腎疾患の病態と治療 【授業方法】講義 【予習】「人体の構造と機能」など関連科目を復習して臨むこと。30分程度。 【復習】授業では主な疾患について画像なども含めて実地的な内容の学習を中心とする。授業中に配布する資料と国試の泌尿器科領域の過去問を復習すること。30分程度。 キーワード：腎泌尿器疾患、男性生殖器疾患、症状、検査、治療、日常生活への影響	神谷直人

16・17	腎・泌尿器の外科的疾患の病因・病態と診断・治療（2）	【内容】 ・泌尿器・男性生殖器系疾患の診断と治療 【授業方法】講義 【予習・復習】講義内容における腎・泌尿器外科分野の予習30分・復習30分程度 キーワード：腎臓がん、膀胱がん、前立腺がん、尿路結石症、尿路性器感染症、腎移植、手術	神谷直人
18・19	内分泌系疾患（1）	【内容】糖尿病の分類・合併症・糖尿病性昏睡・脂質異常症・高尿酸血症・メタボリックシンドローム 【授業方法】講義 【予習・復習】講義内容について教科書の該当箇所を読んでくること。 キーワード：1型糖尿病、2型糖尿病、三大合併症、糖尿病性昏睡、低血糖、高コレステロール血症、高尿酸血症、痛風、メタボリックシンドロームの定義	上芝元
20・21	内分泌系疾患（2）	【内容】・脂質異常症・高尿酸血症・メタボリックシンドローム・内分泌総論 【授業方法】講義 【予習・復習】講義内容について教科書の該当箇所を読んでくること。 キーワード：高コレステロール血症、高尿酸血症、痛風、メタボリックシンドロームの定義、ホルモンの種類	上芝元
22	内分泌系疾患（3）	【内容】下垂体、甲状腺、副甲状腺、副腎の疾患、ビタミン異常症 【授業方法】講義 【予習・復習】講義内容について教科書の該当箇所を読んでくること。 キーワード：下垂体前葉機能低下症、先端巨大症、甲状腺機能亢進症、甲状腺機能低下症、甲状腺癌、副甲状腺機能亢進症、副甲状腺機能低下症、クッシング症候群、アジソン病、原発性アルドステロン症、褐色細胞腫、ビタミン過剰症及び欠乏症	上芝元
23・24	女性生殖器疾患	【内容】婦人科疾患の臨床 ①子宮、卵巣に発生する良性疾患を学習する。②悪性疾患を学習する。 【授業方法】講義 【予習】講義予定項目を予め教科書で確認しておく。1時間程度 【復習】講義内容を整理し記録する。1.5時間程度 キーワード：子宮腫瘍　卵巣腫瘍　子宮がん　卵巣がん	高島明子
25・26	生殖の基礎と臨床	【内容】生殖の基礎と臨床 ①排卵の仕組み、受精の仕組みを学び着床、そして妊娠成立、分娩への流れを理解する。 【授業方法】講義 【予習】講義予定項目を予め教科書で確認しておく。1時間程度 【復習】講義内容を整理し記録する。1.5時間程度 キーワード：排卵　受精　着床　分娩	高島明子
27	婦人科疾患・妊娠の看護と母性保護	【内容】婦人科疾患、妊娠と看護 婦人科疾患と妊孕性の問題や妊娠中及び産褥期において看護が果たす役割について考える。 【授業方法】講義 【予習】講義予定項目を予め教科書で確認しておく。1時間程度 【復習】講義内容を整理し記録する。1.5時間程度 キーワード：看護の役割　母性への関わり	高島明子

【６】　事前・事後学習とその時間

【準備学習】
本授業は疾病学・治療学の基本的な知識を修得し看護実践の基盤とすることをねらっているため、関連内容について予習に1時間程度、復習に1.5時間程度を必要とする。
（本山　治）講義内容について教科書を用いて予習30分・復習30分を行う。
（常喜信彦）腎機能の評価に必要な、尿検査、血液検査、急性腎臓病、慢性腎臓病に関して予習30分・復習30分を行う。
（神谷直人）講義内容について教科書を用いて予習30分・復習30分を行う。
（上芝　元）講義内容について教科書を用いて予習30分・復習120分を行う。
（高島明子）授業内容は教科書を中心として行うが実際の現場で得た画像なども提示するので授業中の学習を中心とする。予習1時間程度、復習に1.5時間程度を費やします。
（中川晃一）講義内容について教科書を用いて予習30分・復習30分を行う。

【学習上の留意点】
（本山　治）成長・発達を含めた小児の特性を理解する。
人体の構造と機能を含めて、教科書や関連の書籍等で繰り返し学習することを勧める。
（中川晃一）運動器疾患は患者の活動性に影響を与え、看護や介護の必要性に大きく関わってくる。その点をよく念頭に置いて学習することが重要である。授業は関節疾患と脊椎疾患の２回に分けて行う。それぞれにつき、基本的な解剖をあらかじめ理解しておくことが必要となる。疾患はその病態により、外傷、変性疾患、炎症性疾患、代謝性疾患、腫瘍などに分類して理解するようにする。
（神谷直人）泌尿器科疾患は高齢化社会の到来とともに増加している。尿路・生殖器など比較的幅広い疾患を取り扱っているが、まず主な疾患に関する知識を学習し、疾患特異的な看護について理解するようにする。

【７】　評価方法・基準

定期試験　100％

【８】　フィードバック方法

特に正答率が低かった問題についてコメントする。

【９】　教科書

（本山　治）看護学テキストNiCE 疾病と治療論【14】小児疾患
（中川晃一・齊藤淳哉）看護学テキストNiCE 疾病と治療論【9】運動器疾患
（常喜信彦）看護学テキストNiCE 疾病と治療論【7】腎・泌尿器疾患
（神谷直人）看護学テキストNiCE 疾病と治療論【7】腎・泌尿器疾患
（上芝　元）看護学テキストNiCE 疾病と治療論【5】内分泌・代謝疾患
（高島明子）看護学テキストNiCE 疾病と治療論【13】産科婦人科疾患

【10】　参考書

（本山　治）医学書院「小児臨床看護各論　小児看護学２」
（中川晃一）必要に応じて授業内で紹介する　系統看護学講座　専門分野II 運動器（成人看護学10）
（神谷直人）授業時に関連文献を紹介する。
（高島明子）標準産婦人科学（医学書院）

【11】　備考(関連科目等)

人体の構造と機能Ⅰ～Ⅲ、疾病と治療Ⅰ・Ⅲ～Ⅴ
（本山　治）小児外科
（中川晃一）解剖生理学（骨筋系、神経系）
（神谷直人）人体の構造と機能
（高島明子）新生児学

科目名(日本語)	**疾病と治療Ⅳ**	必修・選択区分	授業形態	開講学期・学年	単位数
科目名(英語)	Pathophysiology and Treatment Ⅳ	必修	講義	秋学期 2年	2単位 30時間
科目責任者	片桐直之				
担当教員	片桐直之・小山文彦・林果林・本多満・清水直美・甲田賢一郎・瀧口千枝・笠間秀一・畑中佳子				
科目責任者 連絡先(教室)	原則として、質問はすべてMoodle上に掲載されるGoogleフォームから受け付ける。				
オフィスアワー	（片桐直之）健康科学部の教務事務へ連絡または講義終了後、講義室で10分程度まで質問を受け付ける。 （本多　満）健康科学部の教務事務へ連絡または講義終了後、講義室で10分程度まで質問を受け付ける。 （清水直美）健康科学部の教務事務へ連絡または講義終了後、10分程度まで質問を受け付ける。 （甲田賢一郎）健康科学部の教務事務へ連絡または講義終了後、講義室で10分程度まで質問を受け付ける。				

【１】　授業方法(ALの要素、ICTの活用等)

１－１．アクティブラーニングについて

実施する

１－２．アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素

ディスカッション、ディベート
グループワーク
プレゼンテーション

「その他」の内容

BLS演習

２－１．双方向授業でのＩＣＴの活用について

活用する

２－２．ＩＣＴを活用する場合、その具体的名称（クリッカー、タブレット端末等）

Moodle、Zoom

【２】　授業概要

疾患のなりたちを理解するうえで重要な基本的病変と生体防御機構について学ぶ。さらにこれらの基礎的事項を踏まえ、代表的疾患における病因・病態･診断･治療を理解する。疾病と治療Ⅳでは、精神の疾患、血液・免疫の疾患、感染症・中毒性の疾患、麻酔科学及び救急救命の病態と診断･治療、救急救命の技術と一次救急について学修し、知識の修得および実習にて実践することを目指す。

（小山文彦／２回）精神疾患の病因・病態と診断･治療
（林果　林／２回）精神疾患の病因・病態と診断･治療
（片桐直之／５回）精神疾患の病因・病態と診断･治療
（本多　満／７回）救急救命の病態と診断･治療、救急救命技術と一次救急の実践的方法
（本多　満／３回）感染症・中毒性疾患の病因・病態と診断･治療
（清水直美／４回）血液・免疫疾患の病因・病態と診断･治療
（甲田賢一郎／４回）麻酔科に関わる病態と診断･治療

【３】　到達目標

●精神疾患
1.精神を病むとはどういうことかを説明できる
2.精神機能の成立要素を関連づけて説明できる
3.精神症状について説明できる
4.精神科診療や診断のプロセスを説明できる
5.精神疾患／障害の診断と主な治療法を述べることができる
6.精神科リハビリテーションを具体的に説明できる
7.医療者と患者の関係性について説明できる。
●血液・免疫疾患
1.血液の基礎的用語を説明できる。
2.一般的な血液疾患の病態を具体的に説明できる。
3.輸血について具体的に述べることができる
4.血液の患者の看護で留意すべき点を説明できる。
●感染症・中毒性疾患
1.中毒物質の種類と治療の原則を述べることができる。
2.環境障害の種類と治療法を述べることができる。
3.災害医療と救急医療の違いを説明できる。
4.災害医療のCSCATTTを、教材を用いて実施できる。
5.日本の災害医療の実際と特徴について述べることができる。
6.パンデミック感染症と被ばく医療について考察したことを記述できる。
●麻酔科
1.麻酔方法の種類を３つ以上挙げ、それぞれの特徴や違いを説明できる。
2.全身麻酔に必要な４要素について説明できる。
3.周術期に起こりうるトラブルの診断と対処法について説明できる。
4.術後疼痛管理の方法や使用薬剤について説明できる。
5.周術期における体温調節について説明できる。
6.術後悪心・嘔吐の病態や危険因子、予防法や治療法について説明できる。
●救命救急
1.心肺停止の原因を理解し、その対応および治療法と治療法を説明できる。
2.外傷の種類と治療法を説明できる。
3.神経系の救急疾患とそのアプローチを説明できる。
4.ショックの定義とその病態を理解し、治療法を説明できる。
5.生体における侵襲と生体反応について説明できる。

【４】　ディプロマ・ポリシーとの関連

到達目標を達成することにより、以下の能力を身につけることにつながります。

１．自然科学を看護活動の根拠とし、実践に活かす基礎的な力を有している。

２．看護学の専門知識と技術を修得している。

【5】　授業計画

	項目	内容および授業方法 予習・復習・キーワード	担当教員
1・2	精神医学総論	【内容】 精神医療の対象とする領域 症状と検査法 治療一般 【授業形式】講義 予習・復習：教科書の内容には目を通し、授業終了後には配布された資料を再確認し、知識の習熟度を高める。 キーワード：異常と正常、意識、知覚、記憶、知能、言語、思考、感情、意思と行動、薬物療法、精神療法	小山文彦
3・4	精神疾患（1）	【内容】疾病/障害の概念と成因、特徴的な症状と診断法、治療を学ぶ ・神経発達障害 ・抑うつ障害群 ・双極性障害 【授業形式】講義 予習・復習：教科書の内容には目を通し、授業終了後には配布された資料を再確認し、知識の習熟度を高める。 キーワード：自閉症スペクトラム障害、注意欠如・多動性障害、知的障害、統合失調症、妄想性障害	林果林
5・6・7	精神疾患（2）	【内容】疾病/障害の概念と成因、特徴的な症状と診断法、治療を学ぶ ・総合失調症スペクトラム障害 ・パーソナリティ障害 【授業形式】講義 予習・復習：教科書の内容には目を通し、授業終了後には配布された資料を再確認し、知識の習熟度を高める。 キーワード：大うつ病性障害、双極Ⅰ型障害、双極Ⅱ型障害、気質、類型	片桐直之
8・9	精神疾患（3）	【内容】疾病/障害の概念と成因、特徴的な症状と診断法、治療を学ぶ ・不安障害 ・生理的障害 ・てんかん 【授業形式】講義 予習・復習：教科書の内容には目を通し、授業終了後には配布された資料を再確認し、知識の習熟度を高める。 キーワード：心因、個体側要因、環境要因、ストレス、睡眠障害、摂食障害、てんかん発作	片桐直之
10・11	臨床中毒学・環境障害	【内容】臨床における中毒および環境障害を学ぶ。 【授業形式】講義 予習・復習：事前に講義の概要を把握して、講義を受けて復習として講義の際に配布した資料を見ながら知識の定着を図り、かつ疑問点を見つける。疑問点に関しては次回の講義の際に質問を行うようにする。 キーワード：除洗・吸着・排出、薬物中毒、拮抗薬	本多満
12	災害医療	【内容】災害医療の特徴と実践を学ぶ。 【授業形式】講義 予習・復習：事前に講義の概要を把握して、講義を受けて復習として講義の際に配布した資料を見ながら知識の定着を図り、かつ疑問点を見つける。疑問点に関しては次回の講義の際に質問を行うようにする。 キーワード：CSCATTT、DMAT（災害派遣医療チーム）、トリアージ	本多満
13・14	救命救急に関わる病態と診断･治療（1）	内容】心肺停止の原因を理解し、その対応および治療法と治療法を修得する。 ・心肺停止の原因とその対応および治療法 ・心肺蘇生 ・救急心血管治療 【授業形式】演習 予習・復習：事前に講義の概要を把握して、講義を受けて復習として講義の際に配布した資料を見ながら知識の定着を図り、かつ疑問点を見つける。疑問点に関しては次回の講義の際に質問を行うようにする。 キーワード：救急救命の技術、一次救命処置の実践的方法	本多満 瀧口千枝 笠間秀一 畑中佳子
15・16	救命救急に関わる病態と診断･治療（2）	【内容】外傷の種類と治療法を修得する。 ・外傷の種類と治療法 ・外傷初期診療と熱傷 【授業形式】講義 予習・復習：事前に講義の概要を把握して、講義を受けて復習として講義の際に配布した資料を見ながら知識の定着を図り、かつ疑問点を見つける。疑問点に関しては次回の講義の際に質問を行うようにする。 キーワード：JATEC、JPTEC、外傷初療標準化	本多満

17・18	救命救急に関わる病態と診断･治療（３）	【内容】神経系の救急疾患とそのアプローチを修得する。 【授業形式】講義 予習・復習：事前に講義の概要を把握して、講義を受けて復習として講義の際に配布した資料を見ながら知識の定着を図り、かつ疑問点を見つける。疑問点に関しては次回の講義の際に質問を行うようにする。 キーワード：意識障害、痙攣、失神	本多満
19	救命救急に関わる病態と診断･治療（４）	【内容】ショックの定義とその病態を理解し、治療法を修得する。生体における侵襲と生体反応を理解する。 ・ショックの定義とその病態 ・敗血症の病態 ・ショックの治療法 ・生体における侵襲と生体反応 【授業形式】講義 予習・復習：事前に講義の概要を把握して、講義を受けて復習として講義の際に配布した資料を見ながら知識の定着を図り、かつ疑問点を見つける。疑問点に関しては次回の講義の際に質問を行うようにする。 キーワード：ショックの病態による分類、ショックの治療、臓器不全	本多満
20・21	血液疾患（１）	※Zoomによる遠隔授業 【内容】血液学の一般的な専門用語を理解する。輸血治療を理解する。 ・血液学基礎 ・輸血治療 【授業形式】講義にて行うが質疑応答方式をとる。 予習・復習：教科書の内容には目を通し、授業終了後には配布された資料を再確認し、知識の習熟度を高める。 授業後に学習課題を提示 キーワード：貧血　血液型	清水直美
22・23	血液疾患（２）	※Zoomによる遠隔授業 【内容】 白血病、悪性リンパ腫、多発性骨髄腫、骨髄移植他、血液一般疾患について 【授業形式】講義にて行うが質疑応答方式をとる。 予習・復習：教科書の内容には目を通し、授業終了後には配布された資料を再確認し、知識の習熟度を高める。 授業後に学習課題を提示 キーワード：血液悪性腫瘍とその治療	清水直美
24・25	麻酔科に関わる病態と診断･治療（１）	【内容】 全身麻酔の要素（鎮痛、鎮静、筋弛緩） 局所麻酔（脊髄くも膜下麻酔、硬膜外麻酔） 全身麻酔の流れ（術前評価、モニタリング、気道確保、導入、維持・抜管） 【授業形式】講義 予習・復習：授業の際に資料を配布するので、次回の授業までに復習する。 キーワード；全身麻酔、局所麻酔（脊髄くも膜下麻酔、硬膜外麻酔）、鎮痛・鎮静・筋弛緩、気管挿管、声門上器具、誤嚥、導入・維持・抜管	甲田賢一郎
26・27	麻酔科に関わる病態と診断･治療（２）	【内容・授業方法】 周術期の問題点（術後痛、異常体温、術後悪心・嘔吐、大量出血、異常血圧、アナフィラキシー、気道確保困難、術後せん妄、体位に伴う神経障害） 特殊な麻酔 【授業形式】講義 予習・復習：授業の際に配布した資料をもとに復習する。 キーワード；IV-PCA、悪性高熱症、シバリング、PONV、気道確保困難、術後せん妄、神経障害、高度肥満、帝王切開	甲田賢一郎

【６】　事前・事後学習とその時間

【準備学習】
・授業に際しては教科書をあらかじめ予習しておくこと。授業の際に資料としてプリントを配布するので復習の際にプリントと教科書の知識を整理して学習すること。
・教科書の内容を前もって目を通し、授業後配布されたスライド内容を復習し理解を深める。
・この授業では麻酔科医の視点から、周術期管理や周術期に起こりうるトラブルを扱う。そのため、麻酔方法の種類やその違いなど基本的事項について授業でも触れるが、事前に学習しておくことが望ましい（予習１時間程度）。実際に出題された麻酔科関連の看護師国家試験過去問題も参照しながら、授業を進める。授業の際に資料を配布するので、復習に重点を置いて、学習した方が良い（復習２時間程度）。
【学習上の留意点】
人体の構造と機能を含めて、教科書や関連の書籍等で繰り返し学習することを勧める。

【７】　評価方法・基準

定期試験80%、小テスト20%。

【８】　フィードバック方法

特に正答率が低かった問題についてコメントする。

【９】　教科書

（本多　満）　資料を講義の際に配布する。
（清水直美）　看護学テキストNiCE 病態・治療論【6】血液・造血器系　南江堂
（甲田賢一郎）資料を授業の際に配布する。

【10】　参考書

（片桐直之）　岩崎弥生、渡邉博幸 編：新体系 看護学全書　精神看護学2 精神障害をもつ人の看護　メヂカルフレンド社，東京，2016
（本多　満）　看護学テキストNiCE疾病・治療論【10】感染症／アレルギー／膠原病
（清水直美）　特になし
（甲田賢一郎）周術期管理チームテキスト第3版．日本麻酔科学会・周術期管理チーム委員会編．公益社団法人日本麻酔科学会 2016年発行．

【11】　備考(関連科目等)

心理学、行動科学、公衆衛生学、臨床腫瘍学、緩和ケア、救急救命

科目名(日本語)	**疾病と治療Ⅴ**	必修・選択区分	授業形態	開講学期・学年	単位数
科目名(英語)	Pathophysiology and Treatment Ⅴ	必修	講義	秋学期 2年	2単位 30時間
科目責任者	日高紀久江				
担当教員	日高紀久江・南木敏宏・小原令子・橋本りゅう也・磯部公一・髙浪太郎・ 大国生幸・吉澤定子・木内俊介・坂本　晋・磯部和順・三嶋崇靖・ 長澤潤平・高橋　寛・松田尚久・鷲沢尚宏・内野　泰				
科目責任者 連絡先(教室)	研究室K333 原則として、質問はすべてMoodle上に掲載されるGoogleフォームから受け付ける。				
オフィスアワー	（日高紀久江）授業終了後10分程度、講義室にて質問を受け付ける。 （南木敏宏）授業終了後10程度講義室にて質問を受け付ける。 （小原令子）授業終了後10分間程度講義室にて質問を受け付ける。 （橋本りゅう也）授業終了後10分間程度講義室にて質問を受け付ける。 （磯部公一）授業終了後10分間程度講義室にて質問を受け付ける。 （髙浪太郎）授業終了後10分間程度講義室にて質問を受け付ける。 （大国生幸）授業終了後10分間程度Zoomにて質問を受け付ける。 （吉澤定子）授業終了後10分間程度Zoomにて質問を受け付ける。 （木内俊介）授業終了後10分間程度講義室にて質問を受け付ける。 （坂本　晋）授業終了後10分間程度Zoomにて質問を受け付ける。 （磯部和順）授業終了後10分間程度講義室にて質問を受け付ける。 （三嶋崇靖）授業終了後10分間程度講義室にて質問を受け付ける。 （長澤潤平）授業終了後10分間程度講義室にて質問を受け付ける。 （高橋　寛）授業終了後10分間程度Zoomにて質問を受け付ける。 （松田尚久）授業終了後10分間程度講義室にて質問を受け付ける。 （鷲沢尚宏）授業終了後10分間程度講義室にて質問を受け付ける。 （内野　泰）授業終了後10分間程度講義室にて質問を受け付ける。				

【１】　授業方法(ALの要素、ICTの活用等)

１－１．アクティブラーニングについて

実施しない

１－２．アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素

２－１．双方向授業でのＩＣＴの活用について

活用する

２－２．ＩＣＴを活用する場合、その具体的名称（クリッカー、タブレット端末等）

Moodle

【２】　授業概要

疾患のなりたちを理解するうえで重要な基本的病変と生体防御機構について学ぶ。さらにこれらの基礎的事項を踏まえ、代表的疾患における病因・病態･診断･治療を理解する。疾病と治療Ⅴでは、リウマチ・アレルギー性の疾患、耳鼻咽頭科の疾患、眼科疾患、放射線治療、遺伝子治療、加齢に伴う身体機能の変化と特有の疾病について学修し、知識を修得する。また、疾病と治療Ⅰ～Ⅴで学んだ知識を看護学へトランスレーショナルすることを目的としている。

（日高紀久江／２コマ）疾病・治療の経過別看護。自己免疫疾患、アレルギー性疾患、耳・鼻・咽頭疾患、眼疾患、放射線治療、遺伝子治療時の看護

（南木敏宏／３コマ）リウマチ・膠原病などの自己免疫疾患､アレルギー性の疾患の病因・病態と診断・治療

（小原令子／２コマ）遺伝子情報に基づくがん個別化医療の現状

（橋本りゅう也／２コマ）眼疾患の病因・病態と診断･治療

（磯部公一／２コマ）放射線治療の方法と治療の実際

（髙浪太郎／３コマ）耳・鼻・咽頭疾患の病因・病態と診断･治療

（大国生幸・吉澤定子／２コマ）老年医学総論

（木内俊介／２コマ）高齢と循環器・心疾患系

（坂本　晋・磯部和順／２コマ）高齢と呼吸器系

（三嶋崇靖・長澤潤平／２コマ）高齢と脳神経系

（高橋　寛／２コマ）高齢と運動器系

（松田尚久・鷲沢尚宏・内野　泰／３コマ）高齢と消化器・栄養系・心身の虚弱

【3】　到達目標

1. 膠原病の病態、診断、治療の説明ができる。
2. アレルギー性疾患の病態、診断、治療の説明ができる。
3. 耳・鼻・咽喉頭・頸部の構造と機能を説明できる。
4. 耳・鼻・咽喉頭の主な疾患の病態と治療を説明できる。
5. 視機能検査を概説できる。
6. 前眼部疾患：①眼瞼・結膜・角膜・眼付属器の異常と治療を概説できる。②白内障の病態と手術的治療を具体的に説明できる。③緑内障の病因・病態を理解して治療について具体的に説明できる。
7. 眼底疾患：①ブドウ膜炎の病因・病態を理解して治療について説明できる。②網膜疾患の病因・病態を理解して診断と治療を説明できる。
8. 神経眼科の疾患についてその異常を説明できる。
9. 全身疾患と眼疾患の関係を説明できる。
10. がん診療における放射線治療の役割を理解し、説明することができる。
11. 放射線治療にかかわる有害事象を理解し、説明することができる。
12. 遺伝子情報に基づく個別化医療を概説出来る。
13. 遺伝カウンセリングの実際を概説できる。
14. リウマチの病態と治療のポイントが説明できる。
15. 主な膠原病の病態と治療のポイントが説明できる。
16. 主な耳鼻咽喉科疾患の病態と治療のポイントが説明できる。
17. 主な眼科疾患の病態と治療のポイントが説明できる。
18. 放射線治療の適応・方法・効果と治療に伴う問題が説明できる。
19. 遺伝子治療の適応・方法・効果と治療に伴う問題が説明できる。
20. 心身に対する老化・加齢による影響について説明できる。
21. 高齢者の循環器・心血管系疾患と治療の特徴について説明できる
22. 高齢者の呼吸系疾患と治療の特徴について説明できる。
23. 高齢者の脳神経系疾患と治療の特徴について説明できる。
24. 高齢者の運動器系疾患と治療の特徴について説明できる。
25. 高齢者の消化器・栄養系疾患と治療の特徴、心身の虚弱について説明できる。
26. 経過別にみた看護の特徴とポイントが説明できる。

【4】　ディプロマ・ポリシーとの関連

到達目標を達成することにより、以下の能力を身につけることにつながります。

1．自然科学を看護活動の根拠とし、実践に活かす基礎的な力を有している。

2．看護学の専門知識と技術を修得している。

【5】　授業計画

	項目	内容および授業方法 予習・復習・キーワード	担当教員
1・2	自己免疫疾患（1）	内容：関節リウマチ、全身性エリテマトーデス、多発性筋炎・皮膚筋炎、の病態、診断、治療 授業方法：講義 予習：1年次の全身性自己免疫疾患の講義を復習してくること。 復習：指定の教科書の膠原病/アレルギーの項も参照して復習をすること。 キーワード：関節リウマチ、全身性エリテマトーデス、多発性筋炎・皮膚筋炎	南木敏宏
3	自己免疫疾患（2）・アレルギー性疾患	容：強皮症、血管炎、シェーグレン症候群、その他の膠原病、及びアレルギー性疾患の病態、診断、治療 授業方法：講義 予習：1年次の全身性自己免疫疾患の講義を復習してくること。 復習：指定の教科書の膠原病/アレルギーの項も参照して復習をすること。 キーワード：強皮症、血管炎、シェーグレン症候群、アレルギー性疾患	南木敏宏
4・5	がんの個別化医療の実際	内容：本講義では、遺伝子情報に基づくがんの個別化医療とその中で実施される遺伝カウンセリングについて概説する。 授業方法：講義 予習・復習：掲示する講義資料を利用して予習・復習を行う キーワード：　がんの個別化医療、遺伝学的検査、がん遺伝子パネル検査、遺伝性腫瘍、遺伝カウンセリング	小原令子
6・7	眼疾患の病因・病態と診断・治療	内容：眼はきわめて微細な構造をして精密な機能を有する器官であることを認識し、眼科固有の疾患および他臓器と関連する眼疾患を理解する。なおとくに眼科においては、一般的な眼科的検査や各種の視機能検査も特殊性があり、これらについても理解する。 授業方法：授業方法は講義をもって行う。 予習・復習：本科目を受講するに当たり眼の構造と機能について十分な知識を習得しておくこと。 キーワード：眼疾患、眼科的検査、視機能検査	橋本りゅう也
8・9	放射線治療の方法と治療の実際	内容：講義で放射線治療の実際について概説する 授業方法：講義 予習：教科書の該当部分の内容を把握する 復習：授業内で提示する キーワード：放射線治療、がん診療、腫瘍学	磯部公一
10	耳鼻咽頭科疾患の病因・病態と診断･治療（1）	内容：耳と咽頭の解剖と機能ついて概説し、実際に外来や病棟で接する機会の多い主な疾患について講義を行い、理解を深めてもらう。 授業方法：講義 予習：耳と咽頭の解剖と機能、主な疾患の把握 復習：企業内で提示する。 キーワード：耳・咽頭	松島康二
11	耳鼻咽頭科疾患の病因・病態と診断･治療（2）	内容：耳・鼻の構造と機能、主な疾患について概説する。一般に耳鼻（咽喉）科というと「耳と鼻」をイメージすると思われる。本講では耳と鼻の構造と機能と実際に外来や病棟で接する機会の多い主な疾患について解説し、理解を深めてもらう。 授業方法：講義 予習：耳・鼻構造と機能、主な疾患の把握 復習：授業内で提示する キーワード：耳・鼻	長舩大士
12	耳鼻咽頭科疾患の病因・病態と診断･治療（3）	内容：頭頸部の構造と機能、めまいの構造について概説する。耳鼻（咽喉）科といった場合、「めまい」を連想することはあっても「頭頸部（腫瘍）」をイメージすることは多くないと思われる。本講では「めまい」のしくみや疾患、ならびに咽喉頭の構造、機能と疾患について解説し、理解を深めてもらう。 授業方法：講義 予習：頭頸部の構造と機能、めまいの構造の把握 復習：授業内で提示する キーワード：頭頸部、頭頸部腫瘍、めまい、前庭	長舩大士
13	老年医学総論（1）	※Zoomによる遠隔授業 内容：老年医学総論について概説する 授業方法：講義 予習：教科書の該当部分の内容を把握する 復習：授業内で提示する キーワード：老化・加齢による身体への影響、老年症候群、高齢者の診療	大国生幸
14	老年医学総論（２）	※Zoomによる遠隔授業 内容：老年医学総論について概説する 授業方法：講義 予習：教科書の該当部分の内容を把握する 復習：授業内で提示する キーワード：老化・加齢による検査値への影響、高齢者の検査総論	吉澤定子
15・16	齢と循環器・心血管系	内容：高齢者の循環器・心血管系疾患の特徴について概説する 授業方法：講義 予習：教科書の該当部分の内容を把握する 復習：授業内で提示する キーワード：心不全・高血圧、末梢血管系疾患	木内俊介

19	高齢と呼吸器系（1）	※Zoomによる遠隔授業 内容：高齢者の呼吸器系疾患(間質性肺炎、誤嚥性肺炎（介護関連肺炎）等）と治療の特徴について概説する 授業方法：講義 予習：教科書の該当部分の内容を把握する 復習：授業内で提示する キーワード：嚥下性肺炎、間質性肺炎	坂本晋
18	高齢と呼吸器系（２）	内容：高齢者の呼吸器系疾患（肺癌 等）と治療の特徴について概説する 授業方法：講義 予習：教科書の該当部分の内容を把握する 復習：授業内で提示する キーワード：肺がん	磯部和順
19	高齢と脳神経系（1）	内容：高齢者の脳神経系疾患と治療の特徴について概説する 授業方法：講義 予習：教科書の該当部分の内容を把握する 復習：授業内で提示する キーワード：認知症、せん妄、パーキンソン病、脳梗塞	三嶋崇靖
20	高齢と脳神経系（２）	内容：高齢者の脳神経系疾患と治療の特徴について概説する 授業方法：講義 予習：教科書の該当部分の内容を把握する 復習：授業内で提示する キーワード：認知症、せん妄、パーキンソン病、脳梗塞	三嶋崇靖
21・22	高齢と運動器系	※Zoomによる遠隔授業 内容：高齢者の運動器系疾患と治療の特徴について概説する 授業方法：講義 予習：教科書の該当部分の内容を把握する 復習：授業内で提示する キーワード：骨粗鬆症、サルコペニア、ロコモティブシンドローム	高橋寛
23	高齢と消化器・栄養系　心身の虚弱（1）	内容：高齢者の消化器・栄養系疾患と治療の特徴、心身の虚弱について概説する 授業方法：講義 予習：教科書の該当部分の内容を把握する 復習：授業内で提示する キーワード：食欲不振・体重減少、低栄養、嚥下障害、フレイル、老衰	松田尚久
24	高齢と消化器・栄養系　心身の虚弱（2）	内容：高齢者の消化器・栄養系疾患と治療の特徴、心身の虚弱について概説する 授業方法：講義 予習：教科書の該当部分の内容を把握する 復習：授業内で提示する キーワード：食欲不振・体重減少、低栄養、嚥下障害、フレイル、老衰	鷲沢尚宏
25	高齢と消化器・栄養系　心身の虚弱（３）	内容：高齢者のメタボリズム・栄養系疾患と治療の特徴、心身の虚弱について概説する 授業方法：講義 予習：教科書の該当部分の内容を把握する 復習：授業内で提示する キーワード：食欲不振・体重減少、低栄養、嚥下障害、フレイル、老衰	内野泰
26・27	自己免疫疾患、アレルギー性疾患、耳・鼻・咽頭疾患、眼疾患、放射線治療、遺伝子治療時の看護	内容：疾病と治療Ⅰ～Ⅴで学んだ知識の看護へのトランスレーショナルを目的として、経過別看護の理解を深める。 膠原病・耳鼻咽喉科・眼科・放射線治療・遺伝子治療と看護のポイント 授業方法：講義・グループワーク 予習：これまでの講義からそれぞれに必要な看護をまとめる 復習：疾病経過と看護のポイントについてまとめる キーワード：疾患別看護、療法看護、倫理的課題	日高紀久江

【６】　事前・事後学習とその時間

〔準備学習（予習・復習）〕

予習１時間程度、復習１時間程度を要します。講義の参加に際しては、これまでに学修した各講義に関連する箇所の解剖学、生理学、病理学などの基礎知識について復習するとともに、事前に教科書に目を通して学習内容を把握するようにしてください。復習は、学習内容をふり返り、追加学修の上、知識の定着を図ってください。

〔学習上の留意点〕

この科目では、膠原病、耳鼻咽喉科疾患、眼科疾患、放射線治療、遺伝子治療、加齢に伴う身体機能の変化と特有の疾病など患者のQOLに深く関わる疾患とその治療、看護について学修します。短時間で広範囲の講義内容が含まれますので、事前に講義で扱う部分の構造と機能、病理学などの基礎知識について十分な知識を習得しておくことが前提となります。これまでの学修内容や、指定された教科書、資料を用いて予習復習を十分に行ってください。

【７】　評価方法・基準

定期試験80%、小テスト（授業内、Moodleで実施）20%

【８】　フィードバック方法

特に正答率が低かった問題についてコメントする。

【９】　教科書

（日高紀久江）資料提示する。
（南木敏宏）看護学テキストNiCE 疾病・治療論【10】感染症／アレルギー／膠原病
（小原令子）資料を授業の時に配布する。
（橋本りゅう也）資料を授業の時に配布する。
（磯部公一）看護学テキストNiCE 疾病・治療論【1】病態・治療総論
（髙浪太郎）看護学テキストNiCE 疾病・治療論【11】皮膚／耳鼻咽喉／眼／歯・口腔疾患
（大国生幸）系統看護学講座専門分野Ⅱ　老年看護　病態・疾患論　医学書院
資料をMoodleで閲覧するようにする。教科書や資料を用いて予習復習を行ってください。
（吉澤定子）系統看護学講座専門分野Ⅱ　老年看護　病態・疾患論　医学書院
（木内俊介）系統看護学講座専門分野Ⅱ　老年看護　病態・疾患論　医学書院
（坂本　晋）系統看護学講座専門分野Ⅱ　老年看護　病態・疾患論　医学書院
（磯部和順）系統看護学講座専門分野Ⅱ　老年看護　病態・疾患論　医学書院
（三嶋崇靖）系統看護学講座専門分野Ⅱ　老年看護　病態・疾患論　医学書院
（長澤潤平）系統看護学講座専門分野Ⅱ　老年看護　病態・疾患論　医学書院
（高橋　寛）系統看護学講座専門分野Ⅱ　老年看護　病態・疾患論　医学書院
（松田尚久）系統看護学講座専門分野Ⅱ　老年看護　病態・疾患論　医学書院
（鷲沢尚宏）系統看護学講座専門分野Ⅱ　老年看護　病態・疾患論　医学書院
（内野　泰）系統看護学講座専門分野Ⅱ　老年看護　病態・疾患論　医学書院

【10】　参考書

（橋本りゅう也）
1)「ベッドサイドの眼科学」、植村編、南山堂、
2)「イラスト眼科」、渡辺他著、文光堂、
3)「ポケット眼底アトラス」、松井編、中外医学社
（磯部公一）
1）系統看護学講座　別巻　臨床放射線医学　（医学書院）
（髙浪太郎）
1)「新耳鼻咽喉科学」、切替一郎、野村恭也　編、南山堂

【11】　備考(関連科目等)

腫瘍学、人体の構造と機能Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、生化学、臨床栄養学、微生物学、疾病と治療Ⅰ～Ⅳ、薬理学、薬剤学、臨床遺伝学、臨床看護学概論

科目名(日本語)	**薬剤学**	必修・選択区分	授業形態	開講学期・学年	単位数
科目名(英語)	Pharmaceutical Sciences	必修	講義	春学期 2年	1単位 15時間
科目責任者	野口修治				
担当教員	野口修治・藤枝正輝				
科目責任者 連絡先(教室)	野口：薬学部薬剤学教室（薬学部C館C712）、shuuji.noguchi@phar.toho-u.ac.jp 藤枝：薬学部社会薬学研究室（薬学部C館C507）、masaki.fujieda@phar.toho-u.ac.jp				
オフィスアワー	講義終了後に質問を受け付ける。メールでの質問も受け付ける。 オフィスアワー　野口　科目開講日の13:00-16:00 オフィスアワー　藤枝　科目開講日翌日の13:00-15:00				

【１】　授業方法(ALの要素、ICTの活用等)

１－１．アクティブラーニングについて

実施する

１－２．アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素

その他

「その他」の内容

Moodleを利用した小テスト

２－１．双方向授業でのＩＣＴの活用について

活用する

２－２．ＩＣＴを活用する場合、その具体的名称（クリッカー、タブレット端末等）

Moodle

【２】　授業概要

薬物が人体に適切かつ有効に作用するためには、その目的に合った形状と機能を満たす“製剤”にする必要がある。そこで本科目では、固形剤、半固形剤、液剤などの剤形とその特徴について学び、薬物療法の有効性，安全性，信頼性の根拠となることを理解する。また、薬害問題や治験などを学び、最適な薬物療法と患者のQOLについて考える契機とする。
なお、本科目は地域における治療・服薬支援といった地域・公衆衛生看護活動の学修につながる科目である。

【３】　到達目標

1.代表的な固形製剤の特徴について説明できる。
2.代表的な液状製剤と半固形製剤の特徴について説明できる。
3.代表的な投与経路と剤形との関係について説明できる。
4.代表的なDDS技術について1つ以上説明できる。
5.薬害の定義について説明できる。
6.代表的な薬害の具体例を2つ以上説明できる。
7.薬害防止対策について2つ以上説明できる。
8.医薬品開発の2段階（非臨床試験、臨床試験）について説明できる。
9.治験を含む臨床研究など、人間を被験者とする医学系研究に係る倫理規範の変遷について3つのキーワードを用いて説明できる。
10.後発医薬品（ジェネリック医薬品）の社会的意義について2つ以上説明できる。
11.後発医薬品（ジェネリック医薬品）と先発医薬品の違いについて2つ以上説明できる。

【４】　ディプロマ・ポリシーとの関連

到達目標を達成することにより、以下の能力を身につけることにつながります。

１．自然科学を看護活動の根拠とし、実践に活かす基礎的な力を有している。

２．看護学の専門知識と技術を修得している。

【5】　授業計画

	項目	内容および授業方法 予習・復習・キーワード	担当教員
1,2,3	製剤(1)	内容：薬物の固体物性、代表的な製剤（1） 授業方法：講義 予習：事前にMoodleに掲載された講義資料に目を通し、印刷して持参するか電子媒体に記入できる状態として、講義に臨むこと。 復習：小テストを受験する。 キーワード： 製剤化、溶解、結晶、粉体、錠剤、カプセル剤、散剤、顆粒剤	野口　修治
4,5	製剤(2)	内容：薬物溶液・乳液・懸濁液の物性、代表的な製剤（2） 授業方法：講義 予習：事前にMoodleに掲載された講義資料に目を通し、印刷して持参するか電子媒体に記入できる状態として、講義に臨むこと。 復習：小テストを受験する。 キーワード：乳剤、懸濁剤、半固形製剤、粘膜・皮膚に適用する製剤、注射剤	野口　修治
6,7	製剤(3)	内容：ドラッグデリバリーシステム 授業方法：講義 予習：事前にMoodleに掲載された講義資料に目を通し、印刷して持参するか電子媒体に記入できる状態として、講義に臨むこと。 復習：小テストを受験する。 キーワード：経皮吸収治療システム	野口　修治
8,9	薬害	内容：薬害の定義と代表的な薬害例の原因・薬害防止対策 授業方法：講義 予習：事前にMoodleに掲載された講義資料に目を通し、印刷して持参するか電子媒体に記入できる状態として、講義に臨むこと。 復習：小テストを受験する。 キーワード：副作用、健康被害、社会問題化、瑕疵と不作為	藤枝　正輝
10,11	新薬の開発	内容：医薬品（新薬）が世に出るまで 授業方法：講義 予習：事前にMoodleに掲載された講義資料に目を通し、印刷して持参するか電子媒体に記入できる状態として、講義に臨むこと。 復習：小テストを受験する。 キーワード：非臨床試験、臨床試験、治験、治験審査委員会	藤枝　正輝
12,13	治験	内容：人間を被験者とする医学系研究に係る倫理規範 授業方法：講義 予習：事前にMoodleに掲載された講義資料に目を通し、印刷して持参するか電子媒体に記入できる状態として、講義に臨むこと。 復習：小テストを受験する。 キーワード：ニュールンベルク綱領、ヘルシンキ宣言、患者の権利、インフォームドコンセント	藤枝　正輝
14	後発医薬品（ジェネリック医薬品）	内容：後発医薬品（ジェネリック医薬品）の意義と課題 授業方法：講義 予習：事前にMoodleに掲載された講義資料に目を通し、印刷して持参するか電子媒体に記入できる状態として、講義に臨むこと。 復習：小テストを受験する。 キーワード：生物学的同等性、薬価、国民医療費	藤枝　正輝

【6】　事前・事後学習とその時間

シラバスに記載した項目を確認しておくこと。また、事前にMoodleに掲載された講義資料で予習し、専門用語等の意味を理解しておくこと。この授業は薬物療法について幅広く理解するよう構成しているため、予習30分程度、復習30分程度が必要とされる。
毎回の授業終了時（授業中）に、学習内容の振り返りや復習を目的に小テストを実施する。
授業で得た知識をもって医薬品に関わる社会的事柄を自ら考え、看護師として求められる知識・技能・態度の修得に向けて意識を高めること。

【7】　評価方法・基準

定期試験（70%）、小テスト（30%）

【8】　フィードバック方法

授業中に実施した小テストは、次回の授業で返却し、解答ならびに課題の中の特徴的な見解についてコメントする。

【9】　教科書

講義資料（ハンドアウト）をMoodleに掲載する。

【10】　参考書

なし

【11】　備考(関連科目等)

薬理学、微生物学、生化学、看護の基本技術4

科目名(日本語)	リハビリテーション論	必修・選択区分	授業形態	開講学期・学年	単位数
科目名(英語)	Rehabilitation	必修	講義	春学期 2年	1単位 15時間
科目責任者	菅原仁				
担当教員	菅原仁				
科目責任者 連絡先(教室)	E-mail：hitoshi.sugawara@hs.toho-u.ac.jp				
オフィスアワー	授業開始前（30分程度）に非常勤講師室、あるいはE-mail（科目責任者連絡先参照）での質問も随時受付します。				

【１】　授業方法(ALの要素、ICTの活用等)

１－１．アクティブラーニングについて

実施する

１－２．アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素

ＰＢＬ（課題解決型学習）
反転授業
ディスカッション、ディベート

「その他」の内容

事前に提示する動画視聴を行い、疾患・障害の理解を深めた上で講義に出席する。動画視聴に関係したケースを提示し、個人・グループでケースの問題点を国際生活機能分類（ICF）を使い構造化し、ゴールの抽出・整理を行う。

２－１．双方向授業でのＩＣＴの活用について

活用しない

【２】　授業概要

疾患や外傷により身体機能に障害が起こると、生活行動のみならず、人間関係や社会参加などにも制約が及ぶ。障害を持つ人がその人らしく自律して生きていくことを支援する具体的な方法として、理学療法、作業療法、言語療法を学び、疾病の治療のみでなく対象の生活を全体として捉えサポートする視点を養う。
なお、本科目は公衆衛生看護活動における機能回復のための支援や重症化予防に向けた基礎的知識を獲得する科目である。

【３】　到達目標

1. リハビリテーションの理念を説明できる。
2. リハビリテーション専門職の役割と独自性を説明できる。
3. リハビリテーション医療の専門用語を説明できる。
4. 身体機能障害が日常生活に及ぼす影響について説明できる。
5. 国際生活機能分類を説明できる。
6. 障害者福祉変遷の大きな変革を説明できる。
7. リハビリテーションのチーム活動と役割について説明できる。
8. リハビリテーション評価について説明できる。
9. 疾患、障害を理解し、個々のケースに合った問題点を国際生活機能分類で構造化できる。
10. 疾患、障害に合わせたリハビリテーション計画を立案できる。

【４】　ディプロマ・ポリシーとの関連

到達目標を達成することにより、以下の能力を身につけることにつながります。

１．自然科学を看護活動の根拠とし、実践に活かす基礎的な力を有している。

２．看護学の専門知識と技術を修得している。

３．他者の多様な価値観を理解し、尊重することができる。

４．看護職の社会的責任を理解し、看護実践にまつわる倫理的課題を感受する力と熟考する力、それらに基づく判断を行動に表す力を身につけている。

５．看護専門職として、リーダーシップおよびフォロワーシップを発揮し、チームの中で有機的に活動する資質を身につけている。

【５】　授業計画

	項目	内容および授業方法 予習・復習・キーワード	担当教員
１・２回	リハビリテーション概論 リハビリテーション理論(1)	内容：リハビリテーションの定義と理念・リハビリテーションの対象と制度、関連職種の役割 授業方法：講義 予習：ノーマライゼーションの意義を理解する。教科書の2から6ページを読む。 復習：ケースを提示するので、関連職種の役割を示す。 キーワード：ノーマライゼーション	菅原　　仁
３・４回	ICIDHとICF リハビリテーション理論(2)	内容：生活機能の分類・構造、リハビリテーションにおける障害の評価、医学的リハビリテーションの過程 授業方法：講義、課題学習（ケーススタディ）、ディスカッション 予習：提示した動画（ICF）を視聴する。 復習：ケースを提示するので、ICFを使って構造化する。 キーワード：ICIDH、ICF、障害の評価、評価手法、アセスメント、計画・実施	菅原　　仁
５・６回	リハビリテーション方法論(1)	内容：運動器系障害のリハビリテーション 授業方法：講義、課題学習（ケーススタディ） 予習：大腿骨頚部骨折、変形性関節症の疾患・障害を調べる。 復習：運動器系障害のケースを提示するので問題点を整理する。 キーワード：運動器の構造と機能、大腿骨頚部内側、外側骨折、変形性関節症、人工関節	菅原　　仁
７・８回	リハビリテーション方法論(2)	内容：運動器系障害の痛みと栄養障害のリハビリテーション 授業方法：講義、ディベート 予習：提示した動画（リハ栄養）を視聴する。 復習：痛みへのアプローチ方法について整理する。 キーワード：炎症メディエーター、感作	菅原　　仁
９・10回	リハビリテーション方法論(3)	内容：中枢神経障害のリハビリテーション　～運動麻痺を考える～ 授業方法：講義、課題学習（ケーススタディ） 予習：脳梗塞、脳出血の分類を調べる。 復習：中枢神経系障害のケースを提示するので問題点を整理する。 キーワード：中枢神経系の構造と機能	菅原　　仁
11・12回	リハビリテーション方法論(4)	内容：中枢神経障害のリハビリテーション　～高次脳機能障害と嚥下障害を考える～ 授業方法：講義、ディベート 予習：大脳皮質の区分（前頭葉、頭頂葉、側頭葉、後頭葉、島皮質、辺縁葉）を調べる。 復習：高次脳機能障害における問題点を整理する。 キーワード：高次脳機能障害	菅原　　仁
13・14回	リハビリテーション方法論(5)	内容：呼吸・循環器障害のリハビリテーション 授業方法：講義、課題学習（ケーススタディ） 予習：閉塞性、拘束性肺障害の違い、虚血性心疾患の病態を調べる 復習：呼吸器系障害のケースを提示するので問題点を整理する。 キーワード：呼吸・循環器系の構造と機能、COPD、心不全	菅原　　仁

【６】　事前・事後学習とその時間

リハビリーション医療の理解には、疾病の理解をはじめ介護・福祉領域の知識が必要となるため、ケースを用いた臨床場面を想定した学習とする。そのため、ケースについて必要な知識の学習が必須であり、事前学習（動画視聴含む）について指示する。また、講義で学んだことを使える知識にするために復習も必要となる（予習・復習を合わせて１時間が必要となる）。授業のはじめに前回内容に係る小テストを実施するため、講義資料に基づき復習をすること。

【７】　評価方法・基準

課題提出（ワークシート）25%、小テスト25%、定期試験50%
毎回の講義内で課題提出がありますのでしっかり取り組んでください。小テストは2回実施予定です。事前にアナウンスをします。

【８】　フィードバック方法

提出課題（ワークシート）のフィードバックを次回講義内で行います。

【９】　教科書

原三紀子：リハビリテーション看護第7版（系統看護学講座別巻），医学書院

【10】　参考書

奥宮暁子他：リハビリテーション看護 第4版,メディカ出版

【11】　備考(関連科目等)

「人体の構造と機能」「疾病と治療」「臨床心理学」「機能障害のある患者の看護」、看護学の臨地実習科目へ

科目名(日本語)	**保健医療福祉行政論**	必修・選択区分	授業形態	開講学期・学年	単位数
科目名(英語)	Health Care and Welfare System	必修	講義	秋学期 2年	2単位 30時間
科目責任者	結城康博				
担当教員	結城康博・河村秋				
科目責任者 連絡先(教室)	yy1969@za2.so-net.ne.jp（結城）　a-kawamura@wayo.ac.jp（河村）				
オフィスアワー	11月5日（水）～12月17日（水）授業終了後、10分程度、非常勤講師室で質問対応する。それ以外、何か問い合わせがあればメールでやりとりする。				

【１】　授業方法(ALの要素、ICTの活用等)

１－１．アクティブラーニングについて

実施する

１－２．アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素

ディスカッション、ディベート
グループワーク

２－１．双方向授業でのＩＣＴの活用について

活用しない

【２】　授業概要

保健医療福祉行政・財政の理念と仕組み、地域における健康課題の解決に必要な社会資源の開発、保健医療福祉サービスの評価及び調整方法について基本的な知識を学ぶ。そして、地方公共団体の保健医療福祉行政の計画策定・実行・評価のサイクルについての基本的知識を学び、公衆衛生行政の各分野における保健師の役割及び活動方法について考察する。

【３】　到達目標

1. 社会情勢の変化と保健医療福祉行政の考え方の変遷について述べることができる。
2. 社会福祉の概念について述べることができる。
3. 保健医療福祉行政の理念としくみについての概略を説明できる。
4. 保健医療福祉の各役割と機能および相互の連携について説明できる。
5. 国の保健医療福祉制度の概略について説明できる。
6. 地方自治体における保健医療福祉制度の概略について説明できる。
7. 保健医療福祉サービスを提供する関係機関、関連職種について説明することができる。
8. 保健医療福祉行政の現状および今後の課題について検討し、述べ、論述することができる。
9. 公衆衛生行政の各分野における保健師の役割、地域での活動方法について検討し、述べることができる。

【４】　ディプロマ・ポリシーとの関連

到達目標を達成することにより、以下の能力を身につけることにつながります。

１．自然科学を看護活動の根拠とし、実践に活かす基礎的な力を有している。

２．看護学の専門知識と技術を修得している。

３．他者の多様な価値観を理解し、尊重することができる。

４．看護職の社会的責任を理解し、看護実践にまつわる倫理的課題を感受する力と熟考する力、それらに基づく判断を行動に表す力を身につけている。

５．看護専門職として、リーダーシップおよびフォロワーシップを発揮し、チームの中で有機的に活動する資質を身につけている。

【５】　授業計画

	項目	内容および授業方法 予習・復習・キーワード	担当教員
1～2回	保健医療福祉行政の分野と制度　1	「社会保障制度」および当単元の既習学習、臨床実習を踏まえて検討する 講義・グループワーク・発表 予習：臨床実習を踏まえて保健医療福祉施設に関して整理しておく 復習：テキスト「 第１章：介護保険・高齢者福祉とは」部分を一読しておく キーワード：社会保険、高齢者福祉、保健制度、自治体	結城康博
3～5回	保健医療福祉行政の分野と制度　2	地方自治体の計画決定・計画の推進と管理・評価 講義 予習：授業で指定された資料を調べておく 復習：テキストの「第２章　介護保険課①～認定業務、事業計画、保険料など～」、「第３章　介護保険課②事業者の指定、実地指導、監査」部分を一読する キーワード：計画決定過程、審議会の役割、情報公開とアカウンタビリティ、パブリックコメント、政策の計画化と管理、評価の推進体制、地域診断、評価指標と計画目標値、政策評価、経済的評価	結城康博
６～７回	保健医療福祉の計画と評価1	地方公共団体の保健医療計画の目的と種類・基本構想と保健医療福祉計画の関連 講義 予習：法律の条文に目を通しておく 復習：資料を一読する キーワード：行政計画と基本構想、都道府県計画と市町村計画	河村秋
８～10回	国際的な活動―健康をめぐる理念と国際機関　1	公衆衛生に関する国際的な活動の理念・国際連合とWHOの役割 講義 予習：授業で指定された資料を調べておく 復習：資料を一読する キーワード：プライマリヘルスケア、ヘルスプロモーション、WHO、保健医療分野の国際協力、ODA	河村秋
11回	保健医療福祉の計画と評価２	地方公共団体の保健医療計画の目的と種類・基本構想と保健医療福祉計画の関連 講義 予習：法律の条文に目を通しておく 復習：テキストの「第２章　介護保険課①～認定業務、事業計画、保険料など～」、「第３章　介護保険課②事業者の指定、実地指導、監査」部分を一読する キーワード：行政計画と基本構想、都道府県計画と市町村計画	結城康博
12～13回	保健医療福祉行政における法律　1	高齢者保健医療福祉対策・障害者保健医療福祉対策・精神保健医療福祉対策・感染症対策・医療政策の変遷 講義 予習：事前に統計データに目を通しておく 復習：テキスト「第11章　知っておくべき根拠法令と用語の解説」を一読する キーワード：障害者総合支援法　精神保健法　医療・保健・福祉との連携	結城康博
14～15回	保健医療福祉行政・財政の理念と仕組み　1	保健医療福祉行政の概要・保健医療福祉の財政・国と地方公共団体の行政の仕組み、国と地方公共団体の財政の仕組み 講義 予習：指定の教科書部分を読んでおく 復習：テキストの「第10章　議員からみた高齢者福祉・介護部門」部分を一読する キーワード：地方自治と地方分権、情報公開と個人情報保護、予算の機能と原則、社会保障の給付と財源	結城康博
16～17回	我が国における地域保健活動　1	地域保健の体系・市町村と都道府県の役割分担と体制整備　保健所の役割と機能強化・政令指定都市保健所制度の推進 講義 予習：授業で指定された資料を調べておく復習：資料を一読する キーワード：地域保健法と地方自治、都道府県、保健所、市町村保健センター、保健行政機構、地域保健活動を展開する機関の種類と役割、行政・学校・職域の連携	河村秋
18～19回	保健医療福祉行政の分野と制度　3	社会保障の理念と仕組み・公衆衛生行政の分野 講義 予習：授業で指定された資料を調べておく 復習：資料を一読する キーワード：社会保障の理念、健康格差と社会保障、一般衛生行政、産業保健行政、環境保健行政、学校保健行政	河村秋
20回	保健医療福祉施策を展開していく上での看護職の役割1	「社会保障制度」および当単元の既習学習を踏まえて検討する 講義・グループワーク・発表 予習：授業で指定された資料を調べておく 復習：保健医療福祉行政の現状および今後の課題についてレポートする。 キーワード：福祉、公衆衛生行政、保健師の役割(看護職の役割)、社会保障制度など各種制度	河村秋

21回	保健医療福祉施策の展開と課題―地域保健活動　1	既習学習を踏まえて、我が国の保健医療福祉施策（地域保健活動）の展開・そのあり方について検討する。 講義・グループワーク・発表 予習：授業で指定された資料を調べておく 復習：資料を一読する キーワード：福祉、公衆衛生行政、健康増進、地域における看護職（保健師、訪問看護師、コミュニティナース）社会保障制度、連携	河村秋
22～23回	我が国における施策の充実と発展―地域保健法・健康増進法　1	地域保健法の制定と地域保健対策、健康増進法と健康なまちづくり 講義 予習：地域保健法および健康増進法の条文に目を通しておく 復習：資料を一読する キーワード：健康日本21、母子保健、成人保健、高齢者保健、虐待防止対策、障害者（児）・難病支援	河村秋
24～25回	社会情勢の変化と保健医療福祉行政の考え方の変遷 1	社会的背景と生活支援、社会福祉の理念・概念、公衆衛生政策の基盤形成、諸外国における公衆衛生施策の変遷 講義 予習：社会の動きに目を向け、保健医療福祉行政に関する情報収集をする 復習：テキスト「第7章　地域包括ケアシステムの実現に向けた地域包括支援センターの役割」部分を一読する キーワード：社会的背景、生活支援、社会福祉の理念・概念、社会事業	結城康博
26～27回	社会情勢の変化と保健医療福祉行政の考え方の変遷 2	社会保障制度および当単元の既習学習を踏まえて検討する 講義・グループワーク・発表 予習：授業で指定された資料を調べておく 復習：テキストの「第6章　　高齢者の生きがい対策・在宅福祉サービスと地域福祉」部分を一読する キーワード：福祉、公衆衛生行政、保健師の役割、社会保障制度など各種制	結城康博

【６】　事前・事後学習とその時間

準備学習：新聞、TV、Web上 等のマスコミでの報道の中で、保健医療福祉行政に関連する事項に興味を持ち情報収集を心がける。法学（日本国憲法含）・社会保障制度を受講している事が望ましい。
基本的には各回の授業の予習より、復習として学修したことの知識の整理をしてください。時間は学生個々によって違うと思いますので次の授業に支障のないように行ってください。平均的には30分から60分は必要と思われる。
学習上の留意点：既習した看護学の臨地実習科目と関連づけて学ぶ。特に社会保障制度・政策形成過程論とは重複する部分もあるため、関連させて理解すること。自分の考えを他者にわかるように説明するよう努力する。
※ミニレポート課題についての詳細は授業内でアナウンスする。

【７】　評価方法・基準

評価は、毎回のミニレポート課題２割程度、期末レポート８割程度で総合的に評価する。

【８】　フィードバック方法

毎回の課題、グループワーク（成果物等）、学修上の疑問に関しては授業内でコメント、または教員とメールなどを用いて双方向でやりとりする。

【９】　教科書

結城康博・河村秋編著「誰でもわかる医療・保健と福祉の本」風鳴舎

【10】　参考書

結城康博・河村秋「わかりやすい 社会保障制度 改訂版　～はじめて福祉に携わる人へ～」2023/01ぎょうせい出版

【11】　備考(関連科目等)

社会保障制度、政策形成過程論、法学（日本国憲法含）、公衆衛生看護学の各科目、看護学の臨地実習科目

科目名(日本語)	**社会保障制度**	必修・選択区分	授業形態	開講学期・学年	単位数
科目名(英語)	Social Security System	必修	講義	春学期 2年	2単位 30時間
科目責任者	結城康博				
担当教員	結城康博・河村秋				
科目責任者 連絡先(教室)	アクセスはメールで可能。 yy1969@za2.so-net.ne.jp （結城まで）　a-kawamura@wayo.ac.jp（河村）				
オフィスアワー	※４月９日～５月12日（月）もしくは（水）１３時２０分～１３時５５分非常勤講師室にいます。				

【１】　授業方法(ALの要素、ICTの活用等)

１－１．アクティブラーニングについて

実施する

１－２．アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素

ディスカッション、ディベート
グループワーク

２－１．双方向授業でのＩＣＴの活用について

活用しない

【２】　授業概要

社会保障制度の意味、意義、目的、機能について学習する。社会保障の歴史的変遷を理解し、現在の社会保障制度の必要性、具体的な仕組み、効果及び評価について学修し、社会保障制度の基本的な考え方を学ぶ。そして、社会環境の変化と社会保障制度の関連を理解し、問題点と課題及び将来の展望について考察する。

【３】　到達目標

1.少子高齢化・人口減少・経済成長率低下・雇用の流動化などの変化が人々の生活への影響について述べることができる。
2.社会保障の理念について述べることができる。
3.社会保障の歴史的変遷における社会保障の意義について述べることができる。
4.社会保障制度について説明することができる。
5.社会福祉に関する法律の理念について述べることができる。
6.社会福祉に関する施策について説明することができる。
7.健康と公衆衛生のあり方について論述することができる。

【４】　ディプロマ・ポリシーとの関連

到達目標を達成することにより、以下の能力を身につけることにつながります。

１．自然科学を看護活動の根拠とし、実践に活かす基礎的な力を有している。

２．看護学の専門知識と技術を修得している。

３．他者の多様な価値観を理解し、尊重することができる。

４．看護職の社会的責任を理解し、看護実践にまつわる倫理的課題を感受する力と熟考する力、それらに基づく判断を行動に表す力を身につけている。

５．看護専門職として、リーダーシップおよびフォロワーシップを発揮し、チームの中で有機的に活動する資質を身につけている。

【５】　授業計画

	項目	内容および授業方法 予習・復習・キーワード	担当教員
1～2	人間の社会的側面　1	ライフスタイル：人間の集団としての働きから（集団の形成・発達、地域における人間関係、職場における人間関係）検討する。 講義 予習：　既習した知識を整理 復習：テキスト、資料等を読んで整理する。 キーワード：生涯学習・地域活動への参加・生活習慣病の概念・発達課題別生活習慣・セルフケアの確立	河村秋
3	人間の社会的側面２	ライフスタイル：日常生活の中から（家族の機能と役割、ライフスタイルの変化、生活習慣の確立）から検討する 講義 予習：既習した知識を整理 復習：テキスト、資料等を読んでおく キーワード：夫婦の役割機能・家族内介護者・育児と介護・家事機能、雇用労働者・女性労働者・少子化・健康寿命・余暇時間・生涯学習・地域のソーシャルサポートネットワーク 学校における人間関係、組織の中での役割・上司との関係・同僚との関係	河村秋
4～5	社会保障の理念	生活基盤（生活単位・家庭・生活の基本機能・生活の場と健康・労働と健康）・人口動向・家族（世帯）・ライフサイクル、人口集中と過疎化 講義 予習：社会保障に関連する事項の情報収集をしておく。再度、テキスト「序章」を読んでおく。 復習：テキスト「序章」を読んでおく キーワード：、生産・労働、教育・保健・福祉、生殖、住居、就業構造、労働時間、仕事と余暇、所得	結城康博
6	社会福祉に関する法律の理念と施策１	障害者（児）に関わる法と施策 講義 予習：既習した知識を整理 復習：テキスト「８章　障害者福祉」を読む キーワード：障害者基本法・障害者総合支援法・身体障害者福祉法・知的障害者福祉法・精神保健および精神障害者福祉に関する法律・発達障害者支援法・障害者虐待の防止・障害者の養護者に対する支援等に関する法律	結城康博
7～8	社会保障制度１　年金制度	社会保険の変遷・社会保険の歴史・意義、年金制度 講義 予習：社会保険制度と年金制度について整理 復習：テキスト「１章　年金制度」を読む キーワード：国民皆保険・国民皆年金、所得保障、高齢者、障害者	結城康博
9～11	社会保障制度２　医療保険制度	社会保険制度、医療保険制度の保険者、被保険者 講義 予習：既習した知識を整理 復習：テキスト「２章　医療保険制度」を読む キーワード：保険給付と利用者負担、診療報酬、国民健康保険、医療費、保険外診療	河村秋
12～13	社会保障制度３　労働者災害補償保険（労災保険）制度	社会保険制度、労働者災害補償保険（労災保険）制度 講義 予習：既習した知識を整理 復習：テキスト「第５章　労働者災害補償保険（労災保険）制度」を読む キーワード：労災、通勤災害、メリット制、雇用保険法、労働者災害補償保険法、労働基準法	結城康博
14	社会保障制度　４　雇用保険	社会保険制度、雇用保険制度、人口減少社会 講義 予習：既習した知識を整理 復習：テキスト「第４章　雇用保険制度」を読む キーワード：失業、求職者給付、ハローワーク、雇用安定事業、高齢者雇用、生産年齢人口	結城康博
15～16	社会福祉に関する法律の理念と施策２	生活保護制度と格差について 講義 予習：既習した知識を整理 復習：テキスト「第７章　生活保護制度と社会手当」を読む キーワード：生活保護、格差社会、生活保護の基本原理と実施の原則、実施機関、扶助の種類と内容	結城康博
17	社会福祉に関する法律の理念と施策　３	児童に関わる法と施策・母子に関する施策 講義 予習：既習した知識を整理 復習：テキスト「11章　子育て支援と児童福祉」を読む キーワード：児童福祉法・児童虐待の防止等に関する法律・母子および寡婦福祉法、DV法、少子化対策	河村秋

18～19	社会保障制度５　介護保険制度	社会保険制度、介護保険制度の保険者・被保険者、要介護・要支援の認定、 講義 予習：既習した知識を整理 復習：テキスト「３章　介護保険制度」を読む キーワード：保険給付と利用者負担・ケアマネジメント・介護保険の財政・介護保険事業計画、年金制度の体系、雇用保険法、労働者災害補償保険法	河村秋
20～21	社会福祉保健行政１	福祉の行政機関と施設・老人保健福祉行政の展開 講義 予習：既習した知識を整理 復習：テキスト「第９章　高齢者福祉と養護老人ホーム」を読む キーワード：福祉事務所、社会福祉施設、在宅サービス機関、老人福祉計画・高齢者の生きがい対策・介護予防	結城康博
22～23	社会福祉保健行政２	保健福祉計画・社会福祉の民間活動 講義 予習：既習した知識を整理 復習：テキスト「終章　人口減少社会における社会保障」を読む キーワード：子ども・子育て応援プラン、少子化対策、民生委員・児童委員、社会福祉協議会、ボランティア活動、NPO法	結城康博
24～25	健康と公衆衛生１	当単元で学んだことを基に公衆衛生および保健活動のあり方について検討する。 講義・グループワーク・発表 予習：　授業で学んだことの整理をし、グループワークに臨む 復習：テキスト「第10章　保健制度」を読む。 キーワード：プライマリヘルスケア・ヘルスプロモーション・健康の概念・WHOの加盟国の役割	河村秋
26～27	健康と公衆衛生2	当単元で学んだことを基に公衆衛生および保健活動のあり方について検討する。 講義・グループワーク・発表 予習：　前回の復習が今回の予習にあたる。 復習：テキスト「第10章　保健制度」を読む キーワード：健康と環境、公衆衛生の領域・活動の特徴	河村秋

【６】　事前・事後学習とその時間

準備学習
新聞、TV、Web上 等のマスコミでの報道の中で、社会保障に関連する事項に興味を持ち情報収集を心がける。
法学（日本国憲法含）を受けている事が望ましい。
グループワークに臨む姿勢として、既習した授業内容の整理が必要であるが、予習より復習に時間を費やして欲しい。
時間に関しては学生個々により違うので、学修目標に達するように各自復習をする。
平均的には毎回30～60分程度は必要と思われる。
学習上の留意点
既習した看護学の臨地実習の対象理解（社会的側面）と関連づけて学ぶ。
自分の考えを他者にわかるように説明するよう努力する。
※ミニ課題レポートについての詳細は授業内でアナウンスする。

【７】　評価方法・基準

期末レポート80%　　各授業終わりに出すミニ課題レポート20%

【８】　フィードバック方法

課題に関して授業内でコメントする、また授業中にわからなかった部分の質問や授業感想などを教員とメールなどを用いて双方向でやりとりする。

【９】　教科書

結城康博・河村秋・大津唯編著『わかりやすい 社会保障制度 改訂版』2023.ぎょうせい出版

【10】　参考書

結城康博・網中肇編著『シリーズ 今日から福祉職 押さえておきたい 介護保険・高齢者福祉』2021ぎょうせい出版

【11】　備考(関連科目等)

保健医療福祉行政論、政策形成過程論、法学（日本国憲法含）、公衆衛生看護学の各科目、看護学の臨地実習科目

科目名(日本語)	**保健統計**	必修・選択区分	授業形態	開講学期・学年	単位数
科目名(英語)	Statistics	必修	講義	秋学期 2年	1単位 15時間
科目責任者	豊川智之				
担当教員	豊川　智之				
科目責任者 連絡先(教室)	初回の授業時に連絡方法を伝える。				
オフィスアワー	授業後20分程度、講義室または非常勤講師室で質問を受け付ける。				

【１】　授業方法(ALの要素、ICTの活用等)

１－１．アクティブラーニングについて

実施する

１－２．アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素

「その他」の内容

プログラミング

２－１．双方向授業でのＩＣＴの活用について

活用しない

【２】　授業概要

保健・医療情報システムに関する基礎的知識を修得する。その上で既習の「データサイエンス」の知識をもとに、保健・医療・福祉分野における活動に必要とされる保健統計学の知識を修得する。また、保健・医療に関するデータを収集・解析する能力を養う。

【３】　到達目標

1. 健康科学の分野でなぜ統計学的思考が必要かを説明できる
2. 変数の種類について例を挙げて比較しながら特徴を説明することができる
3. 平均値、中央値、分散、標準偏差、四分位範囲を計算機を用いてデータから求めることができる
4. 正規分布の特徴を説明することができる
5. 統計学的な「検定」と「推定」の違いについて説明することができる
6. データをもとに相関係数を求めることができる
7. データをもとに回帰係数を求めることができる
8. データをもとにカイ二乗検定ができる
9. データをもとにt検定ができる
10. 研究仮説に基づき適切なデータ分析方法を選択できる

【４】　ディプロマ・ポリシーとの関連

到達目標を達成することにより、以下の能力を身につけることにつながります。

１．自然科学を看護活動の根拠とし、実践に活かす基礎的な力を有している。

２．看護学の専門知識と技術を修得している。

４．看護職の社会的責任を理解し、看護実践にまつわる倫理的課題を感受する力と熟考する力、それらに基づく判断を行動に表す力を身につけている。

【５】　授業計画

	項目	内容および授業方法 予習・復習・キーワード	担当教員
1	統計学とは	内容：統計学がなぜ必要かを学ぶ，変数の種類と特徴を学ぶ 授業方法：講義 予習：キーワードについて調べる 復習：変数の特徴を比較して整理する キーワード：名義変数、順序変数、連続変数	豊川　智之
2	代表値と分布	内容：ある変数の代表値と分布を示す指標を方法を学ぶ 授業方法：講義 予習：キーワードについて調べる 復習：各指標の算出ができるように講義内容を振り返る キーワード：平均値、中央値、分散、四分位範囲、外れ値	豊川　智之
3	確率変数と確率分布	内容：確率変数と代表的な確率分布の特徴を学ぶ 授業方法：講義 予習：キーワードについて調べる 復習：確率分布の特徴を整理する キーワード：確率、確率分布、正規分布	豊川　智之
4	母集団からの抽出と標本による推定	内容：推計統計の手法として推定について学ぶ 授業方法：講義 予習：キーワードについて調べる 復習：推定の考え方について整理する キーワード：母集団と標本、抽出と推定、大数の法則、点推定、区間推定、標準化	豊川　智之
5	統計学的検定	内容：推計統計の手法として検定について学ぶ 授業方法：講義 予習：キーワードについて調べる 復習：ワークシートをもとに帰無仮説と検定の方法を理解する キーワード：ｔ検定、ｔ分布、ｐ値、中心極限定理、有意水準	豊川　智之
6	ｔ検定	内容：平均値の差の検定（ｔ検定）を実行し、分析結果を解釈できるようになる 授業方法：講義 予習：キーワードについて調べる 復習：ワークシートをもとにt検定の方法を理解する キーワード：ｔ検定、ｔ分布、ｐ値	豊川　智之
7	分散分析	内容：分散分析を学び、実行でき、分析結果を解釈できるようになる 授業方法：講義 予習：キーワードについて調べる 復習：ワークシートをもとにt検定の方法を理解する キーワード：分散分析、多重比較	豊川　智之
8	対応のある検定、ノンパラメトリック検定	内容：多様なｔ検定や分散分析を求め、分析結果を解釈できるようになる 授業方法：講義 予習：キーワードについて調べる 復習：ワークシートをもとにt検定の方法を理解する キーワード：ノンパラメトリック検定、順位和検定、ウィルコクソン検定、クラスカルウォリス検定、対応のある検定	豊川　智之
9	相関係数	内容：相関係数の意味と算出方法を学び、分析結果を解釈できるようになる 授業方法：講義 予習：キーワードについて調べる 復習：相関係数と回帰係数の特徴を理解できる キーワード：相関係数、共分散	豊川　智之
10	相関係数と回帰係数②	内容：回帰係数の意味と算出方法を学び、分析結果を解釈できるようになる 授業方法：講義 予習：キーワードについて調べる 復習：相関係数と回帰係数について求めることができるようになる キーワード：回帰係数、最小二乗法、外れ値	豊川　智之
11	クロス集計表とカイニ乗検定①	内容：カイニ乗検定とその算出方法を学び、分析結果を解釈できるようになる 授業方法：講義 予習：キーワードについて調べる 復習：ワークシートをもとにカイニ乗検定の方法を理解する キーワード：割合の差の検定、独立性の検定、カイ二乗分布、ｐ値、95%信頼区間	豊川　智之
12	クロス集計表とカイニ乗検定②	内容：多様なクロス集計表分析を学び、分析結果を解釈できるようになる 授業方法：講義 予習：キーワードについて調べる 復習：ワークシートをもとにカイニ乗検定の方法を理解する キーワード：マクネマー検定、傾向性の検定	豊川　智之

13	ロジスティック回帰分析を学ぶ	内容：ロジスティック回帰分析を学び、分析結果を解釈できるようになる 授業方法：講義 予習：キーワードについて調べる 復習：ワークシートをもとにロジスティック回帰分析の方法を理解する キーワード：オッズ比、95%信頼区間	豊川　智之
14	まとめ	内容：事例のデータをもとに様々な統計学的な分析を試みる 方法：講義 予習：各分析手法を振り返る 復習：自身の興味のある視点で分析し、レポートを完成させる。 キーワード：回帰、相関、ｔ検定、カイ二乗検定、区間推定、ロジスティック回帰	豊川　智之

【６】　事前・事後学習とその時間

【準備学習】
講義開始までに四則演算、特に分数の計算、確率の計算について理解していることが望ましい。
予習：Moodle上に提示された資料に目を通しておくこと。予習に要する時間の目安は、30分程度である。
復習：各回の講義終了時に学習内容の確認を行う。次回講義時に全体に向けたコメントとしてフィードバックする。統計手法の実施および解釈の復習のために要する時間の目安は30分程度である。
【学習上の留意点】
パソコン（タブレットやスマートフォンで代用可能）を使用するので、可能な限り持参すること。

【７】　評価方法・基準

課題レポート100%

【８】　フィードバック方法

ミニッツペーパーに寄せられた質問等はMoodle上のコメントとしてフィードバックする。講義中に取り組んだ作業については全体に向けて講評する。理解が不十分と考えられる点については次回講義時に全体に向けて適宜解説を加える。

【９】　教科書

資料は授業中に配布する。

【10】　参考書

「基本からわかる看護統計学入門」（医歯薬出版）大木秀一著、「すべての医療従事者のためのRStudioではじめる医療統計」（金芳堂）、笹渕裕介、大野幸子、橋本洋平、石丸美穂 著 など

【11】　備考(関連科目等)

情報科学概論、公衆衛生、疫学Ⅰ（基礎編）、疫学Ⅱ(応用編）、公衆衛生看護学、看護研究

科目名(日本語)	**公衆衛生**	必修・選択区分	授業形態	開講学期・学年	単位数
科目名(英語)	Public Health	必修	講義	春学期 2年	1単位 15時間
科目責任者	柳　奈津代				
担当教員	柳奈津代、田村元樹、上野貴之				
科目責任者 連絡先(教室)	柳奈津代：（natsuyo.yanagi@hs.toho-u.ac.jp）				
オフィスアワー	授業終了後、10分程度講義室で質問を受け付ける。Moodleのメッセージ機能、メールでも随時質問等を受け付ける。				

【１】　授業方法(ALの要素、ICTの活用等)

１－１．アクティブラーニングについて

実施しない

１－２．アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素

２－１．双方向授業でのＩＣＴの活用について

活用する

２－２．ＩＣＴを活用する場合、その具体的名称（クリッカー、タブレット端末等）

Moodle

【２】　授業概要

公衆衛生とは、集団レベルでの健康の保持・増進と疾患の予防を目的として行われる組織的な活動である。本科目では、公衆衛生の基本的考え方や国際保健、法制度、疫学、疾病予防、地域保健、母子保健、環境保健、精神保健などについて学び、疾病のコントロールとヘルスプロモーションに関わる視点を養う。

【３】　到達目標

1. 公衆衛生に関する全体の枠組みについて説明できる。
2. 保健医療福祉の制度と法規の概要を説明できる。
3. 保健統計、平均寿命、健康寿命の概念を説明でき、疫学について研究デザインと感度、特異度、陽性的中率について説明できる。
4. 健康日本21（第三次）と現状の健康課題について説明できる。
5. 地域包括ケアの概念について説明できる。
6. 特定健診やがん検診の概要について説明できる。
7. わが国の環境問題の歴史と環境衛生について説明できる。
8. 母子保健、学校保健、産業保健、精神保健の概要について説明できる。

【４】　ディプロマ・ポリシーとの関連

到達目標を達成することにより、以下の能力を身につけることにつながります。

１．自然科学を看護活動の根拠とし、実践に活かす基礎的な力を有している。

２．看護学の専門知識と技術を修得している。

３．他者の多様な価値観を理解し、尊重することができる。

４．看護職の社会的責任を理解し、看護実践にまつわる倫理的課題を感受する力と熟考する力、それらに基づく判断を行動に表す力を身につけている。

６．自ら学ぼうとする好奇心をもち、生涯にわたり自己研鑽する姿勢を身につける。

【5】　授業計画

	項目	内容および授業方法 予習・復習・キーワード	担当教員
1	衛生学・公衆衛生学序論	内容：公衆衛生に関する全体の枠組みをとらえる。 授業方法：講義 予習：教科書の指定部分を読む。 復習：講義中の小テスト内容について調べる。 キーワード：WHO、健康、国際生活機能分類、健康の社会的決定要因、ジョン・スノー、生命倫理、SDGs	柳奈津代
2・3	保健統計と疫学	内容：公衆衛生を理解するツールとして保健統計と疫学について学ぶ 授業方法；講義 予習：教科書の指定部分を読む 復習：講義中の小テスト内容について調べる キーワード：保健統計、人口統計、比率・比・割合、年齢調整死亡率、標準化死亡比、研究デザイン、感度・特異度・陽性的中率	田村元樹
4・5	環境保健	内容：環境保健・環境衛生・産業保健・労働衛生について学ぶ 授業方法；講義 予習：教科書の指定部分を読む 復習：講義中の小テスト内容について調べる キーワード：環境基本法、水俣病、イタイイタイ病、四日市ぜんそく、オゾン層保護法、シックハウス症候群、水道水質基準、牛海綿状脳症、食中毒、労働安全衛生法、安全衛生の3管理、熱中症、石綿、じん肺、騒音、有機溶剤、放射線防護、ストレスチェック	上野貴之
6・7	主な疾病の予防	内容：生活習慣病やがんなどの予防について学ぶ 授業方法：講義 予習：教科書の指定部分を読む 復習：講義中の小テスト内容について調べる キーワード：がん対策基本法、感染症法、メタボリック・シンドローム、ロコモティブ・シンドローム、フレイル、薬害	田村元樹
8・9	疾病予防と健康管理・地域保健と保健行政	内容：保険や健康増進に関する法律やしくみ、保健所について学ぶ 授業方法；講義 予習：教科書の指定部分を読む 復習：講義中の小テスト内容について調べる キーワード：健康保険法、健康増進法、高齢者の医療の確保に関する法律、がん健診、特定健診、健康日本21、ナッジ、健康寿命延伸プラン、地域保健法、保健所	田村元樹
10・11・12	保健各論	内容：母子保健・学校保健・精神保健及び高齢者の保健について学ぶ 授業方法：講義 予習：教科書の指定部分を読む 復習：講義中の小テスト内容について調べる キーワード：母子保健法、母体保護法、児童福祉法、児童虐待の防止等に関する法律、健やか親子21、成育基本法、子ども子育てビジョン、精神保健及び精神障害者福祉に関する法律、自殺対策基本法、介護保険法	柳奈津代
13・14	保健医療福祉障害の制度と法規	内容：日本における保健医療福祉障害行政と制度について学ぶ 授業方法；講義 予習：教科書の指定部分を読む 復習：講義中の小テスト内容について調べる キーワード：厚生労働省、保健師助産師看護師法、医療法、健康保険法、介護保険法、健康増進法、障害者自立支援法	田村元樹

【6】　事前・事後学習とその時間

・各授業中に事前の小テスト、事後の小テストを実施する。小テスト内容は十分に復習すること。なお授業内の小テストは自己採点とし、成績には反映しない。
・授業前に講義予定の教科書の範囲を予習すること。その際、理解できないところを抽出しておく。予習に必要な時間として　30分程度が見込まれる。
・講義に用いた配布資料等を復習し、要点をノートにまとめること。復習に必要な時間として1時間程度が見込まれる。

【7】　評価方法・基準

定期試験（95%）＋講義への積極的な参加（5%）

【8】　フィードバック方法

講義中に取り組んだ作業については全体に向けて講評する。ミニッツペーパーに寄せられた質問や理解が不十分と考えられる点については、次回講義時に全体に向けて適宜解説を加える。

【9】　教科書

シンプル衛生公衆衛生学　南江堂

【10】　参考書

公衆衛生がみえる,メディックメディア
国民衛生の動向・厚生の指標 増刊.　一般財団法人厚生労働統計協会.
図説 国民衛生の動向.　一般財団法人厚生労働統計協会.
公衆衛生　第5版　ナーシング・グラフィカ　健康支援と社会保障2

【11】　備考(関連科目等)

情報科学概論、保健統計、公衆衛生看護学など

科目名(日本語)	**疫学Ⅰ（基礎編）**	必修・選択区分	授業形態	開講学期・学年	単位数
科目名(英語)	Epidemiology Ⅰ (Basic)	選択	講義	春学期 2年	1単位 15時間
科目責任者	児林聡美				
担当教員	児林聡美				
科目責任者 連絡先(教室)	児林聡美 (skobayashi@hers-ms.com)				
オフィスアワー	授業終了後、10分程度講義室で質問を受け付ける。 Moodleのメッセージ機能、メールでも随時質問等を受け付ける。				

【１】 授業方法(ALの要素、ICTの活用等)

１－１．アクティブラーニングについて

実施する

１－２．アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素

ディスカッション、ディベート
グループワーク

２－１．双方向授業でのＩＣＴの活用について

活用する

２－２．ＩＣＴを活用する場合、その具体的名称（クリッカー、タブレット端末等）

Moodle

【２】 授業概要

疫学に関する基礎的知識・技術を学び、公衆衛生の知識をもとに集団において発生する健康問題・事象について理解を深め、その原因を究明し公衆衛生学的解決策を考える能力を養う。

【３】 到達目標

1. 疫学の定義を説明できる
2. 疾患の発生、死亡に関する疫学指標をデータをもとに算出できる
3. 相対危険、寄与危険を与えられたデータから算出することができる
4. スクリーニングの各指標を与えられたデータから算出することができる
5. 疫学研究の各デザインについて、その特徴と限界について説明することができる
6. 疫学研究の質に影響を与える要因の主なものを挙げ、それらについて説明することができる
7. 疫学研究の実施に際して求められる倫理的配慮について説明することができる

【４】 ディプロマ・ポリシーとの関連

到達目標を達成することにより、以下の能力を身につけることにつながります。

１．自然科学を看護活動の根拠とし、実践に活かす基礎的な力を有している。

２．看護学の専門知識と技術を修得している。

３．他者の多様な価値観を理解し、尊重することができる。

４．看護職の社会的責任を理解し、看護実践にまつわる倫理的課題を感受する力と熟考する力、それらに基づく判断を行動に表す力を身につけている。

【5】　授業計画

	項目	内容および授業方法 予習・復習・キーワード	担当教員
1	疫学の基本的な考え方	内容：疫学が公衆衛生活動を行う上で欠かせない学問であることを理解する。身近な例で「疫学とは？」どのようなものかディスカッションする。 授業方法：講義 予習：教科書（第1章）を読む。 復習：疫学の身近な例を探す。 キーワード：疫学、公衆衛生、予防、集団	児林聡美
2	疫学の歴史と基礎用語	内容：疫学の定義をもとに歴史的事例を分析する。事例に関してどう思うかディスカッションする。曝露と疾病を知る。 授業方法：講義 予習：教科書（第2章）を読む。 復習：事例と定義を対応させ振り返る。 キーワード：ジョン・スノウ、高木兼寛	児林聡美
3	疫学的な因果関係の考え方	内容：因果関係の考え方について学ぶ。紹介した因果関係の例をどう思うかディスカッションする。 授業方法：講義 予習：教科書（第3章）を読む。 復習：教科書内の問題を解く。 キーワード：暴露、疾病、因果関係	児林聡美
4	様々な疫学指標	内容：率、比、割合の違い、疾病や死亡の頻度を示す指標と算出方法を学ぶ。年齢調整死亡率の必要性をディスカッションする。 授業方法：講義 予習：教科書（第4章）を読む。 復習：教科書内の問題を解く。 キーワード：率、比、割合、罹患率、有病率、死亡率	児林聡美
5	相対危険と寄与危険①	内容：事象と疾病発生の関係性を表す指標を学ぶ。求めた相対危険と寄与危険から求めたリスクの大きさに関してディスカッションする。 授業方法：講義 予習：教科書（第5章）を読む。 復習：教科書内の問題を解く。 キーワード：相対危険、寄与危険、リスクファクター	児林聡美
6	相対危険と寄与危険②	内容：事象と疾病発生の関係性を表す指標を学ぶ。仮想例をもとに、相対危険と寄与危険の役割の違いをディスカッションする。 授業方法：講義 予習：教科書（第5章）を読む。 復習：教科書内の問題を解く。 キーワード：相対危険、寄与危険、リスクファクター	児林聡美
7	疫学研究のデザイン　記述疫学	内容：疫学研究のデザインの概要を学び、例に触れながら記述疫学の特徴を学ぶ。記述疫学研究の重要性をディスカッションする。 授業方法：講義 予習：教科書（第6章P.63-69）を読む。 復習：教科書内の問題を解く。 キーワード：デザイン、抽出、悉皆調査、標本調査、記述疫学、推移、仮設	児林聡美
8	分析疫学①　横断研究、生態学的研究	内容：横断研究の特徴と限界を学ぶ。生態学的研究の特徴と限界を学ぶ。これら研究の必要性をディスカッションする。 授業方法：講義 予習：教科書（第6章P.70-74）を読む。 復習：教科書内の問題を解く。 キーワード：地域相関研究、エコロジカルファラシー、横断研究、Cross-sectional sutuday,交絡因子	児林聡美
9	分析疫学②　コホート研究、症例対照研究	内容：コホート研究と症例対照研究の特徴と限界を学ぶ。どのような場合にこれら研究が適切かディスカッションする。 授業方法：講義 予習：教科書（第6章P.74-85）を読む。 復習：教科書内の問題を解く。 キーワード：前向き調査、横断研究、コホート研究、脱落、症例対照研究、マッチング、オッズ比	児林聡美
10	分析疫学③　介入研究、他の手法、実践例	内容：介入研究の特徴と限界を学ぶ、研究の統合や実践例に触れる。介入研究やレビュー研究なら信頼できるかディスカッションする。 授業方法：講義 予習：教科書（6章P.85-89）を読む。 復習：教科書内の問題を解く。 キーワード：介入研究、RTC、システマティックレビュー、メタアナリシス、栄養疫学	児林聡美
11	疫学研究の質①　集団と標本	内容：疫学における集団と標本抽出について学ぶ。なぜ標本抽出が必要なのかディスカッションする。 授業方法：講義 予習：教科書（第7章）を読む。 復習：教科書内の問題を解く。 キーワード：母集団、標本抽出	児林聡美

12	疫学研究の質②　誤差とバイアス	内容：疫学研究の質に影響を与える、誤差とバイアスについて学ぶ。身近なバイアスの例をディスカッションする。 授業方法：講義 予習：教科書（第7章）を読む。 復習：教科書内の問題を解く。 キーワード：誤差、バイアス、交絡	児林聡美
13	スクリーニング	内容：疾病とスクリーニングの意義、指標を学ぶ。スクリーニングの必要性をディスカッションする。 授業方法：講義 予習：教科書（第8章）を読む。 復習：教科書内の問題を解く。 キーワード：感度、特異度、偽陽性、偽陰性、陽性反応的中	児林聡美
14	疫学研究と倫理	内容：疫学研究の倫理的配慮について学ぶ。倫理的配慮の必要性をディスカッションする。 授業方法：講義 予習：教科書（第3章P.34-35）を読む。 復習：教科書内の問題を解く。 キーワード：倫理審査、インフォームドコンセント、情報の管理、利益相反、剽窃	児林聡美

【６】　事前・事後学習とその時間

事前学習として教科書の学習内容に関連する部分を読む。復習として教科書内の問題に取り組む。それぞれ30分から1時間程度を要する。

【７】　評価方法・基準

講義内課題（50%）+ 最終レポート（50%）とする。

【８】　フィードバック方法

ミニッツペーパーに寄せられた質問等はMoodle上のコメントとしてフィードバックする。講義中に取り組んだ作業について、理解が不十分と考えられる点については次回講義時に全体に向けて解説を加える。

【９】　教科書

大木秀一　著　「基礎からわかる看護疫学入門　第3版」（医歯薬出版）

【10】　参考書

日本疫学会 監修　「やさしい疫学　改定第3版」（南江堂）

【11】　備考(関連科目等)

データサイエンス、保健統計、公衆衛生、疫学Ⅱ（応用編）、看護研究

科目名(日本語)	**疫学Ⅱ（応用編）**	必修・選択区分	授業形態	開講学期・学年	単位数
科目名(英語)	Epidemiology Ⅱ (Advanced)	選択	講義	秋学期 2年	1単位 15時間
科目責任者	柳　奈津代				
担当教員	柳奈津代・上野貴之				
科目責任者 連絡先(教室)	柳奈津代 (natsuyo.yanagi@hs.toho-u.ac.jp)				
オフィスアワー	授業終了後、10分程度講義室で質問を受け付ける。 Moodleのメッセージ機能、メールでも随時質問等を受け付ける。				

【１】　授業方法(ALの要素、ICTの活用等)

１－１．アクティブラーニングについて

実施する

１－２．アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素

ディスカッション、ディベート
グループワーク
プレゼンテーション

２－１．双方向授業でのＩＣＴの活用について

活用する

２－２．ＩＣＴを活用する場合、その具体的名称（クリッカー、タブレット端末等）

Moodle,Live！アンケート

【２】　授業概要

疫学調査に関する知識・技術を習得する。調査対象とする集団の特徴や調査時点、期間等を規定するための考え方、調査のプロセスについて学ぶ。さらに疫学調査を用いて健康問題・事象の発生要因や影響要因を除外・軽減する対策およびその効果等について考える能力を養う。

【３】　到達目標

1.疫学研究の計画書に含まれる項目を３つ以上説明できる
2.測定方法の妥当性、信頼性について説明できる
3.測定時に生じる偶然誤差、系統誤差について説明できる
4.質問項目を作成する際に注意すべきことを3つ以上挙げることができる
5.得られたデータを解析可能な状態に整える（データクリーニング）ために必要な作業を説明することができる
6.論文発表のプロセスについて説明することができる
7.エビデンスレベルについて説明することができる

【４】　ディプロマ・ポリシーとの関連

到達目標を達成することにより、以下の能力を身につけることにつながります。

１．自然科学を看護活動の根拠とし、実践に活かす基礎的な力を有している。

２．看護学の専門知識と技術を修得している。

３．他者の多様な価値観を理解し、尊重することができる。

４．看護職の社会的責任を理解し、看護実践にまつわる倫理的課題を感受する力と熟考する力、それらに基づく判断を行動に表す力を身につけている。

５．看護専門職として、リーダーシップおよびフォロワーシップを発揮し、チームの中で有機的に活動する資質を身につけている。

６．自ら学ぼうとする好奇心をもち、生涯にわたり自己研鑽する姿勢を身につける。

【5】 授業計画

	項目	内容および授業方法 予習・復習・キーワード	担当教員
1	疫学調査の基礎1：疫学研究のデザイン	内容：疫学研究のエビデンスレベルを理解し、研究計画に必要な事項を学ぶ 授業方法：講義とGW 予習：配布資料に目を通す 復習：配布資料を読み、学んだことを振り返る キーワード：疫学研究、リサーチクエスチョン、PECO、計画書、背景、目的、方法、倫理的配慮	柳奈津代
2・3・4	疫学調査の基礎2：変数の定義、データ収集方法・分析方法	内容：研究課題（リサーチクエスチョン）を検証するために、「どのような変数を測定するのか」「妥当性・信頼性とは何か」「検証結果に影響を与える測定誤差、交絡」について学ぶ。また、二つ（あるいは三つ）の集団を比較するための分析方法を学ぶことができる。 授業方法：講義 予習：参考書を読む 復習：講義で配布したスライドや参考書を読む キーワード：変数、妥当性、信頼性、バイアス、交絡、検定	上野貴之
5～8	疫学調査の実際1：質問票を作る	内容：質問票の作成に必要な知識を学び、実際に質問票を作成・共有する 授業方法：講義とGW 予習：配布資料に目を通す 復習：作成した質問票の改善案を検討する、アンケート調査の準備など キーワード：質問票、尺度、リッカート尺度、VAS、回答のバイアス	柳奈津代
9～12	疫学調査の実際2：結果の分析とまとめ	内容：収集されたデータの処理、解析方法、報告事項について学ぶ。実際にデータを集計し、表・グラフ化する。分析結果をまとめてポスターを作成する。 授業方法：講義とGW 予習：配布資料、参考書の関連部分を読み、集計方法、表・グラフ化の方法を考える 復習：配布資料の振り返りとともに分析やポスターをすすめる キーワード：データクリーニング、データの集計、統計学的検定	柳奈津代
13	疫学調査の実際3：ポスター発表、振り返り	内容：クラス内でポスター発表を行う。グループごとに振り返りを行い、疫学研究の学びと課題を整理する。 授業方法：講義とGW 予習：各自ポスターを完成させる。これまでの講義・グループワークについて各自振り返る。 復習：ポスター発表、グループでの振り返りを通して、疫学研究について考える。 キーワード：プレゼンテーション、疫学研究	柳奈津代
14	健康情報とEBM	内容：疫学研究の結果が社会にどのように報告されるのかを学ぶ 授業方法：講義 予習：EBMとは何か、解析結果がどのように社会に還元されるのか考える 復習：これまでの講義内容の復習を行う。 キーワード：Evidence-based Medicine、Evidence-based Policy Making、壊血病、コレラ、ジョン・スノウ、ナイチンゲール、喫煙と肺がん	上野貴之

【6】 事前・事後学習とその時間

事前学習としてキーワードについて理解し、GW等で取り組んでいる課題を進める。復習として講義内で得た知識で自分の作業を見直し改善する。それぞれ30分から1時間程度を要する。

【7】 評価方法・基準

講義内課題（40%）+ 最終レポート（60%）とする。

【8】 フィードバック方法

ミニッツペーパーに寄せられた質問等はMoodle上のコメントまたは講義の中でフィードバックする。講義中に取り組んだ作業・課題については全体に向けて講評する。理解が不十分と考えられる点については次回講義時に適宜解説を加える。

【9】 教科書

特に指定しない（講義資料を配布）

【10】 参考書

浅野嘉延 著「看護学生のための疫学・保健統計 改定4版」（南山堂）
日本疫学会 監修 「やさしい疫学 改定第3版」（南江堂）

【11】 備考(関連科目等)

データサイエンス、保健統計、公衆衛生、疫学Ⅰ（基礎編）、看護研究

科目名(日本語)	**看護倫理学**	必修・選択区分	授業形態	開講学期・学年	単位数
科目名(英語)	Nursing Ethics	必修	講義	春学期 2年	1単位 15時間
科目責任者	日高紀久江				
担当教員	日高紀久江				
科目責任者 連絡先(教室)	日高紀久江（研究室K333）kikue.hidaka@hs.toho-u.ac.jp				
オフィスアワー	講義終了10分程度、講義室で質問等を受け付ける。メールおよびmoodleのメッセージからの問い合わせに応じる。				

【１】　授業方法(ALの要素、ICTの活用等)

１－１．アクティブラーニングについて

実施する

１－２．アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素

ディスカッション、ディベート
グループワーク
プレゼンテーション

２－１．双方向授業でのＩＣＴの活用について

活用する

２－２．ＩＣＴを活用する場合、その具体的名称（クリッカー、タブレット端末等）

Moodle

【２】　授業概要

人間を対象とする看護には、人間及び生命を尊重する態度が肝要とされており、医療・福祉・行政に関わる看護の実践・教育・研究では、常に倫理的事項に直面する。看護倫理学では、看護専門職に必要な倫理の基礎知識を理解し、看護における倫理現象と倫理的課題、倫理的判断過程などについて学ぶ。さらに、看護職の役割について考察し、倫理的感性を高める機会とする。

【３】　到達目標

1.看護における人間の尊厳と人権について具体的に説明できる。
2.看護職の倫理綱領について構造と内容を具体的に説明できる。
3.看護倫理の観点から事例を検討する方法を説明できる。
4.倫理的課題の抽出過程における倫理的推論・判断を説明できる。
5.事例の倫理活動について自己の見解を説明できる。
6.看護の倫理的感受性を高める方法について説明できる。
7.授業を通して看護職としての倫理観について記述できる。

【４】　ディプロマ・ポリシーとの関連

到達目標を達成することにより、以下の能力を身につけることにつながります。

１．自然科学を看護活動の根拠とし、実践に活かす基礎的な力を有している。

２．看護学の専門知識と技術を修得している。

３．他者の多様な価値観を理解し、尊重することができる。

４．看護職の社会的責任を理解し、看護実践にまつわる倫理的課題を感受する力と熟考する力、それらに基づく判断を行動に表す力を身につけている。

５．看護専門職として、リーダーシップおよびフォロワーシップを発揮し、チームの中で有機的に活動する資質を身につけている。

６．自ら学ぼうとする好奇心をもち、生涯にわたり自己研鑽する姿勢を身につける。

【5】　授業計画

	項目	内容および授業方法 予習・復習・キーワード	担当教員
1･2	看護倫理の理論編(1)：看護における人間の尊厳と人権	内容 1. 生活と倫理 2. 生命倫理と看護職の役割 3. 看護倫理とは 4. 看護倫理の基盤となる理論・概念 方法：講義、DVD視聴（視聴覚教材：生命倫理と看護倫理の基礎） 予習：テキスト第1章～第5章を読む。 復習：授業内容を整理し、看護師と患者（対象者）関係について考察する。 キーワード：倫理学、道徳、徳、幸福、価値観、価値の対立、人間関係、環境、文化、医療制度、生命倫理、医療倫理、臨床倫理、法、倫理的課題、倫理原則、倫理的責任、保健医療福祉の場、療養生活、QOL、看護の役割と機能	日高紀久江
3･4	看護倫理の理論編(2)：看護職における倫理規準	内容 1. 看護職の倫理的責任と倫理綱領 2. 倫理的判断および行動の根拠 3. 倫理的行動の規準を遵守する方法と課題 方法：講義、DVD視聴（視聴覚教材：KYT） 予習：テキスト第7章および看護職の倫理綱領を読んで内容を整理する。 復習：授業内容を整理し、看護ケアに対する看護職の責務と課題について考察する。 キーワード：倫理的行動規準、法的責任、保助看法、法令遵守、専門職、倫理的責任、倫理綱領、倫理指針、規制ガイドライン、職業人、企業、社会的役割、医療制度、倫理的ジレンマ	日高紀久江
5･6	看護倫理の理論編(3)：倫理に関わる実践の過程	内容 1. 臨床における倫理現象把握の方法(気づき) 2. 看護における倫理的分析方法(倫理的推論) 3. 倫理的課題に対する意思決定の方法(倫理的判断) 4. 倫理的課題を検討するためのアプローチ法（4分割表、臨床検討シート） 方法：講義、DVD視聴（倫理的意思決定モデルを用いたアプローチ法）、事例「安全と自律尊重のジレンマ」 予習：テキスト第6章、第8章を読む。 復習：授業内容を通して、事例の検討方法を整理する。 キーワード：人間、自己の価値観、他者の価値観、多様性、文化、健康、医療、看護、倫理的責任、価値の対立、倫理的判断過程、倫理的感性、気づき、倫理的課題、倫理的推論、判断根拠、意思決定のためのモデル、信頼関係、倫理的活動	日高紀久江
7･8	看護倫理の実践編(1)：意思決定支援	内容 1. 意思決定に直面する人々のケアに関わる倫理的課題 2. 事例の分析、倫理的推論と対応、考察 3. 意思決定に直面する人々への看護職の役割と課題 方法：講義 予習：日本看護協会「看護倫理」看護職のための自己学習テキストの指定部分を読んで、自分の考えを整理する。 復習：授業内容を整理し、意思決定支援について考察する。 キーワード：倫理現象、状況の分析と統合、倫理的推論、倫理的判断、倫理的行動、病名告知、インフォームド・コンセント、自己決定、安楽死、人生の終末、臨床試験、臓器移植、遺伝子診断、遺伝相談、価値の対立、倫理的判断、倫理的ジレンマ、倫理的実践	日高紀久江
9･10	看護倫理の実践編(2)：医療現場の倫理	内容 1. 看護を必要とする人々に関わる倫理的課題 2. 事例の分析、倫理的推論と対応、考察 方法：講義､DVD視聴（視聴覚教材：身体拘束）、個人ワーク、グループワーク 予習：「身体拘束ガイドライン」（日本看護倫理学会）を読んで自分の考えを整理する。 復習：授業内容を整理する。課題レポート「看護援助における倫理とはなにか」を提出（課題1) キーワード：患者の自律性、患者のニーズ、ケアの優先度、個人の善と集団の善、高額費用、価値観、価値の対立、精神的苦	日高紀久江
11･12	看護倫理の実践編(3)：医療現場における事例分析	内容 1. 事例の分析 2. 事例のプレゼンテーション資料の作成 方法：講義、討議・プレゼンテーション資料作成 予習：テキスト第10章を読んで自分の考えを整理する。 復習：テキストや講義内容、参考資料から事例に関連している内容を読んで自分の考えを整理する。 課題レポート｢事例検討資料｣を提出（課題2) キーワード：倫理現象、状況の分析と統合、倫理的推論、倫理的判断、倫理的行動	日高紀久江

		判断、倫理的行動	
13	看護倫理の実践編(4)：事例の共有と看護職の役割	1. 事例のプレゼンテーション 2. 病・治療・生命の危機に直面する人々への看護職の役割と課題 方法：プレゼンテーション、講義 予習：プレゼンテーションの準備をする。 復習：授業内容を整理し、看護師の役割について考察する。 キーワード：臨床実践、チーム医療、人間、健康、良い医療、良い看護、看護専門職、看護の質、倫理観	日高紀久江
14	看護専門職者としての倫理と展望	内容 1. 協働者との連携・協働に関わる倫理的課題と考察 2. 職業人としての労働に関わる倫理的課題と考察 3. 看護実践者としての倫理観 方法：講義 予習：これまでの授業内容を整理する。 復習：課題レポート「看護実践者としての倫理とは何か　①命と人権と看護について、②倫理的感受性を高めるための課題はなにか」を提出（課題3） キーワード：ケアの配分、資源の配分、経費、責任の委譲、説明責任、責任をとること、価値の対立、共同意思決定、倫理的行動、看護師の責務、業務評価、チーム活動、学際的アプローチ、チーム医療、人間、健康、良い医療、良い看護、社会の変化、価値観の多様化、グローバリゼーション、看護専門職、看護の質、医療実践者、倫理観	日高紀久江

【６】　事前・事後学習とその時間

【準備学習】
本授業は看護倫理・臨床倫理の基本的な考え方を習得し倫理現象を把握する能力や倫理的判断力、倫理的課題への探究力を向上させることをねらっているため、関連内容について予習・復習に1.5時間程度必要である。
【学習上の留意点】
授業毎のテーマについて、関連書籍およびメディア上の情報も活用して理解を深める。
対面式授業で行います。状況によって遠隔授業となる場合があります。遠隔授業の場合は、オンデマンド式と双方向式を取り入れますので、事前のお知らせで確認してください。

【７】　評価方法・基準

課題レポート（3題）100%

【８】　フィードバック方法

全体の傾向等について次の授業の中やMoodleでコメントする。

【９】　教科書

宮坂道夫ほか：系統看護学講座別巻 看護倫理 第2版、医学書院

【10】　参考書

授業時にその他の関連文献を紹介する。
・サラ　T.フライ、メガンージェーン・ジョンストン、片田範子、山本あい子訳：看護実践の倫理、第3版、日本看護協会出版会、2010
・ドローレス・ドゥーリー、ジェーン・マッカーシー、坂川雅子訳：看護倫理1、みすず書房
・ドローレス・ドゥーリー、ジェーン・マッカーシー、坂川雅子訳：看護倫理2、みすず書房
・ドローレス・ドゥーリー、ジェーン・マッカーシー、坂川雅子訳：看護倫理3、みすず書房
・松木光子編：看護倫理学、看護実践における倫理的基盤､ヌーベルヒロカワ､2010
・Anne J.Davis, Verena Tschudin, Louise de Raeve, 小西恵美子監訳、和泉成子、江藤裕之訳：看護倫理を教える・学ぶ、倫理教育の視点と方法、日本看護協会出版会、2008
・Albert R. Jonsen, Mark Siegler, William J.Winslade,　赤林朗、蔵田伸雄、児玉聡監訳：臨床倫理学、第5版、臨床医学における倫理的決定のための実践的なアプローチ、新興医学出版社、2006
・坂本すが監修、兼児敏浩編著：医療安全BOOKS 7、患者・家族の意思決定、現場の判断を支える“やさしい”臨床倫理フレームワーク、困ったとき、現場で役立つ3つの視点、メディカ出版、2018
・日本看護協会ホームページ　看護実践情報「看護倫理」看護職のための自己学習テキスト
・視聴覚教材：「ナーシングチャンネル」看護倫理,「看護におけるKYT（危険予知トレーニング）

【11】　備考(関連科目等)

倫理学、哲学、看護学の各専門領域の授業科目

科目名(日本語)	**機能障害のある患者の看護**	必修・選択区分	授業形態	開講学期・学年	単位数
科目名(英語)	Nursing Care for Patients with Functional Disorder	必修	講義	春学期 2年	2単位 30時間
科目責任者	髙橋良幸				
担当教員	髙橋良幸・水流添秀行・日高紀久江				
科目責任者 連絡先(教室)	健康科学部棟3階K312				
オフィスアワー	講義日の昼休み13:00～13:50、並びに授業の間の休憩時間10分間に講義担当者の研究室にて受けつける。メールでの質問も受け付ける。 髙橋　良幸（K312）y.takahashi@hs.toho-u.ac.jp 水流添秀行（K323）hideyuki.turuzoe@hs.toho-u.ac.jp 日高紀久江（K333）　kikue.hidaka@hs.toho-u.ac.jp				

【１】　授業方法(ALの要素、ICTの活用等)

１－１．アクティブラーニングについて

実施する

１－２．アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素

ディスカッション、ディベート

２－１．双方向授業でのＩＣＴの活用について

活用する

２－２．ＩＣＴを活用する場合、その具体的名称（クリッカー、タブレット端末等）

ZOOM、Moodle、Google Forms

【２】　授業概要

機能障害とは、成長発達、成熟、老化していくプロセスの中で、生活習慣、疾病や治療等何らかの原因によって身体機能が一時的あるいは永久的に障害されたことをいう。本科目では、成人期を中心に身体機能が障害されたことが生命や生活に及ぼす影響、心理社会的側面への影響に目を向けながら、機能障害のある患者とその家族への基本的な看護について学ぶ。また、機能障害を持ちながら社会生活を送る患者を支え、健康生活を維持・増進させていくための看護のあり方を考察していく。

【３】　到達目標

1.さまざまな種類の機能障害とその特徴を論じることができる 。
2.さまざまな機能障害の程度を把握するための検査やフィジカルアセスメントを述べることができる。
3.それぞれの機能障害によって生じる生活への影響を具体的に述べることができる。
4.それぞれの機能障害のある患者とその家族への必要な看護について具体的に述べることができる。
5.機能障害のある患者のセルフケアの支援の方法を具体的に述べることができる。
6.機能障害のある患者の社会生活を支える看護について考えを述べることができる。

【４】　ディプロマ・ポリシーとの関連

到達目標を達成することにより、以下の能力を身につけることにつながります。

１．自然科学を看護活動の根拠とし、実践に活かす基礎的な力を有している。

２．看護学の専門知識と技術を修得している。

３．他者の多様な価値観を理解し、尊重することができる。

４．看護職の社会的責任を理解し、看護実践にまつわる倫理的課題を感受する力と熟考する力、それらに基づく判断を行動に表す力を身につけている。

５．看護専門職として、リーダーシップおよびフォロワーシップを発揮し、チームの中で有機的に活動する資質を身につけている。

６．自ら学ぼうとする好奇心をもち、生涯にわたり自己研鑽する姿勢を身につける。

【5】　授業計画

	項目	内容および授業方法 予習・復習・キーワード	担当教員
1・2	科目オリエンテーション 慢性疾患の理論と実践	内容： 1.科目オリエンテーション 2.人間の体と機能、統合体としての機能、機能障害とは 3.機能障害が生活に及ぼす影響 4.病状の進行・経過 5.慢性疾患とセルフケア 方法：講義・ディスカッション 予習：テキスト①p.4～７ 復習：授業資料の振り返り キーワード：慢性、急性、セルフケア、オレム看護論、セルフモニタリング、病みの軌跡	髙橋　良幸
3・4	血糖調節機能障害のある患者と家族への看護	内容： 1.血糖調節機能障害と１次予防、２次予防、３次予防 2.糖尿病の治療とセルフケアおよびその看護支援 3.糖尿病が生活へ与える影響とその看護支援 方法：講義 予習：テキスト①p.305～312 復習：授業資料の振り返り キーワード：耐糖能異常、三大合併症、三大治療、セルフケア、インスリン療法、低血糖予防、フットケア、血糖パターンマネジメント	水流添　秀行
5・6	循環機能障害のある患者と家族への看護	内容： 1.循環機能障害と機能障害（病態生理）、生活への影響 2.主な循環機能障害に伴う症状と検査・治療 3.循環機能障害のある患者と家族の心理面・身体面・社会面での変化の特徴 4.循環機能障害のある患者のアセスメントと看護 5.循環機能障害のある患者のセルフケア支援のポイント 6.心臓リハビリテーションのポイント 方法：講義 予習：テキスト①p.207～229、テキスト②p.282～289 復習：授業資料の振り返り キーワード：循環機能と障害、心不全、高血圧、心臓リハビリテーション	髙橋　良幸
7・8	栄養代謝機能障害のある患者と家族への看護	内容： 1.栄養代謝機能と機能障害、生活への影響 2.肝機能障害の症状と検査・治療 3.肝機能障害のある患者と家族の特徴 4.肝機能障害のある患者のアセスメント、看護実践 5.肝機能障害のある患者のセルフケア支援 方法：講義・ディスカッション 予習：テキスト①p.270～285 復習：授業資料の振り返り キーワード：栄養代謝機能障害、肝硬変、肝がん、自己管理	畑中　佳子
9・10	呼吸機能障害のある患者と家族への看護	内容： 1.呼吸機能と機能障害、生活への影響 2.主な呼吸機能障害の症状と検査・治療 3.呼吸機能障害のある患者のアセスメントと看護 4.呼吸機能障害のある患者と家族の特徴 5.呼吸機能障害のある患者のセルフケア支援 6.呼吸リハビリテーション 方法：講義 予習：テキスト①p.174～196、テキスト②p.174～189 復習：授業資料の振り返り キーワード：呼吸機能と障害、慢性閉塞性肺疾患、下降期、在宅酸素療法、症状コントロール、スティグマ、家族支援	髙橋　良幸
11・12	消化吸収機能障害のある患者と家族への看護	内容： 1.消化吸収機能と機能障害、生活への影響 2.主な消化吸収機能障害の症状と検査・治療（病態生理） 3.消化吸収機能障害のある患者と家族の特徴（身体・心理・社会的側面） 4.消化吸収機能障害のある患者のアセスメントと看護 5.消化吸収機能障害のある患者のセルフケア支援 方法：講義 予習：テキスト①p.286～297 復習：授業資料の振り返り キーワード：消化吸収機能と障害、生活環境調整、症状コントロール、心理社会的変化、誤嚥、胃ろう、大腸がん、人工肛門	水流添　秀行
13・14	腎機能障害のある患者の看護	内容： 1.腎機能と機能障害、生活への影響 2.慢性腎臓病患者の症状と検査・治療 3.腎機能障害のある患者のアセスメント 4.透析療法導入前(保存期)における看護 5.透析療法の導入期における看護 6.維持透析期における看護 7.腎機能障害の患者と家族への看護 方法：講義 予習：テキスト①p.313～330 復習：授業資料の振り返り	髙橋　良幸

		キーワード：腎機能と障害、人工透析、腹膜透析、セルフケア、生活環境調整、家族支援	
15・16	手術療法を受ける機能障害のある患者の看護の特徴	内容： 1.周手術期における看護 2.手術を受ける患者の心理的特徴、手術に伴う侵襲 3.術前、術後経過と看護（合併症予防を含む） 4.手術を受ける患者の看護展開（胃がんを例にとり） 5.社会復帰とその支援 方法：講義 予習：胃がんの原因、治療、治療に伴う合併症について調べる 復習：授業資料の振り返り キーワード：手術、危機理論、形態的変化、意思決定支援、術後合併症、早期離床、疼痛、セルフケア（術後合併症に対して）、社会復帰	水流添　秀行
17・18	化学療法、放射線療法を受ける患者の看護	内容： 1.がん薬物療法・がん放射線療法の目的・特徴 2.がん薬物療法・がん放射線療法に伴う有害事象と生活への影響 3.がん薬物療法・がん放射線療法を実施する患者への看護 方法：講義 予習：教科書①p458-488を読み化学療法・放射線療法の目的・特徴、代表的な副作用について調べる。 復習：講義内容の振り返り キーワード：がん薬物療法、がん放射線療法、有害事象、副作用、レジメン、支持療法、効果判定、CTCAE、有害事象への看護、予防的関わり、セルフケア支援、抗がん剤の暴露予防、放射線の種類、分割照射、被爆予防	水流添　秀行
19・20	運動機能障害のある患者と家族への看護	内容： 1.運動機能と機能障害、生活への影響 2.主な運動機能障害の症状と検査・治療 3.運動機能障害のある患者と家族の特徴 4.運動機能障害のある患者のアセスメント、看護実践 5.運動機能障害のある患者のセルフケア支援 方法：講義 予習：テキスト①p.381～398 復習：授業資料の振り返り キーワード：運動機能と障害、生活環境調整、セルフマネジメント	髙橋　良幸
21・22・23	脳神経機能障害のある患者と家族への看護	内容： 1.脳神経機能と機能障害 2.主な脳神経機能障害の症状と検査・治療 3.脳神経機能障害のある患者と家族の特徴 4.脳神経機能障害のある患者のアセスメントと看護 5.機能回復のためのリハビリテーション 6.退院支援 方法：講義 予習：テキスト①p.232～252、テキスト②p.114～166 復習：授業資料の振り返り キーワード：脳神経機能と障害、生活の再構成、退院調整とチーム活動、心理社会的変化、機能訓練、主体性、多職種連携・協働	日高　紀久江
24・25	血液・造血機能障害のある患者と家族への看護	内容： 1.造血機能と機能障害、生活への影響 2.主な造血機能障害の症状と検査・治療（病態生理） 3.造血機能障害のある患者と家族の特徴（身体・心理、社会的側面） 4.造血機能障害のある患者のアセスメント、看護実践 （白血病、悪性リンパ腫を例にとり） 5.造血機能障害のある患者のセルフケア支援 方法：講義 予習：テキスト①p.338～364 復習：授業資料の振り返り キーワード：造血機能と障害、生活環境調整、症状コントロール、心理社会的変化、家族支援、感染予防、貧血、白血病	水流添　秀行
26・27	泌尿器・生殖器の障害のある患者と家族への看護　授業のまとめ	内容： 1.主な排泄機能・生殖機能の障害の症状と治療 2.泌尿器・生殖器の障害のある患者と家族の特徴 3.泌尿器・生殖器の障害のある患者のアセスメント、看護実践 4.泌尿器・生殖器の障害のある患者のセルフケア支援 5.泌尿器・生殖器の障害のある患者のリハビリテーション 6.機能障害のある患者の看護のまとめ 方法：講義 予習：テキスト①p.399～441 復習：授業資料の振り返り キーワード：更年期障害、前立腺肥大、子宮／卵巣がん、子宮筋腫	髙橋　良幸

【６】　事前・事後学習とその時間

この科目は、人体の構造と機能を基盤とし、それぞれの機能が人体にとってどのような役割を担っているかを踏まえながら、その機能が障害されたときに生命や生活にどのように影響してくるかを理解しながらアセスメント方法や看護について学ぶ科目である。

【準備学習（学習上の留意点）】人体の構造と機能を基盤とするため復習して授業に臨む。

【事前学習】関連する既習科目内容の復習ならびに指定したテキストの該当部分を読んでおくために1時間程度必要となる。

【事後学習】授業内容の復習のためのノート整理、各自の学習課題等に費やすため１時間程度必要となる。

課題レポートは髙橋が担当する授業の中で提示する。

【７】　評価方法・基準
定期試験80％、課題レポート20％

【８】　フィードバック方法
リフレクションペーパー等の記載内容から補足が必要と思われる点を授業内で全体にコメントする。

【９】　教科書
①鈴木志津枝他編：慢性期看護論，第3版，ヌーヴェルヒロカワ，2014.
②原三紀子他：系統看護学講座　別巻　リハビリテーション看護，第7版，医学書院，2023.

【10】　参考書
なし

【11】　備考(関連科目等)
人体の構造と機能Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ，疾病と治療Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ，生化学、薬理学、リハビリテーション論、臨床栄養学，臨床心理学、看護学概論，臨床看護学概論，看護理論・看護展開論

科目名(日本語)	リスクマネジメント	必修・選択区分	授業形態	開講学期・学年	単位数
科目名(英語)	Risk Management	必修	演習	秋学期 2年	1単位 30時間
科目責任者	日高紀久江				
担当教員	日高紀久江・尾立篤子・楠見ひとみ・臼井雅美・渡邊尚子・佐瀬真粧美・笠間秀一・畑中佳子				
科目責任者 連絡先(教室)	リスクマネジメント概論編　担当者 日高紀久江 連絡先：kikue.hidaka@hs.toho-u.ac.jp 感染看護編　担当者 笠間秀一 連絡先：shuichi.kasama@hs.toho-u.ac.jp				
オフィスアワー	・リスクマネジメント概論編 日高担当の授業終了後10分程度講義室で質問等を受け付ける。それ以外の時間帯はMoodleにて質問を行うこと。 質問の返答はMoodleのメッセージ機能、メールまたは講義内で回答する。 ・感染看護編 笠間担当の授業終了後10分程度講義室で質問等を受け付ける。それ以外の時間帯はMoodleのメッセージ機能にて質問を行うこと。 質問の返答はMoodleのメッセージ機能または講義内で回答する。				

【１】　授業方法(ALの要素、ICTの活用等)

１－１．アクティブラーニングについて

実施する

１－２．アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素

ＰＢＬ（課題解決型学習）
ディスカッション、ディベート
グループワーク
プレゼンテーション

２－１．双方向授業でのＩＣＴの活用について

活用する

２－２．ＩＣＴを活用する場合、その具体的名称（クリッカー、タブレット端末等）

Zoom、Moodleを使用する

【２】　授業概要

本授業では、リスクマネジメント概論および、医療現場における主要なリスクである感染について学習する。
・リスクマネジメント概論
リスクマネジメントに関する基礎的知識等を習得し、看護実践への活用を学ぶ。具体的には、リスクマネジメントの概念と概念成立の歴史および動向、リスクマネジメントの基礎的知識と看護援助への活用、リスクマネジメントにおける看護師の役割と責任について学ぶ。また、看護4領域におけるリスクマネジメントの方法を理解する。（日高紀久江 等／14回）
・感染看護
感染看護に関する基礎的知識と関連法規を習得し、根拠のある感染予防策に基づく看護実践を学ぶ。具体的には、感染の成立過程、滅菌・消毒の基礎的知識と看護援助への活用、感染管理における看護師の役割と責任について学ぶ。また、職業感染防止、看護援助場面において適切な防護具の活用方法を演習し理解する。さらに、感染領域における倫理について考察する。感染看護の知識から看護計画に活用する方法を学習する。（笠間秀一／13回）

【３】　到達目標

リスクマネジメント概論
１．リスクマネジメントの歴史を学び、関連法規と医療安全の重要性について説明ができる
２．医療事故に関する基礎知識に基づいた医療事故のメカニズムについて説明ができる
３．医療事故防止の基本的な考え方について説明ができる
４．医療安全を推進するための基本的考え方について説明ができる
５．医療安全を推進するための人材育成について説明ができる
６．リスクマネジメントの知識を活かし、看護実習の4領域に特徴的な医療事故と、再発を防ぐための医療安全について説明することができる。

感染看護
１．感染症の歴史を学び、感染症の関連法規と人権尊重の重要性について説明ができる
２．臨床で重要な微生物に関する基礎知識に基づいた感染経路について説明ができる
３．人間の防御機構と微生物の関係を理解し、感染成立メカニズムの説明ができる
４．微生物の特徴と人間の行動に基づいた、感染拡大の原因・要因について論理的に説明ができる
５．看護実践における感染予防の実践根拠および感染リスクについて、エビデンスに基づいた説明ができる
６．感染症の治療・予防および感染拡大防止に伴う倫理上の問題を討議することができる
７．感染看護の知識を用いて看護計画を立案し実践することができる。

【４】　ディプロマ・ポリシーとの関連

到達目標を達成することにより、以下の能力を身につけることにつながります。

１．自然科学を看護活動の根拠とし、実践に活かす基礎的な力を有している。

２．看護学の専門知識と技術を修得している。

３．他者の多様な価値観を理解し、尊重することができる。

４．看護職の社会的責任を理解し、看護実践にまつわる倫理的課題を感受する力と熟考する力、それらに基づく判断を行動に表す力を身につけている。

５．看護専門職として、リーダーシップおよびフォロワーシップを発揮し、チームの中で有機的に活動する資質を身につけている。

６．自ら学ぼうとする好奇心をもち、生涯にわたり自己研鑽する姿勢を身につける。

【5】　授業計画

	項目	内容および授業方法 予習・復習・キーワード	担当教員
1・2	医療安全とリスクマネジメントの概念	【授業内容】 1.医療におけるリスクマネジメントの目的と関連する用語 2.リスクマネジメントの基本と方針 3.保健・福祉現場におけるリスクマネジメント 【授業方法】 講義・ディスカッション・Moodle(課題提出) 【予習・復習・レポート課題の提示】 予習：日常生活のリスクマネジメント事例をまとめる 復習：看護におけるリスマネジメントの概念の重要性を考える ミニッツペーパー：授業のポイントや理解度を確認する（Moodle） キーワード：医療安全、医療事故、関連法規	日高紀久江
3・4	医療事故のメカニズムと医療安全管理方法	【授業内容】 1. 看護をとりまく医療事故とその構造 2. 看護実践における事故防止の考え方 3. 医療安全とコミュニケーション 【授業方法】 講義・ディスカッション・Moodle(課題提出) 【予習・復習・レポート課題の提示】 予習： 最近、身の回りで起きた会話上の伝達ミスやエラーについてまとめる 復習： 自身でまとめた伝達ミス・エラーの予防について考察する ミニッツペーパー：授業のポイントや理解度を確認する（Moodle） キーワード： 医療事故の分類、ヒューマンエラー、ノンテクニカルスキル	尾立篤子
5・6	看護領域別のリスクマネジメント①母性領域	周産期医療リスクマネジメント 【授業内容】 1. 周産期における医療事故の特徴 2. 周産期医療のリスクマネジメントにおける看護職者の役割と責任 【授業方法】 講義・個人ワーク 【予習・復習・レポート課題の提示】 予習：周産期における医療事故にはどのようなものがあるか調べておく 復習：授業内容を基に、周産期医療のリスクマネジメントにおける看護職者の役割と責任についての考察と学びをレポートする。 ミニッツペーパー：授業のポイントや理解度を確認する（Moodle） キーワード：産科の訴訟リスク、ハイリスク妊娠・分娩、産科医療補償制度、産婦人科診療ガイドライン：産科編、新生児の蘇生アルゴリズム	楠見ひとみ
7・8	看護領域別のリスクマネジメント②小児領域	【授業内容】 1. 子どもの発達とリスクマネジメント 2. 小児看護における安全対策と事故防止 【授業方法】 演習・グループディスカッション 【予習・復習・レポート課題の提示】 予習：子どもの視野体験を行い、子どもの生活と安全について、ワークシートを作成する。 復習：小児看護におけるリスクマネジメントについて考えをまとめる。 ミニッツペーパー：授業のポイントや理解度を確認する（Moodle） キーワード：不慮の事故、子どもの事故防止、子どもの免疫機能と感染、危険予知トレーニング、K-SHEL分析	臼井雅美
9・10	看護領域別のリスクマネジメント③精神領域	【授業内容】 1. 精神科医療におけるリスクとは 2. 特徴的な精神症状とリスクマネジメントの概要 【授業方法】 講義・グループディスカッション 【予習・復習・レポート課題の提示】 予習：経験した実習体験の中で、対象との関わりに戸惑った場面を想起しておくこと。 復習：授業内で提示した課題を提出すること。 ミニッツペーパー：授業の理解度を確認する。 【キーワード】 精神的危機、精神科医療の特徴、人権、モラル	渡邊尚子
11・12	看護領域別のリスクマネジメント④老年・在宅領域	【授業内容】 1.　加齢や高齢者に特徴的な疾患や症状とリスクマネジメント 2.　高齢者が暮らす場における安全対策 【授業方法】 講義 【予習・復習・レポート課題の提示】 予習： 7月の臨地実習の体験を踏まえ、高齢者の「安全を脅かすもの・こと」について考えてくる。 復習：　予習で考えてきた「安全を脅かすもの・こと」について、現時点で考えられる病棟や自己の取り組みについて考えてみる。 【キーワード】 加齢、機能の低下、環境、アセスメント、安全対策 【使用テキスト】 指定なし	佐瀬真粧美

		指定なし。	
13・14	医療安全の歴史と動向	【授業内容】 1.医療安全とリスクマネジメントの歴史と動向 2.医療事故調査制度とその活用 【授業方法】 演習・グループディスカッション 【予習・復習・レポート課題の提示】 予習：医療事故の再発防止に向けた提言第6号を熟読し、医療事故と予防について考える。 https://www.medsafe.or.jp/modules/advocacy/index.php?content_id=54 復習： 医療事故と医療過誤の違いを説明する ミニッツペーパー：授業のポイントや理解度を確認する（Moodle） キーワード： 事故報告の義務化、ヒヤリハット、セイフティマネジメント、クオリティマネジメント、KAIZEN、日本医療安全調査機構	日高紀久江
15・16	医療安全と感染　看護における感染制御	【授業内容】 1.感染制御の意義 2.感染症の歴史と問題 3.日常生活で見られる感染 4.感染症と関係法規 【授業方法】 講義・ディスカッション 【ICTの活用】 Moodle Zoom（感染状況に応じて使用） 【予習・復習・レポート課題の提示】 予習：日常生活の感染事例をまとめる 復習：看護における感染対策の重要性、患者への影響を考える ミニッツペーパー：授業のポイントや理解度を確認する（Moodle） キーワード：医療安全、感染制御、市中感染、在宅医療、高齢者施設	笠間　秀一
17・18	感染症と感染対策①	【授業内容】 1.感染と免疫反応 2.病原性微生物の種類 3.感染のリスクアセスメント 【授業方法】 講義・ディスカッション・演習・Moodle(課題提出) 【予習・復習・レポート課題の提示】 予習：手指衛生（手指消毒・手洗い）の動画を視聴する 復習：演習中に作成した課題の提出（Moodle） ミニッツペーパー：授業のポイントや理解度を確認する（Moodle） キーワード：免疫、感染症、標準予防策、経路別予防策	笠間　秀一
19・20	感染症と感染対策②	【授業内容】 1.正しい個人防護具の着脱 2.N95マスクフィッティングテスト 3.ケアに応じた個人防護具の選択 4.感染症に応じた感染対策の選択 【授業方法】 演習・グループディスカッション 【予習・復習・レポート課題の提示】 予習：個人防護具の種類と目的を考える 復習：演習中に作成した課題の提出（Moodle） ミニッツペーパー：授業のポイントや理解度を確認する（Moodle） キーワード：個人防護具、経路別予防策	笠間秀一　畑中佳子
21・22	医療関連感染	【授業内容】 1.医療処置と医療関連感染 2.医療器具関連感染と予防 3.手術部位感染 4.個人防護具の選択 【授業方法】 講義・Moodle 【予習・復習・レポート課題の提示】 予習：治療に必要な医療器具の目的を調べる 復習：小テスト（Moodle） ミニッツペーパー：授業のポイントや理解度を確認する（Moodle） キーワード：医療関連感染、医療器具、医療器具関連感染、手術部位感染	笠間秀一　畑中佳子
23	医療職者の役割と職業感染	【授業内容】 1.医療職者の役割 2.職業感染と起こりやすい場面 3.職業感染予防とワクチン 【授業方法】 講義・ディスカッション 【予習・復習・レポート課題の提示】 予習：職業感染について調べる 復習：授業内容を振り返る ミニッツペーパー：授業のポイントや理解度を確認する（Moodle） キーワード：職業感染、ワクチン	笠間　秀一

24・25	感染対策の実践と倫理課題	【授業内容】 1.感染と倫理 2.感染症による倫理課題を考える 【授業方法】 グループディスカッション、プレゼンテーション 【ICTの使用】 PCとPowerPointを使用する 【予習・復習・レポート課題の提示】 予習：倫理原則、コロナウイルスによって起こった倫理課題を調べる 復習：グループで作成したプレゼンテーション資料を提出する ミニッツペーパー：授業のポイントや理解度を確認する（Moodle） キーワード：倫理原則、人権、個人情報、隔離、行動制限	笠間秀一　畑中佳子
26・27	感染症看護と感染対策	【授業内容】 1.臨床における感染症と看護 2.感染対策と看護計画立案 【予習・復習・レポート課題の提示】 予習：臨地実習の看護展開を、感染看護の観点から振り返る 復習：作成した看護計画提出（Moodle） ミニッツペーパー：授業のポイントや理解度を確認する（Moodle） キーワード：感染予防、看護計画、感染対策	笠間秀一　畑中佳子

【６】　事前・事後学習とその時間

リスクマネジメント概論編
１．準備学習
・日常生活上の経験や情報、学習中の知識の中から、医療安全に関する事例や問題、疑問などを書きとめておく
・「臨床看護学実習Ⅰ」や、受診・受療体験、身近な人の経験など、医療の場での体験を活用して学習する。そのため事前学習として、これらの経験を整理して講義に参加することが望ましい。予習に1時間程度、課題に関する復習を30分程度行うことが必要である
２．学習上の留意点
・基本知識の習得のほかは、すべて論理的思考に基づく解答の導きだしが中心となる。思考の学習は討議に参加をしていないと学習内容が不足してしまうため、積極的に授業に参加する
・オムニバス方式で行うため、授業回ごとの課題を着実に達成、疑問はその都度解決すること。そのためにも、ミニッツペーパーの活用や、教員のオフィスアワーの活用、Moodleのメッセージ機能によるコンタクトをとることに躊躇しないこと

感染看護編
１．準備学習
・日常生活上の経験や情報、学習中の知識の中から、感染に関する事例や問題、疑問などを書きとめておく
・感染伝播様式の実験で使用するため、基礎看護技術はすべて習得しておくこと
・本授業は「微生物学」「疾病と治療」「薬理学」「基礎看護技術Ⅰ・Ⅱ」などの知識を活用して学習する。そのため事前学習として、これらの予習を1時間程度行って講義に参加することが望ましい。また、課題に関する復習を30分程度行うことが必要である
２．学習上の留意点
・本単元は基本知識の習得のほかは、すべて論理的思考に基づく解答の導き出しが中心となる。思考の学習は討議に参加をしていないと学習内容が不足してしまうため、積極的に授業に参加する
・課題はグループで取り組むため、メンバー間のコミュニケーションを積極的に取り、課題解決に取り組むこと

【７】　評価方法・基準

・リスクマネジメント概論編（50%）
①成績評価：定期試験20%
②課題提出30%（課題の提出状況の評価を含む）
①②にて総合判断する。授業担当者6名が課題を出す。Moodleによる課題提出システムにより提出期限を厳格化する。提出期限を守らない場合、授業に出ていても得点不足で不合格になることがある。

・感染看護編（50%）
①成績評価：定期試験30%
②課題提出20%（課題の提出状況の評価を含む）
①②にて総合判断をする。

定期試験は、リスクマネジメント概論、感染看護それぞれの得点を合わせて60%に満たない場合は再試験とする。

【８】　フィードバック方法

学習フィードバック：ミニッツペーパーおよび質問への回答は、各講義の中で、口頭または紙面にて行う

【９】　教科書

【リスクマネジメント概論編】テキスト
・安藤恒三郎 監修「改訂版 実践これからの医療安全学」PILAR PRESS

【看護領域別のリスクマネジメント ②小児領域】テキスト
・ナーシンググラフィカ　小児看護学②（改定巻），小児看護技術，中野綾美編，メディカ出版，2023.

【感染看護編】
・講義ごとに資料を配布する

【10】　参考書

【リスクマネジメント概論編】
・講義ごとに指示する

【感染看護編】
・藤本秀士「病原体・感染・免疫」改訂3版
・岡庭豊「病気が見える⑥免疫・膠原病・感染症」第2版 第5刷
・有賀洋文「感染管理・感染症看護テキスト」第1版 第1刷

【11】　備考(関連科目等)

①微生物学　②人体の構造と機能　③疾病と治療　④看護の基本技術　⑤看護展開論　⑥薬理学
⑦プレゼンテーション論　⑧看護倫理　⑨臨床栄養学　⑩臨床看護学実習Ⅰ

感染看護学については、微生物学や基礎看護技術について、十分な理解があるものとして講義を進める。

科目名(日本語)	**看護の基本技術4（診療の補助技術）**	必修・選択区分	授業形態	開講学期・学年	単位数
科目名(英語)	Nursing Skills 4 (Medical Assistance)	必修	演習	春学期 2年	2単位 60時間
科目責任者	林京子				
担当教員	宮崎裕子・蜂ヶ崎令子・林 京子				
科目責任者 連絡先(教室)	林京子：kyoko.hayashi@hs.toho-u.ac.jp(研究室K318)				
オフィスアワー	オフィスアワー：授業終了後10分程度、授業をした講義室、演習室で受付けます。さらに、Moodleの「質問コーナー」へMoodleメッセージで質疑に応答します。				

【１】　授業方法(ALの要素、ICTの活用等)

１－１．アクティブラーニングについて

実施する

１－２．アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素

グループワーク

２－１．双方向授業でのＩＣＴの活用について

活用する

２－２．ＩＣＴを活用する場合、その具体的名称（クリッカー、タブレット端末等）

moodle

【２】　授業概要

看護実践における基礎的な技術の考え方・具体的方法・援助のプロセス･態度を学習する。基本技術4では、人々の健康を維持・促進するために必要とされる診療の補助に関わる援助技術を学習する。主な内容は、感染予防の技術、薬物療法を受ける対象者への与薬の技術、検査を受ける患者の診療の補助技術であり、看護師の役割を認識したうえで診療の補助技術を習得する。また、本科目では看護の基本的な技術の習得度を評価し、基本技術5以降の各論系援助技術の学習環境を整える。

【３】　到達目標

1.診療の補助に関わる看護援助技術の意義や背景について説明できる。
2.診療の補助に関わる看護援助技術（感染予防の技術、与薬・検査を受ける患者の援助技術、観察の技術）の実施に際して発生する倫理的な問題に対する考えを述べることができる。
3.診療の補助に関わる看護援助技術の目的・方法・根拠について、人体の構造と機能、薬理学、物理学などの知識に基づいて説明できる。
4.看護技術に必要な６つの基本要素（安全・安楽・審美・効率・経済性・自立）に基づいて、各看護援助技術を実施できる。

【４】　ディプロマ・ポリシーとの関連

到達目標を達成することにより、以下の能力を身につけることにつながります。

１．自然科学を看護活動の根拠とし、実践に活かす基礎的な力を有している。

２．看護学の専門知識と技術を修得している。

３．他者の多様な価値観を理解し、尊重することができる。

４．看護職の社会的責任を理解し、看護実践にまつわる倫理的課題を感受する力と熟考する力、それらに基づく判断を行動に表す力を身につけている。

５．看護専門職として、リーダーシップおよびフォロワーシップを発揮し、チームの中で有機的に活動する資質を身につけている。

６．自ら学ぼうとする好奇心をもち、生涯にわたり自己研鑽する姿勢を身につける。

【5】　授業計画

	項目	内容および授業方法 予習・復習・キーワード	担当教員
1回	オリエンテーション	授業方法：講義 内容：本科目の位置づけ、学習方法、評価方法、	林京子・全員
2.3回	検査の技術	授業方法：講義 内容：症状・生体機能管理、診察・検査・処置の介助 予習・復習：教科書の該当ページを読む。授業内容の復習。 キーワード：検体検査、生体検査、検体採取と取り扱い、看護技術の倫理	林京子・全員
4.5回	感染予防の技術、無菌操作／ガウンテクニック	感染予防の技術、無菌操作／ガウンテクニック 授業方法：講義・全体演習 内容：スタンダードプリコーション、ガウンテクニック、無菌操作の技術 予習・復習：教科書の該当ページを読む。授業内容の復習。自己学習ワークシートの記録・提出 キーワード：消毒・滅菌、感染防止、個人防護具（PPE）	宮崎裕子・全員
6.7回	感染予防の技術、無菌操作／ガウンテクニック	4.5と同じ	宮崎裕子・全員
8回	呼吸の援助技術、吸引／酸素吸入療法	授業方法：講義・全体演習 内容：口腔・鼻腔内吸引、酸素吸入療法の技術、ミニテスト 予習・復習：教科書の該当ページを読む。ビデオ教材を視聴する。授業内容の復習と自己練習。自己学習ワークシートの記録・提出 キーワード：呼吸の援助、口腔・鼻腔内吸引、検体採取と取り扱い、酸素吸入療法、加湿療法	蜂ヶ崎令子・全員
9.10回	呼吸の援助技術、吸引／酸素吸入療法	8と同じ	蜂ヶ崎令子・全員
11.12回	呼吸の援助技術、吸引／酸素吸入療法	8と同じ	蜂ヶ崎令子・全員
13回	排泄の援助技術、導尿	授業方法：講義・全体演習 内容：一時的導尿、ミニテスト 予習・復習：教科書の該当ページを読む。ビデオ教材を視聴する。授業内容の復習と自己練習。自己学習ワークシートの記録・提出 キーワード：排泄の援助、一時的導尿、持続的導尿、検体採取と取り扱い、尿検査	林 京子・全員
14.15回	排泄の援助技術、導尿	13と同じ	林 京子・全員
16.17回	排泄の援助技術、導尿	13と同じ	林 京子・全員
18.19回	与薬の技術、与薬の倫理	授業方法：講義・グループワーク 内容：剤形と吸収経路、与薬管理、与薬方法、誤投与防止 予習・復習：教科書の該当ページを読む。授業内容の復習。 キーワード：経口与薬、吸入、点眼、点鼻、経皮的与薬、直腸内与薬、注射、副作用の観察与薬、医療倫理原則	林 京子・全員
20.21回	与薬の技術、与薬の倫理	18.19と同じ	林 京子・全員
22回	技術チェックテスト	授業方法：技術チェックテスト 内容：診療の援助技術に関するチェックテスト 予習・復習：該当する技術の自己練習。授業内容の復習。 キーワード：吸引	林 京子・全員
23.24回	技術チェックテスト	22と同じ	林 京子・全員
25.26回	技術チェックテスト	22と同じ	林 京子・全員
27回	検査の技術、採血	授業方法：講義・全体演習 内容：採血、ミニテスト 予習・復習：教科書の該当ページを読む。ビデオ教材を視聴する。授業内容の復習。自己学習ワークシートの記録・提出。 キーワード：検体検査、血液検査、検体採取と取り扱い	林 京子・全員
28.29回	検査の技術、採血	27と同じ	林 京子・全員
30.31回	検査の技術、採血	27と同じ	林 京子・全員
32回	与薬の技術①静脈内注射・包帯法	授業方法：講義・全体演習 内容：静脈内注射、点滴静脈内注射の技術、包帯法、ミニテスト 予習・復習：教科書の該当ページを読む。ビデオ教材を視聴する。授業内容の復習と自己練習。 キーワード：与薬、静脈内注射、包帯法	蜂ヶ崎令子・全員
33.34回	与薬の技術①静脈内注射・包帯法	32と同じ	蜂ヶ崎令子・全員
35.36回	与薬の技術①静脈内注射・包帯法	32と同じ	蜂ヶ崎令子・全員
37回	与薬の技術②筋肉内注射・皮下注射	授業方法：講義・全体演習 内容：筋肉注射、皮下注射の技術、ミニテスト 予習・復習：教科書の該当ページを読む。ビデオ教材を視聴する。授業内容の復習と自己練習。自己学習ワークシートの記録・提出 キーワード：与薬、筋肉注射、皮下注射	宮崎裕子・全員

38.39回	与薬の技術②筋肉内注射・皮下注射	37と同じ	宮崎裕子・全員
40.41回	与薬の技術②筋肉内注射・皮下注射	37と同じ	宮崎裕子・全員
42.43回	これまでに学修した技術練習	授業方法：演習 内容：技術練習 予習・復習：該当する技術の関連動画視聴・ワークシート復習・技術練習	林 京子・全員
44.45回	これまでに学修した技術練習	42.43と同じ	林 京子・全員
46回	技術チェックテスト	授業方法：技術チェックテスト 内容：診療の援助技術に関するチェックテスト 予習・復習：該当する技術の自己練習。授業内容の復習。キーワード：導尿	林 京子・全員
47.48回	技術チェックテスト	46と同じ	林 京子・全員
49.50回	技術チェックテスト	46と同じ	林 京子・全員
51.52回	知識チェックテスト	授業方法：講義 内容：本科目で取り扱った看護技術に関する知識チェックテスト 予習・復習：本科目の総復習	林 京子・全員
53.54回	まとめ	授業方法：講義 内容：本科目で取り扱った看護技術に関する知識チェックテストおよびまとめ予習・復習：本科目の総復習	宮崎裕子・蜂ヶ崎令子、林 京子

【６】　事前・事後学習とその時間

１．準備学習
≪予習≫
　看護援助技術の動画視聴、ワークシートを完成させ、技術の自己練習を行ってから演習に参加する。およそ1～1.5時間を要する。
≪復習≫
　ワークシートなどの課題を、期限を守って提出する。およそ30分を要する。
　また、対象に提供できるレベルの援助技術を身につけるには、かなりの反復練習が必要となる。技術チェックテストや臨地実習にむけて、計画的に自己練習すること。
2. 学習上の留意点
　本科目は様々な技術演習を積み重ねて学習することで、診療の補助技術に関する知識と技術、態度を身につけるプログラムとなっている。本科目で修得する内容は、1年次の看護の基本技術1・2・3で習得した技術の応用だけでなく、この後に続く臨床看護学実習Ⅰや臨床看護学実習Ⅱなどの実習や、看護の基本技術5・6を学ぶために必要となる。各自、学習の計画を立てるとともに、動画教材や教員を活用して、知識と技術を積み上げていってほしい。

【７】　評価方法・基準

①知識チェックテスト（70%）、②技術チェックテスト（20%）、③自己学習状況・授業態度（ワークシートの提出状況・内容、演習前後の自己学習状況と振り返り内容）（10%）で評価する。

【８】　フィードバック方法

ワークシートに関する総評や質問への回答などは、Moodleの「質問コーナー」や授業を通じてフィードバックを行う。
技術チェックテスト、自己学習については、必要時コメントを付してフィードバックする。

【９】　教科書

系統看護学講座　専門分野　基礎看護学［3］基礎看護技術Ⅱ　第18版　任和子　医学書院　2024
その他、資料を授業の時に配布する。

【10】　参考書

【書籍】
看護技術がみえる vol.1 基礎看護技術　医療情報科学研究所　メディックメディア　2024
看護技術がみえる vol.2 臨床看護技術　医療情報科学研究所　メディックメディア　2018
基礎看護技術②基礎看護技術Ⅱ　第5版　深井喜代子　メヂカルフレンド社　2021
看護学テキストNICE基礎看護技術　第3版　香春知永、齋藤やよい　南江堂　2022
【動画教材】
丸善EVO基礎看護技術シリーズ
ナーシング・スキル日本版　https://nursingskills.jp/
その他、授業内で随時提示する。

【11】　備考(関連科目等)

「人体の構造と機能Ⅰ～Ⅲ」「微生物学」「疾病と治療Ⅰ～Ⅲ」「薬理学」「薬剤学」「看護の基本技術1～3」「臨床看護学実習Ⅰ」

科目名(日本語)	**看護の基本技術5（慢性期看護技術）**	必修・選択区分	授業形態	開講学期・学年	単位数
科目名(英語)	Nursing Skills 5 (Chronic Nursing Care)	必修	演習	秋学期 2年	1単位 30時間
科目責任者	髙橋良幸				
担当教員	髙橋 良幸、水流添 秀行、笠間 秀一、畑中 佳子、日高 紀久江				
科目責任者 連絡先(教室)	健康科学部棟3階K312				
オフィスアワー	講義日の昼休み13:00～13:50、並びに授業の間の休憩時間10分間に講義室・演習室にて受けつける。メールでの質問も受け付ける。 髙橋 良幸　(K312)　y.takahashi@hs.toho-u.ac.jp 水流添 秀行 (K323)　hideyuki.turuzoe@hs.toho-u.ac.jp 笠間 秀一　(K332)　shuichi.kasama@hs.toho-u.ac.jp 畑中 佳子　(K318)　keiko.hatanaka@hs.toho-u.ac.jp 日高 紀久江 (K333)　kikue.hidaka@hs.toho-u.ac.jp				

【１】　授業方法(ALの要素、ICTの活用等)

１－１．アクティブラーニングについて

実施する

１－２．アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素

ＰＢＬ（課題解決型学習）
反転授業
ディスカッション、ディベート
グループワーク
プレゼンテーション

２－１．双方向授業でのＩＣＴの活用について

活用する

２－２．ＩＣＴを活用する場合、その具体的名称（クリッカー、タブレット端末等）

ZOOM、Moodle、Google Forms、Google Slides

【２】　授業概要

看護の基本技術5では、回復期・慢性期・終末期にある患者への看護技術を学修する。主な内容は、悪化予防・健康の維持/増進のためのセルフケア能力を高める技術、病と共に生活する対象への看護技術、健康教育の技術であり、セルフケア能力に注目した看護技術を学修する。本科目では看護展開と同時に技術演習を行う等により、実践に即した援助技術を学修する。

【３】　到達目標

1.看護過程の目的及び方法、構成要素が説明できる 。
2.対象理解に必要な基礎知識（疾病、薬、検査、治療、発達段階など）を調べることができる。
3.対象の健康に関する情報を整理できる。
4.収集した情報をもとに対象の健康上の問題をアセスメントし、看護上の問題を見いだすことができる。
5.対象の健康に資する看護援助を計画することができる。
6.立案した看護目標および実施した看護に対する看護の評価できる。
7.セルフケアが必要な患者への支援方法を説明できる。
8.外来化学療法を受けるがん患者の症状アセスメントと支援方法が説明できる。
9.がん性疼痛を有する患者の症状アセスメントと支援方法が説明できる。
10.医療現場において事故を未然に防ぐための考え方や行動を説明できる。

【４】　ディプロマ・ポリシーとの関連

到達目標を達成することにより、以下の能力を身につけることにつながります。

１．自然科学を看護活動の根拠とし、実践に活かす基礎的な力を有している。

２．看護学の専門知識と技術を修得している。

３．他者の多様な価値観を理解し、尊重することができる。

４．看護職の社会的責任を理解し、看護実践にまつわる倫理的課題を感受する力と熟考する力、それらに基づく判断を行動に表す力を身につけている。

５．看護専門職として、リーダーシップおよびフォロワーシップを発揮し、チームの中で有機的に活動する資質を身につけている。

６．自ら学ぼうとする好奇心をもち、生涯にわたり自己研鑽する姿勢を身につける。

【5】　授業計画

	項目	内容および授業方法 予習・復習・キーワード	担当教員
1回	科目オリエンテーション 看護過程	方法：講義 内容：看護過程について 1.科目オリエンテーション 2.看護展開とは 3.看護展開の目的・方法・構成要素 4.事例の配布 5.事例における情報の解釈について 予習： 教科書のp13-19の精読 復習： 配布資料の指定した箇所の精読 課題： 授業で指示した内容 キーワード：徹底的検討法、情報収集、解釈、分析、推論、判断、アセスメント、全体像、看護上の問題、看護目標、看護計画、実施と評価、クリティカルシンキング	髙橋　良幸、水流　添　秀行
2・3回	健康の回復を支援する看護の展開（情報の理解と解釈）	方法：演習・グループワーク 内容： １．模擬事例における情報の理解・解釈 ２．機能的健康パターン概説 健康知覚・健康管理、栄養・代謝、排泄、活動―運動、認知―知覚、役割―関係、睡眠―休息、自己知覚―自己概念、セクシャリティー、コーピング―ストレス、価値―信念パターン ３．強み、健康上の問題を特定する分析方法 予習： 教科書p82－87の精読 復習： 配布資料の指定した箇所の精読 課題： 授業で指示した内容 キーワード： データ、情報、基準、人間の反応パターン、逸脱	髙橋　良幸、水流　添　秀行
4－９回	健康の回復を支援する看護の展開（健康パターンの分析）	方法：演習・グループワーク 内容：機能的健康パターンによるアセスメントの実際 統合アセスメント、全体関連図、仮の看護の問題の解説 健康知覚・健康管理、栄養・代謝、排泄、活動―運動、認知―知覚、役割―関係、睡眠―休息、自己知覚―自己概念、セクシャリティー、コーピング―ストレス、価値―信念パターンの分析 予習： 事前に配布した資料の精読 復習： 配布資料の指定した箇所の精読 課題： 授業で指示した内容 キーワード：検査値、患者の状態、患者の認識、分析の視点、判断、看護で解決できる問題、共同問題	髙橋　良幸、水流　添　秀行
10・11回	健康の回復を支援する看護の展開（情報の整理と統合）	方法：グループワーク・講義 内容：情報の整理と統合 １．全体関連図、情報の整理と統合、看護上の問題の特定、統合アセスメントについてのグループワーク ２．看護計画の立案についての解説 予習： 事前に配布した資料の該当箇所の精読 復習： 配布資料の指定した箇所の精読 課題：授業で指示した内容 キーワード：全体関連図、病態関連図、全体像、発達段階、健康上の問題、看護上の問題、看護上の問題の優先度、実在型問題、潜在型問題、ヘルスプロモーション型問題	髙橋　良幸、水流　添　秀行
12・13回	健康の回復を支援する看護の展開（看護計画）	方法：グループワーク・講義 内容：看護計画の立案 １．看護上の問題の特定、看護の目標設定、看護の具体策の立案についてのグループワーク ２．退院指導について解説 予習： 事前に配布した資料の精読 復習： 配布資料の指定した箇所の精読 課題： 授業で指示した内容 キーワード：健康的パターン、健康障害的パターン、看護上の問題、看護目標、具体策、成果となる指標、手順、期日設定、評価の視点、退院指導	髙橋　良幸、水流　添　秀行
14・15回	健康の回復を支援する看護の展開（発表）	方法：演習・グループ発表 内容：看護計画の発表と講評 予習： 事前に配布した資料の精読 復習： 配布資料の指定した箇所の精読 課題： 授業で指示した内容 キーワード：看護計画	髙橋　良幸、水流　添　秀行
16-17回	退院指導と事故予防	方法：演習・講義 内容： 1. 事例の退院指導の実施と評価 2. 医療現場におけるインシデント・アクシデントの予防 3. 治療食とその支援方法 予習： 事前に配布した資料の精読 復習： 配布資料の指定した箇所の精読 課題： 授業で指示した内容 キーワード：退院指導、セルフケア、インシデント、アクシデント、事故予防、ヒヤリハット、危険予知	髙橋　良幸、水流　添　秀行、笠間　秀一、畑中　圭子、日高　紀久江

18 - 20回	血糖調節機能障害を有する人への看護技術	方法：演習・講義 内容： 1. 血糖の自己測定方法 2. 血糖自己測定の指導方法 3. インスリン自己注射 4. インスリン自己注射指導 5. 成人・高齢者のセルフケア支援方法 6. 化学療法について 予習： 事前に配布した資料の精読 復習： 配布資料の指定した箇所の精読 課題： 授業で指示した内容 キーワード：医療機器、血糖自己測定、インスリン自己注射、成人学習理論、清潔操作、針刺し事故、低血糖	髙橋　良幸、水流添　秀行、笠間　秀一、畑中　圭子、日高　紀久江
21回	外来化学療法を受ける患者への看護の展開	方法：講義・グループワーク 内容： 1. 外来がん化学療法 2. 外来がん化学療法を受ける患者のアセスメント 3. 外来がん化学療法を受ける患者への看護 予習： 事前に配布した資料の精読 復習： 配布資料の指定した箇所の精読 課題： 授業で指示した内容 キーワード：化学療法、有害事象、副作用、パフォーマンスステイタス、アセスメント、セルフケア支援、外来、臨床推論	水流添　秀行、高橋　良幸
22・23回	外来化学療法を受ける患者への 看護の展開の発表	方法：グループワーク・グループ発表 内容：外来がん化学療法患者事例への看護の発表 予習：事前に配布した資料の精読 復習：配布資料の指定した箇所の精読 課題：授業で指示した内容 キーワード：化学療法、有害事象、副作用、パフォーマンスステイタス、アセスメント、セルフケア支援、外来	水流添　秀行、高橋　良幸
24・25回	がん性疼痛に対する看護	方法：講義 内容： がん性疼痛の生じる原因と痛みの種類、アセスメント方法、がん性疼痛に対する看護方法 予習： 事前に配布した資料の精読 復習： 配布資料の指定した箇所の精読 課題： 授業で指示した内容 キーワード：緩和ケア、トータルペイン、がん性疼痛、疼痛の評価、NSAIDs、オピオイド、鎮痛補助薬、麻薬の副作用、疼痛の閾値を下げ る、がん性疼痛に対する看護	水流添　秀行、高橋　良幸
26・27回	終末期患者の理解　授業のまとめ	方法：講義・グループワーク 内容： 1. 死生観について考える 2. ターミナルケアとは 3. 授業のまとめ 予習： 事前に配布した資料の精読 復習： 配布資料の指定した箇所の精読 課題： 授業で指示した内容 キーワード：死生観、ACP、意思決定、代理意思決定、ターミナルケア、グリーフケア、スピリチュアルペイン、臨床推論、臨床判断	水流添　秀行、高橋　良幸

【６】　事前・事後学習とその時間

この科目は、がんを含む慢性疾患を有する人の諸機能が障害されたときに生命や生活にどのような影響が及ぶのかを認識・解釈・判断しながら、必要な看護方法及び看護技術を学ぶ科目である。 そのため、人体の構造と機能及び病態生理の既修得の知識を確認しながら授業に臨む必要がある。

【準備学習（学習上の留意点）】人体の構造と機能及び病態生理を復習して授業に臨む。

【事前学習】関連する既習科目内容の復習ならびに指定したテキストの該当部分を読んでおくために1時間程度必要となる。

【事後学習】授業内容の復習のためのノート整理、課題等に費やすため１時間程度必要となる。

【７】　評価方法・基準

課題85%（ワークシート、レポート、発表）、ミニテスト15%

【８】　フィードバック方法

課題及びリアクションペーパー等の記載内容から補足が必要と思われる点について授業内で解説・Moodle上でコメントをする。

【９】　教科書

・渡邊トシ子　編：実践看護アセスメント― ヘンダーソン・ゴードンの考えに基づく，ヌーヴェルヒロカワ，第3版，2011

・小松浩子他：系統看護学講座　別巻　がん看護学，第3版，医学書院，2022.

【10】　参考書

・永田明，石川ふみよ監修：看護がみえる　Vol4　看護過程の展開，MEDIC MEDIA，2020.
・日本糖尿病教育・看護学会編：糖尿病看護ベストプラクティス　インスリン療法，日本看護協会出版会，2014.
・実物大そのまんま料理カード：食事コーディネートのための主食・主菜・副菜料理カード / 足立己幸企画監修 ; 平本福子料理制作・関連データ監修 ; きほんの食事編. -- 第2版. -- 群羊社，2022.
・実物大そのまんま料理カード：外食・中食+家庭のきほん料理 : 食事のコーディネイトのための主食・主菜・副菜料理カード / 足立己幸監修. -- 群羊社，2013. --（群羊社のたのしい食育教材シリーズ）.
・一般社団法人日本臨床腫瘍薬学会監修,遠藤一司他編集：改定第7版がん化学療法レジメンハンドブック 治療現場で生かせる知識・注意点から服薬指導・副作用対策まで，株式会社羊土社，2022
・岡本るみ子他編集：がん化学療法副作用ハンドブック第3版 副作用の予防・治療から、抗がん剤の減量・休薬の基準、外来での注意点まで，羊土社，2022
・佐藤禮子監修，浅野美知恵編集：絵でみるターミナルケア［改訂版］　人生の最期を生き抜く人への限りない援助，学研，2023

【11】　備考(関連科目等)

看護学概論、人体の構造と機能Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ，疾病と治療Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ，臨床心理学、薬理学、臨床心理学、発達看護論、援助的人間関係論、臨床看護学概論、看護の基本技術１・２・３・４、看護理論・看護展開論、機能障害のある患者と看護、臨床栄養学、リハビリテーション論

科目名(日本語)	**臨床看護学実習Ⅰ**	必修・選択区分	授業形態	開講学期・学年	単位数
科目名(英語)	Clinical Nursing Practicum Ⅰ	必修	実習	春学期 2年	3単位 135時間
科目責任者	蜂ヶ崎令子				
担当教員	尾立 篤子、日高 紀久江、蜂ヶ崎 令子、宮崎 裕子、高橋 良幸、瀧口 千枝、松浦 麻子、笠間 秀一、水流添 秀行、林 京子、畑中 佳子、鈴木 俊美				
科目責任者 連絡先(教室)	蜂ヶ崎令子：研究室（K314）reiko.hachigasaki@hs.toho-u.ac.jp,				
オフィスアワー	実習終了後30分、各実習施設の学生控え室にてオフィスアワーを設ける。 それ以外で連絡を取りたいときは、実習用携帯で連絡を取ること。				

【１】　授業方法(ALの要素、ICTの活用等)

１－１．アクティブラーニングについて

実施する

１－２．アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素

実習、フィールドワーク

２－１．双方向授業でのＩＣＴの活用について

活用する

２－２．ＩＣＴを活用する場合、その具体的名称（クリッカー、タブレット端末等）

Moodle

【２】　授業概要

受け持ち患者の全体像を把握するとともに、症状のある患者の健康生活上の援助ニーズをニード論・援助論に基づいて理解する。系統的アセスメントに基づいて、身体・心理状況に応じた日常生活の援助を計画立案し、実施・評価することにより、看護過程の展開を体験する。また、看護／臨床倫理の現象の理解を深める。さらに、実習のリフレクションを通して、患者中心の看護について考察する。
（＊実践的教育として構成する授業科目）

【３】　到達目標

1.病気や入院が受け持ち患者の身体や精神の活動、社会生活に及ぼす影響について理解できる。
2.患者の日常生活行動の援助を中心に、看護展開のプロセスを体験できる。
3.臨地における人間関係を築くための基本的スキルを身につける。
4.看護活動の見学や実践を通して、看護への理解を深める。
5.自己の課題を明らかにし、自分自身を育むことができる。

【４】　ディプロマ・ポリシーとの関連

到達目標を達成することにより、以下の能力を身につけることにつながります。

１．自然科学を看護活動の根拠とし、実践に活かす基礎的な力を有している。

２．看護学の専門知識と技術を修得している。

３．他者の多様な価値観を理解し、尊重することができる。

４．看護職の社会的責任を理解し、看護実践にまつわる倫理的課題を感受する力と熟考する力、それらに基づく判断を行動に表す力を身につけている。

５．看護専門職として、リーダーシップおよびフォロワーシップを発揮し、チームの中で有機的に活動する資質を身につけている。

６．自ら学ぼうとする好奇心をもち、生涯にわたり自己研鑽する姿勢を身につける。

【５】　授業計画

	項目	内容および授業方法 予習・復習・キーワード	担当教員
	実習概要	※詳細は実習要項に示す。 【実習スケジュール】 〈実習オリエンテーション〉 ・本科目の特徴、ねらい、到達目標などを説明 ・臨地実習に関する諸注意 ・グループメンバー、担当教員との顔合わせ 〈第1週目〉 ・技術演習：既習の観察技術、日常生活援助技術の再確認 ・看護過程展開方法の再確認 ・病棟オリエンテーション ・ケアシャドーイング ・中間まとめ（ミニ講義・グループワークと発表） 〈第2週目〉 ・患者紹介 ・受け持ち患者の理解 ・アセスメントと問題の抽出 ・援助計画の立案 ・看護援助の実施と評価 ・再アセスメントと計画の見直し ・実習記録の作成 ・ケースカンファレンス 〈第3週目〉 ・看護援助の実施と評価 ・再アセスメントと計画の見直し ・実習記録の作成 ・ケースカンファレンス ・倫理的問題についてのカンファレンス ・最終カンファレンス 〈まとめ〉 ・実習のまとめ（ミニ講義・グループワークと発表） ・個別面接 ・実習記録の作成･提出	全員
	実習施設	東邦大学医療センター佐倉病院、東邦大学医療センター大森病院、千葉県済生会習志野病院	全員
	授業方法	・事前学習とまとめを含め、臨地および学内でグループごとに3週間の実習を行う。 ・学生は、1週目にケアシャドーイングの実施、2週目より原則として１名以上の患者を受け持ち、対象理解や人間関係の構築、看護展開を体験する。ケアシャドーイングでは、ケアの見学および看護師と一緒にケアを一部実施する。 ・記録や報告、カンファレンスを通して自己をふり返り、学習を進める。 ・中間まとめ、実習のまとめの際に行われるグループワークと発表を通して、実習での学修内容を共有し、学びを深める。 ・実習最終日に、グループワークや教員との個別面接を通して実習のふり返り、自己の課題を明らかにする。 【キーワード】 ヘンダーソン看護理論、対象理解、観察技術、日常生活援助技術、看護展開、カンファレンス、報告･連絡･相談	全員

【６】　事前・事後学習とその時間

〈準備学習：8時間以上〉
・観察（バイタルサイン測定、フィジカルアセスメント）や日常生活の援助（清潔の援助、排泄の援助、食事の援助、活動と休息の援助、安楽の援助）など、これまでに学んだ技術を練習しておく。（3時間）
・既習の人体の構造と機能などの専門基礎教育科目、看護専門教育科目の知識がすぐに活用できるよう、ノートや参考資料などを整理しておく。（3時間）
・看護展開論の学習内容を整理しておく。（2時間）

〈事後学習：1時間程度〉
・実習終了時に、行った看護援助をサマリーとしてまとめて、提出する。（1時間程度）

〈学習上の注意〉
・実習のオリエンテーションに必ず出席する。
・グループメンバー全員で協力して学習が深まるように取り組む。
・健康な状態で実習に臨めるよう生活リズムを整えておく。

【７】　評価方法・基準

実習評価表と面接、実習記録類に基づく目標達成度評価、実習への取り組み姿勢（実習中の自律性、協調性、主体性、倫理性を態度や発言、記録物の提出状況などから評価する）：100%

【８】　フィードバック方法

フィードバック方法：実習中は、実習記録や目標達成状況、取り組み姿勢について担当教員より口頭や添削によるフィードバックを行う。実習最終日に、教員と個別面接を通じ、より個別で具体的なフィードバックを行う。提出した実習記録を教員が添削し、学生に返却する。

【９】　教科書

なし

【10】　参考書

看護学生のための　実習のまえに読む本，田中美穂／蜂ヶ崎令子，医学書院
その他、実習オリエンテーション時に参考図書・資料を提示する。

【11】　備考(関連科目等)

看護学概論、人体の構造と機能Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、疾病と治療Ⅰ・Ⅱ、看護理論・展開論、看護の基本技術１～４

科目名(日本語)	**小児看護学概論**	必修・選択区分	授業形態	開講学期・学年	単位数
科目名(英語)	Introduction to Child Health Nursing	必修	講義	春学期 2年	1単位 15時間
科目責任者	臼井雅美				
担当教員	臼井雅美				
科目責任者 連絡先(教室)	臼井連絡先：masami.usui@hs.toho-u.ac.jp（臼井研究室：健康科学部棟　3階　K331）				
オフィスアワー	原則、授業開講日　16:20～18:00（臼井研究室）にて質問を受け付ける。 但し、他の授業や会議の場合もあるので、質問はMoodleの質問コーナーを活用する。個人的に確認したことがある場合は、臼井までメールにて問い合わせる。masami.usui@hs.toho-u.ac.jp				

【１】　授業方法(ALの要素、ICTの活用等)

１－１．アクティブラーニングについて

実施する

１－２．アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素

ディスカッション、ディベート
グループワーク

２－１．双方向授業でのＩＣＴの活用について

活用する

２－２．ＩＣＴを活用する場合、その具体的名称（クリッカー、タブレット端末等）

Moodle、スマートフォン

【２】　授業概要

小児看護の対象や目標・役割を理解し、小児医療・看護の変遷について諸外国と比較しながら学ぶとともに、子どもの権利を保障し、子どもの最善の利益が得られる看護とは何か、今後の小児看護の在り方について考えを深める。子どもと家族をとりまく社会の変化から、小児保健の動向と施策、子どもの教育と看護の現状について理解する。子どもの生活を支える成長・発達過程を理解し、生活行動の変化と日常生活の支援について理解する。現代社会における子どもや家族が抱える生活や健康における課題を考察する。

【３】　到達目標

1. 小児看護の対象や目標・役割について具体的に説明できる。
2. 諸外国およびわが国における小児医療や小児看護の変遷について具体的に説明できる。
3. 子どもの権利や倫理的配慮から、小児看護の倫理的課題を説明できる。
4. 子どもと家族をとりまく社会の変化から、小児保健の動向と施策の現状について具体的に説明できる。
5. 子どもの生活を支える成長と機能の発達について具体的に説明できる。
6. 子どもの発達に伴う生活行動の変化と日常生活の支援について具体的に説明できる。
7. 子どもの発達と健康問題から、現代社会における課題について説明できる。

【４】　ディプロマ・ポリシーとの関連

到達目標を達成することにより、以下の能力を身につけることにつながります。

１．自然科学を看護活動の根拠とし、実践に活かす基礎的な力を有している。

２．看護学の専門知識と技術を修得している。

３．他者の多様な価値観を理解し、尊重することができる。

４．看護職の社会的責任を理解し、看護実践にまつわる倫理的課題を感受する力と熟考する力、それらに基づく判断を行動に表す力を身につけている。

５．看護専門職として、リーダーシップおよびフォロワーシップを発揮し、チームの中で有機的に活動する資質を身につけている。

６．自ら学ぼうとする好奇心をもち、生涯にわたり自己研鑽する姿勢を身につける。

【5】　授業計画

	項目	内容および授業方法 予習・復習・キーワード	担当教員
1･2	小児看護の概念	学習内容：1）小児看護の対象・目標・役割　2）小児医療・看護の変遷　3）子どもの権利と倫理 方法：講義 予習：テキスト①p16-37を読む 復習：課題ワークシート キーワード：子どもとは，児童憲章，子どもの権利条約，児童福祉法，母子保健法，小児期の区分，小児の特性，子どもの権利、子ども観，小児専門看護師，子どもの最善の利益，意見表明権，インフォームド・アセント，アドボカシー	臼井　雅美
3･4	子どもを取り巻く社会と小児看護	学習内容：1）小児と家族の保健統計　2）子どもと家族を取り巻く社会 3）小児に関する施策と法律 方法：講義・グループワーク 予習：テキスト①p38-61を読む 復習：ミニテスト① キーワード：合計特殊出生率，周産期死亡，乳児死亡，不慮の事故，児童福祉，母子保健，未熟児養育医療，小児慢性特定疾患治療研究事業、自立支援医療，結核児童療育医療，予防接種，学校保健，いじめ・不登校	臼井　雅美
5･6	子どもの生活を支える成長と発達①	学習内容：1）子どもの生活行動とは　2)生活を支える形態的成長 3）生命を維持し恒常性を保つ機能の発達 方法：講義 予習：テキスト①p82-91，106-109，143-146，161-164を読む 復習：ミニテスト② キーワード：呼吸，循環，体温調節，消化機能，水分代謝，血液，免疫	臼井　雅美
7･8	子どもの生活を支える成長と発達②	学習内容：4）動く　5）眠る　6）身だしなみを整える　7）性を生きる 方法：講義 予習：テキスト①p90-91,98-99,132-133,133-135,149-150,172を読む 復習：ミニテスト③ キーワード：原始反射，姿勢反射，粗大運動，微細運動，サーカディアンリズム，成長ホルモン，ステート，乳幼児突然死症候群（SIDS），夜泣き，生活習慣，二次性徴	臼井　雅美
9･10	子どもの生活を支える成長と発達③	学習内容：5）食べる　6）排泄する 方法：講義 予習：テキスト①p95-98,120-131を読む 復習：ミニテスト④ キーワード：食育，食育基本法，授乳・卒乳，離乳食，排尿機能，排泄機能，胎便，おむつ，トイレトレーニング，清潔行動の発達，衣服の着脱	臼井　雅美
11･12	子どもの生活を支える成長と発達④	学習内容：7）見る・聞く・話す　8）感じる・考える 方法：講義 予習：テキスト①p91-94,110-111,146-149,164-165,184-186を読む 復習：ミニテスト⑤ キーワード：視覚，聴覚，味覚，触覚，皮膚感覚，注視，追視，喃語，一語文，二語文，情緒の分化，ピアジェの認知の発達，反抗期，アニミズム，道徳性，	臼井　雅美
13	子どもの生活を支える成長と発達⑤	学習内容：9）人と関わる　10）遊ぶ・学ぶ 方法：講義 予習：テキスト①99,p111-113,140-141,148,150,156-157,165-166,168-176を読む 復習：ミニテスト⑥ キーワード：親子関係，きょうだい関係，友人関係，愛着，母子相互作用，ギャング集団，遊びの機能，遊びの発達，遊びの分類，玩具・おもちゃ	臼井　雅美
14	子どもの発達と現代社会における課題	学習内容：1）小児期各期の健康課題　2）現代社会における課題 方法：講義・グループワーク（ディスカッション） 予習：テキスト①p95,100-101,114-122,154-157,166-173,p25-26を読む 復習：課題レポート キーワード：事故，感染，特別支援教育，臓器移植	臼井　雅美

【6】　事前・事後学習とその時間

【準備学習】
この授業は、子どもが家族や家庭、社会との良好な関係の中で、健康で自律した大人に成長発達していく過程を学び、自らの子ども観を深めていくため、小児看護の関連内容を理解するため、予習1時間程度、復習2時間程度を費やす。
【学習上の留意点】
本科目は、学生が初めて子どもに対する看護学を学ぶものであるが、発達看護論等と深く関わりがあるので既習学習項目について理解を深めておくこと。

【7】　評価方法・基準

定期試験50%、課題30%、ミニテスト20%

【8】　フィードバック方法

課題は総評を伝える。ミニテストは次回の授業で正解を示し、解説を行う。

【９】　教科書

①ナーシンググラフィカ　小児看護学①，小児の発達と看護，第7版，中野綾美編，メディカ出版，2025.
②ナーシンググラフィカ　小児看護学②，小児看護技術，第5版，中野綾美編，メディカ出版，2025.
③ナーシンググラフィカ　小児看護学③，小児の疾患と看護，第3巻，中野綾美編，メディカ出版，2025.

【10】　参考書

看護のための人間発達学（第5版），舟島なおみ・望月美知代著，医学書院，2017.
新版　小児生理学，馬場一雄監修，へるす出版，2009.
国民衛生の動向，厚生労働統計協会編，厚生労働統計協会，最新版.
母子保健の主なる統計，母子衛生研究会編，母子保健事業団，最新版
日本子ども資料年鑑，日本子ども家庭総合研究所編，KTC中央出版，最新版
看護形態機能学　生活行動から見るからだ（第4版），菱沼典子，日本看護協会出版，2017.

【11】　備考(関連科目等)

予め学んでおくと良い科目：健康科学概論，コミュニケーション論，心理学，教育学，看護学概論，発達看護論，コミュニティヘルス看護概論
この科目に続く内容の科目：小児看護学方法論，看護の基本技術7，ファミリーヘルス看護論，小児看護学実習，リスクマネジメント，ターミナルケア

科目名(日本語)	**小児看護学方法論**	必修・選択区分	授業形態	開講学期・学年	単位数
科目名(英語)	Pediatric Nursing Methodology	必修	講義	秋学期 2年	1単位 15時間
科目責任者	臼井雅美				
担当教員	臼井雅美・林華子・岩切正順				
科目責任者 連絡先(教室)	臼井連絡先：masami.usui@hs.toho-u.ac.jp（研究室K331）				
オフィスアワー	授業開講日　16:20～18:00（331研究室）なおメールおよびMoodleのメッセージからの問い合わせにも応じる ＊但し、研究室を訪ねる場合は、メールで事前に連絡すること。 臼井：masami.usui@hs.toho-u.ac.jp（研究室K331）．林華子：hanako-hayashi@ns.toho-u.ac.jp（研究室K324），岩切正順：seijun-iwakiri@ns.toho-u.ac.jp（東邦大学医療センター佐倉病院看護部NICU）				

【１】　授業方法(ALの要素、ICTの活用等)

１－１．アクティブラーニングについて

実施する

１－２．アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素

ディスカッション、ディベート
グループワーク

２－１．双方向授業でのＩＣＴの活用について

活用する

２－２．ＩＣＴを活用する場合、その具体的名称（クリッカー、タブレット端末等）

Moodle

【２】　授業概要

子どもの健康レベルと健康障害について理解し、子どもの苦痛の緩和、健康の回復、あるいは穏やかな死に向けての支援を学ぶ。健康障害だけでなく、入院生活や在宅療法、災害や虐待などの生活環境が子どもとその家族にどのような影響を及ぼすのかについても理解する。その中で、病気や障がいをもつ子どもが社会の中でその人らしく生き生きと生活し、よりよい成長・発達がとげられるような支援について家庭や地域との連携の中で理解することができる。
なお、本科目は公衆衛生看護学における母子保健活動を学修するための基礎となる科目である。
（臼井雅美／8回）健康障害が子どもと家族に及ぼす影響と看護、急性期にある子どもと家族の看護、慢性期にある子どもと家族の看護、終末期にある子どもと家族の看護、心身障がいのある子どもと家族の看護、在宅における子どもと家族の看護、虐待を受けている子どもと家族の看護、災害を受けた子どもと家族の看護。
（林華子／4回）検査や処置を受ける子どもと家族の看護、手術を受ける子どもと家族の看護、入院における子どもと家族の看護、外来における子どもと家族の看護
（岩切正順／2回）集中治療を受ける子どもと家族の看護、ハイリスク新生児および医療処置を受ける新生児と家族の看護

【３】　到達目標

1. 子どもの病気に対する理解と健康障害が子どもと家族に及ぼす影響と看護について説明できる。
2. 急性期にある子どもと家族の特徴およびアセスメントの視点と必要な看護について説明できる。
3. 慢性期にある子どもと家族の特徴およびアセスメントの視点と必要な看護について説明できる。
4. 子どもの死の概念発達とその特徴および終末期にある子どもの緩和ケアやQOLを支援する子どもと家族への看護について説明できる。
5. 検査・処置を受ける子どもと家族の特徴および必要な看護について説明できる。
6. 子どもの手術の特徴と手術を受ける子どもと家族の特徴および必要な看護について説明できる。
7. 子どもを対象とする外来の特徴と外来受診する子どもと家族の特徴および必要な看護について説明できる。
8. 子どもを対象とする入院環境の特徴と入院中の子どもと家族の特徴および必要な看護について説明できる。
9. 集中治療を受ける子どもと家族の特徴および必要な看護について説明できる。
10. ハイリスク新生児・先天的な健康問題をもつ子どもと家族の特徴および必要な看護について説明できる。
11. 心身障がいのある子どもと家族の特徴および必要な看護について説明できる。
12. 在宅で療養生活を必要とする子どもと家族への必要な援助と継続的支援の重要性について説明できる。
13. 災害による子どもへの影響と災害を受けた子どもと家族に必要な看護について説明できる。
14. 子どもへの虐待の特徴と虐待を受けている子どもと家族に必要な看護について説明できる。

【４】　ディプロマ・ポリシーとの関連

到達目標を達成することにより、以下の能力を身につけることにつながります。

１．自然科学を看護活動の根拠とし、実践に活かす基礎的な力を有している。

２．看護学の専門知識と技術を修得している。

３．他者の多様な価値観を理解し、尊重することができる。

４．看護職の社会的責任を理解し、看護実践にまつわる倫理的課題を感受する力と熟考する力、それらに基づく判断を行動に表す力を身につけている。

５．看護専門職として、リーダーシップおよびフォロワーシップを発揮し、チームの中で有機的に活動する資質を身につけている。

６．自ら学ぼうとする好奇心をもち、生涯にわたり自己研鑽する姿勢を身につける。

【5】　授業計画

	項目	内容および授業方法 予習・復習・キーワード	担当教員
1	健康障害のある子どもと家族	健康障害が子どもと家族に及ぼす影響と看護 方法：講義 予習：テキスト①p192～p210を読む 復習：ミニテスト① キーワード：健康障害、インフォームドアセント、プレパレーション、ディストラクション、ストレス、ストレスコーピング	臼井　雅美
2	子どもの健康障害の経過と看護Ⅰ	急性期にある子どもと家族の看護 方法：講義 予習：テキスト①p228～p237を読む 復習：ミニテスト② キーワード：急性期、急性症状、予備能力、危機モデル、トリアージ、意識レベル、小児救急医療、医療ネグレクト	臼井　雅美
3	子どもの健康障害の経過と看護Ⅱ	慢性期にある子どもと家族の看護 方法：講義 予習：テキスト①p237～p251､p406～p421（移行期事例），テキスト②p510～p515（移行期支援医療）を読む 復習：ミニテスト③ キーワード：慢性期、慢性疾患、小児慢性特定疾患治療研究事業、セルフケア、エンパワーメント、アドヒアランス、復学支援、キャリーオーバー，移行期医療	臼井　雅美
4	子どもの健康障害の経過と看護Ⅲ	終末期にある子どもと家族の看護 方法：講義 予習：テキスト①p252～p268を読む 復習：ミニテスト④ キーワード：終末期、子どもの死の概念、全人的苦痛、スピリチュアルケア、子どもの納得と代弁、緩和ケア、デスエデュケーション、家族の悲嘆プロセス、グリーフケア	臼井　雅美
5	さまざまな状況にある子どもと家族の看護Ⅰ	検査や処置を受ける子どもと家族の看護 方法：講義 予習：テキスト①p268～p279を読む 復習：ミニテスト⑤ キーワード：ディストラクション、プレパレーション、痛み	林　華子
6	さまざまな状況にある子どもと家族の看護Ⅱ	手術を受ける子どもと家族の看護 方法：講義 予習：テキスト①p279～p290を読む 復習：ミニテスト⑥ キーワード：子どもにとっての手術、姑息手術、根治手術、緊急手術、計画手術、日帰り手術、術前プレパレーション	林　華子
7	さまざまな状況にある子どもと家族の看護Ⅲ	外来における子どもと家族の看護 方法：講義 予習：テキスト②p291～p297を読む 復習：ミニテスト⑦ キーワード：一次医療機関、二次医療機関、三次医療機関、トリアージ、小児初期評価トライアングル	林　華子
8	さまざまな状況にある子どもと家族の看護Ⅳ	入院における子どもと家族の看護 方法：講義 予習：テキストp34～35、P192～210を読む テキストP207図3.1-5「小児の入院が家族に及ぼす影響」の動画視聴 復習：ミニテスト⑧ キーワード：子どもにとっての入院、入院環境、事故防止、小児病棟、緊急入院、計画的な入院	林　華子
9	さまざまな状況にある子どもと家族の看護Ⅴ	集中治療を受ける子どもと家族の看護 方法：講義 予習：テキスト②p334～p343を読む 復習：ミニテスト⑨ キーワード：PICU、NICUクリティカルな状況、コンプライアンス	岩切　正順
10	さまざまな状況にある子どもと家族の看護Ⅵ	ハイリスク新生児および先天的な健康問題をもつ子どもと家族の看護 方法：講義 予習：テキスト①p343～p369を読む 復習：ミニテスト⑩ キーワード：低出生体重児、ハイリスク新生児、先天異常、NICU、ディベロップ・メンタルケア	岩切　正順
11	さまざまな状況にある子どもと家族の看護Ⅶ	心身障害のある子どもと家族の看護 方法：講義・グループワーク（ディスカッション） 予習：テキスト①p369～p383（事例），テキスト③p226～p234を読む 復習：課題1「障がい児に起こりやすい健康障害と看護」 キーワード：身体障害、発達障害、重症心身障害児、ノーマライゼーション、デイケア、療育、特別支援学校、親の会	臼井　雅美

12	さまざまな状況にある子どもと家族の看護Ⅷ	在宅における子どもと家族の看護方法：講義 予習：テキスト① p297～p310，p396～406（在宅での終末期），テキスト②p492～508（地域における医療的ケア児と家族への看護）を読む 復習：授業内容についてテキスト、関連文献等で振り返る。 キーワード：医療的ケア、小児等在宅医療連携拠点事業、機能強化型訪問看護ステーション、 レスパイト	臼井　雅美
13	さまざまな状況にある子どもと家族の看護Ⅸ	災害を受けた子どもと家族の看護 方法：講義 予習：テキスト①p310～p320を読む 復習：ミニテスト⑪ キーワード：災害弱者、災害サイクル、災害看護、トラウマ、急性ストレス障害、PTSD	臼井　雅美
14	さまざまな状況にある子どもと家族の看護Ⅹ	虐待を受けている子どもと家族の看護 方法：講義 予習：テキスト①p320～p330を読む 復習：ミニテスト⑫ キーワード：児童虐待、反応性愛着障害、リミットテスティング、デブリーフィング	臼井　雅美

【６】　事前・事後学習とその時間

【準備学習】
本科目を履修するにあたり、発達看護論、小児看護学概論、コミュニティヘルス看護概論、疾病と治療Ⅲの講義内容を復習して臨む。
この授業は子どもの成長・発達の特徴をふまえ、健康障害が子どもや家族にどのような影響を与えるのか、健康障害の経過の特徴と発達段階に応じた看護を学ぶため、講義時に配布した資料、テキスト内容を復習し、要点課題をまとめる。
復習として適宜、ミニテストを実施する。予習に1時間程度、復習に2時間程度費やす。
【学習上の留意点】
本科目は小児看護学概論をふまえて、子どもの健康障害にかかわるさまざまな状況が子どもやその家族に与える影響や生活、子どもの健康レベルに応じた看護について探求するものである。続く看護の基本技術Ⅴや小児看護学実習において看護を実践する上で必要な知識や技術を学ぶものであるため、授業の積極的な取り組みを期待する。

【７】　評価方法・基準

定期試験50%、課題レポート20%（課題1）、ミニテスト30%（12回）

【８】　フィードバック方法

課題レポートは返却する。ミニテストは次回の授業で正解を示し解説を行う。

【９】　教科書

①ナーシンググラフィカ　小児看護学①　第7版，小児の発達と看護，中野綾美編，メディカ出版，2023.　（２年次春学期に購入）
②ナーシンググラフィカ　小児看護学③　第3版，小児の疾患と看護，中野綾美編，メディカ出版，2023.　（２年次春学期に購入）
③新訂第2版 写真でわかる重症心身障害児(者)のケア アドバンス，鈴木康之・舟橋満寿子監修，インターメディカ，2024.

【10】　参考書

こどもの病気の地図帳，鴨下重彦・柳澤正義，講談社，2002.

【11】　備考(関連科目等)

予め学んでおく科目：発達看護論、小児看護学概論、コミュニティヘルス看護概論、疾病と治療Ⅲ、リスクマネジメント
この科目に続く科目：看護の基本技術7、ファミリーヘルス看護論、小児看護学実習

科目名(日本語)	**母性看護学概論**	必修・選択区分	授業形態	開講学期・学年	単位数
科目名(英語)	Introduction to Maternal and Newborn Nursing	必修	講義	春学期 2年	1単位 15時間
科目責任者	楠見　ひとみ				
担当教員	楠見ひとみ				
科目責任者 連絡先(教室)	楠見ひとみ：（　@hs.toho-u.ac.jp）　楠見研究室（K329）				
オフィスアワー	授業終了後教室にて10分程度および木曜日18:00～18:50、楠見研究室（K329）、なおメールおよびMoodleのメッセージからの問い合わせにも応じる				

【１】　授業方法(ALの要素、ICTの活用等)

１－１．アクティブラーニングについて

実施しない

１－２．アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素

２－１．双方向授業でのＩＣＴの活用について

活用する

２－２．ＩＣＴを活用する場合、その具体的名称（クリッカー、タブレット端末等）

Moodle

【２】　授業概要

母性看護学における対象の理解と看護の特徴や役割を理解するために、母性の身体的・心理社会的特徴、リプロダクティブヘルス／ライツ、母性看護のあり方を含む母性看護の基盤となる概念について、さらに、母性看護を取り巻く社会の変遷と現状について学ぶ。また、母性看護学領域における倫理的課題とその対応について、不妊女性に対する看護のあり方について学ぶ。

【３】　到達目標

１．母性看護学の対象者について説明できる
２．リプロダクティブヘルス/ライツの定義について説明できる
３．ウェルネスの概念について説明できる
４．我が国の主な母子保健統計の動向と概要を説明できる
５．母子の健康にかかわる法律を４つあげることができる
６．新健やか親子21の概要を説明できる
７．正常な性周期について説明できる
８．思春期女性の健康課題を取り上げ説明できる
９．成熟期女性の健康課題を取り上げ説明できる
10．不妊治療をめぐる倫理的課題を1つあげ説明できる
11．女性と胎児の権利について説明できる
12．倫理的意思決定の4つのプロセスを説明できる

【４】　ディプロマ・ポリシーとの関連

到達目標を達成することにより、以下の能力を身につけることにつながります。

１．自然科学を看護活動の根拠とし、実践に活かす基礎的な力を有している。

２．看護学の専門知識と技術を修得している。

３．他者の多様な価値観を理解し、尊重することができる。

４．看護職の社会的責任を理解し、看護実践にまつわる倫理的課題を感受する力と熟考する力、それらに基づく判断を行動に表す力を身につけている。

５．看護専門職として、リーダーシップおよびフォロワーシップを発揮し、チームの中で有機的に活動する資質を身につけている。

６．自ら学ぼうとする好奇心をもち、生涯にわたり自己研鑽する姿勢を身につける。

【5】　授業計画

	項目	内容および授業方法 予習・復習・キーワード	担当教員
1・2	母性看護学の概念／母性看護実践の基盤となる理論	内容 1．母性とは、 2．女性のライフサイクル 3．母性看護学における対象と母性看護学の目的 4．母性看護の基盤となる理論（リプロダクティブ・ヘルス/ライツ，ヒューマンセクショアリティ，ウェルネスなど） 方法：講義 予習：p4～7,p11～21,p31～35,p38～45を読むこと。 復習：母性の定義、母性看護学における対象と母性看護学の目的を整理し、記述する。リプロダクティブ・ヘルス/ライツ、ウェルネスについて整理し、記述する キーワード：母性，父性，ライフサイクル，母性看護学，助産学，リプロダクティブ・ヘルス/ライツ，　ヒューマンセクショアリティ，ウェルネス	楠見ひとみ
3・4	母子保健統計と社会資源	内容 1．母子の保健水準レベルに関する統計 2．母子保健に関する法律 3．母子保健に関する政策 4．母子保健に関する社会資源 方法：講義 予習：p56～p73,p75～95を読むこと。 復習：周産期死亡率、新生児死亡率、妊産婦死亡率、合計特殊出生率の我が国の動向を整理する。自分の住む地域の母子保健に関する社会資源についてレポートする。（課題レポート） キーワード：女性の就業率，出生数，合計特殊出生率，周産期死亡率，新生児死亡率，妊産婦死亡率，母子保健法，母体保護法，労働基準法，男女雇用均等法，新健やか親子21，母子健康手帳，健康診査	楠見ひとみ
5・6	ライフサイクルにおける女性の健康と看護(1)	内容 1．性周期と妊娠のメカニズム 2．生殖器の形態と機能 3．ライフサイクルにおける生殖器の変化 方法：講義 予習：p106～112,p126～131を読むこと。 復習：性周期とメカニズムについてミニテストを受験する キーワード：性周期，性ホルモン，受精，女性生殖器，男性生殖器	楠見ひとみ
7・8	ライフサイクルにおける女性の健康と看護(2)	内容 1．思春期の女性の身体的、心理的特徴 2．思春期女性の健康課題 3．思春期女性への看護 方法：講義 予習：p200～214を読むこと。 復習：思春期女性の健康課題に対する援助について学修したことを整理し、記述する。 キーワード：思春期女性，ボディイメージ，自立と依存，性行動，性感染症	楠見ひとみ
9・10	ライフサイクルにおける女性の健康と看護(3)	内容 1．成熟期の女性の身体的、心理的、社会的特徴 2．成熟女性の健康課題 3．成熟期女性への看護 方法：講義 予習：p217～231,p247～249を読むこと。 復習：成熟期女性の健康課題に対する援助方法について学修したことを整理し、記述する。 キーワード：成熟期女性，月経困難症，月経前症候群，不妊症，不育症，ドメスティックバイオレンス，家族計画，避妊，がん検診	楠見ひとみ
11・12	母性看護学領域における倫理的課題(1)	内容 1．不妊治療の実際 2．不妊女性とその家族の特徴と健康課題 3．不妊治療をめぐる倫理的課題と看護 方法：講義 予習：p160～169,p234～245を読むこと。 復習：高度生殖補助治療を行う予定または、行った患者・家族に対して、どのような看護を実践したいと考えてているかを記述する。（課題レポート） キーワード：不妊症，不妊症カップル，検査，一般不妊治療，生殖補助医療，精子提供，卵子提供，代理出産，出自を知る権利	勝又由美
13・14	母性看護学領域における倫理的課題(2)	内容 1．母性看護学領域における母子の権利と擁護 2．倫理的意思決定プロセスを支える支援 方法：講義 予習：p170～178を読むこと。 復習：母性看護学領域における母子の権利と倫理的意思決定を支える支援について学修したことを整理し、記述する。 キーワード：倫理原則，倫理綱領，女性・胎児の権利インフォームドコンセント，意思決定プロセス	楠見ひとみ

【６】　事前・事後学習とその時間

【準備学習】
・この授業は、母性看護学の基本となる概念や看護の特徴および役割を理解するものであるため、予習1時間程度、復習1.5時間程度を費やします。
【学習上の留意点】
・履修にあたり、新聞や周囲の人の体験に触れ、我が国あるいは世界における母性看護学の現在の動向に関心を寄せることにより理解を深める
・Moodleを用いた授業を行うため、理解を深めたい点においては教科書を活用し主体的に取り組むこと。またわからない点や理解が困難だった内容については積極的に質問すること。

【７】　評価方法・基準

・定期試験75%・ミニテスト10%・課題レポート15%

【８】　フィードバック方法

・ミニテストは結果を返却する。課題レポートは内容に対して講評する。なおミニッツペーパーに記載された質問にフィードバックする。

【９】　教科書

・齋藤いずみ他編集：看護学テキストNICE　母性看護学Ⅰ　概論・ライフサイクル，改定第3版，南江堂，2022

【10】　参考書

・その都度提示する

【11】　備考(関連科目等)

・コミュニティヘルス看護概論，発達看護論，母性看護学方法論，看護の基本技術8，母性看護学実習

科目名(日本語)	**老年看護学方法論**	必修・選択区分	授業形態	開講学期・学年	単位数
科目名(英語)	Methodology of Gerontological Nursing	必修	講義	秋学期 2年	2単位 30時間
科目責任者	鳥田美紀代				
担当教員	鳥田美紀代・佐瀬真粧美・島村敦子・菅谷綾子・鈴木裕子・松浦志野				
科目責任者 連絡先(教室)	鳥田美紀代（mikiyo.torita@hs.toho-u.ac.jp） 健康科学部棟３F　研究室10（K320）				
オフィスアワー	授業開校日の13：00～13：50、もしくは授業終了後30分、各回担当の教員の研究室において質問を受け付ける。これに加え、Moodleの質問機能、メール等でも随時質問を受け付ける。なお、メールでの連絡先は以下の通りである。 鳥田美紀代（mikiyo.torita@hs.toho-u.ac.jp）、佐瀬真粧美（masami.sase@hs.toho-u.ac.jp）、島村敦子（atsuko.shimamura@hs.toho-u.ac.jp）、菅谷綾子（ayako.sugaya@hs.toho-u.ac.jp）、鈴木裕子（yuko.suzuki@hs.toho-u.ac.jp）				

【１】　授業方法(ALの要素、ICTの活用等)

１－１．アクティブラーニングについて

実施する

１－２．アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素

ディスカッション、ディベート
グループワーク
その他

「その他」の内容

個人ワーク

２－１．双方向授業でのＩＣＴの活用について

活用する

２－２．ＩＣＴを活用する場合、その具体的名称（クリッカー、タブレット端末等）

Moodle

【２】　授業概要

高齢者の生活や人生、高齢者を取り巻く環境に関心を向け、対象理解や支援に関する考察を深めるとともに、老化あるいは疾病等による機能障害をもつ高齢者の特徴を理解し、看護を提供する際に必要となる基本的な知識と支援方法について理解する。

【３】　到達目標

1. 高齢者の特徴をふまえたヘルスアセスメントの方法を説明できる。
2. 高齢者の機能低下や障害の特徴について知り、その観察方法や評価方法を説明できる。
3. 高齢者の機能低下や障害が生活に及ぼす影響と、それに対する看護方法について説明できる。
4. 入院治療を受ける高齢者に起こりやすい機能低下や障害について知り、回復を促進し二次的な障害を予防する方法を説明できる。
5. 高齢者の尊厳が脅かされやすい状況について知り、高齢者の尊厳を守るための方法について考察できる。
6. 認知症を有する高齢者とその家族が抱える生活上の困難について説明できる。
7. 認知症を有する高齢者が能力を発揮できる支援の方法について説明できる。
8. 認知症を有する高齢者の介護者の実情を知り、必要な支援について自分の考えを述べることができる。
9. 高齢者の暮らしの様子や生活史を理解する方法について知り、看護に活かす方法について考察できる。
10. 高齢者の特徴をふまえた看護の方法論について知り、自分の考えを説明できる。

【４】　ディプロマ・ポリシーとの関連

到達目標を達成することにより、以下の能力を身につけることにつながります。

１．自然科学を看護活動の根拠とし、実践に活かす基礎的な力を有している。

２．看護学の専門知識と技術を修得している。

３．他者の多様な価値観を理解し、尊重することができる。

４．看護職の社会的責任を理解し、看護実践にまつわる倫理的課題を感受する力と熟考する力、それらに基づく判断を行動に表す力を身につけている。

５．看護専門職として、リーダーシップおよびフォロワーシップを発揮し、チームの中で有機的に活動する資質を身につけている。

６．自ら学ぼうとする好奇心をもち、生涯にわたり自己研鑽する姿勢を身につける。

【5】　授業計画

	項目	内容および授業方法 予習・復習・キーワード	担当教員
1, 2, 3, 4	ヘルスアセスメント	内容： １．心身の加齢変化に関する基礎知識 ２．高齢者に起こりやすい症状や機能障害の特徴と看護 ３．高齢者の特徴や生活を踏まえた情報収集の方法 授業方法：講義、グループワーク、個人ワーク 予習：教科書の指定ページを読む。 復習：授業中に実施した個人ワークを完成させる（課題①）。小テスト①を実施する。 キーワード：問診、観察、フィジカルイグザミネーション、フィジカルアセスメント、ＡＤＬ、ＩＡＤＬ、環境、高齢者総合機能評価、障害高齢者の日常生活自立度、寝たきり、廃用性変化、褥瘡、低栄養	鳥田美紀代、他全員
5, 6	活動と休息	内容： １.高齢者の活動と休息に影響する要因 ２.高齢者の活動と休息の評価方法 ３.高齢者の活動と休息のバランスを整える技術 授業方法：講義 予習：教科書の指定ページを読む。 復習：小テスト②を実施する。 キーワード：生活リズム、睡眠、休息の質、リラックス、活動耐性、フレイル	菅谷綾子
7, 8	入院・治療を受ける高齢者への看護	内容： １.入院・治療が高齢者に及ぼす影響 ２.急性期にある高齢者の特徴と看護の目標 ３.慢性期にある高齢者の特徴と看護の目標 ４.医療施設から次の療養の場所へ移行する際の支援 授業方法：講義 予習：医療環境が高齢者に及ぼす影響を５つ挙げてくる（課題②）。 復習：小テスト③を実施する。 キーワード：環境変化、環境適応、廃用症候群、せん妄、手術療法、点滴管理、内服管理、チーム医療、退院支援、家族支援、地域連携	佐瀬真粧美
9, 10	排泄ケア	内容： １.高齢者の排泄に関連する機能低下や障害の基礎知識 ２.排泄障害のタイプに合わせた具体的な支援方法 授業方法：講義 予習：教科書の指定ページを読む。 復習：　小テスト④を実施する。 キーワード：排泄障害、環境調整、プライバシー、自尊感情、排泄ケア用品、福祉用具	島村敦子
11, 12	尊厳を守る看護	内容： １.高齢者の尊厳が脅かされやすい状況に関する基礎知識 ２.日常生活において高齢者の尊厳を守るための具体的な支援方法 ３.高齢者の尊厳を守る看護に関する考察 授業方法：講義、課題レポート（課題③） 予習：教科書の指定ページを読む。 復習：小テスト⑤を実施する。 キーワード：セクシュアリティ、高齢者虐待、身体拘束，アドボカシー，抑制しないケア、高齢者虐待防止法、成年後見制度	鈴木裕子
13, 14	コミュニケーション	内容： １．高齢者のコミュニケーションの特徴 ２．コミュニケーションに影響する要因 授業方法：講義 予習：教科書の指定ページを読む。 復習：小テスト⑥を実施する。 キーワード：言語的・非言語的メッセージ、感覚器、言語能力、価値観、時代背景、援助関係、相互作用、環境	鳥田美紀代
15, 16	認知症ケア：当事者の視点からの理解	内容： １.認知症の基礎知識 ２.認知症を患う当事者の経験 ３.認知機能の低下が生活に及ぼす影響 授業方法：講義、ディスカッション 予習：教科書の指定ページを読む。 復習：小テスト⑦を実施する。 キーワード：対象理解、手記、生活上の困難、当事者の目線	鳥田　美紀代
17	高齢者の生活史	内容： １.現代の高齢者の生きてきた時代背景 ２.ヒストリー聴取の手法 ３.生活史を看護に活かす方法に関する考察 授業方法：講義、課題レポート 予習：第4, 5, 6回の内容をふまえ、身近な高齢者の生活史をきいてレポートにまとめてくる（事前課題：課題④）。 復習：生活史を看護に活かす効果について考察する。 キーワード：生活史、ライフレビュー、ライフヒストリー、インタビュー、時代背景、生活歴、健康歴	鳥田美紀代

18,19,20	食事・栄養	内容： １．高齢者の食事・栄養の基礎知識 ２．高齢者の栄養状態・食事摂取状況・食事環境の評価方法 授業方法：講義 予習：教科書の指定のページを読む 復習：小テスト⑧を実施する キーワード：るい痩、栄養評価、低栄養、骨粗鬆症、誤嚥、治療食	鳥田美紀代
21,22	認知症ケア：介護者への支援	内容： １.認知症介護の実態 ２.認知症の高齢者を介護する家族の実態 ３.認知症の高齢者を介護する家族への支援に関する考察 授業方法：講義、課題レポート（課題⑤） 予習：教科書の指定ページを読む。 復習：学修した内容を振り返り、整理する。 キーワード：家族介護者、介護困難、ＢＰＳＤ、介護の発展、在宅支援、地域包括ケアシステム	菅谷綾子
23	清潔・身だしなみ	内容： １.高齢者が清潔・身だしなみを整える意義 ２.清潔、身だしなみを整えることに関連する機能低下や障害の基礎知識 ３.清潔・身だしなみを整えるための具体的な援助技術 授業方法：講義 予習：教科書の指定ページを読む。 復習：小テスト⑨を実施する。 キーワード：皮膚管理、衣生活、自尊心感情、爪切り、皮膚掻痒症、白癬、疥癬症	鳥田美紀代
24,25	認知症ケア：具体的な支援方法	内容： １.認知症の方を支援する際の基本的な考え方 ２.認知症の方への具体的な支援方法 授業方法：講義 予習：教科書の指定ページを読む。 復習：学修した内容を整理する。課題レポート⑥ キーワード：国際生活機能分類（ＩＣＦ）、パーソンセンタードケア、リアリティオリエンテーション 、ユマニチュードケア、否定しないコミュニケーション	菅谷綾子
26.27	老年期の特徴をふまえた看護方法	内容： １.老年期を生きる人々の生涯発達を基盤とする看護の考え方 ２.高齢者の特徴をふまえた考え方（理論や方法論）とそれに基づく看護援助 授業方法：講義、演習（ディスカッション、グループワーク）、課題レポート⑦ 予習：発達看護論、老年看護学概論など、関連する科目の既習内容を復習して授業に望む。 復習：配布した資料や学習内容を振り返り，整理する。 キーワード：老年期の発達段階、ストレングス理論、エンパワメント、生涯発達	鳥田美紀代、他全員

【６】　事前・事後学習とその時間

［準備学習］
本科目は、既習科目で学修した内容を基盤として知識を習得することを目指すため、関連科目の復習をして臨むこと。また、次回の授業に向けた予習を課している回では、課題に取り組んだ上で臨むこと。本科目の予習・復習にかかる時間は概ね1回につき1～1.5時間程度となっている。予習課題、復習課題については、授業時間中に説明するか、東邦大学e-ラーニングサイト（Moodle）で周知する。

［学習上の留意点］
本科目は、その後に開講する看護の基本技術10の内容とも連動している。したがって、効果的な学習のために、できる限り全ての授業回に出席することを望む。
なお、提出を求めた課題レポートは全体もしくは個別にコメントを返し、紙媒体で提出を求めたものは評価の後に返却する。

【７】　評価方法・基準

定期テスト（60%）、課題レポート・ワークシート（20%）、小テスト（20%）

【８】　フィードバック方法

課題レポートおよびワークシートの内容について，各回の担当教員が確認ののち，次回の授業やMoodleのフィードバック機能を用いて疑問や質問に対するコメントを返す。

【９】　教科書

看護学テキストNiCE 老年看護技術　最後までその人らしく生きることを支援する　改訂第4版、南江堂、2023.

【10】　参考書

新体系 看護学全書　老年看護②　健康障害をもつ高齢者の看護　第5版、メヂカルフレンド社、2021.

【11】　備考(関連科目等)

人体の構造と機能の科目、疾病と治療の科目、薬剤学、薬理学、看護倫理学、看護理論・看護展開論、機能障害のある患者の看護、看護の基本技術1～6・10・11、老年看護学概論、地域・在宅看護概論、地域・在宅看護方法論、発達看護論、看護入門実習Ⅱ、老年看護学実習

科目名(日本語)	**看護の基本技術10（老年看護技術）**	必修・選択区分	授業形態	開講学期・学年	単位数
科目名(英語)	Nursing Skills 10 (Gerontological Nursing)	必修	演習	秋学期 2年	1単位 30時間
科目責任者	鳥田美紀代				
担当教員	佐瀬真粧美・鳥田美紀代・島村敦子・菅谷綾子・鈴木裕子・松浦志野				
科目責任者 連絡先(教室)	鳥田美紀代　mikiyo.torita@hs.toho-u.ac.jp 健康科学部棟３F　研究室10（K320）				
オフィスアワー	授業開校日の13：00～13：50、もしくは授業終了後30分、各回担当の教員の研究室において質問を受け付ける。これに加え、Moodleの質問機能、メール等でも随時質問を受け付ける。なお、メールでの連絡先は以下の通りである。 鳥田美紀代（mikiyo.torita@hs.toho-u.ac.jp）、佐瀬真粧美（masami.sase@hs.toho-u.ac.jp）、島村敦子（atsuko.shimamura@hs.toho-u.ac.jp）、菅谷綾子（ayako.sugaya@hs.toho-u.ac.jp）、鈴木裕子（yuko.suzuki@hs.toho-u.ac.jp）				

【１】　授業方法(ALの要素、ICTの活用等)

１－１．アクティブラーニングについて

実施する

１－２．アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素

ディスカッション、ディベート
グループワーク
プレゼンテーション

２－１．双方向授業でのＩＣＴの活用について

活用する

２－２．ＩＣＴを活用する場合、その具体的名称（クリッカー、タブレット端末等）

Moodle

【２】　授業概要

老年看護学方法論および既修得の知識を活用し、高齢者の発達段階や個々の身心の状態、生活環境、生活歴等の個別性をふまえた具体的な看護方法について学ぶ。学習方法では、講義に加え状況設定や具体的な事例設定などのシミュレーション、グループディスカッション等を通して、高齢者個々の状態、状況に合わせた個別的な看護を展開できるための基礎知識および臨地実習を想定した実践での応用力を修得することを目指す。

【３】　到達目標

1.高齢者の特徴をふまえた看護過程の展開について、情報収集、アセスメント、課題の抽出、計画の立案、実施、評価のポイントを具体的に挙げることができる。
2.高齢者の機能低下や障害が生活に及ぼす影響をふまえ、様々な療養環境や生活の場面における看護の役割について説明できる。
3.機能低下や障害を有する高齢者への具体的な看護支援の方法について説明でき、一部の支援について模擬患者を対象に実施できる。
4.機能低下や障害を有する高齢者への生活リハビリテーションの視点について知り、看護師の役割と具体的な支援技術のポイントを説明できる。
5.高齢者の経済状況や社会参加の実態について知り、高齢者の生活を支えるための社会制度やインフォーマルな支援について調べることができる。
6.高齢者の療養の場の多様性について知り、高齢者本人および介護者の視点から生活環境の工夫や改善点を考察することができる。
7.日常生活において高齢者の安全が脅かされる場面について知り、その原因や高齢者の特徴を周囲の環境と関連付けて説明できる。
8．事例をもとに高齢者の特徴をふまえた看護過程の展開（の一部）を実施し、その一部の技術について模擬患者を対象に実施・評価ができる。

【４】　ディプロマ・ポリシーとの関連

到達目標を達成することにより、以下の能力を身につけることにつながります。

１．自然科学を看護活動の根拠とし、実践に活かす基礎的な力を有している。

２．看護学の専門知識と技術を修得している。

３．他者の多様な価値観を理解し、尊重することができる。

４．看護職の社会的責任を理解し、看護実践にまつわる倫理的課題を感受する力と熟考する力、それらに基づく判断を行動に表す力を身につけている。

５．看護専門職として、リーダーシップおよびフォロワーシップを発揮し、チームの中で有機的に活動する資質を身につけている。

６．自ら学ぼうとする好奇心をもち、生涯にわたり自己研鑽する姿勢を身につける。

【５】　授業計画

	項目	内容および授業方法 予習・復習・キーワード	担当教員
1	老年期の特徴をふまえた看護過程の展開	内容： １.老年期の特徴を踏まえた看護過程の展開の特徴 ２.事例展開演習のオリエンテーション ３.事例の紹介 授業方法：講義、個人ワーク① 予習：老年看護学方法論など、関連する科目の既習内容を復習して授業に臨む。 復習：事例情報の整理 キーワード：老年期の発達段階、加齢性変化、二次的障害の予防、個別性、生活歴・健康歴の活用	鳥田美紀代・佐瀬真粧美・島村敦子・菅谷綾子・鈴木裕子・松浦志野
2	老年期の特徴をふまえた情報収集・アセスメント	内容： １.老年期の特徴をふまえた情報収集・アセスメントのポイント ２.事例の情報の整理・アセスメント 授業方法：講義、個人ワーク① 予習：老年看護学方法論など、関連する科目の既習内容を復習して授業に臨む。 復習：事例情報の整理・アセスメントを引き続き行う。 キーワード：身体状態の個別性、生活の個別性、生活歴、現病歴、暮らし，評価ツール、強みを活かした看護	鈴木裕子・鳥田美紀代・佐瀬真粧美・島村敦子・菅谷綾子・松浦志野
3,4	生活環境を整える技術	内容： １.高齢者の多様な療養の場についての基礎知識 ２.高齢者の目線から、生活環境を考察する ３.介護者の目線から、生活環境を考察する ４.高齢者や介護者の目線から、生活環境を整える工夫や必要な支援について考察する 授業方法：講義、グループワーク 予習：自分の身の回りを観察し、高齢者にとって危険だと考えられる生活環境を3つ考える。 復習：小テスト①を実施する。 キーワード：住まい、環境、福祉用具、バリアフリー	島村敦子
5,6	動作・移動を支える技術(1)	内容： １.高齢者の動作・移動の特徴と評価方法 ２.高齢者に起こりやすい動作・移動に関連する機能障害をふまえた介助方法 授業方法：講義、動画の視聴、課題レポート② 予習：教科書の指定ページを読む。 復習：小テスト②を実施する。 キーワード：筋骨格系の障害、脳神経系の障害、活動耐性、廃用性変化、ＡＤＬ、残存能力	菅谷綾子・鳥田美紀代・佐瀬真粧美・島村敦子・鈴木裕子・松浦志野
7,8	動作・移動を支える技術(2)	内容： １.動作、移動を支える福祉用具の基礎知識 ２.福祉用具等を用いた動作、移動の介助方法 ３.片麻痺のある高齢者の移動介助 授業方法：講義・演習 予習：教科書の指定ページを読む。 復習：小テスト②を実施する。 キーワード：良肢位の保持、片麻痺、福祉用具、自立支援、残存能力	菅谷綾子・鳥田美紀代・佐瀬真粧美・島村敦子・鈴木裕子・松浦志野
9,10	安全に食べるための技術(1)	内容： １.高齢者の機能低下や障害に応じた食事の支援 ２.経管栄養法を行っている高齢者への支援 ３.安全に食べるための食事環境の調整 授業方法：講義・演習 予習：教科書の指定ページを読む。 復習：小テスト③を実施する。 キーワード：摂食障害、嚥下障害、誤嚥性肺炎、経鼻経管栄養、胃瘻	鳥田美紀代
11,12	安全に食べるための技術(2)	内容： １.摂食・嚥下障害を有する高齢者の機能評価 ２.摂食・嚥下障害を有する高齢者への食への支援 授業方法：講義・演習 予習：教科書の指定ページを読む。 復習：小テスト③を実施する。 キーワード：摂食・嚥下機能障害、嚥下機能評価、誤嚥性肺炎、口腔ケア、栄養サポートチーム（NST）	鳥田美紀代・佐瀬真粧美・菅谷綾子・島村敦子・鈴木裕子・松浦志野
13,14	生活の中でのリハビリテーション	内容： １.生活リハビリテーションの考え方 ２.生活リハビリテーションにおける看護の役割 ３.高齢者の心身の廃用性変化を予防する支援方法 授業方法：講義、動画視聴、演習 予習：教科書の指定ページを読む。 復習：小テスト④を実施する。 キーワード：廃用症候群、関節可動域訓練、運動療法、療養生活の維持、療養生活の場の移行、機能低下の予防、生活意欲	島村敦子・鳥田美紀代・佐瀬真粧美・菅谷綾子・鈴木裕子・松浦志野

15,16	社会参加の支援	内容： １.高齢者の経済状況や社会参加の実態 ２.高齢者の社会参加を支える制度 ３.高齢者が参加、活躍しやすい社会、コミュニティに関する考察 授業方法：講義、演習、課題レポート③ 予習：必要に応じて後日指示する。 復習：小テスト⑤を実施する。 キーワード：経済状態、社会参加、コミュニティ、雇用、社会制度	佐瀬真粧美
17	老年期の特徴をふまえた看護課題の抽出	内容： １.老年期の特徴をふまえた看護課題の抽出のポイント ２.事例の看護課題の抽出 授業方法：講義、個人ワーク① 予習：老年看護学方法論など、関連する科目の既習内容を復習して臨む。 復習：事例情報の整理・アセスメント・看護課題の抽出を引き続き行う。 キーワード：課題達成志向、個別性、看護目標、強みを活かした看護、本人の望み	鳥田美紀代・佐瀬真粧美・島村敦子・菅谷綾子・鈴木裕子・松浦志野
18,19	安全を守る技術	内容： １.高齢者に起こりやすい事故に関する基礎知識 ２.事故につながりやすい高齢者側の要因 ３.事故につながりやすい環境側の要因 ４.安全を守るための看護の役割と具体的な支援 授業方法：講義、演習、課題レポート④ 予習：必要に応じて後日指示する。 復習：小テスト⑥を実施する。 キーワード：転倒・転落、誤薬、ポリファーマシー、リスクマネジメント、チーム、協働、看護記録	佐瀬真粧美
20,21,22	老年期の特徴をふまえた看護計画の立案	内容： １.事例情報に基づく看護計画の立案（一部） ２.立案した看護計画に関する意見交換・修正 授業方法：演習（個人ワーク⑤、グループワーク） 予習：事例の情報整理・アセスメント・課題の抽出を済ませて臨む。 復習：授業中に行った看護計画の立案・修正を引き続き行う。 キーワード：個別性のある看護実践、強みを活かした看護	鳥田美紀代・佐瀬真粧美・島村敦子・菅谷綾子・鈴木裕子・松浦志野
23-27	老年期の特徴をふまえた看護実践と評価	内容： １.事例に対して立案した看護計画の実施（一部、グループ毎） ２.老年期の特徴をふまえた看護展開のまとめ 授業方法：演習（グループワーク、個人ワーク⑤）、事例への実践 予習：グループで立案した看護計画について、看護の目的、対象者の個別性、発達段階、本人の望み、具体的な手順等の視点から見直しを行ってくる。 復習：事例に対する看護計画の立案、修正、実施、評価の視点から、老年期の特徴をふまえた看護について学修内容を整理し、臨床実習の際に活用できるようにしておく。	鳥田美紀代・佐瀬真粧美・島村敦子・菅谷綾子・鈴木裕子・松浦志野

【６】　事前・事後学習とその時間

［準備学習］
本科目は、既習科目で学修した内容を基盤として知識や技術を習得することを目指すため、関連科目の復習をして臨むこと。また、次回の授業に向けた予習を課している回では、課題に取り組んだ上で臨むこと。本科目の予習・復習にかかる時間は概ね1回につき1～1.5時間程度となっている。予習課題、復習課題については、授業時間中に説明するか、東邦大学e-ラーニングサイト（Moodle）またはアクティブアカデミーで周知する。
［学習上の留意点］
本科目は、各テーマについて授業内容が連動しているものが多く、複数の授業回にまたがり事例展開の知識と技術の習得を行う構成となっている。したがって、効果的な学習のために、できる限り時間割にそって学修をすすめ提出期限を守って課題を提出すること、全ての授業回に出席することを望む。
なお、提出を求めた課題レポートは全体もしくは個別にコメントを返し、紙媒体で提出を求めたものは評価の後に返却する。

【７】　評価方法・基準

小テスト（30%）、課題レポート（40%）、事例への取り組み（30%）

【８】　フィードバック方法

課題レポートについては、個別および全体に対してフィードバックを行う。
小テストについては、授業の時間内もしくは次の授業回、Moodle等で解説を行う。

【９】　教科書

看護学テキストNiCE 老年看護学技術　最後までその人らしく生きることを支援する　改訂第4版、南江堂、2023.

【10】　参考書

新体系 看護学全書　老年看護②　健康障害をもつ高齢者の看護　第5版、メヂカルフレンド社、2021.

【11】　備考(関連科目等)

人体の構造と機能の科目、疾病と治療の科目、薬剤学、薬理学、看護倫理学、看護理論・看護展開論、機能障害のある患者の看護、看護の基本技術1～6・10・11、老年看護学概論、地域・在宅看護概論、地域・在宅看護方法論、発達看護論、看護入門実習Ⅱ、老年看護学実習

科目名(日本語)	**地域・在宅看護方法論**	必修・選択区分	授業形態	開講学期・学年	単位数
科目名(英語)	Methodology of Community Health and Home Care Nursing	必修	講義	秋学期 2年	1単位 15時間
科目責任者	島村敦子				
担当教員	佐瀬真粧美・島村敦子・松浦志野				
科目責任者 連絡先(教室)	島村：Email;atsuko.shimamura@hs.toho-u.ac.jp, 研究室番号K313)				
オフィスアワー	授業終了後、1時間とする。場所は、各担当者の研究室とする（佐瀬K319, 島村K313)				

【１】　授業方法(ALの要素、ICTの活用等)

１－１．アクティブラーニングについて
実施する

１－２．アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素
グループワーク

２－１．双方向授業でのＩＣＴの活用について
活用する

２－２．ＩＣＴを活用する場合、その具体的名称（クリッカー、タブレット端末等）
PC、Moodle

【２】　授業概要

地域で暮らす人々に対し、在宅という生活の場で提供される看護の基本的知識と展開方法を理解する。また、法的基盤と制度の概要について理解し、現在の在宅看護の現状や課題について考察する。
なお、本科目は公衆衛生看護学における地域生活支援の学修とつながっている科目である。

【３】　到達目標

1. 在宅看護の対象者を挙げ、その特徴について説明できる。
2. 在宅看護にかかわる制度を３つ以上挙げ、その概要について説明できる。
3. 在宅看護が提供される場と、その場における看護の役割について説明できる。
4. 在宅看護における家族のアセスメントや家族の支援方法について説明できる。
5. 病院から在宅への移行支援について説明できる
6. 訪問看護過程の特徴について、事例に基づき説明できる。
7. 在宅看護における倫理的課題について説明できる。

【４】　ディプロマ・ポリシーとの関連

到達目標を達成することにより、以下の能力を身につけることにつながります。

１．自然科学を看護活動の根拠とし、実践に活かす基礎的な力を有している。

２．看護学の専門知識と技術を修得している。

３．他者の多様な価値観を理解し、尊重することができる。

４．看護職の社会的責任を理解し、看護実践にまつわる倫理的課題を感受する力と熟考する力、それらに基づく判断を行動に表す力を身につけている。

５．看護専門職として、リーダーシップおよびフォロワーシップを発揮し、チームの中で有機的に活動する資質を身につけている。

６．自ら学ぼうとする好奇心をもち、生涯にわたり自己研鑽する姿勢を身につける。

【5】　授業計画

	項目	内容および授業方法 予習・復習・キーワード	担当教員
1・2	在宅看護に関わる制度	内容：在宅看護の定義と訪問看護の目的・在宅看護の対象と場・介護保険制度の理解・医療保険制度の理解・障害者総合支援法の理解・訪問看護制度 授業方法：講義 予習：教科書の関連する箇所を読む 復習：授業資料と教科書の該当箇所を関連付けて、学んだことを整理する キーワード：在宅看護の対象、在宅看護の場、訪問看護の提供機関、訪問看護制度、介護保険制度、医療保険制度、各保険制度に基づく訪問看護サービスの対象、各保険制度の訪問看護報酬	島村 敦子
3	暮らしの場における看護過程の考え方	内容：訪問看護過程・訪問看護の目的・訪問看護師の基本姿勢・在宅における看護展開の特徴 授業方法：講義 予習：教科書の関連する箇所を読む 復習：授業資料と教科書の該当箇所を関連付けて、学んだことを整理する キーワード：看護過程、在宅療養者、家族、訪問看護ステーション	島村 敦子
4	在宅看護における感染予防	内容：在宅における感染予防 授業方法：講義 予習：教科書の関連する箇所を読む 復習：授業資料と教科書の該当箇所を関連付けて、学んだことを整理する キーワード：感染予防策、標準予防策、在宅医療廃棄物	島村 敦子
5・6	訪問看護ステーションの管理・運営と訪問看護の実際	内容：訪問看護の目的・訪問看護制度・訪問看護ステーションの管理・運営 授業方法：講義　ゲストスピーカー予定（訪問看護認定看護師） 予習：教科書の関連する箇所を読む 復習：授業資料と教科書の該当箇所を関連付けて、学んだことを整理する キーワード：訪問看護、訪問看護ステーション、管理・運営	島村 敦子
7・8	在宅看護における家族の理解と支援	内容：在宅療養者と家族との関係づくり 授業方法：講義、グループワーク 予習：教科書の関連する箇所を読む 復習：授業資料と教科書の該当箇所を関連付けて、学んだことを整理する キーワード：生活の質、関係形成、信頼関係、家族アセスメント、コミュニケーション、対人関係論、発達理論	佐瀬 真粧美
9・10	療養の場の移行支援	内容：療養の場の移行支援、退院支援、意思決定支援、多職種連携 授業方法：講義、グループワーク 予習：教科書の関連する箇所を読む 復習：授業資料と教科書の該当箇所を関連付けて、学んだことを整理する キーワード：医療の継続、多職種連携、チームアプローチ、地域連携、退院支援・退院調整	佐瀬 真粧美
11・12	要支援・要介護者への在宅看護	内容：要支援・要介護高齢者に対する訪問看護過程の展開・在宅看護における認知症ケア 授業方法：講義・個人ワーク・グループワーク 予習：教科書の関連する箇所を読む 復習：授業資料と教科書の該当箇所を関連付けて、学んだことを整理する/訪問看護過程を展開する キーワード：訪問看護過程・要介護高齢者・要支援高齢者・認知症ケア・地域包括ケアシステム	島村 敦子
13	がん・神経難病の療養者への在宅看護	内容：がん療養者・難病を有する療養者に対する訪問看護過程の展開 授業方法：講義・個人ワーク・グループワーク 予習：教科書の関連する箇所を読む 復習：授業資料と教科書の該当箇所を関連付けて、学んだことを整理する/訪問看護過程を展開する キーワード：訪問看護過程・がん・エンドオブライフケア・意思決定・筋萎縮性側索硬化症・医療保険に基づく訪問看護	島村 敦子・松浦 志野
14	在宅看護における倫理的課題	内容：在宅看護における倫理的課題・倫理的葛藤 授業方法：講義、グループワーク 予習：教科書の関連する箇所を読む 復習：授業資料と教科書の該当箇所を関連付けて、学んだことを整理する キーワード：自己決定支援、多様な価値観、権利擁護、虐待、個人情報	島村 敦子・松浦 志野

【６】　事前・事後学習とその時間

【準備学習】
看護入門実習Ⅱ、地域・在宅看護概論、老年看護学概論、コミュニティヘルス看護概論の学習内容を復習し、提示されている学習内容について、テキストを参考に予習を行ってくること。この授業は、在宅看護に関連する幅広い知識の修得を目指すため、予習1時間程度を必要とする。
【学習上の留意点】
各々の授業内容は、つながりがある。欠席してしまうとそのつながりがわからなくなるので、授業への出席を重視する。
【事後学習】
重要項目については、授業の最初に前回内容に関連する小テストを実施する。そのため、事後学習として1時間程度の時間を要する。

【７】　評価方法・基準

定期試験（80%）、小テスト（20%）

【８】　フィードバック方法

リアクションペーパーの内容を踏まえ、次回の授業の中で不十分な理解や質問ついてコメントする

【９】　教科書

石垣和子、上野まり、徳田真由美、辻村真由子編集：看護学テキストNice：地域・在宅看護論Ⅰ・Ⅱ改訂第3版（南江堂、2024）

【10】　参考書

授業時に提示する。

【11】　備考(関連科目等)

倫理学、地域・在宅看護概論、老年看護学概論、看護入門実習Ⅱ、コミュニティヘルス看護概論、看護の基本技術10・11、在宅看護実習

科目名(日本語)	**公衆衛生看護学概論**	必修・選択区分	授業形態	開講学期・学年	単位数
科目名(英語)	Introduction to Public Health Nursing	必修	講義	秋学期 2年	1単位 15時間
科目責任者	小板橋恵美子				
担当教員	小板橋恵美子・植村直子・池田絹代				
科目責任者 連絡先(教室)	小板橋：健康科学部棟3階研究室K315（emiko.koitabashi@hs.toho-u.ac.jp）				
オフィスアワー	授業開講日の17時までの時間帯を基本とします。講義内容に関する質問等は授業を担当する教員の研究室を訪ねてください。 メールでも質問、相談を受け付けます（メールアドレスは初回に周知します）。				

【１】　授業方法(ALの要素、ICTの活用等)

１－１．アクティブラーニングについて

実施する

１－２．アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素

ディスカッション、ディベート
グループワーク

２－１．双方向授業でのＩＣＴの活用について

活用する

２－２．ＩＣＴを活用する場合、その具体的名称（クリッカー、タブレット端末等）

Moodle

【２】　授業概要

公衆衛生看護活動の概念を学ぶ。公衆衛生看護活動の基盤となる理念を踏まえ、公衆衛生看護活動の場（地域・学校・産業）とその対象を理解し、公衆衛生看護活動のプロセスを学ぶ。
（小板橋恵美子／10回）公衆衛生看護学の理念、公衆衛生看護の対象、行政機関における公衆衛生看護活動、公衆衛生看護活動の展開、学校保健、産業保健
（植村直子／2回）公衆衛生看護活動の展開
（池田絹代／2回）行政機関における公衆衛生看護活動

【３】　到達目標

1.公衆衛生看護活動の基盤となる理念を説明できる。
2.公衆衛生看護の対象を説明できる
3.公衆衛生看護の展開方法を説明できる。
4.公衆衛生看護活動の場（地域・学校・産業）における活動の概要を説明できる。

【４】　ディプロマ・ポリシーとの関連

到達目標を達成することにより、以下の能力を身につけることにつながります。

１．自然科学を看護活動の根拠とし、実践に活かす基礎的な力を有している。

２．看護学の専門知識と技術を修得している。

３．他者の多様な価値観を理解し、尊重することができる。

４．看護職の社会的責任を理解し、看護実践にまつわる倫理的課題を感受する力と熟考する力、それらに基づく判断を行動に表す力を身につけている。

５．看護専門職として、リーダーシップおよびフォロワーシップを発揮し、チームの中で有機的に活動する資質を身につけている。

６．自ら学ぼうとする好奇心をもち、生涯にわたり自己研鑽する姿勢を身につける。

【5】 授業計画

	項目	内容および授業方法 予習・復習・キーワード	担当教員
1･2	オリエンテーション・公衆衛生看護学の概念	内容：科目オリエンテーション、1. 公衆衛生看護学の理念、2. 公衆衛生看護の歴史 授業方法：講義、一部グループワーク（またはペアワーク） 予習：キーワードについて教科書・国民衛生の動向の該当箇所を読んでくる。 事後課題：ミニッツペーパーの提出またはミニテスト キーワード：公衆衛生看護、公衆衛生看護の対象と場、主な関連法規、プライマリ・ヘルスケア、ヘルスプロモーション、健康日本21とヘルスプロモーション、社会状況・疾病構造・人口構造、公衆衛生看護の歴史	小板橋恵美子
3･4	行政機関における公衆衛生看護活動（1）	内容：1.保健行政のしくみ、2.保健所の保健活動 授業方法：講義、一部グループワーク（またはペアワーク） 予習：キーワードについて教科書・国民衛生の動向の該当箇所を読んでくる。 事後課題：ミニッツペーパーの提出またはミニテスト キーワード：行政の活動の特徴、地域保健法、一般衛生行政体系、保健所、保健センター、地域保健・健康増進事業、保健所の保健活動：難病対策、精神保健、感染症対策、食品衛生、環境衛生	小板橋恵美子
5･6	行政機関における公衆衛生看護活動（2）、公衆衛生看護活動の展開（1）	内容：1.市町村保健センターにおける保健活動、2.市町村の高齢者福祉領域および地域包括支援センターの保健活動、3.公衆衛生看護活動のプロセス 授業方法：講義 予習：キーワードについて教科書の該当箇所を読んでくる。 事後課題：ミニッツペーパーの提出 キーワード：母子保健活動、成人保健活動、高齢者保健活動、地域包括ケアシステム、地域診断、PDCAサイクル、予算と事業	池田絹代
7･8	行政機関における公衆衛生看護活動（3）	内容：公衆衛生看護活動の実際 授業方法：講義 予習：キーワードについて教科書の該当箇所を読んでくる。 事後課題：公衆衛生看護活動を展開する保健師の役割および保健活動の展望についてレポートする※ キーワード：保健師、地域保健、予防活動、健康増進活動	小板橋恵美子
9･10	公衆衛生看護活動の展開（2）	内容：①家庭訪問②健康相談、③健康診査、④グループ支援 授業方法：講義 予習：キーワードについて教科書の該当箇所を読んでくる。 事後課題：ミニッツペーパーの提出 キーワード：家庭訪問、健康相談、健康診査、スクリーニング、ハイリスクアプローチ、ポピュレーションアプローチ、グループ支援	植村直子
11･12	公衆衛生看護活動の展開（3）	内容：1.健康教育、2.地域へのアプローチ①地区組織、②地域ケアシステム、③健康危機管理活動 授業方法：講義 予習：キーワードについて教科書の該当箇所を読んでくる。 事後課題：ミニッツペーパーの提出 キーワード：健康教育、組織化、地域ケアシステム、地域づくり、健康危機管理、公衆衛生看護活動の根拠	小板橋　恵美子
13･14	産業・学校分野における公衆衛生看護活動	内容：1.産業保健活動、2.学校保健活動 授業方法：講義 予習：キーワードについて教科書の該当箇所を読んでくる。 事後課題：ミニッツペーパーの提出 キーワード：学校保健、養護教諭、学校環境衛生、学校保健委員会、産業保健、労働安全衛生、産業保健の5（3）管理	小板橋　恵美子

【6】 事前・事後学習とその時間

【準備学習】
関連する既習科目を復習して授業に臨んでください。特に同時期に開講される看護の基本技術12（地区診断）での学びと関連づけながら、テキストを読んだり、授業に出てください。このために、指定された内容について、該当部分をテキストで予習することを求めます。予習･事後課題に合計2時間時間程度（平均）を費やします。
【学習上の留意点】
本科目の学修内容は、コミュニティヘルス看護学実習の基礎知識として必要となるため、全時間の出席をのぞみます。

【7】 評価方法・基準

定期試験55%、課題35%(各授業回で指示します。具体的にはミニレポートや小テストなどになります)

【8】 フィードバック方法

提出されたミニッツペーパーの内容については、またそこに質問や意見・感想が記載された場合は、次の講義でフィードバックします。

【9】 教科書

公衆衛生看護学.jp，荒賀直子他編，インターメディカル
その他必要な資料は適宜講義時またはMoodle上で配布します。

【10】 参考書

国民衛生の動向，厚生労働統計協会

【11】　備考(関連科目等)

【関連科目】コミュニティヘルス看護、公衆衛生看護に関する講義及び実習
【その他】授業の進捗状況に応じて、授業内容、担当教員を入れ替えることがあります。講義時のほか、Moodleのアナウンス機能を使って周知します。

科目名(日本語)	**看護の基本技術12（地区診断）**	必修・選択区分	授業形態	開講学期・学年	単位数
科目名(英語)	Nursing Skills 12 (Community Health Assessment)	必修	演習	秋学期 2年	1単位 30時間
科目責任者	池田絹代				
担当教員	池田絹代・小板橋恵美子・植村直子				
科目責任者 連絡先(教室)	メールアドレス（kinuyo.ikeda@hs.toho-u.ac.jp)にて連絡が可能である。メールを送信する際は、件名に「看護の基本技術12に関して」（に追加して必要な事項）との記載を求める。				
オフィスアワー	授業終了後に10分程度講義室で質問を受け付ける。 予定に変更があった場合はその都度他の候補日時を連絡する。連絡はメールにて受け付ける（kinuyo.ikeda@hs.toho-u.ac.jp)。				

【１】　授業方法(ALの要素、ICTの活用等)

１－１．アクティブラーニングについて

実施する

１－２．アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素

ディスカッション、ディベート
グループワーク
プレゼンテーション

２－１．双方向授業でのＩＣＴの活用について

活用する

２－２．ＩＣＴを活用する場合、その具体的名称（クリッカー、タブレット端末等）

Moodle

【２】　授業概要

地域で生活する人々の健康課題を明らかにするための地域診断の意義と方法を理解し、地域特性に応じた支援計画の立案・実施・評価のプロセスについて、演習を通して具体的に学ぶ。また、地域で生活する人々が自らの健康課題を認識し、課題解決のために主体的に取り組む支援技術として、小集団を対象とした健康教育技術について演習を実施する。
講義スケジュールは、進捗状況により変更になりこともある。

【３】　到達目標

1. 地域診断に必要な情報の取得方法を説明することができる
2. 地域の統計指標や環境、社会状況に関する情報を地域診断モデルに基づいて整理することができる
3. 地域診断を行い解決の必要な健康課題を挙げることができる
4. 健康課題の解決に向けた、健康教育を計画することができる
5. 健康教育計画の目的とそれに沿った目標を設定することができる
6. 計画の目標に沿った、健康教育実施案を作成できる
7. 計画に対する評価指標を設定することができる
8. 立案した健康教育を他者と協力して実施することができる。
9. 健康教育の理論を学び、効果的な学びを支援する工夫について３つ以上論述できる。

【４】　ディプロマ・ポリシーとの関連

到達目標を達成することにより、以下の能力を身につけることにつながります。

１．自然科学を看護活動の根拠とし、実践に活かす基礎的な力を有している。

２．看護学の専門知識と技術を修得している。

３．他者の多様な価値観を理解し、尊重することができる。

４．看護職の社会的責任を理解し、看護実践にまつわる倫理的課題を感受する力と熟考する力、それらに基づく判断を行動に表す力を身につけている。

５．看護専門職として、リーダーシップおよびフォロワーシップを発揮し、チームの中で有機的に活動する資質を身につけている。

６．自ら学ぼうとする好奇心をもち、生涯にわたり自己研鑽する姿勢を身につける。

【5】　授業計画

	項目	内容および授業方法 予習・復習・キーワード	担当教員
1	コミュニティーアズパートナーモデルにおけるコアとなる人々に関する情報収集	内容：地区診断を展開するモデルの一つであるコミュニティーアズパートナーモデルにおけるコアとなる人々に関する情報収集を学ぶ 授業方法：講義、GW 予習：公衆衛生看護概論の復習、キーワードの自己学習 復習：GW内容を振り返る キーワード：看護過程、地区診断、コミュニティーアズパートナーモデル、保健統計、行政報告書	全員（小板橋、植村、池田）
2	コミュニティーアズパートナーモデルにおけるコアとなる人々に関する情報収集	内容：地区診断を展開するモデルの一つであるコミュニティーアズパートナーモデルにおけるコアとなる人々に関する情報収集を学ぶ 授業方法：講義、GW 予習：公衆衛生看護概論の復習、キーワードの自己学習 復習：GW内容を振り返る キーワード：看護過程、地区診断、コミュニティーアズパートナーモデル、保健統計、行政報告書	全員（小板橋、植村、池田）
3	コミュニティーアズパートナーモデルにおけるサブシステムに関する情報収集	内容：地区診断を展開するモデルの一つであるコミュニティーアズパートナーモデルにおける8つのサブシステムに関する情報収集を学ぶ 授業方法：講義、GW 予習：公衆衛生看護概論の復習、キーワードの自己学習 復習：GW内容を振り返る キーワード：看護過程、地区診断、コミュニティーアズパートナーモデル、保健統計、行政報告書	全員（小板橋、植村、池田）
4	コミュニティーアズパートナーモデルにおけるサブシステムに関する情報収集	内容：地区診断を展開するモデルの一つであるコミュニティーアズパートナーモデルにおける8つのサブシステムに関する情報収集を学ぶ 授業方法：講義、GW 予習：公衆衛生看護概論の復習、キーワードの自己学習 復習：GW内容を振り返る キーワード：看護過程、地区診断、コミュニティーアズパートナーモデル、保健統計、行政報告書	全員（小板橋、植村、池田）
5	既存資料の情報共有とアセスメント	内容：既存資料から収集した情報をグループで共有し、アセスメントをする方法を学ぶ。 授業方法：講義、GW 予習：公衆衛生看護概論の復習、キーワードの自己学習 復習：GW内容を振り返る キーワード：コミュニティーアズパートナーモデル、量的情報、質的情報、比較、推論	全員（小板橋、植村、池田）
6	既存資料の情報共有とアセスメント	内容：既存資料から収集した情報をグループで共有し、アセスメントをする方法を学ぶ。 授業方法：講義、GW 予習：公衆衛生看護概論の復習、キーワードの自己学習 復習：GW内容を振り返る キーワード：コミュニティーアズパートナーモデル、量的情報、質的情報、比較、推論	全員（小板橋、植村、池田）
7	健康課題の抽出	内容：既存の資料から収集した情報を整理し、健康課題を見出す方法を学ぶ。 授業方法：講義、GW 予習：公衆衛生看護概論の復習、キーワードの自己学習 復習：GW内容を振り返る キーワード：保健統計、行政報告書、コミュニティーアズパートナーモデル、健康課題	全員（小板橋、植村、池田）
8	健康課題の抽出	内容：既存の資料から収集した情報を整理し、健康課題を見出す方法を学ぶ。 授業方法：講義、GW 予習：公衆衛生看護概論の復習、キーワードの自己学習 復習：GW内容を振り返る キーワード：保健統計、行政報告書、コミュニティーアズパートナーモデル、健康課題	全員（小板橋、植村、池田）
9	既存資料にないデータの検討	内容：抽出した健康課題に対して既存資料にはなかった情報を整理する方法を学ぶ。 授業方法：講義、GW 予習：キーワードの自己学習 復習：GW内容を振り返る キーワード：地区踏査、質的情報	全員（小板橋、植村、池田）
10	地区踏査計画作成	内容：地域の実情を知る方法の一つとして地区踏査を計画する方法を学ぶ。 授業方法：講義、GW 予習：公衆衛生看護概論の復習、キーワードの自己学習 復習：GW内容を振り返る キーワード：コミュニティーアズパートナーモデル、量的情報、質的情報、地区踏査、マッピング	全員（小板橋、植村、池田）
11	地区踏査における住民の視点について	内容：地域の実情を知る方法の一つとして地区踏査の準備を行う。 授業方法：講義、GW 予習：キーワードの自己学習 復習：GW内容を振り返る キーワード：コミュニティーアズパートナーモデル、量的情報、質的情報、地区踏査、マッピング	全員（小板橋、植村、池田）

12	地区踏査	内容：地域の実情を知る方法の一つとして地区踏査を実施する。 授業方法：講義、GW 予習：公衆衛生看護概論の復習、キーワードの自己学習 復習：GW内容を振り返る キーワード：コミュニティ―アズパートナーモデル、量的情報、質的情報、地区踏査、マッピング	全員（小板橋、植村、池田）
13	情報の整理・分析と健康課題の優先順位付け	内容：地区踏査を含め収集した情報を整理し、健康課題を見出す方法を学ぶ。見出した健康課題の中で優先順位をつける。 授業方法：講義、GW 予習：公衆衛生看護概論の復習、キーワードの自己学習 復習：GW内容を振り返る キーワード：アセスメント、健康課題、優先順位の決定	全員（小板橋、植村、池田）
14	情報の整理・分析と健康課題の優先順位付け	内容：収集した情報を整理し、健康課題を見出す方法を学ぶ。見出した健康課題の中で優先順位をつける。 授業方法：講義、GW 予習：公衆衛生看護概論の復習、キーワードの自己学習 復習：GW内容を振り返る キーワード：アセスメント、健康課題、優先順位の決定	全員（小板橋、植村、池田）
15	企画立案	内容：健康教育の様々なモデルを踏まえ、健康課題への対策を企画する方法を学ぶ。 授業方法：講義、GW 予習：公衆衛生看護概論の復習、キーワードの自己学習 復習：GW内容を振り返る キーワード：KAPモデル、ヘルスビリーフモデル、プリシードプロシードモデル、エンパワメント	全員（小板橋、植村、池田）
16	企画立案	内容：健康教育の様々なモデルを踏まえ、健康課題への対策を企画する方法を学ぶ。 授業方法：講義、GW 予習：キーワードの自己学習 復習：GW内容を振り返る キーワード：KAPモデル、ヘルスビリーフモデル、プリシードプロシードモデル、エンパワメント	全員（小板橋、植村、池田）
17	企画書の作成	内容：健康教育の様々なモデルを踏まえ、健康課題への対策として企画する方法を学ぶ。 授業方法：講義、GW 予習：公衆衛生看護概論の復習、キーワードの自己学習 復習：GW内容を振り返る キーワード：目的、目標、プロセス評価、影響評価、成果評価	全員（小板橋、植村、池田）
18	企画書の作成	内容：健康教育の様々なモデルを踏まえ、健康課題への対策として企画する方法を学ぶ。 授業方法：講義、GW 予習：公衆衛生看護概論の復習、キーワードの自己学習 復習：GW内容を振り返る キーワード：目的、目標、プロセス評価、影響評価、成果評価	全員（小板橋、植村、池田）
19	媒体などの作成	内容：健康教育の様々なモデルを踏まえ、健康課題への対策として企画する方法を学ぶ。 授業方法：講義、GW 予習：公衆衛生看護概論の復習、キーワードの自己学習 復習：GW内容を振り返る キーワード：視聴覚媒体、印刷媒体、情報通信媒体	全員（小板橋、植村、池田）
20	媒体などの作成	内容：健康教育の様々なモデルを踏まえ、健康課題への対策として企画する方法を学ぶ。 授業方法：講義、GW 予習：公衆衛生看護概論の復習、キーワードの自己学習 復習：GW内容を振り返る キーワード：視聴覚媒体、印刷媒体、情報通信媒体	全員（小板橋、植村、池田）
21	媒体などの作成	内容：健康教育の様々なモデルを踏まえ、健康課題への対策として企画する方法を学ぶ。 授業方法：講義、GW 予習：公衆衛生看護概論の復習、キーワードの自己学習 復習：GW内容を振り返る キーワード：視聴覚媒体、印刷媒体、情報通信媒体	全員（小板橋、植村、池田）
22	プレゼンテーション準備	内容：健康教育を実施し、ピア評価を得る。 授業方法：講義、GW 予習：公衆衛生看護概論の復習、キーワードの自己学習 復習：ピア評価内容から健康教育の改善に向けて考察する。 キーワード：健康教育、エンパワメント	全員（小板橋、植村、池田）
23	プレゼンテーション準備	内容：健康教育を実施し、ピア評価を得る。 授業方法：講義、GW 予習：キーワードの自己学習 復習：ピア評価内容から健康教育の改善に向けて考察する。 キーワード：健康教育、エンパワメント	全員（小板橋、植村、池田）
24	プレゼンテーション	内容：健康教育を実施し、ピア評価を得る。 授業方法：講義、GW 予習：公衆衛生看護概論の復習、キーワードの自己学習 復習：ピア評価内容から健康教育の改善に向けて考察する。 キーワード：看護過程、地区診断、ヘルスプロモーション、エンパワメント	全員（小板橋、植村、池田）

25	プレゼンテーション	内容：健康教育を実施し、ピア評価を得る。 授業方法：講義、GW 予習：公衆衛生看護概論の復習、キーワードの自己学習 復習：ピア評価内容から健康教育の改善に向けて考察する。 キーワード：看護過程、地区診断、ヘルスプロモーション、エンパワメント	全員 （小板橋、植村、池田）
26	プレゼンテーション	内容：地区診断のプロセス、結果をもとに地域看護活動の展開方法を振り返る 授業方法：講義、GW 予習：公衆衛生看護概論の復習、キーワードの再学習 復習：これまでの講義内容を振り返る キーワード：看護過程、地区診断、ヘルスプロモーション、エンパワメント	全員 （小板橋、植村、池田）
27	プレゼンテーション	内容：地区診断のプロセス、結果をもとに地域看護活動の展開方法を振り返る 授業方法：講義、GW 予習：公衆衛生看護概論の復習、キーワードの再学習 復習：これまでの講義内容を振り返る キーワード：看護過程、地区診断、ヘルスプロモーション、エンパワメント	全員 （小板橋、植村、池田）

【６】　事前・事後学習とその時間

本講義では各自の予習内容をもとにグループワークを行い、その結果を踏まえた復習が必要となる。目安として、予習1時間程度、復習1時間程度を要する。また各回ミニテストやレポートなどの課題の提出が求められる。

予習：各回該当部分の教科書の熟読と公衆衛生看護概論の復習
復習：グループワークに参加して得た学修内容をもとに、演習で行った地域診断のプロセスに対する個人の考察をまとめる。

【７】　評価方法・基準

グループで作成した成果物および発表内容（50%）、毎講義時に個人で提出するミニテスト・レポートなどの課題（50%）の合計で評価する。

【８】　フィードバック方法

健康教育の発表に対して事前に定めた評価指標に基づいて教員により内容を評価、講評する。
ミニッツペーパーに記載された質問には次回以降の講義時に回答・コメントする。

【９】　教科書

公衆衛生看護学. jp（インターメディカル）

【10】　参考書

コミュニティアズパートナー地域看護学の理論と実際（医学書院）
地域看護診断（東京大学出版）

【11】　備考(関連科目等)

学ぶとよい科目：公衆衛生看護学概論、千葉県の地域医療、コミュニケーション論、プレゼンテーション論、組織論
続く内容の科目：コミュニティヘルス看護展開論、コミュニティヘルス看護実習、その他公衆衛生看護学講義全般（保健師コース）

科目名(日本語)	トランスレーショナルへの挑戦Ⅲ	必修・選択区分	授業形態	開講学期・学年	単位数
科目名(英語)	Challenging for Translational Strategies into Nursing Ⅲ	選択	講義	通年 2年	1単位 15時間
科目責任者	臼井雅美				
担当教員	臼井　雅美、尾立　篤子、瀧口　千枝、島村　敦子、原田　慶子、植村　直子、笠間　秀一、勝見　知恵子				
科目責任者 連絡先(教室)	臼井 雅美（masami.usui@hs.toho-u.ac.jp）（K331研究室）				
オフィスアワー	授業終了後10分程度および授業開講日16：20～18：00。また、メールおよびMoodleのメッセージでの問い合わせに応じます。各教員のメールアドレス、研究室は以下の通り。 臼井雅美：masami.usui@hs.toho-u.ac.jp（研究室K331），尾立篤子：atsuko.oryu@hs.toho-u.ac.jp（研究室K328），瀧口千枝：chie.takiguchi@hs.toho-u.ac.jp（研究室K321），島村敦子：atsuko.shimamura@hs.toho-u.ac.jp（研究室K313），原田慶子：chikako.harada@hs.toho-u.ac.jp（研究室K330），植村直子：naoko.uemura@hs.toho-u.ac.jp（研究室K322），笠間秀一：shuichi.kasama@hs.toho-u.ac.jp（研究室K332），勝見知恵子：chieko.katsumi@jim.toho-u.ac.jp（キャリアセンター）				

【1】　授業方法(ALの要素、ICTの活用等)

1－1．アクティブラーニングについて

実施する

1－2．アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素

ディスカッション、ディベート
グループワーク
プレゼンテーション

2－1．双方向授業でのＩＣＴの活用について

活用する

2－2．ＩＣＴを活用する場合、その具体的名称（クリッカー、タブレット端末等）

Moodle、スマートフォン

【2】　授業概要

看護専門職として多様なキャリアとその活動や成長プロセスを知り、自己のキャリア目標について考える。看護専門職が働く場と活動の実際、その成長プロセスについての知見を深める。また、実際に活動する看護職とのディスカッションを通してキャリアに対する考え方に触れることで、自己のキャリアについて考え始める契機とする。さらに、今後の社会人としてのマナーを身につける。
（オムニバス方式／全5回）
（臼井雅美／1回）キャリアの概念と看護職のキャリア
（尾立篤子／1回）大学院教育と卒後教育
（島村敦子／1回）看護専門職とキャリア
（勝見知恵子／2回）看護職のキャリア形成とマナー
（共同／9回）
①（原田慶子・植村直子／2回）看護のキャリア（保健師・助産師）
②（臼井雅美・瀧口千枝・原田慶子・笠間秀一／7回，尾立篤子・島村篤子／4回）看護キャリアとキャリアデザイン、キャリアの自己形成、生涯発達するキャリア、看護職のキャリアパス、高度実践看護師の活動の実際とキャリア形成

【3】　到達目標

1. キャリアおよびキャリア形成に関する概念が説明できる。
2. キャリア形成について理解し、看護職としての自らのキャリアビジョンについて表現することができる。
3. 今までの大学生活を振り返り、自立したキャリアを創る大学生活について述べることができる。
4. 看護専門職の職務概要と活動について理解し、自らの進路選択について計画的に考え、学びの展望を述べることができる。
5. キャリア選択とキャリアビジョンの内容について理解し、自己のキャリア選択に対する課題を考察することができる。
6. 社会人として必要なマナーについて理解し、看護師の職業を主体的に選択する能力や態度を身につけるための方法を述べることができる。

【4】　ディプロマ・ポリシーとの関連

到達目標を達成することにより、以下の能力を身につけることにつながります。

1．自然科学を看護活動の根拠とし、実践に活かす基礎的な力を有している。

3．他者の多様な価値観を理解し、尊重することができる。

4．看護職の社会的責任を理解し、看護実践にまつわる倫理的課題を感受する力と熟考する力、それらに基づく判断を行動に表す力を身につけている。

5．看護専門職として、リーダーシップおよびフォロワーシップを発揮し、チームの中で有機的に活動する資質を身につけている。

6．自ら学ぼうとする好奇心をもち、生涯にわたり自己研鑽する姿勢を身につける。

【5】　授業計画

	項目	内容および授業方法 予習・復習・キーワード	担当教員
1・2	看護キャリアとキャリアデザイン	1) キャリアとは 2) 理想とする看護職（看護職のキャリアビジョン） 講義・グループワーク 予習：ワークシート① 復習：リフレクションシート① キーワード： キャリア、キャリアビジョン、キャリアデザイン、キャリアプラン、キャリアパス、キャリア形成、キャリアアップ、キャリア転換、ポートフォリオ、理想とする看護職	臼井雅美，瀧口千枝，原田慶子，笠間秀一
3・4	キャリアの自己形成	自立したキャリアを創る大学生活とは 演習・グループワーク・スマートフォンによるグループ評価 予習：ワークシート② 復習：リフレクションシート② キーワード：マインドマップ	臼井雅美，瀧口千枝，島村敦子，原田慶子，笠間秀一
5・6	看護職のキャリア形成とマナー	1) 看護職のキャリア形成と自己理解 2) 看護職のキャリア形成に関わるマナー 講義・演習 予習：ワークシート③ 復習：リフレクションシート③ キーワード：ライフキャリアプラン、ライフイベント、インターンシップ、オフィスカジュアル、マナー	勝見知恵子
7・8	看護のキャリア （保健師・助産師）	1)保健師の活動の実際とキャリア形成 2)助産師の活動の実際とキャリア形成 講義・グループディスカッション 予習：ワークシート④ 復習：リフレクションシート④ キーワード：保健師、助産師、養護教諭	植村直子，原田慶子
9・10	生涯発達するキャリア	1) 集団における意思決定 2) 生涯発達するキャリア 演習・グループワーク 予習：ワークシート⑤ 復習：リフレクションシート⑤ キーワード：意思決定、アサーティブ、コンセンサス、キャリア発達、キャリア課題	臼井雅美，尾立篤子，瀧口千枝，原田慶子，笠間秀一
11・12	看護専門職と生涯学習	1) 大学院教育と卒後教育 2) 看護職のキャリアパス 講義・グループディスカッション 予習：ワークシート⑥ 復習：リフレクションシート⑥ キーワード：キャリアアンカー、大学院教育、認定看護師、専門看護師、ジェネラリスト、スペシャリスト	尾立篤子，臼井雅美，瀧口千枝，島村敦子，原田慶子，笠間秀一
13・14	看護専門職とキャリア（スペシャリスト）	高度実践看護師の活動の実際とキャリア形成 講義・グループディスカッション 予習：ワークシート⑥ 復習：リフレクションシート、課題レポート キーワード：専門看護師、千葉県における保健医療事情	島村敦子，臼井雅美，尾立篤子，瀧口千枝，原田慶子，笠間秀一

【6】　事前・事後学習とその時間

【準備学習】
事前学習としてMoodleを利用するため、わからないことは確認しておく。
本授業は今後の自分のキャリアを考えるために必要な科目である。
予習・復習あわせて1時間程度
【事後学習】
授業終了後に示す課題についてレポートとしてまとめること。
グループワークに関しては、次回の授業範囲を予習し、演習ワークシートおよびディスカッションの準備をしておくこと。
【学修上の留意点】
eラーニングを積極的に活用すること。

【7】　評価方法・基準

課題レポート（30%），ワークシート・リフレクションシート（30%）、グループワーク課題・発表会成果物（40%）

【8】　フィードバック方法

ワークシート・課題レポートは結果を返却する。リフレクションシートに記載された感想や質問は次の時間にフィードバックする。授業の最終日に全体講評を行う。

【9】　教科書

資料を授業の時に配布する。

【10】　参考書

前原澄子・遠藤俊子監修：看護学生のためによくわかる大学での学び方　第2版，2018，Kinpodo
箕浦とき子・高橋恵著：看護職としての社会人基礎力の育て方　第2版、2018，日本看護協会出版会
山崎京子・平林正樹著：未来を拓くキャリア・デザイン講座，2018，中央経済社

【11】　備考(関連科目等)

予め学んでおくと良い科目：トランスレーショナルへの挑戦Ⅰ，コミュニケーション論，プレゼンテーション論，健康科学概論，看護学概論，臨床看護学概論，老年看護学概論，地域・在宅看護概論，看護入門実習Ⅰ，看護入門実習Ⅱ
この科目に続く内容の科目：小児看護学概論，母性看護学概論，精神看護学概論，公衆衛生看護学概論，臨床看護学実習Ⅰ，老年看護学実習，臨床看護学実習Ⅱ，臨床看護学実習Ⅲ，小児看護学実習，母性看護学実習、精神看護学実習，在宅看護実習，コミュニティヘルス看護実習，看護実践の探究

シラバス 2025 年度

3 年生

科目名(日本語)	**政策形成過程論**	必修・選択区分	授業形態	開講学期・学年	単位数
科目名(英語)	Policy Formation Process Theory	選択	講義	春学期 3年	1単位 15時間
科目責任者	元田宏樹				
担当教員	元田宏樹				
科目責任者 連絡先(教室)	メールで問い合わせ可能 motohiro2030@gmail.com				
オフィスアワー	5月31日（13時～13時50分非常勤講師室にいます）				

【１】　授業方法(ALの要素、ICTの活用等)

１－１．アクティブラーニングについて

実施する

１－２．アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素

ディスカッション、ディベート
グループワーク

２－１．双方向授業でのＩＣＴの活用について

活用しない

【２】　授業概要

社会と政策、個人と社会の関係の基礎的知識を学修し、国民の健康に関する政策を考えるための知識を修得する。人間の社会環境として「より望ましい社会」を考えるうえで、施策のあり方が大きく影響することを理解し、国民の健康の在り方を考える視点を養う。

【３】　到達目標

1.国と地方公共団体の行政の仕組みについて説明することができる。
2.地方自治と地方分権について説明することができる。
3.国と地方公共団体の財政の仕組みについて説明することができる。
4.予算の機能と原則について述べることができる。
5.地方公共団体の保健医療行政政策の計画策定・実行・評価のサイクルについて説明できる。
6.国の政策の在り方が人間の社会環境に影響することを知り、「より望ましい社会」を考え、看護職者の役割、地域での活動について述べることができる。

【４】　ディプロマ・ポリシーとの関連

到達目標を達成することにより、以下の能力を身につけることにつながります。

１．自然科学を看護活動の根拠とし、実践に活かす基礎的な力を有している。

２．看護学の専門知識と技術を修得している。

３．他者の多様な価値観を理解し、尊重することができる。

４．看護職の社会的責任を理解し、看護実践にまつわる倫理的課題を感受する力と熟考する力、それらに基づく判断を行動に表す力を身につけている。

５．看護専門職として、リーダーシップおよびフォロワーシップを発揮し、チームの中で有機的に活動する資質を身につけている。

【5】　授業計画

	項目	内容および授業方法 予習・復習・キーワード	担当教員
1・2	政策形成過程１	政策主体としての自治体の役割、政策の意義や構造、政策のPDCAサイクルについて学ぶ。グループワークを行う。 講義 予習：「政策」とは何かについて調べておく。 復習：本講義で学んだ基礎的知識を整理する。 キーワード：政策主体、政策の意義・構造、政策サイクル	元田宏樹
3・4	政策形成過程2	地方政治の役割、地方分権後の自治体の姿、自治体が策定する行政計画、自治体で働く福祉専門職について学ぶ。グループワークを行う。 講義 予習：地方議会の仕組みをインターネット等で調べておく 復習：地方政治と保健福祉政策における決定過程を復習する。 キーワード：自治体、地方分権、自治体福祉計画、福祉専門職	元田宏樹
5・6	政策形成過程3	国と自治体の財政の仕組み、自治体における情報公開と個人情報の保護について学ぶ。グループワークを行う。 講義 予習：「社会保障制度」で学んだ財政の仕組みについて確認しておく。 復習：本講義で学んだ基礎的知識を整理する。 キーワード：国と自治体の財政、情報公開、個人情報保護	元田宏樹
7・8	政策形成過程4	国の財政の仕組み・予算の機能と原則・社会保障の給付と財源、国民負担率について学ぶ。グループワークを行う。 講義 予習：「社会保障制度」で学んだ財政・給付・国民負担率について確認しておく。 復習：本講義で学んだ基礎的知識を整理する。 キーワード：社会保障財政、社会保障給付、国民負担率	元田宏樹
9・10	社会福祉における政策のあり方1	国民の健康のあり方を考え、看護職者の役割、政策形成の関与について理解を深める。 講義 復習：本講義で学んだ基礎的知識を整理する。 キーワード：看護職における政策、看護職に求められる社会的責務と政策、政策過程への参画、	元田宏樹
11・12	社会福祉における政策のあり方2	生活困窮者支援について、セーフティネットと自立助長の観点から官民の福祉ミックスについて考える。 講義 復習：本講義で学んだ基礎的知識を整理する。 キーワード：セーフティネットの変遷、自己責任から国家責任へ、格差社会	元田宏樹
13・14	社会福祉における政策のあり方2	路上生活者に対する支援について考える。国や自治体におけるこれまでの支援策や課題について考察する。 講義 復習：本講義で学んだ基礎的知識を整理する。 キーワード：路上生活者（ホームレス）、自立支援センター、急迫保護、地域生活移行支援	元田宏樹

【6】　事前・事後学習とその時間

【準備学習】
新聞、TV、Web上 等のマスコミでの報道の中で、社会福祉に関連する事項に興味を持ち情報収集を心がける。
法学（日本国憲法含）を受けている事が望ましい。
　基本的には各回の授業の予習より、復習として学修したことの知識の整理をしてください。時間は学生個々によって違うと思いますので次の授業に支障のないように行ってください。
平均的には毎回30分～60分の時間を要すると思われる。
【学習上の留意点】
　「社会保障制度」「保健医療福祉行政論」で学んだことを関連させて学習をする。
※毎回提出する課題についての詳細は授業中にアナウンスする。

【7】　評価方法・基準

評価は、毎回提出の課題約2割、及び期末レポート約8割を総合的に判断して評価する。

【8】　フィードバック方法

フィードバックに関しては、教員とメールなどを用いて双方向でやりとりする。なお、特徴的な質問など全体に周知した方が良い内容については、次回の授業等でコメントする。

【9】　教科書

結城康博・河村秋・大津唯編著『わかりやすい社会保障制度 改訂版』2023.ぎょうせい出版。
※「社会保障制度」で使用した教科書となります。

【10】　参考書

元田宏樹編著『シリーズ 今日から福祉職 押さえておきたい 公的扶助・生活保護行政』2021.ぎょうせい出版。

【11】　備考(関連科目等)

保健医療福祉行政論、社会保障制度、法学（日本国憲法含）、公衆衛生看護学の各科目、看護学の臨地実習科目

科目名(日本語)	**周手術期看護・急性重症患者看護**	必修・選択区分	授業形態	開講学期・学年	単位数
科目名(英語)	Peri-operative Nursing and Critical Care Nursing	必修	講義	春学期 3年	2単位 30時間
科目責任者	瀧口千枝				
担当教員	瀧口千枝、笠間秀一、畑中佳子				
科目責任者 連絡先(教室)	瀧口千枝：（研究室K321）chie.takiguchi@hs.toho-u.ac.jp				
オフィスアワー	質問、問い合わせは、Moodleの質問コーナー、リフレクションシート、もしくは、授業終了後に講義室で10分間、受け付ける。 質問への回答は、科目担当者が、Moodleもしくは直接口頭で対応する。 瀧口千枝:chie.takiguchi@hs.toho-u.ac.jp（K321）、笠間秀一:shuichi.kasama@hs.toho-u.ac.jp（K332）、畑中佳子:keiko.hatanaka@hs.toho-u.ac.jp（K318）				

【1】　授業方法(ALの要素、ICTの活用等)

１－１．アクティブラーニングについて

実施する

１－２．アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素

ＰＢＬ（課題解決型学習）
反転授業
ディスカッション、ディベート
グループワーク
プレゼンテーション

２－１．双方向授業でのＩＣＴの活用について

活用する

２－２．ＩＣＴを活用する場合、その具体的名称（クリッカー、タブレット端末等）

Moodle

【2】　授業概要

急激な健康破綻や心身の危機に瀕している患者とその家族への看護として、特に、手術を受ける患者とその家族を対象とする周手術期の看護、重症患者とその家族を対象とする集中治療中の看護、また、急な事故や病気などで早急に医療を必要とする患者とその家族を対象とする救急看護について学ぶ。関連した基礎知識・概念・理論を押さえたうえで、それぞれの看護における対象の特徴、医療や看護活動の特徴、看護職の役割を理解する。さらに、ペーパーペイシェントを用いて、対象の全体像の把握、援助方法の考察を行うことを通して、根拠ある看護を展開する力を育成する。

（瀧口千枝・笠間秀一・畑中佳子／27回）
急性重症患者看護の概説と看護実践の展開方法・周手術期・初療における看護実践の展開方法・周手術期における看護実践の展開方法

【3】　到達目標

1.周手術期看護
(1)手術侵襲に対する生体反応について説明できる
(2)周手術期にある患者の看護の特徴について説明できる
(3)周手術期の患者・家族への看護について説明できる
(4)術前の看護のポイントを3つ以上あげられる
(5)術中の患者の患者管理のポイントを3つ以上あげられる
(6)術後合併症の発生機序を5項目以上説明できる
(7)早期離床の必要性を説明できる
(8)機能別の周手術期の特徴を3機能以上説明できる
(9)手術を受ける患者の問題について考え、看護師の役割とは何か他者と話し合うことができる
2.急性重症患者看護
(1)過大侵襲を受けた患者の生体反応について説明できる
(2)クリティカルケアを必要とする患者・家族の特徴を説明できる
(3)クリティカルケア看護の特性について説明できる
(4)クリティカルな患者に共通する主要病態とケアの関連を説明できる
(5)クリティカルケアの主要病態(循環器系・呼吸器系・脳神経系・消化器系・代謝)における看護問題の特徴を説明できる
(6)クリティカルケア領域における倫理的課題と対応について説明できる
(7)クリティカルケア領域における家族看護について説明できる
(8)クリティカルケア領域におけるチーム医療と看護の専門性について説明できる
3.救急看護
(1)日本の救急医療システムについて説明できる
(2)救急領域で扱う主要な重症病態と治療について説明できる
(3)救急看護の特性と看護師の役割について説明できる
(4)救急患者の全身状態のアセスメント(primary　survey＋infection control)とマネジメントについて説明できる
(5)救急患者のケケアについて説明できる

【4】　ディプロマ・ポリシーとの関連

到達目標を達成することにより、以下の能力を身につけることにつながります。

1．自然科学を看護活動の根拠とし、実践に活かす基礎的な力を有している。

2．看護学の専門知識と技術を修得している。

3．他者の多様な価値観を理解し、尊重することができる。

4．看護職の社会的責任を理解し、看護実践にまつわる倫理的課題を感受する力と熟考する力、それらに基づく判断を行動に表す力を身につけている。

5．看護専門職として、リーダーシップおよびフォロワーシップを発揮し、チームの中で有機的に活動する資質を身につけている。

6．自ら学ぼうとする好奇心をもち、生涯にわたり自己研鑽する姿勢を身につける。

【5】　授業計画

	項目	内容および授業方法 予習・復習・キーワード	担当教員
1	周手術期看護（1） 周手術期の患者・家族の特徴と看護	内容： ・クリティカルケア看護・周手術期看護とは ・周手術期にある患者と家族の特徴 ・侵襲と生体反応およびその経過 ・手術を受ける患者・家族への援助 授業方法：講義 予習：教科書の侵襲に対する心身の反応に該当する部分を読む 復習：授業まとめの課題、疾病と治療Ⅳ（麻酔科）の授業内容とを関連付ける キーワード：手術侵襲、手術による心身の変化、危機理論、生活の変化、ボディイメージの変化	瀧口　千枝 （笠間　秀一 畑中　佳子）
2	周手術期看護（2） 術前の看護	内容： ・術前患者のアセスメント ・術前のオリエンテーションと術前準備 ・意思決定支援 ・手術室の特殊な構造（空調設備、配置、医療機器） ・手術室の環境と患者の安全管理 授業方法　講義 予習：教科書①を読む 復習：授業まとめの課題 キーワード術前オリエンテーション、術前訓練、術前検査　意思決定支援、手術室の構造	笠間　秀一 （瀧口　千枝 畑中　佳子）
3	周手術期看護（3） 身体機能別に考える周手術期看護1	内容： 課題提示および課題学習 ・手術・麻酔によって起こる生体反応と変化（情報の整理） 授業方法：講義・個人ワーク・グループワーク 予習：各身体機能の解剖生理　手術適応となる病態　各手術によって起こる生体反応と変化・各手術により影響を受ける機能低下に対する看護・生活の再構築への援助についての自己学習 復習：事例展開のまとめ（記録用紙） キーワード：統制機能、呼吸機能、循環機能、摂取機能、消化機能、排泄機能、運動機能、生殖機能の手術、関連図、周手術期看護、看護計画	瀧口　千枝 笠間　秀一 畑中　佳子
4・5	周手術期看護（4） 術中の看護	内容： ・手術室での観察と援助（入室時・麻酔導入時・術中・麻酔覚醒時・退室時） ・手術中の看護師の役割（直接介助、間接介助） ・手術中の合併症 ・手術を受ける患者のアセスメントと看護問題 授業方法：講義 予習：ナーシング・スキル（手術室への出棟、患者誤認防止策、全身麻酔導入時の介助）の動画資料の視聴。教科書①P.74-91を読む 復習：授業まとめの課題 キーワード：感染予防　麻酔侵襲、手術体位　呼吸管理　循環管理　体温管理	笠間　秀一 （瀧口　千枝 畑中　佳子）
6	周手術期看護（5） 術後の看護	内容： ・術直後の観察ポイント ・術後合併症予防と回復促進への援助 ・術後の創傷管理と疼痛管理 ・術後せん妄と予防のため看護 ・障害やボディイメージの変化への適応に向けた援助 授業方法：講義 予習：教科書の該当部分を読む 復習：授業まとめの課題 キーワード：意識レベル、覚醒遅延　術後悪心･嘔吐　術後せん妄　肺合併症　循環器合併症　術後感染　縫合不全　深部静脈血栓　肺梗塞症　創傷管理　疼痛管理　早期離床　術後イレウス　身体機能変化　ボディイメージ　退院指導　退院支援　心理的援助　セルフケア	笠間　秀一 （瀧口　千枝 畑中　佳子）
7	周手術期看護（6） 身体機能別に考える周手術期看護2	内容： 課題学習 ・手術・麻酔によって起こる生体反応変化と個別性の関連（アセスメント） 授業方法：個人ワーク・グループワーク 予習：各身体機能の解剖生理　手術適応となる病態　各手術によって起こる生体反応と変化・各手術により影響を受ける機能低下に対する看護・生活の再構築への援助についての自己学習 復習：事例展開のまとめ（記録用紙） キーワード：統制機能、呼吸機能、循環機能、摂取機能、消化機能、排泄機能、運動機能、生殖機能の手術、関連図、周手術期看護、看護計画	笠間　秀一 瀧口　千枝 畑中　佳子

8・9・10	クリティカルケアの主要病態と看護（１）総論	内容： ・集中治療の現状 ・クリティカルケアの場（種類・目的・構造・機能・特徴） ・過大侵襲と生体反応 ・集中治療後症候群（PICS）とその予防 ・クリティカルケア領域における倫理的課題 ・クリティカルケア領域の家族看護 ・クリティカルケア領域におけるチーム医療と看護師の役割 ・クリティカルケア領域の看護師の専門性 授業方法：講義 予習：　教科書①②，看護者の倫理綱領（日本看護協会） 復習：ワークシートによるポイントチェック キーワード：集中治療室、侵襲への生体反応のプロセス、ショック、体液バランス、補助循環療法、人工呼吸管理、播種性血管内凝固症候群（DIC）、多臓器不全、敗血症、四肢切断、全身性炎症反応症候群（SIRS）、血液濾過透析法集中治療後症候群（PICS、PICS-F）、ICU-AW、せん妄、ABCDEFGHバンドル、浅い鎮静、十分な鎮痛、気管挿管中の患者とのコミュニケーション方法、精神科リエゾンチーム，倫理原則、意思決定、身体拘束、DNAR、脳死、臓器 移植、家族のニード、　チーム医療、ケアコーディネーション	瀧口　千枝 （笠間　秀一 畑中　佳子）
11・12	周手術期看護（7） 身体機能別に考える周手術期看護3	内容 課題学習 ・手術侵襲と身体機能低下および看護問題のつながり（関連図作成） ・術前・術中・術後に求められる看護（看護問題抽出） 授業方法：個人ワーク・グループワーク 予習：各身体機能の解剖生理　手術適応となる病態　各手術によって起こる生体反応と変化・各手術により影響を受ける機能低下に対する看護・生活の再構築への援助についての追加学習 復習：事例展開のまとめ（記録用紙） キーワード：統制機能、呼吸機能、循環機能、摂取機能、消化機能、排泄機能、運動機能、生殖機能の手術、関連図、周手術期看護、看護計画	笠間　秀一 瀧口　千枝 畑中　佳子
13	クリティカルケアの主要病態と看護（２）危機理論と看護介入	内容： ・危機理論と看護 ・クリティカルケア看護の特性と役割 授業方法：講義 予習：参考書②成人看護学総論成人看護学①：P.200-209，教科書①② 復習：ワークシートによるポイントチェック キーワード：危機モデル、危機介入、アギュララメズイック・フィンク、代理意思決定支援、家族看護	瀧口　千枝 （笠間　秀一 畑中　佳子）
14・15	クリティカルケアの主要病態と看護（３）循環障害	内容： ・循環器系に障害のある重症患者の全体像の把握 ・循環器系に障害のある重症患者への看護 授業方法：講義 予習：教科書①②人体の構造と機能Ⅰ（循環器）の復習、疾病と治療Ⅰ（循環障害）の復習、疾病と治療Ⅱ（循環器）の復習、機能障害のある患者の看護（慢性心疾患）の復習 復習：ワークシートによるポイントチェック キーワード：循環不全のフィジカルアセスメント、緊急性の高い心電図変化、ペースメーカー、除細動器、救急カート、ショック、虚血性心疾患、経皮的冠動脈形成術（PCI）、心不全、不整脈、動脈瘤、開心術後の看護、大動脈バルンパンピング（IABP）、前負荷・後負荷、補助循環中の看護、心負荷	瀧口　千枝 （笠間　秀一 畑中　佳子）
16・17	クリティカルケアの主要病態と看護（４）呼吸障害	内容： ・呼吸器系に障害のある重症患者の全体像の把握 ・呼吸器系に障害のある重症患者への看護 授業方法：講義 予習：教科書①②.人体の構造と機能Ⅰ（第5～8回：呼吸器）の復習、疾病と治療Ⅱ（第1～3回：呼吸器）の復習、機能障害のある患者の看護（第8-9回：慢性呼吸器疾患）の復習 復習：ワークシートによるポイントチェック キーワード：呼吸不全のフィジカルアセスメント、Ⅰ型呼吸不全、Ⅱ型呼吸不全、CO2ナルコーシス、ECMO、侵襲的人工呼吸、気管吸引、カフの管理、口腔ケア、人工呼吸器関連肺障害（VALI）、人工呼吸器関連肺炎（VAP）、非侵襲的人工呼吸、肺切除術後の看護、胸腔ドレナージ、呼吸理学療法	瀧口　千枝 （笠間　秀一 畑中　佳子）
18・19	クリティカルケアの主要病態と看護（５）中枢神経障害	内容： ・脳神経系に障害のある重症患者の全体像の把握 ・脳神経系に障害のある重症患者への看護 授業方法：講義 予習:教科書①②.人体の構造と機能Ⅱ（中枢神経）の復習、疾病と治療Ⅱ（脳神経）の 復習、疾病と治療Ⅳ（神経系の救急疾患）	瀧口　千枝 （笠間　秀一 畑中　佳子）

		復習：ワークシートによるポイントチェック キーワード：脳神経疾患患者のフィジカルアセスメント、頭蓋内圧亢進症状、髄膜刺激症状、痙攣、不穏、コーマスケール、瞳孔反射、麻痺、知覚障害、開頭術後の看護、脳室･脳槽ドレナージの管理、脳出血、脳梗塞、くも膜下出血、脊髄損傷、髄膜炎	
20	周手術期看護（8） 身体機能別に考える周手術期看護4	内容 課題学習の解説 ・看護展開の共有・解説 ・まとめ 授業方法：講義　個人ワーク・グループワーク 予習：各身体機能の解剖生理　手術適応となる病態　各手術によって起こる生体反応と変化・各手術により影響を受ける機能低下に対する看護・生活の再構築への援助についての追加学習とまとめ 復習：看護展開の追加修正 キーワード：統制機能、呼吸機能、循環機能、摂取機能、消化機能、排泄機能、運動機能、生殖機能の手術、関連図、周手術期看護、看護計画	笠間　秀一 瀧口　千枝 畑中　佳子
21・22	クリティカルケアの主要病態と看護（６）肝機能障害・腎機能障害・凝固系障害	内容： ・肝機能に障害のある重症患者の全体像の把握 ・肝機能に障害のある重症患者への看護 ・急性腎障害と看護 授業方法：講義 予習:教科書①.人体の構造と機能Ⅲ（消化器、泌尿器）の復習、疾病と治療Ⅱ（消化器、泌尿器）の復習、機能障害のある患者の看護（消化器障害）の復習 復習：ワークシートによるポイントチェック キーワード：消化器系のフィジカルアセスメント、吐・下血、消化管穿孔、汎発性腹膜炎、肝機能障害、肝不全、食道静脈瘤、門脈圧亢進症状、肝切除術後の看護・DIC	瀧口　千枝 （笠間　秀一 畑中　佳子）
23・24	救急看護	内容： ・日本の救急医療システム ・救急領域で扱う主要な重症病態と治療 ・救急看護の特徴と看護師の役割 ・救急患者の全身状態のアセスメント（トリアージ、Primary survey＋infection control） ・救急患者のケア 授業方法：講義 予習：教科書②を読んでくる 復習： Primary survey＋infection control キーワード：救急医療システム、トリアージ、Primary survey、infection control、緊急度と重症度、多職種連携、BLS、ACLS、心肺停止、急性医薬品中毒、自殺企図、外傷、熱傷、低血糖発作・敗血症	笠間　秀一 （瀧口　千枝 畑中　佳子）
25・26	災害看護	内容 災害発生時の看護師の役割 ・災害発生時における看護 ・看護師が行うトリアージ 授業方法：講義、グループワーク、実技演習 予習：疾病と治療Ⅳ（災害医療）の復習、指定された動画視聴 復習：レポート キーワード：トリアージ、災害看護、倫理的配慮	瀧口　千枝 笠間　秀一 畑中　佳子
27	科目のまとめ	内容 ・本科目と演習・実習とのつながり ・本科目のポイントチェック 授業方法：講義 予習：今までの授業資料 復習：今までの授業内容 キーワード：科学的根拠に基づいた実践、関連図、クリティカルケア看護	瀧口　千枝 笠間　秀一 畑中　佳子

【６】　事前・事後学習とその時間

・授業に用いるための情報収集（予習）　30～60分
・課題、レポートまたは学習内容のまとめ（復習）30～60分
・臨床看護学実習ⅡⅢに直接結びつく内容である。予習復習を着実に行い、知識を十分身につけることを期待する

【７】　評価方法・基準

定期テスト（70%）、授業後のリフレクションシート（10%）、個人ワークの成果（20%）により評価する。

【８】　フィードバック方法

次回の授業で、課題の中の特徴的な見解や誤解について全体にコメントする

【９】　教科書

①看護テキストNICE　成人看護学 急性期看護I 概論・周手術期看護　第4版　林直子　佐藤まゆみ（南江堂）2023
②看護テキストNICE　成人看護学　急性期看護Ⅱ　救急看護・クリティカルケア　第4版　佐藤まゆみ　林直子（南江堂）2023

【10】　参考書

①系統看護学講座　成人看護学総論　成人看護学①　医学書院
②カラービジュアルで見てわかる！はじめての手術室看護　メディカ出版
③Nursing Profession Series　手術看護-術前術後につなげる術中看護-　医歯薬出版株式会社
④病気がみえるシリーズ

【11】　備考(関連科目等)

「予め学んでおくとよい科目」周手術期看護・急性重症患者看護、人体の構造と機能Ⅰ～Ⅲ、疾病と治療Ⅰ～Ⅲ、看護の基本技術1－5，Ⅵ、臨床看護学概論、看護展開論、看護理論、感染看護、薬理学、臨床心理学
「この科目に続く内容の科目」臨床看護学実習Ⅱ，Ⅲ、疾病と治療Ⅳ，Ⅴ、看護の基本技術7-12、がん看護・緩和ケア、看護倫理学、チーム活動論、臨床実践技術の探究

科目名(日本語)	**看護の基本技術6（急性期看護技術）**	必修・選択区分	授業形態	開講学期・学年	単位数
科目名(英語)	Nursing Skills 6(Acute Nursing Care)	必修	演習	春学期 3年	1単位 30時間
科目責任者	瀧口千枝				
担当教員	瀧口千枝・笠間秀一・畑中佳子・水流添秀行・清田和弘				
科目責任者 連絡先(教室)	瀧口千枝　健康科学部棟3階　研究室　K321 Mail:chie.takiguchi@hs.toho-u.ac.jp				
オフィスアワー	質問、問い合わせは、Moodleの質問コーナー、リフレクションシート、もしくは授業終了後30分間、直接科目担当者に問い合わせる。 質問への回答は、科目担当者が、Moodleもしくは、直接口頭で対応する。				

【1】　授業方法(ALの要素、ICTの活用等)

１－１．アクティブラーニングについて

実施する

１－２．アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素

ＰＢＬ（課題解決型学習）
反転授業
ディスカッション、ディベート
グループワーク
プレゼンテーション

２－１．双方向授業でのＩＣＴの活用について

活用する

２－２．ＩＣＴを活用する場合、その具体的名称（クリッカー、タブレット端末等）

授業後に、Moodleを用いて事前・事後学習の理解度や学びの共有を行う。

【2】　授業概要

看護実践における応用を含んだ技術の考え方・方法・援助プロセス･態度を学習する。
基本技6では、急性期にある患者への看護技術(周手術期患者管理、呼吸･循環管理、体液管理、創傷管理）の考え方・方法、また災害時に看護師に求められる役割を学ぶ。これらの知識に基づき、クリティカルケア領域の看護実践の倫理的側面に配慮しながら、援助に必要な基本技術を体験する。さらに、ペーパーペイシェントで看護を展開し、より実践に則した援助技術力を育成する。

【3】　到達目標

1. 成人患者の看護の展開方法について具体的に説明できる。
2. 病態生理学、看護学、関連の知識を統合して、対象の状態に応じた事例展開ができる。
3. 事例展開のグループワークにおいて、グループメンバーと協力しながら自らの役割を果たすことができる。
4. グループワークやプレゼンテーションを通して、自己の課題を明確できる。
5. 既習の看護技術を組みあわせて、患者の状況と個別性に応じた看護技術を実施することができる。
6. 急性期に生じやすい皮膚・粘膜トラブルや創傷管理のための看護技術の方法と留意点を説明できる。
7. 病態生理学の知識に基づいた体液管理の方法と留意点について説明できる。
8. 呼吸に問題のある患者のアセスメントに基づいた回復促進・安楽のためのケアの方法を説明できる。
9. 循環に問題のある患者のアセスメントに基づいた回復促進・安楽のためのケアの方法を説明できる。
10. 手術患者のリスクアセスメントに基づいた効果的な術前看護の方法を説明できる。
11. 術後合併症予防のために求められる術後看護の方法と留意点を説明できる。
12. 院内急変をきたした患者の救命のために看護師がとるべき行動について説明できる。
13. 急激な健康破綻をきたした患者の倫理面に配慮した看護の方法を説明できる。
14. クリティカルケア領域における看護実践の特徴と課題について説明できる。

【4】　ディプロマ・ポリシーとの関連

到達目標を達成することにより、以下の能力を身につけることにつながります。

１．自然科学を看護活動の根拠とし、実践に活かす基礎的な力を有している。

２．看護学の専門知識と技術を修得している。

３．他者の多様な価値観を理解し、尊重することができる。

４．看護職の社会的責任を理解し、看護実践にまつわる倫理的課題を感受する力と熟考する力、それらに基づく判断を行動に表す力を身につけている。

５．看護専門職として、リーダーシップおよびフォロワーシップを発揮し、チームの中で有機的に活動する資質を身につけている。

６．自ら学ぼうとする好奇心をもち、生涯にわたり自己研鑽する姿勢を身につける。

【5】　授業計画

	項目	内容および授業方法 予習・復習・キーワード	担当教員
1-①	科目のガイダンス	臨床看護学演習のオリエンテーション ・基礎看護と臨床看護のつながり ・臨床看護学演習のねらい 授業方法：講義 予習：シラバスを熟読しておく。 復習：次回以降の授業内容の把握。 キーワード：臨床判断、看護実践力、ベストプラクティス、状況に応じた看護	瀧口千枝 笠間秀一
1-②	急性期の看護展開の方法	急性期看護展開の方法 ・看護展開の方法 ・記録用紙の説明 授業方法：講義、演習 予習：シラバスを熟読しておく。 復習：看護展開の方法の復習、指定された期日までに提示された事例のデータベース・アセスメントシートを完成させ、Moodleの提出ボックスに提出する。 キーワード：生体侵襲、関連図、POS（Problem Oriented System）、看護過程、機能的健康パターン、情報の整理、不足情報のアセスメント、情報の関連、看護問題、看護計画、SOAP、評価	畑中佳子
2-6	体液管理	体液管理に関わる看護技術 ・IN takeの管理とOUT putの観察 ・水分出納のバランスのアセスメントと記録 ・輸液ポンプ・シリンジポンプの管理 ・経腸栄養法の実際 ・胸腔ドレナージの管理 授業方法：ミニレクチャー、実技演習 予習：教科書の該当ページおよび周手術期・急性重症患者看護の既習内容を復習、指定された動画視聴。 復習：動画視聴、小テスト実施、レポート提出 キーワード：輸液、輸液ポンプ、シリンジポンプ、輸血、経腸栄養、胃管の確認、腹腔・胸腔ドレナージ、分泌物、浸出液、不感蒸泄、水分出納（IN/OUTバランス）、24時間経過表	瀧口千枝 水流添秀行
2-6	術前の看護	術前オリエンテーション、術前トレーニング ・リスクアセスメントに基づいた術前看護 ・アドヒアランスを高めるための術前看護 授業方法：ミニレクチャー、実技演習 予習：教科書の該当ページおよび周手術期・急性重症患者看護の既習内容を復習、指定された動画視聴。 復習：ワークシートによるポイントチェック、動画閲覧、事後課題提出 キーワード：予期不安、リスクアセスメント、術前オリエンテーション、術前トレーニング、アドヒアランス、術後合併症、弾性ストッキング、ボディイメージの変化	笠間秀一
2-6	事例展開①	情報を整理し、情報の解釈と分析をする 情報同士の関連について考える ・機能的健康パターンのアセスメント ・関連図の作成を通した情報の分析 授業方法：グループワーク、ディスカッション 予習：データベースアセスメントシートに情報を整理しておく 復習：データベースアセスメントシートの完成と提出 キーワード：情報の解釈と分析、関連図	畑中佳子
7-11	呼吸管理	呼吸状態のアセスメントと看護 ・呼吸に問題のある患者のフィジカルアセスメント ・気管挿管・気管切開している患者のケア ・様々な気道確保 ・呼吸理学療法 ・効果的な気管吸引 授業方法：ミニレクチャー、実技演習 予習：教科書の該当ページおよび周手術期・急性重症患者看護の既習内容を復習、指定された動画視聴。 復習：動画視聴、小テスト、レポート提出 キーワード： 気道確保、気道浄化、呼吸理学療法、体位ドレナージ、咳嗽誘発、気管吸引、清潔操作	瀧口千枝 水流添秀行
7-11	術直後の看護	手術直後の患者の看護 ・麻酔覚醒直後の看護 ・外科的侵襲直後の看護 技術授業方法：ミニレクチャー、実技演習 予習：教科書の該当ページおよび周手術期・急性重症患者看護の既習内容を復習、指定された動画視聴。 復習：動画閲覧、レポート提出 キーワード：麻酔覚醒遅延、舌根沈下、シバリング、低体温・復温、術後出血、ドレナージ、疼痛評価、鎮痛、PCAポンプ、喀痰喀出困難、臥床での含嗽	笠間秀一

7-11	事例展開②	情報の解釈と統合から看護上の問題を明らかにする ・機能的健康パターンのアセスメント ・関連図の作成を通した情報の分析 ・看護問題の明確化 授業方法：グループワーク、ディスカッション 予習：関連図を描いておく 復習：関連図・問題リストの完成、提出 キーワード：看護過程、成因、看護アセスメント、具体的ケア計画	畑中佳子
12-16	循環管理・院内急変時の対応	循環動態のアセスメントと看護 ・循環動態に問題のある患者のフィジカルアセスメント ・心電図12誘導検査の実施とアセスメント ・緊急性の高い心電図波形とその対応 院内急変時の看護 ・院内急変時の観察とアセスメントの特徴 ・院内急変時の看護 ・急変に備えた準備について説明できる。 授業方法：ミニレクチャー、実技演習 予習：教科書の該当ページおよび周手術期・急性重症患者看護の既習内容を復習、指定された動画視聴。 復習：動画視聴、小テスト、レポート キーワード：不整脈、心筋虚血、心不全、ショック、救急カート、除細動器、AED、ACLS、うっ血、浮腫、ラピッドレスポンスシステム（RRS）、代理意思決定、倫理的課題	瀧口千枝 笠間秀一
12-16	術後1日目の看護	全身麻酔、開腹手術後１日目の患者の回復促進のための援助 ・開腹手術後一日目のフィジカルアセスメント ・早期離床の支援 ・ドレーン挿入、輸液療法中の患者の更衣と移動 授業方法：ミニレクチャー、実技演習 予習：教科書の該当ページおよび周手術期・急性重症患者看護の既習内容を復習、指定された動画視聴。 復習：ワークシートによるポイントチェック キーワード：早期離床、疼痛コントロール、インフェクションコントロール、ドレーン管理、無気肺、肺炎、深部静脈血栓症、術後腸閉塞、起立性低血圧	水流添秀行
12-16	事例展開③	看護問題の成因および問題として取り上げる根拠を明確にし、問題解決のための看護計画を立案する ・看護問題の成因の明確化 ・看護問題の存在を示す症状･徴候の明確化 ・看護問題として取り上げる根拠のアセスメント ・看護の方向性の決定 ・問題解決のための具体的看護計画立案 授業方法：グループワーク、ディスカッション 予習：看護計画立案 復習：看護計画完成、提出 キーワード：看護計画、成因、問題の存在を示す徴候・症状、看護上の問題として取り上げる根拠	畑中佳子
17-19	臨床推論・シミュレーション演習	状況設定下の臨床推論 授業方法：ミニレクチャー、実技演習 予習：教科書の該当ページおよび周手術期・急性重症患者看護の既習内容を復習、指定された動画視聴。 復習：動画視聴、レポート キーワード：臨床推論、予測、観察、アセスメント、判断、報告・連絡・相談 シミュレーション演習 授業方法：実技演習 予習：教科書の該当ページおよび周手術期・急性重症患者看護の既習内容を復習、指定された動画視聴。 復習：動画視聴、レポート キーワード：臨床推論、予測、観察、アセスメント、判断、報告・連絡・相談	瀧口千枝 笠間秀一 畑中佳子 清田和弘
20-23	事例展開④	看護展開発表会準備 ・プレゼンテーション資料作成 ・物品準備 ・役割決定 ・リハーサル 授業方法：グループワーク、ディスカッション 予習：事例展開①-③	瀧口千枝 笠間秀一 畑中佳子 水流添秀行
24-27	看護展開発表会、科目のまとめ	科目のまとめ 看護展開発表会 学びの共有 授業方法：グループワーク、プレゼンテーション、デモンストレーション 予習：プレゼンテーション・デモンストレーションの準備、科目の振り返り 復習：科目における自らの学びと課題を考察する キーワード：看護展開、振り返り、看護計画の洗練、看護診断との関連	瀧口千枝 笠間秀一 畑中佳子

【６】　事前・事後学習とその時間

【準備学習】
本科目は、既存の知識を統合して急性期患者の問題解決の方法を学ぶ。予習に2時間、復習に2時間程度要する。
基本的に予習は、Moodleに提示された資料や動画の閲覧が指定されるため、事前学習の上、演習に臨むこと。

【学習上の留意点】
この講義では対面でのミニレクチャーおよび実技演習、動画配信オンデマンド授業（Moodle）、また必要に応じて双方向性オンライン型授業（ZOOM）を併用する。

【７】　評価方法・基準

定期テスト（50%）、提出物：小テスト・その他の課題の内容（20%）、事例展開記録物（30%）により評価する。

【８】　フィードバック方法

テスト、小テスト・レポートのフィードバックは、対面もしくはMoodleで全体講評、必要に応じコメントをつけて個人に返却する。
事例展開の成果物については、対面もしくはMoodle上で全体講評、必要に応じコメントをつけて個人に返却する。

【９】　教科書

教科書は使用せず、配布資料または、Moodleに提示された資料を参照する。

【10】　参考書

完全版ビジュアル臨床看護技術ガイド　坂本すが　井手尾千代美　（照林社）
術後ケアとドレーン管理のすべて　　竹末芳生　藤野智子（照林社）
看護テキストNICE　成人看護学 急性期看護I 概論・周手術期看護　　林直子　佐藤まゆみ（南江堂）
看護テキストNICE　成人看護学 急性期看護Ⅱ　救急看護・クリティカルケア　佐藤まゆみ　林直子（南江堂）
ナーシング・スキル日本版　https://www.nursingskills.jp/Login

【11】　備考(関連科目等)

「予め学んでおくとよい科目」
周手術期看護・急性重症患者看護、人体の構造と機能Ⅰ～Ⅲ、疾病と治療Ⅰ～Ⅲ、看護の基本技術1～5，Ⅵ、臨床看護学概論、看護展開論、看護理論、感染看護

「この科目に続く内容の科目」
臨床看護学実習Ⅱ，Ⅲ、疾病と治療Ⅳ，Ⅴ、看護の基本技術7-12、がん看護・緩和ケア、看護倫理学

科目名(日本語)	**臨床看護学実習Ⅱ**	必修・選択区分	授業形態	開講学期・学年	単位数
科目名(英語)	Clinical Nursing Practicum Ⅱ	必修	実習	秋学期 3年	3単位 135時間
科目責任者	髙橋良幸				
担当教員	髙橋　良幸、水流添　秀行、日高　紀久江				
科目責任者 連絡先(教室)	健康科学部棟3階K312				
オフィスアワー	毎日の臨地実習終了後、学生控え室や講義室にてオフィスアワーの時間を設ける。				

【1】　授業方法(ALの要素、ICTの活用等)

1－1．アクティブラーニングについて

実施する

1－2．アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素

ディスカッション、ディベート
グループワーク
プレゼンテーション
実習、フィールドワーク

2－1．双方向授業でのＩＣＴの活用について

活用する

2－2．ＩＣＴを活用する場合、その具体的名称（クリッカー、タブレット端末等）

ZOOM、Moodle、Google Slidesなど

【2】　授業概要

本実習は病棟実習と外来実習とで構成され、入院治療から在宅で療養を送る人を看る視点を養う。治療を受ける患者の健康障害、病態、発達段階を踏まえて全人的に理解し、疾病の経過と個別性に応じた看護を実践する能力を養う。本実習では、様々な疾病の対象の看護を看護展開に関する思考過程に基づいて、計画立案/実施/評価する。体験を通して、看護実践への理論の応用を考察するとともに、看護／臨床倫理の現象を把握し、患者の権利、意思決定を支援することの重要性を理解する。さらに、実践のリフレクションに基づいて考察、意味づけを行い、今後の課題を明確にする。

【3】　到達目標

1．入院治療を必要とする患者への看護展開（主に病棟実習にかかる目標）
1）様々な疾病の経過にある対象の健康障害、疾患の経過について説明できる。
2）発達段階を踏まえ、対象を全人的に理解し、対象の全体像を説明することができる。
3）科学的根拠を踏まえ、かつ、論理的思考に基づき、対象の疾病経過に応じつつ、必要な援助を見いだせる。
4）看護援助を実践し、援助の効果を客観的に評価できる。
5）様々な健康の段階にある患者の特徴と看護の在り方を説明できる。
2．通院治療を必要とする外来患者への看護展開（主に外来実習にかかる目標）
1）外来患者への医療サービス提供における看護職の役割について説明できる。
2）外来患者に起こり得る健康上の問題（看護上の問題及び他職種と協働する問題）の把握方法と標準的な解決方法を説明できる。
3）外来患者への看護実践過程（評価、健康上の問題の特定、看護方法の選択、看護実践）を体験的に身につける。
4）外来という場における看護の特徴を述べることができる。
3．全体にかかる到達目標（病棟実習、外来実習両方にかかる目標）
1）医療チームの一員として行動できる。
2）患者の安全を守る方法や事故予防システムを理解し自らも実践できる。
3）生命の尊厳を基盤に、倫理的問題に気づき、課題を明確にし、対象の尊厳を擁護する望ましい行動を説明できる。
4）病棟と外来における看護師の役割の違いについて説明できる。
5）実習体験を振り返り、看職者としての自己の課題を明確にできる。

【4】　ディプロマ・ポリシーとの関連

到達目標を達成することにより、以下の能力を身につけることにつながります。

1．自然科学を看護活動の根拠とし、実践に活かす基礎的な力を有している。

2．看護学の専門知識と技術を修得している。

3．他者の多様な価値観を理解し、尊重することができる。

4．看護職の社会的責任を理解し、看護実践にまつわる倫理的課題を感受する力と熟考する力、それらに基づく判断を行動に表す力を身につけている。

5．看護専門職として、リーダーシップおよびフォロワーシップを発揮し、チームの中で有機的に活動する資質を身につけている。

6．自ら学ぼうとする好奇心をもち、生涯にわたり自己研鑽する姿勢を身につける。

【５】　授業計画

	項目	内容および授業方法 予習・復習・キーワード	担当教員
	実習概要	臨床看護学実習Ⅱでは、臨床看護学の集大成として、様々な疾患の経過にある対象を受け持つ。受け持った対象の発達段階を踏まえ、健康障害・疾患の病態を理解し、対象を全人的に捉える。そして、今後、その人がその人らしい生活を営めるよう最善の援助を考え看護を実践する。また、外来に通院する対象への看護に参画し、その人の療養を支える看護及び多職種連携について看護の実際から学ぶ。 実習施設：東邦大学医療センター佐倉病院 ・グループごとに3週間の内、2週間の病棟実習及び1週間の外来実習を行う。外来実習は最初の1週目もしくは3週目に行う。 ・患者の全体像把握や看護実践のために必要な事柄を調べる。 ・カンファレンスにおけるグループ討議、発表を行う。 ・臨地実習指導者を交えてカンファレンスを行う。 ・病棟実習では1～2名の患者を受け持ち、臨地実習指導者の指導の下、看護を実践する。 ・外来実習では療養を支援する看護師につき実際の看護場面において看護の思考を働かせながら外来診療場面に参画する。	担当教員全員
秋学期	オリエンテーション	目標を達成するための詳細な学修内容は、臨床看護学実習Ⅱの実習要項に示す。 1.オリエンテーション(学内)：科目責任者 学生配置、担当教員、実習施設の使用方法、実習にあたっての注意事項、実習中の感染対策等について説明する。 2.グループ別オリエンテーション(学内):実習担当教員 ・事前課題の実施状況の確認と指導 ・実習病棟の概要と必要な学修内容や看護技術の提示 ・実習病棟における諸注意や留意点 3.事故予防学習	担当教員全員
	1周目	（以降、病棟実習が1～2週目となった場合の例） 1.病棟実習初日 ・病棟紹介：病棟の概要・配置、看護体制、看護物品の場所と使用方法等 ・受け持ち患者の決定と受け持ち患者紹介 ・受け持ち患者の情報収集と関係づくり 2.実習1週目 2日目から5日目 ・受け持ち患者の全体像把握と看護上の問題の抽出 ・援助計画の発表と指導者からの助言による調整 ・援助は、臨床状況と学生の準備状況に応じて実施する。	担当教員全員
	2週目	1.　病棟実習2週目 ・受持ち患者の看護を実践、報告、評価、看護計画の修正 ・看護展開の評価を発表 ・事例検討、倫理についてのカンファレンスの実施 ・病棟カンファレンスの実施 実施した看護とその評価、実習の学びについて発表し、意見交換/ディスカッションする。 2. 病棟実習の最終日 ・対象特性に応じた看護についてまとめる。	担当教員全員
	3週目	１．外来実習1日目 配属される外来診療部門・外来治療室の概要についてオリエンテーション ２．外来実習2日目以降 配属された外来診療部門・外来治療室の看護に参画する。 ３．外来実習の最終日 ・外来看護と入院看護の違いについてまとめ、意見交換/ディスカッションする。 ・記録整理　・自身の行った看護を振り返る	担当教員全員
	3週目最終日	実習のまとめ ・病棟実習と外来実習の経験から看護をまとめる ・個別面談による相互評価	担当教員全員
キーワード		慢性期　急性期　終末期　セルフケア　リハビリテーション　療養　外来　病棟　安全　倫理　家族　多職種連携　看護技術	

【６】　事前・事後学習とその時間

〈準備学習〉
・事前課題を行う。　・実習する病棟で受け持つことが予想される疾患・検査・治療を調べる。
・看護援助に必要な看護技術の練習を行う。
・本授業は、治療を受ける患者および終末期にある患者、外来通院する患者への必要な看護を導き出すために、情報収集、アセスメント、計画立案といった実習記録を用いて思考整理を行う。関連内容について予習・復習に毎日3時間程度費やす。
〈実習中における予習学習〉
・患者の病態、翌日に実践する看護技術や検査・治療について調べる。
・カンファレンスで用いるレポートとしてこれまでの看護をまとめる。
〈実習中における事後学習〉
・患者および電子カルテから収集した情報の整理・アセスメント・計画立案をする。
・実習記録による実践の振り返りを行う。
・その日の疑問を解決するため調べる。
〈学習上の注意点〉
・変化している臨床現場での学習となるため、事前学習や事後学習内容については担当教員や臨地実習指導者に確認しながら主体的に学習すること。

【７】　評価方法・基準

実践内容(観察、コミュニケーション、アセスメント、看護計画・実施・評価、記録)100点
ただし、学修者としての態度・専門職者としての態度について不足があれば減点を行う。

【８】　フィードバック方法

臨地における看護の考え方、実践内容、態度については随時口頭で伝える。病棟の実習指導者からフィードバックを得ることもある。実習記録への添削によるフィードバックを行う。
実習最終日は、教員との個別面談を通じ、より個別で具体的なフィードバックを行う。
提出した実習記録等は後日教員が添削し、学生に返却する。

【９】　教科書

専門基礎科目および専門科目で提示された教科書および授業資料

【10】　参考書

随時提示

【11】　備考(関連科目等)

〈この科目につながる科目〉
人体の構造と機能Ⅰ～Ⅲ、疾病と治療Ⅰ～Ⅴ、看護の基本技術１～6・10、臨床看護学概論、看護展開論、看護理論、感染看護、薬理学、薬剤学、臨床栄養学、臨床心理学、発達看護論、機能障害のある患者の看護、リハビリテーション論、周手術期看護・急性重症患者看護、老年看護学概論
〈この科目から続いていく科目〉
必修科目：エンドオブライフケア、看護管理論、臨床実践技術の探究、看護実践の探究、看護研究
選択科目：がん看護、チーム活動論、チーム医療演習

科目名(日本語)	**臨床看護学実習Ⅲ**	必修・選択区分	授業形態	開講学期・学年	単位数
科目名(英語)	Clinical Nursing Practicum Ⅲ	必修	実習	秋学期 3年	2単位 90時間
科目責任者	瀧口千枝				
担当教員	瀧口千枝・笠間秀一・畑中佳子・日高紀久江				
科目責任者 連絡先(教室)	瀧口千枝：（研究室K321）chie.takiguchi@hs.toho-u.ac.jp				
オフィスアワー	実習日の16:00から16:30まで実習施設の学生控室にてオフィスアワーを設ける。 実習終了時に集中治療室実習は瀧口もしくは畑中に、手術室実習・救急外来実習は笠間に声をかけること。 その他、Moodleメッセージで問い合わせを受け付ける。				

【１】　授業方法(ALの要素、ICTの活用等)

１－１．アクティブラーニングについて

実施する

１－２．アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素

ディスカッション、ディベート
グループワーク
プレゼンテーション
実習、フィールドワーク

２－１．双方向授業でのＩＣＴの活用について

活用しない

【２】　授業概要

急激な健康破綻をきたした対象を、病態、治療経過、心理･社会的状況、発達段階を踏まえて全人的に理解し、侵襲からの回復を促進する看護実践を学ぶ。本実習では、集中治療室、手術室、救急外来において生命の安全が脅かされた対象の看護を看護師とともに計画立案/実践/評価、または見学する。体験を通して、心身の危機状態にある対象の状態把握、変化の予測、回復促進のための具体的援助方法を学習するとともに、クリティカルケア領域のチーム医療における看護師の役割、クリティカルケア領域に特有な倫理的課題と患者擁護の方法を考察する。さらに実習のリフレクションに基づいて意味づけを行い、今後の課題を明確にする。（＊実践的教育として構成する授業科目）

【３】　到達目標

1.急激な健康破綻をきたしている患者とその家族の特性を説明できる。
2.急激な健康破綻をきたしている患者の看護展開を考えることができる。
3.指導者とともに看護ケアを実施する経験、または見学を通して、急激な健康破綻をきたしている患者とその家族に対するケアの特性を考察できる。
4.クリティカルケア領域で協働する医療チームの中での看護師の役割を説明できる。
5.クリティカルケア領域における倫理的課題を整理し、対象と状況に応じた患者擁護のための方法を考察することができる。
6.看護専門職を目指す学生として、自覚と責任のある行動がとれる。
7.実践・見学をふり返り、考察、意味づけを行い、看護について自分の考えをまとめることができる。さらに今後の課題を明確に表現できる。

【４】　ディプロマ・ポリシーとの関連

到達目標を達成することにより、以下の能力を身につけることにつながります。

１．自然科学を看護活動の根拠とし、実践に活かす基礎的な力を有している。

２．看護学の専門知識と技術を修得している。

３．他者の多様な価値観を理解し、尊重することができる。

４．看護職の社会的責任を理解し、看護実践にまつわる倫理的課題を感受する力と熟考する力、それらに基づく判断を行動に表す力を身につけている。

５．看護専門職として、リーダーシップおよびフォロワーシップを発揮し、チームの中で有機的に活動する資質を身につけている。

６．自ら学ぼうとする好奇心をもち、生涯にわたり自己研鑽する姿勢を身につける。

【5】　授業計画

	項目	内容および授業方法 予習・復習・キーワード	担当教員
	実習オリエンテーション（学内）	目標達成するための詳細な学習内容は、臨床看護学実習Ⅲ実習要項に示す。 1．実習オリエンテーション 日時　　日程は別途アナウンスする 場所　　別途アナウンスする 内容　　実習担当教員からのオリエンテーション ・実習の目的・目標、方法、評価などについてのオリエンテーション ・実習配置、実習班 ・事前課題の配布 ・個人目標の立案	全員
	実習オリエンテーション（臨地）	2．臨地オリエンテーション（実習1日目とする） 日時　　臨地実習施設と調整後アナウンスする 場所　　東邦大学医療センター、もしくは、オンライン 内容 ■実習施設職員からのオリエンテーション ・病院オリエンテーション ・実習部署（中央手術部、救急救命センター、集中治療室）の特徴と概要についてのオリエンテーション ・施設案内 ■実習担当教員からのオリエンテーション ・実習における注意事項の確認 ・実習目標の再確認 ・事前課題の提出・確認 ・個人目標の再確認	全員
	臨地実習（全体概要）	3．臨地実習 1）臨地実習施設 東邦大学医療センター大森病院 東邦大学医療センター佐倉病院 2）臨地実習スケジュール ・臨地オリエンテーション（1日間） ・病院実習（8日間） ・学内実習（1日間）	全員
	臨地実習（手術室実習）	①　手術室実習（3日間） 以下の3つの実習をローテンションで実施する。 ＜周手術期センター＞ ・周術期センター担当看護師のシャドウイング ・手術患者の流れの見学 ＜全身麻酔手術見学＞ ・全身麻酔手術を担当する間接介助看護師のシャドウイング ・翌日全身麻酔予定の患者を1名受け持ち、情報収集する ・受け持ち患者の術中の看護計画を立案する ・術前訪問があれば同行する ＜全身麻酔手術患者の術中看護実施＞ ・受け持ち患者の手術の間接介助看護師とともに、立案した看護ケアを実施する。 ・実施後は、間接介助看護師とともに評価をする	全員
	臨地実習（救急外来実習）	②救急外来実習（1日間） ＜救急外来見学＞ ・救急外来担当看護師の解説を受けながら、救急外来および初療の実際を見学する。 ※最終日に手術室実習・救急外来のまとめカンファレンスを実施する（指導者同席）	全員
	臨地実習（集中治療室実習）	③集中治療室実習（4日間） 受け持ち患者の看護展開を実施する ＜初日＞ ・オリエンテーション ・受け持ち患者の情報収集と関係づくり ・集中治療室看護師のシャドウイング ・日々のカンファレンス ＜2日目～3日目＞ ・受け持ち患者の全体像把握 ・受け持ち患者の看護展開 ・集中治療室看護師のシャドウイング ・指導者とともに看護ケアを実施・評価（患者の状況により実施できない場合もある） ・日々のカンファレンス ＜4日目＞ ・指導者とともに看護ケアを実施・ケアの評価 ・ICU実習のまとめカンファレンス（指導者同席）	全員

	習）	・ICU実習のまとめカンファレンス（指導者同席） 3.学内実習 実習のまとめ（1日間） 実習内容と学びの共有と実習のまとめを行う (1)グループディスカッション ・クリティカルケア領域の倫理的課題について ・急激な健康破綻をきたしている患者・家族の特性と望ましい看護について (2)リフレクション ・実習中に感じたことや悩んだことなどを自由に語りあうことにより、自身のグリーフケアや経験の意味づけに繋げる。 (3)個別面接 ・担当教員との個別面接により実習評価および自己の課題の明確化を行	
	その他	【予習・復習・キーワード】 予習：侵襲時の生体反応、危機理論、生命維持装置、周手術期看護（術前看護、術中の体位と術式、術中合併症と予防）、手術・麻酔の身体への影響、麻酔薬の種類・目的・副作用、開腹・開胸手術の概要、鏡視下手術の特徴 看護展開方法の復習（情報整理、全体像理解、関連図作成、問題抽出、計画立案、評価の視点） 復習：行った看護の実施状況の振り返り　計画の評価修正　課題レポート キーワード：クリティカルケア看護、生体侵襲、生命維持装置、回復促進、QOL、集中治療室、手術室、救急外来、看護展開、エンパワーメント、インフォームド・コンセント意思決定支援、代理意思決定、家族看護、倫理的課題	全員

【６】　事前・事後学習とその時間

【事前・事後学修】
実習科目であるため、実際のケアが展開できるよう関連科目の教科書・資料の学習および文献等による追加学習を十分に行うことが必要である。そのため、予習には90分程度以上、復習には90分程度以上を要する。
【学習上の留意点】
本実習は、クリティカルケア領域という緊張度の高い場での実習である。そのため、履修生は実習前・中を通し心身の体調管理に努めるとともに、心身の不調があればすぐに担当教員に報告することが重要になる。

【７】　評価方法・基準

評価割合
【80%】実習内容（態度・姿勢も含む）と記録
【20%】課題レポート

【８】　フィードバック方法

実習記録はその都度フィードバックする。
目標達成状況について最終日に個人面談でフィードバックする。
実習記録・課題レポートは結果を返却する。

【９】　教科書

専門基礎教育科目および臨床看護学で提示された教科書および資料

【10】　参考書

適宜提示する

【11】　備考(関連科目等)

「予め学んでおくとよい科目」周手術期看護・急性重症患者看護、人体の構造と機能Ⅰ～Ⅲ、疾病と治療Ⅰ～Ⅴ、看護の基本技術1～12、生化学、臨床看護学概論、看護展開論、看護理論、感染看護、薬理学、臨床心理学、発達看護論、疾病と治療Ⅳ，Ⅴ、がん看護・緩和ケア
「この科目と同時期に行われる科目」臨床看護学実習Ⅱ
「この科目に続く内容の科目」看護倫理学、援助的人間関係論、チーム活動論、臨床実践技術の探究

科目名(日本語)	ファミリーヘルス看護論	必修・選択区分	授業形態	開講学期・学年	単位数
科目名(英語)	Family Health Nursing	必修	演習	春学期 3年	1単位 30時間
科目責任者	臼井雅美				
担当教員	臼井雅美・渡邊尚子・楠見ひとみ・原田慶子・原田奈美・中嶋秀明・林華子・鈴木俊美				
科目責任者 連絡先(教室)	臼井 雅美（K331研究室） masami.usui@hs.toho-u.ac.jp（件名に学年・学籍番号を記載すること）				
オフィスアワー	授業終了後10分程度、講義室にて質問を受ける。また、メールおよびMoodleのメッセージでの問い合わせに応じる。各教員のメールアドレス、研究室は以下の通り。 臼井雅美：masami.usui@hs.toho-u.ac.jp（研究室K331），渡邊尚子：naoko.watanabe@hs.toho-u.ac.jp（研究室K334），楠見ひとみ：hitomi.kusumi@hs.toho-u.ac.jp（研究室K329），原田慶子：chikako.harada@hs.toho-u.ac.jp（研究室K330），原田奈美：nami.harada@hs.toho-u.ac.jp（研究室K325），中嶋秀明：hideaki.nakashima@hs.toho-u.ac.jp（研究室K323），林華子：hanako-hayashi@ns.toho-u.ac.jp（研究室K324），鈴木俊美：toshimi.suzuki@hs.toho-u.ac.jp（研究室K324）				

【1】 授業方法(ALの要素、ICTの活用等)

1－1．アクティブラーニングについて

実施する

1－2．アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素

ディスカッション、ディベート
グループワーク
プレゼンテーション

2－1．双方向授業でのＩＣＴの活用について

活用する

2－2．ＩＣＴを活用する場合、その具体的名称（クリッカー、タブレット端末等）

Moodle,Zoom

【2】 授業概要

社会の最小単位である家族の健康生活について、集団としての家族と構成員である個人の健康を精神面の健康も含めてファミリーヘルスとして捉える。看護の対象としての家族の特徴、健康と疾病が家族の健康生活に及ぼす影響、ファミリーヘルスにおける看護の役割と機能、主な理論・基本的概念、援助方法など基礎知識を理解する。さらに、主な家族看護理論に基づく看護展開の方法を学び、ファミリーヘルスにおける看護について考察するとともに、家族と病の苦悩について考える力を養う。なお、本科目は公衆衛生看護学における家族支援を学修するための基礎となる。
（オムニバス方式／全9回）
（臼井雅美／5回）家族およびファミリーヘルス看護の概念・子どもの立場から捉えるファミリーヘルス・国内外における代表的な家族アセスメントモデル・カルガリー式家族アセスメント／介入モデル（CFAM/CFIM）
（渡邊尚子／2回）家族成員のメンタルヘルスから捉えるファミリーヘルス
（楠見ひとみ／2回）新たな子どもを迎える家族の立場から捉えるファミリーヘルスと看護
（共同／18回)ファミリーヘルス看護方法の演習（臼井雅美・渡邊尚子・楠見ひとみ・原田慶子・原田奈美・中嶋秀明・林華子・鈴木俊美）

【3】 到達目標

1. 家族およびファミリーヘルス看護の概念について説明することができる。
2. 新たに子どもを迎える家族の立場から捉えるファミリーヘルスとそのアセスメントの視点について述べることができる。
3. 子どもの立場から捉えるファミリーヘルスとそのアセスメントの視点について述べることができる。
4. 家族成員のメンタルヘルスから捉えるファミリーヘルスとそのアセスメントの視点について述べることができる。
5. ファミリーヘルスにおける代表的な家族アセスメントモデルの特徴を述べることができる。
6. アセスメントツールを用いて家族アセスメントができる。
7. 家族の病と苦悩との関係について体験を通して考察することができる。
8. ファミリーヘルスにおける看護方法について説明できる。
9. ファミリーヘルス看護における看護師の役割と課題について考察できる。
10. 自らの家族観を見つめ直すことができる。

【4】 ディプロマ・ポリシーとの関連

到達目標を達成することにより、以下の能力を身につけることにつながります。

1．自然科学を看護活動の根拠とし、実践に活かす基礎的な力を有している。

2．看護学の専門知識と技術を修得している。

3．他者の多様な価値観を理解し、尊重することができる。

4．看護職の社会的責任を理解し、看護実践にまつわる倫理的課題を感受する力と熟考する力、それらに基づく判断を行動に表す力を身につけている。

5．看護専門職として、リーダーシップおよびフォロワーシップを発揮し、チームの中で有機的に活動する資質を身につけている。

6．自ら学ぼうとする好奇心をもち、生涯にわたり自己研鑽する姿勢を身につける。

【５】　授業計画

	項目	内容および授業方法 予習・復習・キーワード	担当教員
1	ファミリーヘルス看護の基礎(1)	家族およびファミリーヘルス看護の概念 1) 家族とは 2) ファミリーヘルス看護とは 講義 予習：予習シートおよびテキスト①p8～p24を読む。 復習：Moodle学修内容確認テスト（ミニテスト）① 授業内容についてテキスト、関連文献等で振り返る。 キーワード：家族とは、システムとしての家族、家族システム論、家族周期、家族発達理論、家族機能、健康な家族、ファミリーヘルス看護とは、家族アセスメント、ジェノグラム・エコマップ	臼井　雅美
2･3	ファミリーヘルス看護の基礎(2)	新たな子どもを迎える家族の立場から捉えるファミリーヘルスと看護 1) 新たな子どもを迎える家族とは 2) 父親の立場、きょうだいの立場、祖父母の立場から捉えるファミリーヘルスとアセスメント 講義 予習：母性教科書p27・32、ｐ84・85、ｐ93～95、ｐ249～252、ｐ255・256、ｐ309～312を読む 復習：Moodle学修内容確認テスト（ミニテスト）②　授業内容についてテキスト、関連文献等で振り返る キーワード：親役割、父親役割、きょうだい役割、祖父母役割	楠見　ひとみ
4	ファミリーヘルス看護の基礎(3)	子どもの立場から捉えるファミリーヘルスと看護 1) 子どもにとっての家族とは 2) 小児期における子どもの立場から捉えるファミリーヘルスとアセスメント 講義 予習：予習シートおよび小児看護学①p19～p22を読む。 復習：Moodle学修内容確認テスト（ミニテスト）③ 授業内容についてテキスト、関連文献等で振り返る。 キーワード：親子関係、子どもにとっての家族機能とは、子どもを取り巻く家族の特徴と影響、ステップファミリー、家族観・育児観の変化	臼井　雅美
5･6	ファミリーヘルス看護の基礎(4)	家族成員のメンタルヘルスから捉えるファミリーヘルスと看護 1) 資源としての家族 2) 環境としての家族 3) 援助の対象としての家族 講義 予習：精神看護学概論で学んだ関連部分を復習しておく。 復習：授業内容についてテキスト、関連文献等で振り返る。 キーワード：家族のストレス、家族の対処力、家族システム、患者－家族関係	渡邊　尚子
7･8	ファミリーヘルス看護の基礎(5)	国内外における代表的な家族アセスメントモデル 1) フリードマン家族アセスメントモデル 2) ハンソン家族アセスメント・介入モデル 3) 渡辺式家族アセスメント・支援モデル 4) 家族看護エンパワーメントモデル1) 国内外の家族看護モデル 5) カルガリー式家族アセスメント／介入モデル（CFAM/CFIM） 講義 予習：テキスト①p40～p61を読む。 復習：Moodle学修内容確認テスト（ミニテスト）④ 授業内容についてテキスト、関連文献等で振り返る。 キーワード：フリードマン家族アセスメント、ハンセン家族アセスメント・介入モデル、渡辺の家族アセスメントモデル、カルガリー式家族アセスメント／介入モデル、構造アセスメント、発達アセスメント、機能アセスメント、円環パターン図（CPD）	臼井 雅美
9	ファミリーヘルス看護方法(1)	カルガリー式家族アセスメント／介入モデル（CFAM/CFIM） 1) カルガリー式家族アセスメントモデル（CFAM） 2) カルガリー式家族介入モデル（CFIM） 講義 予習：テキスト①p40～p61を読む。 復習：授業内容についてテキスト、関連文献等で振り返る。 キーワード：カルガリー式家族アセスメント／介入モデル、施療的介入、家族面接、円環的問いかけ、違いを際立たせる問いかけ、行動に影響する問いかけ、仮説的／未来志向的問いかけ、第３者への問いかけ、イルネス・ビリーフモデル、三位一体モデル	臼井　雅美
10	ファミリーヘルス看護方法(2)	家族アセスメント ・事例を用いたジェノグラム・エコマップ・円環パターン図の実際 ミニレクチャー・演習 予習：テキスト①p100～p105を読む。 復習：演習記録の提出、課題レポート①：「家族と病の苦悩」 キーワード：ジェノグラム・エコマップ、円環パターン図（CPD）、家族と病	全員

11･12	ファミリーヘルス看護方法(3)	家族の苦悩と家族アセスメントⅠ 家族劇の作成（登場人物となる家族の作成） 演習・グループワーク 予習：テキスト①p110～p111を読む。 復習：演習記録の提出 キーワード：ジェノグラム・エコマップ、カルガリー式看護アセスメントモデル	全員
13-15	ファミリーヘルス看護方法(4)	家族の苦悩と家族アセスメントⅡ 家族劇の作成（家族劇のストーリー作成）① 演習・グループワーク 予習：テキスト①p112～p113を読む。 復習：演習記録の提出 キーワード：家族の苦悩、円環モデル	全員
16-18	ファミリーヘルス看護方法(5)	家族の苦悩と家族アセスメントⅡ 家族劇の作成（家族劇のストーリー作成）② 方法：演習・グループワーク 予習：テキスト①p112～p113を読む。 復習：演習記録の提出 キーワード：家族の苦悩、円環モデル	全員
19-21	ファミリーヘルス看護方法(6)	家族アセスメントと家族支援疑似家族に対する円環的問いかけ 演習・グループワーク 予習：テキスト①p116～p117を読む。 復習：演習記録の提出 キーワード：円環的問いかけ、違いを際立たせる問いかけ、行動に影響する問いかけ、仮説的／未来志向的問いかけ、第３者への問いかけ	全員
22-24	ファミリーヘルス看護方法(7)	家族劇発表Ⅰ 家族劇の撮影 予習：テキスト①p114～p115を読む。 復習：成果物の提出 キーワード：家族の苦悩、疑似家族、表出的機能、ジェノグラム・エコマップ、円環モデル	全員
25-27	ファミリーヘルス看護方法(8)	家族劇発表Ⅱ 家族劇の発表会 プレゼンテーション（一部ZOOM） 予習：テキスト②p114～p115を読む。 復習：評価シートの提出，課題レポート②「ファミリーヘルス看護の役割と課題」 キーワード：家族の苦悩、疑似家族、表出的機能、ジェノグラム・エコマップ、円環モデル	全員

【６】　事前・事後学習とその時間

【準備学習】
本授業は既習した看護における家族の特徴や健康、支援をもとにファミリーヘルスにおける看護展開を理解するため、予習については1時間程度、復習に1.5時間程度必要である。
予習として指定したテキストの該当ページを事前に読んでおくこと。
【事後学習】
講義部分の復習として学習内容確認テストや課題を課すため期限内に提出すること。
授業中および終了後に示す課題についてレポートとしてまとめること。
グループワークに関しては、次回の授業範囲を予習し、演習ワークシートおよびディスカッションの準備をしておくこと。
【学習上の留意点】
・看護の対象と家族について本科目に関連する既習科目（関連科目参照）を復習して授業に臨むこと。
・また、各演習の予習として、テキストを熟読してくること。

【７】　評価方法・基準

課題レポート30%，グループワーク発表・成果物40%，学修内容確認テスト20%，日々の学習および課題への取組み状況10%

【８】　フィードバック方法

学修内容確認テストは後日、解説を行う。課題レポートは結果を返却する。授業の最終日に全体講評を行う。

【９】　教科書

グループワークで学ぶ家族看護論第2版，カルガリー式家族看護モデルへの実践へのファーストステップ，小林奈美，医歯薬出版，2011.

【10】　参考書

家族看護学（改訂第3版）：臨床場面と事例から考える，山崎あけみ・原礼子編，南江堂､2022
実践力を高める家族アセスメントPart Ⅰ，ジェノグラム・エコマップの描き方と使い方，カルガリー式家族看護モデル実践へのセカンドステップ小林奈美，医歯薬出版，2009.
実践力を高める 家族アセスメントPart II　ファシリテートのエキスパートをめざして，FASC式家族事例検討の展開から研究へ，小林奈美，医歯薬出版，2011.
家族看護学―理論と実践，第5版，鈴木和子・渡辺裕子・佐藤律子，日本看護協会出版会，2019.
ファミリーナーシングプラクティス―家族看護の理論と実践，森山美知子・鞠子英雄，医学書院，2001.
家族看護学（系統看護学講座），上別府圭子，医学書院，2018.
ナーシンググラフィカ　小児看護学①（改定巻），小児の発達と看護，中野綾美編，メディカ出版，2023.
母性看護Ⅱマタニティサイクル－母と子そして家族へのよりよい看護実践，改訂第3版，大平光子他編集，南江堂，2022.

【11】　備考(関連科目等)

予め学んでおく科目：看護学概論，臨床看護学概論，小児看護学概論，小児看護学方法論，母性看護学概論，母性看護学方法論，精神看護学概論，精神看護学方法論，老年看護学概論，地域・在宅看護概論，地域・在宅看護方法論、公衆衛生看護学概論，臨床看護学実習Ⅰ

この科目に続く科目：老年看護学実習、臨床看護学実習Ⅱ，臨床看護学実習Ⅲ，小児看護学実習，母性看護学実習、精神看護学実習，在宅看護実習，コミュニティヘルス看護実習、コミュニティヘルス看護展開論、看護実践の探究

科目名(日本語)	**看護の基本技術7（小児看護技術）**	必修・選択区分	授業形態	開講学期・学年	単位数
科目名(英語)	Nursing Skills 7(Pediatric Nursing)	必修	演習	春学期 3年	1単位 30時間
科目責任者	臼井雅美				
担当教員	臼井雅美・林華子				
科目責任者 連絡先(教室)	臼井 雅美（masami.usui@hs.toho-u.ac.jp（K331研究室）				
オフィスアワー	授業開講日　16：20～18：00（331研究室） ＊但し、研究室を訪ねる場合は、メールで事前に連絡すること。 臼井雅美：masami.usui@hs.toho-u.ac.jp（研究室K331）／林華子：hanako-hayashi@ns.toho-u.ac.jp（研究室K324）／吉野尚一：s-yoshino@med.toho-u.ac.jp（東邦大学法人本部看護企画室）				

【１】　授業方法(ALの要素、ICTの活用等)

１－１．アクティブラーニングについて

実施する

１－２．アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素

反転授業
ディスカッション、ディベート
グループワーク
プレゼンテーション

２－１．双方向授業でのＩＣＴの活用について

活用する

２－２．ＩＣＴを活用する場合、その具体的名称（クリッカー、タブレット端末等）

Moodle、スマートフォン

【２】　授業概要

子どもの健康状態と家族の状況を含めたアセスメントや基本的な看護技術を修得する。学生の動機づけができるように事例を活用し、子どもやその家族をイメージしながら、子どもを観察するための看護技術及び症状のある子どもや検査・処置、救急処置を受ける子どもの看護技術を学ぶ。また、紙面上の事例を通して子どもを総合的に捉え、シミュレーション下で子どもとその家族のニーズを満たすための看護を展開しながら学ぶ。
（オムニバス方式／全９回）
（臼井雅美／２回）小児看護における看護技術の概要
（林華子／５回）子どもの観察技術、症状のある子どもの看護技術、検査や処置を受ける子どもの看護技術
（吉野尚一／２回）救急処置を受ける子どもの看護技術（講義：子どもの事故と応急処置・救急蘇生）
（共同／18回）救急処置を受ける子どもの看護技術（臼井・林・吉野：２回）、子どもと家族の看護技術の実際（臼井・林：16回）

【３】　到達目標

１．子どもの健康状態をアセスメントできる。
２．対象のアセスメントに基づいた観察項目を説明できる。
３．事例に応じた看護計画を立案することができる。
４．子どもの症状に応じた観察が実施できる。
５．子どもの症状に応じた看護技術がモデル人形を用いて実施できる。
６．検査や処置を受ける子どもの看護がモデル人形を用いて実施できる。
７．救急処置を受ける子どもと家族への支援を考えることができる。
８．救急蘇生方法をモデル人形を用いて実施できる。
９．子どもの意思を尊重し、倫理的配慮を意識して看護技術を実施することができる。
10．実施した援助技術を振り返り、自己の課題を明確にできる。

【４】　ディプロマ・ポリシーとの関連

到達目標を達成することにより、以下の能力を身につけることにつながります。

１．自然科学を看護活動の根拠とし、実践に活かす基礎的な力を有している。

２．看護学の専門知識と技術を修得している。

３．他者の多様な価値観を理解し、尊重することができる。

４．看護職の社会的責任を理解し、看護実践にまつわる倫理的課題を感受する力と熟考する力、それらに基づく判断を行動に表す力を身につけている。

５．看護専門職として、リーダーシップおよびフォロワーシップを発揮し、チームの中で有機的に活動する資質を身につけている。

６．自ら学ぼうとする好奇心をもち、生涯にわたり自己研鑽する姿勢を身につける。

【5】　授業計画

	項目	内容および授業方法 予習・復習・キーワード	担当教員
1･2	小児看護における看護技術の概要	1. 小児看護における看護技術とは 2. 小児看護における看護技術の学習方法 授業方法：講義・演習 予習：テキストの該当部分を読む　予習ワークシート 復習：復習ワークシート キーワード：看護技術、看護過程、シミュレーション教育	臼井　雅美
3	子どもの観察技術	・コミュニケーション　フィジカルアセスメント　身体測定 授業方法：ミニレクチャー・演習 予習：テキストの該当部分を読む　予習ワークシート 復習：ミニテスト① キーワード：非言語的コミュニケーション、タッチ、インフォームドアセント、フィジカルアセスメント、問診、視診、触診、打診、異常の早期発見、啼泣への対応、年齢や状況に合わせた測定方法、パーセンタイル	林　華子
4･5	症状のある子どもの看護技術	症状に応じた看護 ・呼吸困難・チアノーゼ、発熱、けいれん、発疹、嘔吐、下痢、脱水 授業方法：ミニレクチャー・演習 予習：テキストの該当部分を読む　予習ワークシート 復習：ミニテスト② キーワード：小児の特徴（構造機能、症状）、観察、機嫌、いつもと違う、随伴症状、症状の原因・誘因、症状のメカニズム、症状のアセスメント、検査データのチェック、感染症状、感染症との鑑別、二次感染の予防、症状の緩和、水分出納、水分制限、栄養の確保、隔離、安全、安静、保温、安楽な体位、環境の調整、精神的な援助、家族への援助	林　華子
6･7	検査や処置を受ける子どもの看護技術とは	検査前中後・処置前中後の看護 ・採血、採尿、点滴の固定、経口与薬、骨髄穿刺、腰椎穿刺 ・プレパレーションの実際 授業方法：ミニレクチャー・演習 予習：テキストの該当部分を読む　予習ワークシート 復習：ミニテスト③ キーワード：生命の保障、生活の質の改善、発達の促進、自己への侵入体験、小児の身体的構造機能の特徴、精神的苦痛、小児の権利の保障、インフォームドアセント、プレパレーション、ディストラクション、主体的に取り組む、観察、苦痛の軽減、体動制限、固定、日常生活への影響、治療方針の決定	林　華子
8-11	小児看護における看護技術の実際	・子どもの観察技術（VS） ・症状のある子どもの看護技術 ・検査・処置時の子どもと家族の看護 授業方法：実践演習・ロールプレイ 予習：予習ミニテスト⑤、予習ワークシート、指定された動画の視聴 復習：演習ワークシート、リフレクションシート キーワード：バイタルサイン測定、フィジカルアセスメント、陰部洗浄・おむつ交換、採血、輸液の管理	臼井　雅美，林　華子
12-15	救急処置を受ける子どもの看護技術	・子どもの事故と応急処置・救急蘇生 授業方法：講義・演習（救急時の観察、役割分担、報告、痛覚刺激、心肺蘇生法、胸骨圧迫、気道の確保、気道異物の除去） 予習：テキストの該当部分を読む　予習ワークシート 復習：ミニテスト④ キーワード：救命、後遺症の予防、苦痛の緩和、心理的サポート、救命の連鎖、日本版救急蘇生ガイドライン2015、トリアージ、小児の身体的構造機能の特徴、意識レベル、観察、役割分担、報告、痛覚刺激、心肺蘇生法、胸骨圧迫、気道の確保、気道異物	吉野　尚一，臼井　雅美，林　華子
16-17	子どもと家族の看護技術の実際（1）	小児看護における看護展開の実際① ・事例に応じたアセスメントと計画の立案 授業方法：演習 予習：看護過程ワークシート（個人用）に情報をアセスメントし看護計画を立案する 復習：看護過程ワークシート（個人用）の完成と提出 キーワード：看護技術、看護過程、アセスメント、看護目標、看護計画、関連図	臼井　雅美，林　華子
18-19	子どもと家族の看護技術の実際（2）	小児看護における看護展開の実際② ・事例に応じた計画の具体化 ・看護計画に基づくプレパレーション・遊びのシナリオ作成 授業方法：演習・グループワーク 予習：看護過程ワークシート（グループワーク用） 復習：看護過程ワークシート（グループワーク用）の完成と提出 キーワード：看護技術、看護過程、アセスメント、看護目標、看護計画、関連図、プレパレーション、ディストラクション、遊び	臼井　雅美，林　華子

20-23	子どもと家族の看護技術の実際（3）	事例を用いたシミュレーション教育 ・子どもの観察技術（VS） ・症状のある子どもの看護技術 ・事例を用いた看護計画の実践 授業方法：実践演習・ロールプレイ・ディスカッション 予習：予習ミニテスト⑤、今までのワークシートの振り返り、指定された動画の視聴 復習：演習ワークシート、リフレクションシート キーワード：バイタルサイン測定、フィジカルアセスメント、コミュニケーション、臨床推論、アセスメント、報告・連絡・相談	臼井　雅美，林　華子
24-27	子どもと家族の看護技術の実際（4）	事例に応じた看護計画の発表と討議 授業方法：発表・ロールプレイ・ディスカッション・まとめ 予習：看護計画の発表資料の作成 復習：看護計画の検討と修正、自己評価（リフレクションシート） キーワード：看護技術、看護展開、振り返り	臼井　雅美，林　華子

【６】　事前・事後学習とその時間

・この授業は、知識と技術を統合して実践するため、既習科目（関連科目を参照）を１時間程度の復習と事例に基づいた事前学習が2時間程度必要です。予習には自己学習ノートを活用します。
・演習後には演習記録（振り返りレポート）の記載のために各30分程度必要になります。
【学習上の留意点】
・関連する知識の復習及び視聴覚教材の積極的な活用が必要です。また、臨地実習でさらに深く学ぶために必須であるため、全時間の出席をのぞみます。

【７】　評価方法・基準

小児看護技術ワークシート(60%)　学修内容確認テスト（ミニテスト）（30%）リフレクションシート(10%)

【８】　フィードバック方法

学修内容確認テストは後日、解説を行う。ワークシートは結果を返却する。授業の最終日に全体講評を行う。

【９】　教科書

＜2年次に購入済＞
ナーシンググラフィカ　小児看護学②，小児看護技術，第5版，中野綾美編，メディカ出版，2023.
ナーシンググラフィカ　小児看護学③，小児の疾患と看護，第3版，中野綾美編，メディカ出版，2023.

【10】　参考書

ナーシンググラフィカ　小児看護学①，小児の発達と看護，第7版，中野綾美編，メディカ出版，2023＜2年次に購入済＞.
新訂第2版 写真でわかる 小児看護技術 アドバンス［動画付］，山元恵子監修，佐々木祥子編著，インターメディカ ，2022

【11】　備考(関連科目等)

予め学んでおく科目：人体の構造と機能、疾病と治療（小児）、看護理論・看護展開論、小児看護学概論，小児看護学方法論，臨床看護学実習Ⅰ、ファミリーヘルス看護論
この科目に続く科目：小児看護学実習、看護実践の探究

科目名(日本語)	**母性看護学方法論**	必修・選択区分	授業形態	開講学期・学年	単位数
科目名(英語)	Maternal and Newborn Nursing Methodology	必修	講義	春学期 3年	1単位 15時間
科目責任者	原田慶子				
担当教員	原田慶子				
科目責任者 連絡先(教室)	原田慶子：chikako.harada@hs.toho-u.ac.jp　K330				
オフィスアワー	授業終了後教室にて10分程度,なおメールおよびMoodleのメッセージからの問い合わせにも応じる 原田慶子：chikako.harada@hs.toho-u.ac.jp　K330				

【１】　授業方法(ALの要素、ICTの活用等)

１－１．アクティブラーニングについて

実施しない

１－２．アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素

２－１．双方向授業でのＩＣＴの活用について

活用する

２－２．ＩＣＴを活用する場合、その具体的名称（クリッカー、タブレット端末等）

Moodle

【２】　授業概要

妊娠期から産褥・新生児期の周産期にある母子とその家族の理解と看護展開について理解するために、周産期の看護実践に必要な基礎的知識を学修する。そのために妊娠期・分娩期・産褥期・新生児期の各期にある母子の身体的・心理社会的特徴とアセスメントの視点、健康問題解決や健康の保持増進のための基本的看護について概説する。

【３】　到達目標

1. 妊娠に伴う身体的変化（胎児の発育・母体の生理的変化）をアセスメントする項目をあげ、説明できる
2. 妊娠期に適した生活（食生活、活動・休息）のポイントについて説明できる
3. 妊娠期の母親になっていく過程について説明できる
4. 分娩期の産婦の身体的変化をアセスメントする項目をあげ、説明できる
5. 分娩期の胎児の健康状態をアセスメントする項目をあげ、説明できる
6. 分娩期の基本的ニーズに対する援助方法について説明できる
7. 分娩直後の母子の絆・愛着形成を促す援助のポイントについて説明できる
8. 産褥期の身体的変化（全身回復・退行性変化・進行性変化）をアセスメントする項目をあげ、説明できる
9. 産褥期の身体的変化を促進するための援助のポイントについて説明できる
10. 産後の母子愛着、絆形成をアセスメントする項目をあげ、説明できる
11. 産後の母子愛着、絆形成を促進するための援助のポイントについて説明できる
12. 帝王切開術後の身体的変化（全身回復・退行性変化）をアセスメントする項目をあげ、説明できる
13. 新生児の胎外生活適応過程をアセスメントする項目をあげ、説明できる
14. 周産期の母子と家族への援助における倫理的配慮について述べることができる

【４】　ディプロマ・ポリシーとの関連

到達目標を達成することにより、以下の能力を身につけることにつながります。

１．自然科学を看護活動の根拠とし、実践に活かす基礎的な力を有している。

２．看護学の専門知識と技術を修得している。

３．他者の多様な価値観を理解し、尊重することができる。

４．看護職の社会的責任を理解し、看護実践にまつわる倫理的課題を感受する力と熟考する力、それらに基づく判断を行動に表す力を身につけている。

５．看護専門職として、リーダーシップおよびフォロワーシップを発揮し、チームの中で有機的に活動する資質を身につけている。

６．自ら学ぼうとする好奇心をもち、生涯にわたり自己研鑽する姿勢を身につける。

【5】　授業計画

	項目	内容および授業方法 予習・復習・キーワード	担当教員
1・2	妊娠期の看護(1)	内容 1．妊娠期の身体的変化（胎児の発育・母体の生理的変化） 2．胎児の健康状態とアセスメント方法 3．妊婦のセルフケア能力を高めるための援助 方法：講義 予習：p2-81を読み，わからない用語や内容をピックアップする．事前課題に取り組む． 復習：妊娠期の身体的変化のアセスメント項目，妊娠期の食生活，活動と休息，P81-82の問題・学習課題を解く． キーワード：妊婦健康診査・胎児の発育・妊婦の食生活・活動と休息	原田慶子
3・4	妊娠期の看護（2）	内容 1．妊娠経過に伴う心理的・社会的変化 2．母親役割獲得準備過程とアセスメント方法 3．母親になっていく準備を整えるための援助 方法：講義 予習：p84～103を読み，わからない用語や内容をピックアップする．事前課題に取り組む． 復習：妊娠期の母親になっていく過程，ミニテスト，p103-104の問題・学習課題を解く． キーワード：母親になっていく準備過程・分娩準備・育児準備	原田慶子
5・6	分娩期の看護	内容 1．分娩の経過 2．産婦の身体的変化・心理的状態とアセスメント方法 3．胎児の健康状態のアセスメント方法 4．分娩期の援助 方法：講義 予習：p132-189を読み，わからない用語や内容をピックアップする．事前課題に取り組む． 復習：産婦の身体的変化及び胎児の健康状態のアセスメント項目，基本的ニーズへの援助，第4期の身体的変化のアセスメント項目，母子の絆・愛着形成への援助，p189の問題・学習課題を解く． キーワード：分娩第1期・分娩第2期・産婦の身体的変化・胎児の健康状態・基本的ニーズの充足・産痛緩和・分娩第3期・分娩第4期・母子の絆/愛着形成・バースレビュー	原田慶子
7・8	産褥期の看護(1)	内容 1．産褥期の身体的変化（全身回復・退行性変化・進行性変化）とアセスメント方法 2．産褥期の身体的変化を促す援助 方法：講義 予習：p234-248,p261-287を読み，わからない用語や内容をピックアップする．事前課題に取り組む． 復習：褥婦の身体的変化のアセスメント項目と援助，ミニテスト，p259,p287-288の問題と学習課題を解く． キーワード：産褥期・産後の回復・退行性変化・進行性変化	原田慶子
9・10	産褥期の看護(2)	内容 1．産褥期にある母子の心理的・社会的変化とアセスメント方法 2．母子の愛着・絆形成を促す援助 3．家庭・社会生活への適応を促す援助 方法：講義 予習：253-258,p293-316を読み，わからない用語や内容をピックアップする． 復習：産褥期にある母子の心理的・社会的変化のアセスメント項目と援助，母子の愛着・絆形成のアセスメント項目と援助，ミニテスト，p316-317の問題・学習課題を解く． キーワード：母子愛着・マタニティブルー・心理的ハイリスク状態・家庭/社会生活への適応	原田慶子
11.12	産褥期の看護（3）	内容 1．帝王切開の適応と方法 2．帝王切開術前・術中の援助 3．帝王切開術後の身体的・心理的変化とアセスメント方法 4．帝王切開後の援助 5．褥婦の正常経過からの逸脱と援助 方法：講義 予習：p340-351，p318-329を読み，わからない用語や内容をピックアップする． 復習：帝王切開術後の身体的変化（全身回復・退行性変化）のアセスメント項目，心理的特徴，p351-352，p318-329の問題と課題を解く，ミニテスト． キーワード：帝王切開術・術後合併症・産褥期の身体的逸脱・産褥期の心理的逸脱・心理的ハイリスク状態・予防的援助	原田慶子
13・14	新生児期の看護	内容 1．新生児の子宮外生活適応とアセスメント方法 2．新生児の発育状態とアセスメント方法 3．新生児の子宮外生活適応を促す援助 方法：講義 予習：p370-419を読み，わからない用語や内容をピックアップする．事前課題に取り組む． 復習：子宮外生活適応のアセスメント項目，ミニテスト，p411-412	原田慶子

		の学習課題を解く. キーワード：子宮外生活適応	

【６】　事前・事後学習とその時間

【準備学習】
・この授業は、周産期ケアにおける基本的知識を習得するものであるため、予習1時間程度、復習1.5時間程度を費やします。
【学習上の留意点】
・理解を深めたい点において教科書を活用して、積極的に取り組むこと。
・わからない点や理解が困難だった内容については積極的に質問すること。

【７】　評価方法・基準

定期試験80%　ミニテスト20%（妊娠期，産褥期、新生児期）

【８】　フィードバック方法

ミニテストは結果を返却し、返却時に講評する。ミニッツペーパーに記載された質問や感想等に対して次の講義でフィードバックする。

【９】　教科書

看護学テキストNICE　母性看護学Ⅱマタニティサイクル　改定第3版，南江堂，2022

【10】　参考書

系統看護学講座　専門分野Ⅱ　母性看護学各論　母性看護学〔２〕第14版，医学書院，2021

【11】　備考(関連科目等)

母性看護学概論　看護の基本的技8　母性看護学実習

科目名(日本語)	**看護の基本技術8（母性看護技術）**	必修・選択区分	授業形態	開講学期・学年	単位数
科目名(英語)	Nursing Skills 8(Maternity Nursing)	必修	演習	春学期 3年	1単位 30時間
科目責任者	楠見　ひとみ				
担当教員	楠見ひとみ・原田慶子・原田奈美				
科目責任者 連絡先(教室)	楠見ひとみ（　　@hs.toho-u.ac.jp）K				
オフィスアワー	授業開講日　13：20～13：45　もしくは授業終了後30分間　昼休みは研究室にて　授業後は講義室にて そのほかに、Moodle等のe-ラーニングシステムにおける質問機能を用いる。 楠見ひとみ　K　　（　　@hs.toho-u.ac.jp） 原田慶子 K330（chikako.harada@hs.toho-u.ac.jp） 原田 奈美K324（nami.harada@hs.toho-u.ac.jp）				

【１】　授業方法(ALの要素、ICTの活用等)

１－１．アクティブラーニングについて

実施する

１－２．アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素

グループワーク
プレゼンテーション

２－１．双方向授業でのＩＣＴの活用について

活用する

２－２．ＩＣＴを活用する場合、その具体的名称（クリッカー、タブレット端末等）

Moodle

【２】　授業概要

母性看護学方法論における基礎的知識を基に、事例を用いて妊娠期・分娩期・産褥・新生児期各期の母子のアセスメントと看護計画の立案方法について演習を行う。また、各期の看護実践に必要なアセスメント技術や基本的な看護技術を体得する。この基本的技術については、ロールプレイを用いてより実践的な技術を体得する。

【３】　到達目標

1. 母性看護学における看護過程の展開についてのウェルネスの視点について説明できる
2. 正常から逸脱をした妊婦のアセスメントの視点について説明できる
3. 事例についての看護過程が展開できる
・事例の母子について、身体的・心理的社会的状態について系統的に情報を整理し、アセスメントすることができる
・事例の母子のアセスメントに基づき、看護上の課題が明確にでき、看護目標と、ケア計画を立案できる
4. 母性看護に必要な技術の根拠、手順、留意点が理解でき、モデル人形を使用し実施できる
・モデル人形を使用し、妊婦の子宮底、腹囲の計測ができる
・モデル人形を使用し、レオポルド触診法が実施できる
・モデル人形を使用し、胎児心音の聴取ができる
・モデル人形を使用し、産褥期の子宮底の観察ができる
・モデル人形を使用し、産褥期の外陰部の観察ができる
・モデル人形を使用し、乳房の観察ができる
・新生児モデル人形を使用し、新生児の適切な抱き方ができる
・新生児モデル人形を使用し、おむつ交換ができる
・新生児モデル人形と乳房モデルを使用し、授乳時の姿勢をとることができる
・新生児モデル人形を使用し、新生児のバイタルサインを測定することができる
・新生児モデル人形を使用し、新生児の観察をすることができる
・新生児モデル人形を使用し、新生児の身体測定をすることができる
・新生児モデル人形を使用し、清潔ケアを実施することができる
5. 事例展開のグループワークにおいて、グループメンバーと協力しながら自らの役割を果たすことができる
6. 技術演習やグループワーク、発表での自己の振り返りを通して、自己の課題を明確にできる

【４】　ディプロマ・ポリシーとの関連

到達目標を達成することにより、以下の能力を身につけることにつながります。

１．自然科学を看護活動の根拠とし、実践に活かす基礎的な力を有している。

２．看護学の専門知識と技術を修得している。

３．他者の多様な価値観を理解し、尊重することができる。

４．看護職の社会的責任を理解し、看護実践にまつわる倫理的課題を感受する力と熟考する力、それらに基づく判断を行動に表す力を身につけている。

５．看護専門職として、リーダーシップおよびフォロワーシップを発揮し、チームの中で有機的に活動する資質を身につけている。

６．自ら学ぼうとする好奇心をもち、生涯にわたり自己研鑽する姿勢を身につける。

【5】　授業計画

	項目	内容および授業方法 予習・復習・キーワード	担当教員
1	科目ガイダンス・看護過程の展開の考え方	・科目ガイダンス ・母子看護における看護過程の考え方 方法：講義 予習：母性看護学Ⅰ教科書ｐ．145-157 母性看護学Ⅱ教科書ｐ．484-534を読む 復習：母子看護における看護過程の特徴 キーワード：看護過程・アセスメント・計画立案・実施及び評価 ウェルネスの視点	楠見ひとみ
2	看護過程の展開（事例展開）①	・事例展開の進め方 ・事例の提示・説明 ・記録用紙の説明 方法：講義 予習：母性看護学方法論産褥期/ 新生児期の看護 復習：産褥新生児期のアセスメントのポイント キーワード：看護過程・アセスメント・計画立案/ 全身の回復状態・生殖器の復古状態・乳房の状態と授乳行動・母親になることへの心理的変化・育児行動・退院後の生活に向けての準備・体外生活への適応・新生児体重減少・新生児黄疸	原田奈美
3・4	看護過程の展開(妊娠期)①②	・妊娠期のアセスメントのポイント 方法：講義、演習（個人ワーク） 予習：母性看護学方法論妊娠期の看護 復習：妊娠期のアセスメントのポイント キーワード：妊婦健康診査・胎児の発育・妊婦の食生活・活動と休息・マイナートラブル・分娩準備・育児準備	原田慶子
5・6	看護過程の展開(妊娠期)③④	・正常を逸脱した妊婦のケア：切迫早産，妊娠高血圧症候群，糖代謝異常妊娠（産後の褥婦への影響、新生児への影響含む） 方法：講義、演習（個人ワーク） 予習：教科書p.105-130を読む。 復習：ハイリスク妊婦のアセスメント（切迫早産、妊娠高血圧症候群、糖代謝異常妊娠）のポイント キーワード：早産・切迫早産・妊娠高血圧症候群・糖代謝異常妊娠	楠見ひとみ
7	看護過程の展開(妊娠期)⑤	・正常を逸脱した妊婦の看護過程の展開：切迫早産 方法：講義 予習：教科書p.105-130を読む。 復習：ハイリスク妊婦のアセスメント（切迫早産、妊娠高血圧症候群、糖代謝異常妊娠）のポイント キーワード：早産・切迫早産	楠見ひとみ
8	看護過程の展開(分娩期)①	・分娩期のケア ・分娩期のアセスメントのポイント 方法：講義 予習：教科書ｐ．371-372、392-393、401を読む 母性看護学方法論分娩期の看護 復習：分娩期のアセスメントのポイント・分娩期のケア キーワード：分娩第１期・第2期・第3期・第４期・胎児の健康状態 分娩の進行状態・CTG（胎児心拍数陣痛図）・母子愛着形成	原田奈美
9	褥婦/新生児期受け持ち時の看護過程の展開	・産褥/新生児期の看護過程の展開における妊娠分娩経過のアセスメント ・妊娠・分娩経過から産褥経過への促進・阻害因子のアセスメント 方法：講義 予習：母性看護学方法論妊娠期/ 分娩期の看護 妊娠期/ 分娩期のアセスメント 復習：産褥/新生児期の看護過程の展開における妊娠分娩経過のアセスメント キーワード：妊婦健康診査・胎児の発育・産褥経過への促進因子・阻害因子・母子愛着形成・母親役割獲得過程・ウェルネスの視点	楠見ひとみ
10	看護過程の展開(産褥/新生児期)①	・産褥期のアセスメントのポイント 方法：講義 予習：母性看護学方法論産褥期の看護 復習：産褥期のアセスメントのポイント キーワード：進行性変化・退行性変化・産後の回復・母子愛着形成・母親役割獲得過程・マタニティブルー・サポート体制・社会資源	楠見ひとみ
11	看護過程の展開(産褥/新生児期)②	・新生児期のアセスメントのポイント 方法：講義 予習：母性看護学方法論新生児期の看護 復習：新生児期のアセスメントのポイント キーワード：子宮外生活適応・新生児体重減少・新生児黄疸	楠見ひとみ
12	母性看護学における援助技術	・妊婦・産婦・褥婦・新生児への援助技術 ・援助技術のポイント ・技術演習について 方法：講義 予習：教科書p. 445、447-451、461-463、465-466を読む 教科書p. 464、466-467、469-472、472、475、479-482を読む 事前課題 ｅラーニングによる学習やＤＶＤ教材の視聴による学習 復習：腟円・子宮底測定・レオポルド触診法・子宮底観察・外陰部	楠見ひとみ

	術	復習：腹囲・子宮底測定、レオポルド触診法、子宮底観察、外陰部の観察、乳房の観察、授乳姿勢、新生児の抱き方、新生児のおむつ交換、新生児の計測、新生児のバイタルサイン測定、新生児の観察、新生児の清潔ケア キーワード：腹囲・子宮底長、レオポルド触診法、胎児心音最良聴取部位、子宮底高、悪露、乳房、授乳姿勢、新生児の抱き方、新生児のおむつ交換、新生児のバイタルサイン、新生児の全身観察、沐浴	
13-16	妊婦・産婦・褥婦への援助技術①②③④	・妊婦・産婦・褥婦への援助技術 ・援助技術項目 【妊婦・産婦・褥婦】腹囲・子宮底測定、レオポルド触診法、胎児心音の聴取、子宮底観察、外陰部の観察、乳房の観察、授乳姿勢、新生児の抱き方、新生児のおむつ交換 方法：講義またはミニレクチャー，デモンストレーション，演習 予習：教科書p. 444-445、447-451、461-463、465-466を読む、 事前課題 ｅラーニングによる学習やＤＶＤ教材の視聴による学習 復習：腹囲・子宮底測定、レオポルド触診法、診察の介助、子宮底観察、外陰部の観察、乳房の観察、授乳姿勢、新生児の抱き方、新生児のおむつ交換 キーワード：腹囲・子宮底長、レオポルド触診法、胎児心音最良聴取部位、子宮底高、悪露、乳房、授乳姿勢、新生児の抱き方、おむつ交換	全員（楠見ひとみ・原田慶子・原田奈美）
17-20	新生児への援助技術①②③④	・新生児への援助技術 ・援助技術項目 【新生児】新生児の身体計測、新生児のバイタルサイン測定、新生児の観察、新生児の沐浴 方法：講義またはミニレクチャー，デモンストレーション，演習 予習：教科書p. 464、466-467、469-472、472、475、479-482を読む 事前課題 ｅラーニングによる学習やＤＶＤ教材の視聴による学習 復習：新生児の抱き方、新生児の計測、新生児のバイタルサイン測定、新生児の観察、新生児の沐浴 キーワード： 新生児のバイタルサイン、新生児の全身観察、沐浴	全員（楠見ひとみ・原田慶子・原田奈美）
21-24	看護過程の展開(事例展開)②③④⑤	・事例に基づく看護過程の展開（産褥新生児期） 方法：講義またはミニレクチャー，演習（グループワーク） 予習：教科書p. 486-534を読む、母性看護学方法論産褥期看護、母性看護学方法論新生児期看護 復習：産褥新生児期のアセスメントのポイント キーワード：進行性変化・退行性変化・産後の回復・母子愛着絆形成・母親役割獲得過程・マタニティブルー・サポート体制・社会資源・子宮外生活適応・新生児体重減少・新生児黄疸	全員（楠見ひとみ・原田慶子・原田奈美）
25・26・27	看護過程の展開（事例展開）⑥⑦⑧	・発表会 ・まとめ	原田奈美・楠見ひとみ

【６】　事前・事後学習とその時間

【準備学習】
・既習の関連科目の復習をして臨むこと
・予習のために教科書を読み、わからない箇所を明確にしておく
・この授業は、演習前と演習後に課題が出ます
・この授業は、既習科目の内容の整理や予習課題のために、予習1時間程度、復習1時間程度を費やす
【学習上の留意点】
・履修にあたって、ｅラーニングによる学習やＤＶＤ教材の視聴による学習を活用する
・わからないことは積極的に質問する

【７】　評価方法・基準

課題・看護過程の展開記録提出物60%　技術演習への取り組み20%　グループワークへの取り組み20%

【８】　フィードバック方法

課題に関しては、技術演習時に正解、ポイントを確認します。技術演習、事例の看護過程の展開については、最終日に全体講評をします。

【９】　教科書

看護学テキストNICE　母性看護学Ⅱマタニティサイクル　南江堂　2022
看護学テキストNICE　母性看護学Ⅰ概論・ライフサイクル　南江堂　2023

【10】　参考書

授業時に関連文献を紹介します

【11】　備考(関連科目等)

母性看護学概論　母性看護学方法論　母性看護学実習

科目名(日本語)	**精神看護学方法論**	必修・選択区分	授業形態	開講学期・学年	単位数
科目名(英語)	Psychiatric Nursing Methodology	必修	講義	春学期 3年	2単位 15時間
科目責任者	渡邊尚子				
担当教員	渡邊尚子				
科目責任者 連絡先(教室)	渡邊：naoko.watanabe@hs.toho-u.ac.jp（メールには学籍番号を明記して下さい）				
オフィスアワー	水曜日：講義終了後～18:00、研究室を訪ねて下さい。渡邊（研究室K334）				

【１】　授業方法(ALの要素、ICTの活用等)

１－１．アクティブラーニングについて

実施する

１－２．アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素

ＰＢＬ（課題解決型学習）
ディスカッション、ディベート
グループワーク
プレゼンテーション

２－１．双方向授業でのＩＣＴの活用について

活用する

２－２．ＩＣＴを活用する場合、その具体的名称（クリッカー、タブレット端末等）

Moodle

【２】　授業概要

主な精神疾患の治療や看護の基本的知識をふまえ、精神を病むことと、精神の病を抱えて生活することの意味を考え、精神障がいを抱えた当事者が持つ生きづらさを考える。また精神保健福祉法に基づく医療制度と社会資源の概要を理解し、対象者の受療回復過程に応じたアセスメント方法と援助方法を学ぶ。

【３】　到達目標

①精神看護を提供するうえで基盤となる制度や法律、歴史的変遷を含め看護の側面から説明できる。
②精神疾患の概念を理解し、対象としての患者の特性を説明できる。
③精神科看護実践の基本となる理論モデルについて説明できる。
④精神障がいをもつ対象の症状が生活に及ぼす影響を説明できる。
⑤主な精神科治療法・検査方法と看護の役割が説明できる。
⑥精神障がいをもつ対象の基本的関係構築を理解し説明できる。
⑦精神障がいをもつ対象の病期に応じた看護の特徴を説明できる。
⑧精神障がいをもつ対象のリハビリテーション看護について具体的に説明できる。
⑨精神に障がいをもつ対象の家族の現状と看護の役割を説明できる。
⑩精神に障がいをもつ対象の社会参加・社会復帰を踏まえて今後の課題を説明できる。
⑪精神障がいをもつ対象の病期に応じた看護過程の展開の違いを説明できる。
⑫精神看護領域における倫理的課題について説明できる。

【４】　ディプロマ・ポリシーとの関連

到達目標を達成することにより、以下の能力を身につけることにつながります。

１．自然科学を看護活動の根拠とし、実践に活かす基礎的な力を有している。

２．看護学の専門知識と技術を修得している。

３．他者の多様な価値観を理解し、尊重することができる。

４．看護職の社会的責任を理解し、看護実践にまつわる倫理的課題を感受する力と熟考する力、それらに基づく判断を行動に表す力を身につけている。

５．看護専門職として、リーダーシップおよびフォロワーシップを発揮し、チームの中で有機的に活動する資質を身につけている。

６．自ら学ぼうとする好奇心をもち、生涯にわたり自己研鑽する姿勢を身につける。

【５】　授業計画

	項目	内容および授業方法 予習・復習・キーワード	担当教員
1・2	精神看護学の基本	精神看護と精神科看護、精神看護に必要な基本技術 講義・個人ワーク 予習：キーワードについてノートに整理しておく 復習：ミニッツペーパーの提出・資料内容の整理 キーワード：精神看護と精神科看護の違い、精神障がい者の体験世界、視覚的観察、参加観察	渡邊尚子
3・4	精神医療の現状	精神医療・精神障がい者の歴史的背景と諸問題 講義 予習：キーワードについてノートに整理しておく 復習：小テスト・ミニッツペーパーの提出・資料内容の整理 キーワード：精神科医療の歴史、精神保健福祉に関する法の変遷、治療共同体、アドボカシー、入院形態	渡邊尚子
5・6	精神看護の主な理論活用法	セルフケア理論を用いた看護 講義・個人ワーク 予習：キーワードについてノートに整理しておく 復習：ミニッツペーパーの提出・資料内容の整理 キーワード：オレムのセルフケア理論、オレム-アンダーウッドの理論、アセスメント、セルフケアレベル	渡邊尚子
7・8	精神看護の実践方法（１）	主な検査と薬物療法・各種療法を受ける患者の看護 講義 予習：キーワードについてノートに整理しておく 復習：ミニッツペーパーの提出・資料内容の整理 キーワード：薬物療法、作用・副作用、多飲水、集団精神療法、認知行動療法	渡邊尚子
9・10	精神看護の実践方法（２）	統合失調症の看護 講義・個人ワーク 予習：キーワードについてノートに整理しておく 復習:ミニッツペーパーの提出・資料内容の整理 キーワード：病期、病期別ケアの特徴、アセスメント、セルフケアレベル	渡邊尚子
11・12	精神看護の実践方法(３)	気分障害患者の看護 講義・個人ワーク 予習：キーワードについてノートに整理しておく 復習：小テスト・ミニッツペーパーの提出・資料内容の整理 キーワード：認知、うつ病、双極性障害、アセスメント、セルフケアレベル	渡邊尚子
13・14	看護の実践方法（４）	地域で生活する精神障がい者の社会復帰施設 講義・個人ワーク 予習：キーワードについてノートに整理しておく 復習：ミニッツペーパーの提出・資料内容の整理 キーワード：社会資源(地域活動支援センターなど)、障害者総合支援法	渡邊尚子

【６】　事前・事後学習とその時間

【準備学習】
・講義の予習として、既習科目(関連科目を参照)を復習して授業に臨むこと。
・復習として、各講義において生じた疑問について調べ、次の授業に臨むこと。
この授業は、各回内容が幅広く多くのことを学ぶため予習1時間程度、復習1.5時間程度を必要とする。
【学修上の留意点】
本科目で修得した内容は臨地実習でさらに深く学ぶために必要になる為、全授業の出席をのぞむ。

【７】　評価方法・基準

定期試験90%、授業での取り組み10%（グループワークの参加状況、小テストを含む）

【８】　フィードバック方法

ミニッツペーパー等の質問などにより必要なことは全体に向けフィードバックする。

【９】　教科書

吉浜隆他；学生のための精神看護学、医学書院, 2021

【10】　参考書

講義時に紹介する。

【11】　備考(関連科目等)

精神看護学概論、援助的人間関係論、コミュニティヘルス看護概論、倫理学、疾病と治療Ⅳ

科目名(日本語)	**看護の基本技術9（精神看護技術）**	必修・選択区分	授業形態	開講学期・学年	単位数
科目名(英語)	Nursing Skills 9(Psychiatric Nursing)	必修	演習	春学期 3年	1単位 30時間
科目責任者	中嶋秀明				
担当教員	中嶋秀明・渡辺尚子・鈴木俊美				
科目責任者 連絡先(教室)	中嶋：hideaki.nakashima@hs.toho-u.ac.jp（メールには学籍番号を明記しいてください）				
オフィスアワー	水曜日（授業後～18:00、研究室を訪ねてください。中嶋（研究室K323）、渡辺（研究室K334）、鈴木俊美（K324）				

【１】　授業方法(ALの要素、ICTの活用等)

１－１．アクティブラーニングについて

実施する

１－２．アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素

グループワーク
プレゼンテーション

２－１．双方向授業でのＩＣＴの活用について

活用する

【２】　授業概要

精神看護学概論、精神看護学方法論で学んだ精神看護学に関連する対人関係理論、セルフケア理論の他、活用できる看護理論を学び、事例を通して看護過程を展開し個人・グループワークで具体的実践方法の理解を深める。

【３】　到達目標

1. 援助者として聞くこと・伝えることの意味を理論に基づき説明できる。
2. 自己概念を構築し、対人関係形成における自己の傾向について説明できる。
3. 自己を活用しながら理論に基づいたコミュニケーションを実践できる。
4. 精神障がいをもつ対象のリハビリテーションについて具体的に説明できる。
5. 精神障がいをもつ対象の症状が生活に及ぼす影響を説明できる。
6. 精神障がいをもつ対象の病期に応じた看護の特徴を説明できる。
7. 精神障がいをもつ対象の病期に応じた看護過程を展開できる
8. 精神科領域におけるリハビリテーションを考えながら看護過程を展開できる。
9. 精神障がいをもつ対象にセルフケア理論を中心にその他のモデルも活用した看護を実践できる。
10 .精神障がいをもつ対象の社会参加・社会復帰を踏まえ今後の課題を説明できる。

【４】　ディプロマ・ポリシーとの関連

到達目標を達成することにより、以下の能力を身につけることにつながります。

１．自然科学を看護活動の根拠とし、実践に活かす基礎的な力を有している。

２．看護学の専門知識と技術を修得している。

３．他者の多様な価値観を理解し、尊重することができる。

４．看護職の社会的責任を理解し、看護実践にまつわる倫理的課題を感受する力と熟考する力、それらに基づく判断を行動に表す力を身につけている。

５．看護専門職として、リーダーシップおよびフォロワーシップを発揮し、チームの中で有機的に活動する資質を身につけている。

６．自ら学ぼうとする好奇心をもち、生涯にわたり自己研鑽する姿勢を身につける。

【５】　授業計画

	項目	内容および授業方法 予習・復習・キーワード	担当教員
1	オリエンテーション	内容：①オリエンテーション②今まで学修した方法の振り返り 授業方法：講義 予習：関連科目の振り返り・到達目標の確認 復習：授業内容の復習 Keyword：地域の健康を支える仕組み、自己理解、援助関係の成立要素、コミュニケーションの基礎理論、家族システム論、プロセスレコード、精神疾患の病因・病態と診断･治療	中嶋秀明・渡辺尚子・鈴木俊美
2・3・4・5	精神看護学で活用する理論とその活用	内容：①精神看護で用いられるモデル（伴走型支援と問題解決型支援）②バイオサイコソーシャルモデル③看護過程④ストレングス・リカバリ・エンパワーメント 授業方法：講義、演習 予習：講義資料の該当箇所を読む 復習：授業内容の復習 Keyword：バイオサイコソーシャルモデル、認知バイアス、看護過程、オレム・アンダーウッドのセルフケアモデル、ストレングス、リカバリ	中嶋秀明・渡辺尚子・鈴木俊美
6	精神看護における援助技術演習(1)	内容：精神障がいを持つ患者のアセスメント 授業方法：演習 予習：オレム・アンダーウッドのセルフケアモデル 復習：演習内容の振り返り Keyword：オレム・アンダーウッドのセルフケアモデル	中嶋秀明・渡辺尚子・鈴木俊美
7・8	精神看護学理論を活用した展開（１）	内容：統合失調症患者のアセスメントのグループワーク 予習；看護過程、オレム・アンダーウッドのセルフケアモデル、地域の健康を支える仕組み、障害者総合支援法 授業方法：演習 復習；計画発表の準備 Keyword：統合失調症の看護、看護過程、アセスメント、オレム・アンダーウッドのセルフケアモデル	中嶋秀明・渡辺尚子・鈴木俊美
9・10・11	精神看護学理論を活用した展開（２）	容：統合失調症患者のアセスメントの発表 授業方法：演習予習 予習：発表準備 復習：他グループ発表内容の確認 Keyword：統合失調症の看護、看護過程、アセスメント、オレム・アンダーウッドのセルフケアモデル	中嶋秀明・渡辺尚子・鈴木俊美
12・13	精神看護における援助技術演習(2)	内容：精神障がいを持つ患者への関わり方のロールプレイ 授業方法：演習 予習：自己理解、援助関係の成立要素 復習：演習内容の振り返り Keyword：自己理解、援助関係の成立要素・プロセスレコード	中嶋秀明・渡辺尚子・鈴木俊美
14・15	精神看護学理論を活用した展開（３）	内容：統合失調症患者の看護計画立案のグループワーク 授業方法：演習 予習：地域の健康を支える仕組み、障害者総合支援法 復習：発表準備 Keyword：統合失調症の看護、看護過程、アセスメント、オレム・アンダーウッドのセルフケアモデル	中嶋秀明・渡辺尚子・鈴木俊美
16・17・18	精神看護学理論を活用した展開（４）	内容：統合失調症患者の計画発表 授業方法：演習 予習：発表準備 復習：他グループ発表内容の確認 Keyword：統合失調症の看護、看護過程、アセスメント、オレム・アンダーウッドのセルフケアモデル	中嶋秀明・渡辺尚子・鈴木俊美
19・20	精神看護学理論を活用した展開（５）	内容：気分障害患者のアセスメントと計画立案のグループワーク 授業方法：演習 予習：看護過程、アセスメント、オレム・アンダーウッドのセルフケアモデル Keyword：統合失調症の看護、看護過程、アセスメント、オレム・アンダーウッドのセルフケアモデル	中嶋秀明・渡辺尚子・鈴木俊美
21・22・23	精神看護学理論を活用した展開（６）	内容：気分障害患者のアセスメントと計画発表 授業方法：演習 予習；発表準備 復習：他グループ発表内容の確認 Keyword：気分障害患者の看護、看護過程、アセスメント、オレム・アンダーウッドのセルフケアモデル	中嶋秀明・渡辺尚子・鈴木俊美
24・25	精神看護における援助技術演習(3)	内容：SSTの理論と実際 授業方法：講義、演習 予習：精神疾患の病因・病態と診断･治療 復習：振り返りシート作成 Keyword：SST(Social Skill Training)、精神障がい者への看護	外部講師・中嶋秀明・渡辺尚子・鈴木俊美
26	精神看護における援助技術演習(4)	内容：プロセスレコードについての評価 授業方法：演習 予習：自己理解、援助関係の成立要素 復習：演習内容の振り返り Keyword：自己理解、援助関係の成立要素・プロセスレコード	中嶋秀明・渡辺尚子・鈴木俊美
27	まとめ	内容：看護基本技術９のまとめと実習への応用 授業方法：講義 予習：今までの講義・演習の振り返り 復習：本科目の総復習	中嶋秀明・渡辺尚子・鈴木俊美

【６】　事前・事後学習とその時間

【準備学修】
本科目は、既存の知識を統合して精神看護学の技術を学ぶ。予習に2時間、復習に2時間程度要する。
【学修上の留意点】
関連する知識の復習及び視聴覚教材の積極的な活用が必要である。また、臨地実習でさらに深く学ぶために必須であるため、全時間の出席が可能であることが求められる。

【７】　評価方法・基準

課題の提出(50%)　ミニテスト（30%）　グループワーク等演習の参加度（20%）

【８】　フィードバック方法

ミニッツペーパー、課題については次回の授業の中でコメントを行う

【９】　教科書

適宜資料を配布する

【10】　参考書

吉浜文洋・末安民生編集（2021）学生のための精神看護学, 第1版第6刷, 医学書院
萱間真美編集（2021）ストレングスからみた精神看護過程, 医学書院
に加えて演習内で紹介する

【11】　備考(関連科目等)

コミュニティヘルス看護概論、精神看護学概論、援助的人間関係論、コミュニケーション論、ファミリーヘルス看護論、精神看護学方法論、疾病と治療Ⅳ

科目名(日本語)	**小児看護学実習**	必修・選択区分	授業形態	開講学期・学年	単位数
科目名(英語)	Child Health Nursing Practicum	必修	実験・実習	秋学期 3年	2単位 90時間
科目責任者	臼井雅美				
担当教員	臼井雅美・林華子（共同）				
科目責任者 連絡先(教室)	臼井雅美：masami.usui@hs.toho-u.ac.jp（研究室K331）				
オフィスアワー	実習日の実習終了後～17:00：臨地の指定された場所。 実習終了日は学内まとめ時16:00～17:00：研究室K331 その他の期間は事前にメール連絡すること。 臼井雅美：masami.usui@hs.toho-u.ac.jp（研究室K331）／林華子：hanako-hayashi@ns.toho-u.ac.jp（研究室K324）				

【１】　授業方法(ALの要素、ICTの活用等)

１－１．アクティブラーニングについて

実施する

１－２．アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素

ディスカッション、ディベート
グループワーク
プレゼンテーション

２－１．双方向授業でのＩＣＴの活用について

活用する

２－２．ＩＣＴを活用する場合、その具体的名称（クリッカー、タブレット端末等）

Moodle

【２】　授業概要

子どもの特性や健康レベル、治療・処置を理解し、子どもに成長・発達を促し、安全を確保できる看護の基礎的実践能力を修得し、自らの看護体験より子どもの生活の場における小児看護の役割と課題について考察する。本実習は、保育所及び病院・クリニック、そして障がい児施設において実習を行う。保育所では乳幼児期にある健康な子どもとの関わりを通して、子どもの成長・発達、日常生活及びその援助について理解し、子どもの成長・発達を促進し、安全を保障するための環境について考察する。病院・クリニックでは健康障害をもつ子どもと家族との関わりを通して、入院や通院および治療・検査・処置が子どもとその家族に及ぼす影響のアセスメントや子どもの健康回復及び成長・発達を促す基礎的な看護を修得し、病院・クリニックおよび多職種連携について学修する。心身の障がいをもつ子どもとの関わりを通して、社会の一員として生活している障がい児を理解し、地域及び福祉における連携と障がい児看護の実際を学ぶ。
（＊実践的教育として構成する授業科目）

【３】　到達目標

1. 小児看護学実習Ⅰ（保育所実習）：
   1）乳幼児の身体的・精神的・社会的な成長・発達段階の特徴を説明できる。
   2）乳幼児の成長発達を促すための日常生活援助を説明できる。
   3）乳幼児の安全管理に関する責任を自覚し、事故防止に努めることができる。
2. 小児看護学実習Ⅱ（病院および小児科クリニック実習）：
   1）健康障害を持つ小児の身体的・精神的・社会的な成長・発達の特徴を説明できる。
   2）健康障害や生活環境、治療・検査・処置が、小児と家族に及ぼす影響を説明できる。
   3）小児の健康レベルや成長・発達を考慮し、個別性に応じたコミュニケーションを実施できる。
   4）病院環境の特殊性を理解し、小児の安全・安楽を保持するための看護を実施できる。
   5）健康障害を持つ小児や家族の状況を理解し、発達段階に応じた小児と家族の看護を展開できる。
3. 小児看護学実習（障がい児施設実習）：
   1）障がい児の身体的・精神的・社会的な成長・発達段階の特徴を説明できる。
   2）障がい児の成長・発達及び健康状態を踏まえた日常生活援助の見学・一部実施できる。
   3）障がい児の安全管理に関する責任を自覚し、事故防止に努めることができる。
4. 子どもを看護する専門職者として、自覚と責任ある行動がとれる。
5. 子どもの権利を尊重した看護のあり方について説明できる。
6. 小児看護における地域ならびに施設の保健医療者の関わりと他専門職との連携について説明できる。
7. 自らの看護体験を通して子どもの生活の場における小児看護の役割と課題について考察し、小児看護について自分の考えを深めることができる。

【4】　ディプロマ・ポリシーとの関連

到達目標を達成することにより、以下の能力を身につけることにつながります。

1．自然科学を看護活動の根拠とし、実践に活かす基礎的な力を有している。

2．看護学の専門知識と技術を修得している。

3．他者の多様な価値観を理解し、尊重することができる。

4．看護職の社会的責任を理解し、看護実践にまつわる倫理的課題を感受する力と熟考する力、それらに基づく判断を行動に表す力を身につけている。

5．看護専門職として、リーダーシップおよびフォロワーシップを発揮し、チームの中で有機的に活動する資質を身につけている。

6．自ら学ぼうとする好奇心をもち、生涯にわたり自己研鑽する姿勢を身につける。

【５】　授業計画

	項目	内容および授業方法 予習・復習・キーワード	担当教員
	実習概要	目標を達成するための詳細な学修内容は、「小児看護学実習　実習要項」に示す。 実習方法は、実習施設である保育所および病院、障がい児施設で、グループごとに２週間の実習を行う。実習は、保育所・障がい児施設実習後、病院実習、または、病院実習後、保育所・障がい児施設実習という形態となる。実習最終日は学内となる。	全員
	事前実習オリエンテーション（全体）	1）時期：3年次秋学期開講の実習科目を受講する学生全員を対象に、夏季休業前に全体に実施する。 2）内容：当該授業の責任者が、実習の概要、実習施設の概要、実習にあたっての注意事項、事前学習等について説明する。 また、実習で活用する看護の基本技術について、各自で復習するように促す。実習担当教員が、本実習開始前までに、適宜、確認し、必要時、指導する。	全員
	直前および現地でのオリエンテーション（グループ毎）	1．直前オリエンテーション 1）時期：実習初日、学生の健康状態をチェックした後、午前中に実施する。 2）内容：実習担当教員が、本実習のスケジュール、事前課題の実施状況の確認をする。 2．現地での実習オリエンテーション 1）時期：病院および障がい児施設については、実習初日に実施する。実施時間は現場の状況に応じて調整する。保育所については事前オリエンテーション後直ちに、学生が保育園に連絡し、オリエンテーションの日程を決め、実習（他の領域も含む）開始前に来園する。 2）内容：実習指導者が、実習場所となっている病棟の環境と看護に関する概要を説明し、受持ち患者を決定する。	全員
	小児看護学実習Ⅰ	・実習１・２日目：保育所で分担されたクラスに入り実習を行う。 ・実習２日目午後：保育所実習での振り返り	全員
	小児看護学実習Ⅱ	・実習初日：病院（病棟およびクリニック）オリエンテーション 病棟における受持ち患児の紹介 ・実習１～２日目：受け持ち患児の情報収集と関係づくり，観察（バイタルサイン測定等），ケアの見学から全体像を把握し、一部の援助を実施。 ・実習２～４日目：受持ち患児の看護展開，看護の実施・評価。 ・実習２～３日目：いずれか1日でクリニックにおける見学実習。 ・実習４日目午後：実習Ⅱにおける最終カンファレンス	全員
	小児看護学実習Ⅲ	・実習初日：施設・病棟オリエンテーション ・実習１日目：受持ち患児や家族との対話，看護師のシャドーイングをとおして看護活動の見学。 ・実習２日目：学内において、看護計画を立案し、ロールプレイにより立案した計画を発表し、ディスカッションを行う。	全員
	実習のまとめ（実習最終日）	1．統合カンファレンス：グループ毎に、実習体験をまとめ目標の達成状況と学びをプレゼンテーションする。討議により看護の主要概念の理解を深め、実習体験の意味づけを図る。 2．個人面接：学生の自己評価をもとに臨床指導者と担当教員の評価をフィードバックしながら、実習目標の達成状況と課題について確認する。	全員
	実習施設	・小児看護学実習Ⅰ：船橋市立保育園 ・小児看護学実習Ⅱ：東邦大学医療センター佐倉病院、他近隣小児科クリニック ・小児看護学実習Ⅲ：東京小児療育病院、他学内	全員
	予習・復習・キーワード	1．予習：看護の基本技術7での課題を復習し、「小児看護学実習実習要項」を熟読。 2．復習：小児看護学実習記録、課題レポート 3．キーワード： 成長発達、小児看護の情報収集・アセスメント、小児の観察技術、小児看護の展開方法・看護評価 子どもの安全・安楽・自立、子どもの権利、子どもの最善の利益、インフォームド・アセント、プレパレーション、ディストラクション、アドボカシー 小児看護の特徴、小児看護師の役割、家族支援、児童福祉、母子保健	全員

【６】　事前・事後学習とその時間

【準備学習】
・本科目の履修にあたり提示されている事前学習を行い、子どもの成長発達，実習で学ぶべき疾患、処置検査、看護について理解しておく。
・この科目は子どもの実践的な看護を展開するため、実習期間中は翌日の看護計画を立案する予習に2～4時間程度、看護実践を振り返る復習に1～3時間程度を費やす。
【学習上の留意点】
・履修にあたって「小児看護学実習　実習要項」を熟読し、不明な点等は事前に教員に確認する。
・実習にあたって特に子どもに関わるため健康状態には留意する。
・学生定期健康診断を受診し、抗体検査および必要な予防接種を済ませておく。

【７】　評価方法・基準

実践内容（観察力、コミュニケーション力）　60%，学習者としての態度、専門職者としての態度　20%，課題レポート20%

【８】　フィードバック方法

実習最終日に、実習のまとめでの全体講評と個別面談によって評価をフィードバックする。

【９】　教科書

＜2年爺購入＞

・ナーシンググラフィカ　小児看護学①，小児の発達と看護，第7版，中野綾美編，メディカ出版，2023.
・ナーシンググラフィカ　小児看護学②，小児看護技術，第5版，中野綾美編，メディカ出版，2023.
・ナーシンググラフィカ　小児看護学③，小児の疾患と看護，第3版，中野綾美編，メディカ出版，2023.
・新訂第2版 写真でわかる重症心身障害児(者)のケア アドバンス［動画付］，鈴木康之・舟橋満寿子監修，インターメディカ，2024.

【10】　参考書

・新訂第2版 写真でわかる 小児看護技術 アドバンス［動画付］，山元恵子監修，佐々木祥子編著，インターメディカ ，2022.
・パーフェクト臨床実習ガイド，小児看護　第2版，筒井真優美監修，照林社，2017.
・発達段階からみた小児看護過程+病態関連図 第4版，浅野みどり・杉浦太一・大村知子編集，医学書院，2021.
・根拠と事故防止からみた小児看護技術　第3版，浅野みどり編集，医学書院，2020.
・こどもの病気の地図帳，鴨下重彦・柳澤正義，講談社，2002.

【11】　備考(関連科目等)

予め学んでおくと良い科目：小児看護学概論、小児看護学方法論、看護の基本技術7、援助的人間関係論、発達看護論、ファミリーヘルス看護論、コミュニティヘルス看護概論、疾病と治療（小児），
この科目に続く内容の科目：看護実践の探究、チーム活動論、看護研究、臨床実践技術の探究

科目名(日本語)	**母性看護学実習**	必修・選択区分	授業形態	開講学期・学年	単位数
科目名(英語)	Maternal and Newborn Nursing Practicum	必修	実験・実習	秋学期 3年	2単位 90時間
科目責任者	楠見　ひとみ				
担当教員	楠見ひとみ・原田慶子・原田奈美				
科目責任者 連絡先(教室)	楠見ひとみ（　@hs.toho-u.ac.jp）　K329研究室				
オフィスアワー	実習期間中は実習時間中および実習時間終了後30分間、臨地での指定された場所にて、実習用携帯（オリエンテーションにて告知）担当教員の連絡先：原田慶子（chikako.harada@hs.toho-u.ac.jp）K330, 原田奈美（nami.harada@hs.toho-u.ac.jp)K324, 楠見ひとみ（ @hs.toho-u.ac.jp)K329, 実習期間外は楠見ひとみに連絡				

【１】　授業方法(ALの要素、ICTの活用等)

１－１．アクティブラーニングについて

実施する

１－２．アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素

ディスカッション、ディベート
プレゼンテーション
実習、フィールドワーク

２－１．双方向授業でのＩＣＴの活用について

活用する

２－２．ＩＣＴを活用する場合、その具体的名称（クリッカー、タブレット端末等）

Moodle

【２】　授業概要

周産期周辺にある母子とその家族の発達課題と健康を支援する基本的な看護実践能力を体得することを目的とする。産科病棟における母子一組の受持ちを通して、対象の特徴を理解し、発達課題や健康レベルに応じた援助について看護計画を立案する。看護計画に基づき、基本的看護技術を用いた看護の実践・評価を通して、母性看護の特徴と役割について考察する。NICU・GCU病棟における母子の看護の実際、産婦人科外来およびリプロダクションセンター外来における女性へのケアの実際について見学を通して理解する。
（＊実践的教育として構成する授業科目）

【３】　到達目標

1.受持ち母子とその家族の発達課題や健康ニーズに基づく看護実践の体験を通して入院中の母子とその家族への看護の特徴について理解する事ができる
　1）受持ち母子の身体的・心理社会的状態について系統的に情報を収集しアセスメントできる。
　2）受持ち母子のアセスメントに基づき看護目標を設定し、日々のケア計画を立案できる。
　3）受け持ち母子に対して計画したケアを安全・安楽に実施できる。
　4）受持ち母子に実施したケアとその結果に基づき、看護目標への到達度について評価できる。
　5）他学生と看護実践の体験の共有を通して入院中の母子とその家族への看護の特徴について述べる事ができる。
2.NICU・GCU病棟見学実習、外来実習（産婦人科外来・リプロダクションセンター外来）を通して周産期周辺にある母子とその家族の特徴と看護の実際を理解できる。
　1）NICU・GCU病棟に児が入院している家族の発達課題に応じた援助の実際を記述し、ケアを意味づける事ができる。
　2）産婦人科外来における妊娠期と産褥期の母親の発達課題や健康ニーズに応じた援助の実際を記述し、ケアを意味づける事ができる。
　3）リプロダクションセンター外来における女性とその家族の発達段階や健康ニーズに応じた援助の実際を記述し、ケアを意味づける事ができる。
3.母性看護学の対象者となる母子とその家族の権利や価値観を尊重した看護について理解できる。
　1）援助場面における対象女性とその家族の権利や価値観について述べる事ができる。
　2）女性とその家族の権利と価値観を尊重する看護のあり方について考察したことを述べる事ができる。
4.周産期医療における多職種連携のあり方について理解できる。
　1）周産期の母子とその家族を継続的に支援する為の看護チーム内および他職種との連携に対する学びを述べる事ができる。
5.母性看護学実習における到到達度を自己評価することにより、今後の課題と取り組みについて述べる事ができる。

【４】　ディプロマ・ポリシーとの関連

到達目標を達成することにより、以下の能力を身につけることにつながります。

１．自然科学を看護活動の根拠とし、実践に活かす基礎的な力を有している。

２．看護学の専門知識と技術を修得している。

３．他者の多様な価値観を理解し、尊重することができる。

４．看護職の社会的責任を理解し、看護実践にまつわる倫理的課題を感受する力と熟考する力、それらに基づく判断を行動に表す力を身につけている。

５．看護専門職として、リーダーシップおよびフォロワーシップを発揮し、チームの中で有機的に活動する資質を身につけている。

６．自ら学ぼうとする好奇心をもち、生涯にわたり自己研鑽する姿勢を身につける。

【5】　授業計画

	項目	内容および授業方法 予習・復習・キーワード	担当教員
	実習概要	学修目標を達成するための詳細な学習内容は母性看護学実習要項に示す。 １．臨地での実習は下記内容をローテーションにより実施する。 ・受持ち実習：4日程度 ・NICU・GCU病棟見学実習：2日程度 ・産婦人科外来見学実習・リプロダクションセンター外来見学実習：2日程度 ２．実習最終日に学内にてカンファレンスを行う。午後に、指導教員との相互評価を行う。	全員
	実習オリエンテーション	１実習初日実習オリエンテーションを行う。 ・産科病棟・産婦人科外来、リプロダクションセンター外来、NICU・GCU病棟 ・病棟師長からのオリエンテーション、教員からのオリエンテーション ・母性看護学実習における自己の学修目標と取り組みを明確にするために担当教員と面談を行う ２午後学内にて、母性看護学実習に必要な技術について実施し実習の準備を行う。	全員
	受持ち実習	〈初日〉 ・受持ち母子の決定、情報収集と関係づくり，アセスメントと看護課題の抽出，看護目標と翌日のケア計画立案 〈実習2・3・4日目〉 ・看護目標に基づき日々のケア計画を立案し、看護実践を行う。 ・ケア開始前、本日の学習目標および看護目標、実習計画を臨地実習指導者に発表し助言を受ける。 ・実習指導者あるいは指導教員とともに母子のケアを実施あるいは見学する。 ・実践あるいは見学したケアとその結果をアセスメントとともに臨地実習指導者に報告し、助言を得て、翌日の実習計画を調整する ・看護目標に基づく看護実践の評価を行い、翌日の実習目標、看護目標、実習計画を立案する。 〈実習4日目午後（病棟実習最終日）〉 ・実習カンファレンスを行う ・受持ち母子の概要と実践した看護の概要および受持ち実習における学びと今後の課題を発表する。 ・他学生とのディスカッションを通して、入院中の母子とその家族への看護の特徴について理解を深める	全員
	NICU・GCU病棟実習	・NICU・GCU病棟に入院している児への援助の実際について意図的なシャドーイングを行う ・NICU・GCU病棟での面会中の家族への支援の実際について意図的なシャドーイングを行う ・NICU・GCU病棟の環境および入院している児の特徴と分離を余儀なくされた家族の心理社会的状況の特徴、看護の特徴について理解を深める。	全員
	産婦人科外来・リプロダクションセンター外来実習	〈産婦人科外来〉 ・妊婦健診あるいは産後健診・助産外来での母親への援助の実際を見学する ・見学を通して、妊娠期及び産褥期にある母子の身体的・心理社会的状況と外来での支援の特徴について理解を深める ・産婦人科外来における看護の役割について理解を深める 〈リプロダクションセンター外来〉 ・看護師による不妊治療中の女性とそのパートナーへの支援の実際を見学する ・見学を通して、不妊治療中の女性とそのパートナーの身体的・心理社会的状況の特徴とリプロダクションセンター外来での支援の特徴について理解を深める。	全員
	NICU・GCU病棟，外来実習カンファレンス	１．NICU・GCU病棟，産婦人科外来，リプロダクションセンター外来実習の最終日にカンファレンスを行う ・実習体験に基づく学びについて発表し、他学生とディスカッションを通して、周産期周辺にある母子と家族の特徴と看護の役割について理解を深める。	全員
	学内カンファレンスと相互評価	〈最終カンファレンス〉 １．ケースカンファレンス ・受持ち母子の看護目標への到達度を整理したうえで、受持ち母子のケース紹介、実践した看護の要約と到達度を発表し、他学生とのディスカッションを通して看護の適切性について評価する ２．母性看護学の対象者とその家族の価値観や権利を尊重した看護 ・倫理的課題について考えた場面について紹介し、どのような倫理的課題であるか、母性看護の対象者とその家族の権利あるいは価値観を尊重した援助のあり方について、他学生とのディスカッションを通して理解を深める 〈教員との相互評価〉 ・学生の母性看護学実習自己評価をもとに、担当教員との面談により、実習の相互評価を行い、母性看護学実習における到達度と今	全員

		後の課題を明らかにする	
	実習施設	・東邦大学医療センター佐倉病院	
	授業方法	・グループ毎に原則として受持ち実習4日程度、見学実習４日程度を行う ・カンファレンス ・相互評価	
	キーワード	母性看護学における看護の展開方法・周産期看護に必要な観察技術/援助技術・情報収集・アセスメント・看護目標・看護計画・結果と評価・安全・安楽・セルフケア能力・権利と価値観・他職種間の連携	

【６】　事前・事後学習とその時間

・母性看護学概論，母性看護学方法，看護の基本技術8における既修得知識について復習する。
・実習体験を通してわからないことは自ら調べ、臨地実習指導者あるいは教員に積極的に確認し、助言を得る。
・その日の看護展開の評価および翌日の実習計画立案など準備学習に1.5時間程度を要する。

【７】　評価方法・基準

・実践内容（受持ち事例看護展開力、周産期周辺の看護の理解力、他職種連携における理解力、日々の記録、母性看護の対象者の権利と価値観を尊重した看護、自己評価力）70%、実習態度30%（実習への取り組み・態度、実習調整力、自己管理力）

【８】　フィードバック方法

・実習カンファレンスにて全体講評をする。最終カンファレンスのディスカッションの結果に対してコメントする。相互評価においてコメントする。

【９】　教科書

母性看護学概論、母性看護学方法論に記載した図書

【10】　参考書

その都度提示する。

【11】　備考(関連科目等)

・母性看護学概論，母性看護学方法論，看護の基本技術8

科目名(日本語)	**精神看護学実習**	必修・選択区分	授業形態	開講学期・学年	単位数
科目名(英語)	Mental Health Nursing Practicum	必修	実験・実習	秋学期 3年	2単位 90時間
科目責任者	渡邊尚子				
担当教員	渡邊尚子・中嶋秀明・鈴木俊美				
科目責任者 連絡先(教室)	渡邊 (K334)				
オフィスアワー	実習日の実習終了後～17:00、臨地の指定された場所にて。その他の期間はメールで連絡する場合は科目責任者のアドレス渡邊（naoko.watanabe@hs.toho-u.ac.jp）に連絡して下さい。				

【１】　授業方法(ALの要素、ICTの活用等)

１－１．アクティブラーニングについて

実施する

１－２．アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素

ディスカッション、ディベート
グループワーク
プレゼンテーション
実習、フィールドワーク

２－１．双方向授業でのＩＣＴの活用について

活用する

２－２．ＩＣＴを活用する場合、その具体的名称（クリッカー、タブレット端末等）

Moodle

【２】　授業概要

精神に障がいをもつ対象の精神的健康及び不健康の状態像を理解し、日常生活リズムや生活環境を整える援助を通して、その人が持つセルフケア能力の維持・向上にむけた看護の知識・技術を修得する。また、保健医療福祉チーム協働の中で、看護の役割を理解する。
（＊実践的教育として構成する授業科目）

【３】　到達目標

1. 精神の健康上の問題に直面している対象を理解することができる。
2. 精神科病院に入院している対象のセルフケア能力を維持・向上のための看護を展開できる。
3. 精神に障がいを持つ対象が地域で生活を営む上で必要な援助を提案できる。
4. 精神に障がいを持つ対象との関わりを通して自己理解を深め、援助関係に役立てることができる。
5. 実習を通して精神看護の特徴と役割について考察できる。

【４】　ディプロマ・ポリシーとの関連

到達目標を達成することにより、以下の能力を身につけることにつながります。

１．自然科学を看護活動の根拠とし、実践に活かす基礎的な力を有している。

２．看護学の専門知識と技術を修得している。

３．他者の多様な価値観を理解し、尊重することができる。

４．看護職の社会的責任を理解し、看護実践にまつわる倫理的課題を感受する力と熟考する力、それらに基づく判断を行動に表す力を身につけている。

５．看護専門職として、リーダーシップおよびフォロワーシップを発揮し、チームの中で有機的に活動する資質を身につけている。

６．自ら学ぼうとする好奇心をもち、生涯にわたり自己研鑽する姿勢を身につける。

【５】　授業計画

	項目	内容および授業方法 予習・復習・キーワード	担当教員
	精神看護学実習概要	目標を達成するための詳細な学修内容は、精神看護学実習臨地実習要項に示す。 全体オリエンテーション等にて、具体的な説明を行う。	全員
	病院実習	〈初日〉 ・病院内にてオリエンテーション ・一人の患者を受け持ち、看護を展開する。 〈実習１週目〉 ・受け持ち患者の全体像を把握し、セルフケア理論に基づき情報の整理とアセスメントを行う。 ・援助内容は、臨地・患者の状況と学生の準備状況に応じて行う。実施方法は状況に応じて決定する。 ・患者の全体像とセルフケアのアセスメント状況を発表 〈実習２週目〉 ・受け持ち患者に対し、看護計画に基づいて看護を実施・評価する。 ・ケースカンファレンス ・最終カンファレンス	全員
	地域事業所等実習	実習1週目と2週目の水曜日 各地域事業所等に学生2～3名が配置される。 各施設でカンファレンスを行う。	全員
	実習施設	同和会千葉病院 地域事業所　等	全員
	実習方法	グループごとに２週間の実習を行う 調べ学習、学生カンファレンス・グループワーク・プレゼンテーション	全員
	キーワード	看護の展開方法、看護情報収集、観察技術、コミュニケーション技術、アセスメント、看護目標、看護計画、記録、セルフケア理論、統合失調症、抑うつ障害群、多飲症、精神科リハビリテーション、地域活動支援センター、就労支援事業所	全員

【６】　事前・事後学習とその時間

実習要項をよく読み、実習目的・目標・方法をよく理解しておくこと
授業の配布資料や事前課題のほか、関連資料をよみ、適宜自己学習を行うこと
新聞等、現在の精神障がいをもつ人の生活を取り巻く社会情勢を理解しておくこと
この授業は精神障がいを持つ人々に対し看護過程を展開していくため、翌日の計画立案等の予習と
当日の看護実践の振り返りのための復習に、それぞれ1～2時間程度費やす。

【７】　評価方法・基準

実践内容（観察力、コミュニケーション力、アセスメント力、記録、学習者・専門職者としての態度）90%、事前・事後の課題レポート10%

【８】　フィードバック方法

最終日に実習のまとめで全体講評をする。

【９】　教科書

なし

【10】　参考書

精神看護学概論や精神看護学方法論、看護の基本技術9（精神看護技術）で使用した教科書や講義資料、その他授業内で紹介した書籍等

【11】　備考(関連科目等)

疾病と治療Ⅳ、精神看護学概論、援助的人間関係論、精神看護学方法論、看護の基本技術9（精神看護技術）、その他3年次春学期までの必修科目

科目名(日本語)	**看護の基本技術11（在宅看護技術）**	必修・選択区分	授業形態	開講学期・学年	単位数
科目名(英語)	Nursing Skills 11(Home Care Nursing)	必修	演習	春学期 3年	1単位 30時間
科目責任者	島村敦子				
担当教員	佐瀬真粧美・鳥田美紀代・島村敦子・菅谷綾子・鈴木裕子・松浦志野				
科目責任者 連絡先(教室)	島村敦子：atsuko.shimamura@hs.toho-u.ac.jp（K313）				
オフィスアワー	原則、授業開講日、講義室または各担当教員の研究室にて、授業終了後30分間受け付ける。各担当教員の連絡先は、島村（K313：atsuko.shimamura@hs.toho-u.ac.jp）、佐瀬（K319：masami.sase@hs.toho-u.ac.jp）、鳥田（K320:mikiyo.torita@hs.toho-u.ac.jp）、菅谷（K317:ayako.sugaya@hs.toho-u.ac.jp）その他は随時、Moodle上にて質問を受け付ける。				

【１】　授業方法(ALの要素、ICTの活用等)

１－１．アクティブラーニングについて

実施する

１－２．アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素

グループワーク
その他

「その他」の内容

模擬訪問

２－１．双方向授業でのＩＣＴの活用について

活用する

２－２．ＩＣＴを活用する場合、その具体的名称（クリッカー、タブレット端末等）

Moodle、アイカメラ

【２】　授業概要

健康障害を持ちながら、在宅で生活する人々に必要な援助を提供するための基本的な姿勢、知識を習得し、アセスメントの視点を養うとともに、在宅看護に特徴的な看護技術を修得する。

【３】　到達目標

1.自宅に訪問するために必要な態度・姿勢を説明できる。
2.初回訪問における、情報収集・アセスメントの方法を説明できる。
3.療養者を支える家族のアセスメント・支援方法を説明できる。
4.在宅で行う看護技術の特徴を説明できる。
5.在宅で行う看護技術（初回訪問・初回アセスメント、褥瘡ケア、急性増悪時の対応など）を模擬療養者またはモデル人形を用いて実施できる。
6.在宅で行う医療的ケアの特徴を説明できる。
7.在宅で行う内服管理の工夫を3つ以上述べることができる。
8.療養者と家族の支援に必要な社会資源の活用について、具体的な制度を１つ以上用いて説明できる。

【４】　ディプロマ・ポリシーとの関連

到達目標を達成することにより、以下の能力を身につけることにつながります。

１．自然科学を看護活動の根拠とし、実践に活かす基礎的な力を有している。

２．看護学の専門知識と技術を修得している。

３．他者の多様な価値観を理解し、尊重することができる。

４．看護職の社会的責任を理解し、看護実践にまつわる倫理的課題を感受する力と熟考する力、それらに基づく判断を行動に表す力を身につけている。

５．看護専門職として、リーダーシップおよびフォロワーシップを発揮し、チームの中で有機的に活動する資質を身につけている。

６．自ら学ぼうとする好奇心をもち、生涯にわたり自己研鑽する姿勢を身につける。

【5】　授業計画

	項目	内容および授業方法 予習・復習・キーワード	担当教員
1・2	在宅におけるアセスメント・初回訪問	内容：在宅におけるフィジカルアセスメント・生活アセスメントの理解、対象疾患別事例の紹介 授業方法：ミニレクチャー・映像を用いた演習 予習：在宅におけるフィジカルアセスメント・生活環境のアセスメント視点を調べる 復習：在宅におけるフィジカルアセスメント・生活環境アセスメントの特徴について、考えたことを記述する キーワード：フィジカルアセスメント、生活環境、観察、初回訪問	島村敦子
3・4	家族への支援	内容：家族アセスメントおよび家族支援の理解と実践 授業方法：ミニレクチャー・グループワーク・記録用紙① 予習：療養者を介護する家族の特徴を３つ挙げる 家族支援の目的を調べる 復習：在宅における家族アセスメントの特徴および、家族を支援する看護師の姿勢について、考えたことを記述する キーワード：家族看護、家族アセスメント、家族介護者	佐瀬真粧美
5	排泄ケア	内容：在宅における排尿・排便ケアの理解と実際（敵便・腹部マッサージを含む） 授業方法：ミニレクチャー・演習・記録用紙② 予習：在宅における排泄ケア課題をアセスメントする視点を調べる 復習：在宅における排泄ケアの特徴について考えたことを記述する キーワード：排泄ケア、摘便、おむつ、福祉用具、腹部マッサージ	鳥田美紀代
6	口腔ケア	内容：在宅における口腔ケアおよび食の支援・栄養管理 授業方法：ミニレクチャー・演習 予習：在宅における口腔ケアに関する課題をアセスメントする視点を調べる 復習：在宅における口腔ケアの特徴について考えたことを記述する キーワード：口腔ケア、肺炎予防、義歯	鳥田美紀代
7	医療的ケア①（在宅酸素療法）	内容：在宅における医療的ケア①（在宅酸素療法）の理解 授業方法：ミニレクチャー・演習 予習：在宅酸素療法の適応基準を調べる 復習：在宅酸素療法中の在宅療養者への看護支援を考える キーワード：医療的ケア、在宅酸素療法、非侵襲的陽圧換気療法	菅谷綾子
8	医療的ケア②（在宅中心静脈栄養法）	内容：在宅における医療的ケア②（在宅中心静脈栄養法）の理解と実践 授業方法：ミニレクチャー・演習 予習：在宅中心静脈栄養法の目的と適応を調べる 復習：安全な在宅中心静脈栄養法を可能にする条件を記述する キーワード：医療的ケア、診療補助行為	島村敦子
9・10	初回訪問（模擬訪問1）	内容：初回訪問に必要な看護技術①　模擬訪問 授業方法：居宅型演習室への模擬訪問（zoomを用いてライブ配信）、模擬訪問記録用紙③：模擬訪問時に毎回使用する） 予習：初回訪問の流れ、観察する内容を調べる 復習：初回訪問における観察・アセスメントの特徴について、気づいたこと・感想を記述する キーワード：初回訪問、情報収集、観察、アセスメント	島村敦子　菅谷綾子　鈴木裕子　鳥田美紀代　佐瀬真粧美　松浦志野
11・12	服薬管理（模擬訪問1）	内容：自宅における服薬管理の実際①　模擬訪問 授業方法：ミニレクチャー・居宅型演習室への模擬訪問（zoomを用いてライブ配信）、模擬訪問記録用紙③ 予習：在宅における服薬管理の工夫を３つ考える 復習：在宅における服薬管理に関するケアのポイントについて、考えたことを記述する キーワード：薬物療法、服薬管理	菅谷綾子　島村敦子　鈴木裕子　鳥田美紀代　佐瀬真粧美　松浦志野
13・14	初回訪問（模擬訪問2）	内容：初回訪問に必要な看護技術② 授業方法：ミニレクチャー・居宅型演習室への模擬訪問（zoomを用いてライブ配信）、模擬訪問記録用紙③ 予習：模擬訪問を体験あるいは視聴し、初回訪問に必要な看護技術について振り返る 復習：初回訪問必要な看護技術を記述する キーワード：初回訪問、情報収集、観察、アセスメント	島村敦子　菅谷綾子　鈴木裕子　鳥田美紀代　佐瀬真粧美　松浦志野
15・16	服薬管理（模擬訪問2）	内容：自宅における服薬管理の実際② 授業方法：居宅型演習室への模擬訪問（zoomを用いてライブ配信）、模擬訪問記録用紙③ 予習：模擬訪問を体験あるいは視聴し、内服管理を目的とした訪問看護に必要は看護技術について振り返る 復習：内服管理に必要な看護技術について振り返る キーワード：薬物療法、服薬管理	菅谷綾子　島村敦子　鈴木裕子　鳥田美紀代　佐瀬真粧美　松浦志野
17・18・19	病状悪化時の対応（模擬訪問3）	内容：病状悪化時の対応・多職種連携の理解と実際 授業方法：ミニレクチャー・グループワーク・演習・記録用紙④ 予習：在宅での病状急変時または急性増悪時の対応を調べる 復習：在宅での病状急変時または急性増悪時の情報共有について考える キーワード：急性増悪、急変、救急搬送、情報共有、多職種連携、入院支援	島村敦子　菅谷綾子　鈴木裕子　鳥田美紀代　佐瀬真粧美　松浦志野

20	対象疾患別事例①	内容：さまざまな対象者（①がん療養者、②独居高齢者、③筋萎縮性側索硬化症：ALS、④医療的ケア児）への支援 授業方法：事例紹介・グループワーク・記録用紙⑤ 予習：担当となる対象疾患の支援の実際（社会資源を含）を調べる 復習：担当となる対象疾患の支援内容について、考えたことを記述する キーワード：社会資源、介護保険、医療保険、障害者総合支援法	島村敦子　松浦志野　菅谷綾子　鈴木裕子　鳥田美紀代　佐瀬真粧美
21・22	対象疾患別事例②	内容：さまざまな対象者（①がん療養者、②独居高齢者、③筋萎縮性側索硬化症：ALS、④医療的ケア児）への支援の検討 授業方法：グループワーク・記録用紙⑤ 予習：担当以外の対象疾患の特徴を調べる 復習：対象疾患別①－④の支援の特徴をまとめる キーワード：社会資源、介護保険、医療保険、障害者総合支援法	島村敦子　松浦志野　菅谷綾子　鈴木裕子　鳥田美紀代　佐瀬真粧美
23・24	対象疾患別事例③	内容：さまざまな対象者（①がん療養者、②独居高齢者、③筋萎縮性側索硬化症：ALS、④医療的ケア児）への支援のまとめ・発表 授業方法：グループワーク・プレゼンテーション・意見交換・記録用紙⑤ 予習：担当以外の対象疾患の特徴を調べる 復習：対象疾患別①－④の支援の特徴をまとめる キーワード：社会資源、介護保険、医療保険、障害者総合支援法	島村敦子　松浦志野　菅谷綾子　鈴木裕子　鳥田美紀代　佐瀬真粧美
25・26	褥瘡ケア／ストマケア	内容：在宅における褥瘡の予防とケアの理解と実践 ＊ゲストスピーカー：皮膚・排泄ケア認定看護師 授業方法：ミニレクチャー・模型を用いた演習 予習：在宅における褥瘡予防に必要なケアを３つ考える 復習：在宅における褥瘡ケアの特徴について考えたことを記述する キーワード：褥瘡予防、リスクアセスメント、創傷ケア	佐瀬真粧美　島村敦子　松浦志野　菅谷綾子　鈴木裕子　鳥田美紀代
27	清潔ケア・まとめ	内容：在宅における清潔ケアの理解と実際、在宅看護技術まとめ 授業方法：ミニレクチャー・演習 予習：在宅における清潔ケアの目的を5つ挙げる 復習：在宅における清潔ケアのアセスメント視点を3つ挙げる キーワード：清拭、洗髪、ケリーパッド、入浴、福祉用具、社会資源	島村敦子　松浦志野

【６】　事前・事後学習とその時間

【準備学習】
これまで講義で学習してきたものを活用する演習となるため、関連科目の復習を行うこと。この授業は、グループワークなどを通して学びを深めるため、既習知識の確認が重要となる。そのため、予習1時間程度を必要とする。
【事後学習】
授業で学んだことをまとめる。そのため、復習1時間程度を必要とする。
【学習上の留意点】
演習では、グループワークを通して個人の学びを深める。グループワークへの積極的な参加、および自由で柔軟な発想を期待する。

【７】　評価方法・基準

演習・グループワークへの取組状況（40%）、提出された記録用紙（60%）

【８】　フィードバック方法

グループワークの状況およびリアクションペーパーを確認し、次回の授業で理解が不足している点についてコメントする。

【９】　教科書

資料を授業の時に配布する。

【10】　参考書

石垣和子、上野まり、徳田真由美、辻村真由子編集：看護学テキストNice：地域・在宅看護論Ⅰ・Ⅱ改訂第3版（南江堂、2024）
正野逸子・本田彰子編著：看護実践のための根拠がわかる 在宅看護技術 第4版（メヂカルフレンド社、2021）

【11】　備考(関連科目等)

看護入門実習Ⅱ、地域・在宅看護概論、地域・在宅看護方法論、老年看護学概論、老年看護学方法論、コミュニティヘルス看護概論、コミュニティヘルス看護展開論、看護の基本技術10、老年看護学実習、在宅看護実習

科目名(日本語)	**老年看護学実習**	必修・選択区分	授業形態	開講学期・学年	単位数
科目名(英語)	Gerontological Nursing Practicum	必修	実習	春学期 3年	3単位 135時間
科目責任者	鳥田美紀代				
担当教員	鳥田美紀代、佐瀬真粧美、島村敦子、菅谷綾子、鈴木裕子、松浦志野				
科目責任者 連絡先(教室)	鳥田美紀代：mikiyo.torita@hs.toho-u.ac.jp 健康科学部棟３F　K320（研究室10）				
オフィスアワー	臨地実習中は、実習終了後30分程度、各施設の担当教員がオフィスアワーの時間を設ける。 学内実習日は、終了後1時間程度、講義室または担当教員の研究室で質問等を受け付ける。 なお、臨地実習期間中はオリエンテーションで提示する各施設の担当教員の実習用携帯電話・メールアドレスに連絡すること。担当教員に連絡がつかない場合や科目全体に関わる内容については科目責任者の実習用携帯電話・メールアドレスに直接連絡してもかまわない。実習用携帯電話は、実習中のみ使用可能である。 各教員のメールアドレスは以下の通りである。 鳥田（mikiyo.torita@hs.toho-u.ac.jp）、佐瀬（masami.sase@hs.toho-u.ac.jp）、島村（atsuko.shimamura@hs.toho-u.ac.jp）、菅谷綾子（ayako.sugaya@hs.toho-u.ac.jp）、鈴木裕子（yuko.suzuki@hs.toho-u.ac.jp）				

【１】　授業方法(ALの要素、ICTの活用等)

１－１．アクティブラーニングについて

実施する

１－２．アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素

ディスカッション、ディベート
グループワーク
プレゼンテーション
実習、フィールドワーク

２－１．双方向授業でのＩＣＴの活用について

活用する

２－２．ＩＣＴを活用する場合、その具体的名称（クリッカー、タブレット端末等）

Moodle、Zoom

【２】　授業概要

高齢患者や家族が、その先の生活を見据えて健康的かつ主体的に過ごしていくための看護と多職種連携の在り方について学ぶ。回復期リハビリテーション病棟、地域包括ケア病棟、介護医療院など、様々な機能を有する施設・病棟を実習施設として、高齢者やその家族の強み、療養の経過を踏まえた対象理解のもと、看護計画の立案・実施・評価を行う。また、専門職のシャドーイングや活動の見学等を通して、専門職との連携の姿勢や看護職としての役割を理解する。

【３】　到達目標

1. 高齢患者やその家族と信頼関係を築き、看護に必要な情報を得ることができる。
2. 身体・精神・生活・社会的状況やその関連性、療養の経過をふまえて、高齢患者の全体像を説明することができる。
3. 高齢患者の特徴をふまえ、科学的根拠に基づいたアセスメントができる。
4. 高齢患者の特徴や発達段階、全体像をふまえて看護の課題を表現できる。
5. 高齢患者の強みをふまえた看護計画の立案・実施・評価ができる。
6. 高齢患者の将来を見据えた看護の方向性を説明することができる。
7. 高齢患者を尊重する姿勢のもと、倫理的態度で看護実践ができる。
8. 高齢患者の機能の維持や回復、生活を支える多職種の役割と多職種連携における看護の役割について説明することができる。
9. 専門職間の連携・協働において求められる姿勢や態度について説明することができる。
10. 高齢者や家族を支える地域包括ケアシステムと、その中での看護の役割について考察することができる。

【４】　ディプロマ・ポリシーとの関連

到達目標を達成することにより、以下の能力を身につけることにつながります。

１．自然科学を看護活動の根拠とし、実践に活かす基礎的な力を有している。

２．看護学の専門知識と技術を修得している。

３．他者の多様な価値観を理解し、尊重することができる。

４．看護職の社会的責任を理解し、看護実践にまつわる倫理的課題を感受する力と熟考する力、それらに基づく判断を行動に表す力を身につけている。

５．看護専門職として、リーダーシップおよびフォロワーシップを発揮し、チームの中で有機的に活動する資質を身につけている。

６．自ら学ぼうとする好奇心をもち、生涯にわたり自己研鑽する姿勢を身につける。

【５】　授業計画

	項目	内容および授業方法 予習・復習・キーワード	担当教員
	オリエンテーション①	＜オリエンテーション①＞ 3年次４～５月に実施する。学内およびオンデマンドにて、実習目的、概要、実習施設、スケジュール、実習前の健康管理、留意事項、実習で必要な知識・技術に関する既修得科目の復習等について説明する。 なお、本実習の概要は以下のとおりである。 ＜実習概要＞ 本実習は『施設の機能と専門職の役割を学ぶ実習』と、回復期あるいは療養期にある高齢患者1名の看護過程を展開する『病棟実習』から構成する。この２つの実習内容を通して、地域包括ケアシステムを基盤として、高齢患者や家族が、その先の生活を見据えて健康的かつ主体的に過ごしていくためのチーム医療の在り方や看護について学ぶ。	全員
	オリエンテーション②	＜オリエンテーション②＞ 1週目の初日に以下の内容について説明を行う。 ・全体オリエンテーション 実習内容、記録の書き方、留意事項等について ・施設毎のオリエンテーション 実習施設担当教員より、施設毎に留意事項等について説明する。また、臨地実習指導者から、実習施設の概要・機能、病棟の特徴、入院患者の特徴について説明を受ける。	全員
	1週目：施設の機能と専門職の役割を学ぶ実習	・看護介護シャドーイング（2日目または3日目） 各学生が病棟実習を行う予定の施設・病棟で実施し、看護介護スタッフの行動観察や高齢患者の療養環境の観察を行う。 ＜実習施設＞ 千葉みなとリハビリテーション病院、おゆみの中央病院、初富保健病院、東京湾岸リハビリテーション病院 ・リハビリ部門実習（2日目または3日目） リハビリ専門職の活動の実際を見学し、その先の生活を見据えた身体・生活機能の評価、生活リハビリの視点、看護職との連携の実際について学ぶ。 ＜実習施設＞ 東邦大学医療センター佐倉病院　リハビリ部門 ・自己学習 翌週以降の病棟実習を想定し、多様な施設の機能、対象者の療養環境、他職種の役割・連携等の理解を目ざし、学生各自がテーマを設定して整理する。 ・カンファレンス（4日目・5日目） 高齢患者の療養環境、施設の機能や専門職の役割について情報共有、グループワークを行い、考察する。	全員
	2週目：病棟実習	高齢患者１名を受け持ち、看護過程を展開する。 ＜実習施設＞ 千葉みなとリハビリテーション病院、おゆみの中央病院、初富保健病院、東京湾岸リハビリテーション病院 ・患者紹介（1日目） ・情報収集・コミュニケーション（1日目より継続） ・行動計画の発表、調整、ケアの見学（一部実施）、報告、カンファレンス（2日目より継続） ・情報の整理、アセスメント、全体像の整理、看護課題の抽出、目標設定、初期計画の立案（4日目：学内） ・初期計画に基づいた看護実践・展開（5日目） ・中間カンファレンス（5日目）	全員
	3週目：病棟実習	（1週目に引き続き） ・初期計画に基づいた看護実践・展開（1～4日目） ・ケースレポートの整理・看護実践の評価 ・最終カンファレンス（4日目） ・グループワーク・発表（5日目）	全員
	実習のまとめ	病棟実習　3週目の最終日（5日目）に実施 ・全体のまとめ：グループワークの発表および実習全体に対する教員からの講評 ・学生個々のまとめ：学生自身による自己評価、施設担当教員との個別面談により、自己課題の整理 ・実習記録の整理・提出（3週目の土曜日を提出期限とする）	全員

【６】　事前・事後学習とその時間

＜準備学習＞
加齢に伴う身心の変化や高齢者に多い疾患・病態、高齢者の療養環境、発達段階等について、既習の関連科目を復習し，資料等を活用しやすいように整理しておくこと。この授業は，既習の関連科目で得た知識を実習で活用するために，予習1時間程度，復習1.5時間程度を費やす。

＜学習上の留意点＞
本科目は，実際に臨床の場におもむき，入院中の高齢者やその家族の理解と協力のもとで学習の機会を得られるものである。したがって，高齢者やその家族に対する看護学生としての責任を自覚し，尊重する態度に留意すること。また，教員の指示に従って健康管理や感染予防行動の遵守、予防接種などの感染予防対策を講じ，学生自身の体調管理に十分注意して臨むこと。なお、実習前に行う学内オリエンテーションに必ず参加すること。

【７】　評価方法・基準

実践内容（コミュニケーション、情報収集、アセスメント、計画立案・実施・評価、記録、報告）60%、学習者としての態度・高齢者にかかわる際の倫理的態度 20%、最終レポート（実習記録） 20%

【８】　フィードバック方法

実践内容や学習者としての態度，高齢者にかかわる際の倫理的態度については，臨地や学内における個別面接またはグループ全体にコメントを返す。最終レポート（実習記録）については，病棟実習中に施設担当教員から添削、面談等により随時コメントを返すことに加え、最終提出された記録については、到達目標の達成に向けた視点から更に考察を深める必要がある個所について個別に添削して学生に返却する。また，実習最終日に全体講評をする。

【９】　教科書

老年看護学、地域・在宅看護学に関する授業のテキストの他、専門基礎教育科目および専門教育科目で使用した教科書

【10】　参考書

随時提示する。

【11】　備考(関連科目等)

人体の構造と機能Ⅰ～Ⅲ、疾病と治療Ⅰ～Ⅴ、リハビリテーション論、社会保障制度、看護学概論、臨床看護学概論、看護倫理学、看護理論・看護展開論、機能障害のある患者の看護、リスクマネジメント、看護の基本技術1～6、10・11、発達看護論、援助的人間関係論、コミュニティヘルス看護概論、老年看護学概論、老年看護学方法論、地域・在宅看護概論、地域・在宅看護方法論、看護研究、看護の役割と実践の探究、臨床実践技術の探究、エンドオブライフケア、チーム活動論、各臨地実習科目

科目名(日本語)	**在宅看護実習**	必修・選択区分	授業形態	開講学期・学年	単位数
科目名(英語)	Home Care Nursing Practicum	必修	実験・実習	秋学期 3年	1単位 45時間
科目責任者	島村敦子				
担当教員	佐瀬真粧美・島村敦子・菅谷綾子・鳥田美紀代・鈴木裕子・松浦志野				
科目責任者 連絡先(教室)	島村（Email;atsuko.shimamura@hs.toho-u.ac.jp, 研究室番号K313）、実習用携帯（番号は実習要項に記載する）。				
オフィスアワー	随時、Moodle上または、科目責任者のメール（島村：atsuko.shimamura@hs.toho-u.ac.jp）、実習用携帯（番号は実習要項に記載する）にて質問を受け付ける。また、実習施設内では、指定された場所にて質問を受け付ける。				

【１】　授業方法(ALの要素、ICTの活用等)

１－１．アクティブラーニングについて

実施する

１－２．アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素

グループワーク
実習、フィールドワーク

２－１．双方向授業でのＩＣＴの活用について

活用する

２－２．ＩＣＴを活用する場合、その具体的名称（クリッカー、タブレット端末等）

Moodle

【２】　授業概要

地域で生活している人の姿・力に触れることから、療養生活を支えるために必要な看護を実践するための基礎的能力を修得することを目的とする。訪問看護ステーション等の実践活動から、地域で人々の健康を支えている訪問看護師の役割を理解する。地域で療養者・家族が生活するために必要となる連携のあり方、制度の活用について理解する。また、訪問看護ステーションにおける現状と課題について考察する。
（＊実践的教育として構成する授業科目）

【３】　到達目標

1.訪問看護ステーション等の実践活動から、在宅ケアにおける看護師の役割を説明できる。
2.居宅における療養者と家族の生活の実際を観察できる。
3.看護師に同行訪問することから、居宅における看護過程の特徴を説明できる。
4.同行した看護師の指導の下に、バイタルサインの測定、清潔ケアなどの非侵襲的なケアに参加できる。
5.療養者と家族への看護を見学または看護師とともに実施する際には、倫理的態度で関わることができる。
6.住み慣れた地域で療養者と家族が生活するために必要となる連携のあり方、制度の利用について説明できる。
7.地域での訪問看護活動の展望について述べることができる。

【４】　ディプロマ・ポリシーとの関連

到達目標を達成することにより、以下の能力を身につけることにつながります。

１．自然科学を看護活動の根拠とし、実践に活かす基礎的な力を有している。

２．看護学の専門知識と技術を修得している。

３．他者の多様な価値観を理解し、尊重することができる。

４．看護職の社会的責任を理解し、看護実践にまつわる倫理的課題を感受する力と熟考する力、それらに基づく判断を行動に表す力を身につけている。

５．看護専門職として、リーダーシップおよびフォロワーシップを発揮し、チームの中で有機的に活動する資質を身につけている。

６．自ら学ぼうとする好奇心をもち、生涯にわたり自己研鑽する姿勢を身につける。

【５】　授業計画

	項目	内容および授業方法 予習・復習・キーワード	担当教員
	【オリエンテーション】	目標を達成するための詳細な学修内容は、在宅看護実習要項に示します。 また、各実習施設のオリエンテーションはMoodle上に提示するため、実習直前に確認する必要があります。 ＜実習1日目（月曜日）＞ 各施設でのオリエンテーション ・実習施設の組織、体制について ・各施設でのオリエンテーション終了後、看護師等に同行訪問する	佐瀬真粧美　島村敦子　松浦志野 鳥田美紀代　菅谷綾子　鈴木裕子
	【訪問看護ステーション等での実習】	＜実習2日目（火曜日）－4日目（木曜日）＞ 各施設での実習 ・実習時間は、原則として実習先の勤務時間とする ・多様な事例（小児、高齢者、認知症高齢者、終末期療養者など）へ、看護師に同行訪問する ・看護師等との同行訪問を通して、情報収集方法、居宅で生活する療養者と家族のアセスメント・居宅での看護過程の展開などを体験する ・同行した看護師が可能と判断した場合には、学生の学習段階に応じて、バイタルサインの測定、清潔ケアなどを実施または補助する ・可能であれば、ケアカンファレンスなどに参加することで、他の専門職との連携方法を学ぶ ・実習3日目または4日目には、まとめのカンファレンスを実施する	佐瀬真粧美 島村敦子　松浦志野　鳥田美紀代 菅谷綾子　鈴木裕子
	【学内実習】	＜実習5日目（金曜日）＞ 学内演習 午前　学内グループワーク ・異なる施設で実習した学生から構成されるグループを作る ・「療養者と家族が安心して生活するために必要な事柄」について、グループディスカッションを行う。このとき、実習において体験した具体的な内容と関連させた意見を述べる ・グループワークの成果を発表、質疑応答 午後　個人面接 ・実習目標の達成状況の確認 ＜実習6日目（土曜日）＞ ・各自、課題レポートの作成、実習のまとめ	佐瀬真粧美　島村敦子　松浦志野 鳥田美紀代　菅谷綾子　鈴木裕子
	【実習予定施設】	＜実習予定施設＞ ・津田沼訪問看護ステーション ・まちのナースステーション八千代 ・済生会ならしの訪問看護ステーション ・新習志野訪問看護ステーション ・おゆみの中央病院訪問看護ステーション ・訪問看護ステーションほのぼの ・船橋市リハビリセンター訪問看護ステーション ・セントケア訪問看護ステーション船橋 ・訪問看護ステーションあおい ・SOU訪問看護ステーション習志野 ・SOU訪問看護ステーション花見川 ・エブリー訪問看護ステーション	佐瀬真粧美　島村敦子　松浦志野 鳥田美紀代　菅谷綾子　鈴木裕子
	【授業方法】	・学内オリエンテーション（全員共通） ・訪問看護ステーション等での実習（各施設、学生1-2名） ・学内グループワーク（全員共通） ・グループワークの成果発表（全員共通） ・課題レポート（全員共通）	佐瀬真粧美　島村敦子　松浦志野 鳥田美紀代　菅谷綾子　鈴木裕子
	【予習・復習・キーワード】	【予習・復習・キーワード】 予習 キーワードを参考に、これまで学習してきた内容を教科書、授業資料などを用いて再度確認する。そのため、予習には1時間程度が必要になる。 復習 学内演習での学びを、その日のうちに記録にまとめる。そのため、最低1時間程度が必要になる。 キーワード 訪問看護制度、介護保険、医療保険、在宅看護技術、訪問看護過程、家族アセスメント、退院調整・退院支援、他職種連携、社会資源	佐瀬真粧美　島村敦子　松浦志野 鳥田美紀代　菅谷綾子　鈴木裕子

【６】　事前・事後学習とその時間

【準備学習】
実習では、限られた時間で、必要な情報を収集する必要があるため、訪問看護に関わる基礎的知識、実習目的を明確にするため、予習1時間程度、その日の学びをまとめ、振り返りを行うため復習1時間程度を必要とする。

【学習上の留意点】
実習先の訪問看護ステーションの一員として、療養者と家族を訪問することになる。そのため、実習中の服装・身だしなみ、挨拶、言葉遣いなど、看護学を学ぶ学生としての自覚を持ち行動する。また、学習活動上知り得た療養者と家族の情報、実習記録などの管理を行う必要がある。

【７】　評価方法・基準

提出された実習記録（事前学習課題含）に基づく目標の到達状況 60%、学習者としての態度、在宅看護の場における倫理的態度 20%、課題レポート内容 20%

【８】　フィードバック方法

学内実習最終日に、全体を講評する。

【９】　教科書

資料を学内オリエンテーション時に配布する。

【10】　参考書

・石垣和子、上野まり、徳田真由美、辻村真由子編集：看護学テキストNice：地域・在宅看護論Ⅰ・Ⅱ改訂第3版（南江堂、2024）
・社会保険研究所：介護保険・医療保険　訪問看護業務の手引き（毎年7月　最新刊発行）
・日本看護協会編：令和4年版　看護白書　訪問看護のさらなる推進（日本看護協会出版会、2022年）
・押川真喜子：新訂版　写真でわかる訪問看護アドバンス（株式会社インターメディカ、2020年）
・NPO法人HAICS研究会：オールカラー改訂2版訪問看護師のための在宅感染予防テキスト（メディカ出版、2020年）
・東京訪問看護ステーション協議会：見てできる臨床ケア図鑑　在宅看護ビジュアルナーシング（学研メディカル秀潤社、2017）
など、その他の参考書は、学内オリエンテーション時に提示する。

【11】　備考(関連科目等)

倫理学、看護入門実習Ⅱ、地域・在宅看護概論、老年看護学概論、コミュニティヘルス看護概論、地域・在宅看護方法論、老年看護学方法論、看護の基本技術10、看護の基本技術11、エンドオブライフケア

科目名(日本語)	**コミュニティヘルス看護実習**	必修・選択区分	授業形態	開講学期・学年	単位数
科目名(英語)	Community Health Nursing Practicum	必修	実験・実習	秋学期 3年	1単位 45時間
科目責任者	小板橋恵美子				
担当教員	小板橋恵美子・植村直子・池田絹代				
科目責任者 連絡先(教室)	小板橋：健康科学部棟3階研究室K315　emiko.koitabashi@hs.toho-u.ac.jp				
オフィスアワー	学内日の17時まで。臨地に出向いているときには随時メールや事前に周知された実習期間中の連絡体制、および緊急連絡先にて連絡することが可能です。 担当教員：小板橋（emiko.koitabashi@hs.toho-u.ac.jp・K315） 植村（naoko.uemura@hs.toho-u.ac.jp・K322） 池田（kinuyo.ikeda@hs.toho-u.ac.jp・K316）				

【１】　授業方法(ALの要素、ICTの活用等)

１－１．アクティブラーニングについて

実施する

１－２．アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素

ＰＢＬ（課題解決型学習）
ディスカッション、ディベート
グループワーク
プレゼンテーション
実習、フィールドワーク

２－１．双方向授業でのＩＣＴの活用について

活用する

２－２．ＩＣＴを活用する場合、その具体的名称（クリッカー、タブレット端末等）

タブレット、PC、Moodle

【２】　授業概要

地域住民を対象として（身体的・精神的・社会的）健康の向上や健康問題の発生予防・早期対応を目的に展開される支援活動の実際を体験し、基本的な知識・技術を学ぶ。
具体的には、地域で生活している人々の健康ニーズや生活の実情、および地域で住民を支える機関や制度に関する知識を深め、コミュニティおよび住民に対する看護職としての役割、様々な機関や従事する職員（職種を含む）の役割について考える。
（＊実践的教育として構成する授業科目）

【３】　到達目標

共通目標
1. コミュニティヘルス看護を支える機関およびその機能を述べることができる。
2. コミュニティヘルス看護を支える職種およびその役割を述べることができる。
3. 地域診断のためのアセスメント技術を身につけることができる
4. 地域における看護職に求められる姿勢や態度を身につけることができる。

以上の他、実習機関によりそれぞれ以下を設定します。
＊市町村
1）市町村における健康増進に向けた地域活動とその対象について説明できる。
2）地域活動のツールである健康診断、健康相談、家庭訪問、健康教育、組織化活動、ケアシステムの構築の実際とその特徴について説明できる。
＊地域包括支援センター
1）地域包括支援センターで展開されている介護予防に向けた地域活動とその対象について説明できる
2）地域包括ケアシステムの構築およびシステムにおける保健医療福祉活動について説明できる。

【４】　ディプロマ・ポリシーとの関連

到達目標を達成することにより、以下の能力を身につけることにつながります。

１．自然科学を看護活動の根拠とし、実践に活かす基礎的な力を有している。

２．看護学の専門知識と技術を修得している。

３．他者の多様な価値観を理解し、尊重することができる。

４．看護職の社会的責任を理解し、看護実践にまつわる倫理的課題を感受する力と熟考する力、それらに基づく判断を行動に表す力を身につけている。

５．看護専門職として、リーダーシップおよびフォロワーシップを発揮し、チームの中で有機的に活動する資質を身につけている。

６．自ら学ぼうとする好奇心をもち、生涯にわたり自己研鑽する姿勢を身につける。

【5】　授業計画

	項目	内容および授業方法 予習・復習・キーワード	担当教員
	実習オリエンテーション	目標を達成するための詳細な学修内容は、コミュニティヘルス看護実習要項に示す。 1）実習オリエンテーション 　実習概要を理解し、事前学習、現地実習に向け、学習計画を行う。	全員
	現地での実習	2）現地実習（4日間） （1）実習施設からの講話 実習施設の概況について実習指導者から講話をいただき、実習施設の組織、管轄地域の特性と健康課題、健康課題に応じた地域保健活動とそれらを担う人々について理解する。 （2）地域保健活動への参加 地域保健活動に参加し、地域保健活動の対象者に対する観察・コミュニケーションをとおし、地域保健活動の対象の特徴、共通する健康課題、対象の生活、解決しようとしている健康課題について理解する。また、地域保健活動の活動ツール（健康診断、健康相談、家庭訪問、健康教育、組織化活動、地域ケアシステムケア構築）の実際とその特徴について理解を深める。 （3）実習地域のアセスメント 事前学習で把握した実習市の地域概況、実習指導者からの講話、地域保健活動の参加等で得られた全ての情報から実習市の地域特性と健康課題について考えを深める。 （4）実習施設でのカンファレンス 現地実習で各自が学んだことを発表する。テーマは「コミュニティヘルス看護実習を通した学び」とする。学生同士で討議を行った上で、実習指導者と教員から指導・助言を受ける。	全員（ただし、実習施設ごとに担当教員を設定する）
	学内まとめ	3）学内カンファレンス 学生人数により、グループに分かれてカンファレンスを実施する。テーマは、「実習市の地域特性と健康課題に応じたコミュニティヘルス看護活動」とする。 現地実習での学びを振り返り、実習市の特性と健康課題についての情報共有・討議を行い、コミュニティヘルス看護の特徴と実際について理解を深める。	全員（実習施設担当教員）
	実習施設・方法および事前事後課題	＜実習施設＞ 県内市町の保健センター（一部：中核市保健所）、地域包括支援センター 【授業方法】 グループ毎に1週間の実習を行う。 保健センター・保健所で実施されている保健活動に参加する。 指導者を交えたカンファレンスを行う。 【事前事後課題・キーワード】 ＜事前課題＞ 既習科目で修得した知識を活用しながら実習をすすめるため、予習・復習に各1時間～1.5時間程度を要する。既習のコミュニティヘルス看護領域の科目、特に、公衆衛生看護学概論、看護の基本技術Ⅸについて復習する。 ＜事後課題＞ コミュニティヘルス看護実習を振り返り、コミュニティヘルスを支える看護について考察し、レポートにまとめる。 ＜キーワード＞ コミュニティヘルス、公衆衛生、保健所・保健センター、地域包括支援センター、地域保健活動、健康診断、健康相談、家庭訪問、健康教育、組織化活動、地域ケアシステム構築、地域特性、健康課題、介護予防、人権擁護	

【6】　事前・事後学習とその時間

学習上の留意点に関する詳細は実習要項に示すので確認してください。
準備学習：既習のコミュニティヘルス看護領域の科目の復習を求めます。特に、看護の基本技12で習得した地区診断、および公衆衛生看護学概論で学んだ行政体系や役割については、十分に復習して実習に臨んでください。予習に1時間程度、復習に1時間程度費やします。

【7】　評価方法・基準

実習内容（各実習目標の到達状況60%）、学習者としての態度（20%）、課題レポート（20%）

【8】　フィードバック方法

実習巡回、学内実習時に適宜コメントします。
実習記録・レポートは返却します。Moodleでの提出の場合はMoodle上でのコメントにかえることがあります。

【9】　教科書

公衆衛生看護学.,荒賀直子他編，インターメディカル,最新版
※２年次の公衆衛生看護学概論で用意した版で可。

【10】　参考書

特になし

【11】　備考(関連科目等)

コミュニティヘルス看護領域全般、保健医療福祉行政論、社会保障制度

科目名(日本語)	**看護研究入門**	必修・選択区分	授業形態	開講学期・学年	単位数
科目名(英語)	Introduction to Research in Nursing	必修	講義	春学期 3年	1単位 30時間
科目責任者	楠見　ひとみ				
担当教員	楠見ひとみ・髙橋良幸・瀧口千枝・島村敦子・原田慶子・原田奈美・鈴木俊美・中嶋秀明・林華子・畑中佳子				
科目責任者 連絡先(教室)	楠見ひとみ：hitomi.kusumi@hs.toho-u.ac.jp, 研究室329				
オフィスアワー	楠見K329,髙橋K312,瀧口K321,島村K313,原田慶子K330,原田奈美K324,鈴木俊美K324,中嶋K323,林華子K327,畑中K318 授業終了後1時間程度　火・木曜日：18時00分～18時50分　担当教員の研究室，なおメールあるいはMoodleのメッセージからの問い合わせにも応じる。なお担当教員のメールアドレスについては講義内に提示提示する。				

【１】　授業方法(ALの要素、ICTの活用等)

１－１．アクティブラーニングについて

実施する

１－２．アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素

ディスカッション、ディベート
プレゼンテーション

２－１．双方向授業でのＩＣＴの活用について

活用する

２－２．ＩＣＴを活用する場合、その具体的名称（クリッカー、タブレット端末等）

Moodle

【２】　授業概要

看護学の発展と看護の質向上を目指して、看護研究の原理と方法について基礎知識を学ぶ。さらに、文献検索方法、看護研究論文のクリティークの方法を学ぶ。また、研究計画の作成方法、人を対象とした研究の倫理的配慮についても学ぶ。看護研究入門は、専門基礎科目「研究方法の基礎」での学習を看護学に発展させるものであり、専門科目「看護研究」の演習につながる科目である。

【３】　到達目標

1.文献検索方法がわかる
2.看護研究を行う目的と意義について説明できる
3.研究疑問を明確にする方法について説明できる
4.研究疑問に応じた研究デザインと研究方法について説明できる
5.研究論文をクリティークすることができる
6.研究論文についてクリティークしたことを発表できる
7.研究計画書作成のための項目を述べることができる
8.人を対象とした看護研究に必要な倫理的配慮の項目を述べることができる

【４】　ディプロマ・ポリシーとの関連

到達目標を達成することにより、以下の能力を身につけることにつながります。

１．自然科学を看護活動の根拠とし、実践に活かす基礎的な力を有している。

２．看護学の専門知識と技術を修得している。

４．看護職の社会的責任を理解し、看護実践にまつわる倫理的課題を感受する力と熟考する力、それらに基づく判断を行動に表す力を身につけている。

６．自ら学ぼうとする好奇心をもち、生涯にわたり自己研鑽する姿勢を身につける。

【5】　授業計画

	項目	内容および授業方法 予習・復習・キーワード	担当教員
1・2	文献検索方法	内容 １．文献検索方法 方法：演習 予習：これまでの文献検索体験において疑問点などをピックアップする. 復習：文献検索演習の課題ワークシートに取り組む．文献を検索してみる. キーワード：文献検索，検索データベース，キーワード設定，論文の種類，シソーラス，文献入手	楠見ひとみ／習志野メディアセンター
3・4	看護研究の概説(1)	内容 1．看護における研究の目的と意義 2．看護研究のプロセス 3．研究疑問（研究目的）の明確化 4．研究疑問に応じた研究デザイン 方法：講義 予習：看護研究とはどのようなものか，参考文献に目を通す. 復習：自己の講義・演習・実習などの体験を基に研究疑問を考え記述しておく．講義後のリフレクション課題に取り組む. キーワード：研究の本質，看護研究の意義，研究の目的，看護研究の役割，エビデンス，研究の原理、研究疑問、研究デザイン、質的記述研究デザイン、量的記述研究デザイン、仮説検証型研究デザイン、因果関係検証型研究デザイン	楠見ひとみ
5・6・7	看護研究の概説(2)	内容 1．研究疑問に応じた研究デザイン：質的研究 方法：講義 予習：研究デザインに応じた研究方法：質的研究について参考書に目を通す. 復習：質的研究の特徴ついて整理し記述する．講義後のリフレクション課題に取り組む. キーワード：研究疑問、質的記述研究デザイン，質的研究、用語の操作的定義，研究対象者，データ収集内容・方法，質的帰納的分析方法	髙橋良幸
8・9・10	看護研究の概説(3)	内容 1．研究デザインに応じた研究方法：量的研究 方法：講義 予習：研究デザイン：量的研究について参考書に目を通す 復習：量的研究の特徴ついて整理し記述する、講義後のリフレクション課題に取り組む キーワード：研究疑問、因子探索研究、関係探索研究、関連検証研究、因果仮説研究、仮説、研究枠組み、量的研究､研究対象者、データ収集内容・方法、分析方法	瀧口千枝
11・12	看護研究の研究計画書の作成方法	内容 1．研究計画書とは 2．研究計画書の構成要素 3．研究計画書の作成手順 方法：講義 予習：研究計画書の作成に関連する内容についてこれまでの授業資料に目を通す 復習：授業内容を整理し、研究計画書に記載すべき内容について整理する。課題ワークシートに取り組む キーワード：研究計画、研究動機、学術的背景、研究疑問、研究テーマ、研究目的、研究方法、倫理的配慮、研究体制、時間、予算、人を対象とした研究における倫理的配慮，説明と同意，任意性の保証、研究における不利益並びに危険への配慮，個人の人権の養護，科学的妥当性、健康科学上の貢献並びに社会への貢献	楠見ひとみ
13	人を対象とした研究の倫理的配慮	内容 1．人を対象とした研究における倫理的配慮とは 2．人を対象とした看護研究における倫理的配慮の具体的内容 方法：講義 予習：人を対象とした研究の倫理的配慮について参考書に目を通しておく 復習：人を対象とした研究の倫理的配慮について重要な点を整理する。課題ワークシートに取り組む キーワード：ヘルシンキ宣言、看護研究のための倫理指針、ヒトを対象とした理学系研究に関する倫理指針、研究倫理の原則、不利益並びに危険性への配慮、インフォームド・コンセント、人権の擁護、データの取り扱い、倫理審査	楠見ひとみ
14	論文のクリティーク方法(1)	内容 1．論文の種類 2．論文のクリティークとは 方法：講義 予習：クリティークとはどのようなことか、参考文献に目を通す。 復習：リフレクション課題に取り組む。 キーワード：批判的思考、研究の正しい方法、客観性、妥当性、一貫性、整合性、汎用性、一般化、論文の種類	楠見ひとみ

15・16・17	論文のクリティーク方法(2)	内容 1. 論文のクリティーク演習：量的研究 2. 量的研究：論文のクリティーク解説 方法：個人ワーク（課題ワークシート）・演習（解説） 予習：提示された量的研究論文に目を通しておく 復習：解説を聞きクリティークの追加修正を行う。自己評価を行い課題の明確化に取り組む。 キーワード：研究論文、量的研究、クリティークの視点	楠見ひとみ
18・19・20	論文のクリティーク方法(3)	内容 1. 論文のクリティーク演習：質的研究 2. 質的研究：論文のクリティーク解説 方法：個人ワーク（課題ワークシート）・演習（解説） 予習：提示された質的研究論文に目を通しておく 復習：解説を聞きクリティークの追加修正を行う。自己評価を行い課題の明確化に取り組む。 キーワード：研究論文、質的研究、クリティークの視点	楠見ひとみ
21	論文のクリティーク演習(1)	内容 1. クリティークGW課題論文：質的研究論文の提示 2. 個人ワーク ・論文整理表を整理する ・クリティークワークシートを整理する 方法：個人ワーク 予習：提示された質的研究論文の整理・クリティークのワークを行う（課題ワークシート使用） 復習：グループディスカッションできるよう論文の整理表およびクリティークワークシートを仕上げる キーワード：研究論文、クリティークの視点、量的研究、プレゼンテーション	髙橋良幸
22・23	論文のクリティーク演習(2)	内容 1. 質的研究論文のクリティークについて発表 2. 論文内容の理解を深めるための討議 3. 質的研究論文のクリティークにおける課題の明確化 方法：プレゼンテーション、グループディスカッション 予習：提示された質的研究論文の整理・クリティークのワークを行う（課題ワークシート使用） 復習：グループディスカッションによりクリティークの追加修正を行う。自己評価を行い課題の明確化に取り組む。 キーワード：研究論文、クリティークの視点、質的研究、プレゼンテーション	担当者全員
24	論文のクリティーク演習(3)	内容 1. クリティークGW課題論文：量的研究論文の提示 2. 個人ワーク ・論文整理表を整理する ・クリティークワークシートを整理する 方法：個人ワーク 予習：提示された量的研究論文の整理・クリティークのワークを行う（課題ワークシート使用） 復習：グループディスカッションできるよう論文の整理表およびクリティークワークシートを仕上げる キーワード：研究論文、クリティークの視点、量的研究、プレゼンテーション	瀧口千枝
25・26	論文のクリティーク演習(4)	内容 1. 量的研究論文のクリティークについて発表 2. 論文内容の理解を深めるための討議 3. 量的研究論文のクリティークにおける課題の明確化 方法：プレゼンテーション、グループディスカッション 予習：提示された質的研究論文の整理・クリティークのワークを行う（課題ワークシート使用） 復習：グループディスカッションによりクリティークの追加修正を行う。自己評価を行い課題の明確化に取り組む。 キーワード：研究論文、クリティークの視点、質的研究、プレゼンテーション	担当者全員
27	看護研究入門のまとめ	内容 １．看護研究の進め方のまとめ ２．4年次看護研究の準備 方法：講義 予習：これまでの看護研究入門の授業内容を振り返っておく 復習：4年次の看護研究に向けた準備について自己の取り組みを整理して記載する。課題ワークシートに取り組む キーワード：看護研究	楠見ひとみ

【６】　事前・事後学習とその時間

【準備学習】

講義の前に関連個所を読んでおく。復習として、これまでの講義・演習・実習を基に自らの研究疑問について、どういう状況に対するどのような疑問であるかを記述し、関連する文献を検索し、疑問に関連した文献検討を行うなど4年次の看護研究の準備を開始する。

授業は看護研究の基盤となる知識と手法を習得し科学的な探究力を向上させることをねらっているため、関連内容について予習に1時間程度、復習に1.5時間程度必要である。

【学習上の留意点】

看護研究に取り組むために必要な授業内容である。参考文献の中から活用しやすい書籍を選択し、購入することを勧める。

理解を深めたい点において、文献を検索し主体的に取り組むこと。また、わからない点や困難だった内容については積極的に質問すること。

【７】　評価方法・基準

講義後のリフレクション課題25%、課題ワークシート65%，ワーク取り組みの自己評価10%

【８】　フィードバック方法

課題ワークシートを返却し、返却時に講評する。グループディスカッションの結果に対して講評をする．授業最終日に全体講評する。

【９】　教科書

授業時に資料を配布する。

【10】　参考書

・黒田裕子著：黒田裕子の看護研究　step by step　第6版，医学書院，2023.
・南裕子・野嶋佐由美編：看護における研究　第2版，日本看護協会出版会，2017.
・横山美恵編：よくわかる看護研究の進め方、まとめ方　第3版，医歯薬出版株式会社，2017.
・早川和生編著：JJNスペシャル　看護研究の進め方、論文の書き方　第2版，医学書院，2012.
・石井京子・多尾清子：ナースのための質問紙調査とデータ分析　第2版，医学書院，2016.
・田久浩志著：統計解析なんかこわくない　データ整理から学会発表まで　第2版，医学書院，2019.
・山川みやえ・牧本清子：よくわかる看護研究論文のクリティーク　第２版，日本看護協会出版会，2020.

【11】　備考(関連科目等)

看護研究

科目名(日本語)	**公衆衛生看護学の技術**	必修・選択区分	授業形態	開講学期・学年	単位数
科目名(英語)	Public Health Nursing Skills	選択	演習	春学期 3年	2単位 60時間
科目責任者	植村直子				
担当教員	植村直子・小板橋恵美子・池田絹代				
科目責任者 連絡先(教室)	植村の研究室（K322）への訪室、もしくはEメール（naoko.uemura@hs.toho-u.ac.jp）で連絡を取ることができる。Moodle上のメッセージ機能で担当教員（植村、小板橋、池田）に適宜連絡を取ることができる。				
オフィスアワー	原則水曜日の12:00～13:00をオフィスアワーとするが、長時間にわたる質問や相談は事前にアポイントをとり、日時を指定した上で対応することができる。担当者：植村:K322（naoko.uemura@hs.toho-u.ac.jp）、小板橋：K315（emiko.koitabashi@hs.toho-u.ac.jp）、池田：K316（kinuyo.ikeda@hs.toho-u.ac.jp）				

【１】　授業方法(ALの要素、ICTの活用等)

１－１．アクティブラーニングについて

実施する

１－２．アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素

ディスカッション、ディベート
グループワーク
プレゼンテーション

２－１．双方向授業でのＩＣＴの活用について

活用する

２－２．ＩＣＴを活用する場合、その具体的名称（クリッカー、タブレット端末等）

タブレット、PC、Moodle

【２】　授業概要

地域で生活する個人・家族・集団が主体的に健康の維持・増進に取り組むことを支援する保健師の支援の方法論として、家庭訪問、健康相談、保健指導、健康診査、健康教育、グループ支援について学習する。また、地域看護過程として地域診断、地域保健活動のプロセスを学習し、地域における健康課題の組織的な解決方法としての地区活動、地域組織活動、地域ケアシステムづくりについて理解を深める。

【３】　到達目標

1. 地域で生活する個人、家族、集団を対象とした支援の方法論について説明できる。
2. 家庭訪問の目的と特性を理解し、計画、実施、評価、次回の支援計画の一連の過程を教員の指導の下で実践できる。
3. 健康診査、健康相談の目的と特性を理解し、計画、実施、評価、次回の支援計画の一連の過程を教員の指導の下で実践できる。
4. 地域におけるグループ支援・地域組織活動の目的と特性を理解し、健康状態の維持・増進への機能を説明することができる。
5. 多職種連携による個人・家族・グループの支援を基盤とした地区活動、地域組織活動、地域ケアシステムづくりを説明することができる。
6. 地域診断、地域保健活動の演習を含む一連の地域看護過程に取り組むことができる。

【４】　ディプロマ・ポリシーとの関連

到達目標を達成することにより、以下の能力を身につけることにつながります。

１．自然科学を看護活動の根拠とし、実践に活かす基礎的な力を有している。

２．看護学の専門知識と技術を修得している。

３．他者の多様な価値観を理解し、尊重することができる。

４．看護職の社会的責任を理解し、看護実践にまつわる倫理的課題を感受する力と熟考する力、それらに基づく判断を行動に表す力を身につけている。

５．看護専門職として、リーダーシップおよびフォロワーシップを発揮し、チームの中で有機的に活動する資質を身につけている。

６．自ら学ぼうとする好奇心をもち、生涯にわたり自己研鑽する姿勢を身につける。

【5】　授業計画

	項目	内容および授業方法 予習・復習・キーワード	担当教員
1.2	保健師の支援の対象と支援方法	内容： 1)家庭訪問・健康相談・健康診査・健康教育・グループ支援・地区組織活動 2)個別支援から地域の支援への展開方法 3)保健師の支援のあり方と特徴 授業方法：講義、グループワークによる演習 予習：公衆衛生看護学概論、公衆衛生看護活動論で学習した内容を振り返っておく。 復習：複数の方法を組み合わせて支援に取り組む保健師の支援のあり方と特徴を記述する。 キーワード：家庭訪問、健康相談、健康教育、健康診査、グループ支援、地域組織活動、アウトリーチ	全員 (植村直子)
3.4	家庭訪問演習①	内容： 1)家庭訪問の目的と特徴 2)母子保健における家庭訪問の位置づけ 3)新生児訪問対象者の把握と健康課題を予測した支援計画立案 授業方法：講義、グループワークによる演習 予習：家庭訪問について教科書を読んでおく。新生児訪問の法的根拠、健やか親子21、新生児の発育・発達、家族の発達段階・発達課題について教科書等で確認しておく。 復習：新生児訪問対象者の把握から支援計画立案のプロセスを振り返り、大事な視点を記述する。 キーワード：新生児訪問、妊娠期からの切れ目ない支援、メンタルヘルス、ポピュレーションアプローチ、ハイリスクアプローチ	全員 (植村直子)
5.6	家庭訪問演習②	内容： 1)地域特性を踏まえた家庭訪問準備 2)家庭訪問による支援の実施（児と家族の健康状態の把握、育児・生活環境の把握） 3)家庭訪問における保健師の態度の考察 授業方法：講義、グループワークによる演習 予習： 母子保健分野の社会資源にはどのようなものがあるか教科書等で調べておく。 復習：地域特性を踏まえた家庭訪問準備の必要性について記述する。 キーワード：生活・環境・家族・社会的背景の把握、社会資源、フォーマルサービス、インフォーマルサービス	全員 (植村直子)
7.8	家庭訪問演習③	内容： 1)家庭訪問による支援の実施（児の発育・発達の確認） 2)家族のニーズに応じた支援内容の判断と提供 3)家庭訪問で保健師に求められる知識・技術の考察 授業方法：講義、グループワークによる演習 予習：新生児の計測方法の手技を確認しておく。 復習：家庭訪問でのケアを振り返り、対象者の健康状態、生活環境を踏まえた支援のあり方を考察する キーワード：信頼関係・支援関係の構築、情報収集、アセスメント、ニーズに基づく支援、自己決定の支援	全員 (植村直子)
9.10	家庭訪問演習④	内容： 1)家庭訪問の評価と次回の支援計画立案 2)家庭訪問と他の支援方法を組み合わせた保健師の支援の特徴についての考察 3)家庭訪問と他の支援方法を組み合わせた保健師の支援の方法論のまとめ 授業方法：講義・グループワークによる演習 予習：家庭訪問後のフォローアップ、健康相談、健康診査、健康教育、グループ支援、地域組織活動での支援の継続について、公衆衛生看護活動論で学習した内容を振り返っておく。 復習：家庭訪問訪問で必要とされる知識・技術・態度についてまとめる。 キーワード：健康レベル・健康状態に応じた支援、顕在的・潜在的課題の明確化と予測、共通の課題をもつ小集団への支援、関係者・機関との連携・協働、地域ケアシステムの構築	全員 (植村直子)
11.12	家庭訪問演習⑤	内容： 1)家庭訪問技術・態度の達成度確認 2)家庭訪問支援技術の知識の確認 3)実習に向けた課題の明確化 授業方法：課題・ミニテスト 予習：新生児訪問における知識・技術・態度について第1-12回の学習内容を振り返っておく。 復習：家庭訪問演習の一連の過程を振り返り、実習に向けた自己の学習課題を記述する。 キーワード：公的責任、個人、家族、小集団、地域の間の相互作用への働きかけ	全員 (植村直子)

13.14	健康診査・健康相談演習①	内容： 1) 母子保健分野における健康診査・健康相談の位置づけ 2) 乳幼児健康診査の実施 3) 乳幼児健康診査後の継続支援 授業方法：講義、グループワークによる演習 予習：乳幼児健康診査の法的根拠、実施体制、乳幼児の成長発達について教科書等で等で調べておく。 復習：1歳６か月児健康診査における保健師の観察項目、事後フォローについて考察する キーワード：乳幼児の成長・発達の評価、スクリーニング、課題の早期発見とフォローアップ、基本的生活習慣の確立と保健指導、虐待防止と早期発見、未受診者の把握とフォローアップ	全員 (植村直子)
15.16	健康診査・健康相談演習②	内容： 1)乳幼児健康診査の事後フォロー 2)健康診査・健康相談と他の支援方法を組み合わせた保健師の支援の特徴についての考察 3)健康診査・健康相談と他の支援方法を組み合わせた保健師の支援の方法論のまとめ 授業方法：講義、グループワークによる演習 予習：乳幼児健康診査、健康相談後のフォローアップ、健康診査、健康教育、グループ支援、地域組織活動での支援の継続について、教科書等で調べておく。 復習：健康診査・健康相談で必要とされる知識・技術・態度についてまとめる。 キーワード：要支援・要精査者の把握とフォローアップ、共通の課題を持つ小集団への支援、関係者・機関との連携、地域ケアシステムの構築	全員 (植村直子)
17.18	多職種連携による難病支援演習①	内容： 1)難病療養者の健康課題の検討 2)難病事例の個別支援方法の検討 3)難病療養者支援カンファレンスの準備 授業方法：課題・グループワーク 予習：難病患者の地域での支援について、法的根拠、地域での支援に取り組む機関や職種についてを教科書等で調べておく。 復習：多職種連携による支援演習を振り返り、保健師の支援のあり方、専門性について考察する。 キーワード：難病対策、疾患の特徴に応じた支援、多職種・多機関連携	全員 (小板橋恵美子)
19.20	多職種連携による難病支援演習②	内容： 1)多職種連携による難病療養者の支援方法の検討 2)難病事例の個別支援から地域への支援の展開 3)多職種連携による難病事例支援演習の一連の過程を振り返り、実習に向けた自己の学習課題を考察する。 授業方法：課題・グループワーク 予習：難病患者の地域での支援について、法的根拠、地域での支援に取り組む機関や職種についてを教科書等で調べておく。 復習：多職種連携による支援演習を振り返り、保健師の支援のあり方、専門性について考察する。 キーワード：多職種・多機関連携、医療機関、地域ケアシステムの構築、公的責任、個人、家族、小集団、地域の間の相互作用への働きかけ	全員 (小板橋恵美子)
21.22	グループ支援・地域組織織活動支援演習①	内容： 1)グループワークとファシリテーションスキル 2)地区組織活動の実際 3)地区組織活動の開始、存続に必要な要素の検討 授業方法：講義、グループワークによる演習 予習：地域で活動するグループを自治体の広報誌等で探しておく。 復習：地区組織活動の開始、存続に必要な要素を考察する。 キーワード：グループ支援・地域組織活動、組織化、役割、地域ケアシステム、コミュニティ、エンパワーメント、グループダイナミクス、セルフヘルプグループ	全員 (池田絹代)
23.24	グループ支援・地域組織活動支援演習②	内容： 1) 組織化、組織活動支援の実際と保健師の役割 2) 地域ケアシステムづくりにおける保健師の役割 3) グループ支援・地域組織活動のまとめ 授業方法：講義、グループワークによる演習 予習：地区組織活動にかかわる保健師の役割について考察する。 復習：地域におけるグループ活動の目的と特性を理解し、健康状態の維持・増進への機能を説明する。 キーワード：地区組織活動、組織化、地域ケアシステム、コミュニティ、エンパワーメント、グループダイナミクス、セルフヘルプグループ	全員 (池田絹代)
25.26	健康診査・健康相談③	内容： 1)健康診査・健康相談の目的と特徴 2)成人保健における健康診査・健康相談の位置づけ 3)特定保健指導の初回支援計画立案と実施 授業方法：講義、グループワークによる演習 予習：健康日本21、特定健康診査の法的根拠、検査項目、特定保健指導内容と特徴について教科書等で調べておく。 復習：特定保健指導の実施内容を振り返り、行動変容に向けた保健指導について考察する。 キーワード：生活習慣病予防、特定健康診査、特定保健指導、メタボリックシンドローム、行動変容段階、セルフケア行動、動機付け、健康問題・課題への気づき、自己決定の支援	全員 (植村直子)

27	健康診査・健康相談演習④	内容： 1)特定保健指導の継続支援の実施 2)特定保健指導の評価 3)健康診査と健康相談、他の支援法を組み合わた保健師の支援の方法論のまとめ 授業方法：講義、グループワークによる演習 予習：特定健康診査・特定保健指導の事業評価について教科書等で調べておく。 復習：特定健康診査・特定保健指導の評価指標を、プロセス、影響、成果に分けてまとめる。 キーワード：生活習慣病重症化予防、インプット評価、アウトプット評価、ストラクチャー評価、プロセス評価、アウトカム評価	全員 (植村直子)
28-30	地域看護過程：地域診断①	内容： 1)コミュニティ アズ パートナーモデルに基づく地域のコアのフレーム作成 2)地域のコア（歴史・人口統計・民族性・価値観と信念）の情報収集と整理 3)地域のコア（歴史・人口統計・民族性・価値観と信念）のアセスメント 授業方法：講義、グループワークによる演習 予習：公衆衛生看護学概論、看護の基本技術12の地域診断について復習しておくこと。 復習：コミュニティ アズ パートナーモデルの地域のコアについて考察する。 キーワード：地域看護過程、地域診断、コミュニティアズパートナーモデル、地域のコア	全員 (植村直子)
31-33	地域看護過程：地域診断②	内容： 1)コミュニティアズパートナーモデルに基づく地域のサブシステムⅠのフレーム作成 2)サブシステム（物理的環境・保健医療と社会福祉）の情報収集と整理 3)サブシステム（物理的環境・保健医療と社会福祉）のアセスメント 授業方法：講義、グループワークによる演習 予習：公衆衛生看護学概論、看護の基本技術12の地域診断について復習しておくこと。 復習：コミュニティ アズ パートナーモデルの地域のサブシステム（物理的環境・保健医療と社会福祉）について考察する。 キーワード：コミュニティアズパートナーモデル、サブシステム、物理的環境、保健医療と社会福祉	全員 (植村直子)
34-36	地域看護過程：地域診断③	内容： 1)コミュニティアズパートナーモデルに基づく地域のサブシステムⅡのフレーム作成 2)サブシステム（経済・安全と交通・政治と行政）の情報収集と整理 3)サブシステム（経済・安全と交通・政治と行政）のアセスメント 授業方法：講義、グループワークによる演習 予習：公衆衛生看護学概論、看護の基本技術12の地域診断について復習しておくこと。 復習：コミュニティ アズ パートナーモデルの地域のサブシステム（経済・安全と交通・政治と行政）について考察する。 キーワード：コミュニティアズパートナーモデル、サブシステム、経済、安全と交通、政治と行政	全員 (池田絹代)
37.38	地域看護過程：地域診断④	内容： 1)コミュニティアズパートナーモデルに基づく地域のサブシステムⅢのフレーム作成 2)サブシステム（情報・教育・レクリエーション）の情報収集と整理 3)サブシステム（情報・教育・レクリエーション）のアセスメント 授業方法：講義、グループワークによる演習 予習：公衆衛生看護学概論、看護の基本技術12の地域診断について復習しておくこと。 復習：コミュニティ アズ パートナーモデルの地域のサブシステム（情報・教育・レクリエーション）について考察する。 キーワード：コミュニティアズパートナーモデル、サブシステム、経済、安全と交通、政治と行政	全員 (池田絹代)
39-41	地域看護過程：地域診断⑤	内容： 1)地域のコアとサブシステムのアセスメントの統合による地域の強みの分析 2)地域のコアとサブシステムのアセスメントの統合による地域の健康課題の分析 3)地域の強みと健康課題の分析を踏まえた地域の看護診断 授業方法：講義、グループワークによる演習 予習：公衆衛生看護学概論、看護の基本技術12の地域診断について復習しておくこと。 復習：地域の強みと健康課題の分析による看護診断について、取り組む優先順位を考察する。 キーワード：コミュニティアズパートナーモデル、地域の強み、健康課題、地域診断	全員 (小板橋恵美子)

42.43	地域看護過程：地域保健活動①	内容： 1)地域の看護診断の優先順位と地域保健活動計画の検討 2)地域保健活動計画（健康課題・背景・目標・支援対象者）の作成 3)地域保健活動計画（支援方法・評価方法）の作成 授業方法：講義、グループワークによる演習 予習：公衆衛生看護学概論、看護の基本技術12の健康教育について復習しておくこと。 復習：地域保健活動計画の内容について、住民の視点に立ち考察する。 キーワード：コミュニティアズパートナーモデル、健康課題、優先順位、支援方法、評価方法	全員 （小板橋恵美子）
44-46	地域看護過程：地域保健活動②	内容： 1)地域保健活動実施計画（支援方法に応じた支援の実施計画）の作成 2)地域保健活動実施計画（支援の実施計画に応じた媒体）の作成 3)地域保健活動実施計画（評価方法に応じた評価指標）の作成 授業方法：講義、グループワークによる演習 予習：公衆衛生看護学概論、看護の基本技術12の健康教育について復習しておくこと。 復習：地域保健活動実施計画、媒体、評価指標について、住民の視点に立ち考察する。 キーワード：コミュニティアズパートナーモデル、地域保健活動実施計画、媒体、評価指標	全員 （植村直子）
47-49	地域看護過程：地域保健活動③	内容： 1)地域保健活動の実施 2)地域保健活動実施の意見交換 3)地域保健活動実施の評価 授業方法：講義、グループワークによる演習 予習：公衆衛生看護学概論、看護の基本技術12の健康教育について復習しておくこと。 復習：地域保健活動実施の意見交換、評価を踏まえ、住民の視点に立った内容であったか考察する。 キーワード：コミュニティアズパートナーモデル、地域保健活動実施、意見交換、評価	全員 （池田絹代）
50-52	地域看護過程：地域保健活動④	内容： 1)地域診断と地域保健活動のプロセスの評価 2)公衆衛生看護学実習Ⅰに向けた地域保健活動の実用性の評価 3)地域看護過程における学びの共有 授業方法：講義、グループワークによる演習 予習：公衆衛生看護学概論、看護の基本技術12の健康教育について復習しておくこと。 復習：地域診断、地域保健活動の一連の地域看護過程のプロセスの振り返り、学びの共有を踏まえ、公衆衛生看護学実習Ⅰに向けて、準備をする。 キーワード：コミュニティアズパートナーモデル、地域看護過程、プロセス評価	全員 （植村直子）
53.54	地域看護過程：まとめ	内容： 1)地域看護過程を通した学びの言語化 2)公衆衛生看護学実習Ⅰに向けた自身の課題の言語化 3)公衆衛生看護学の技術の特徴の言語化 授業方法：講義、グループワークによる演習 予習：公衆衛生看護学概論、看護の基本技術12の健康教育について復習しておくこと。 復習：地域診断、地域保健活動の一連の地域看護過程のプロセスの振り返り、学びの共有を踏まえ、公衆衛生看護学実習Ⅰに向けて、準備をする。 キーワード：地域看護過程、公衆衛生看護学の技術の特徴、自身の課題の言語化	全員 （植村直子）

【6】　事前・事後学習とその時間

〈学習上の留意点〉
本演習は原則対面により実施する。適宜、Moodle、Webベースのグループワークを実施する。そのため、演習、グループワークへの積極的な参加が求められる。非協力的な態度を示す学生には当演習および関連する実習への参加を許可しない場合がある。
〈予習・復習〉
この講義では予習、復習にそれぞれ1時間程度を要する。
予習：事前に資料を配布する。授業参加までに資料を熟読し、必要な事項に対する自己学習が求められる。
復習：演習内容の理解と実践を確かなものにするため、FT時間を活用した技術実践の復習が求められる。

【7】　評価方法・基準

支援技術課題55%、地域看護過程課題35%、最終レポート：10%

【8】　フィードバック方法

支援技術、ミニテストでは教員からの口頭での講評に加え、ピアフィードバックとして学生間での講評を行う。予習、復習の内容に関して必要な場合には講義中に教員から講評する。

【9】　教科書

公衆衛生看護学.jp　荒賀直子他編，インターメディカル（2年次に購入した版）

【10】　参考書

講義内で提示する。

【11】　備考(関連科目等)

コミュニティヘルス、公衆衛生看護に関する講義全般
演習の進捗状況に応じて、演習内容、担当教員を入れ替えることがあります。授業内、Moodleのアナウンス機能を使って周知します。

科目名(日本語)	**公衆衛生看護学活動論**	必修・選択区分	授業形態	開講学期・学年	単位数
科目名(英語)	Public Health Nursing Process	選択	講義	春学期 3年	2単位 30時間
科目責任者	植村直子				
担当教員	植村直子・小板橋恵美子・池田絹代				
科目責任者 連絡先(教室)	植村直子：健康科学部棟3階研究室K322　naoko.uemura@hs.toho-u.ac.jp				
オフィスアワー	授業開講日の13時00分～13時50分。質問等は講義内容に該当する教員の研究室を訪ねてください。 また、メールでも質問、相談を受け付けます。 担当者：植村:K322（naoko.uemura@hs.toho-u.ac.jp）、小板橋：K315（emiko.koitabashi@hs.toho-u.ac.jp）、池田：K312（kinuyo.ikeda@hs.toh0-u.ac.jp）				

【1】　授業方法(ALの要素、ICTの活用等)

1－1．アクティブラーニングについて

実施する

1－2．アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素

ディスカッション、ディベート
グループワーク
プレゼンテーション

2－1．双方向授業でのＩＣＴの活用について

活用する

2－2．ＩＣＴを活用する場合、その具体的名称（クリッカー、タブレット端末等）

タブレット、PC、Moodle

【2】　授業概要

地域で生活する人々のライフステージの特性を踏まえた保健活動、地域で生活する障がい者等を支援する活動方法について、それぞれを対象とした法的根拠に基づく健康支援体制、対象特性を踏まえた保健活動、関係機関・関係職種、住民組織との協働で展開される保健活動の方法とその意義、保健師の役割について学ぶ。
（植村直子／13回）母子保健活動、成人保健活動、災害時の保健師活動、グローバルヘルスと保健師活動
（小板橋恵美子／8回）高齢者保健活動、感染症保健活動、精神保健活動、難病・障害者への支援活動、地域ケアシステム構築
（池田絹代/6回）

【3】　到達目標

1.公衆衛生看護活動における法的根拠と健康支援体制について説明できる。
2.母子保健活動における対象の特徴と保健活動の概要について説明できる。
3.成人保健活動における対象の特徴と保健活動の概要について説明できる。
4.高齢者保健福祉活動における対象の特徴と保健福祉活動の概要について説明できる。
5.精神保健活動における対象の特徴と保健活動の概要について説明できる。
6.感染症保健活動における対象の特徴と保健活動の概要について説明できる。
7.難病・障害者保健活動における対象の特徴と保健活動の概要について説明できる。
8.住民組織との協働で展開させる保健活動について説明できる。
9.地域ケアシステム構築の方法と保健師の役割について説明できる。

【4】　ディプロマ・ポリシーとの関連

到達目標を達成することにより、以下の能力を身につけることにつながります。

1．自然科学を看護活動の根拠とし、実践に活かす基礎的な力を有している。

2．看護学の専門知識と技術を修得している。

3．他者の多様な価値観を理解し、尊重することができる。

4．看護職の社会的責任を理解し、看護実践にまつわる倫理的課題を感受する力と熟考する力、それらに基づく判断を行動に表す力を身につけている。

5．看護専門職として、リーダーシップおよびフォロワーシップを発揮し、チームの中で有機的に活動する資質を身につけている。

6．自ら学ぼうとする好奇心をもち、生涯にわたり自己研鑽する姿勢を身につける。

【5】　授業計画

	項目	内容および授業方法 予習・復習・キーワード	担当教員
1.2	法的根拠に基づく健康支援体制①母子保健、成人高齢者保健に関する事項	内容：地域における健康支援体制（1） 授業方法：講義 予習：キーワードについて教科書で学習する。 復習：ミニッツペーパーの提出 キーワード：地域保健法、健康日本21、健康増進法、がん対策基本法、自殺対策基本法、母子保健法、児童福祉法、児童虐待防止法、母子保健計画、健やか親子21、ゴールドプラン21、高齢者の医療の確保に関する法律	植村直子
3.4	母子保健活動	内容：ポピュレーションアプローチ、ハイリスクアプローチによる母子への支援 授業方法：講義 予習：キーワードについて教科書で学習する。自治体のホームページからどのような母子保健活動が展開されているのか情報を得る。 復習：ミニッツペーパーの提出 キーワード：母子保健、乳幼児の発育・発達、子育て、乳幼児健康診査、早期発見、保健指導、ポピュレーションアプローチ、児童虐待、ドメスティック・バイオレンス、ハイリスクアプローチ、地域づくり	植村直子
5.6	成人保健活動	内容：生活習慣病予防・重症化予防・がん対策に関する支援 授業方法：講義 予習：キーワードについて教科書で学習する。自治体のホームページからどのような成人保健活動が展開されているのか情報を得る。 復習：ミニッツペーパーの提出 キーワード：成人保健、生活習慣病予防、特定健康診査・特定保健指導、がん対策、健康づくり、サポートシステム	植村直子
7.8	高齢者保健活動①	内容：介護予防を中心とした高齢者への支援 授業方法：講義 予習：キーワードについて教科書で学習する。 復習：ミニッツペーパーの提出 キーワード：高齢者保健、健康寿命、保健指導、介護保険法、地域支援事業、地域包括支援センター、サポートシステム、地域づくり、歯科保健	小板橋恵美子
9.10	高齢者保健活動②	内容：要支援・要介護高齢者を中心とした支援 授業方法：講義 予習：自治体のホームページからどのような高齢者保健活動が展開されているのか情報を得る。 復習：ミニッツペーパーの提出 キーワード：介護予防、要支援・要介護高齢者、認知症、ターミナルケア、高齢者虐待、セルフネグレクト、地域支援事業、地域包括支援センター	小板橋　恵美子
11.12	公衆衛生看護活動の実際・母子保健、成人・高齢者保健活動のまとめ	内容：個別支援の実際と地域づくりの実際 授業方法：講義 予習：キーワードについて教科書で学習する。 復習：ミニッツペーパーの提出 キーワード：個別支援、健康課題のアセスメント、地域の健康課題、地域づくり、地域ケアシステム	植村直子
13.14	法的根拠に基づく健康支援体制②精神保健、感染症対策、・難病、障害者対策に関する事項	内容：地域における健康支援体制（2） 授業方法：講義 予習：キーワードについて教科書で学習する。 復習：ミニッツペーパーの提出 キーワード：障害者基本法、精神保健福祉法、新障害者プラン、障害者自立支援法、感染症法、生活保護法、社会福祉法	小板橋　恵美子
15.16	諸外国の保健師活動	内容：諸外国の保健師活動の実際 授業方法：講義 予習：キーワードについて教科書で学習する。 復習：ミニッツペーパーの提出 キーワード：グローバルヘルス、諸外国における保健師の資格制度と役割	池田絹代
17.18	地域ケアシステム	内容：地域ケアシステムの理念、目的、構築過程、チームワーク 授業方法：講義 予習：キーワードについて教科書で学習する。 復習：ミニッツペーパーの提出 キーワード：仲間づくり、関係者間のネットワーク、住民とのパートナーシップ、協働、連携、連携会議、地域ケアシステム構築	池田絹代
19.20	精神保健活動	内容：精神障害者の生活特性と保健師活動 授業方法：講義 予習：キーワードについて教科書で学習する。 復習：ミニッツペーパーの提出 キーワード：精神保健活動、地域生活支援、社会復帰、自立支援、サポートシステム	小板橋　恵美子
21.22	感染症保健活動	内容：感染症にかかわる保健師の活動 授業方法：講義 予習：キーワードについて教科書で学習する。 復習：ミニッツペーパーの提出 キーワード：感染症保健活動、感染症予防、疾病管理、早期発見、感染症発生時の対応、結核対策、ＤＯＴＳ	池田絹代

23.24	公衆衛生看護に求められる知識・技術・態度①災害時の保健師活動を学ぶ	内容：災害時の保健師活動 授業方法：講義 予習：キーワードについて教科書で学習する。 復習：ミニッツペーパーの提出 キーワード：災害サイクル、災害発生時の保健師の役割、災害対策基本法	植村直子
25.26	公衆衛生看護に求められる知識・技術・態度②平常時に取り組むべき活動から考察する	内容：災害後、復興期の保健師活動 授業方法：講義 予習：キーワードについて教科書で学習する。 復習：ミニッツペーパーの提出 キーワード：災害サイクル、災害に備えた平常時の保健師活動	植村直子
27	公衆衛生看護活動の実際・まとめ	内容：地域住民を対象とする公衆衛生看護活動のまとめ 授業方法：講義 予習：第１回～２６回の授業資料を振り返っておく。 復習：ミニッツペーパーの提出 キーワード：公衆衛生看護、地域における保健師の保健活動、一次予防、二次予防、三次予防、ポピュレーションアプローチ、ハイリスクアプローチ	植村直子

【６】　事前・事後学習とその時間

【準備学習】
本授業は、公衆衛生看護活動の特徴についての理解を深めるために、関連する既習科目を復習してください。また、指定された内容について、該当部分をテキストで予習することを求めます。予習に1時間程度、復習に1時間程度を費やします。
【学習上の留意点】
法律、施策、社会の状況および人々の健康課題を理解し、保健活動の担う役割について考察を深めてください。

【７】　評価方法・基準

小テストまたは課題（各回2%×27回）54%、試験46%

【８】　フィードバック方法

質問や感想等に対して講義時またはMoodle上でフィードバックします。

【９】　教科書

公衆衛生看護学.jp　荒賀直子他編，インターメディカル（2年次に購入した版）

【10】　参考書

その他必要な資料は適宜提示します。

【11】　備考(関連科目等)

【関連科目】コミュニティヘルス看護、公衆衛生看護に関する講義及び実習
【その他】授業の進捗状況に応じて、授業内容、担当教員を入れ替えることがあります。講義時のほか、Moodleのアナウンス機能を使って周知します。

科目名(日本語)	**学校保健・産業保健**	必修・選択区分	授業形態	開講学期・学年	単位数
科目名(英語)	School and Occupational Health	選択	講義	春学期 3年	1単位 15時間
科目責任者	佐藤左千子				
担当教員	佐藤左千子 齊藤理砂子				
科目責任者 連絡先(教室)	＜学校保健＞ 齊藤理砂子　risako.saito@u.shukutoku.ac.jp ＜産業保健＞ 佐藤左千子　s-sato@east.ntt.co.jp				
オフィスアワー	＜学校保健＞齊藤理砂子　授業当日の授業後、講義室にて10分程度質問を受け付けるほかメールで質問を受け付ける。 ＜産業保健＞佐藤左千子　授業当日の授業後、講義室にて10分程度質問を受け付ける。それ以外の時間についてはメールでの問い合わせに限る				

【１】　授業方法(ALの要素、ICTの活用等)

１－１．アクティブラーニングについて

実施する

１－２．アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素

グループワーク

２－１．双方向授業でのＩＣＴの活用について

活用する

２－２．ＩＣＴを活用する場合、その具体的名称（クリッカー、タブレット端末等）

Moodle

【２】　授業概要

公衆衛生看護活動の場としての学校・産業分野における対象特性と組織的に展開されている保健活動の実際、及び養護教諭、産業看護職の役割について学ぶ。さらに、行政・学校・産業のそれぞれの連携・協働の在り方について考える。
（齊藤理砂子／７回）学校保健の目的・意義・関係法規、学校保健の歴史と現状、学校保健活動と養護教諭の役割、児童生徒の現代的健康課題とそれを踏まえた学校保健活動の実際
（佐藤左千子／７回）産業保健の理念と目的、産業保健の制度とシステム、産業保健活動の実際と産業看護職の役割

【３】　到達目標

＜学校保健＞
1. 学校保健の目的及び意義について説明できる。
2. 学校保健の関係法規について理解し、説明できる。
3. 児童生徒の健康課題に応じた学校保健活動を理解し、説明できる。
4. 養護教諭の職務と役割について理解し、説明できる。

＜産業保健＞
1. 産業保健の目的及び、産業看護に関する基本的な知識を説明できる。
2. 労働が健康と密接に関わっている事を学習し、労働と健康障害の関連を説明できる。
3. 産業保健に関わる多機関多職種との連携、安全配慮義務、個人情報保護などの活動上の留意点について理解し、実践的な活動場面を想起することができる。

【４】　ディプロマ・ポリシーとの関連

到達目標を達成することにより、以下の能力を身につけることにつながります。

１．自然科学を看護活動の根拠とし、実践に活かす基礎的な力を有している。

２．看護学の専門知識と技術を修得している。

３．他者の多様な価値観を理解し、尊重することができる。

４．看護職の社会的責任を理解し、看護実践にまつわる倫理的課題を感受する力と熟考する力、それらに基づく判断を行動に表す力を身につけている。

５．看護専門職として、リーダーシップおよびフォロワーシップを発揮し、チームの中で有機的に活動する資質を身につけている。

６．自ら学ぼうとする好奇心をもち、生涯にわたり自己研鑽する姿勢を身につける。

【5】　授業計画

	項目	内容および授業方法 予習・復習・キーワード	担当教員
1	学校保健の歴史・目的・意義・関係法規	内容： ・学校保健の歴史 ・学校保健の目的・意義 ・学校保健に関する関係法規 授業方法：講義形式 予習：「学校」について理解しておく（教科書：第Ⅰ部 総論 第1章 学校、pp.2-7）。 復習：学校保健の概要について、歴史・目的・意義・体系に分けて整理する。 キーワード：学校保健の歴史、学校保健の体系、学校保健安全法	齊藤理砂子
2	児童生徒の健康状態の把握	内容： ・児童生徒の健康状態の把握の仕方（健康観察、健康相談、健康診断、学校生活管理指導表等） 授業方法：講義形式 予習：「学校における保健管理（健康診断、健康観察、健康相談）」について、教科書を読んでおく（pp.195-215）。 復習：児童生徒の健康状態の把握の仕方について整理する。 キーワード：保健管理、健康観察、健康相談、健康診断、学校生活管理指導表	齊藤理砂子
3	学校環境衛生活動	内容： ・学校環境衛生の目的・基準・課題、法的根拠 ・学校環境衛生活動（定期検査、臨時検査、日常点検） 授業方法：講義形式・グループワーク 予習：「学校における環境衛生活動」について、教科書を読んでおく（pp.226-232）。 復習：学校環境衛生活動の定期検査、臨時検査、日常点検の内容について整理する。 キーワード：学校環境衛生に関わる法的根拠、学校環境衛生基準、定期検査、臨時検査、日常点検	齊藤理砂子
4	保健教育	内容： ・学校における保健教育の構造と内容 ・学習指導要領に基づいた保健教育 ・児童生徒の実態に応じた保健教育 授業方法：講義形式・ディスカッション 予習：「小・中・高等学校における保健教育に保健師、看護師はどのように関わることができるか、関わっていくべきか」400字程度にまとめておく。 復習：学校における保健教育の構造と内容について整理しておく（教科書pp.180-195）。 キーワード：保健教育の構造、学習指導要領、保健指導、がん教育	齊藤理砂子
5	学校における安全管理と安全教育	ミニテスト実施（20点） 内容： ・学校安全の目的、体系、領域 ・安全教育（各段階における安全教育の目標、各領域の内容） ・安全管理（定期、臨時、日常） ・学校危機管理（危険等発生時対処要領、危険等発生時の心のケア） 授業方法：講義 予習：学校における健康危機管理、学校の管理下における事故の概況について、教科書を読み、理解しておく（pp.268-273） 復習：学校安全の体系、領域とその内容について整理しておく（教科書pp.273-284）。 キーワード：学校安全の体系・領域、安全教育、安全管理、学校危機管理	齊藤理砂子
6	学校における感染症の予防と対応	内容： ・学校における感染症対応の法的根拠 ・学校における感染症の予防と対応（出席停止、臨時休業、健康診断等） ・学校における感染症への対応に関わる体制（学校設置者、学校、学校医、保健所の役割） 授業方法：講義形式 予習：学校における感染症の特徴について、教科書を読んでおく（pp.313-315）。 復習：学校における感染症の予防と対応について整理しておく（教科書pp.215-226） キーワード：学校保健安全法施行規則第18条（感染症の種類）、出席停止、臨時休業、健康診断	齊藤理砂子
7	学校保健における組織活動	内容： ・子どもの現代的健康課題 ・チームとしての学校づくり ・学校保健委員会 ・学校保健活動における養護教諭の役割 ・養護教諭の専門領域における職務内容 ・学校医・学校歯科医・学校薬剤師の職務 授業方法：講義形式・ディスカッション	齊藤理砂子

		予習：「児童生徒の健康の動向と現状」について教科書を読んでおく（pp.260-265）。 復習：保健、医療、福祉と学校の連携・協働のあり方について教科書を読み、まとめておく（pp.339-342）。 キーワード：子どもの現代的健康課題、チーム学校、学校保健委員会、養護教諭、学校医、学校歯科医、学校薬剤師	
8・9	産業保健の理念と目的、産業保健と産業保健看護の歴史、我が国の産業構造・産業保健の実態	内容： ・産業保健・産業保健看護の理念と目的 ・企業、組織と労働生活の理解および労働者の理解 ・労働安全衛生管理体制 ・わが国における産業保健・産業看護の現状と産業保健の健康課題および動向 ・産業看護の役割 授業方法：講義形式 予習：令和6年度労働衛生のしおり「最近の労働衛生対策の展開」（P47-P106）を読んでおくこと 復習：産業保健スタッフ、産業保健における産業看護職の役割 キーワード：産業保健の目的　安全衛生管理体制　産業保健スタッフ　産業看護の定義　産業看護の役割	佐藤左千子
10・11	産業保健のしくみ　労働衛生対策	内容： ・職業性疾病とその予防対策 ・作業関連疾患とその予防策 ・メンタルヘルス対策、過重労働対策、生活習慣病対策 ・医療現場で働く看護師の健康課題と抽出と対策案について検討 授業方法：講義形式、ディスカッション 予習：令和6年度労働衛生のしおり「職業性疾病予防対策」（P107-P195）を読んでおくこと また、P18-P21のグラフ内容を確認しておくこと 復習：労働衛生対策の基本対策（3管理5分野）、職業性疾病や作業関連疾患とそれらの予防対策を理解する キーワード：3管理5分野、職業性疾病、作業関連疾患、メンタルヘルス対策、過重労働対策、生活習慣病対策	佐藤左千子
12・13	産業保健活動の実際と産業看護職の役割①	復習テスト実施（5点） 内容： ・基本的産業保健活動 健康診断、保健面接、健康教育、職場巡視について ・メンタルヘルス対策、過重労働対策、生活習慣病対策における産業保健看護職の役割 授業方法：講義形式 予習：令和6年度労働衛生のしおり「健康診断項目」（P240-P248）を確認しておく 看護過程を理解しておく 復習：産業看護職の活動と役割を理解する キーワード：看護過程、保健面接、健康教育、職場巡視、メンタルヘルス対策、過重労働対策、生活習慣病対策における看護職の役割	佐藤左千子
14	産業保健活動の実際と産業看護職の役割②　　産業保健の展開	内容： ・グループワークの発表 ・産業保健の展開 ・まとめ 授業方法：講義形式　ディスカッション 予習：個人・集団・組織のアセスメントについて　PDCAサイクル 復習：産業保健計画の評価 キーワード：産業保健計画の評価	佐藤左千子

【6】　事前・事後学習とその時間

＜学校保健＞
【予習・復習等】指定の教科書を読んで講義に臨むこと（60分程度/回）。講義で配付する資料をもとに学習内容の復習を行うこと（60分程度）。
【学習上の留意】学校保健の対象となる幼児期（幼稚園児）、学童期（小学生）、青年期（中学生、高校生）の発達段階及び健康課題について、整理しておいてください。

＜産業保健＞
【予習・復習等】予習として、指定の参考書等を読んで講義に臨むこと（60分程度/回）。
【学習上の留意】産業看護の学びを深めるためには、労働者の健康問題はもとより、生活や労働の実態、経済のしくみなどに幅広く目を向けることが必要です。社会経済問題、産業保健・産業安全に関するニュースに日ごろから関心を持つようにしてください。
＊授業中の出入り、飲食、携帯電話を禁止します。

【7】　評価方法・基準

＜学校保健＞　50点
①日々の学習状況・授業中のミニテスト１回（20点）
②定期試験(30点)

＜産業保健＞　50点
①日々の学習状況・授業中の小テスト１回（計10点）
②課題レポート（10点）
③定期試験　（30点）

【８】　フィードバック方法

＜学校保健＞
授業中のミニテストは、結果を返却する。定期試験は評価結果を返却する。

＜産業保健＞
授業中の小テスト：結果を返却する。
ミニッツペーパー等の質問等より必要なことについては全体にコメントする。
課題レポート・定期試験：評価結果を返却する。

【９】　教科書

＜学校保健＞　齊藤理砂子：学校看護論－子どもの健康を守り育てる保健活動－、現代図書、2023
＜産業保健＞　令和6年度　労働衛生のしおり　中央労働災害防止協会編　そのほか　資料を授業時に配布する

【10】　参考書

＜学校保健＞
必要に応じて授業中に紹介する。

＜産業保健＞
公益社団法人日本産業衛生学会　産業保健看護部会編　産業保健看護学－基礎から応用・実践まで－
池田智子著保健の実践科学シリーズ　産業看護学（2016年版）講談社，2016
労働衛生のしおり　令和5年度
河野啓子著『産業看護学』（2019 年版）日本看護協会出版会,2019
職場の健康がみえる　産業保健の基礎と健康経営　メディックメディア　2019

【11】　備考(関連科目等)

＜学校保健＞　小児看護学概論、小児看護学方法論、小児看護実習、精神看護学概論、精神看護学方法論、精神看護学実習、栄養学、微生物学、公衆衛生学、心理学、臨床心理学、発達看護論、コミュニティヘルス看護概論、公衆衛生看護学概論、公衆衛生看護学活動論、公衆衛生看護学の技術、公衆衛生看護管理論、コミュニティヘルス看護実習、公衆衛生看護学実習Ⅰ、公衆衛生看護学実習Ⅱ

＜産業保健＞　コミュニティヘルス看護概論、公衆衛生看護概論、看護の基本技術12、疫学と公衆衛生、精神看護学概論、公衆衛生看護学の技術，公衆衛生看護学活動論

科目名(日本語)	**公衆衛生看護学実習Ⅰ**	必修・選択区分	授業形態	開講学期・学年	単位数
科目名(英語)	Public Health Nursing PracticumⅠ	選択	実験・実習	秋学期 3年	2単位 90時間
科目責任者	植村直子				
担当教員	植村直子・小板橋恵美子・池田絹代				
科目責任者 連絡先(教室)	研究室（K322）および科目責任者のメールアドレス（naoko.uemura@hs.toho-u.ac.jp）とする。実習期間中の連絡体制、緊急連絡先は実習要綱に記す。				
オフィスアワー	実習終了後～18:00まで連絡することができる。担当者：植村:K322（naoko.uemura@hs.toho-u.ac.jp）、小板橋：K315（emiko.koitabashi@hs.toho-u.ac.jp）、池田K316（kinuyo.ikeda@hs.toho-u.ac.jp）				

【１】　授業方法(ALの要素、ICTの活用等)

１－１．アクティブラーニングについて

実施する

１－２．アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素

ディスカッション、ディベート
グループワーク
プレゼンテーション

２－１．双方向授業でのＩＣＴの活用について

活用する

２－２．ＩＣＴを活用する場合、その具体的名称（クリッカー、タブレット端末等）

タブレット、PC、Moodle

【２】　授業概要

公衆衛生看護活動の場である保健所（中核市のみ）・保健センターにおいて、地域住民を対象として健康水準の向上を目的に展開される保健活動の実際を体験し、基本的な知識や技術を学ぶ。具体的には、個人（家族）、特定集団の健康課題に対する支援活動の展開方法、組織集団支援、地域全体を視野に入れた保健活動、多職種との連携・協働の実際について学ぶ。
（＊実践的教育として構成する授業科目）

【３】　到達目標

1.実習施設がある地域の特性、健康課題について説明できる。
2.保健所（中核市のみ）・保健センターで実施されている保健活動の実際を説明できる。
3.個人（家族）、特定集団の健康課題に対する保健師の支援技術について説明できる。
4.個別支援、集団支援、地域支援に関する保健活動を保健師と共に実施・評価する。
5.保健活動を展開する多職種との連携・協働の実際を見学し、連携・協働における姿勢・態度および調整技術を考察することができる。
6.保健所・保健センターで展開される生涯を通じた健康づくり体系を理解し、保健師が果たすべき役割と課題について説明できる。
7.保健活動を行う上で必要な態度や基本的技術を身につけることができる。

【４】　ディプロマ・ポリシーとの関連

到達目標を達成することにより、以下の能力を身につけることにつながります。

１．自然科学を看護活動の根拠とし、実践に活かす基礎的な力を有している。

２．看護学の専門知識と技術を修得している。

３．他者の多様な価値観を理解し、尊重することができる。

４．看護職の社会的責任を理解し、看護実践にまつわる倫理的課題を感受する力と熟考する力、それらに基づく判断を行動に表す力を身につけている。

５．看護専門職として、リーダーシップおよびフォロワーシップを発揮し、チームの中で有機的に活動する資質を身につけている。

６．自ら学ぼうとする好奇心をもち、生涯にわたり自己研鑽する姿勢を身につける。

【5】　授業計画

	項目	内容および授業方法 予習・復習・キーワード	担当教員
	実習オリエンテーション：実習目標・実習施設について	目標を達成するための詳細な学修内容は、公衆衛生看護学実習Ⅰ要項に示す。 1. 実習目標 1)実習施設がある地域の特性、健康課題について説明できる。 2)保健所（中核市のみ）・保健センターで実施されている保健活動を説明できる。 3)個人（家族）、特定集団の健康課題に対する保健師の支援技術について説明できる。 4)個別支援、集団支援、地域支援に関する保健活動を保健師の指導のもとで一部実施・評価できる。 5)保健活動を展開する多職種との連携・協働の実際を見学し、連携・協働における姿勢・態度および調整技術を考察することができる。 6)保健所・保健センターで展開される生涯を通じた健康づくり体系を理解し、保健師が果たすべき役割と課題について説明できる。 7)保健活動を行う上で必要な態度や基本的技術を身につけることができる。 2.実習施設 千葉県内各市保健所（中核市のみ）、保健センター	全員
	事前実習：実習に臨むための事前学習と事後学習について	実習グループごとに実習に臨むにあたり、予習、復習に取り組む。 1.予習 既習の公衆衛生看護学の各科目、および関連する実習の復習を行う。特に家庭訪問、健康教育は単独でも実施できるよう準備をしておくことが望ましい。 公衆衛生看護学の技術において学習した地域看護過程（地域診断・地域保健活動）の内容を実習施設において発表できるように資料等準備しておく。 2.復習 個別支援から地域全体の保健活動にどのように結び付けるのか実習で学習、経験した事例をもとに保健師の活動内容をまとめる。 保健活動に参加した学びをグループでまとめ報告し、他の学生の学びを共有する。 キーワード：ライフステージ、地域特性、保健所（中核市のみ）の機能、保健センターの機能、公衆衛生活動、ヘルスプロモーション、地区活動、地区組織活動、地域ケアシステム、母子保健、成人保健、高齢者保健、精神保健、難病、健康診査、健康相談、健康教育、家庭訪問、保健医療福祉職、連携、協働	全員
	臨地実習（８日間）	以下の内容を学習する。 1.実習地域のホームページ、総合計画、保健活動報告書等の資料や保健師の説明をもとに、保健所（中核市のみ）、および保健センターで行われている保健活動（事業）を対象者の属性、ライフステージ（母子、成人、高齢者、精神、難病、感染症等）ごとに整理し、理解する。 2.保健師やその他の保健活動実践者の講話、活動状況の見学から、支援対象者（対象集団）への①アプローチ方法、②それぞれの方法に活用される専門技術について理解する。 3.保健所（中核市のみ）・保健センターで行われている保健活動の一部を保健師とともに実施し、①個別支援（健康相談、家庭訪問）、②集団支援（健康教育、グループ支援）、③地域支援における計画、実施、評価をプロセスを経験する。 4.連携する多職種の把握と、連携・協働における保健師の役割・技術を学習する。 5.自治体における健康づくり体系と各ライフステージ上の保健師の支援内容の関連から、地域の健康形成、地域ケアシステム作りにおいて求められる保健師の知識、態度、技術を学習する。	全員
	カンファレンス（臨地実習期間中に実施）	臨地実習期間中にカンファレンスを行う。 1.中間カンファレンス 1週目最終日はに実施する。現地実習で各自が学んだことを発表する。1週間の学びを振り返り、実習指導者への質疑・応答する時間も設ける。2週目に向けての学習目標を設定できる内容とする。 2.最終カンファレンス 2週目最終日に実施する。テーマは「公衆衛生看護学実習Ⅰを通した学び」とする。学生同士で討議を行った上で、実習指導者と教員から指導・助言を受ける。	全員
	学内実習（２日間）	臨地実習での学びの共有と考察を行う。 1.学内演習（１週目月～金のうち、教員が指示した日） 1週目に体験した保健活動、自身の学び、指導者・教員からの助言、復習等と2週目の実習スケジュールを踏まえ、実習目標の自身の達成度を振り返り、復習および予習を行う。 2.学内のまとめ（2週目の金曜） テーマは「保健所（中核市のみ）・保健センターで展開される生涯を通じた健康づくりの実際と保健師が果たすべき役割」とする。現地実習での学びを振り返り、実習市の特性と健康課題と連動させながら、公衆衛生看護活動の特徴について理解を深める。	全員

	その他	【予習・復習・キーワード】 予習：地域看護過程について、発表できるよう準備しておく。また、参加予定の保健事業について、目的や実施方法、内容などについて実習記録に記述しておく。 復習：実施した家庭訪問、参加した保健事業について振り返り、保健師の支援内容、支援のあり方を考察し、実習記録に記述する。 キーワード：地域特性、地域の健康課題、中核市保健所の役割・機能、保健センターの役割・機能、個別支援、集団支援、地域支援、家庭訪問、健康相談、健康診査、健康教育、グループ支援、地域診断、地域保健活動、多職種連携	全員

【６】　事前・事後学習とその時間

予習：実習現場となる自治体において実施されている保健事業の種類、内容、対象となる住民の特徴、およびその事業を担当する部署について把握する。予習に要する時間の目安は１時間程度である。
復習：公衆衛生看護関連の講義および演習内容の復習が求められる。特に、家庭訪問、健康教育などは自分で実施できるようになることが望まれるため、十分に復習をした状態で実習に臨むことが求められる。復習に要する時間の目安は１時間程度である。
学習上の留意点に関する詳細は実習要綱に示す。
公衆衛生看護に関する講義、演習を修了できなかった者は実習参加を認められないことがある。やむを得ない事情（病気、身内の不幸、等）にて実習を欠席した場合は実習日を追加し、必要な学習を行う場合がある。

【７】　評価方法・基準

実習記録（40%）、担当教員および現場指導者による技術、態度の評価（30%）、実習後のグループワークおよびレポート評価（30%）

【８】　フィードバック方法

提出された実習記録に対してコメントを付し翌日以降に返却する。実習後のグループワーク上での発言に対し適宜講評をする。実習最終日に全体講評をする。

【９】　教科書

公衆衛生看護学. jp　荒賀直子他編，インターメディカル（2年次に購入した版）

【10】　参考書

特になし

【11】　備考(関連科目等)

公衆衛生看護学関連全般

科目名(日本語)	**公衆衛生看護学実習Ⅱ**	必修・選択区分	授業形態	開講学期・学年	単位数
科目名(英語)	Public Health Nursing PracticumⅡ	選択	実験・実習	秋学期 3年	2単位 90時間
科目責任者	池田絹代				
担当教員	池田絹代・小板橋恵美子・植村直子				
科目責任者 連絡先(教室)	池田絹代（健康科学部棟3階研究室K316）				
オフィスアワー	学内日の開始前、終了後の30分程度は個別相談が可能である。また、臨地に出向いているときには実習時間中の空いた時間等を利用して相談が可能である。施設の使用に制限があるため実習後に十分な時間を確保できないこともある。そのため、随時メールや事前に周知された実習期間中の連絡体制、および緊急連絡先にて連絡することが望ましい。 担当教員の連絡先は以下の通りである。その他の連絡手段はオリエンテーション時に周知する。 池田絹代（研究室K316　kinuyo.ikeda@hs.toho-u.ac.jp） 小板橋恵美子（研究室K315　emiko.koitabashi@hs.toho-u.ac.jp） 植村直子（研究室K322　naoko.uemura@hs.toho-u.ac.jp）				

【1】　授業方法(ALの要素、ICTの活用等)

１－１．アクティブラーニングについて

実施する

１－２．アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素

ディスカッション、ディベート
グループワーク
プレゼンテーション
実習、フィールドワーク

２－１．双方向授業でのＩＣＴの活用について

活用する

２－２．ＩＣＴを活用する場合、その具体的名称（クリッカー、タブレット端末等）

タブレット、PC、Moodle

【2】　授業概要

広域地域を管轄する県型保健所における保健活動の実際を体験し、保健所の専門機能と保健師の役割について学ぶ。学校における児童・生徒の生活状況と健康課題を理解し、学校保健活動の実際と養護教諭の役割について学ぶ。労働者の健康の保持増進、労働条件や労働環境に関連する健康障害の予防を組織的に展開している産業保健活動と看護職の役割について学ぶ。
（＊実践的教育として構成する授業科目）

【3】　到達目標

＜県型保健所実習＞
1.地域の潜在的・顕在的健康課題の明確化、解決・改善策の企画・立案、実施・評価の実際について説明できる。
2.地域の健康危機管理（感染症、虐待、DV、自殺、災害等）の体制づくりについて説明できる。
3.保健・医療・福祉を包括する地域ケアシステム構築を担う保健所の機能及び保健師の役割を説明できる。
＜学校保健実習＞
1.学校における児童・生徒の生活状況と健康課題を説明できる。
2.養護教諭の役割と保健室経営について説明できる。
3.学校保健上の問題を抱えた児童・生徒への対応方法について説明できる。
4.児童・生徒への健康教育を指導の下に実施することができる。
＜産業保健実習＞
1.労働衛生対策の実際を学び、労働者の健康課題の特性について説明できる。
2.労働者を対象として実施される健康診断の実際と保健指導技術を指導の下に実施することができる。
3.労働者を対象とした健康管理システムおよび看護職の役割について具体的に説明できる。
＜総括＞
1.公衆衛生看護に求められる専門性について考察することができる。
2.公衆衛生看護職に求められる態度姿勢を身につけることができる。

【4】　ディプロマ・ポリシーとの関連

到達目標を達成することにより、以下の能力を身につけることにつながります。

１．自然科学を看護活動の根拠とし、実践に活かす基礎的な力を有している。

２．看護学の専門知識と技術を修得している。

３．他者の多様な価値観を理解し、尊重することができる。

４．看護職の社会的責任を理解し、看護実践にまつわる倫理的課題を感受する力と熟考する力、それらに基づく判断を行動に表す力を身につけている。

５．看護専門職として、リーダーシップおよびフォロワーシップを発揮し、チームの中で有機的に活動する資質を身につけている。

６．自ら学ぼうとする好奇心をもち、生涯にわたり自己研鑽する姿勢を身につける。

【5】　授業計画

	項目	内容および授業方法 予習・復習・キーワード	担当教員
	県型保健所実習	目標を達成するための詳細な学修内容は、公衆衛生看護学実習Ⅱ要項に示します。 ＜県型保健所実習＞ 1. 実習施設 県型保健所 2. 実習内容 1）保健所合同講義（各実習保健所で開催）に参加し、保健所の機能、保健所管内の地域特性と健康課題を理解する。 2）保健所で行われている保健活動への参加、実習指導者からの説明から、（1）保健所の保健活動の対象と保健活動の特徴、（2）支援技術、（3）活動に携わる様々な職種の役割を理解する。 3）実習での学びを統合し、保健・医療・福祉を包括する地域ケアシステム構築を担う保健所の機能と保健師の役割について考察する。 予習：既習の公衆衛生看護の各科目の復習を行う。 復習：実習での学びを各自で実習目標に沿って振り返り、県型保健所の機能と役割の特性と保健師の役割を考え、公衆衛生看護活動の特徴について理解を深める。 キーワード：地域特性、公衆衛生看護活動、学校保健活動、産業保健活動、保健所の機能、保健センターの機能、予防、健康危機管理、役割、連携	全員
	学校保健実習	＜学校保健実習＞ 1.実習施設 船橋市立小学校 2.実習内容 1）校長・養護教諭からの講話を聴講し、（1）学校組織、教育目標、教育計画、教育環境、保健室経営の具体的な方法、保健組織活動、学校・家庭・地域との連携を理解する。 2）養護教諭の活動に参加し、（1）児童生徒の生活・健康課題、（2）養護教諭の活動を理解する。 3）児童生徒の生活・健康課題に応じた健康教育を計画・実施する。 4）実習での学びを統合し、学校保健の機能と養護教諭の役割について考察する。 予習：既習の公衆衛生看護の各科目の復習を行う。 復習：実習での学びを各自で実習目標に沿って振り返り、学校保健の特性と養護教諭の役割を考え、公衆衛生看護活動の特徴について理解を深める。 キーワード：地域特性、公衆衛生看護活動、学校保健活動、産業保健活動、保健所の機能、保健センターの機能、予防、健康危機管理、役割、連携	全員
	産業保健実習	＜産業保健実習＞ 1.実習施設 ちば県民保健予防財団、㈱フジクラ 2.実習内容 1）産業医、産業看護職からの講話を聴講し、（1）労働者の健康課題の特性、（2）労働者を対象とした健康管理システムを理解する。 2）労働者を対象として実施される健康診断と保健指導技術を理解する。 3）実習での学びを統合し、産業保健の機能と産業看護職の役割について考察する。 予習：既習の公衆衛生看護の各科目の復習を行う。 復習：実習での学びを各自で実習目標に沿って振り返り、産業保健の機能と産業看護職の役割を考え、公衆衛生看護活動の特徴について理解を深める。 キーワード：地域特性、公衆衛生看護活動、学校保健活動、産業保健活動、保健所の機能、保健センターの機能、予防、健康危機管理、役割、連携	全員

【6】　事前・事後学習とその時間

学習上の留意点に関する詳細は実習要項に示します。
準備学習：既習の公衆衛生看護学の各科目の復習が求められます。特に、コミュニティヘルス看護学実習、公衆衛生看護学実習Ⅰの学びを振り返り、市町村保健センターの機能との比較から、県型保健所の機能、学校保健活動、産業保健活動の特徴について学びを深めていきます。予習に1時間程度、その日の実習のまとめに1時間程度を費やします。健康教育の企画・実施などがある場合は、これ以上の時間を必要とすることがあります。

【7】　評価方法・基準

実習内容（実習自己評価表の項目に基づいて県型保健所、学校保健、産業保健での実習において）60%、学習者としての態度20%、課題レポート 20%で評価する。

【８】　フィードバック方法

実習記録・レポートについて実習巡回、学内実習時に適宜コメントします。

【９】　教科書

公衆衛生看護学，荒賀直子他編，インターメディカル（2年次購入したもの）
県型保健所実習では、毎年発行される千葉県による「保健所のしおり」と実習保健所による「事業年報」の最新版を使用します。
千葉県および各保健所のホームページからダウンロードして実習に備えてください。

【10】　参考書

特になし

【11】　備考(関連科目等)

コミュニティヘルス看護、公衆衛生看護に関する講義及び実習

科目名(日本語)	トランスレーショナルへの挑戦Ⅳ	必修・選択区分	授業形態	開講学期・学年	単位数
科目名(英語)	Challenging for Translational Strategies into Nursing	選択	講義	通年 3年	1単位 15時間
科目責任者	瀧口千枝				
担当教員	瀧口千枝、島村敦子、笠間秀一、水流添秀行、畑中佳子、池田絹代、中嶋秀明、菅谷綾子				
科目責任者 連絡先(教室)	瀧口千枝　K321　chie.takiguchi@hs.toho-u.ac.jp				
オフィスアワー	質問、問い合わせは、Moodleの質問コーナー、リフレクションシート、もしくは授業終了後30分間、直接科目担当者に問い合わせる。質問への回答は、科目担当者が、Moodleもしくは直接口頭で対応する。				

【１】　授業方法(ALの要素、ICTの活用等)

１－１．アクティブラーニングについて

実施する

１－２．アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素

反転授業
ディスカッション、ディベート
グループワーク
プレゼンテーション
実習、フィールドワーク

２－１．双方向授業でのＩＣＴの活用について

活用する

２－２．ＩＣＴを活用する場合、その具体的名称（クリッカー、タブレット端末等）

Moodle

【２】　授業概要

看護専門職としての自らのキャリアデザインを主体的に形成するために、自己のキャリアプランを形成する。専門職としての成長プロセスと成長に必要な経験と支援について議論することでキャリアマネジメントの概念理解を図る。キャリアマネジメントの資源、キャリアデザイン、キャリアマネジメントの実際を理解し、自己のキャリアデザインを描く。さらに、今後の就職活動に向けてのマナーやルールについて実践的に学修する。

【３】　到達目標

1) 将来の仕事や働き方について考え、自分自身のキャリアビジョンを表現することができる。
2) 自分の仕事や働き方の将来像（キャリアビジョン）を実現するために必要な資源や行動を知ることができる。
3) キャリアビジョンを実現するための具体的なキャリアプランを表現できる。
4) 社会人として必要なマナーを理解したうえで、主体的にキャリアプラン実行に向けた行動ができる。
5) 自らのキャリアマネジメントにおける展望と課題を表現できる。

【４】　ディプロマ・ポリシーとの関連

到達目標を達成することにより、以下の能力を身につけることにつながります。

１．自然科学を看護活動の根拠とし、実践に活かす基礎的な力を有している。

３．他者の多様な価値観を理解し、尊重することができる。

４．看護職の社会的責任を理解し、看護実践にまつわる倫理的課題を感受する力と熟考する力、それらに基づく判断を行動に表す力を身につけている。

５．看護専門職として、リーダーシップおよびフォロワーシップを発揮し、チームの中で有機的に活動する資質を身につけている。

６．自ら学ぼうとする好奇心をもち、生涯にわたり自己研鑽する姿勢を身につける。

【５】　授業計画

	項目	内容および授業方法 予習・復習・キーワード	担当教員
1-2	キャリアマネジメントと就職活動　　キャリアプランと情報収集①	１）キャリアマネジメントと就職活動 ２）就活スタートアップ講座 ３）3病院紹介・インターンシップ 形式：講義・グループワーク 予習：ワークシート（キャリアについて考えてくる） 復習：リフレクションシート① キーワード キャリアマネジメント、キャリアデザイン、キャリアビジョン、キャリアプラン、インターンシップ	全員
3-6	キャリアプランと情報収集②	千葉県就職説明会 形式：説明会・質疑応答 予習：ワークシート（説明を聞きたい病院を決定、収集したい情報をまとめる） 復習：リフレクションシート② キーワード 病院研究、目的意識、優先順位、選定基準、情報整理	全員
7	キャリアプランと情報収集③	インターンシップ参加 形式：フィールドワーク 予習：興味のある施設を選定し、インターンシップに申し込む。 復習：課題レポート キーワード インターンシップ、就業体験、看護業務の実際、職場の雰囲気、自己分析、ビジネススキル	全員
8-10	ビジネスマナーと就活準備	キャリア支援ガイダンスⅠ １）ビジネスマナー ２）履歴書の書き方 ３）採用面接対策 形式：講義・演習 予習：受験する施設の募集要領を確認しておく 復習：リフレクションシート③ キーワード ビジネスマナー、履歴書、採用面接	全員
11-14	キャリアデザインと就職活動	キャリア支援ガイダンスⅡ １）エントリーシートと自己PR ２）採用試験対策（小論文） ３）採用試験対策（模擬面接） 形式：講義、演習 予習：ワークシート 復習：リフレクションシート④ キーワード キーワード 自己分析、自己PR、エントリーシート、採用試験、模擬面接	全員

【６】　事前・事後学習とその時間

【事前・事後学習】
事前学習としてMoodleを利用するため、必ず事前に確認しておく。
本授業は今後の自分のキャリアを具体的に考え実行するために必要な科目である。
予習・復習に1時間程度を要する。

【７】　評価方法・基準

リフレクションシート・ワークシート（60%）
課題レポート（40%）

【８】　フィードバック方法

リフレクションシートに記載された感想や質問は、Moodleでフィードバックする。
授業最終日に全体講評を行う。

【９】　教科書

必要な資料は事前もしくは当日に配布もしくはMoodleに提示する。

【10】　参考書

就活ガイドブック

【11】　備考(関連科目等)

予め学んでおくと良い科目：トランスレーショナルへの挑戦Ⅰ，トランスレーショナルへの挑戦Ⅱ、トレンスレーショナルへの挑戦Ⅲ，コミュニケーション論，プレゼンテーション論，健康科学概論，看護学概論，臨床看護学概論，老年看護学概論，地域・在宅看護概論，看護入門実習Ⅰ，看護入門実習Ⅱ，臨床看護学実習Ⅰ，小児看護学概論，母性看護学概論，精神看護学概論，公衆衛生看護学概論

並行している関連科目：老年看護学実習，臨床看護学実習Ⅱ，臨床看護学実習Ⅲ，小児看護学実習，母性看護学実習、精神看護学実習，在宅看護実習，コミュニティヘルス看護実習

この科目の後に続く関連科目：看護実践の探究，臨床実践技術の探究，看護の役割と実践の探究，看護研究，看護管理論

シラバス 2025 年度

4 年生

科目名(日本語)	**看護倫理学（2021年度入学生用）**	必修・選択区分	授業形態	開講学期・学年	単位数
科目名(英語)	Nursing Ethics	必修	講義	春学期 4年	1単位 15時間
科目責任者	日高紀久江				
担当教員	日高紀久江				
科目責任者 連絡先(教室)	日高紀久江：kikue.hidaka@hs.toho-u.ac.jp（K333）				
オフィスアワー	授業終了後10分程度、講義室で質問等を受け付ける。メールあるいはMoodleでの連絡も可能				

【１】　授業方法(ALの要素、ICTの活用等)

１－１．アクティブラーニングについて

実施する

１－２．アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素

ディスカッション、ディベート
グループワーク
プレゼンテーション

２－１．双方向授業でのＩＣＴの活用について

活用する

２－２．ＩＣＴを活用する場合、その具体的名称（クリッカー、タブレット端末等）

Moodle

【２】　授業概要

人間を対象とする看護には、人間及び生命を尊重する態度が肝要とされており、医療・福祉・行政に関わる看護の実践・教育・研究では、常に倫理的事項に直面する。看護倫理学では、看護専門職に必要な倫理の基礎知識を理解し、看護における倫理現象と倫理的課題、倫理的判断過程などについて学ぶ。さらに、看護職の役割について考察し、倫理的感性を高める機会とする。

【３】　到達目標

1.看護における人間の尊厳と人権について具体的に説明できる。
2.看護職の倫理綱領について構造と内容を具体的に説明できる。
3.看護倫理の観点から事例を検討する方法を説明できる。
4.倫理的課題の抽出過程における倫理的推論・判断を説明できる。
5.事例の倫理活動について自己の見解を説明できる。
6.看護の倫理的感受性を高める方法について説明できる。
7.生命倫理シンポジウムの参加を通して主な学びについて説明できる。
8.授業を通して看護職としての倫理観について記述できる。

【４】　ディプロマ・ポリシーとの関連

到達目標を達成することにより、以下の能力を身につけることにつながります。

１．自然科学を看護活動の根拠とし、実践に活かす基礎的な力を有している。

２．看護学の専門知識と技術を修得している。

３．他者の多様な価値観を理解し、尊重することができる。

４．看護職の社会的責任を理解し、看護実践にまつわる倫理的課題を感受する力と熟考する力、それらに基づく判断を行動に表す力を身につけている。

５．看護専門職として、リーダーシップおよびフォロワーシップを発揮し、チームの中で有機的に活動する資質を身につけている。

６．自ら学ぼうとする好奇心をもち、生涯にわたり自己研鑽する姿勢を身につける。

【5】　授業計画

	項目	内容および授業方法 予習・復習・キーワード	担当教員
1・2	看護倫理の理論：看護における人間の尊厳と人権	内容 1. 看護倫理とは 2. 看護の特質と倫理的課題 3. 看護倫理の基盤となる理論・概念 方法：講義、DVD視聴（視聴覚教材：生命倫理と看護倫理の基礎） 予習：テキスト第1章～第5章を読む 復習：授業内容を整理し、看護師と患者（対象者）関係について考察する。 キーワード：倫理学、道徳、徳、幸福、価値観、価値の対立、人間関係、環境、文化、医療制度、生命倫理、医療倫理、臨床倫理、法、倫理的課題、倫理原則、倫理的責任、保健医療福祉の場、療養生活、QOL、看護の役割と機能、倫理的ジレンマ、患者の権利擁護	日高紀久江
3・4	看護倫理の理論：看護職における倫理規準	内容 1. 看護職の倫理的責任と倫理綱領 2. 倫理的判断および行動の根拠 3. 倫理的行動の規準を遵守する方法と課題 方法：講義 予習：テキスト第7章を読む 復習：授業内容を整理し、看護ケアに対する看護職の責務と課題について考察する（課題レポート） キーワード：倫理的行動規準、法的責任、保助看法、法令遵守、専門職、倫理的責任、倫理綱領、倫理指針、規制ガイドライン、職業人、企業、社会的役割、医療制度、倫理的ジレンマ	日高紀久江
5・6	看護倫理の実践：臨床現場における事例分析（1）	内容 1. 事例の分析 2. 倫理的推論と倫理的判断 3. 倫理的課題に対する対応 方法：講義 予習：テキスト第6章、第8章を読む 復習：ワークシートを完成させて提出する（課題1） キーワード：倫理原則、自己の価値観、他者の価値観、事実と価値、医学的適応、自律尊重、尊厳、推定意思、代理意思決定、QOL、価値の対立、倫理的推論	日高紀久江
7・8	看護倫理の実践：臨床現場における事例分析（2）	内容 1. 事例の分析 2. 倫理的推論と倫理的判断 3. 倫理的課題に対する対応 方法：プレゼンテーション、討議 予習：テキスト第10章を読む 復習：ワークシートを完成させて提出する（課題2） キーワード：倫理原則、自己の価値観、他者の価値観、事実と価値、医学的適応、自律尊重、尊厳、推定意思、代理意思決定、QOL、価値の対立、倫理的推論	日高紀久江
9・10	看護倫理の実践：意思決定支援	内容 1. 意思決定に直面する人々のケアに関わる倫理的課題 2. 事例の分析、倫理的推論と対応、考察 3. 意思決定に直面する人々への看護職の役割と課題 方法：講義 予習：日本看護協会「看護倫理」看護職のための自己学習テキストの指定部分を読んで、自分の考えを整理する 復習：授業内容を整理し、意思決定支援について考察する。 キーワード：倫理現象、状況の分析と統合、倫理的推論、倫理的判断、倫理的行動、病名告知、インフォームド・コンセント、自己決定、安楽死、人生の終末、臨床試験、臓器移植、遺伝子診断、遺伝相談、価値の対立、倫理的判断、倫理的ジレンマ、倫理的実践	日高紀久江
11～14	看護倫理の発展	内容 生命倫理シンポジウム 方法：講義、討議、プレゼンテーション 予習：オリエンテーション内容を理解して臨む 復習：全回を振り返り、内容を整理する。レポート作成（課題3） キーワード：人間、健康、最新医療、生命倫理、個人の価値観、社会の変化、原理原則、コミュニティー、倫理的実践	日高紀久江

【６】　事前・事後学習とその時間

【準備学習】
臨地実習での実習記録を読んで、体験した看護現象の振り返りをして望むこと。
本授業は看護倫理・臨床倫理の基本的な考え方を習得し倫理現象を把握する能力や倫理的判断力、倫理的課題への探究力を向上させることをねらっているため、関連内容について予習・復習に1.5時間程度必要である。
【学習上の留意点】
授業毎のテーマについて、関連書籍およびメディア上の情報も活用して理解を深める。
対面式授業で行います。状況によって遠隔授業となる場合があります。遠隔授業の場合は、オンデマンド式と双方向式を取り入れますので、事前のお知らせで確認してください。

【７】　評価方法・基準

課題レポート（3題）100%

【８】　フィードバック方法

授業の中やMoodleでコメントする。

【９】　教科書

宮坂道夫ほか：系統看護学講座別巻 看護倫理 第2版、医学書院

【10】　参考書

授業時にその他の関連文献を紹介する。
・サラ　T.フライ、メガンージェーン・ジョンストン、片田範子、山本あい子訳：看護実践の倫理、第3版、日本看護協会出版会、2010
・ドローレス・ドゥーリー、ジェーン・マッカーシー、坂川雅子訳：看護倫理1、みすず書房
・ドローレス・ドゥーリー、ジェーン・マッカーシー、坂川雅子訳：看護倫理2、みすず書房
・ドローレス・ドゥーリー、ジェーン・マッカーシー、坂川雅子訳：看護倫理3、みすず書房
・松木光子編：看護倫理学、看護実践における倫理的基盤、ヌーベルヒロカワ、2010
・Anne J.Davis, Verena Tschudin, Louise de Raeve, 小西恵美子監訳、和泉成子、江藤裕之訳：看護倫理を教える・学ぶ、倫理教育の視点と方法、日本看護協会出版会、2008
・Albert R. Jonsen, Mark Siegler, William J.Winslade,　赤林朗、蔵田伸雄、児玉聡監訳：臨床倫理学、第5版、臨床医学における倫理的決定のための実践的なアプローチ、新興医学出版社、2006
・坂本すが監修、兼児敏浩編著：医療安全BOOKS 7、患者・家族の意思決定、現場の判断を支える“やさしい”臨床倫理フレームワーク、困ったとき、現場で役立つ3つの視点、メディカ出版、2018
・日本看護協会ホームページ　看護実践情報「看護倫理」看護職のための自己学習テキスト
・視聴覚教材：「ナーシングチャンネル」看護倫理,「看護におけるKYT（危険予知トレーニング）

【11】　備考(関連科目等)

倫理学、哲学、看護学の各専門領域の授業科目

科目名(日本語)	**援助的人間関係論（2021年度入学生用）**	必修・選択区分	授業形態	開講学期・学年	単位数
科目名(英語)	Helping Relationship in Nursing Care	必修	講義	春学期 4年	1単位 15時間
科目責任者	渡邊尚子				
担当教員	渡邊尚子				
科目責任者 連絡先(教室)	渡邊(8334)： naoko.watanabe@hs.toho-u.ac.jp（メールの場合、学籍番号を明記すること）				
オフィスアワー	原則水曜日12:00～13:00をオフィスアワーとする。				

【１】　授業方法(ALの要素、ICTの活用等)

１－１．アクティブラーニングについて
実施する

１－２．アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素
プレゼンテーション

２－１．双方向授業でのＩＣＴの活用について
活用する

【２】　授業概要

看護の基本となる対象との援助的人間関係について、心理・社会･身体の観点から学修する。具体的には、これまでの実習体験等を題材にして、自己理解と他者理解、人間関係形成過程、コミュニケーションに関する理論とその技法などを学び、看護職として援助的人間関係について探究する機会とする。

【３】　到達目標

.援助的人間関係の根拠となる理論を説明できる。
2.自己理解・他者理解・関係理解の意味について説明できる。
3.自己理解・他者理解・関係理解の方法を説明できる。
4.自身の対人関係形成の傾向を分析し、説明できる。
5.プロセスレコードの活用の意味の方法が説明できる。
6.自身の実習体験を題材に、対象との関係を客観的に分析し、説明できる。
7.援助的人間関係構築のための看護のポイントを説明できる。
8.援助的人間関係構築のための自己の課題を説明できる。

【４】　ディプロマ・ポリシーとの関連

到達目標を達成することにより、以下の能力を身につけることにつながります。

１．自然科学を看護活動の根拠とし、実践に活かす基礎的な力を有している。

２．看護学の専門知識と技術を修得している。

３．他者の多様な価値観を理解し、尊重することができる。

４．看護職の社会的責任を理解し、看護実践にまつわる倫理的課題を感受する力と熟考する力、それらに基づく判断を行動に表す力を身につけている。

６．自ら学ぼうとする好奇心をもち、生涯にわたり自己研鑽する姿勢を身につける。

【５】　授業計画

	項目	内容および授業方法 予習・復習・キーワード	担当教員
1	援助的人間関係の概説	オリエンテーション 援助的人間関係の概念 講義：個人ワーク 予習:キーワードについてノートに整理しておく、既習の人間関係に関する理論を整理しておく 復習：課題と小テストの提出・資料の整理 キーワード 　相談面接・ナラティブ・メディスン・意思決定支援、援助関係・援助関係の成立要素・コミュニケーションスキル	渡邊尚子
2-3	援助的人間関係に関する理論と活用(1)	援助的人間関係に関連する技法(コミュニケーション技術) 講義：個人ワーク 予習:キーワードについてノートに整理しておく、既習の人間関係に関する理論を整理しておく 復習：課題と小テストの提出・資料の整理 キーワード 　看護理論、ペプロウ、プロセスレコード	渡邊尚子
4-5	援助的人間関係に関する理論と活用(2)	事例でとらえる援助成立過程の分析 健康レベルに応じたコミュニケーション技法 講義：個人ワーク 予習:キーワードについてノートに整理しておく、既習の人間関係に関する理論を整理しておく 復習：課題と小テストの提出・資料の整理 キーワード 　看護理論、ペプロウ、教育入院、看護過程の展開	渡邊尚子
6-7	援助的人間関係の構築(1)	援助的人間関係構築に向けた実践と考察(自己理解から) 講義：個人ワーク 予習：キーワードについて整理しておく 復習：課題と小テストの提出・資料の整理 キーワード 　EGOグラム、信頼関係の構築、受容、共感	渡邊尚子
8-11	援助的人間関係の構築(2)	援助人間関係構築に向けた実践と考察(プロセスレコードから) 講義：個人ワーク 予習:キーワードについて整理しておく 復習：ミニッツペーパーの提出 キーワード 　看護理論・看護過程の展開、プロセスレコード、心理劇、カンファレンス	渡邊尚子
12-14	援助的人間関係の構築に向けて	援助的人間関係とは　各自の考察と課題 講義・個人ワーク 予習:精神看護学方法論で各自行ったEGOグラムから、何を自己目標をしていたか振り返っておくこと。講義時持参すること。 復習：課題レポートの提出 キーワード	渡邊尚子

【６】　事前・事後学習とその時間

準備学習】
それまでの実習体験などを通して、対象とのかかわりについて振り返っておくこと。また、3年次の実習で行ったプロセスレコードを準備して授業に臨むこと。既習の関連科目の復習をして臨むこと。
　この授業は理論を自己の体験を通して理解していくため、予習1時間程度、復習1.5時間程度が必要となる。
【学修上の留意点】
　この授業はグループワークを行う。積極的な参加が求められる。

【７】　評価方法・基準

課題レポート(60%)、各回の課題（40%）

【８】　フィードバック方法

フィードバックは必要時適宜行う

【９】　教科書

授業時に資料を配布する。

【10】　参考書

授業内で適宜提示する

【11】　備考(関連科目等)

コミュニケーション論、看護理論、各専門領域の実習科目

科目名(日本語)	**実用英語Ⅳ**	必修・選択区分	授業形態	開講学期・学年	単位数
科目名(英語)	Practical English Ⅳ	選択	演習	春学期 4年	1単位 30時間
科目責任者	青木敬子				
担当教員	青木敬子				
科目責任者 連絡先(教室)	Moodleのメッセージ機能で、連絡をしてください。				
オフィスアワー	木曜日12：50～13：50、もしくは授業後、講師控室に面会可能。				

【１】　授業方法(ALの要素、ICTの活用等)

１－１．アクティブラーニングについて

実施する

１－２．アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素

ＰＢＬ（課題解決型学習）
グループワーク
プレゼンテーション

２－１．双方向授業でのＩＣＴの活用について

活用する

２－２．ＩＣＴを活用する場合、その具体的名称（クリッカー、タブレット端末等）

タブレット端末、スマートフォン、Moodle

【２】　授業概要

英語の重要な文法事項の修得と、それを踏まえた英語による表現活動を目標とする。ⅡやIIIで修得した能力をさらに高め、論理的に物事を考える。TOEICのリスニング形式を練習し、正しく聞き取る。TOEIC問題形式による読み取り演習をする。さらに学期末の英語発表のために、英語の段落構成を論理的に考え、１段落を書き上げる。学期末には英語による短いプレゼンテーションを行う。

【３】　到達目標

英語の聞き取り教材(映像)から以下のことを目標に学修する。
1.学生は教材を聞き、話の概要を説明することができる。
2.学生は概要についてワークシートで学習をし、英語の質問に対し、英語で答えることができる。
3.学生はスクリプトを読み、文法的観点から重要な個所を正確に和訳することができる。
4.学生は学習した内容をさらに深めるために、資料の読解をし、それによってより広い社会的文脈の中で学習内容を討議することができる。
5.授業内討論を通して、学生自身と他者の認識を含めながら、当該時間のテーマの社会的意義を各自考察できる。
6.授業内活動である英語による発表も、学生は極的に取り組むことができる。

【４】　ディプロマ・ポリシーとの関連

到達目標を達成することにより、以下の能力を身につけることにつながります。

１．自然科学を看護活動の根拠とし、実践に活かす基礎的な力を有している。

３．他者の多様な価値観を理解し、尊重することができる。

【5】　授業計画

	項目	内容および授業方法 予習・復習・キーワード	担当教員
1・2回	授業概要説明	講義 内容：授業の概要を確認する。 学期末にプレゼンテーションを行うため、テーマや、プレゼンテーション作成手順（原稿作成、トピック、主題文の説明）など概要を紹介する。 これまでの英語の学習履歴から、英文の構成と和文の構成の違いを復習、確認する。 予習・復習：配布された資料を次回までに再度読む。 キーワード：power point, recording, presentation, structure of English writing	青木敬子
3・4回	食育　1	講義・グループワーク 内容：聞き取りをして、内容を推測する。キーワードの理解、確認後、さらにワークシートで内容を理解する。 予習・復習：配布された資料を次回までに読み、概要を捉える。 キーワード： fresh ingredients, processed ingredients, school meals	青木敬子
5・6回	食育２	講義・グループワーク 内容：映像を見て聞き取りをして、内容を推測する。キーワードの理解、確認後、さらにワークシートで内容を理解する。 予習・復習：配布された資料を次回までに読み、概要を捉える。 キーワード： fresh ingredients, processed ingredients, school meals	青木敬子
7・8回	食育３	講義・グループワーク 内容：映像スクリプトの表現について、要点を和訳する。 SNSなどで様々な意見を探して読み、自分の意見を表明する。 予習・復習：配布された資料を次回までに読み、概要を捉える。 キーワード：discussion, social matters	青木敬子
9・10回	食育４	講義・グループワーク 内容：食事について英文記事を読む。その食事について自分なりに分析する。 予習・復習：配布された資料を次回までに読み、概要を捉える。 キーワード：meals, chemicals, nutrients, food power	青木敬子
11・12回	中間テスト　および フィードバック	内容：これまでの内容理解度を測るテスト、TOEIC試験対策の練習テスト 予習・復習：これまで配布された資料を次回までに読み、重要事項をまとめておく。 キーワード：summarizing script, reading comprehension, listening and responding	青木敬子
13・14回	英文ライティングの構成要素	Moodle 遠隔授業（オンデマンド） 内容：英文の段落構成について考える。主題文の重要性 予習・復習：ワークシートの完成 キーワード：主題文の重要性、段落構成要素	青木敬子
15・16回	英文の表記法	Moodle 遠隔授業（オンデマンド） 内容：英文の表記法について、実践的な問題を通して修得する。 予習・復習：ワークシートの完成 キーワード：punctuation（表記）、writing style(書式)	青木敬子
17・18回	英文段落構成演習	Moodle 遠隔授業（オンデマンド） 内容：英文段落を書くときの、構成要素を問題演習を通して考える。 予習・復習：ワークシートの完成 キーワード：主題文の重要性、段落構成	青木敬子
19・20回	食育　5	Moodle 遠隔授業（オンデマンド） 内容：資料を読み、内容を推測し、段落構成要素を分析する。キーワードの理解から食事の分析を参考にする。 予習・復習：配布された資料を読み、問題について考える。食育４と連動するので、復習して考える。 食事について分析した英文を読む。自分の食事を振り返り分析する。考えをまとめる。 キーワード：meals, chemicals, nutrients, paragraph structures	青木敬子
21・22回	プレゼンテーション　テーマ	講義・グループワーク 内容：自分のプレゼンテーションのテーマを決め、１段落を書く。グループで共有し、助言し合う。 予習・復習：13ー18の資料を復習して、主題文を書き、英文を書く。 キーワード：the first draft, topic sentence, brain storming	青木敬子
23・24回	プレゼンテーションの原稿作成	講義・グループワーク 内容：パワーポイントのスライドを作成して発表の準備をする。パワーポイントに録音をする。最終原稿を確認する。 予習・復習：13ー18の資料を復習して、英文を書く。またはパワーポイントのデータ作成、録音。 キーワード：the structure（段落構成）、narrowly focusing（深くテーマを追求する）	青木敬子

25・26回	プレゼンテーション	プレゼンテーション 内容：リサーチした内容を発表する　（パワーポイントの音声から視聴） 予習・復習：原稿の校正 キーワード：speech speed, performance	青木敬子
27回	プレゼンテーション総括	講義 内容：プレゼンテーション視聴と、全体の総括 授業全体へのフィードバック 正確な校正後、プレゼンテーションの原稿を提出	青木敬子

【６】　事前・事後学習とその時間

教材の内容をワークシートで予め理解し授業に臨み、既習内容は授業後ワークシートで復習する。
予習と復習で1時間半を費やす。

【７】　評価方法・基準

授業内発表、ワークシートの内容に沿ったディスカッションなど２０％、授業内提出物（小テスト）３０％、定期（中間）試験及び期末レポート５０％。

【８】　フィードバック方法

小テストや中間試験の後、重要なポイントや誤りの多かった箇所についてフィードバックを行います。

【９】　教科書

授業中に印刷物を配布。またはmoodle上に資料を提示する。

【10】　参考書

特になし。

【11】　備考(関連科目等)

実用医療ＩA、実用英語ＩB、実用英語Ⅱ、実用英語Ⅲ

科目名(日本語)	**健康生活支援論**	必修・選択区分	授業形態	開講学期・学年	単位数
科目名(英語)	Theory of Healthy Life Support	選択	講義	春学期 4年	1単位 15時間
科目責任者	下尾直子				
担当教員	下尾直子				
科目責任者 連絡先(教室)	nshimoo1962@gmail.com				
オフィスアワー	授業実施日の昼休み等に時間を設ける 開講期間は、公開メール等でも質問等を受付ける				

【１】　授業方法(ALの要素、ICTの活用等)

１－１．アクティブラーニングについて

実施する

１－２．アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素

ＰＢＬ（課題解決型学習）
ディスカッション、ディベート
グループワーク

２－１．双方向授業でのＩＣＴの活用について

活用しない

【２】　授業概要

地域で暮らす人々、特に健康生活支援を要する障害児者とその家族の特徴、社会福祉・行政に携わる専門職の役割、主な理論・概念、地域支援方法、社会資源活用などの基本知識を理解する。さらに、自閉症、アスペルガー症候群、学習障害、注意欠陥多動性障害、性同一性障害などの発達障害の支援について考察する。

【３】　到達目標

近年、地域移行や自立生活および就労支援などを中心に障害者への支援の制度・施策が大きく変化している。また、2014年1月に批准された障害者権利条約は、2022年9月に初めての勧告が発表され、障害者の権利を地域社会でいかに擁護していくかという課題が注目されている。本講義では、制度改革や障害者に対する価値規範の変化を踏まえながら、障害者の生活実態やニーズの理解を深めるとともに、障害者支援の方法・実践活動、及び社会資源活用などについて理解することを目的とする。
　以上のことを踏まえ、具体的な学習目標（到達目標）は、以下の通りである。
１．障害のモデル及びICFを理解し、自身の「障害観」を説明できる。
２．知的障害・身体障害・精神障害・発達障害のそれぞれについて特性と支援の方法を説明できる。
３．障害者総合支援法における障害者支援について、概略を説明できる。
４．障害児者家族の心理とニーズ、及びその支援について説明できる。
５．自立生活運動の歴史と障害学について説明できる
６．障害者の地域生活における課題を理解し、自分の考えをもって議論することができる。

【４】　ディプロマ・ポリシーとの関連

到達目標を達成することにより、以下の能力を身につけることにつながります。

３．他者の多様な価値観を理解し、尊重することができる。

４．看護職の社会的責任を理解し、看護実践にまつわる倫理的課題を感受する力と熟考する力、それらに基づく判断を行動に表す力を身につけている。

６．自ら学ぼうとする好奇心をもち、生涯にわたり自己研鑽する姿勢を身につける。

【5】　授業計画

	項目	内容および授業方法 予習・復習・キーワード	担当教員
1・2	健康生活支援の理論①	・オリエンテーション ・健康及び障害の概念 講義・グループワーク 予習：これまでの授業から健康と障害について振り返る 復習：障害の概念について、周囲の人と話し合う キーワード：医学モデル、社会モデル、リハビリテーション	下尾直子
3・4	健康生活支援の理論②	・ICF(国際生活機能分類) ・実際のICF赤本を手に取ってみる 講義・グループワーク 予習：ICFについての一般的知識を整理する 復習：自分の生活をICFの項目で見直してみる キーワード：ICF、生活機能、環境因子、個人因子、実行状況と能力	下尾直子
5・6	健康生活支援の方法①	・４障害の特性 ・それぞれの障害の特性に応じた支援 講義・課題解決型ワーク、グループワーク 予習：これまでの授業等で得た障害についての知識を整理する 復習：授業内容の整理 キーワード：障害者基本法、障害の定義、	下尾直子
7・8	健康生活支援の方法②	・自立生活運動 ・障害学 講義、ディスカッション 予習：障害のある人の自立について自分の考えをまとめる 復習：関連図書を読む キーワード：自立生活、障害学、障害者権利条約、ノーマライゼーション	下尾直子
9・10	健康生活支援の方法③	・障害児者の家族の心理 ・家族支援の方法 講義 予習：障害者の家族の思いについて自分の考えをまとめる 復習：関連図書を読む キーワード：障害児者家族、家族支援、ピアカウンセリング	下尾直子
11・12	健康生活支援の方法④	・障害者総合支援法とその歴史 ・障害のある人の生活と支援 ・障害者支援をめぐる課題 講義・グループワーク 予習：障害者総合支援法について調べてみる 復習：授業内容の整理 キーワード：障害者総合支援法、障害支援区分、ガイドヘルパー、家事ヘルパー、重度訪問介護、地域	下尾直子
13・14	健康生活支援の展望	・障害にかかわる専門職と地域社会の役割 ・事例分析・考察 講義・ディベート 予習：これまでの授業を振り返る 復習：授業で学んだことを周囲の人と話しあう キーワード：エンパワメント、アドボケイト、意思決定支援、障害者虐待、広く浅い支援	下尾直子

【6】　事前・事後学習とその時間

準備学習（予習・復習等）についてはその都度、指示する。
日常的に社会の動きに関心を持ち、関連内容についての報道に触れることを求める。
自分の考えをまとめる予習に1時間程度、復習に1.5時間程度必要である。

【7】　評価方法・基準

通常点(授業への発言回数及びミニレポート)60%、レポート40%

【8】　フィードバック方法

ミニレポートには、次回授業において、特徴的な見解や誤解についてコメントする

【9】　教科書

指定なし。資料は必要に応じて適宜配布する

【10】　参考書

講義の中で適宜紹介する。

【11】　**備考(関連科目等)**

保健医療福祉行政論、コミュニティヘルス看護概論、リハビリテーション論、機能障害のある患者の看護、小児看護学、精神看護学、公衆衛生看護学など

科目名(日本語)	**コミュニティヘルス看護展開論**	必修・選択区分	授業形態	開講学期・学年	単位数
科目名(英語)	Community Health Nursing Methods	必修	演習	春学期 4年	1単位 30時間
科目責任者	佐瀬真粧美				
担当教員	佐瀬真粧美・小板橋恵美子・渡邊尚子・鳥田美紀代・島村敦子・植村直子・池田絹代・菅谷綾子・原田奈美・林華子・鈴木裕子・松浦志野				
科目責任者 連絡先(教室)	K319研究室 masami.sase@hs.toho-u.ac.jp				
オフィスアワー	授業終了後1時間。佐瀬の研究室（K319）。ただし、他授業のため不在の時間もあり、Moodleあるいはメールからの質問も受け付ける。				

【１】　授業方法(ALの要素、ICTの活用等)

１－１．アクティブラーニングについて

実施する

１－２．アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素

ディスカッション、ディベート
グループワーク
プレゼンテーション

２－１．双方向授業でのＩＣＴの活用について

活用する

２－２．ＩＣＴを活用する場合、その具体的名称（クリッカー、タブレット端末等）

Moodleを使用

【２】　授業概要

講義、演習、実習で培ってきた知識、考え方を総動員し、様々なコミュニティで、健康障害を持ちながら生活する人の事例について、コミュニティの特徴、健康を支える社会資源を実際に探索し、健康障害を持ちながらコミュニティで生きていくために必要なこと、あるいは必要と予測されることを導き出し、その生活を支えていくための計画を立案し提示する。また、他者が提示した事例を共有し、各々の場での看護の役割と実際について考察する。

【３】　到達目標

①事例におけるコミュニティの特徴を、健康生活の観点から説明することができる。
②事例の対象者個人が生活を続けていく上での健康課題を述べることができる。
③事例の家族を含めて、生活していく上での健康課題を述べることができる。
④事例のコミュニティが抱える健康課題を述べることができる。
⑤事例の健康課題に関連する要因について3つ以上具体的に述べることができる。
⑥健康課題を解決するために支えとなるコミュニティのしくみについて述べることができる。
⑦健康課題を解決するために必要な援助内容と根拠を述べることができる。
⑧健康課題解決のための援助における倫理的課題と対応について説明できる。
⑨コミュニティで健康的な生活をしていくために事例を支援する計画を立案し提示することができる。
⑩他者が提示した事例について、質問や自分の意見を述べることができる。
⑪他者が提示した事例を共有し、コミュニティヘルスにおける看護の役割と機能について、論述することができる。

【４】　ディプロマ・ポリシーとの関連

到達目標を達成することにより、以下の能力を身につけることにつながります。

１．自然科学を看護活動の根拠とし、実践に活かす基礎的な力を有している。

２．看護学の専門知識と技術を修得している。

３．他者の多様な価値観を理解し、尊重することができる。

４．看護職の社会的責任を理解し、看護実践にまつわる倫理的課題を感受する力と熟考する力、それらに基づく判断を行動に表す力を身につけている。

５．看護専門職として、リーダーシップおよびフォロワーシップを発揮し、チームの中で有機的に活動する資質を身につけている。

６．自ら学ぼうとする好奇心をもち、生涯にわたり自己研鑽する姿勢を身につける。

【5】　授業計画

	項目	内容および授業方法 予習・復習・キーワード	担当教員
1	コミュニティヘルス展開論の進め方	・オリエンテーション 講義 予習：2～3年で実施した実習で受け持った、あるいはかかわった事例を振り返る 復習：事例に関する情報の整理（様式１） キーワード：振り返り、事例選択、看護展開	佐瀬・全員
2 - 4	事例の作成・事例作成の確認	・健康課題に関する情報整理と考えられる健康課題の抽出（様式１） ・事例提出 ・事例修正 個人ワーク（事例相談） 予習：事例の情報整理、健康課題抽出 復習：事例の修正 キーワード：健康課題	全員
5 - 6	事例の作成 ・事例が所属するコミュニティの特徴をふまえたアセスメント ・看護展開	・学生は事例の所属するコミュニティを仮定し、実際に存在するしくみ等についてWeb上で検索し情報収集を行う。 ・実在するコミュニティの特徴をふまえたアセスメントを行う（様式２） ＊アセスメントの際には様式１と合わせ考える ・その後自由な発想で、看護展開を行う（様式３） 個人ワーク（事例相談） グループワーク 予習：コミュニティの特徴検索、事例のコミュニティの情報整理 復習：事例の修正 キーワード：コミュニティの健康課題、アセスメント、看護展開	全員
7	看護展開の確認	・作成した看護展開の発表準備を行う。 予習：事例の振り返り 復習：事例の修正 個人ワーク キーワード：健康課題、看護展開	全員
8・9	事例と健康課題、看護展開の考え方の紹介１	提示者：8名 ・各々、提示日を指定 ・指定された日時までに事例を提出 ・提示された事例を共有し、意見交換をMoodle上で行う。 ・当日、提示の担当ではない学生は、他事例を読み込み、自由に感想、意見を書き込む ・当日事例ごとに指定発言者を設け、提示者は回答が必要な意見に回答する。 プレゼンテーション、質疑応答、コメント入力 予習　事例を読む 復習　事例に意見を書き込む キーワード：コミュニティヘルス、看護展開	全員
10・11	事例と健康課題、看護展開の考え方の紹介２	提示者：8名 　内容は第8・9回と同様 プレゼンテーション、質疑応答、コメント入力	全員
12・13	事例と健康課題、看護展開の考え方の紹介３	（遠隔授業：Zoom、Moodle使用） 提示者：8名 　内容は第8・9回と同様 プレゼンテーション、質疑応答、コメント入力	全員
14・15	事例と健康課題、看護展開の考え方の紹介４	（遠隔授業：Zoom、Moodle使用） 提示者：8名 　内容は第8・9回と同様 プレゼンテーション、質疑応答、コメント入力	全員
16・17	事例と健康課題、看護展開の考え方の紹介５	提示者：8名 　内容は第8・9回と同様 プレゼンテーション、質疑応答、コメント入力	全員
18・19	事例と健康課題、看護展開の考え方の紹介６	提示者：8名 内容は第8・9回と同様 プレゼンテーション、質疑応答、コメント入力	全員
20・21	事例と健康課題、看護展開の考え方の紹介７	（遠隔授業：Zoom、Moodle使用） 提示者：8名 　内容は第8・9回と同様 プレゼンテーション、質疑応答、コメント入力	全員
22・23	事例と健康課題、看護展開の考え方の紹介８	（遠隔授業：Zoom、Moodle使用） 提示者：8名 　内容は第8・9回と同様 プレゼンテーション、質疑応答、コメント入力	全員
24・25・26	まとめ１	全体を通して、コミュニティにおける看護展開について振り返り考察する。 グループワーク、プレゼンテーション 予習　各自の看護展開への意見交換を振り返る 復習：グループワークの振り返り キーワード：グループワーク	全員

27	まとめ２	学生は課題レポートをまとめる。 テーマ「コミュニティヘルスにおける看護展開とは」 ＊事例をあらためてまとめてみて、また他者からの意見をふまえ、考察したこと、学修できたことも含む A4レポート2枚以内 1枚36～40字×36～40行、余白上下左右27～30㎜。 フォントは明朝体または游明朝体10.5ポイントとする。 用紙内にタイトル、学籍番号、氏名を記述する（12ポイント）。 個人ワーク 復習：プレゼンテーション実施後の自己評価、他者評価 キーワード：コミュニティヘルスケア計画	全員

【６】　事前・事後学習とその時間

【準備学習】
これまで、講義、演習、実習で学習してきたものを活用しての演習となるため、授業の進行に合わせての予習に1時間程度、当日の復習に1時間程度必要になる。
【学習上の留意点】
一生懸命まとめ、提示された事例には、関心を寄せるとともに、敬意をもって質問・感想など積極的に意見を述べていくこと。

【７】　評価方法・基準

課題レポート（50%）、提示した事例（30%）、他者が提示した事例への意見（20%）

【８】　フィードバック方法

フィードバックは、事例、意見交換へのコメント、まとめ時のコメント、課題レポートのコメントにて行う。

【９】　教科書

必要時資料を提示。

【10】　参考書

必要時資料を提示。

【11】　備考(関連科目等)

コミュニティヘルス看護概論、老年看護学、在宅看護論、公衆衛生看護学、臨床看護学、ファミリーヘルス看護領域科目、専門基礎教育科目、健康科学・人文科学

科目名(日本語)	**看護研究**	必修・選択区分	授業形態	開講学期・学年	単位数
科目名(英語)	Nursing Research	必修	演習	通年 4年	2単位 60時間
科目責任者	日高紀久江				
担当教員	日高紀久江他専任教員全員（共同）				
科目責任者 連絡先(教室)	日高紀久江：（研究室：K333）　kikue.hidaka@hs.toho-u.ac.jp				
オフィスアワー	各担当の指導教員と調整した方法で行います。指導教員の連絡先は各自確認してください。なお、メール転送の設定など、必ず大学からの連絡が受け取れる体制をとってください。				

【１】　授業方法(ALの要素、ICTの活用等)

１－１．アクティブラーニングについて

実施する

１－２．アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素

ディスカッション、ディベート
プレゼンテーション

２－１．双方向授業でのＩＣＴの活用について

活用する

２－２．ＩＣＴを活用する場合、その具体的名称（クリッカー、タブレット端末等）

Moodle　Zoom

【２】　授業概要

研究課題抽出からはじまり、研究計画書作成、倫理面の承認、データ収集・分析、そして、論文作成、さらに研究成果の発表までの一連の過程を体験的に学修します。このプロセスにおいて、学生は各自の研究課題に沿って看護研究を実施します。さらに、看護研究活動を通して、各自の看護観を明確にしていきます。

【３】　到達目標

1. 研究目的や方法を明確にするために文献検索およびクリティークを行うことができる
2. 文献検討を行い、研究疑問を明確にすることができる
3. 研究目的に適した研究方法を設定することができる
4. 研究を実施するために必要な倫理的配慮を設定することができる
5. 研究計画書を作成することができる
6. 研究方法に基づき、データ収集およびデータ分析を行うことができる
7. 研究結果を適切に示すことができる
8. 研究結果を文献と照合しながら、研究目的に基づき考察することができる
9. 研究成果を指定された書式に基づき論文として披露することができる
10. 自己の研究成果を他者にわかりやすく説明することができる
11. 他者とのディスカッションを通して、研究成果の意義、看護への応用について理解を深めることができる

【４】　ディプロマ・ポリシーとの関連

到達目標を達成することにより、以下の能力を身につけることにつながります。

１．自然科学を看護活動の根拠とし、実践に活かす基礎的な力を有している。

２．看護学の専門知識と技術を修得している。

３．他者の多様な価値観を理解し、尊重することができる。

４．看護職の社会的責任を理解し、看護実践にまつわる倫理的課題を感受する力と熟考する力、それらに基づく判断を行動に表す力を身につけている。

６．自ら学ぼうとする好奇心をもち、生涯にわたり自己研鑽する姿勢を身につける。

【５】　授業計画

	項目	内容および授業方法 予習・復習・キーワード	担当教員
	専門領域および担当指導教員の決定まで	・3年次秋学期（看護学実習終了後）に看護研究のガイダンスを実施する。ガイダンスにて専門領域および担当指導教員の決定までの流れを説明する。 ・学生は、自分の研究課題を検討する中で、『各領域・専門分野の相談方法』に則り、希望する領域・専門分野の教員に相談を行うことができる ・指定された期日までに『看護研究・領域等エントリー書式』に必要事項を記入し提出する ・3月下旬をめどに所属する専門領域が決定され、発表される。	日高紀久江
	4月以降	内容 １．研究疑問の整理 ・自らの研究疑問について明らかにしようと思った動機・どの時期のどの対象に対して、何を明らかにしたいと考えているかを文章化する ２．文献のクリティーク ・研究疑問に関する文献の要約を行い、クリティークを行う ３．研究疑問の焦点化と設定 ・研究動機、文献のクリティークを基に研究テーマと目的、研究意義を文章化する ４．研究デザイン・研究方法の設定と明確化 ・研究デザインと研究方法を設定し、文章化する ５．倫理的配慮の検討（人を対象とした研究の場合） ・対象者への依頼およびデータ収集方法・分析方法における倫理的配慮を検討する	全員
		６．研究計画書の作成 ・プロセス１～５において明確にされたことを研究計画書として作成する。 ・研究計画書に付随する書類を作成する（対象者への依頼文と同意書、アンケート調査票あるいはインタビューガイドなど） ＊人を対象とした研究を計画している場合は、健康科学部「看護研究倫理審査会」の審査を受ける ７．データ収集・データ分析 ・研究計画書に基づきデータを収集する ・得られたデータを分析し、文章化あるいは図表化する ８．考察の方向性の明確化 ・研究目的に基づき、研究結果の考察の方向性を明確にして文章化する ９．研究発表会 ・研究目的・方法・結果・考察をパワーポイントに整理し、研究成果のプレゼンテーションを行う ・他学生からの質問に応答する ・他学生のプレゼンテーションを聞き、質問する、あるいはコメントを述べる 10．報告書作成 ・研究発表会での他者からの質問・コメントを踏まえて看護研究論文の作成要領に則り、論文を作成する ・所定の期限までに看護研究論文の電子データを提出する	全員
	授業方法	・主に指導教員との個人面談による指導や助言をうけて研究を実施する。 ・各専門分野あるいは領域の進め方に則り、２回程度のゼミを行う。 ・ゼミにおいては、研究の進捗状況をプレゼンテーションし、他学生からの質問やコメントに応答する。また自らも他学生の研究内容に対して積極的に質問やコメントをする。学生間でのディスカッションを通じて、また同じ領域内の他の教員からも指導を受ける	全員
	研究発表会	・パワーポイントを用いたプレゼンテーション形式による発表会を行う ・発表会および方法については別に説明・周知する ・発表会前の所定期日までに看護研究の要旨を電子データにて提出する。	全員
	看護研究論文	・看護研究論文作成要領を参照し、論文を作成する ・所定の日時及び所定の方法にて看護研究論文の電子データを提出する	全員
	キーワード	研究疑問・クリティーク・研究動機・研究異議・研究目的・研究目的の焦点化・用語の定義・研究デザイン・研究方法・研究対象・調査内容・調査方法・分析方法・研究計画書・倫理的配慮・対象者への依頼文・同意書・データ収集・データ分析・研究結果・考察・研究成果の報告・プレゼンテーション	全員

【６】　事前・事後学習とその時間

・講義・演習、実習体験を通して得られた研究疑問に関連する文献を検索し、精読して臨んでください。
・指導教員と定期的な面談を行うことにより計画的に取りんでください。なお、面談の際は指導教員に事前にアポイントメントをとったうえで進めてください。
・ゼミや発表会においては、指定された課題や指示に沿って取り組んでください。特に、他者に対して自分の考えを論理的に伝える工夫を行うほか、他者の発表内容に対しても疑問や感想などを積極的に発言することを求めます。
・事前および事後課題はそれぞれのテーマや進捗によって必要時間は異なるため、効率的かつ計画的、自律的に取り組む必要があります。なお、指導教員との面談の際に、次回面談までの課題を明確にして取り組んでください。

【７】　評価方法・基準

研究論文（最終提出物）60%、プレゼンテーション・グループディスカッション25%、研究への取り組み15%

【８】　フィードバック方法

個別指導時やゼミ（グループ指導）等を通して、適宜フィードバックを行います。

【９】　教科書

特に指定しません。

【10】　参考書

・黒田裕子著：黒田裕子の看護研究　step by step　第6版，医学書院，2023.
・南裕子・野嶋佐由美編：看護における研究　第2版，日本看護協会出版会，2017.
・横山美恵編：よくわかる看護研究の進め方、まとめ方　第3版，医歯薬出版株式会社，2017.
・早川和生編著：JJNスペシャル　看護研究の進め方、論文の書き方　第2版，医学書院，2012.
・石井京子・多尾清子：ナースのための質問紙調査とデータ分析　第2版，医学書院，2002.
・田久浩志著：統計解析なんかこわくない　データ整理から学会発表まで　第2版，医学書院，2019.
・山川みやえ・牧本清子：よくわかる看護研究論文のクリティーク 第2版，日本看護協会出版会，2020.

以上の他、適宜教員から紹介します。各自の研究テーマ・研究方法に沿ってさまざまな文献や参考書に当たってください。

【11】　備考(関連科目等)

・関連科目：看護研究入門、研究方法の基礎

科目名(日本語)	**看護の役割と実践の探究**	必修・選択区分	授業形態	開講学期・学年	単位数
科目名(英語)	Inquiry into Clinical Nursing Practice	必修	演習	春学期 4年	1単位 30時間
科目責任者	佐瀬真粧美				
担当教員	佐瀬真粧美・鳥田美紀代				
科目責任者 連絡先(教室)	佐瀬真粧美　masami.sase@hs.toho-u.ac.jp　K319研究室				
オフィスアワー	授業終了後10分ほど講義室あるいは研究室にて質問を受ける。その後は、Moodleの質問機能やメールにて随時質問を受け付ける。 佐瀬真粧美　masami.sase@hs.toho-u.ac.jp 鳥田美紀代　mikiyo.torita@hs.toho-u.ac.jp				

【１】　授業方法(ALの要素、ICTの活用等)

１－１．アクティブラーニングについて

実施する

１－２．アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素

ディスカッション、ディベート
グループワーク
プレゼンテーション

２－１．双方向授業でのＩＣＴの活用について

活用する

２－２．ＩＣＴを活用する場合、その具体的名称（クリッカー、タブレット端末等）

Moodle

【２】　授業概要

これまでの看護学及び関連学問の学びを基盤とし、健康生活を支援する看護の役割について探究する。本科目は、同時期４年次に開講される「看護実践の探究」（実習）の前後に位置づけることにより、最後の臨地実習での学びと自身の看護観をふまえ、質の高い看護実践を目指し、倫理観に基づき行動することについて探究し、今後の看護専門職としての活動につなげていく。

【３】　到達目標

1.自己の看護観について言語化することができる。
2.自分の看護観と看護実践の関連について述べることができる。
3.看護専門職としての倫理観と望ましい行動について述べることができる。
4.看護職間あるいは他職種間における倫理的な行動について考えを述べることができる。
5.看護における教育の重要性について述べることができる。
6.質の高い看護を実践するために自分が貢献できることについて考えを述べることができる。
7.生命倫理シンポジウムへの参加によって得られた主な学びについて説明できる。
8.看護の機能の普遍性と様々な場で人々の健康生活を支援する看護の役割についての考えを述べることができる。

【４】　ディプロマ・ポリシーとの関連

到達目標を達成することにより、以下の能力を身につけることにつながります。

１．自然科学を看護活動の根拠とし、実践に活かす基礎的な力を有している。

２．看護学の専門知識と技術を修得している。

３．他者の多様な価値観を理解し、尊重することができる。

４．看護職の社会的責任を理解し、看護実践にまつわる倫理的課題を感受する力と熟考する力、それらに基づく判断を行動に表す力を身につけている。

５．看護専門職として、リーダーシップおよびフォロワーシップを発揮し、チームの中で有機的に活動する資質を身につけている。

６．自ら学ぼうとする好奇心をもち、生涯にわたり自己研鑽する姿勢を身につける。

【5】　授業計画

	項目	内容および授業方法 予習・復習・キーワード	担当教員
1	看護の役割とは	内容：1. 既存の知識の振り返り 2. これから探究していく「看護の役割」の基盤の共有 授業方法：講義・グループワーク 予習：これまで学修してきたものの中から、「看護の役割」について自分なりに言語化してくる 復習：授業内容の整理と考察 キーワード：看護、実践、役割	佐瀬　真粧美
2・3	看護観に基づいた看護実践	第1回に続けて実施 内容：1.看護者の看護観と対象理解、看護実践との関連に関する探究 2.自分の看護観の言語化の試み 3.実習体験事例の分析 授業方法：講義・個人ワーク(ワークシート①) 予習：既習した臨床実習において対象理解に難しさを感じた(あるいは印象に残っている)ケースについて、実習記録等から自身の思考や判断について振り返り、持参する。 復習：授業内容の整理と考察 キーワード：生活者、文化、社会的背景、価値観、看護観、看護における対象理解、看護活動	鳥田　美紀代
4・5	看護専門職としての倫理観	内容：1.看護専門職における倫理観と看護実践との関連に関する探究 2.実習体験事例の分析 授業方法：講義・個人ワーク(ワークシート②) 予習：既習した臨床実習での学びを振り返っておく。実習の中や看護学生としての日常生活で遭遇した倫理的課題について自分の経験を整理して持参する。 復習：事例分析の整理と考察 キーワード：倫理的感受性、医療者の倫理、倫理的現象、倫理的判断、自己分析とリフレクション	鳥田　美紀代
6・7	看護職間における倫理的な行動	第4・5回に続けて実施 内容：1. 看護職同士協力して実践するということ 2. 事例の分析 授業方法：講義・個人ワーク・グループワーク（ワークシート③） 予習：授業内で提示された課題の実施 復習：事例分析の整理と考察 キーワード：看護職間、倫理的感受性、価値観、倫理的判断、コンフリクト	佐瀬　真粧美
8・9	他職種間における倫理的な行動	内容：1. 他職種と協働し看護実践をするということ 2. 事例の分析 授業方法：講義・個人ワーク・グループワーク（ワークシート④） 予習：授業内で提示された課題の実施 復習：事例分析の整理と考察 キーワード：他職種の役割、他職種間、倫理的感受性、価値観、倫理的判断、コンフリクト	鳥田　美紀代
10・11	看護における教育	第8・9回に続けて実施 内容：1.看護専門職における看護教育の役割の探究 2.教育的場面における事例の分析 授業方法：講義・個人ワーク（ワークシート⑤） 予習：看護実践における教育的場面について想起し、整理してくる 復習：事例分析の整理と考察 キーワード：教育、看護教育、卒後教育、自己研鑽	佐瀬　真粧美
12・13	看護実践の質	内容1.看護実践の質とは 2.実習体験事例の分析 授業方法：講義・個人ワーク（ワークシート⑥） 予習：既習した臨床実習の記録を振り返る。 復習：授業内容の整理と考察 キーワード：看護の定義、対象理解、看護専門職としての実践、看護における質の判断	佐瀬　真粧美
14・15	質の高い看護実践を実現するための役割	第12・13回に続けて実施 内容1. 質の高い看護実践の実現とは 2. 自分があるいは自分たちが貢献できることとは 授業方法：グループワーク 予習：既習した臨床実習の記録を振り返る。 復習：グループワークの成果をもとに自分なりの看護実践の探究における自己の課題を考える キーワード：看護の定義、看護職者、対象者、チーム・組織、倫理観、教育、役割	鳥田　美紀代
16・17	グループワーク（1）	内容：1.第１～15回で学修した内容の振り返り 2.「看護実践の探究」における自己課題の振り返りと学びの共有 授業方法：講義・グループワーク、個人ワーク 予習：　第1回～15回の学修内容の整理、既習した臨床実習(看護実践の探究)の記録・学習記録を振り返り持参する。 復習：授業内容の整理と考察 キーワード：自己分析、看護実践、リフレクション、看護の専門性、専門性の発揮	鳥田　美紀代／佐瀬　真粧美

18・19	グループワーク（２）	第16・17回に続けて実施 内容：1.実習体験（看護実践の探究含む）の振り返り・情報共有 2.実習体験事例の分析（自己分析・グループディスカッション） 授業方法：グループディスカッション、個人ワーク 予習：既習した臨床実習(看護実践の探究含む)の記録・学習記録を振り返り、持参する。 復習：授業内容の整理と考察 キーワード：看護の質、看護の機能・役割、倫理観、看護観・臨床判断・実践の言語化、リフレクション	鳥田　美紀代／佐瀬　真粧美
20・21	グループワーク（３）	内容：1.実習体験事例の分析（グループディスカッション） 2.グループ発表準備 授業方法：グループディスカッション、個人ワーク 予習：グループ発表の準備 復習：この科目の学修内容を振り返る。 キーワード：看護の質、看護の機能・役割、倫理観、看護観、臨床判断、実践の言語化、リフレクション	鳥田　美紀代／佐瀬　真粧美
22・23	グループ発表・全体討議 ・まとめ	第20・21回に続けて実施 内容：1.テーマに沿ってグループで討議した内容のプレゼンテーション 2.当科目の学びを統合し、看護の課題と展望について考察する 3.全体討議・まとめ 授業方法：グループ発表・全体討議・講義 予習：グループ発表の準備 復習：この科目の学修内容を振り返り、看護専門職としての自己の課題を考える。 キーワード：看護の質、看護の機能・役割、倫理観、看護観、自己研鑽、プレゼンテーション、リフレクション	鳥田　美紀代／佐瀬　真粧美
24-27	生命倫理シンポジウム	内容：異なる価値観を持つ人々との共存における、対話と相互理解、合意形成について考える 授業方法：【５学部合同オンライン授業】講義、グループディスカッション、発表 予習：提示された課題を期限までに実施する 復習：学びの振り返り、アンケートへの回答 キーワード：グローバル化、多文化、多様性、価値観、協働、対話、相互理解、合意形成	佐瀬真粧美

【６】　事前・事後学習とその時間

【準備学習】
既習の関連科目の復習をして臨むこと。臨地実習記録類から実習体験事例を整理して臨むこと。本授業は，予習復習に1.5時間程度を要する。
【学習上の留意点】
グループワークでは、ディスカッションへの積極的な参加を求める。

【７】　評価方法・基準

ワークシート60%、課題レポート40%

【８】　フィードバック方法

ワークシートおよび課題レポートの内容について，各回の担当教員が確認ののち，後半の全体討議やまとめの授業回において疑問や質問に対するコメントを返す。また，グループワーク実施後は全体講評を行う。

【９】　教科書

必要に応じてMoodleで資料を配布。

【10】　参考書

必要に応じて授業内で関連文献を紹介する。

【11】　備考(関連科目等)

看護学の講義・臨地実習、看護実践の探究

科目名(日本語)	**臨床実践技術の探究**	必修・選択区分	授業形態	開講学期・学年	単位数
科目名(英語)	Inspection of Nursing Skills	必修	演習	秋学期 4年	1単位 30時間
科目責任者	佐瀬真粧美				
担当教員	佐瀬真粧美　他 専任教員全員				
科目責任者 連絡先(教室)	佐瀬真粧美 (masami.sase@hs.toho-u.ac.jp (K319研究室)				
オフィスアワー	事例の理解に関する相談：10月～12月は、随時上記の科目責任者連絡先まで。 実技に関する相談：別途オフィスアワーを設ける(後ほど日時を提示する)。				

【1】　授業方法(ALの要素、ICTの活用等)

１－１．アクティブラーニングについて

実施する

１－２．アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素

ディスカッション、ディベート
グループワーク
プレゼンテーション
実習、フィールドワーク

２－１．双方向授業でのＩＣＴの活用について

活用する

２－２．ＩＣＴを活用する場合、その具体的名称（クリッカー、タブレット端末等）

Moodle、Zoom

【2】　授業概要

演習科目の基本技術や臨地実習を通して習得した看護の実践技術を統合して学習し、客観的に基礎教育で育成された看護実践能力を評価する。具体的には、コミュニケーション能力、アセスメント能力、安全かつ安楽な技術の提供、評価と再アセスメント、倫理観に基づいた行為であることなどを実践能力と捉え、総合的に評価する。本科目を通じて、自己の技術到達度を自覚し、看護専門職としての技術を探究する。

【3】　到達目標

1. 援助者としてのコミュニケーションが実施できる。
2. 「その人らしい暮らし」を重視した看護アセスメントを展開できる。
3. 科学的根拠に基づいた、看護援助技術が計画できる。
4. 安全・安楽に基づいた援助技術が実施できる。
5. 対象の状況に応じて、必要・適切な看護援助を順序立てて実施できる。
6. 看護の倫理観に基づいた援助技術が実施できる。
7. 看護技術における倫理的課題を考察できる。
8. 問題解決を通して、チームに貢献する自分の役割を自覚し、他者と協働できる。
9. 実施した技術をふり返り、自己の課題を明らかにできる。
10. 「看護技術とは何か」、自分の考えを論述できる。

【4】　ディプロマ・ポリシーとの関連

到達目標を達成することにより、以下の能力を身につけることにつながります。

１．自然科学を看護活動の根拠とし、実践に活かす基礎的な力を有している。

２．看護学の専門知識と技術を修得している。

３．他者の多様な価値観を理解し、尊重することができる。

４．看護職の社会的責任を理解し、看護実践にまつわる倫理的課題を感受する力と熟考する力、それらに基づく判断を行動に表す力を身につけている。

５．看護専門職として、リーダーシップおよびフォロワーシップを発揮し、チームの中で有機的に活動する資質を身につけている。

６．自ら学ぼうとする好奇心をもち、生涯にわたり自己研鑽する姿勢を身につける。

【５】　授業計画

	項目	内容および授業方法 予習・復習・キーワード	担当教員
1･2	オリエンテーション	授業方法：講義 内容：科目のねらい、スケジュール、学習方法、試験項目の開示 事例の提示	佐瀬真粧美
3･4	事例検討	授業方法：講義（遠隔授業を併用） 内容:試験で用いる事例についての理解を深める。 予習：事例の疾患、発達段階、検査データ、観察データなどの理解を各自進めておく。 復習：看護の視点、技術の工夫点などを各自まとめる。 キーワード：看護展開、関連図の作成、患者理解、疾病理解、技術チェックリスト	全員
5･6	技術学習	授業方法：演習 内容:試験で用いる技術を練習する。 予習：技術の目的、方法をまとめる。参考動画を視聴する。 復習：反復練習を行う。 キーワード：看護展開	全員
7･8	技術学習	上に同じ	全員
9・10	技術学習	上に同じ	全員
11･12	技術学習	上に同じ	全員
13･14	直前オリエンテーション	授業方法：講義 内容：事前学習の確認、スケジュールの確認、質疑応答	全員
15･16	技術試験1	授業方法：試験(看護実技) 内容：各看護専門領域の技術テストOSCEを実施する。 試験は①実技、②フィードバックの2段階を3回（3種目）行う。 ①の実施内容は、10月に提示された事例に必要とされる各専門領域の看護技術3種目を、シミュレーターモデルや模擬患者を相手に実践する。 ②のフィードバックは、評価教員、実技種目によって模擬患者から行う。 予習：事例に沿った技術の練習 復習：日々のリフレクションシートの記載 キーワード：OSCE（客観的臨床能力評価）、タスク技術、コミュニケーション、タイムトライアル	全員
17･18	技術試験1	上に同じ	全員
19･20	技術試験2	授業方法：試験（看護実技・ディスカッション） 内容：チーム連携技術試験を実施する。 試験は①ブリーフィング、②実践、③デブリーフィングの3段階で行う。 ②実践の内容は、10月に提示した事例について、シミュレーターを対象にチームで看護（観察、緊急時の対応などの技術）を実践する。 実施後の③デブリーフィングは、評価教員とともにグループで行う。 予習：事例に沿った看護計画、および技術の練習 復習：日々のリフレクションシートの記載 キーワード：チーム連携、コミュニケーション、タイムトライアル、ブリーフィング、デブリーフィング	全員
21･22	技術試験2	上に同じ	全員
23・24	まとめ１	授業方法：講義 内容：看護技術とは 予習：各自で技術試験の振り返りをしておくこと 復習：日々のリフレクションシートの記載（講演聴講後に考えたことや感想など）	佐瀬真粧美・ゲストスピーカー・運営担当教員他
25・26	まとめ２	授業方法：グループワーク・発表 内容：グループに分かれ「看護技術とは」について自由に探究し、その内容を発表し共有する 予習：各自で1年生から学修してきた「技術」について振り返りをしておくこと 復習：科目アンケートの記載	佐瀬真粧美・運営担当教員他
27	レポート作成	授業方法：課題学習 内容：看護技術とは 予習：各自で技術試験のフィードバックをしておくこと 復習：レポート提出（3000～4000字）	全員

【６】　事前・事後学習とその時間

【準備学習】
10月の初回のオリエンテーションにて、事前学習について説明する。それ以外に、これまで看護の基本技術1～12で学んだことを復習しておくこと。
予習：事例の提示を技術試験の約2ヶ月前に行う。最低でも、事例に関する事前学習に6時間、看護計画を実践するための準備や技術自己練習に6時間は予習を行う。
復習：技術試験後の評価者からのフィードバックを踏まえ、日々のリフレクション課題を完成させる。30分程度の時間を要する。
また、全課程終了後にレポートを提出する。

【学習上の留意点】
本科目ではいくつかの技術試験を行う。その中にはコミュニケーション能力やアセスメント能力、援助者としての態度（倫理的配慮を含む）、発達段階への配慮、個別性へのなども含まれる。それらも復習して参加すること。

【７】　評価方法・基準

技術試験60%、リフレクション課題10%、レポート30%。
配点表を作成し、公平性・客観性を保ち評価を行う。

【８】　フィードバック方法

テスト終了時、担当教員や模擬患者より各自に（チーム活動後はチーム毎に）口頭にてフィードバックを行う。

【９】　教科書

これまで使用した教科書や参考書、授業資料、ノートなどを参照すること。

【10】　参考書

上に同じ。

【11】　備考(関連科目等)

看護の基本技術1～12、各臨地実習、看護倫理　など

科目名(日本語)	**看護管理論**	必修・選択区分	授業形態	開講学期・学年	単位数
科目名(英語)	Nursing Administration	必修	講義	春学期 4年	1単位 15時間
科目責任者	尾立篤子				
担当教員	尾立 篤子、宮崎 裕子、蜂ヶ崎 令子				
科目責任者 連絡先(教室)	尾立篤子：研究室（K328）atsuko.oryu@hs.toho-u.ac.jp				
オフィスアワー	授業終了後10分程度、講義室にて質問を受ける。Moodleでの連絡も可能。				

【1】　授業方法(ALの要素、ICTの活用等)

１－１．アクティブラーニングについて

実施する

１－２．アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素

反転授業
ディスカッション、ディベート
グループワーク
プレゼンテーション
その他

「その他」の内容

体験学習

２－１．双方向授業でのＩＣＴの活用について

活用する

２－２．ＩＣＴを活用する場合、その具体的名称（クリッカー、タブレット端末等）

Moodle

【2】　授業概要

組織的で適切な看護提供のために必要な看護管理に関する基礎的知識・理論を学び、看護管理のあり方や課題について考える。またチーム医療、多職種との協働、リーダーシップ、医療安全、リスクマネジメントについて看護管理の視点から考察する。
さらに、高度化・多様化する医療・看護に適応するために、ライフワークバランスを考慮した自身のキャリアビジョンについて検討する。
そして、看護管理の立場から医療・看護の質保証を目指す思考過程と手法について学ぶ。

【3】　到達目標

1. 看護管理の基礎となる理論について説明することができる。
2. 看護を取り巻く保健・医療・福祉のしくみについて説明することができる。
3. 看護職の役割・機能について説明することができる。
4. 看護提供システムについて説明することができる。
5. チームにおける看護と他職種の協働・連携について説明することができる。
6. 保健・医療・福祉の協働・連携について説明することができる。
7. 個人情報を保護するための情報管理について説明することができる。
8. 医療安全の基本的な考え方と看護師の役割について説明することができる。
9. 看護の質向上に向けた活動について説明することができる。
10. 看護職者の多様なキャリアを踏まえて自分自身のキャリア・ビジョンを記述できる。
11. 組織開発の概念と手法を説明できる。
12. 政策過程とそれへの参画方法を説明できる。

【4】　ディプロマ・ポリシーとの関連

到達目標を達成することにより、以下の能力を身につけることにつながります。

１．自然科学を看護活動の根拠とし、実践に活かす基礎的な力を有している。

２．看護学の専門知識と技術を修得している。

３．他者の多様な価値観を理解し、尊重することができる。

４．看護職の社会的責任を理解し、看護実践にまつわる倫理的課題を感受する力と熟考する力、それらに基づく判断を行動に表す力を身につけている。

５．看護専門職として、リーダーシップおよびフォロワーシップを発揮し、チームの中で有機的に活動する資質を身につけている。

６．自ら学ぼうとする好奇心をもち、生涯にわたり自己研鑽する姿勢を身につける。

【5】　授業計画

	項目	内容および授業方法 予習・復習・キーワード	担当教員
1・2回	看護管理の基礎理論	1. 看護管理とは 2. 看護管理で活用する主な理論・概念 3. 専門職の機能とサービス 4. 看護サービスマネジメント 5. 看護管理者の資質 講義、ディスカッション 予習：関連する参考資料、インターネットを活用して関連情報に目を通す 復習：配布資料、授業内容を復習する　ワークシートを記載し提出する キーワード：制度、看護管理、マネジメント理論、組織論、権限・責務、リーダーシップ論、意思決定、看護サービス、管理者	尾立　篤子
3・4回	人材マネジメント・看護職キャリア	1. 看護職者キャリアとは 2. キャリア形成を支援する仕組み 3. キャリア・ビジョンの考察 講義・グループワーク 予習：事前に配布するワークシートを記載し、授業に持参する 復習：ミニッツ・ペーパーの記述 キーワード：キャリア形成	尾立　篤子
5・6回	看護管理方法論(1)	1. 看護サービスの質評価 2. リスクマネジメント 講義・グループワーク 予習：関連する参考資料、インターネットを活用して関連情報に目を通す 復習：配布資料、授業内容を復習する　ワークシートを記載し提出する　課題の提出 キーワード：看護サービス、質評価、リスクマネジメント、資源獲得・配分、アウトカムマネジメント、人的資源管理、マネジメントスキル	蜂ヶ崎　令子
7・8回	看護管理方法論(2)	1. 看護マネジメントスキル 2. 協働・連携のマネジメント 講義・グループワーク 予習：関連する参考資料、インターネットを活用して関連情報に目を通す 復習：配布資料、授業内容を復習する　ワークシートを記載し提出する キーワード：　チーム医療、他職種、保健・福祉、協働・連携	尾立　篤子
9・10回	看護管理方法論(3)	1. 倫理面のマネジメント 講義・グループワーク 予習：関連する参考資料、インターネットを活用して関連情報に目を通す 復習：配布資料、授業内容を復習する　ワークシートを記載し提出する キーワード：倫理、ICN看護倫理綱領、患者の権利、人権尊重・擁護	尾立　篤子
11・12回	看護サービスのマネジメント	1. 看護サービスのマネジメント 2. 看護提供システム 講義、グループワーク 予習：関連する参考資料、インターネットを活用して関連情報に目を通す 復習：配布資料、授業内容を復習する　ワークシートを記載し提出する　課題の提出 キーワード：管理プロセス、組織、人事、労務、財務、情報、職位・専門による管理内容の違い	宮崎　裕子
13・14回	組織マネジメント、看護管理の展望	1. 組織の変革・開発 2. 職員がいきいき働ける職場を作るための方策 3. 看護に関する政策の立案から法制化までの過程 4. 政策への参画方法を考察 5. 看護管理の展望 講義 予習：なし 復習：授業で配布する資料を精読し，課題（ワークシート）に取り組む。 キーワード：システム理論、変革理論、コーチング、政策過程	尾立　篤子

【6】　事前・事後学習とその時間

看護学全般に関連する科目であることから、キーワードについて検索して予習し受講すると共に、毎回の講義の内容を復習して整理して下さい。この予習・復習は学習目標の達成に着目して進めてください。これらに費やす時間はおおよそ1～2時間程度です。

【7】　評価方法・基準

討議における発言回数とその内容（40%）課題レポート（40%）、小テスト（20%）を総合して評価する。

【8】　フィードバック方法

次回の授業で、課題の中の特徴的な見解や誤解についてコメント、解説する。

【９】　教科書

指定しない。授業時に資料配布。

【10】　参考書

上泉和子他著：系統看護学講座　看護と統合の実践（１）看護管理、医学書院
中西睦子他著：看護サービス管理、医学書院
ベナー，P. 井部俊子他訳.　ベナー看護論　新訳版.　医学書院.　2005
センゲ，P. 枝廣淳子他訳.　学習する組織.　英治出版.　2011
見藤隆子他.　看護職者のための政策過程入門　第2版.　日本看護協会出版会.　2017

【11】　備考(関連科目等)

コミュニケーション論、プレゼンテーション論、法学、組織論、経済学、看護倫理学、看護安全論、チーム活動論、看護実践の探究

科目名(日本語)	**エンドオブライフケア**	必修・選択区分	授業形態	開講学期・学年	単位数
科目名(英語)	End of Life Care	必修	講義	春学期 4年	1単位 15時間
科目責任者	鳥田美紀代				
担当教員	鳥田美紀代、臼井雅美、佐瀬真粧美、小板橋恵美子、島村敦子、瀧口千枝				
科目責任者 連絡先(教室)	鳥田美紀代（mikiyo.torita@hs.toho-u.ac.jp） 健康科学部棟３F　研究室10（K320）				
オフィスアワー	授業終了後～13時50分まで、講義室または各回担当の教員の研究室において質問を受け付ける。これに加え、Moodleの質問機能、メール等でも随時質問を受け付ける。なお、メールでの連絡先は以下の通りである。 鳥田美紀代（mikiyo.torita@hs.toho-u.ac.jp）、佐瀬真粧美（masami.sase@hs.toho-u.ac.jp）、 小板橋恵美子（emiko.koitabashi@hs.toho-u.ac.jp）、臼井雅美（masami.usui@hs.toho-u.ac.jp）、 島村敦子（atsuko.shimamura@hs.toho-u.ac.jp）、瀧口千枝（chie.takiguchi@hs.toho-u.ac.jp）				

【１】　授業方法(ALの要素、ICTの活用等)

１－１．アクティブラーニングについて

実施する

１－２．アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素

ディスカッション、ディベート
グループワーク

２－１．双方向授業でのＩＣＴの活用について

活用する

２－２．ＩＣＴを活用する場合、その具体的名称（クリッカー、タブレット端末等）

Moodle

【２】　授業概要

様々な疾患、事故、高齢などにより終末期にある人とその家族を対象とする看護、エンドオブライフケアについて学ぶ。人生の最期にある対象とその家族の特徴、終末期医療とケアの特徴、看護の役割と機能、看護活動の場の特徴、主な理論・概念、対象の全体像把握、ＱＯＬ維持・向上や苦痛症状に対する援助など基礎知識を理解する。また、人生の最後を生き抜く患者をケアするための根拠ある看護実践の展開方法について学ぶ。さらに、死生観について考察を深める。
なお、本科目は公衆衛生看護学における終末期にある人々を支えるための保健活動を学修するための基礎となる科目である。

【３】　到達目標

1.エンドオブライフケアの考え方について説明できる。
2.エンドオブライフケアに活用する主な概念と理論について説明できる。
3.老年期におけるエンドオブライフケアの特徴と看護について説明できる。
4.クリティカルケア領域におけるエンドオブライフケアの特徴と看護について説明できる。
5.小児におけるエンドオブライフケアの特徴と看護について説明できる。
6.エンドオブライフの時期にある人々への看護の実際について説明できる。
7.コミュニティにおける看取りケアの看護活動方法について説明できる。
8.コミュニティにおける遺族ケアの看護活動と課題について論説できる。
9.在宅ケア領域における看取りの看護実践について具体的に説明できる。
10.エンドオブライフケア実践上の課題について具体的に説明できる。
11.エンドオブライフケアにおける倫理的課題と対応について３つ以上具体的に説明できる。
12.エンドオブライフケアの授業を通して自分自身の死生観と看護観について論説できる。

【４】　ディプロマ・ポリシーとの関連

到達目標を達成することにより、以下の能力を身につけることにつながります。

１．自然科学を看護活動の根拠とし、実践に活かす基礎的な力を有している。

２．看護学の専門知識と技術を修得している。

３．他者の多様な価値観を理解し、尊重することができる。

４．看護職の社会的責任を理解し、看護実践にまつわる倫理的課題を感受する力と熟考する力、それらに基づく判断を行動に表す力を身につけている。

６．自ら学ぼうとする好奇心をもち、生涯にわたり自己研鑽する姿勢を身につける。

【5】　授業計画

	項目	内容および授業方法 予習・復習・キーワード	担当教員
1,2	エンドオブライフケアの基礎知識	授業内容 エンドオブライフケアの考え方の変遷や関連する概念 方法：講義 予習：関連する科目の内容を振り返って臨む 復習：授業内容の整理・考察 キーワード：社会状況、文化的背景、終末期医療、意思決定、生活の質（QOL）、アドバンス・ケア・プランニング（ACP）	鳥田美紀代（ゲストスピーカー予定）
3,4	在宅ケア領域における看取りの看護	授業内容 看取りの看護実践の展開方法と課題 方法：講義 予習：在宅における看取りについて、既習の内容を振り返って臨む 復習：看取り準備の整理、授業考察 キーワード：看取りの儀式、看取りの文化、看取りの看護ケア、実践活動の根拠、遺族、グリーフケア	島村敦子
5,6	高齢者のエンドオブライフケアの特徴と看護	授業内容 エンドオブライフケアの時期にある高齢者のアセスメント、ケアの特徴とその看護 方法：講義、グループワーク、ディスカッション 予習：高齢者の成長発達、終末期について、関連する既習科目の内容を振り返って臨む 復習：授業内容の整理、考察 キーワード：高齢者の生き方、日常生活援助、尊重したケア、家族支援、実践活動の根拠、意思決定支援、成年後見制度、意向の確認、療養生活の場の移行	鳥田美紀代
7.8	がんによりエンドオブライフケアの時期にある人々への看護の実際	授業内容 がんによりエンドオブライフケアの時期にある患者・家族の看護 方法：講義 予習：がん終末像、がん終末期の経過、緩和ケア、がん医療に関わる倫理的課題 復習：がん終末期におけるチーム活動について考察 キーワード：事例分析、トータルペイン、生き抜く人へのケア、家族ケア、療養場所、実践活動の根拠，QOL，倫理的ジレンマ，死生観，看護観、ケアにあたった医療者への支援	鳥田美紀代（ゲストスピーカー予定）
9,10	クリティカルケア領域におけるエンドオブライフケアの特徴と看護	授業内容 予期しない死にいたる人とその家族の看護 ・クリティカルケア領域におけるエンドオブライフケア ・クリティカルケア領域において患者を亡くす家族のケア ・クリティカルケア領域においてエンドオブライフケアに関わる看護者のケア 方法：講義 予習：本科目の前回までの講義を振り返って臨む。 復習：予期しない死の状況と家族ケアについて考察 キーワード：症状コントロール、救命救急、院内急変，自殺，不慮の事故，脳死，DNAR、ベストサポーティブケア（BSC）、事前指示，代理意思決定支援，悲嘆反応、グリーフケア、尊厳と擁護、悲嘆ケア、デスカンファレス、医療者のPTSD	瀧口千枝
11,12	小児におけるエンドオブライフケアの特徴と看護	授業内容 小児におけるエンドオブライフケアの特徴とその看護 方法：講義 予習：エンドオブライフケアの時期にある子どもと家族の看護について既習科目の内容を振り返って臨む。 復習：授業内容の整理。子どもの死について考察する。 キーワード：子どもにとってのエンドオブライフケアとは、子どものエンド・オブ・ライフケア指針、生育限界・成育限界、重篤な疾患を持つ新生児の家族と医療スタッフの話し合いのガイドライン、グルーフケア	臼井雅美
13	コミュニティにおける看取り・遺族の看護	授業内容 コミュニティにおける看取りケア／遺族ケアの看護活動方法と展望 方法：講義 予習：遺族と看護 復習：コミュニティにおける看取りケアの特徴の整理 キーワード：事例、コミュニティにおける看取り、遺族、地域サポート、住民教育、地域ケアシステム、孤独死、看護の役割	小板橋恵美子
14	エンドオブライフケア実践上の課題と展望	授業内容 エンドオブライフケア実践上の課題と展望 方法：講義 予習：本科目のこれまでの授業回の内容を振り返る 復習：エンドオブライフケアにおける看護の役割、姿勢について考察して、課題レポートを書く キーワード：事例分析、倫理、意思決定、受容、アドバンス・ケア・プランニング（ACP）	佐瀬真粧美

【6】　事前・事後学習とその時間

既習の関連科目の復習をして臨むこと。本授業はエンドオブライフの時期の多様な状況を理解し，根拠あるケアの考え方を習得した上で，エンドオブライフケアにおける看護の役割を探求し，死生観及び看護観を養うことをねらっているため，関連内容について予習に1時間程度，復習に1時間程度を費やす。

【７】　評価方法・基準
各授業回の課題（ワークシート含む）６０％、最終課題レポート４０％

【８】　フィードバック方法
課題レポートおよびワークシートの内容について，各回の担当教員が確認ののち，次回の授業やMoodleのフィードバック機能を用いて疑問や質問に対するコメントを返す。

【９】　教科書
必要に応じて授業で資料を配布、またはMoodle等で資料を配信する。

【10】　参考書
谷本真理子、増島真理子（編）：看護テキストNice　エンドオブライフケア その人にとっての最善をめざして、南江堂、２０２２.

【11】　備考(関連科目等)
専門分野の概論、方法論、臨床実習、倫理学、看護の役割と実践の探究、看護実践の探究

科目名(日本語)	**国際保健論（災害看護論を含む）**	必修・選択区分	授業形態	開講学期・学年	単位数
科目名(英語)	Introduction to Global Health	選択	講義	秋学期 4年	1単位 15時間
科目責任者	石本　馨				
担当教員	石本馨・内木美恵				
科目責任者 連絡先(教室)	（石本）（内木） 初回授業時に連絡方法を伝える。				
オフィスアワー	（石本） 授業終了後の10分程度教室内にて質問を受け付ける。 （内木） 授業終了後の10分程度教室内にて質問を受け付ける。				

【１】　授業方法(ALの要素、ICTの活用等)

１－１．アクティブラーニングについて

実施する

１－２．アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素

ディスカッション、ディベート
グループワーク
プレゼンテーション
実習、フィールドワーク

２－１．双方向授業でのＩＣＴの活用について

活用する

２－２．ＩＣＴを活用する場合、その具体的名称（クリッカー、タブレット端末等）

Moodle

【２】　授業概要

国際社会を対象に、保健衛生の動向、主な健康問題とその対策の推移、保健医療体制とその背景、支援活動など国際保健の基礎知識を学び、人間の健康生活支援に関するグローバルな視点を理解する。また、国内外で起こる自然災害等が及ぼす人間、家族、地域への影響、災害医療・災害看護の歴史、基礎知識、安全保障への支援、看護の役割と機能についてなど学ぶ。さらに、国際的な協力体制、災害状況における支援活動について考察する。
（石本馨／７回）国際保健論について概説し、健康の社会的決定要因、世界の人々の健康を保持増進するための支援活動・保健活動及び国際的な協力体制、母子保健に対する取り組みの現状と展望などについて
（内木美恵／７回）災害、災害医療を概説し、災害による生活の変化、そして環境変化による健康への影響、および看護師の役割と支援活動のあり方について

【３】　到達目標

1.国際社会における主な健康問題３つとその対策の推移について説明できる。
2.国際社会における健康生活支援活動の課題について３つ以上説明できる。
3.国際保健活動における医療専門職者の役割と多職種連携について述べることができる。
4.日本にいながら国際保健に貢献できることを理解する。
5.災害の概念を理解し説明できる。
6.災害看護の概念を理解し説明できる。
7.災害時の看護師の役割を理解し、説明できる。
8.被災者特性と、対象に応じた看護を理解し、説明できる。
9.災害時のメンタルヘルス保健について理解し、説明できる。
10.国際保健活動・災害看護における倫理的課題について説明できる。

【４】　ディプロマ・ポリシーとの関連

到達目標を達成することにより、以下の能力を身につけることにつながります。

１．自然科学を看護活動の根拠とし、実践に活かす基礎的な力を有している。

２．看護学の専門知識と技術を修得している。

３．他者の多様な価値観を理解し、尊重することができる。

４．看護職の社会的責任を理解し、看護実践にまつわる倫理的課題を感受する力と熟考する力、それらに基づく判断を行動に表す力を身につけている。

５．看護専門職として、リーダーシップおよびフォロワーシップを発揮し、チームの中で有機的に活動する資質を身につけている。

６．自ら学ぼうとする好奇心をもち、生涯にわたり自己研鑽する姿勢を身につける。

【5】　授業計画

	項目	内容および授業方法 予習・復習・キーワード	担当教員
1・2	国際保健(1)	国際保健とは・世界の保健衛生の動向・世界の保健医療体制・国際保健活動の実践過程 講義 予習：WHO､SDGsについて調べる。 復習：ミニッツペーパーの提出 キーワード：グローバルヘルス、SDGs、主な健康問題とその対策の推移、感染症、非感染症、国際協力、国際保健活動	石本馨
3・4	国際保健(2)	健康の社会的決定要因を考える。 講義・グループワーク・プレゼンテーション 予習：健康の社会的決定要因（SDH)について調べる。 復習：ミニッツペーパーの提出 キーワード：SDH、環境と健康	石本馨
5	国際保健(3)	母子保健とリプロダクティブヘルス 講義 予習：リプロダクティブヘルス＆ライツ、母子手帳について調べる。可能であれば、自分のことが書かれている母子手帳を見てみる。 復習：ミニッツペーパーの提出 キーワード：母子保健、リプロダクティブヘルス、母子手帳	石本馨
6	国際保健(4)	日本で暮らす海外ルーツの人びとの健康課題 講義・グループワーク・プレゼンテーション 予習：日本で暮らす海外ルーツの人びとについて調べる。 復習：ミニッツペーパーの提出 キーワード：在留資格、やさしいにほんご	石本馨
7	国際保健(5)	国際保健分野に関する機関や活動 講義 予習：JICA・国内外のNGOのウェブサイトで活動内容を調べる。 復習：ミニッツペーパーの提出 キーワード：国際保健に関するODA,NGO	石本馨
8・9	災害看護（1）	日本で発生している自然災害、災害医療と関係法規 講義 予習：近年日本で発生している自然災害について調べる。指定した教科書の災害医療と関係法規について読んでくること。 復習：日本で発生している自然災害、災害医療と関係法規のミニテスト。ミニッツペーパーの提出。 キーワード：自然災害、災害医療、災害関連法規	内木美恵
10・11	災害看護（2）	災害サイクルと看護師の役割 講義・ディスカッション 予習：指定した教科書の災害サイクルと看護師の役割に関する部分を事前に読んでおくこと。 復習：災害サイクル各期の看護、災害看護の活動に関するミニテストの実施。ミニッツペーパーの提出。 キーワード：災害サイクル、災害各期の看護	内木美恵
12・13	災害看護（3）	災害時用配慮者への看護と災害時のメンタルヘルス 講義・ディスカッション 予習：指定した教科書の災害時要配慮者への看護に関する部分、被災者の心の変化とケアに関する部分を事前に読んでおくこと。 復習：災害時要配慮者への特別な配慮のミニテストの実施。ミニッツペーパーの提出。 キーワード：災害時要配慮者、高齢者、子ども、妊産褥婦、障がい者、被災者の心理とストレス・支援者の心理とストレス、こころのケア	内木美恵
14	災害看護（4）	災害時の倫理的課題 講義・ディスカッション 予習：指定した教科書の災害時の倫理に関する部分を事前に読んでおくこと。 復習：災害による心身への影響と、その予防と対策のミニテストの実施。ミニッツペーパーの提出。 キーワード：災害時の倫理、人権	内木美恵

【6】　事前・事後学習とその時間

（石本）
1.事前学習として、ウェブサイト（国際協力機構JICA,国連UN、国連難民高等弁務官事務所UNHCR、世界保健機構WHO、米国疾病管理予防センターCDC、英国放送協会BBC、米国公共放送サービスPBS、CNN）から国際人道支援や保健に関する情報を得ておく。時間：30分程度
2.事前学習として、日本で暮らす海外ルーツの人々の健康課題と、病院等での対応についてウェブサイト等で調べておく。時間：30分程度
3.事前学習として、各回で学んだことを学生同士でディスカッションし、理解を深めること。

（内木）
1.指定の教科書の中の、授業内容となる部分を事前に読むこと。凡そ30分程度必要です。
2.令和6年能登半島地震や最近起こった災害に関する政府や警察、自治体の発表資料などに目を通すとともに、被災者の様子や看護職の活動など記録物を読んで災害時の被災者や看護についてイメージできるようにしておくこと。さらに国内外で発生する災害についてニュースや新聞など留意して情報を得ておくこと。
3.授業後は、ミニッツペーパーを記載すること。この時、授業中の内容で興味がわいたことや疑問に思うことを調べ記述すること。調べてもわからないことはミニッツペーパーに書いてください。凡そ40分程度必要です。ミニッツペーパーに記載された質問は、授業中で説明します。

【７】　評価方法・基準

（石本）
レポート（50%）とし、6割以上を合格とする。
レポート形式：A4一枚のみ（表紙不要。裏面への記載可）
　　誤字脱字・論旨の不明なども減点対象とする
提出先：大学事務
提出期限：テーマ「講義全体を通して特に深めたいこと」　最終講義終了後一週間以内
個別の返却はしないが、大学事務を通して全体の講評を行う。

（内木）
定期テスト（30%），ミニテスト（5%×4）

【８】　フィードバック方法

（石本）ミニッツペーパーのフィードバックは講義の中で行う。プレゼンテーションについてその場でコメントする。
（内木）ミニッツペーパーのフィードバックは講義の中で行う。

【９】　教科書

（石本）
資料を授業内に配布する。

（内木）
庄野泰乃・東智子・木内美恵、系統看護学講座、統合分野≫看護の統合と実践＜3＞災害看護学・国際看護学、第5班、医学書院、2024.

【10】　参考書

「準備学習」で挙げた機関の情報。これまで学んだ感染症の教科書。
授業で適宜、紹介する。

【11】　備考(関連科目等)

疫学と公衆衛生、感染症、微生物

科目名(日本語)	**専門看護への招待**	必修・選択区分	授業形態	開講学期・学年	単位数
科目名(英語)	Invitation to Professional Nursing	選択	講義	春学期 4年	1単位 15時間
科目責任者	笠間秀一				
担当教員	笠間秀一・畑中佳子				
科目責任者 連絡先(教室)	笠間秀一 連絡先：shuichi.kasama@hs.toho-u.ac.jp				
オフィスアワー	笠間担当の授業終了後、10分程度講義室で質問等を受け付ける。 それ以外の時間帯はMoodleのメッセージ機能にて質問を行うこと。 質問の返答はMoodleのメッセージ機能または講義内で回答する				

【１】　授業方法(ALの要素、ICTの活用等)

１－１．アクティブラーニングについて

実施する

１－２．アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素

ＰＢＬ（課題解決型学習）
ディスカッション、ディベート
グループワーク
プレゼンテーション

２－１．双方向授業でのＩＣＴの活用について

活用する

２－２．ＩＣＴを活用する場合、その具体的名称（クリッカー、タブレット端末等）

Moodle、タブレット端末

【２】　授業概要

本授業では、高度化・複雑化する保険医療福祉の中で高い専門性を発揮する看護師の事例をもとに、看護師に求められる高度な看護実践力について学び、科学的思考力や、看護学の高度な専門知識と実践能力を習得するための探究心の育成を目的とする。
特定の分野で活躍する専門看護師が知識や技術に基づき、複雑で解決困難な事例に対して行われた高度実践を学ぶ。具体的には、専門看護師が患者・家族に起きている問題を総合的に捉えて判断する能力と広い視野をもって、専門性を発揮しながら6つの役割（実践・相談・調整・倫理調整・教育・研究）を果たし、施設全体や地域の看護の質の向上にどう貢献しているかを学ぶ。

【３】　到達目標

1.専門看護師に求められる役割を説明できる。
2.専門看護師の制度と教育プログラムについて説明できる。
3.専門看護師の専門分野の特徴について説明できる。
4.専門看護師の実践事例から、問題解決能力について考察できる。
5.専門看護師の実践事例から、6つの役割（実践・相談・調整・倫理調整・教育・研究）について説明できる。
6.事例をもとに、6つの役割の視点で看護問題を抽出し解決に向けた具体的は方法を説明できる。
7.グループワークやプレゼンテーションを通して、他者と協働し課題を解決できる。
8.複雑で解決困難な事例にある倫理的問題を整理し、自身の看護観を言語化できる。
9.看護師の求められる高度実践力を獲得するために必要な自身の課題を説明できる。

【４】　ディプロマ・ポリシーとの関連

到達目標を達成することにより、以下の能力を身につけることにつながります。

１．自然科学を看護活動の根拠とし、実践に活かす基礎的な力を有している。

２．看護学の専門知識と技術を修得している。

３．他者の多様な価値観を理解し、尊重することができる。

４．看護職の社会的責任を理解し、看護実践にまつわる倫理的課題を感受する力と熟考する力、それらに基づく判断を行動に表す力を身につけている。

５．看護専門職として、リーダーシップおよびフォロワーシップを発揮し、チームの中で有機的に活動する資質を身につけている。

６．自ら学ぼうとする好奇心をもち、生涯にわたり自己研鑽する姿勢を身につける。

【５】　授業計画

	項目	内容および授業方法 予習・復習・キーワード	担当教員
1・2・3	高度実践看護師の認定資格と求められる役割	【授業内容】 1.資格認定制度と教育カリキュラム 2.認定看護師・専門看護師の専門分野の特徴と役割 3.専門看護師に求められる視点（教育・管理・研究・倫理・政策） 【授業方法】 講義・ディスカッション・Moodle(課題提出) 【予習・復習・レポート課題の提示】 予習：日本看護協会ホームページから、授業内容に関連する情報を確認する。 復習：授業で配布した資料を再確認し、知識の習熟度を高める。 ミニッツペーパー：授業のポイントや理解度を確認し課題に取り組む（Moodle） キーワード：高度実践看護、認定看護師、専門看護師、教育カリキュラム	笠間秀一
4・5・6	高度実践看護（コンサルテーション）・事例分析	″【授業内容】 1.慢性疾患看護専門看護師の高度実践 2.専門看護師におけるコンサルテーション 3.専門看護師の組織横断的活動 【授業方法】 講義・グループワーク・ディスカッション・Moodle(課題提出) 【予習・復習・レポート課題の提示】 予習：医中誌で慢性疾患看護専門看護師の実践報告を読み、授業に関連する情報を確認する。 復習：授業で配布した資料を再確認し、知識の習熟度を高める。 リフレクションシート：授業のポイントや理解度を確認する（Moodle） キーワード：コンサルテーション、組織横断的活動″	笠間秀一
7・8・9	高度実践看護（倫理調整）・事例分析	″【授業内容】 1.家族看護専門看護師の高度実践 2.専門看護師における倫理調整 3.複雑で困難な事例における倫理問題 【授業方法】 講義・グループワーク・ディスカッション・Moodle(課題提出) 【予習・復習・レポート課題の提示】 予習：医中誌から家族看護専門看護師の実践報告を読み、授業に関連する情報を確認する。 復習：授業で配布した資料を再確認し、知識の習熟度を高める。 リフレクションシート：授業の学びや理解度を確認する（Moodle） キーワード：倫理調整、家族看護	笠間秀一
10・11・12	高度実践看護（コーディネーション）・事例分析	″【授業内容】 1.感染症看護専門看護師の高度実践 2.専門看護師における調整 3.エビデンスに基づく高度実践 【授業方法】 講義・グループワーク・プレゼンテーション・Moodle(課題提出) 【予習・復習・レポート課題の提示】 予習：YouTubeで課題の動画を視聴し、授業に関連する情報を確認する。 復習：授業で配布した資料を再確認し、知識の習熟度を高める。 リフレクションシート：授業の学びや理解度を確認する（Moodle） キーワード：コーディネーション、多職種連携、感染症看護″	笠間秀一
13・14	高度実践看護発表会・科目まとめ	″【授業内容】 1.課題のプレゼンテーション 2.学びの共有 3.科目のまとめ 【授業方法】 講義・グループワーク・プレゼンテーション・Moodle(課題提出) 【予習・復習・レポート課題の提示】 予習：課題のプレゼンテーションの準備を行う。 復習：授業で配布した資料を再確認し、知識の習熟度を高める。 リフレクションシート：授業の学びや理解度を確認する（Moodle） キーワード：高度実践看護、理論的分析	笠間秀一 畑中佳子

【６】　事前・事後学習とその時間

【準備学習】
・授業で提示した課題について予習しておくこと。授業の際に資料としてプリントを配布するので復習の際にプリントと文献等の知識を整理して学習すること。
・Moodleに掲示した授業資料の内容を前もって目を通し、授業後に学んだ内容を復習し理解を深める。
・この授業では専門看護師の視点から、保健医療福祉に起こりうる複雑で解決困難な事例について取り扱う。そのため、専門看護師の役割や専門分野の違いなど基本的事項について授業でも触れるが、事前に学習しておくことが望ましい（予習１時間程度）。実際に高度実践の事例を紹介し授業を進める。グループワークを行いながら課題に望む必要があるため、授業の際に配布する資料のほかにWeb検索システム（医中誌・Google Scholar）などで最新の知見や研究・実践内容について学習すること（２時間程度）。
【学習上の留意点】
関連科目で学んだ知識を使用するため、教科書や資料を積極的に用いること。

【７】　評価方法・基準
事例検討におけるグループワークへの貢献・討議への参加態度20%、課題ワークシート60%、講義後のリフレクション課題20%

【８】　フィードバック方法
学習フィードバック：リフレクションシートおよび質問への回答は、各講義の中で口頭または紙面にて行う。

【９】　教科書
講義ごとに資料を配布する。

【10】　参考書
講義ごとに指示する。

【11】　備考(関連科目等)
コミュニケーション論、プレゼンテーション論、教育学、倫理学、組織学、経済学、臨床看護学概論、看護倫理学、看護研究入門、看護管理論、チーム活動論、看護実践の探究（臨床看護コース）

科目名(日本語)	**チーム活動論**	必修・選択区分	授業形態	開講学期・学年	単位数
科目名(英語)	Interprofessional Cooperation	選択	講義	春学期 4年	1単位 15時間
科目責任者	鳥田美紀代				
担当教員	鳥田美紀代・小板橋恵美子・原田慶子・島村敦子・菅谷綾子・水流添秀行・笠間秀一・中嶋秀明				
科目責任者 連絡先(教室)	鳥田美紀代：mikiyo.torita@hs.toho-u.ac.jp 健康科学部棟３F　研究室10（K320）				
オフィスアワー	授業開講日の13：00～13：50に講義教室および担当教員の研究室で適宜質問を受け付ける。また、Moodleの質問機能、メールでの質問を随時受け付ける。 鳥田美紀代：mikiyo.torita@hs.toho-u.ac.jp、小板橋恵美子：emiko.koitabashi@hs.toho-u.ac.jp 原田慶子：chikako.harada@hs.toho-u.ac.jp				

【１】　授業方法(ALの要素、ICTの活用等)

１－１．アクティブラーニングについて

実施する

１－２．アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素

ディスカッション、ディベート
グループワーク
プレゼンテーション

２－１．双方向授業でのＩＣＴの活用について

活用する

２－２．ＩＣＴを活用する場合、その具体的名称（クリッカー、タブレット端末等）

Moodle

【２】　授業概要

安全で良質な保健・医療・福祉を提供するために、チーム活動の必要性や意義、チーム活動の構成員の専門性と役割、チームアプローチに関する理論・概念及びチーム活動方法など、チーム活動の基礎知識を習得する。また、健康課題を有する事例を題材としてチームの構成要員として看護職が果たす役割について考察する。
（鳥田美紀代／３回）老年社会支援に関わるチーム活動の概説と展望
（原田慶子／３回）医療におけるチーム活動の課題と展望
（小板橋恵美子／３回）コミュニティヘルス支援に関わるチーム活動の概説と展望
（共同／５回）チーム活動における看護の機能と役割発揮について考察
（小板橋恵美子・鳥田美紀代・原田慶子・島村敦子・菅谷綾子・水流添秀行・笠間秀一・中嶋秀明）

【３】　到達目標

1. チームとは何か、立場を明確にして具体的に説明できる。
2. チームアプローチに関する主な理論・概念について具体的に説明できる。
3. チーム活動の必要な場の特徴と意義について具体的に説明できる。
4. チーム活動におけるリーダーとメンバーの役割について具体的に説明できる。
5. チーム活動の方法について具体的に説明できる。
6. 安全で良質な保健・医療・福祉の提供とはどのようなことかについて論述できる。
7. 保健・医療・福祉におけるチーム成立の要因について具体的に説明できる。
8. チーム活動での看護職の役割と機能について具体的に説明できる。
9. 老年社会支援に関わるチーム活動と看護の役割について説明できる。
10. コミュニティヘルス支援に関わるチーム活動と看護の役割について具体的に説明できる。
11. 医療におけるチーム活動の課題について３つ以上具体的に説明できる。
12. チーム活動における看護の役割発揮方法と課題について論述できる。
13. チーム活動における倫理的課題と対応について３つ以上具体的に説明できる。

【４】　ディプロマ・ポリシーとの関連

到達目標を達成することにより、以下の能力を身につけることにつながります。

１．自然科学を看護活動の根拠とし、実践に活かす基礎的な力を有している。

２．看護学の専門知識と技術を修得している。

３．他者の多様な価値観を理解し、尊重することができる。

４．看護職の社会的責任を理解し、看護実践にまつわる倫理的課題を感受する力と熟考する力、それらに基づく判断を行動に表す力を身につけている。

５．看護専門職として、リーダーシップおよびフォロワーシップを発揮し、チームの中で有機的に活動する資質を身につけている。

６．自ら学ぼうとする好奇心をもち、生涯にわたり自己研鑽する姿勢を身につける。

【5】　授業計画

	項目	内容および授業方法 予習・復習・キーワード	担当教員
1・2	老年社会支援に関わるチーム活動(1)	・老年社会支援に関わるチーム活動の意義、構成員の専門性と役割・老年社会支援に関わるチームアプローチに関する理論・概念 講義 予習：実習体験を振り返り、チームとして活動する際の自分の傾向を整理する。 復習：資料内容の整理 キーワード：安全で良質な医療・福祉の提供、チームアプローチ、チーム医療、専門職連携、リーダーシップ、メンバーシップ、倫理	鳥田　美紀代
3	老年社会支援に関わるチーム活動(2)	・老年社会支援に関わるチーム活動の方法・老年社会支援に関わるチーム活動の展望 講義・個人ワーク・グループワーク 予習：老年期の人々と家族を支援するチームの例を3つ考えてくる。 復習：資料内容の整理 キーワード：健やかな老い、社会構造、認知症ケア、ケアチーム、診療（介護）報酬、専門看護師、認定看護師	鳥田　美紀代
4・5	医療におけるチーム活動(1)	・医療におけるチーム活動の意義、構成員の専門性と役割・医療におけるチームアプローチに関する理論・概念 講義 予習：実習体験を振り返り、自分がチームの一員としての役割を感じた場面について整理する。 （具体的な役割と内容、その役割がチームにどのように貢献したか、チームメンバーへどのような影響を与えたかなど） 復習：資料内容の整理 キーワード：チーム医療、安全で良質な医療の提供、協働、多職種連携、専門性	原田慶子
6	医療におけるチーム活動(2)	・医療におけるチーム活動の方法・医療におけるチーム活動の課題と展望 講義・個人ワーク・グループワーク 予習：実習体験を振り返り、看護師が多職種と連携していた場面を整理する。 （具体的な場面、連携していた職種、その中での看護職の役割、連携においてどのような方法がとられていたかなど） 復習：個人ワーク内容の整理 キーワード：チーム構成、チーム活動促進要因、リーダーシップ	原田慶子
7・8	コミュニティヘルス支援に関わるチーム活動(1)	・コミュニティヘルス支援に関わるチームアプローチに関する理論・概念、コミュニティヘルス支援におけるチーム活動の意義、チーム構成員の専門性と役割 講義 予習：コニュニティヘルス支援に関わる機関・職種を整理する(特に以下の職種・機関に関しては、地域において期待される役割を考えてくる。看護師、保健師、社会福祉士、栄養士、民生委員、市町村保健センター、地域包括支援センター)。4回までの授業の復習、提示した資料の確認 復習：チームアプローチ事例を作成し、チームアプローチの意義について考察する キーワード：安全で良質な保健・医療・福祉の提供、保健行政、政策、自治、関係形成、倫理、連携、協働、地域づくり ※この2回の授業ではチーム活動（チームワーク）よりチームアプローチに焦点を当てている。（チームアプローチとは、ここではチームの外にいる人々への影響まで視野に入れた課題接近とする）	小板橋恵美子
9	コミュニティヘルス支援に関わるチーム活動(2)	・コミュニティヘルス支援に関わるチーム活動の方法・コミュニティヘルス支援に関わるチーム活動の展望 講義・グループワーク 予習：自分がこれまで経験したチームについて以下をレポートする（①経験したチームを一つ取り上げ、成果はどうであったか、リーダーの状況、②居心地の悪いチームとはどのようなチームだと思う／思ったのか）。 ※授業開始前に事前課題報告を予定しているので、報告方法に関するアナウンスに注意して対応すること。 復習：事例を用いてコミュニティにおけるチームアプローチのあり方を考察する（レポート） キーワード：地域の健康を支える、チーム構成、危機管理、人材育成、地域ケアシステム	小板橋恵美子
10・11・12	チーム活動における看護職の役割(1)	チーム活動における看護の機能と役割発揮(1)：機能するチームづくり グループワーク 予習：本科目の既修の内容をふまえ、提示された事例に対するチームアプローチの方法を整理してくる。 復習：グループワーク内容の整理 キーワード：安全で良質な保健・医療・福祉の提供、機能するチーム、専門性発揮、チーム活動の企画、連携、協働	全員

13・14	チーム活動における看護職の役割(2)	チーム活動における看護の機能と役割発揮(2)：チーム活動の評価 グループワーク・発表・ピア評価 予習：事例に対するチームアプローチについて、グループ発表(プレゼンテーション)の準備をしてくる。 復習：グループワーク内容の整理、チーム活動における自分の課題を整理する。 キーワード：チーム役割、活動評価、組織、流動性、安全性	全員

【6】　事前・事後学習とその時間

【準備学習】
既習の関連科目の復習をして臨むこと。
この授業は、既習科目の内容の整理や予習課題のために、予習1時間程度、復習1時間程度を費やす。
【学習上の留意点】
保健・医療・福祉にかかわらず、経営など社会におけるチーム活動に関する書籍や新聞記事なども積極的に読むことが求められる。

【7】　評価方法・基準

課題レポート75%（ワークシート含む）、グループワークのピア評価25%

【8】　フィードバック方法

課題レポートの内容について、各回の担当教員が確認ののち、全体または個別にコメントを返す。

【9】　教科書

必要に応じて、授業の際に資料を提示する。

【10】　参考書

授業時に関連文献を紹介する。

【11】　備考(関連科目等)

組織論、コミュニケーション論、プレゼンテーション論、保健医療福祉行政論、健康生活支援論、看護管理論、看護安全論、チーム医療演習

科目名(日本語)	**チーム医療演習**	必修・選択区分	授業形態	開講学期・学年	単位数
科目名(英語)	Interprofessional education in health care	選択	演習	春学期 4年	1単位 15時間
科目責任者	小板橋 恵美子				
担当教員	医学部　田中 耕一郎 准教授 薬学部　松尾 和廣 教授 理学部　桑原 俊介 教授、高橋 和広 准教授、鈴木 淳 准教授 看護学部　原沢 のぞみ 教授、吉朝 加奈 准教授、小野 聖子 助教 健康科学部　髙橋 良幸 准教授、池田 絹代 講師				
科目責任者 連絡先(教室)	各学部科目担当者の連絡先は以下の通りです。 医学部　臨床研究棟2階 薬学部　臨床薬学研究室 C609 理学部　4360（鈴木淳教授）、1204（桑原教授）、5510（高橋准教授） 看護学部　207(原沢教授)、203(吉朝准教授)、514(小野助教) 健康科学部　K312研究室				
オフィスアワー	医学部 月 14時～16時　、金 9時～12時 薬学部 月～金 10時～18時 理学部 月・火・木 15時以降（演習期間中、随時対応する。） 看護学部　事前に相談すること 健康科学部　月～金 13時～14時				

【1】　授業方法(ALの要素、ICTの活用等)

1－1．アクティブラーニングについて

実施する

1－2．アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素

ＰＢＬ（課題解決型学習）
ディスカッション、ディベート
グループワーク
プレゼンテーション

「その他」の内容

本科目は夏季休暇中に集中講義として行う。具体的には、夏季休暇中（8月5日（火）、6日（水）にWorkshop形式で多職種連携・チーム医療について、少人数グループワークを中心とした学習を行う。

2－1．双方向授業でのＩＣＴの活用について

活用しない

【2】　授業概要

近年、病院完結型から地域結束型の医療が提供されるようになっており、それぞれの医療従事者が互いに情報を連携しながら、患者中心の治療とケア、薬物管理、検査の実践、身体機能維持などの多くの領域でリーダーシップを発揮する必要があります。しかたがって医学のみならず心理学、社会学、倫理学、人文社会科学の知見をも有する人材が求められています。このチーム医療演習は、東邦大学の教育理念のもと各学部の目指す方向性と専門性を尊重・共有し、患者を中心をしたチーム医療が実践できる人材を育成することを目的として実施します。それぞれの職種を目指す学生による混成チームで、事例についてディスカッション、プレゼンテーション等に取り組み、他職種連携を行う上で必要な知識と技術を文理融合的に学びます。身体的症状のみならず、心理的・社会的な側面からも患者について考え、医療センター3病院で実際に勤務する医師・看護師・薬剤師・臨床検査技師などから直接話を聴くことで、複眼的・領域横断的な視野を持って、実践的に課題を解決する力を身に付け、チーム医療の一員として活躍できる人材を養います。

【3】　到達目標

1）保健、医療、福祉、介護における多職種連携協働及びチーム医療の意義について説明できる。
2）多職種連携協働に関わる各職種、患者、その家族の役割を説明できる。
3）患者中心の多職種連携についての自分の考えを述べることができる。
4）自己の能力、職種の役割の限界を認識し、状況に応じて他者に協力・支援を求めることができる。
5）グループワークにおいて、チームの一員としての役割を積極的に果たすことができる。
6）グループワークの成果をわかりやすくプレゼンテーションできる。
7）演習を通して異なる考え・視点を持つ学生を仲間として尊重できる。

【4】　ディプロマ・ポリシーとの関連

到達目標を達成することにより、以下の能力を身につけることにつながります。

1．自然科学を看護活動の根拠とし、実践に活かす基礎的な力を有している。

2．看護学の専門知識と技術を修得している。

3．他者の多様な価値観を理解し、尊重することができる。

4．看護職の社会的責任を理解し、看護実践にまつわる倫理的課題を感受する力と熟考する力、それらに基づく判断を行動に表す力を身につけている。

5．看護専門職として、リーダーシップおよびフォロワーシップを発揮し、チームの中で有機的に活動する資質を身につけている。

6．自ら学ぼうとする好奇心をもち、生涯にわたり自己研鑽する姿勢を身につける。

【５】　授業計画

	項目	内容および授業方法 予習・復習・キーワード	担当教員
1	患者中心の医療とは IPEとは	患者中心の医療および多種連携教育について学ぶ	全員
2	ICF	国際生活機能分類（ICF）の概念とその活用方法について学ぶ	全員
3	チームビルディング	他学部の学生とのコミュニケーションを通してチームビルディングを学ぶ	全員
4・5	症例分析	ICFを用いて症例を分析し、患者中心の医療について検討する	全員
6・7	症例検討1	症例に対して多職種で情報交換し不明点を明確にする	全員
8・9	症例検討2	症例に対して各職種の専門性をいかし情報交換をし、患者中心の医療の考えに基づいて適切な医療についてチームで協議する	全員
10・11	症例検討3	症例に対する発表を意見交換を行う	全員
12・13	患者中心の医療と多職種連携の意義と課題	2日間の取り組みから患者中心の医療の実現のため多職種連携の意義と課題について検討する	全員
14	発表まとめ	患者中心の医療と多職種連携ついて発表と講評	全員

【６】　事前・事後学習とその時間

【準備学習】
チーム医療の文言の意味，意義について調査し予習しておく。当日配布された資料は復習としてレポートする。予習には1時間、復習には1時間以上を要する。
【学習上の留意点】
参加費を徴収する場合がある。その際は、追って連絡する。

【７】　評価方法・基準

学習活動（40%）、グループワークおよびプレゼンテーション（40%）、個人レポート（20%）から総合的に評価する。

【８】　フィードバック方法

多職種連携チーム医療およびチーム医療事例解析等の演習終了後、教員および医療に従事しているそれぞれの専門職種の立場からフィードバックを行う。

【９】　教科書

指定なし

【10】　参考書

特になし

【11】　備考(関連科目等)

【関連科目】
コミュニケーション論、援助的人間関係論、看護管理論、各臨地実習、チーム活動論

科目名(日本語)	**看護実践の探究**	必修・選択区分	授業形態	開講学期・学年	単位数
科目名(英語)	Practicum of Clinical Nursing	必修	実験・実習	春学期 4年	2単位 90時間
科目責任者	渡邊尚子				
担当教員	渡邊尚子ほか専任教員全員				
科目責任者 連絡先(教室)	科目責任者：渡邊（K334研究室）naoko.watanabe@hs.toho-u.ac.jp コース長：臼井（K331研究室）、佐瀬（K319研究室）、尾立（K328研究室）、日高（K333研究室）、小板橋（K315研究室）				
オフィスアワー	コースごとの実習要項参照				

【１】　授業方法(ALの要素、ICTの活用等)

１－１．アクティブラーニングについて

実施する

１－２．アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素

ディスカッション、ディベート
グループワーク
プレゼンテーション
実習、フィールドワーク

２－１．双方向授業でのＩＣＴの活用について

活用する

２－２．ＩＣＴを活用する場合、その具体的名称（クリッカー、タブレット端末等）

Moodle

【２】　授業概要

看護学及び関連学問の学びを統合して健康生活を支援するための看護実践について、実習を通して探究する。本科目は看護実践に重要な、臨床看護技術、ホームケア、ヘルスケアマネジメント、ケアリング、看護教育､異文化看護の６つのコースから選択して行う。さらに、実習を通して自らの看護観を明確にし、保健・医療・福祉システムにおける看護職者の責務を考察し、今後の看護活動の基盤とする。
（＊実践的教育として構成する授業科目）

【３】　到達目標

各コースに特徴をふまえた学修目標を設定し、以下をコースの共通学修目標とする。
1.実習における体験の考察、意味づけを行い、看護について自分の考えを論述することができる。
2.看護専門職者としての倫理観を言語化することができ、倫理的問題（課題）に気づくための自分なりの方法を見出すことができる。
3.保健・医療・福祉システムにおける看護職者の責務についての考えを論述することができる。
4.看護の専門職として相応しい基本的な態度を身につけることができる。
5.看護職者としての自己の課題を明確にすることができる。

【４】　ディプロマ・ポリシーとの関連

到達目標を達成することにより、以下の能力を身につけることにつながります。

１．自然科学を看護活動の根拠とし、実践に活かす基礎的な力を有している。

２．看護学の専門知識と技術を修得している。

３．他者の多様な価値観を理解し、尊重することができる。

４．看護職の社会的責任を理解し、看護実践にまつわる倫理的課題を感受する力と熟考する力、それらに基づく判断を行動に表す力を身につけている。

５．看護専門職として、リーダーシップおよびフォロワーシップを発揮し、チームの中で有機的に活動する資質を身につけている。

６．自ら学ぼうとする好奇心をもち、生涯にわたり自己研鑽する姿勢を身につける。

【５】　授業計画

	項目	内容および授業方法 予習・復習・キーワード	担当教員
	オリエンテーション	詳細な学修内容は、看護実践の探究の実習要項に示します。 授業方法：オリエンテーション、実習、カンファレンス キーワード：健康生活、看護実践、看護観、看護職者、責務、倫理的態度	専任教員全員
	実習内容	各自選択した希望コースに基づき配置されたコースで2単位の実習を行う。 【コースへの配置】 -前年度- ・ガイダンスにおいて、各コースの実習目的・内容の概要を説明する。 ・学生は、指定された期日までに希望コースエントリーフォームに入力し提出する。 ・3月下旬をめどに所属するコースを決定し、発表する -当該年度- ・4月に、開始に伴う全体オリエンテーションを実施する。 ・具体的な実習の進め方は、各コースオリエンテーションに基づき行う。	専任教員全員
	コース名（コース責任者）	・臨床看護技術コース（臼井雅美） ・ホームケアコース（佐瀬真粧美） ・ヘルスケアマネジメントコース（尾立篤子） ・ケアリングコース（渡邊尚子） ・看護教育コース（日高紀久江） ・異文化看護コース（小板橋恵美子）	専任教員全員
	実習方法・場所	2単位・90時間を、各コースで計画された実習方法で実施する。 各コースの予定に従う。	専任教員全員

【６】　事前・事後学習とその時間

【準備学習】
これまで講義・演習・実習で学習してきた内容を復習し、現時点での自身の看護観について考え、自己の課題を明確にしておく。
コースごとに課題が提示されるため、担当教員によく確認し準備をして臨む。
そのため、予習1時間、復習1時間程度を費やします。
【学習上の留意点】
看護学及び関連学問の学びを統合する実習となる。看護職者になるということを自覚し、主体的、積極的に実習に参加すること。

【７】　評価方法・基準

評価：コース別評価60%、実習への取り組み態度 10%、倫理的判断力と行動力の獲得10%、看護観の醸成 20%で評価を行う。
コース別評価はコースごとの実習要項参照。

【８】　フィードバック方法

コース別評価はコースごとの実習要項参照。
フィードバック：各コース別に提示する。コースごとの実習要項参照。

【９】　教科書

各担当教員より指定される。

【10】　参考書

各担当教員より指定される。

【11】　備考(関連科目等)

既習の学習内容全般

科目名(日本語)	**公衆衛生看護管理論**	必修・選択区分	授業形態	開講学期・学年	単位数
科目名(英語)	Public Health Nursing Management	選択	講義	秋学期 4年	1単位 15時間
科目責任者	小板橋恵美子				
担当教員	小板橋恵美子・植村直子・池田絹代				
科目責任者 連絡先(教室)	小板橋：健康科学部棟3階研究室K315　emiko.koitabashi@hs.toho-u.ac.jp				
オフィスアワー	授業開講日の休み時間帯。質問等は講義内容に該当する教員の研究室を訪ねてください。 また、メールでも質問、相談を受け付けます（メールアドレスは授業初回に周知します）。				

【１】　授業方法(ALの要素、ICTの活用等)

１－１．アクティブラーニングについて

実施する

１－２．アクティブラーニングを実施する場合、その具体的要素

ディスカッション、ディベート
グループワーク
その他

「その他」の内容

健康危機管理活動に関しては、図上演習を行います。

２－１．双方向授業でのＩＣＴの活用について

活用する

２－２．ＩＣＴを活用する場合、その具体的名称（クリッカー、タブレット端末等）

Moodle

【２】　授業概要

公衆衛生看護管理の概念と地域ケアの質を高めるための管理機能について理解し、行政保健師の役割・機能について理解を深める。特に健康危機管理については、平常時に必要な予防活動、災害発生時の緊急対応、発生後に必要な保健活動について学修し、関係機関の連携・協働による危機管理活動の中での保健師の役割について考察する。
（小板橋恵美子／7回うち1回はゲストを予定）公衆衛生看護管理の基礎知識の概説、公衆衛生看護管理の展開・管理の実際、保健師の役割と展望
（池田絹代／2回）行政保健師としての公衆衛生管理の展開方法と課題
（全員／5回）健康危機管理活動、保健師としてのキャリア形成

【３】　到達目標

1. 公衆衛生看護管理の目的と機能を説明できる。
2. 行政保健師としての公衆衛生看護管理の展開方法を説明できる。
3. 健康危機管理と行政の役割を説明できる。
4. 保健師業務の実際およびキャリア形成について具体的にイメージができる。

【４】　ディプロマ・ポリシーとの関連

到達目標を達成することにより、以下の能力を身につけることにつながります。

１．自然科学を看護活動の根拠とし、実践に活かす基礎的な力を有している。

２．看護学の専門知識と技術を修得している。

３．他者の多様な価値観を理解し、尊重することができる。

４．看護職の社会的責任を理解し、看護実践にまつわる倫理的課題を感受する力と熟考する力、それらに基づく判断を行動に表す力を身につけている。

５．看護専門職として、リーダーシップおよびフォロワーシップを発揮し、チームの中で有機的に活動する資質を身につけている。

６．自ら学ぼうとする好奇心をもち、生涯にわたり自己研鑽する姿勢を身につける。

【5】　授業計画

	項目	内容および授業方法 予習・復習・キーワード	担当教員
1･2	公衆衛生看護管理の基礎知識の概説（1）	①科目オリエンテーション ②公衆衛生看護管理の目的と機能 講義 予習：キーワードについて教科書で学習する。 事後課題：授業内容に関するミニッツペーパーの提出またはミニテスト キーワード：公衆衛生看護管理、マネジメント、健康課題の優先順位、サービスの提供体制の整備、権利保障、職業倫理	小板橋恵美子
3･4	公衆衛生看護管理の基礎知識の概説（2）	公衆衛生看護管理の対象 講義およびペアワーク 予習：キーワードについて教科書で学習する 事後課題：授業内容に関するミニッツペーパーの提出 キーワード：組織運営、人事管理、予算管理、情報管理、事業管理、リスク管理、人材育成	小板橋恵美子
5･6	行政保健師としての公衆衛生管理の展開方法と課題	行政保健師としての公衆衛生管理の展開方法と課題 講義 予習：キーワードについて教科書で学習する 事後課題：「統括保健師の機能と役割」についてレポートする（課題レポートに該当する） キーワード：地域保健計画、合意形成、目標の明確化、PDCAサイクル、予算、評価、統括保健師	小板橋恵美子・ゲストスピーカー
7･8	健康危機管理と活動（1）	健康危機、健康危機管理システムと行政の役割 講義 予習：キーワードについて教科書で学習する 事後課題：授業内容に関するミニッツペーパーの提出 キーワード：健康危機管理、健康危機を起こす要因、リスクマネジメント、感染症、広域的対応、平常時の体制整備、健康危機レベルに応じた対策、健康回復へ向けた支援	池田絹代
9･10	健康の危機管理と活動（2）	健康危機管理活動 講義・図上演習 予習：キーワードについて教科書で学習する。 事後課題：課題レポート作成のための準備をする。 キーワード：災害、法制度、平常時、災害応急対策期、災害復旧・復興期	小板橋恵美子、池田絹代、植村直子
11･12	健康の危機管理と活動（3）	災害保健活動と保健師の役割 図上演習・グループディスカッション 予習：日本における災害事例について、新聞記事、書籍、インターネット等で調べてくる。 事後課題：図上演習を通して学んだ、「災害発生時の保健師としての職務」に関してレポートする（課題レポートに該当する）。 キーワード：災害時の保健師活動、緊急対策期、応急対策期、復旧・復興期、	小板橋恵美子、池田絹代、植村直子
13	保健師の役割と展望（1）	公衆衛生看護活動事例から保健師の役割を学ぶ 講義・ディスカッション 予習：キーワードについて教科書で学習する。 事後課題：授業内容に関するミニッツペーパー キーワード：保健師活動、行政、倫理、継続教育、専門的自律、キャリア形成	小板橋恵美子、池田絹代、植村直子
14	保健師の役割と展望（2）	これまでの公衆衛生看護学の知識および種々の活動事例から保健師活動を展望する 講義・ディスカッション 予習：キーワードについて教科書で学習する。 事後課題：授業内容に関するミニッツペーパー キーワード：保健師活動、行政、倫理、継続教育、専門的自律、キャリア形成	小板橋恵美子

【6】　事前・事後学習とその時間

【準備学習】
本授業は、公衆衛生看護学の管理的機能の理解を深めるために、関連する既習科目を復習して授業に臨んでください。また、指定された内容について、該当部分をテキストで予習することを求めます。予習に1時間程度、復習に1時間程度（以上、平均）を費やします。
【学習上の留意点】
既習の公衆衛生看護関連科目、公衆衛生看護学実習等での学びを統合、応用しながら学習を深めていってください。

【7】　評価方法・基準

最終評価レポート50%、グループワーク30%(ワークへの主体的な参加の度合い、グループの発表内容）、課題レポート20%

【8】　フィードバック方法

グループワーク、課題レポートは結果を個別に返却するか、全体に対する講評によりフィードバックを行います。

【9】　教科書

「公衆衛生看護学. jp」　荒賀直子他編，インターメディカル．最新版
※2年次の公衆衛生看護学概論で用意した版で可。

【10】　参考書

その他必要な資料は適宜講義時やMoodle上で配布します。

【11】　備考(関連科目等)

【関連科目】コミュニティヘルス看護、公衆衛生看護に関する講義及び実習
【その他】授業の進捗状況に応じて、授業内容、担当教員を入れ替えることがあります。講義時のほか、Moodleのアナウンス機能を使って周知します。